ApeosWare Management Suite 2
機能ガイド

①このマニュアルの編集、変更、または無断で転載はしないでください。
②このマニュアルに記載されている内容は、将来予告なしに変更されることがあります。
③このマニュアルに記載されている画面やイラストは一例です。ご使用の機種やソフトウェア、OS のバージョンによって異なることがあります。

「マニュアルと付属ツールについて」、「本書の表記」、および商標については、『セットアップガイド』を参照してください。

富士フイルムビジネスイノベーションに対するご意見、ご相談などは、お客様相談センターにご連絡ください。
フリーダイヤル 0120-27-4100
フリーダイヤル受付時間：土、日、祝日、および弊社指定休業日を除く 9 ～ 12 時、13 ～ 17 時
フリーダイヤルは、海外からはご利用になれません。また、一部の IP 電話からはつながらないことがあります。
お話の内容を正確に把握するため、また後に対応状況を確認するため、通話を録音させていただくことがあります。

インターネットホームページで商品情報を提供しています。
アクセス先は、https://www.fujifilm.com/fb/product/software/aw_manage_suite です。

2024 年 9 月　第 1 版　GM1212J1-8　富士フイルムビジネスイノベーション株式会社

もくじ

もくじ 2

1 ApeosWare Management Suite の概要

ApeosWare Management Suite の機能 9
使用できる機能とオプション 13
エディション 13
機能一覧 13
ユーザーの種類と操作画面 18
ユーザーの種類 18
ApeosWare Management Suite へのログイン 20
ApeosWare Management Suite の操作画面 21
管理者画面 21
ページの構成 29
ユーザー画面 32

2 システム設定 / サーバーの監視

Web ブラウザーからの設定 37
ネットワーク設定 39
通貨設定 42
表示設定 43
ジョブログ設定 43
一時保存フォルダー設定 46
管理者パスワードの変更 48
サービスの表示順序設定 49
操作パネルのカスタマイズ設定 50
セキュリティー設定 51
消耗品の使用状況の保存設定 51
外部端末設定 52
ユーザーポータル設定 53
システム設定 54
サービス設定 55
フォルダー設定 57
通知設定 58
システム状態 58
サービス状態 59
フォルダー状態 61
先進認証を使用する場合の事前設定 62
注意事項 63

Microsoft Entra ID によるログインを使用する場合の事前設定 63
Microsoft Entra ID のセキュリティの既定値群を設定する 64
エンタープライズ アプリケーションを設定する 64
作成したエンタープライズアプリケーションに API のアクセス許可を追加する 65
Microsoft Entra Domain Services を作成する 66
Secure LDAP 用の証明書をインストールする 67
認証に必要な証明書（Base64）をインストールする 67
Microsoft Entra Domain Services を設定する 68
QR コードによるログインを使用する場合の事前設定 69
［AliPay］を使用する場合 69
［WeChat］を使用する場合 70
こんなときは 71
SQL Server のインデックスを再構築する 71
ウイルス対策ソフトウェアがインストールされている環境で、メールが送信できないとき 72
インストール後、分散プリントサーバーが正しく表示されないとき 72

3 機器管理

Web ブラウザーからの設定と確認 74
機器グループ一覧（すべての機器グループ） 75
機器グループ一覧（機器グループ / サブ機器グループの詳細） 88
機器一覧 93
機器の自動登録の設定 97
機器データの反映条件の設定 98
機器状態 98
メンテナンス 102
トナーの残量 102
給紙トレイの残量 103
ドラム状態 104
状態の通知設定 105
ジョブログ収集状態 107
機器の操作パネルからの操作 109
操作パネルの画面 109
操作パネルから ApeosWare Management Suite へのアクセス 116
こんなときは 121
登録済みのカード ID があるため、ユーザー情報が機器に反映されないときは 121
IC Card Gate をネットワークに接続するときは 121
サーバーの HDD 空き容量が少なくなったときは 122
ユーザー管理を使用しないで、プリント管理の機能を使用する場合の注意 122

4 ユーザーの管理

Web ブラウザーからの設定と確認 123

ユーザーグループ一覧 125
ユーザーグループ一覧（ユーザーグループの詳細） 128
ユーザー一覧（すべてのユーザー） 129
ユーザー一覧（ユーザーの詳細） 135
アクセスプロファイル一覧 136
ユーザーインポート一覧［ユーザーインポート］タブ 146
ユーザーインポート一覧［アカウントインポート］タブ 163
ユーザーインポート一覧［ユーザー / アカウントの関連づけ］タブ 164
ドメイン一覧 166
認証機能の設定 169
キーワード条件ポリシー 173
条件 174
サポートフォント 175
印刷ポリシー 176
ウォーターマーク 177
ヘッダー / フッター 179
QR コード 180
富士フイルム BI ダイレクト連携 181
インポート時の属性の対応づけ 184
ユーザーインポート 185
アカウントインポート 188
ユーザー / アカウントの関連づけのインポート 190
ユーザー自身によるユーザー情報の登録 191
PC に接続したカードリーダーを使用して、カード ID を登録する 191
機器に接続したカードリーダーを使用して、カード ID を登録する 192
機器に表示されるログイン用 QR コードを読み取り、外部 ID を登録する 193
こんなときは 195
ネットワークがつながらない、またはネットワークが不安定なときの対処方法 195
ユーザー情報の機器への反映時の注意事項 195
Apeos_Admin ユーザーのパスワードをコマンドから変更する 195
ユーザー自身のパスワードやプロパティを変更する 196

5 コスト管理

Web ブラウザーからの設定と確認 197
アカウントグループ一覧 197
アカウント一覧 200
料金体系一覧 207
料金体系一覧（料金体系の詳細） 211
補充スケジュール一覧 211
設定 214
コマンドラインツールからの設定と確認 217
コマンドラインツールの概要 217

アカウント残高の更新 218
アカウント残高の確認 225
リカバリーファイルの修復 228
コスト管理の運用 229
コスト管理を開始するには 229
コスト管理ができる機器 230
アカウントを選択する場合 230
アカウント指定なしのジョブにアカウントを関連づける 231
お気に入りのアカウントを追加する 232
コスト管理運用時の注意事項 232
課金処理の結果を確認する 234
コスト管理レポートを表示する 234
コスト管理レポートを確認する 234

6 ダウンロード管理

Web ブラウザーからの設定 235
ファイル一覧 235
プリンター一覧 237
管理者情報 239
印刷設定の既定値 240
ヘッダー / フッターの既定値 241
ファイル / プリンターのダウンロード 241
ファイルをダウンロードする 242
プリンタードライバーをインストールする 242

7 プリントの管理と操作

Web ブラウザーからの設定と操作 243
サイドメニューの構成 243
事前準備 244
プリントサーバー一覧 245
論理プリンター一覧 246
プリントルール一覧 251
プリントジョブ一覧 253
プリント設定 254
モードスケジュール一覧 259
プリントの操作 261
プリントの操作の概要 261
プリント操作の準備 262
プリントを実行する 263
Web プリントする 265
メールプリントする 266

Popup Messenger で通知を受け取る 266
承認プリントを実施する 269
承認プリントの準備 269
承認依頼者の操作 270
承認者の操作 270
プリントの注意制限事項 272
GX Server の制限 272
iOS 端末からプリントの制限 272
プリントアプリケーションサーバー構成の制限 273
こんなときは 274
よくある質問と回答 274
ページ記述言語について 274
プレスキャンで取得できる情報 276
プリントジョブの状態 277
Popup Messenger のアンインストール 277
Chromebook からの印刷 278

8 スキャンの設定と文書管理サービス

Web ブラウザーからの設定 279
[システム管理] 権限を持つユーザーが設定すること 281
文書管理サービスを利用するユーザーができること 290
その他の設定 293
機器と機器グループの設定 293
機器本体の設定 293
一時保存フォルダーの設定 293
文書管理サービスの設定 293
機器の操作 294
メニュー画面 294
スキャン文書をメールで送信する 295
文書管理サービスとの連携 296

9 モバイル端末の設定と操作

事前準備 300
ApeosWare Management Suite の設定 300
モバイル端末用アプリケーションのインストール 300
NFC タグを利用するための準備 300
QR コードの準備 301
ファイル表示用のアプリケーションのインストール 301
モバイル端末の操作 301
ログインする 301
メニュー画面 302

[一般機能] 302
[サービス機能] 303
[文書管理サービス] 304
機器を選択する 305
モバイルアプリから ApeosWare MS Mobile 2 を利用する 305

10 イメージログ管理

Web ブラウザーからの設定と確認 307
抽出・保存設定 308
アーカイブ / 削除設定 311
アーカイブの復元 312
監視開始時刻 314
監視パターン 315
監視設定 315
共通設定 320
イメージログ受信状況 321

11 ジョブログの集計 / レポート

Web ブラウザーからの設定と確認 323
レポート名の一覧 323
集計 / 分析レポート 330
カスタムレポートの一覧 332
ジョブログの検索 333
イメージログの検索 335
監視履歴の検索 340
検索結果の出力項目 342
用紙の削減枚数の計算 347
用紙の「削減実施枚数」「削減可能枚数」とは 347
用紙の削減実施枚数 / 削減可能枚数の計算方法 348
削減実施枚数の詳しい計算方法 350
削減可能枚数の詳しい計算方法 352
アカウント ID の値の変換 355

12 メンテナンス

バックアップとリストア 356
概要 356
オプション 359
バックアップする 362
リストアする 363
終了コードの説明と対処 364
サーバーの情報の変更 366

概要 366
オプション 366
実行例 370
動作ログ 378
注意事項 378
トラブルに対処する 380
トラブル対処の流れ 380
Diagnostics Utility を使用する 380
Diagnostics Utility を起動する 381
接続状況を確認する 381
Windows 情報を確認する 384
動作ログを取得する 386
詳細ログを出力、ログサイズの上限を変更する 386
ログを表示する 387
ApeosWare Management Suite のサービスを開始または停止する 387
ApeosWare Management Suite のサービスを開始する 387
ApeosWare Management Suite のサービスを停止する 388

付録

ジョブログファイルのフォーマット（SOAP 収集） 389
ジョブログファイルの基本構成 389
ジョブログファイルに記録される項目（サービスの種類別） 391
SOAP 収集対応機器のジョブログの詳細 394
各項目のフォーマット 398
項目の詳細 403
ジョブログファイルのフォーマット（Printer MIB 収集） 411
ジョブログファイルの基本構成 411
各項目のフォーマット 411
イメージログのトラブルシューティング 414
エラーメッセージ 414
イメージログのトラブルに対処する 419
イメージログの検索メニューが表示されない 419
機器で処理した文書がイメージログの検索結果に反映されない 419
監視結果のメールが届かない 419
ハードウェアの要因でエラーになったデータを復旧する 420

1 ApeosWare Management Suite の概要

ApeosWare Management Suite の機能

ApeosWare Management Suite は、複合機やプリンターなどのネットワーク上の機器と、その機器の利用者を管理し、認証、出力、ログ集計、文書配信を統合的に行うソフトウェアです。

ApeosWare Management Suite の主な機能について説明します。

機器の管理

機器グループを作成し、管理対象の機器を登録します。認証方式は、機器グループごとに設定します。機器に宛先表やボックスなどの情報を設定し、機器のセキュリティ設定を構成して監視します。

また、機器を監視し、最新の状態やメーター情報を Web ブラウザーに表示します。機器に異常が発生したときは、管理者にメールで通知するようにも設定できます。

参照
「3 機器管理」（P.74）

ユーザー管理

機器を使用するユーザーを登録、管理します。ユーザー情報は、Web ブラウザーを使用して直接登録できるほか、Active Directory など認証サーバーや外部のファイルから読み込んで、自動で登録することもできます。

また、ApeosWare Management Suite が管理するユーザー情報を、富士フイルム BI ダイレクトのユーザーアカウントとして登録できます。

ユーザーが自分自身のユーザー情報の登録を許可されている場合は、IC カードリーダーにカードを読み込ませることで、カード ID（PAN）を登録できます。

参照
・「4 ユーザーの管理」（P.123）
・「ユーザー自身によるユーザー情報の登録」（P.191）

コスト管理

機器の使用量を金額に換算して、ユーザーのスキャンや出力を管理します。

出力制限や割引きスケジュールなどを設定して、機器の総合的な運用コストの削減に役立てることができます。業務プロジェクトや組織単位で機器の使用コストを分類、集計し、レポートを出力できます。

参照
「5 コスト管理」（P.197）

ダウンロード管理

ユーザーに配布するプリンター、およびソフトウェアなどのファイルを管理します。

管理者が登録したプリンタードライバーやインストーラーなど任意のファイルを、ユーザーは自分の PC にダウンロードしたり、自動でインストールしたりできます。

補足

この機能は、日本国内の機器だけに対応しています。また、ダウンロードしたプリンタードライバーは、日本語の OS だけに対応しています。

参照

「6 ダウンロード管理」（P.235）

プリント管理

論理プリンターの登録、プリントジョブの操作など、プリント機能の全般を管理します。

オンデマンドプリント、Web プリント、ゲストプリント、出力制限プリントなど、さまざまな利用状況に合わせたプリント環境を構築できます。

付属ツールの Popup Messenger（ポップアップ通知受信ツール）を使用すると、クライアント PC に、プリントジョブの受け付け結果やキャンセルの理由をポップアップで通知できます。

参照

「7 プリントの管理と操作」（P.243）

スキャンの設定と、文書管理サービスとの連携

スキャンした文書を加工して配信する、簡易的なフロー機能を提供します。スキャン文書を、メールに添付して送信したり、ネットワーク上の共有フォルダーに保存したり、連携する文書管理サービスに配信したりできます。

また、共有フォルダーや文書管理サービスに保存されているファイルを、機器の操作パネルからアクセスしてプリントできます。

参照

「8 スキャンの設定と文書管理サービス」（P.279）

モバイル端末の操作

モバイル端末を使って、ApeosWare Management Suite の機能を操作できます。

モバイル端末内のファイルを ApeosWare Management Suite が管理する機器でプリントしたり、文書管理サービスと連携して文書をアップロードしたりできます。

参照

「9 モバイル端末の設定と操作」（P.300）

イメージログ管理

機器で処理された画像やその記録を蓄積しておき、必要に応じて検索したり、条件に基づいて監視したりできます。

オフィスなどで利用されている機器で、どのような情報が、いつ、誰によって扱われたかを、あとから知ることができます。

機器で処理した文書を定期的に監視し、あらかじめ設定しておいたキーワードを含む文書が見つかったときに、メールで通知することができます。

参照

「10 イメージログ管理」（P.307）

集計レポートの作成

収集したジョブログを使って、集計表やグラフを作成します。ユーザー別や機器別などの角度から集計レポートを作成できるほか、電力使用量や用紙使用量をグラフにしたり、分析レポートを作成したりできます。

付属ツールの Job Log Analyzer（集計ツール）を使用した集計もできます。Job Log Analyzer は、ジョブログを集計して、一覧レポートやグラフなどを作成する、Excel のマクロプログラムです。ユーザー別、所属別、機器別など、多種類の切り口から集計する一覧表やグラフが、あらかじめ用意されています。


参照

・「11 ジョブログの集計 / レポート」（P.323）
・『Job Log Analyzer ユーザーガイド』

ジョブログの管理

指定した間隔で機器からジョブログを収集したり、収集したジョブログをファイルとして保存したりできます。

ジョブログの収集で異常が発生したときに、管理者にメールで通知するようにも設定できます。


参照

『導入・運用ガイド』の「ジョブログ設定」

サーバーの監視

サーバー上で稼動するサービスの稼働状況やストレージの利用状況を監視し、最新の状態を Web ブラウザー上に表示します。サービスが停止したり、エラーが発生したりしたときは、イベントログに記録し、管理者にメールで通知します。


参照

『導入・運用ガイド』の「サーバー監視について」

フローによる文書配信

複合機でスキャンした文書やファクス受信した文書、サーバー上の文書を、自動で加工、配信、出力、保存します。

取り込んだ文書は、イメージの加工、フォーマット変換、OCR（光学式文字認識）処理などができます。保存先や配信先を、文書の固有情報や受け付けた時間によって変更できます。


補足

この機能を使用するには、Flow Management Option が必要です。


参照

『機能ガイド Flow Management Option 編』

ソフトウェアの更新

ApeosWare Management Suite のソフトウェアの更新や、不具合時のパッチの適用は、付属ツールの Update Service（アップデートサービス）が行います。

Update Service は、PC を起動すると自動的に起動し、PC に搭載されているソフトウェアをチェックして、自動で最新の状態にアップデートするツールです。


参照

・ツールの設定方法 → 『セットアップガイド』
・詳しい操作方法 → 『付属ツールのヘルプ』

付属ツール

ApeosWare Management Suite では、次の付属ツールを提供しています。

Diagnostics Utility（診断ツール）

Diagnostics Utility は、PC と各種サーバーや機器との接続状況を確認したり、動作ログや Windows の情報を収集したりするツールです。ApeosWare Management Suite サーバーやクライアント PC 上で実行し、システムを診断して、トラブルの解決に役立てることができます。

障害が発生したときは、Diagnostics Utility を使用して、エラーの状況を診断したり、ログを取得したりします。



参照

「12 メンテナンス」(P.356)

Data Input Console（データ設定ツール）

Data Input Console は、機器や論理プリンターの情報を CSV 形式のファイルから読み込んで、一括で登録するツールです。

ApeosWare Management Suite の初期設定をするときや、運用中に大量の情報を登録、更新するときなどに利用できます。



参照

・ツールの起動方法 → 『セットアップガイド』
・詳しい操作方法 → 付属ツールのヘルプ

使用できる機能とオプション

ApeosWare Management Suite の機能とオプションについて説明します。

エディション

ApeosWare Management Suite のエディションは、次の 2 種類があります。

- Entry Edition

  基本機能をパッケージしたエディションです。

- Enterprise Edition

  Entry Edition にいくつかの機能を追加したエディションです。



補足

Entry Edition から Enterprise Edition へのアップグレードはできません。

機能一覧

各エディションで使用できる機能は次のとおりです。

○：標準で使用できます。

△：オプションライセンス（別売）を追加することで使用できます。

×：使用できません。

機能		Entry Edition	Enterprise Edition	追加できるオプション
サーバー構成				
	オールインワン構成	○	○	
	サーバーを多重化する構成	×	○	
	分散構成	○	○	
機器管理 *1				
	機器と機器グループの管理	○	○	
	機器の自動登録	○	○	
	機器データの反映	○	○	
	機器状態 / メータ情報の表示	○	○	
	状態の通知設定	○	○	
	ジョブログ収集状態の表示	○	○	

機能		Entry Edition	Enterprise Edition	追加できるオプション
ユーザー管理				
	ユーザーとユーザーグループの管理	○	○	
	アクセスプロファイルの設定	○	○	
	外部認証サーバー（ドメイン）との連携	○	○	
	ユーザーのインポート	○	○	
	アカウントのインポート	△	○	Cost Recovery Option
	認証機能の設定	○	○	
	富士フイルム BI ダイレクト連携 補足 この機能は、日本国内だけで利用できます。	○	○	
	キーワード条件ポリシー設定 補足 この機能は一部の国または地域では利用できません。 詳細は弊社の代理店にお問い合わせください。	△	△	
	印刷ポリシー設定	○	○	
	ユーザーの自己登録	○	○	
コスト管理				
	アカウントの管理	△	○	Cost Recovery Option
	料金体系の作成	△	○	Cost Recovery Option
	補充スケジュールの設定	△	○	Cost Recovery Option
ダウンロード管理（日本語 OS のみ）				
	プリンタードライバーの配布	○	○	
	ソフトウェアの配布	○	○	

機能		Entry Edition	Enterprise Edition	追加できるオプション
プリント管理				
	プリントサーバーの管理	○	○	
	直接プリント	○	○	
	ゲストプリント（メール／ Web プリント）	△	○	
	オンデマンドプリント	△	○	On Demand Print Option
	コスト管理プリント	△	○	Cost Recovery Option
	承認プリント 補足 この機能は一部の国または地域では利用できません。 詳細は弊社の代理店にお問い合わせください。	△	△	
	自動マスキング 補足 この機能は一部の国または地域では利用できません。 詳細は弊社の代理店にお問い合わせください。	△	△	
	プリントルールの設定	○	○	
	プリントジョブの操作	○	○	
	ポップアップ通知画面（Popup Messenger）	○	○	
	プリントジョブの解析方法拡張	△	△	Additional OS Parser Option
	オンデマンド端末 補足 この機能は、日本国内だけで利用できます。	△	△	On Demand Print Terminal, Cost Recovery Option
スキャン設定				
	スキャン設定	○	○	
	スキャン文書を OCR 処理	○	○	
	スキャン文書をバーコード処理	△	△	OmniPage Barcode Reader Option

機能		Entry Edition	Enterprise Edition	追加できるオプション
文書管理サービスとの連携				
	共有フォルダー /FTP サーバーとの連携	○	○	
	Google™ ドライブとの連携	○	○	
	DocuShare との連携 *2	△	△	Scan & Connect for DocuShare Device License
	Microsoft® SharePoint® Server との連携 *2	△	△	Scan & Connect for SharePoint Services Device License
	Salesforce との連携 *2	△	△	Scan & Connect for Salesforce Services Device License
	OneDrive® との連携 *2	△	△	Scan & Connect for OneDrive Device License
	SharePoint Online との連携 *2	△	△	Scan & Connect for SharePoint Online Device License
	ABBYY® FlexiCapture® との連携 *2 *4	△	△	Scan & Connect for ABBYY FlexiCapture Device License
イメージログ管理				
	イメージログの受信	△	△	ApeosWare Management Suite 2 Image Log Management Option Receiving Server License
	イメージログの OCR	△	△	以下のいずれかのライセンス ・ApeosWare Management Suite 2 Image Log Management Option OCR License ・ApeosWare Management Suite 2 Image Log Management Option OCR CJKE Thai License ・ApeosWare Management Suite 2 Scan OCR Option
	イメージログの管理	△	△	ApeosWare Management Suite 2 Image Log Management Option Registering Server License
モバイル端末の操作				
	モバイル端末からプリント	○	○	
	モバイル端末からアップロード / ダウンロード	○	○	
集計レポートの作成				
	集計 / 分析レポートの作成	○	○	
	コスト管理レポートの作成	△	○	Cost Recovery Option
	集計ツール（Job Log Analyzer）	○	○	
ジョブログの管理				
	ジョブログの収集	○	○	
	ジョブログの設定	○	○	
サーバーの監視				
	監視機能	○	○	
	通知設定	○	○	
	サービス状態 / フォルダー情報の表示	○	○	

機能		Entry Edition	Enterprise Edition	追加できるオプション
フローによる文書配信				
	フローの管理と実行	△	△	Flow Management Option
	OCR（日本語 OS のみ）	△	△	OCR for DocuWorks Japanese Option
	OCR（英語 OS のみ ）	△	△	OCR for DocuWorks English Option
	OCR（中国 / 韓国 / タイ語 OS のみ）	△	△	OCR for DocuWorks Multi Language Option
	OmniPage OCR	△	△	Scan OCR Option *3
	OmniPage Barcode Reader	△	△	OmniPage Barcode Reader Option
	QR コードリーダー	△	△	Paper Form & QR Option
	フォーム解析	△	△	Paper Form & QR Option
	属性加工（日本語 OS のみ）	△	△	Attribute Processing Option
	Database Query（日本語 OS のみ）	△	△	Database Query Option

*1 機器を ApeosWare Management Suite に登録するには、事前に License Activator で「{登録する機器の台数} Device License」を認証しておく必要があります。

*2 同時に文書管理サービスに接続する機器の台数分のライセンスが必要です。

*3 フローサーバーを分離する分散構成で OmniPage OCR 機能を使用するときは、フローサーバー側に Scan OCR Option が必要です。分散構成で運用しない場合は、Flow Management Option に含まれます。

*4 ABBYY FlexiCapture との連携は、富士フイルムビジネスイノベーション社製の機器でのみ利用できます。

ユーザーの種類と操作画面

ApeosWare Management Suite を操作するユーザーの種類と、操作画面について説明します。

ユーザーの種類

Apeos_Admin ユーザー

ApeosWare Management Suite をインストールすると、ビルトインのユーザーが次の名前で作成されます。

ユーザー ID	Apeos_Admin
パスワード	FujiFilm_11111

パスワードは、大文字と小文字が区別されます。ユーザー ID は区別されません。

以降、このユーザーを「Apeos_Admin ユーザー」と呼びます。

補足

・セキュリティー保護のため、運用を開始する前に必ず、Apeos_Admin ユーザーのパスワードを変更してください。パスワードの変更方法は「管理者パスワードの変更」（P.48）を参照してください。

・ApeosWare Management Suite 2.0 以降のバージョンから ApeosWare Management Suite 2.2 へアップデートした場合、パスワードはアップデート前と同じものになります。初期状態の場合のパスワードは「FujiXerox_11111」です。

Apeos_Admin ユーザーの特徴は次のとおりです。

- ApeosWare Management Suite の管理者画面のすべてのページにアクセスして、各種機能を設定できます。ApeosWare Management Suite にログインすると、管理者画面のポータルページに移動します。
- ApeosWare Management Suite のユーザー画面にはアクセスできません。
- レポートへの閲覧権限を持ちます。[レポート] ページにアクセスして、レポートの作成や管理ができます。
- ユーザーの一覧ページには、Apeos_Admin ユーザーは表示されません。検索しても表示されません。
- Apeos_Admin ユーザーのプロパティ変更、および削除はできません。
- 機器の利用権限はありません。

参照

管理者画面 → 「ユーザーの種類と操作画面」（P.18）

操作画面へのアクセス権限

Apeos_Admin ユーザー以外のユーザーは、権限を設定することで各画面にアクセスできます。

権限には、次の種類があります。1 人のユーザーに、複数の権限を設定できます。

複数の権限を持つユーザーが ApeosWare Management Suite にログインしたときは、次の表に示す「優先順位」に従って遷移先が決定されます。

権限	説明	ログイン後の遷移先	優先順位
システム管理	[ユーザー管理]、[アカウント / 残高管理]、[ゲストジョブの管理]、[機器管理] のすべての権限が含まれます。 管理者画面の [レポート] 以外のすべてのページにアクセスして、各機能を設定できます。 補足 システム管理権限には、Flow Management Option のシステム管理者権限も含まれます。	管理者画面のポータルページ	1
レポートの閲覧と編集	レポートを管理するページにアクセスして、機器から収集したジョブログを集計してレポートを作成できます。	管理者画面の [レポート] ページ	2
ゲストジョブの管理	プリントジョブとスキャンジョブに関するページにアクセスして、ジョブを操作できます。	管理者画面の [プリントジョブ一覧] ページ	3
アカウント / 残高管理	アカウントを管理するページにアクセスして、アカウントの追加や残高の更新ができます。	管理者画面の [アカウント一覧] ページ	4
ユーザー管理	ユーザーを管理するページにアクセスして、ユーザーの追加、更新、削除ができます。	管理者画面の [ユーザーの一覧] ページ	5
機器の管理	機器を管理するページにアクセスして、機器の登録、更新、削除ができます。	管理者画面の [機器一覧] ページ	6
イメージログ管理	イメージログに関する設定や確認ができます。	管理者画面の [イメージログ管理] ページ	7
イメージログの検索 / 監視	イメージログを検索したり、監視したりできます。	管理者画面の [監視設定] ページ	8
ユーザーポータルへのアクセス	ユーザー画面にアクセスして、ユーザー自身の情報やジョブを扱うことができます。	ユーザー画面のポータルページ	9
オンデマンドプリント端末の管理	オンデマンド端末で、利用するプリントモードを一時的に変更できます。 補足 この権限だけを設定されているユーザーは、ApeosWare Management Suite の操作画面にログインできません。	–	10

参照

・管理者画面、ユーザー画面 → 「ApeosWare Management Suite の操作画面」(P.21)
・『機能ガイド Flow Management Option 編』の「Flow Management の操作権限」
・オンデマンドプリント端末 → 『機能ガイド On Demand Print Terminal 編』

ApeosWare Management Suite へのログイン

ApeosWare Management Suite へのログイン方法は次のとおりです。

1. Web ブラウザーで次の設定をします。
   - プロキシーサーバーを経由しない
   - JavaScript ™を有効にする
2. 次の操作をします。

■ ApeosWare Management Suite サーバーの場合

Windows のプログラムを起動するメニューから、［FUJIFILM ApeosWare Management Suite］＞［管理画面］の順に選択します。

■ クライアント PC の場合

(1) Web ブラウザーを起動します。

(2) アドレスバーに、次の URL を入力します。

http:// ｛ホスト名｝ /Login

- ｛ホスト名｝には、ApeosWare Management Suite サーバーのホスト名または IP アドレスを入力します。
- SSL 通信時は、「https」を指定します。
- メインサーバーのインストール時に、ポート番号を初期設定から変更している場合は、｛ホスト名｝に続けてコロン（:）とポート番号を指定します。
- 大文字と小文字は区別されます。

補足

・SSL 通信でアクセスする場合は、｛ホスト名｝に SSL 証明書の共通名（CN）と一致する名前を入力します。
・Microsoft Entra ID を使用する場合、入力する URL は次のとおりです。
http:// ｛ホスト名｝ /Login/MicrosoftEntraID?MicrosoftEntraID= ｛DNS ドメイン名｝
- ｛ホスト名｝には、ApeosWare Management Suite サーバーのホスト名を入力します。
- ｛DNS ドメイン名｝には、［サービス設定］＞［ユーザー管理］＞［ドメイン一覧］＞［ドメインの作成］で設定したドメイン名を入力します。ただし、ドメイン作成時に［Microsoft Entra ID と異なる］にチェックマークを付けている場合は、「Microsoft Entra ID のドメイン」を入力します。

3. ユーザー情報を入力して、ログインします。

ログインユーザーの持つ権限に応じたページが表示されます。

補足

・ApeosWare Management Suite をインストールするときに、システム管理権限を持つユーザーが自動で作成されます。初めてログインするときには、このユーザーの情報を入力します。
初期設定されるユーザーについては、「Apeos_Admin ユーザー」（P.18）を参照してください。
・Microsoft Entra ID でログインする場合、［MS でログイン］をクリックして認証情報を入力します。ただし、ログインに使用するユーザーは、事前に作成したエンタープライズアプリケーションに関連付けられている必要があります。

参照

・「操作画面へのアクセス権限」（P.18）
・「エンタープライズ アプリケーションを設定する」（P.64）

ApeosWare Management Suite の操作画面

操作画面には、「管理者画面」と「ユーザー画面」の 2 種類があります。

管理者画面

管理ポータル

管理者権限を持つユーザーがログインした場合に表示される画面です。各種設定やシステム全体のジョブを操作できます。

ApeosWare Management Suite は、メニューやサイドメニューなどを操作して表示したページで項目を設定できます。

補足

表示されるメニューは、ライセンスと管理者の権限によって異なります。以下の画面は、Apeos_Admin ユーザーとシステム管理者がログインした場合です。そのほかの管理者の場合は、権限に応じたメニューだけ表示されます。

参照

管理者について ➔「ユーザーの種類」(P.18)



管理ポータルのサイドメニューでは、次の機能を選択できます。

サイドメニュー	説明
基本設定	ApeosWare Management Suite を簡単に設定できます。 ただし、次の制限があります。 ・機器の認証モード：本体認証が選択されます。 ・機器が所属する機器グループ：InitialDeviceGroup に設定されます。ユーザーが所属するユーザーグループ：Default Group に設定されます。 ・スキャン文書の転送先は、お客様が設定した共有フォルダーが設定されます。 ・アクセスプロファイル：用意されたアクセスプロファイルからだけ選択できます。また、登録したすべての機器に関連づけられます。 **参照** アクセスプロファイル ➪「アクセスプロファイル一覧」(P.26)
かんたん設定	基本設定に関連するメニューを表示します。

サイドメニュー	説明
よく使う項目	
機器の登録	[機器の一覧] へのショートカットです。
ユーザー登録	[ユーザー一覧（すべてのユーザー）] へのショートカットです。

管理ポータルの右側エリアには、次の情報が表示されます。メッセージ部分のリンクをクリックすると、それぞれの詳細ページを表示します。

機器の状態	登録されている機器の状態を表示します。
システム情報	弊社からのお知らせ情報の最新件数、ライセンスの状況およびサービス状態を表示します。
使用状況	機器の使用状況をグラフまたは表で表示します。

管理ポータルのメニュー

[機器・ジョブ状態] と [サービス設定] メニューにマウスカーソルを重ねると、各機能の説明とリンクが表示されるので、設定する機能のリンクを選択します。

[機器・ジョブ状態] メニューにマウスカーソルを重ねた場合



[サービス設定] メニューにマウスカーソルを重ねた場合



［レポート］メニューまたは［システム設定］メニューをクリックすると、それぞれのトップページが表示されます。トップページのサイドメニューから、設定する機能を選択します。

各メニューで設定できる項目は次のとおりです。

［レポート］メニュー

サイドメニュー	説明
レポート名	
ユーザー / ユーザーグループ	ユーザーやユーザーグループ単位の、用紙の使用量や使用料金などのレポートを作成します。
アカウントレポート	アカウントやコストセンターコード単位の、用紙の使用量や使用料金などのレポートを作成します。
機器 / 機器グループ	機器や機器グループ単位の、用紙の使用量や使用料金などのレポートを作成します。
環境関連レポート	用紙の削減量や削減可能枚数を表した分析レポート、CO2 削減率や消費電力を表した概要レポート、機器の電力使用量を表したグラフなど、環境の観点でまとめた各種レポートを作成します。
プリントレポート	ジョブの発生元やアプリケーション単位の、プリントジョブのレポートを作成します。
ファクスレポート	ジョブログからファクス通信に関連するジョブデータだけを抜き出し、CSV 形式のファイルとしてダウンロードします。
イメージログ監視レポート *1	ユーザーやユーザーグループ単位の、イメージログサマリーのレポートを作成します。イメージログ機能が有効なときにだけ表示します。
承認プリント履歴 補足 この機能は一部の国または地域では利用できません。詳細は弊社の代理店にお問い合わせください。	承認プリントのキーワード検索履歴や、操作履歴のレポートを作成します。承認プリント機能が有効なときにだけ表示します。
集計 / 分析レポート	集計一覧レポート、集計グラフレポート、分析一覧レポートの集計条件および表示項目を設定して、レポートを作成します。
消耗品レポート	トナー、ドラム、メーター情報のレポートを作成します。
カスタムレポート	
カスタムレポートの一覧	ジョブタイプ、期間、および形式を指定して、レポートを作成します。
拡張レポート	
ジョブログの検索	機器、ユーザー、日時などの条件を指定して、ジョブログを検索します。
イメージログの検索 *1	機器、ユーザー、日時などの条件を指定して、イメージログを検索します。
監視履歴 *1	監視設定に基づき、イメージログを検索します。

*1 Image Log Management Option のライセンスを認証した場合だけ表示されます。

[機器・ジョブ状態] メニュー

説明 / リンク	説明
機器状態	
機器状態	登録した機器のエラーや消耗品などの状態を表示します。
メンテナンス	機器のメーター情報の確認と電源オフを実行します。
トナーの残量	機器のトナー残量を確認します。
給紙トレイの残量	機器の給紙トレイの残量を確認します。
ドラム状態	機器のドラム状態を確認します。
状態の通知設定	機器の状態をメールで通知する条件を設定します。
ジョブログ収集状態	機器のジョブログの収集状態を表示します。
プリントジョブ状態	
プリントジョブ状態	すべてのユーザーが実行したプリントジョブの状態を表示します。プリントジョブの保留解除、およびキャンセルができます。
スキャンジョブ状態	
スキャンジョブ状態	すべてのユーザーが実行したスキャンジョブの状態を表示します。スキャンジョブの再開、および取り消しができます。
サーバー状態	
システム状態	メインサーバーと分離サーバーの CPU とメモリーの使用状態を表示します。
サービス状態	監視しているサービスの稼働状態を表示します。
フォルダー状態	フォルダーのディスク容量の状態を表示します。
イメージログ状態 *1	
イメージログ受信状況	イメージログの受信状況を表示します。

*1 Image Log Management Option のライセンスを認証した場合だけ表示されます。

[サービス設定] メニュー

説明 / リンク	説明
機器管理	
機器グループ一覧	機器グループやサブ機器グループの作成、削除、プロパティ表示、および機器への反映をします。 機器グループは、機器の認証 / 集計設定、通信設定、パネルの設定、登録データ（宛先やボックスなど）を管理するためのグループです。
機器一覧	機器の登録、削除、およびプロパティ表示をします。
設定 - 機器の自動登録の設定	ネットワーク上の機器を自動的に検索して登録するスケジュールを設定します。
設定 - 機器データの反映条件の設定	機器に設定を反映する間隔、または時刻を設定します。
ダウンロード管理 *1	
ファイル一覧 *1	ユーザーに配布するファイルやフォルダーを追加、削除します。
プリンター一覧 *1	ユーザーに配布するプリンタードライバーの印刷設定（カラーモードや両面など）を追加、削除します。
設定 *1	印刷設定の既定値や、一般ユーザーでの実行を許可するための管理者情報を設定します。

説明 / リンク	説明
スキャン設定	
メール送信設定	スキャンしたデータを添付するメールの送信者や件名を設定します。
共通設定	画像処理やスキャンの読み取り方法などを設定します。
文書管理サービス設定	
共有フォルダー設定	Windows の共有フォルダーと連携するための設定をします。
DocuShare 設定 *2	DocuShare と連携するための設定をします。 DocuShare は、情報資産活用を実現する Web ベースの文書管理・活用ソフトウエアです。
SharePoint 設定 *2	SharePoint® と連携するための設定をします。 SharePoint は、Microsoft Corporation が提供する文書管理サービスです。
Salesforce 設定 *2	Salesforce と連携するための設定をします。 Salesforce は、セールスフォース・ドットコム社が提供するクラウドサービスです。
Google ドライブ設定	Google ドライブと連携するための設定をします。 Google ドライブは、Google 社が提供するオンラインストレージです。
OneDrive 設定 *2	OneDrive® と連携するための設定をします。 OneDrive は、Microsoft Corporation が提供する文書管理サービスです。 OneDrive は、OneDrive for Business のみが対象となります。
SharePoint Online 設定 *2	SharePoint® Online と連携するための設定をします。 SharePoint Online は、Microsoft Corporation が提供する文書管理サービスです。
ABBYY FlexiCapture 設定 *2	ABBYY FlexiCapture と連携するための設定をします。 ABBYY FlexiCapture は、ABBYY 社が提供する文書処理ソフトウェアです。
コスト管理	
アカウントグループ一覧	アカウントグループの作成、コピー、削除、およびプロパティ表示をします。 アカウントグループは、同じ料金体系、補充スケジュールをアカウントに関連づける場合に設定します。
アカウント一覧	アカウントの作成、コピー、削除、およびプロパティ表示をします。 アカウントは、コピー、プリントなどの使用量を金額に換算して管理する口座のようなものです。
料金体系一覧	料金体系の作成、コピー、削除、およびプロパティ表示をします。 料金体系には、機器のサービスごとの料金や、期間割引や割増などの情報を設定します。
補充スケジュール一覧	補充スケジュールの作成、コピー、削除、およびプロパティ表示をします。 補充スケジュールには、残高の補充やリセットなどのスケジュールを設定します。
設定	課金時の料金の計算方式や、残高が少なくなったときに通知するかどうかなどを設定します。

説明 / リンク	説明
ユーザー管理	
ユーザーグループ一覧	ユーザーグループやサブユーザーグループの作成、コピー、削除、およびプロパティ表示をします。 ユーザーグループには、アカウントを関連づけることができます。
ユーザー一覧	ユーザーの作成、削除、プロパティ表示、有効 / 無効の切り替え、およびロックの解除をします。
アクセスプロファイル一覧	アクセスプロファイルの作成、コピー、削除、およびプロパティ表示をします。 アクセスプロファイルには、機器の使用許可、ログイン時の表示画面、文書管理サービスへのアクセス、コスト管理時の出力制限、ユーザーポータルへのアクセスなど、ユーザーが使用できる機能や操作を設定します。
ユーザーインポート一覧	インポートの作成、コピー、削除、およびプロパティ表示をします。 ユーザーとアカウントの情報をファイルや外部の認証サーバーなどからインポートする場合に、取り込み方法やスケジュールを設定します。
ドメイン一覧	ドメインの作成、削除、プロパティ表示、および認証の優先順位の変更をします。 [ユーザーインポート] で Active Directory、LDAP、または Microsoft Entra Domain Services（Microsoft Entra ID DS）サーバーからユーザー情報をインポートする場合に、取り込み元のドメインを設定します。
認証機能の設定	認証関連の機能を設定します。
富士フイルム BI ダイレクト連携 補足 この機能は、日本国内だけで利用できます。	富士フイルム BI ダイレクトとの認証連携に関する設定をします。
キーワード条件ポリシー 補足 この機能は一部の国または地域では利用できません。詳細は弊社の代理店にお問い合わせください。	登録されているキーワード条件ポリシーの一覧を表示します。
条件 補足 この機能は一部の国または地域では利用できません。詳細は弊社の代理店にお問い合わせください。	登録されている条件の一覧を表示し、追加と削除をします。
サポートフォント 補足 この機能は一部の国または地域では利用できません。詳細は弊社の代理店にお問い合わせください。	サポートするフォントの一覧表示し、追加と削除をします。
印刷ポリシー	登録されている印刷ポリシーの一覧を表示し、追加と削除をします。
ウォーターマーク	登録されているウォーターマークの一覧を表示し、追加と削除をします。
ヘッダー / フッター	登録されているヘッダー / フッターの一覧を表示し、追加と削除をします。
QR コード	登録されている QR コードの一覧を表示し、追加と削除をします。

説明 / リンク	説明
プリント管理	
論理プリンター一覧	論理プリンターの作成、削除、およびプロパティ表示をします。
プリントジョブ一覧	すべてのユーザーが実行したプリントジョブの状態を表示します。プリントジョブの保留解除、およびキャンセルができます。 この機能は、［機器・ジョブ状態］メニューの［プリントジョブ状態』と同じです。
プリントルール一覧	プリントルールの作成、削除、およびプロパティ表示をします。 プリントルールは、論理プリンターに対して設定します。プリントルールを設定することで、同じ設定でプリントできるようになります。
プリント設定	ゲストプリント、メールプリント、プリントジョブ、およびオンデマンドプリントに関する設定をします。
プリントサーバー一覧	プリントサーバーの追加、削除、およびプロパティ表示をします。 プリントサーバーは、プリント管理の機能をインストールしたサーバーです。メインサーバーとプリントサーバーを分離することもできます。
モードスケジュール一覧	プリントモードスケジュールの作成、削除、およびプロパティ表示をします。 プリントモードスケジュールには、論理プリンターのプリントモードを、時間帯などで自動的に切り替えるスケジュールを設定します。
サーバー監視の設定	
通知設定	サーバーのサービスに発生した異常を通知するかどうか、および通知先のメールアドレスを設定します。
監視設定	監視するサービスを設定します。
フロー管理 *3	
フロー一覧 *3	ログインしているユーザーが［所有者］に設定されているフローの一覧を表示します。フローの新規作成、検証、編集、有効化、無効化、削除、ダウンロード、およびアップロードができます。 ただし、Apeos_Admin ユーザーでログインしている場合は、すべてのフローを表示します。
ジョブ一覧 *3	ログインしているユーザーがジョブオーナーになっているフロージョブの一覧を表示します。ジョブの優先実行、中断、再実行、および削除ができます。 ただし、Apeos_Admin ユーザーでログインしている場合は、すべてのジョブを表示します。
待ちジョブ一覧 *3	ログインしているユーザーがジョブオーナーになっている、作業待ちジョブの一覧を表示します。ジョブの参照、再開、および削除ができます。 ただし、Apeos_Admin ユーザーでログインしている場合は、すべての作業待ちジョブを表示します。
サービス設定 *3	フロー作成者や処理禁止フォーマットなど、フローの使用環境を設定します。
イメージログ管理 *4	
抽出・保存設定	抽出処理の OCR の設定や、保存処理の暗号化や圧縮などを設定します。
アーカイブ / 削除設定	イメージログの保存期間や、保存期間終了後のイメージログの処理方法を設定します。
アーカイブの復元	イメージログ保存期間を過ぎてアーカイブされたデータを、検索対象として復元します。
イメージログ監視設定	イメージログを監視するための設定を行います。
共通設定	イメージログに関する共通の設定を行います。

*1 日本国内の機器だけに対応しています。ダウンロードしたプリンタードライバーおよびファイルは、日本語の OS だけに対応しています。

*2 オプションです。ライセンスを認証した場合だけ表示されます。

*3 Flow Management Option のライセンスを認証した場合だけ表示されます。

*4 Image Log Management Option のライセンスを認証した場合だけ表示されます。

［システム設定］メニュー

サイドメニュー	説明
共通設定	
ネットワーク設定	各サービスで共通して使用するネットワークの項目を設定します。
通貨設定	通貨の種類と通貨の小数点の桁数を設定します。料金体系などを設定するときに使用します。
表示設定	管理者画面、ユーザー画面および機器の操作パネルに表示するユーザー名の、名、姓の表示順を設定します。
ジョブログ設定	ジョブログの保存、保持する期間、および集計に関する項目を設定します。
一時保存フォルダー設定	スキャンとモバイルのサービスで機器とのデータの受け渡しに使用する、一時保存フォルダーを設定します。
管理者パスワードの変更	Apeos_Admin ユーザーのパスワードを変更します。
サービスの表示順序設定	機器のパネルに表示するサービスの順序を設定します。
セキュリティー設定	プリントサーバー上のプリントデータの暗号化方式を設定します。
操作パネルのカスタマイズ設定	機器の操作パネルのカスタマイズ設定をします。
消耗品の使用状況の保存設定	消耗品の使用状況を保存するための条件を設定します。
外部端末設定 補足 この機能は一部の国または地域では利用できません。詳細は弊社の代理店にお問い合わせください。	接続された外部端末のポート番号を設定します。
ユーザーポータル設定	ユーザーポータルに表示するレポートを設定します。
システム情報	
富士フイルムビジネスイノベーションからのお知らせ	主に管理者を対象とした、弊社からのお知らせの一覧を表示します。
ライセンス情報	インストールされている製品のライセンスの認証情報を表示します。

ページの構成

一覧のページ

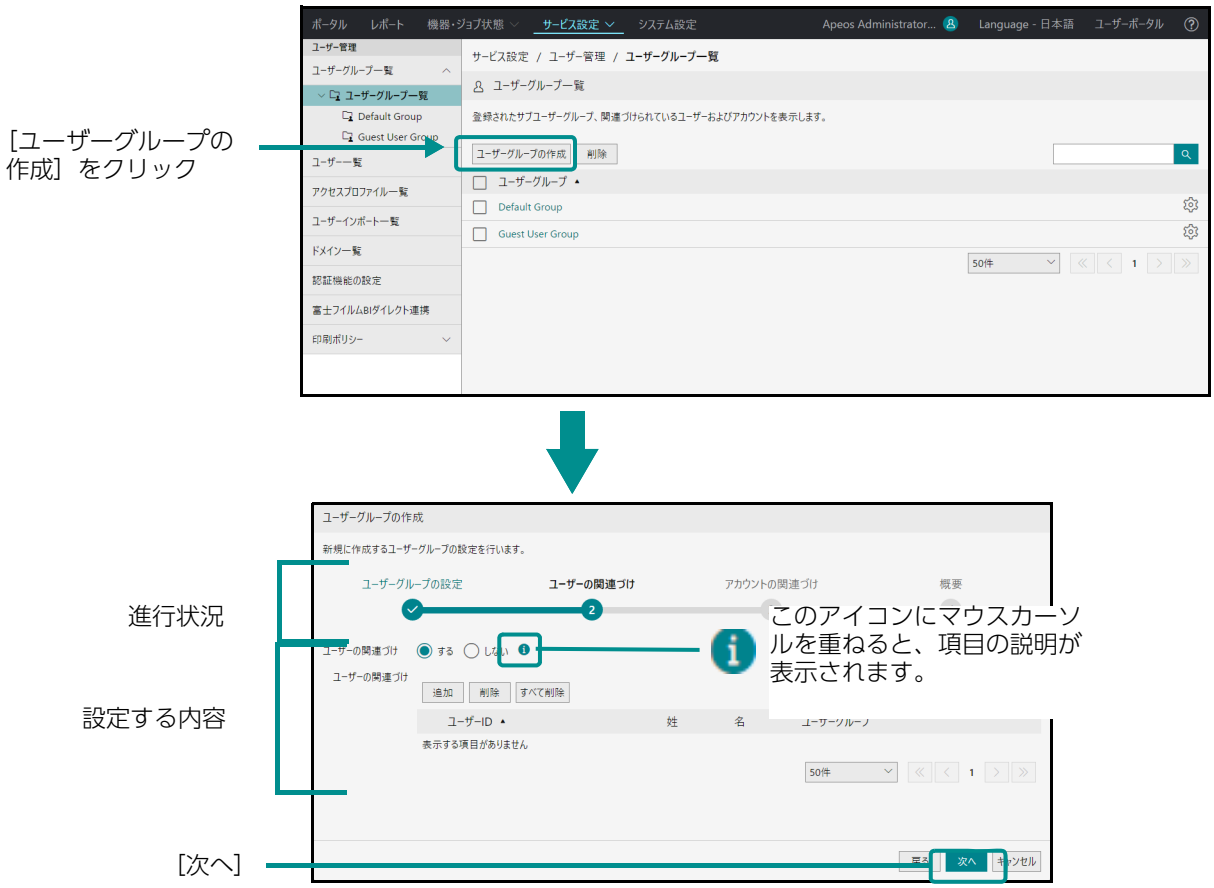
［レポート］、［機器・ジョブ状態］、および［サービス設定］メニューから選択したページです。
次の［機器一覧］ページの場合、メニューを［サービス設定］＞［機器一覧］と選択すると表示されます。



項目	説明
(1) ヘッダー	
［ログアウト］	ログアウトします。
［Language- {言語}］	言語を変更します。言語を変更すると、ポータルページなどに移動します。 参照 「操作画面へのアクセス権限」（P.18）
［ユーザーポータル］	アクセスプロファイルでユーザーポータルへのアクセスが許可されている場合に、Web ブラウザーの別のタブにユーザー用のポータルページ（P.32）を表示します。
［ヘルプ］	次を表示します。 ・ApeosWare Management Suite の製品情報 ・よくある質問 ・マニュアル ・バージョン情報
(2) メニュー (3) サイドメニュー	参照 ・「管理ポータル」（P.21） ・「管理ポータルのメニュー」（P.22）
(4) トピックパス	階層が表示されます。リンクがある場合はクリックすると、別の階層に移動できます。
(5) 一覧	サイドメニューで選択した項目の一覧が表示されます。 作成のボタンをクリックすると、「作成のページ」（P.30）が表示されます。 項目のプロパティの表示、コピー、削除を実行するときは、右端にある⚙アイコンをクリックします。

作成のページ

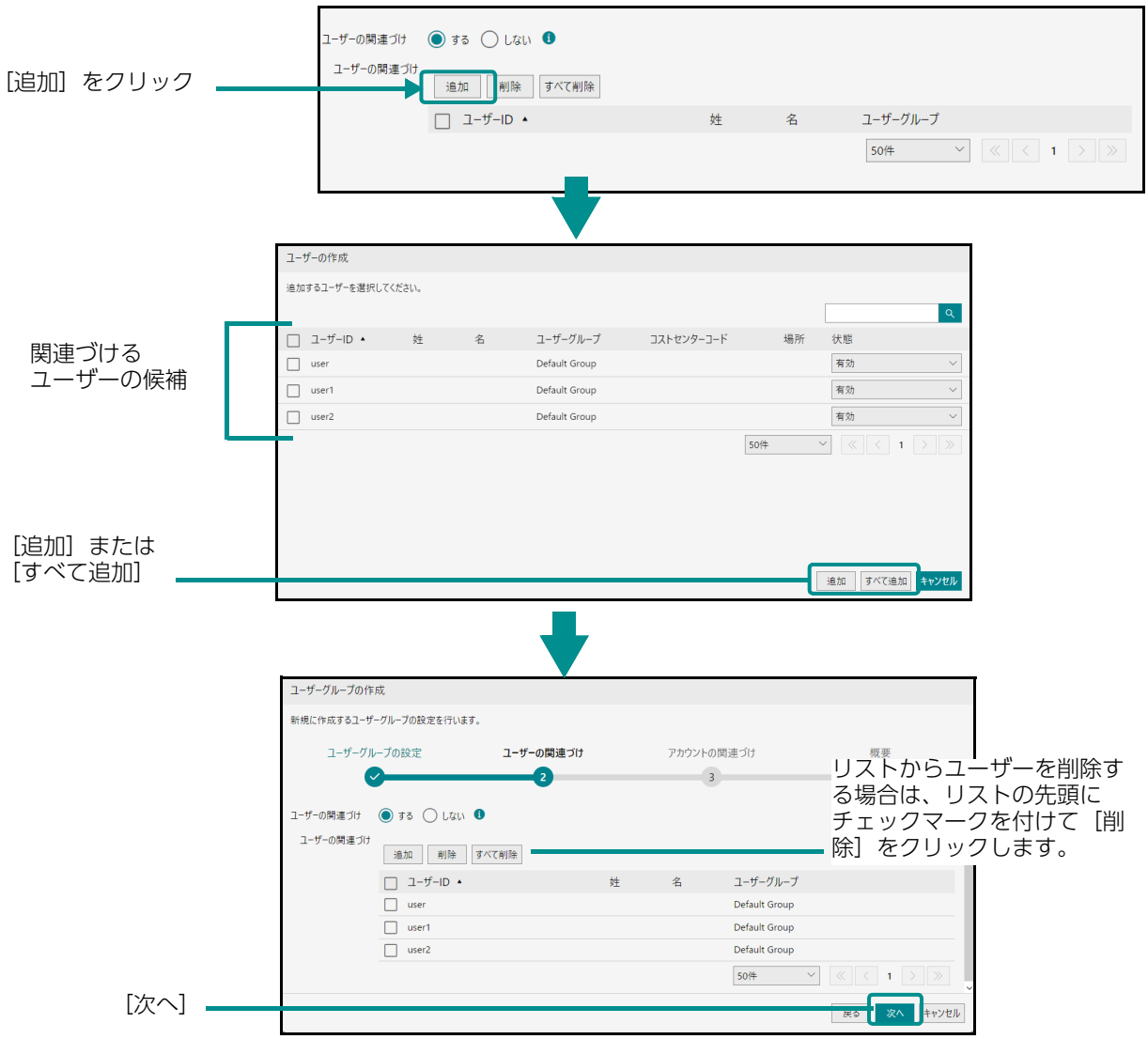
一覧のページで作成のボタンをクリックすると表示されるページです。
次の［ユーザーグループ一覧］ページの場合、［ユーザーグループ一覧］ページで［ユーザーグループの作成］ボタンをクリックすると表示されます。



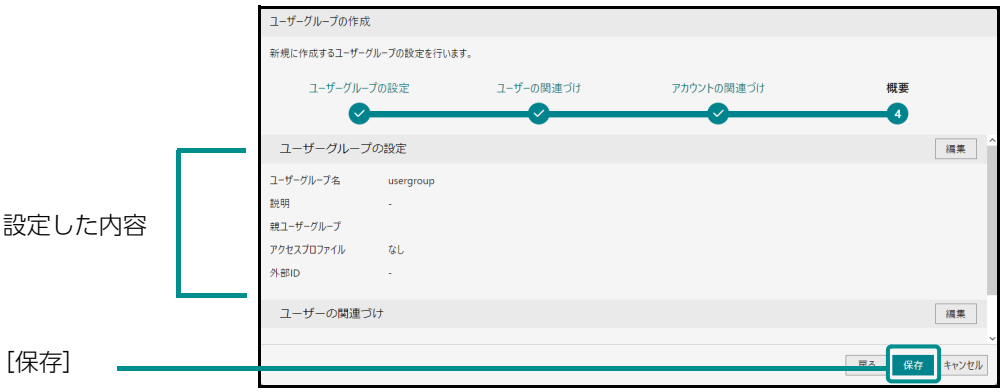
項目を設定し［次へ］をクリックすると、次のページに進みます。

ページの上部には、作成の進行状況が表示されます。

［ユーザーの関連づけ］ページでは、ユーザーグループにユーザーを関連づけます。アカウント、機器なども同様の操作で関連づけます。



［概要］ページに進むと、設定した内容が表示されます。
確認してから［保存］をクリックすると、ユーザーグループが ApeosWare Management Suite に設定されます。



ユーザー画面

管理者権限を持つユーザーが、管理者画面のヘッダーメニューで［ユーザーポータル］をクリックしたときに表示される画面です。［ユーザーポータル］へのアクセスだけを許可されたユーザーがログインしたときにも、同じ画面が表示されます。ゲストユーザーグループに所属しているユーザーに対しては、［ユーザーポータルへのアクセス］設定によってログインしたときのユーザー画面を、Web プリント専用の画面にすることができます。

ユーザー画面ではログインしているユーザー自身のジョブを操作したり、パスワードなどのユーザープロパティを変更したりできます。

補足

- ［ユーザーポータル］へのアクセス許可は、ユーザーに関連づけられているアクセスプロファイルでユーザーポータルを表示する設定になっているときにだけ許可されます。
- Web プリント専用のユーザー画面は、ゲストユーザーが所属するゲストユーザーグループのプロパティで［ユーザーポータルへのアクセス］を［Web プリントのみ許可する］に設定していると表示されます。［［アクセスプロファイル］で設定する］を選択した場合は、ユーザーに関連づけられているアクセスプロファイルの設定に従います。
- 1 つのゲストユーザーを複数の利用者で使用する場合、利用者ごとの料金を正確に管理できないため、コスト管理機能は利用しないでください。

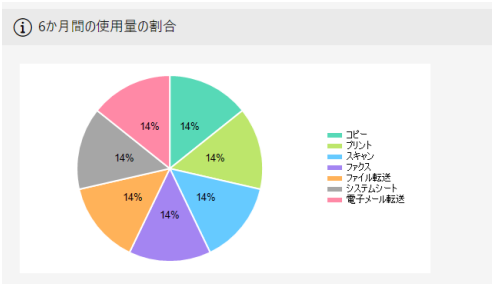
ユーザーポータル

ユーザー画面のポータルページを「ユーザーポータル」と呼びます。ユーザーポータルでは、よく使う設定や、プリントの使用状況およびプリントジョブ一覧が表示されます。



プリントの使用状況には、ユーザーのプリント実績から計算した CO2 排出量が表示されます。

項目	内容
今月度の出力枚数	当月度の総プリント出力量を表示します。出力枚数はプリント直後には反映されず、ジョブログの集約処理のあとに反映されます。
残高（既定のアカウント）	コスト管理をしている場合に、ユーザーに関連づけられたアカウントの残高を表示します。
今月削減された CO2 排出量 (g/ 月)	当月度に削減した CO2 排出量を表示します。 「両面印刷」や「まとめて 1 枚印刷」を行うと、CO2 排出量を削減できます。

項目	内容
6 か月間の使用量の割合 *1 *2	操作しているユーザーのユーザー ID が紐づいていて、ページ数が含まれるすべてのジョブの処理ページ数の割合を、円グラフで表示します。  「6 か月の使用量の割合」の円グラフは割合の大きい順で表示されます。ジョブタイプごとに色は固定です。
6 か月間の使用量の推移 *1 *2	操作しているユーザーのユーザー ID が紐づいていて、ページ数が含まれるすべてのジョブの処理ページ数の総数を、月ごとに棒グラフで表示します。 ジョブログの保持期間が 6 か月未満のときは、ジョブログの保持期間分を表示します。
今月の白黒／カラーの出力状況	プリント、コピー、スキャンのそれぞれについて、白黒とカラーのページ数を表示します。
保留中のプリントジョブ一覧	保留中のオンデマンドプリントジョブ（ジョブ名、作成日時）を、5 件まで表示します。
ジョブログ一覧	最新のジョブログ（文書名、結果、サービスの種類、ジョブ終了日時）を、5 件まで表示します。
プリントジョブ一覧	プリントジョブの状態（ジョブ名、作成日時、ジョブ状態、出力機器）を、最新の 20 件まで表示します。

*1 ジョブの処理直後には反映されず、ジョブログの集約処理のあとに反映されます。

*2 正しく集計するには、ジョブの所有者を特定するために使用するジョブログの項目で、ジョブオーナー名を優先してください。詳しくは「2 ［ジョブの所有者の特定方法］」（P.46）を参照してください。

Web プリント専用のユーザー画面

ゲストユーザーグループのプロパティで［ユーザーポータルへのアクセス］を［Web プリントのみ許可する］に設定されているユーザーグループに所属するゲストユーザーが、ログインしたときに表示されるユーザー画面です。ログインしたゲストユーザーは［ポータル］や［ユーザー / サービス設定］メニューへはアクセスできません。



ユーザー画面の操作

［プリント / ジョブ］と［ユーザー / サービス設定］メニューにマウスカーソルを重ねると、各機能へのリンクと説明が表示されるので、必要なリンクをクリックします。

Web プリント専用の［ポータル］ページは［プリント / ジョブ］メニューだけで、［ポータル］や［ユーザー / サービス設定］メニューへはアクセスできません。



各メニューで操作できる項目は次のとおりです。

ヘッダー

項目	説明
［ログアウト］	ログアウトします。
［Language- {言語}］	言語を変更します。言語を変更すると、ポータルページなどに遷移します。 参照 遷移先→「操作画面へのアクセス権限」（P.18）
［管理者ポータル］	管理者権限を持つユーザーの場合に、Web ブラウザーの別のタブに管理者用のポータルページ（P.21）を表示します。

［ポータル］メニュー

サイドメニュー	説明
よく使う項目	
Web プリント	［Web プリント］へのショートカットです。
プリントジョブ	［プリントジョブ一覧］へのショートカットです。
使用状況	機器の使用状況を表示します。

補足

Web プリント専用の［ポータル］ページでは、［ポータル］メニューにアクセスできません。

［プリント / ジョブ］メニュー

説明 / リンク	説明
Web プリント	
Web プリント（アップロードプリント）	ファイルをアップロードして、プリントを指示します。
マイプリントジョブ	
プリントジョブ一覧	ログインしているユーザーが実行したプリントジョブの状態を表示します。プリントジョブの保留解除、およびキャンセルができます。

説明 / リンク	説明
要承認文書 補足 この機能は一部の国または地域では利用できません。 詳細は弊社の代理店にお問い合わせください。	
承認依頼文書一覧	ログインしているユーザーが承認依頼をした文書の一覧を表示します。承認依頼文書の承認依頼の停止や再依頼、キャンセル、閲覧、承認者の転送ができます。
要承認文書一覧	ログインしているユーザーに承認依頼されている文書の一覧を表示します。承認依頼された文書の承認や却下、閲覧、承認者の転送ができます。
承認依頼文書履歴	ログインしているユーザーが承認依頼をした文書の過去の履歴を確認できます。
マイスキャンジョブ	
スキャンジョブ一覧	ログインしているユーザーが実行したスキャンジョブの状態を表示します。スキャンジョブの再開、および取り消しができます。
コスト管理	
アカウントに関連づけていないジョブ一覧	アカウントに関連づけられていないジョブを表示します。 ジョブをアカウントに関連づけることができます。
フロー管理 *1	
フロー一覧 *1	ログインしているユーザーが［所有者］に設定されているフローの一覧を表示します。フローの新規作成、検証、編集、有効化、無効化、削除、ダウンロード、およびアップロードができます。
ジョブ一覧 *1	ログインしているユーザーがジョブオーナーになっているフロージョブの一覧を表示します。ジョブの優先実行、中断、再実行、および削除ができます。
待ちジョブ一覧 *1	ログインしているユーザーがジョブオーナーになっている、作業待ちジョブの一覧を表示します。ジョブの参照、再開、および削除ができます。

*1 Flow Management Option のライセンスを認証した場合だけ表示されます。

Web プリント専用の［プリント / ジョブ］メニュー

項目	説明
Web プリント	
ファイルを選択	［参照］をクリックし、プリントするファイルを選択します。
プリントサーバー	分散サーバー構成の場合に、プリントサーバーを選択します。
論理プリンター	論理プリンターを選択します。
出力用紙サイズ	出力用紙サイズを選択します。
部数	部数を設定します。
カラーモード	カラーモードを設定します。
両面	両面印刷をするかどうかを設定します。

[ユーザー / サービス設定] メニュー

説明 / リンク	説明
文書管理サービス設定	
共有フォルダー設定 *2	管理者が設定した共有フォルダーを使用するための設定をします。
SharePoint 設定 *2	管理者が設定した SharePoint を使用するための設定をします。
DocuShare 設定 *2	管理者が設定した DocuShare を使用するための設定をします。
Salesforce 設定 *2	管理者が設定した Salesforce を使用するための設定をします。
Google ドライブ設定 *2	管理者が設定した Google ドライブを使用するための設定をします。
OneDrive 設定 *2	管理者が設定した OneDrive を使用するための設定をします。
SharePoint Online 設定 *2	管理者が設定した SharePoint Online を使用するための設定をします。
ABBYY FlexiCapture 設定 *2	管理者が設定した ABBYY FlexiCapture を使用するための設定をします。
ユーザー管理	
ユーザープロパティ	ユーザーのパスワードを変更します。*4 また、管理者が変更を許可している場合は、メールアドレスや「スキャナー(マイフォルダ保存)」機能の保存先も変更できます。
ダウンロード管理 *3	
ファイルダウンロード *3	管理者が登録した配布用のファイルを、クライアント PC にダウンロードします。
プリンターダウンロード *3	管理者が登録したプリンタードライバーを、クライアント PC にダウンロードします。
コスト管理	
お気に入りアカウント	ユーザーが利用できるアカウントの中から、よく使うアカウントを設定します。

*2 アクセスプロファイルで、ログインユーザーにアクセス許可された項目だけが表示されます。

*3 日本国内の機器だけに対応しています。ダウンロードしたプリンタードライバーおよびファイルは、日本語の OS だけに対応しています。

*4 ここで変更するパスワードは、ユーザー画面にログインするためのパスワードです。ただし、外部ユーザーの場合は、ここで設定したパスワードに関わらず、外部認証サーバー上のパスワードがログイン時に利用されます。



補足

Web プリント専用の［ポータル］ページでは、［ユーザー / サービス設定］メニューにアクセスできません。

2 システム設定 / サーバーの監視

Web ブラウザーからの設定

Web ブラウザーから、サーバーの監視や確認、およびシステムの設定ができます。それぞれのページでどのようなことができるかを説明します。

- システム設定

ページ	説明
ネットワーク設定	ApeosWare Management Suite で使用するネットワーク環境を設定します。  参照 「ネットワーク設定」(P.39)
通貨設定	コスト管理で料金体系やアカウントの残高を設定するときの通貨を設定します。  参照 「通貨設定」(P.42)
表示設定	管理者画面、ユーザー画面および機器の操作パネルに表示するユーザー名の、名、姓の表示順を設定します。  参照 「表示設定」(P.43)
ジョブログ設定	ジョブログファイルの出力に関する設定、ジョブログデータの保持期間、および集計に関する設定をします。ユーザー情報のファイルへの出力もできます。  参照 「ジョブログ設定」(P.43)
一時保存フォルダー設定	機器と ApeosWare Management Suite 間でのデータの受け渡しに使用する、作業用フォルダーを設定します。  参照 「一時保存フォルダー設定」(P.46)
管理者パスワードの変更	インストール時に自動的に作成される Apeos_Admin ユーザーのパスワードを変更します。  参照 「管理者パスワードの変更」(P.48)
サービスの表示順序設定	機器のパネルに表示するサービスの順序を設定します。  参照 「サービスの表示順序設定」(P.49)
セキュリティー設定	プリントサーバー上のファイルを暗号化します。  参照 「セキュリティー設定」(P.51)

ページ	説明
操作パネルのカスタマイズ設定	機器の操作パネルのカスタマイズ設定をします。 参照 「操作パネルのカスタマイズ設定」（P.50）
消耗品の使用状況の保存設定	消耗品の使用状況を保存するための条件を設定します。 参照 「消耗品の使用状況の保存設定」（P.51）
外部端末設定 この機能は一部の国または地域では利用できません。 詳細は弊社の代理店にお問い合わせください。	接続された外部端末のポート番号を設定します。 参照 「外部端末設定」（P.52）
ユーザーポータル設定	ユーザーポータルに表示するレポートの表示を設定します。 参照 「ユーザーポータル設定」（P.53）

- サービス設定＞サーバー監視の設定

ページ		説明
通知設定		監視するサービスに異常が発生したときにメールで通知するための設定をします。 参照 「通知設定」（P.58）
監視設定		
	システム設定	サーバーの CPU とメモリーの稼働状態を、監視する条件を設定します。 参照 「システム設定」（P.54）
	サービス設定	監視するサーバーと、監視対象にするサービスを設定します。 参照 「サービス設定」（P.55）
	フォルダー設定	サーバーごとに、フォルダーを監視する条件を設定します。 参照 「フォルダー設定」（P.57）

- 機器・ジョブ状態＞サーバー状態

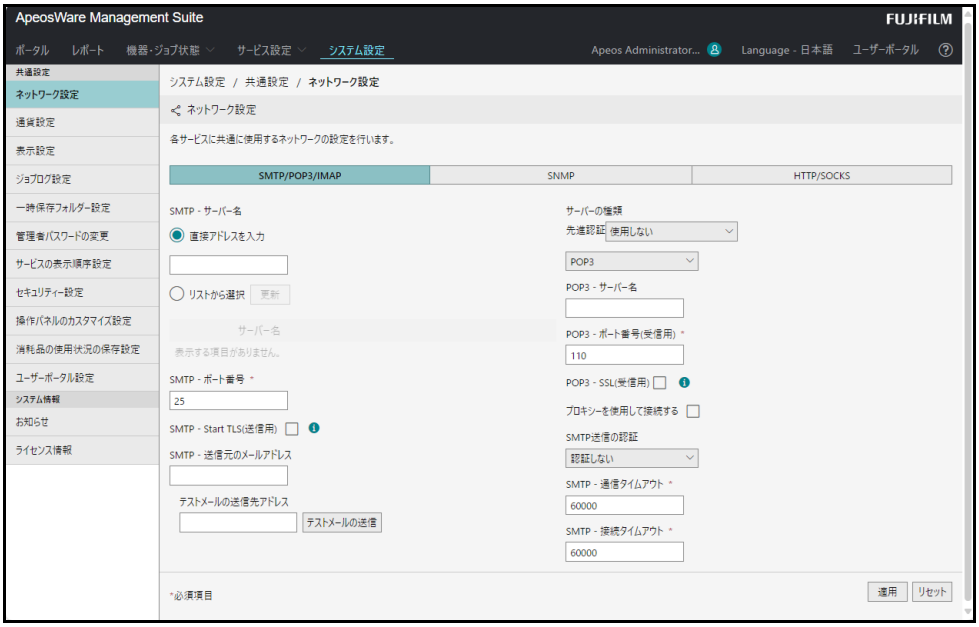
ページ	説明
システム状態	メインサーバーと分離サーバーの CPU とメモリーの使用状態を表示します。 参照 「システム状態」（P.58）
サービス状態	監視するサービスの起動 / 停止状態を表示します。 参照 「サービス状態」（P.59）

ページ	説明
フォルダー状態	ApeosWare Management Suite が使用している、ユーザーデータの格納先フォルダーの利用状況を表示します。 参照 「フォルダー状態」（P.61）

ネットワーク設定

表示方法

管理者画面のメニューの［システム設定］＞［ネットワーク設定］の順に選択します。



ページの概要

ApeosWare Management Suite で使用するネットワークに関する設定をします。

［SMTP/POP3/IMAP］タブ

ApeosWare Management Suite で使用するメールサーバーを設定します。次の機能を使用するときは、必ずメールサーバーを設定します。

機能	設定
サーバー監視	ApeosWare Management Suite のサービスに異常が発生したときや、異常から復旧したときに、メールで通知する
機器管理	機器の警告やエラーを検出したときに、メールで通知する 定期的に機器の状態を、メールで通知する
プリント管理	受信したメールをプリントする
スキャン設定	スキャンした文書をメールに添付して配信する
文書の配信（Flow Management Option）	文書をメールに添付して配信する 対話通知、完了通知、またはエラー通知をする

補足

ウイルス対策ソフトウェアでメールの送受信のブロックが設定されている場合は、メール送信ができません。この場合は、ブロックを外す設定が必要です。詳しくは、「ウイルス対策ソフトウェアがインストールされている環境で、メールが送信できないとき」（P.72）を参照してください。

[SMTP - サーバー名] / [SMTP - ポート番号]

メール送信サーバーのサーバー名（ホスト名または IP アドレス）、およびポート番号を指定します。サーバー名は、直接アドレスを入力するか、リストから選択できます。

補足

[SMTP- 送信元のメールアドレス] を選択してから [リストから選択] の [更新] をクリックすると、サーバー名の候補が検索されます。

[SMTP - Start TLS（送信用）]

[SMTP - Start TLS（送信用）] が有効か無効かを設定します。[SMTP - Start TLS（送信用）] を有効にした場合、本サーバーと SMTP サーバーとの通信が暗号化されます。また、[SMTP - ポート番号] の変更が必要になる場合があります。SMTP サーバーが Start TLS に対応していない場合、[SMTP - Start TLS（送信用）] の設定を有効にしても暗号化せずに送信されます。

[SMTP - 送信元のメールアドレス]

送信者のメールアドレスを指定します。

補足

- 先進認証を使用する場合、認証時に使用するアカウントと [SMTP - 送信元のメールアドレス] を一致させる必要があります。
- [SMTP 送信の認証] で先進認証を使用するため、スキャンの送信者は [SMTP - 送信元のメールアドレス] を使用します。
- Flow Management Option でメール送信機能を利用している場合は、[送信元] を [SMTP - 送信元のメールアドレス] に手動で変更する必要があります。

[テストメールの送信先アドレス]

テストメールの送信先のメールアドレスを指定します。入力した SMTP サーバーや送信元のメールアドレスが正しく設定されているかを確認するために使用します。

[テストメールの送信] をクリックすると、入力した設定を使って、送信先アドレスにテストメールを送信します。

[先進認証]

先進認証を使用するかどうかを指定します。使用する場合は、事前に設定をします。

参照

「先進認証を使用する場合の事前設定」（P.62）

使用する場合は、[使用する] を選択して、次を指定します。

- OAuth プロバイダー
  Exchange Online、Gmail のどちらかを選択します。
- アプリケーション（クライアント）ID
  認可サーバーで設定した ID を入力します。
  - Exchange Online の場合
    Azure 管理権限のあるユーザーで Microsoft Azure にログインし、[Microsoft Entra ID] の [アプリの登録] で ApeosWare Management Suite を登録します。登録したアプリの概要欄で確認できる [アプリケーション ID] を入力します。
  - Gmail の場合
    GoogleCloudPlatform（GCP）にログインし、[API とサービス] から [認証情報] に進み、[OAuth クライアント ID] で作成した ID を入力します。
- クライアントシークレット
  認可サーバーで設定した ID を入力します。

[POP3 - サーバー名] / [POP3 - ポート番号 (受信用)]

メール受信サーバーのサーバー名（ホスト名または IP アドレス）、およびポート番号を指定します。

補足

ポート番号は通常は 110 です。別のポートを利用している場合は、環境に合わせてポート番号を設定してください。

[POP3 - SSL（受信用）]

メール受信用ポートの SSL 通信をするかどうかを設定します。[POP3 - SSL（受信用）] を有効にした場合、本サーバーと POP3 サーバーとの通信が暗号化されます。POP3 サーバーを SSL 受信専用にした場合、[POP3 - ポート番号（受信用）] を 955 に変更する必要があります。

[SMTP 送信の認証]

先進認証を使用しない場合、SMTP 送信時に認証するときは、[POP before SMTP] または [SMTP AUTH] を選択し、認証に使用するログイン情報を入力します。

補足

[POP before SMTP] を選択した場合、ポート番号は通常は 110 です。別のポートを利用している場合は、環境に合わせてポート番号を設定してください。

先進認証を使用する場合は、[認証済み] または [未実施] のどちらかが表示されます。[未実施] をクリックすると、OAuth プロバイダーに応じて認証画面が表示されます。

補足

[認証済み] にしたあと、次の処理を行ったときは、再度認証をやり直す必要があります。
・ApeosWare Management Suite のバックアップリストアを行った場合
・ユーザーがアクセストークンを無効化する処理を行った場合
アクセストークンを無効化する処理の詳細については、各 OAuth プロバイダーの情報を参照してください。

[SMTP - 通信タイムアウト]

SMTP 通信するときのタイムアウト時間（単位：ミリ秒）を指定します。

[SMTP - 接続タイムアウト]

SMTP 接続するときのタイムアウト時間（単位：ミリ秒）を指定します。

[SNMP] タブ

SNMP 通信で応答がなかったときに再試行する [SNMP - リトライ間隔]（単位：ミリ秒）と [SNMP - リトライ回数] を入力します。

[HTTP/SOCK] タブ

HTTP プロキシーサーバーのサーバー名とポート番号を指定します。Google ドライブなど外部のサービスにアクセスするときに設定します。文書管理サービスとの連携を利用しない場合は、空欄のままで構いません。

OneDrive などのクラウドサービスと連携するときは、ApeosWare Management Suite サーバーが設置されているネットワーク構成に応じて HTTP プロキシーサーバーを設定します。

先進認証でプロキシーサーバーを使用するときは、HTTP/SOCKS を指定します。空欄の場合は、プロキシーサーバを使用しません。HTTP プロキシーサーバーだけ指定、SOCKS プロキシーサーバーだけ指定、または HTTP プロキシーサーバーと SOCKS プロキシーサーバーの両方とも指定できます。

通貨設定

表示方法

管理者画面のメニューの［システム設定］＞［通貨設定］の順に選択します。



ページの概要

コスト管理で料金体系やアカウントの残高を設定するときの、通貨を設定します。

通貨名や通貨の小数点桁数の初期値は、ApeosWare Management Suite がインストールされたサーバーの地域と言語の設定に従います。

［通貨名］

ドロップダウンリストボックスから通貨名を選択します。

補足

・通貨名を設定したあとジョブを実行した場合、設定した通貨名は変更できません。通貨名を変更するには再インストールが必要です。

・通貨を変更しても、すでに設定した料金体系や残高の数値は変わりません（為替レートによる変換は行われません）。運用環境で使用している単位としてふさわしいものを選択してください。

［通貨小数点桁数］

通貨の小数点を指定します。通貨名を変更すると、連動して小数点桁数の初期値も変わります。個別に変更することもできます。

［課金装置の通貨名］

オンデマンドプリント端末に接続した課金装置で使用する通貨名を選択します。［通貨名］と異なる通貨を選択した場合は、［換算レート］を指定します。

補足

この機能は日本国内でだけ使用できます。

表示設定

表示方法

管理者画面のメニューの［システム設定］＞［表示設定］の順に選択します。



ページの概要

管理者画面、ユーザー画面および機器の操作パネルに表示するユーザー名の、名、姓の表示順を設定します。

ジョブログ設定

表示方法

管理者画面のメニューの［システム設定］＞［ジョブログ設定］の順に選択します。



ページの概要

ジョブログファイルの保存方法、ジョブログの保持期間、および集計に関する設定をします。Job Log Analyzer の集計で使用するユーザー情報をファイルに出力することもできます。

[ジョブログファイルの保存] タブ

[保存先]

ジョブログファイルの保存先を指定します。

ジョブログファイルを、ApeosWare Management Suite サーバー上に保存する場合は［ローカル］を選択します。リモート PC の共有フォルダーに保存する場合は、［ネットワーク上の他のマシン］を選択します。



補足

・ジョブログファイルをローカルに保存する場合は、保存先フォルダーに、Network Service アカウントのフルコントロール権が必要です。
・ジョブログファイルの保存先フォルダーがあるドライブに、十分な空き容量があることを確認してください。

[パス]

ジョブログファイルの保存先パスを指定します。

［保存先］で［ローカル］を選択した場合は、絶対パスで指定します。例：D:￥foldername￥sub

［保存先］で［ネットワーク上の他のマシン］を選択した場合は、「￥￥」で始まる UNC 形式で指定します。

例：
￥￥ComputerName￥FolderName￥sub
￥￥192.0.2.1￥FolderName￥sub



補足

運用の途中で［保存先］や［パス］を変更した場合、変更先のフォルダーには、変更した時点からのジョブログだけが出力されます。過去をさかのぼって出力済みのファイルの再出力はしません。

[ユーザー名] / [パスワード]

［保存先］で［ネットワーク上の他のマシン］を選択した場合に指定します。共有フォルダーに接続するための、ユーザー名とパスワードを入力します。

[ドメイン名またはコンピューター名]

［保存先］で［ネットワーク上の他のマシン］を選択した場合に指定します。共有フォルダーのドメイン名、またはコンピューター名を入力します。

[エンコード種別]

ジョブログファイルのエンコードを選択します。

[保存内容]

保存するジョブログファイルに文書名の情報と、ユーザー名にユーザープリンシパル名を含めるかどうかを設定します。セキュリティー上の理由から、ジョブログに文書名を記録したくない場合は、［文書名を除外する］にチェックマークを付けます。

Job Log Analyzer で文書種別ごとのグラフを作成する場合は、文書名をジョブに含める必要があります。この場合は、［文書名を除外する］のチェックマークを外します。

ユーザー名にユーザープリンシパル名を含めたい場合は、［UPN を含める］にチェックマークを付けます。



補足

運用の途中で［エンコード］、［保存内容］を変更した場合、変更した時点以降のジョブログから反映されます。過去をさかのぼって出力済みのファイルの再出力はしません。

[保存先のサブフォルダ名]

ジョブログ内のどの日付でジョブログを管理するかを、次から選択します。

- ［ジョブ開始日］
- ［ジョブ完了日］

- ［ジョブログ収集日］

この設定は、保存期間が過ぎたジョブログを ApeosWare Management Suite から削除するときや、Job Log Analyzer で集計するときの日付情報として使用されます。また、ジョブログファイルを出力するときの、サブフォルダー名としても使用されます。

次のことに注意して設定してください。

- ジョブログの［ジョブ開始日］の値が空の場合は［ジョブ完了日］、［ジョブ完了日］が空の場合は［ジョブ開始日］が［保存先のサブフォルダ名］に使用されます。両方とも空の場合は、［ジョブログ収集日］の値が使用されます。すべてが空の場合は、そのジョブログを管理の対象から外します。
- Printer MIB 収集はジョブ開始日、ジョブ完了日を取得しないため、［保存先のサブフォルダ名］はジョブログ収集日になります。

［間隔］

ジョブログファイルを出力するタイミングを指定します。

1 日 1 回、指定した時間にジョブログファイルを出力する場合は［日ごと］を選択して、出力する時刻を入力します。

指定した間隔でジョブログファイルを出力する場合は［分ごと］を選択して、出力する間隔（分）を指定します。

［ユーザー情報の保存］

［ユーザー情報の保存を実行］をクリックすると、ApeosWare Management Suite に登録されているすべてのユーザー情報が、［保存先］および［パス］で指定した場所に出力されます。出力されたユーザー情報は、Job Log Analyzer の集計で使用できます。

［ユーザーグループを階層表示する］のチェックマークを外すと、階層情報のない状態でユーザー情報が出力されます。

出力されるユーザー属性は、次の 5 つです。

- ユーザー ID
- 表示名
- 外部集計 ID
- ユーザーグループ
- カード ID（PAN）

参照

出力フォーマットなど詳細 → 『Job Log Analyzer のヘルプ』

［ジョブログ保持期間］タブ

［データベースにジョブログを保持する期間］

ジョブログを、ApeosWare Management Suite のデータベースに保持する日数を入力します。ここで設定した保持期間が過ぎると、ジョブログデータは ApeosWare Management Suite のデータベースから削除されます。

補足

・ジョブログの収集タイプが［Printer MIB（SNMP）］の機器のログは、ジョブログファイルに保存されたあと、データベースから削除されます。そのため、ここで設定する保持期間は適用されません。
・スケジュールによる自動レポート設定の対象で、まだレポートが作成されていないジョブログは、削除されません。
・テキストファイルとして保存されるジョブログファイルには、保持期間はありません。手動で削除しない限り、ファイルはそのまま存在します。

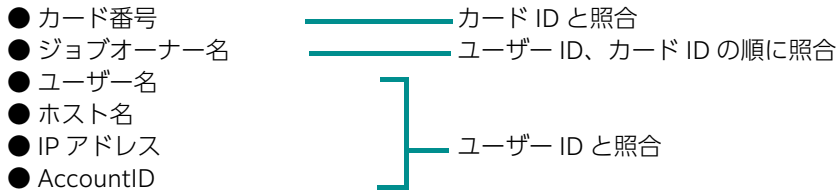
[集計設定] タブ

[ジョブの所有者の特定方法]

ジョブの所有者を特定するために使用するジョブログの項目を、[設定する項目と優先順位] に追加します。必要に応じて項目の順番を並べ替えて、優先順位を指定します。

ApeosWare Management Suite は、データベースに登録されたユーザー ID またはカード ID（PAN）と、ジョブログの項目のうち [設定する項目と優先順位] に指定した項目を上から順に照合して、ジョブの所有者を決定します。

ジョブログの項目は、それぞれ次のように照合されます。



ジョブログのジョブオーナー名またはユーザー名が代替ユーザー ID と合致（複数設定されている場合は、そのどれかと合致）した場合は、代替ユーザー ID の代表となるユーザー ID が、ジョブの所有者になります。

補足

「AccountID」は、機器で設定する集計用の ID です。コスト管理で使用する「アカウント」とは関係ありません。

参照

『導入・運用ガイド』の「代替ユーザー ID」

[特定できない場合のユーザー名]

ジョブの所有者を特定できなかったときに、所有者として使用する文字列を入力します。

[A4 用紙の CO2 負荷]

各ジョブの CO2 負荷を集約するときの、CO2 負荷の係数を設定します。

[集計結果の再構築]

日次集計データを再構築するかどうかを選択します。

[次回集計時に再構築する] を選択すると、次回の集約処理時（深夜 0 時、またはスケジューラー起動時）に日次集計データを再構築します。

補足

- 日次集計データの再構築には時間がかかることがあります。ユーザー情報の変更に伴い、現在の日次集計データの再構築が必要な場合だけ、[次回集計時に再構築する] を設定してください。
- 再構築処理によってデータが失われることがあります。たとえば、ジョブログの保持期間を「30 日」に設定している場合は、再構築をすると、30 日より前のデータは失われます。

一時保存フォルダー設定

表示方法

管理者画面のメニューの [システム設定] > [一時保存フォルダー設定] の順に選択します。



ページの概要

スキャン機能やモバイル機能を使用するときに、機器と ApeosWare Management Suite 間でやり取りをするデータを一時的に保存しておくための作業用フォルダーを設定します。

一時保存フォルダーには、ApeosWare Management Suite サーバー上のローカルフォルダー、またはリモート PC 上の共有フォルダーを指定できます。

一時保存フォルダーには、次の設定が必要です。

一時保存フォルダーの場所	必要な設定
ローカルフォルダー	一時保存フォルダーにするフォルダーを共有設定し、Network Service アカウントのフルコントロール権を設定します。
リモート PC の共有フォルダー	共有フォルダーに、ApeosWare Management Suite サーバーの PC アカウントのフルコントロール権を設定します。

補足

- リモート PC の共有フォルダーを指定する場合はドメイン環境に限ります。
- 一時保存フォルダーに指定したドライブに、十分な空き容量があることを確認してください。
- 一時保存フォルダーは、機器と ApeosWare Management Suite 間でデータの受け渡しをするときに使用します。このため、機器からもアクセスできる共有フォルダーであることが必要です。

[一時保存フォルダー（ネットワークパス）]

一時保存フォルダーのパスを、「￥￥」で始まる UNC 形式で指定します。

ローカルフォルダーの場合もネットワークフォルダーとして、ApeosWare Management Suite サーバーのサーバー名または IP アドレスを指定します。

例：￥￥servername￥sub￥￥192.0.2.1￥sub

[ユーザー名] / [パスワード]

一時保存フォルダーに接続するための、ユーザー名とパスワードを入力します。

リモート PC の共有フォルダーを指定する場合はリモート PC にアクセスできるユーザー名とパスワード、ローカルフォルダーを指定する場合は ApeosWare Management Suite サーバーにアクセスできるユーザー名とパスワードを指定します。

[ユーザー種類]

一時保存フォルダーにリモート PC の共有フォルダーを指定する場合は［ドメインユーザー］、ローカルフォルダーを指定する場合は［ローカルユーザー］を選択します。

［ドメインユーザー］を選択した場合は、［ドメイン名］にドメイン名を入力します。

管理者パスワードの変更

表示方法

管理者画面のメニューの［システム設定］＞［管理者パスワードの変更］の順に選択します。



ページの概要

Apeos_Admin ユーザーのパスワードを変更します。Apeos_Admin ユーザーとは、ApeosWare Management Suite をインストールしたときに作成されるビルトインのユーザーです。

作成されます。

補足

セキュリティー保護のため、運用を開始する前に必ず、Apeos_Admin ユーザーのパスワードを変更してください。また、定期的にパスワードを変更することをお勧めします。

参照

「Apeos_Admin ユーザー」（P.18）

[現在のパスワード]

現在のパスワードを入力します。大文字と小文字は区別されます。

[新しいパスワード]

変更後のパスワードを入力します。確認のため、同じパスワードを 2 度入力します。大文字と小文字は区別されます。

補足

パスワードの最低文字数や使用できる文字種は、［サービス設定］＞［ユーザー管理］＞［認証機能の設定］の設定に従います。

サービスの表示順序設定

ページの概要

複合機やプリンタなどのネットワーク上の機器に表示するサービスの順序を設定します。設定画面では、ApeosWare Management Suite で利用可能なサービスの一覧を表示します。表示されているサービスの順序は、機器の ApeosWare Management Suite のポータル画面に表示される順序と同じです。

サービスの表示順序を変更した場合、変更後の順序でサービスの一覧を表示します。サービスの表示順序の変更後に、追加で新たなサービスのライセンスを有効にしたときは、追加したサービスを一覧の末尾に表示します。

これらの変更結果は、機器の ApeosWare Management Suite のポータル画面へログインすると反映されます。

補足

ライセンスが必要なサービスについては、ライセンスが有効なサービスだけを表示します。

参照

『セットアップガイド』の「ライセンス認証」

表示方法

次の手順で［サービスの表示順序設定］の設定を変更します。

1. 管理者画面のメニューを［システム設定］＞［サービスの表示順序設定］の順に選択します。
2. 次の操作で、表示順序を変更します。
   (1) 変更したい［サービス］のアイコンの左側にチェックマークを付けます。
   (2) 上部のボタン（［上に移動］、［下に移動］、［先頭に移動］、または［最後に移動］）をクリックして、表示させたい位置に移動します。



補足

複数のサービスの順序をまとめて移動できますが、複数選択した上下の順序は、変更前の順序が維持されます。
［コピー］と［共有フォルダー］にチェックマークを付けた場合

変更前の順序		実施後の順序	
		［上に移動］の場合	［下に移動］の場合
☑	コピー	コピー	メール送信
	メール送信	共有フォルダー	SharePoint
☑	共有フォルダー	メール送信	コピー
	SharePoint	SharePoint	共有フォルダー
	DocuShare	DocuShare	DocuShare

操作パネルのカスタマイズ設定

表示方法

管理者画面のメニューを［システム設定］＞［操作パネルのカスタマイズ設定］の順に選択します。



ページの概要

富士フイルムビジネスイノベーション社製の機器でカスタム認証を利用しているときに、本設定に従って操作パネルの表示がカスタマイズされます。

補足

ログイン画面のカスタマイズは、オンラインの場合だけ適用されます。

参照

「機器の操作パネルからの操作」（P.109）

［接続用 QR コードの表示］

機器のログイン画面に、QR コードを表示するかどうかを選択します。

［ロゴの表示］

機器のログイン画面に、アップロードしたロゴを表示できます。

［参照］をクリックして、ロゴのファイルを選択します。198×59 ピクセルの、gif、jpg、jpeg、png、bmp ファイルを選択できます。

[ユーザー定義ラベル・設定値]

機器のログイン画面に、2 行、ユーザー定義ラベルは 15 文字まで、設定値は 256 文字までの任意の文字を設定できます。操作パネルに表示される設定値は、全角 9 文字、半角 29 文字まです。設定されている文字数が、表示できる文字数を超えているときは、[i] ボタンが表示され、押下すると全文字が表示されます。

セキュリティー設定

表示方法

管理者画面のメニューを［システム設定］＞［セキュリティー設定］の順に選択します。



ページの概要

プリントサーバー上の保留中や待機中のジョブのプリントデータを、暗号化して保持します。サーバーからのデータ流出を完全に防止するものではありません。

プルダウンメニューから、暗号化方式を選択します。

［暗号化しない］、［AES256］、［SEED］または［ARIA］のどれかが選択できます。

消耗品の使用状況の保存設定

表示方法

管理者画面のメニューを［システム設定］＞［消耗品の使用状況の保存設定］の順に選択します。



ページの概要

消耗品の使用状況を保存するための条件を設定します。毎日、設定された時刻に消耗品の使用状況を保存し、レポートで確認できます。

[情報を保持する期間]

情報を保存する期間を、1 ～ 730 日の範囲の 1 日単位で設定します。

[消耗品の使用状況を保存する時刻]

情報を保存する時刻を、0:00 ～ 23:59 の範囲で設定します。

外部端末設定

補足

この機能は一部の国または地域では利用できません。
詳細は弊社の代理店にお問い合わせください。

表示方法

管理者画面のメニューを［システム設定］＞［外部端末設定］の順に選択します。



ページの概要

使用可能な外部端末と通信するためのポート番号を設定します。
表示された外部端末のポート番号を、0 ～ 655535 の範囲で設定します。

参照
・「機器の情報を確認および変更する」(P.95)

ユーザーポータル設定

表示方法

管理者画面のメニューを［システム設定］＞［ユーザーポータル設定］の順に選択します。



ページの概要

ユーザーポータルの Dashboard に表示するレポートを設定します。
以下の項目の表示、非表示を設定できます。

- 6 か月間の使用量の割合

- 6 か月間の使用量の推移
- 今月の白黒／カラーの出力状況
- 保留中のプリントジョブ一覧
- ジョブログ一覧
- プリントジョブ一覧

システム設定

表示方法

管理者画面のメニューを［サービス設定］＞［サーバー監視の設定］＞［監視設定］＞［システム設定］の順に選択します。



ページの概要

サーバーの CPU とメモリーの稼働状態を、監視する条件を設定します。

［システムの監視］

システムの監視をするかどうかを指定します。監視する場合は［する］を選択します。

［CPU/ メモリー使用率の確認間隔］

確認を行う間隔を、1 ～ 5 分の範囲の 1 分単位で設定します。

確認結果は［システム状態］と［サービス状態］に表示されます。

参照
・「システム状態」(P.58)

［CPU 使用率の閾値］

CPU の使用率を異常と判定する閾値を、50 ～ 100% の範囲の 1% 単位で設定します。

［CPU 警告判定回数］

［CPU 使用率の閾値］を何回連続で超えたら異常と判定するかを、1 ～ 10 回の範囲の 1 回単位で設定します。

異常と判定されると、［通知設定］で設定したメールアドレスへ異常検知のメールが送信されます。その後に閾値を下回って正常状態に復旧すると、復旧検知のメールが送信されます。

参照
「通知設定」（P.58）

[メモリー使用率の閾値]

メモリーの使用率を異常と判定する閾値を、60 ～ 100% の範囲の 1% 単位で設定します。

[メモリー警告判定回数]

[メモリー使用率の閾値] を何回連続で超えたら異常と判定するかを、1 ～ 10 回の範囲の 1 回単位で設定します。

異常と判定されると、[通知設定] で設定したメールアドレスへ異常検知のメールが送信されます。その後に閾値を下回って正常状態に復旧すると、復旧検知のメールが送信されます。

参照
「通知設定」（P.58）

[監視履歴保存期間]

監視履歴を記録した CSV ファイルの保存期間を、5 ～ 100 回の範囲の 1 日単位で設定します。

CSV ファイルの保存場所：

- {データ格納先フォルダー} ¥Data¥Mon¥ResourceMonitoringResult
  {データ格納先フォルダー} は、初期設定では「C:¥FUJIFILM¥ApeosWare MS」になります。

ファイル名：

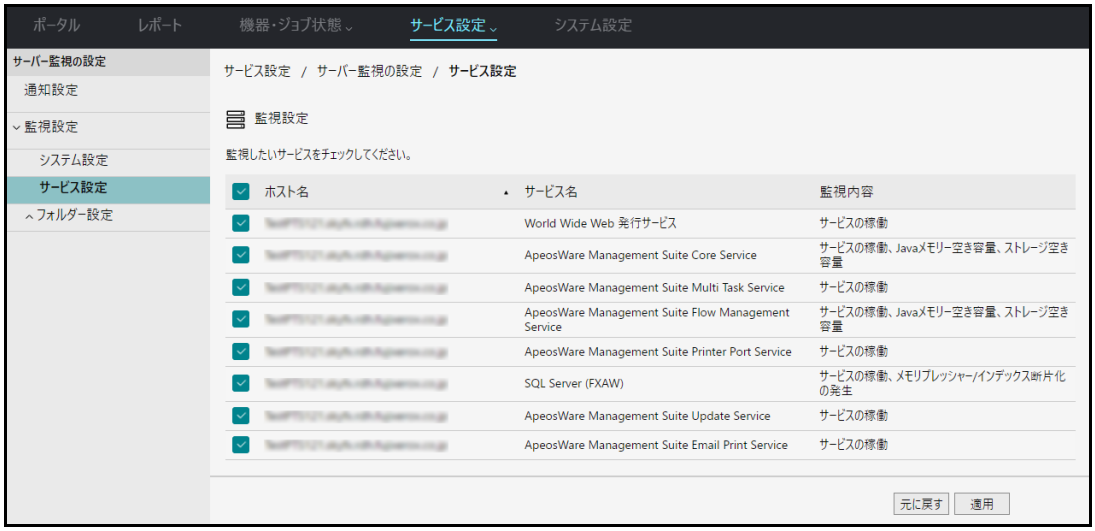
- minute-yyyyMMdd.csv
  監視を開始してから分単位で出力します。
  出力形式：時間（HH:mm）, CPU 使用率（%）, メモリー使用量（GB）/ メモリー総量（GB）
- hour-yyyyMMdd.csv
  1 時、2 時、3 時・・・0 時（24 時）の各 0 分 0 秒から、最初に分単位の監視出力を実施したタイミングで出力します。
  出力形式：時間（HH）, CPU 使用率（%）, メモリー使用量（GB）/ メモリー総量（GB）
- date-summary.csv
  毎日 0 時 0 分 0 秒から、最初に時間単位の監視出力を実施したタイミングで出力します。
  出力形式：日付（yyyy/MM/dd）, CPU 使用率（%）, メモリー使用量（GB）/ メモリー総量（GB）

  年が変わって最初に監視結果を CSV ファイルに出力するときに、CSV ファイルをリネームし、新しい CSV ファイルを生成します。
  リネーム後のファイル名は date-summary_yyyy.csv です。
  監視履歴は 20 年分が保存され、20 年以上経過した CSV ファイルは、監視履歴を追記するタイミングで削除されます。

サービス設定

表示方法

管理者画面のメニューを［サービス設定］＞［サーバー監視の設定］＞［監視設定］＞［サービス設定］の順に選択します。



ページの概要

監視するサーバーとサービスの先頭にチェックマークを付けます。
各サービスで監視する内容は、次のとおりです。

参照
『導入・運用ガイド』の「監視の内容」

サービス名	監視内容
SQL Server (FXAW) *1	・SQL Server 接続 ・SQL Server メモリープレッシャー ・SQL Server インデックス断片化 *2
World Wide Web 発行サービス	サービス監視
ApeosWare Management Suite Multi Task Service	プロセス監視
ApeosWare Management Suite Core Service	・サービス監視 ・JavaVM メモリー ・ストレージ空き容量
ApeosWare Management Suite Update Service	プロセス監視
ApeosWare Management Suite Printer Port Service	プロセス監視
ApeosWare Management Suite Flow Management Service	・サービス監視 ・スプーラー監視 ・JavaVM メモリー
ApeosWare Management Suite Email Print Service	プロセス監視
ApeosWare Management Suite Image Log Management Core Service	・プロセス監視 ・サービス監視 ・JavaVM メモリー ・ストレージ空き容量 *3
ApeosWare Management Suite Image Log Management Receive Service	・プロセス監視 ・サービス監視 ・JavaVM メモリー ・ストレージ空き容量
ApeosWare Management Suite Image Log Management Receive Service	・プロセス監視 ・サービス監視 ・JavaVM メモリー ・ストレージ空き容量

サービス名	監視内容
ApeosWare Management Suite Image Log Management Search Service	・プロセス監視 ・サービス監視 ・JavaVM メモリー
ApeosWare Management Suite Proxy Service	・プロセス監視 ・HTTP 監視（メインサーバーのみ , MFDEX アプリケーションに対して追加） ・CPU/ メモリー使用率監視
ApeosWare Management Suite mDNS Service*4	・プロセス監視

*1 分散構成でデータベースサーバーをメインサーバーと分離している場合は、監視しません。

*2 インデックスが断片化したときに再構築するためのコマンドがあります。詳しくは「SQL Server のインデックスを再構築する」（P.71）を参照してください。

*3 受信サーバーの場合は、ストレージ空き容量を監視しません。

*4 ポート番号（5353/udp）が競合するサービスが存在する場合、ApeosWare Management Suite mDNS Service の起動に失敗することがあります。その場合は、競合するサービスを停止してから再度起動してください。ApeosWare Management Suite mDNS Service は、「iOS 端末からプリント」を使用する場合に、ApeosWare Management Suite の論理プリンターの探索に使用されます。

フォルダー設定

表示方法

管理者画面のメニューを［サービス設定］＞［サーバー監視の設定］＞［監視設定］＞［フォルダー設定］＞ {IP アドレス} の順に選択します。



ページの概要

サーバーごとに、フォルダーを監視する条件を設定します。

［フォルダーの監視］

フォルダーの監視をするかどうかを指定します。監視する場合は［する］を選択します。

［監視間隔］

通知を行う間隔を、1 ～ 24 時間の範囲の 1 時間単位で設定します。

[監視条件]

ドライブごとに監視条件とするフォルダーの空き容量を%または GB で設定します。

通知設定

表示方法

管理者画面のメニューを［サービス設定］＞［サーバー監視の設定］＞［通知設定］の順に選択します。



ページの概要

［監視設定］ページで設定した監視対象のサーバーに、異常が発生したり、CPU やメモリーの稼働率が閾値を超えたりしたとき、およびこれらからの復旧を検知したときに、メールで通知するための設定をします。

[メール通知]

監視するサーバーの状態をメールで通知する場合は［する］を選択し、通知先のメールアドレスを指定します。＋をクリックすると、複数設定できます。

補足

メール通知が不要な場合は設定する必要はありませんが、通知の設定をしなくても、監視とイベントログへの記録は実行されます。

参照

メールを送信するための設定→「ネットワーク設定」(P.39)

システム状態

表示方法

管理者画面のメニューを［機器・ジョブ状態］＞［サーバー状態］＞［システム状態］の順に選択します。



ページの概要

ApeosWare Management Suite のメインサーバーおよび分離サーバーの、CPU 使用率、メモリー使用量、メモリー総量、メモリー使用率を表示します。

[ホスト名]
サーバーの名称を表示します。

[CPU 使用率]
各サーバーの CPU の使用率を表示します。

[メモリー使用量]
各サーバーのメモリーの使用量を表示します。

[メモリー総量]
各サーバーに実装されているメモリーの総量を表示します。

[メモリー使用率]
各サーバーのメモリーの使用率を表示します。

サービス状態

表示方法
管理者画面のメニューを［機器・ジョブ状態］＞［サーバー状態］＞［サービス状態］の順に選択します。

ページの概要
監視しているサービスの稼働状態、サービス状態などを表示します。



[稼働状態]
次の内容が表示されます。

稼働状態	説明
（正常）	異常を何も検知しなかった
（エラー）	死活監視で異常を検知した
（注意）	死活監視では異常を検知しなかったが、リソース監視で異常を検知した
不明	稼働状態を取得できなかった

補足

ストレージ空き容量の監視で異常（空き容量が一定量を下回った）を検知した場合は、この画面には表示されません。

参照

死活監視とリソース監視について → 『導入・運用ガイド』の「監視の内容」

[サービス状態]

監視対象サービスの起動状態に合わせて、「実行中」、「停止」、「開始中」、「再開中」、「停止中」、「一時停止」、「一時停止中」のいずれかを表示します。表示は 60 秒ごとに自動更新されます。サービス状態の取得に失敗した場合は「-」が表示されます。

[PID]

監視対象サービスのプロセス ID を表示します。サービスが停止中の場合など、プロセス ID の取得に失敗した場合は「-」が表示されます。

[CPU]

監視対象サービスの CPU 占有率を表示します。サービスが停止中の場合など、CPU 占有率の取得に失敗した場合は「-」が表示されます。

[メモリー]

監視対象サービスのメモリー使用量を表示します。メモリー使用量の取得に失敗した場合は「-」が表示されます。

[操作]

サービス状態が「実行中」または「停止」の場合に、一覧で、操作するサービスの をクリックします。サービスが実行中の場合は［停止］または［再起動］、サービスが停止の場合は［開始］を選択します。

サービス操作の確認ダイアログボックスが表示されます。

［はい］をクリックすると、さらに管理者のユーザー情報入力ダイアログボックスが表示されます。ユーザー名とパスワードを入力します。ドメインを指定しない場合は「.」を入力します。

補足

- ApeosWare Management Suite Core Service を停止した場合、画面が表示できなりまります。この場合は、ApeosWare Management Suite サーバーをインストールしている PC へアクセスし、サービス管理ツールから ApeosWare Management Suite Core Service を開始してください。
- ApeosWare Management Suite Core Service、SQL Server（FXAW）、および World Wide Web 発行サービスに は表示されません。
- ［サービス名］のリンクをクリックすると、サービス情報の詳細ウィンドウが表示され、監視内容と稼働状態が確認できます。ApeosWare Management Suite Core Service の場合、このサービス情報の詳細ウィンドウからサービスの［停止］または［再起動］が選択できます。

操作は、下記の対象サービスの場合だけ表示されます。

サービス名	メインサーバー	プリントアプリケーション分離サーバー	プリント入出力分離サーバー	イメージログコアサーバー	イメージログ受信サーバー	イメージログサーバー
ApeosWare Management Suite Core Service	○	○	○			
ApeosWare Management Suite Multi Task Service	○	○				
ApeosWare Management Suite Printer Port Service	○	○	○			
ApeosWare Management Suite Email Print Service	○	○				

サービス名	メインサーバー	プリントアプリケーション分離サーバー	プリント入出力分離サーバー	イメージログコアサーバー	イメージログ受信サーバー	イメージログサーバー
ApeosWare Management Suite Flow Management Service	○					
ApeosWare Management Suite Update Service	○	○	○			
ApeosWare Management Suite Image Log Management Core Service	○			○	○	○
ApeosWare Management Suite Image Log Management Receive Service	○				○	○
ApeosWare Management Suite Image Log Management Search Service	○			○		○

フォルダー状態

表示方法

管理者画面のメニューを［機器・ジョブ状態］＞［サーバー状態］＞［フォルダー状態］の順に選択します。

ページの概要

「{データ格納先フォルダー} ￥Data」フォルダーの利用状況を表示します。このフォルダーを「Data Folder」と呼びます。



［フォルダー状態］ページには、「Data Folder」の次の内容が表示されます。

- フォルダーの最大容量 (GB)
- フォルダーの空き容量 (GB)
- フォルダーの利用量 (GB)
- フォルダーの利用率 (%)

補足

・データ格納先フォルダーは、インストール時に指定します。初期設定を変更していない場合は「C:￥FUJIFILM￥ApeosWare MS」です。

・初期設定では、ジョブログファイルの保存先フォルダー、および一時保存フォルダーも、「Data Folder」以下に設定されます。ジョブログファイルの保存先フォルダーと一時保存フォルダーは、管理者画面の［システム設定］で変更できます。これらの保存先を初期設定から変更した場合は、監視対象にはなりません。

先進認証を使用する場合の事前設定

［システム設定］＞［共通設定］＞［ネットワーク設定］で［先進認証］を［使用する］に設定し、OAuth プロバイダーに「Exchange Online」または「Gmail」を指定することで、先進認証を使用できます。ただし、それぞれを使う場合は事前に設定が必要です。

「Gmail」を使用する場合

ApeosWare Management Suite 2 サーバーから、インターネット上の Google ドライブに接続できることを確認します。

1. Google Cloud Platform (https://console.cloud.google.com/) へアクセスします。
2. プロジェクトを選択するか、新しいプロジェクトを作成します。
3. ［API とサービス］の［ライブラリ］をクリックし、［Google API］を有効にします。
4. ［API とサービス］の［OAuth 同意画面］をクリックします。
5. ［User Type］は［内部］を選択し、［作成］をクリックします。
6. ［アプリ名］、［ユーザーサポートメール］、［デベロッパーの連絡先情報］を設定します。
   ［アプリ名］は「FUJIFILM ApeosWare Management Suite」を推奨します。
   個人の Gmail アカウントでアプリケーション（クライアント）ID とクライアントシークレットを作成する場合は、テストユーザーに使用する Gmail アカウントを追加してください。
7. ［保存して次へ］をクリックします。
8. ［スコープを追加または削除］をクリックし、API：https://mail.google.com/ を選択して［更新］をクリックします。
9. ［保存して次へ］をクリックし、内容を確認します。
10. ［API とサービス］の［認証情報］をクリックします。
11. ［認証情報の作成］をクリックし、［OAuth クライアント ID］を選択します。
12. ［アプリケーションの種類］は［ウェブアプリケーション］を選択します。
13. ［名前］、［承認済みのリダイレクト URI］を設定し、［作成］をクリックします。
    ［承認済みのリダイレクト URI］は、利用する機能によって、次のどちらかまたは両方を設定してください。

■ メール送信を利用する場合

https://{FQDN}:{ApeosWare Management Suite の Https Port}/Admin/GlobalSetting/NetworkSetting/AuthorizationComplete

■ メールプリントを利用する場合

https://{FQDN}:{ApeosWare Management Suite の Https Port}/Admin/Print/Admin/GmailAuthorize

「{FQDN}」には、ApeosWare Management Suite 2 のメインサーバーのホスト名を設定してください。
IP アドレスは設定できません。設定するホスト名は、クライアント PC および複合機からアクセスできる形式にする必要があります。

14. クライアント ID とクライアントシークレットを記録します。
15. ApeosWare Management Suite 2 の管理者画面の［システム設定］＞［共通設定］＞［ネットワーク設定］にアクセスします。
16. ［アプリケーション（クライアント）ID］と［アプリケーションシークレット］には、Google Cloud Platform にアプリケーションを登録したときに取得したアプリケーション ID とクライアントシークレットを入力します。

「Exchange Online」を使用する場合

1. ApeosWare Management Suite をアプリとして登録します。
   (1) Microsoft Azure に Microsoft Entra 管理権限を持つユーザーでサインインします。
   (2) ［Microsoft Entra ID］＞［アプリの登録］から ApeosWare Management Suite を登録します。
   また、[サポートされているアカウントの種類] にマルチテナントのアカウントを選択します。
2. アプリの［証明書とシークレット］からクライアントシークレットを作成します。
   作成方法は、Microsoft Entra ID のマニュアルに従ってください。
3. 登録したアプリの［認証］＞［Web］のリダイレクト URI に次を追加します。
   利用する機能によって、次のどちらかまたは両方を設定してください。

■ メール送信を利用する場合

https://{FQDN}:{ApeosWare Management Suite の Https Port}/Admin/GlobalSetting/NetworkSetting/AuthorizationComplete

■ メールプリントを利用する場合

https://{FQDN}/Admin/Print/Admin/ExchangeAuthorize

「{FQDN}」には、ApeosWare Management Suite 2 のメインサーバーのホスト名を設定してください。

4. API のアクセス許可として次を設定してください。

■ メール送信を使用する場合

SMTP.Send

offline_access

■ メールプリントを使用する場合

IMAP.AccessAsUser.All

POP.AccessAsUser.All

注意事項

- ApeosWare Management Suite 2 のメインサーバーのホスト名を変更した場合は、リダイレクト URI のホスト名を、変更後のメインサーバーのホスト名に更新してください。
- ApeosWare Management Suite 2 のインストール時に、SSL 構成にしてください、すでにインストール済みの場合は、SSL 構成になるように設定を変更してください、
- ApeosWare Management Suite 2 のインストール時に、ホスト名を FQDN に設定してください、すでにインストール済みの場合は、FQDN になるように設定を変更してください。

Microsoft Entra ID によるログインを使用する場合の事前設定

Microsoft Entra ID を使った認証を行うには、事前にセキュリティなどの設定を行う必要があります。
この設定を行う前に、次の 2 点を確認してください。

- 「Microsoft Entra ID P1 相当かそれ以上のライセンス」が付与された Microsoft Entra ユーザーを少なくとも 1 つ用意してください。以降の手順では、この Microsoft Entra ユーザーで、Azure の設定を実施してください。
- Microsoft Entra Domain Services を利用するには、別途、Microsoft 社との契約が必要です。詳細は Microsoft 社のサイトを確認してください。

Microsoft Entra ID のセキュリティの既定値群を設定する

1. Microsoft Azure Portal（https://portal.azure.com/）にアクセスします。
2. セキュリティ管理者、条件付きアクセス管理者、またはグローバル管理者としてサインインします。
3. ポータルメニューで［Microsoft Entra ID］をクリックします。
4. ［プロパティ］をクリックします。
5. ［セキュリティの既定値群の管理］をクリックします。
6. ［セキュリティの規定値群］で［無効 (推奨しません)］を選択します。
7. ［保存］をクリックします。

エンタープライズ アプリケーションを設定する

1. Microsoft Azure Portal（https://portal.azure.com/）にアクセスします。
2. セキュリティ管理者、条件付きアクセス管理者、またはグローバル管理者としてサインインします。
3. ポータルメニューで［Microsoft Entra ID］をクリックします。
4. 左側のメニューバーで［エンタープライズ アプリケーション］をクリックします。
5. ［新しいアプリケーション］をクリックします。
6. ［独自のアプリケーションの作成］をクリックします。
7. ［お使いのアプリの名前はなんですか ?］にアプリ名を入力します。
8. ［アプリケーションでどのような操作を行いたいですか ?］で［ギャラリーに見つからないその他のアプリケーションを統合します（ギャラリー以外）］を選択して、［作成］をクリックします。
   アプリケーションが追加されます。

   
   補足

   作成したアプリケーションの概要に表示されるアプリケーション ID はドメイン作成で使用します。メモなどに記録しておいてください。

   Active Directory のインポートを使って新しく追加された Microsoft Entra ID のユーザーが、ApeosWare Management Suite と Microsoft Azure の連携機能を使用する場合は、続けてエンタープライズアプリケーションに関連付ける必要があります。
9. ［1. ユーザーとグループの割り当て］の［ユーザーとグループの割り当て］をクリックします。
10. ［ユーザーとグループの追加］をクリックします。
11. 登録するユーザーを選択して、［選択］をクリックします。

選択したユーザーを解除したい場合は、解除したいユーザーの［削除］をクリックします。

12. ［2. シングル サインオンの設定］の［作業開始］をクリックします。
13. ［SAML］をクリックします。
14. ［①基本的な SAML 構成］の［編集］をクリックします。
15. ［識別子（エンティティ ID）］および［応答 URL］を入力して、［保存］をクリックします。
［識別子（エンティティ ID）］：任意で設定できます。
［応答 URL］：https://{IP}/Login/MicrosoftEntraID/AzureResponse

補足

・設定した［識別子（エンティティ ID）］と［④ {アプリ名} のセットアップ］の［ログイン URL］はドメインを作成するときに使用します。メモしてください。
・［応答 URL］の「{IP}」は、ApeosWare Management Suite のホスト名を FQDN に設定しているかどうかで入力する値が異なります。
ホスト名を FQDN に設定している場合：FQDN に設定したホスト名を入力します。IP アドレスは入力しないでください。認証できなくなります。
ホスト名を FQDN に設定していない場合：お使いの「ApeosWare Management Suite サーバーの IP アドレス」を入力します。
・［③ SAML 署名証明］の［証明書（Base64）］はドメインを作成するときに使用します。ダウンロードしてください。

作成したエンタープライズアプリケーションに API のアクセス許可を追加する

1. Microsoft Azure Portal（https://portal.azure.com/）にアクセスします。
2. セキュリティ管理者、条件付きアクセス管理者、またはグローバル管理者としてサインインします。
3. ポータルメニューで［Microsoft Entra ID］をクリックします。
4. 左側のメニューバーで［アプリの登録］をクリックします。
5. ［すべてのアプリケーション］をクリックし、登録したアプリを選択します。
6. 左側の［管理］の［認証］をクリックします。
7. ［パブリック クライアント フローを許可する］＞［次のモバイルとデスクトップのフローを有効にする］の［はい］をクリックして、［保存］をクリックします。
8. 左側の［管理］の［API のアクセス許可］をクリックします。
9. ［アクセス許可の追加］＞［Microsoft Graph］＞［委任されたアクセス許可］の順にクリックします。
10. ［User］＞［User Read］にチェックマークを付け、［アクセス許可の追加］をクリックします。
アクセス許可が追加されます。この時点では、追加したアクセス許可はまだ有効ではありません。
11. ［アクセス許可の追加］の隣にある［{テナント名} に管理者の同意を与えます］をクリックします。
12. ［はい］をクリックします。
追加したアクセス許可が有効になります。

Microsoft Entra Domain Services を作成する

1. Microsoft Azure Portal（https://portal.azure.com/）にアクセスします。
2. セキュリティ管理者、条件付きアクセス管理者、またはグローバル管理者としてサインインします。
3. ポータルメニューで［すべてのリソース］をクリックします。
4. ［作成］をクリックします。
5. 検索ボックスに「domain」と入力し、表示された結果から［Microsoft Entra Domain Services］を選択します。

   補足

   ［Microsoft Entra Domain Services］が表示されていない場合は、［Azure AD Domain Services］を選択してください。
6. ［Create］をクリックします。
7. ［リソースグループ］、［DNS ドメイン名］、［地域］、および［SKU］を設定します。
   ［リソース グループ］：任意で設定できます。
   ［DNS ドメイン名］：ドメイン名が 15 文字以下になるように設定します。
   ［SKU］：任意の SKU を選択します。
8. ［確認および作成］をクリックします。

   補足

   そのほかの設定については、デフォルトの設定から変更する必要はありません。
9. 設定を確認して、［作成］＞［OK］の順にクリックします。
   デプロイが開始されます。作成には最大で 1 時間かかることがあります。
   Microsoft Entra Domain Services のデプロイの進行状況を示す通知がポータルに表示されます。［通知］をクリックすると、デプロイの詳細な進行状況が表示されます。
10. デプロイが完了したら、［リソースに移動］をクリックします。
    Microsoft Entra Domain Services が表示されます。

    補足

    Microsoft Entra Domain Services の表示には時間がかかります。
    マネージドドメインが完全にプロビジョニングされると、［概要］タブにドメインの状態が［実行中］であることが表示されます。
11. 左側のメニューバーで［構成の診断］をクリックします。
12. ［実行］をクリックして、作成したマネージドドメインサービスの構成診断を実行します。

    補足

    診断で問題が発生した場合は、［修正］をクリックして問題があった設定を修正します。

Secure LDAP 用の証明書をインストールする

次の URL を参照して、Microsoft Entra Domain Services を Secure LDAP 構成に設定してください。
https://learn.microsoft.com/entra/identity/domain-services/tutorial-configure-ldaps

補足

Secure LDAP 構成のために利用した証明書が次のどれかに該当する場合、ApeosWare Managment Suite サーバーに CA 証明書をインストールしてください。

・証明書が ApeosWare Managment Suite サーバーのルート証明書で安全が確認できない場合
サーバーに証明書に対応するルート CA 証明書をインストールします。

・証明書がルート証明書からの認証に中間証明書が必要な場合
サーバー に中間証明機関の CA 証明書をストアします。

・サーバー証明書がルート証明書から認証されないタイプの場合
サーバーにルート証明機関の CA 証明書をストアします。

認証に必要な証明書（Base64）をインストールする

1. 「エンタープライズ アプリケーションを設定する」（P.64）でダウンロードした証明書（Base64）を ApeosWare Management Suite サーバーにコピーします。
2. コピーした証明書をダブルクリックして、［証明書のインストール］をクリックします。
3. ［ローカルコンピューター (L)］を選択して、［次へ］をクリックします。
4. 次のように設定します。
［証明書をすべて次のストアに配置する］を選択します。
証明書ストアに「信頼されたルート証明機関」を入力します。

補足

インポートが完了したら、ApeosWare Management Suite サーバーを再起動してください。再起動を行わなかった場合、ドメインの作成時などにエラーが発生します。

Microsoft Entra Domain Services を設定する

ネットワークセキュリティグループ(aadds-nsg)の受信セキュリティ規則を設定する

1. Microsoft Azure Portal（https://portal.azure.com/）にアクセスします。
2. セキュリティ管理者、条件付きアクセス管理者、またはグローバル管理者としてサインインします。
3. 左側のメニューバーで［すべてのリソース］をクリックします。
4. ［aadds-nsg］をクリックします。
5. ［受信セキュリティ規則］＞［+ 追加］の順にクリックします。
6. 次のように設定して、［追加］をクリックします。
   ソース：IP Addresses
   ソース IP アドレス /CIDR 範囲：任意に設定できます。
   ソースポート範囲：*
   宛先：Any
   サービス：Custom
   宛先ポート範囲：636
   プロトコル：TCP
   アクション：許可
   優先度：401
   名前：AllowLDAPS

外部アクセス用に DNS ゾーンを設定する

1. Microsoft Azure Portal のホーム画面で、［すべてのリソース］をクリックします。
2. 「Microsoft Entra Domain Services を作成する」（P.66）で作成した DNS ドメインをクリックします。
3. 「Secure LDAP 外部 IP アドレス」に記載されたアドレスをメモします。
   ApeosWare Management Suite のメインサーバーにログインします。
4. 「C:￥Windows￥System32￥drivers￥etc」にある hosts ファイルを開きます。
5. ファイルの最下行に次の一文を追加して保存します。
   {IP}　{ドメイン名}

   補足
   - {IP} には手順 3. の「Secure LDAP 外部 IP アドレス」に記載されているものを入力します。
   - {ドメイン名} には「Microsoft Entra Domain Services を作成する」（P.66）で作成した DNS ドメイン名を入力します。

Microsoft Entra Domain Services の設定が正しくできているかを確認する

1. ApeosWare Management Suite のメインサーバーでコマンドプロンプトを管理者の権限で実行します。
2. 次のコマンドを実行します。
   dism /Online /Enable-Feature /FeatureName:TelnetClient
   telnet {IP またはドメイン名} 636

補足

{IP またはドメイン名} には手順 9 の「Secure LDAP 外部 IP アドレス」に記載されているもの、または「Microsoft Entra Domain Services を作成する」（P.66）で作成した DNS ドメインのものを入力します。

3. 「ctrl +]」と入力し、次に「quit」と入力して、<Enter> を押します。
telnet を終了します。

QR コードによるログインを使用する場合の事前設定

［サービス設定］＞［ユーザー管理］＞［認証機能の設定］＞［QR コードによるログインの設定］＞［モバイルアプリ設定］で表示できます。

各サービス（ApeosWare MS Mobile 2 / AliPay / WeChat）の設定画面から機能を有効にできます。

ただし、AliPay と WeChat の場合は各サービスにアクセスして事前に設定が必要です。

［AliPay］を使用する場合

1. AliPay 企業用アカウントがない場合、AliPay アカウントの申請ページ（https://memberprod.alipay.com/account/reg/index.htm）にアクセスして企業用アカウントを申請、取得します。
2. AliPay オープンプラットフォームの登録ページ（https://open.alipay.com/platform/home.htm）にアクセスします。
3. AliPay アプリ、またはメールアドレス / 電話番号を使ってアカウントを作成します。
4. ［网页 / 移动应用（Web/ モバイルアプリケーション)］をクリックして、Web モバイルアプリケーション作成ページにアクセスします。
5. ［应用名称（アプリ名)］、［应用图标（アプリアイコン)］を設定します。
［应用名称（アプリ名)］は［ApeosWareManagementSuite］を推奨します。
6. ［绑定商家账号（事業者アカウントのバインド)］に利用したいアカウントを設定します。
7. ［应用类型（アプリ種別)］で［网页应用（Web アプリケーション)］を選択します。
8. ［立即创建（今すぐ作成)］をクリックして、［网页 / 移动应用（Web/ モバイルアプリケーション)］の設定を保存します。
保存後に表示される画面の左上のアプリケーション名の下にアプリケーション ID が表示されます。
アプリケーション ID は ApeosWare Management Suite で設定します。
9. 左側の［开发设置（開発設定)］ボタンをクリックします。
10. ［接口加签方式（インターフェースの署名方式)］＞［设置（設置)］の順にクリックします。
(1) ［设置加签方式（チェックイン方法の設定)］の［加签方式（署名方式)］で［密钥（秘密鍵)］を選択します。
(2) ［生成密钥文件（鍵ファイルの生成）］で［应用私钥（アプリケーション秘密鍵）］、［应用公钥（アプリケーション公開鍵)］を画面の指示に従って自動で生成します。
［应用私钥（アプリケーション秘密鍵）］は ApeosWare Management Suite で設定します。
［应用公钥（アプリケーション公開鍵)］は (4) で使用します。
(3) ［安全验证（セキュリティ検証)］を画面に従って実施します。
(4) ［上传（アップロード)］に (2) で生成した［应用公钥（アプリケーション公開鍵)］を入力し、［确认上传（アップロードの確認)］をクリックします。
(5) ［下载（ダウンロード)］で［支付宝公钥（AliPay 公開鍵)］をダウンロードし、後で ApeosWare

Management Suite で設定します。

11. [授权回调地址（許可コールバックアドレス)］＞［设置（設置)］の順にクリックします。
［授权回调地址（許可コールバックアドレス)］には次の URL を設定ください。
https://{ApeosWare Management Suite の FQDN}:{ApeosWare Management Suite の Https Port}/application/AuthService/sso/authorize

12. 上記設定後、［提交审核（申請)］をクリックして、アプリケーションの申請を完了します。

13. ［控制台（コンソール)］メニュー ＞［网页 / 移动应用（Web/ モバイルアプリケーション)］タブの順にクリックして、Web/ モバイルアプリケーション一覧を表示します。

14. 作成した Web アプリケーションのステータスが［已上线（オンライン)］であることを確認します。
［开发中（審査中)］の場合は審査が完了するまで待つ必要があります。
［已驳回（却下)］の場合は拒絶理由を［详情（詳細)］から確認してください。

15. 作成した Web アプリケーションの［详情（詳細)］リンクをクリックして、詳細ページを表示します。

16. 左側の［产品绑定（製品バインド)］をクリックし、次に［去绑定（バインド)］をクリックします。

17. ［获取会员信息（会員情報の取得)］＞［确定（OK)］の順にクリックし、［获取会员信息（会員情報の取得)］を確認します。
［获取会员信息（会員情報の取得)］のステータスが［已开通（利用可能)］になり、認証機能が使用できるようになります。

［WeChat］を使用する場合

1. ［微信开放平台（WeChat オープンプラットフォーム)］（https://open.weixin.qq.com/）ページにアクセスします。

2. ［网站应用（Web サイトアプリ)］タブをクリックしたら、［创建网站应用（Web サイトアプリ作成)］をクリックします。

3. ［网站应用名（Web サイトアプリ名)］を設定します。
［网站应用名（Web サイトアプリ名)］は［ApeosWareManagementSuite］を推奨します。

4. ［应用官网（アプリ公式サイト)］に次の URL を設定します。
https://{ApeosWare Management Suite の FQDN}:{ApeosWare Management Suite の Https Port}/application/AuthService/sso/authorize

5. ［网站信息登记表扫描件（ウェブサイト情報登録表スキャン)］でウェブサイト情報登録表をダウンロードして、関連情報を記入し、印刷・捺印してアップロードします。

6. ［网站应用图片（Web サイトのアプリケーション画像)］で、28*28 ピクセルの画像と 108*108 ピクセルの画像をそれぞれアップロードします。

7. ［下一步（次へ)］のボタンをクリックして、［填写网站信息（記入サイト情報)］タブを表示します。

8. ［授权回调域（認証コールバックドメイン)］に次の FQDN を設定します。
{ApeosWare Management Suite の FQDN}

9. ［提交审核（審査提出)］をクリックします。

10. ［管理中心（管理センター)］メニュー ＞［网站应用（Web サイトアプリ)］タブの順にクリックします。
［网站应用（Web サイトアプリ)］が表示されます。

11. [网站应用一览（Web サイトアプリ一覧）] で作成した [网站应用（Web サイトアプリ）] のステータスが [已通过（通過）] になっていることを確認します。
12. 作成した Web アプリケーションの [查看（表示）] をクリックします。
[应用详情（アプリケーション詳細）] が表示されます。
13. Web アプリケーション名の下の [AppID] と [AppSecret] を取得し、後で ApeosWare Management Suite に設定します。
14. [微信登录（微信登録）] の [申请开通（申請開通）] をクリックして、[微信登录（微信登録）] 機能で開通します。

こんなときは

システム設定とサーバー監視に関連する操作について説明します。

SQL Server のインデックスを再構築する

Windows アプリケーションログに、SQL Server のインデックス断片化が発生したことを通知するメッセージが出力された場合は、SQL Server のインデックスを再構築します。コマンドを実行すると、指定したテーブルに対して、インデックスが再構築（REBUILD）されます。

この操作は、ApeosWare Management Suite の処理数の負荷が低い時間など、運用に問題がないときに実行してください。

補足

分散構成でデータベースサーバーをメインサーバーと分離している場合、この操作はできません。

1. ApeosWare Management Suite サーバーに、Administrators グループのユーザーでログオンします。
2. コマンドプロンプトウィンドウを表示します。
3. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cd {インストール先フォルダー} ￥WinSvc￥Mon￥bin
```

{インストール先フォルダー} は、初期設定を変更していない場合は「C:￥Program Files￥FUJIFILM￥ApeosWare MS」になります。

4. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
awms_sqsrv_index_rebuild -d {ホスト名} -i {インスタンス名} -n {ポート番号} -u {ユーザー名} -p {パスワード} -t {テーブル名}
```

指定できるオプションは、次のとおりです。-d、-u、-p オプションは主に、データベースを分離する構成の場合に使用します。また、ApeosWare Management Suite インストール時、SQL Server Express が自動でインストールされた場合は、-u、-p オプションは省略できます。

オプション	説明
-d {ホスト名}	データベースのホスト名を指定します。 省略した場合は「localhost」になります。
-i {インスタンス名}	データベースのインスタンス名を指定します。 省略した場合は「FXAW」になります。

オプション	説明
-n {ポート番号}	データベースのポート番号を、0 ～ 65535 の範囲で指定します。 省略した場合は「1433」になります。
-u {ユーザー名}	(Windows 認証でアクセスできる場合は省略可) SQL Server 認証を利用してデータベースに接続する場合に、ユーザー名を指定します。 このオプションを指定した場合は、-p も指定する必要があります。
-p {パスワード}	(Windows 認証でアクセスできる場合は省略可) SQL Server 認証を利用してデータベースに接続する場合に、パスワードを指定します。 このオプションを指定した場合は、-u も指定する必要があります。
-t {テーブル名}	データベース名を含むテーブル名を、「{データベース名} . {スキーマ名} . {テーブル名}」の形式で指定します。この項目は必ず指定します。断片化したテーブルは、Windows アプリケーションログの「YYYY-MM-DD hh:mm:ss.xxx+0900 - 0054-250003-MON: インデックスが断片化したテーブルが見つかりました。({データベース名} . {スキーマ名} . {テーブル名} index=xxxxx)」で確認できます。 複数の場合は、テーブル名をカンマ (,) で区切って指定します。

例：

```
awms_sqsrv_index_rebuild -t DBName1.SchemaName1.TableName1,DBName2.SchemaName2.TableName2
```

SQL Server のインデックスが再構築されます。

正常に終了した場合は、[インデックス断片化が解消しました。{テーブル名}] と表示されます。それ以外のメッセージが表示された場合は、メッセージの指示に従って対処してください。

補足

再構築が終了するまで、時間がかかります。

ウイルス対策ソフトウェアがインストールされている環境で、メールが送信できないとき

McAfee VirusScan などのウイルス対策ソフトウェアがインストールされている環境に ApeosWare Management Suite をインストールした場合、メールの送信に失敗することがあります。この現象は、ウイルス対策ソフトウェアでメールの送信をブロックする設定が行われているために発生します。

正常に動作させるためには、メールの送信をブロックする設定から、次のファイルが除外されるように設定してください。

- C:￥Program Files￥FUJIFILM￥ApeosWare MS￥JRE￥jave.exe
- C:￥Program Files￥FUJIFILM￥ApeosWare MS￥WinSvc￥Mon￥bin￥MonSvc.exe

インストール後、分散プリントサーバーが正しく表示されないとき

複数の分散プリントサーバーを同時にインストールすると、正しくセットアップされない場合があります。正しくセットアップされない場合は、プリントサーバーを再インストールします。

1. プリントサーバー一覧画面に表示されていないプリントサーバーの、ネットワークケーブルを取り外します。

   補足

   ネットワークケーブルを取り外すことによって、メインサーバーと通信できない状態にします。

2. プリントサーバーをアンインストールします。

補足

「データ保存先のファイルを次回利用のために残しますか？」のダイアログボックスでは、［いいえ］オプションを選択してください。

3. プリントサーバーにネットワークケーブルを接続し、メインサーバーと通信できる状態にします。
4. プリントサーバーを再インストールします。
5. プリントサーバーのインストール完了後、メインサーバーを再起動します。

3 機器管理

Web ブラウザーからの設定と確認

Web ブラウザーから機器に関する設定や確認ができます。それぞれのページでどのようなことができるかを説明します。

- ［サービス設定］ > ［機器管理］

ページの種類	説明
機器グループ一覧	
すべての機器グループ	機器を束ねる機器グループを作成、管理します。 参照 「機器グループ一覧（すべての機器グループ）」（P.75）
機器グループ / サブ機器グループの詳細	選択した機器グループやサブ機器グループに、下位のグループ、機器、および登録データ（宛先、ボックス、受付 IP アドレス、送受信制限ドメイン）を追加します。 参照 「機器グループ一覧（機器グループ / サブ機器グループの詳細）」（P.88）
機器一覧	検索した機器を ApeosWare Management Suite に登録し、機器グループに追加します。 参照 「機器一覧」（P.93）
設定	
機器の自動登録の設定	機器を自動で登録するときのスケジュールを設定します。 参照 「機器の自動登録の設定」（P.97）
機器データの反映条件の設定	設定した内容を機器に反映する時刻と間隔を設定します。 参照 「機器データの反映条件の設定」（P.98）

- ［機器・ジョブ状態］ > ［機器状態］

ページの種類	説明
機器状態	すべての機器の状態を表示します。 参照 「機器状態」（P.98）

ページの種類	説明
メンテナンス	すべての機器のメーター情報を表示します。機器の電源オフを指定できます。 参照 「メンテナンス」(P.102)
トナーの残量	すべての機器のトナーの残量を表示します。 参照 「トナーの残量」(P.102)
給紙トレイの残量	すべての機器の給紙トレイの残量を表示します。 参照 「給紙トレイの残量」(P.103)
ドラム状態	機器のドラム状態を表示します。 参照 「ドラム状態」(P.104)
状態の通知設定	機器の状態を電子メールで通知するときの、通知条件を設定します。 参照 「状態の通知設定」(P.105)
ジョブログ収集状態	機器のジョブログの収集状態を表示します。 参照 「ジョブログ収集状態」(P.107)

機器グループ一覧（すべての機器グループ）

表示方法

管理者画面のメニューを［サービス設定］＞［機器管理］＞［機器グループ一覧］の順に選択します。

ページの概要

機器を束ねる機器グループを作成、管理します。機器グループの追加、プロパティの編集、削除、および設定した情報の機器本体への反映ができます。

参照

『導入・運用ガイド』の「機器と機器グループの管理」

機器グループを追加する

サイドメニューで［すべての機器グループ］を選択して、［機器グループの作成］をクリックします。



(1) 基本設定

次の項目を設定し、［次へ］をクリックします。

ここで設定する［認証 / 集計設定］は、機器グループに所属するすべての機器に適用されます。

［機器グループ名］

機器グループ名を入力します。

［説明］

必要に応じて、機器グループの説明を入力します。

［コスト管理設定］

- ［料金体系］

  この項目は、コスト管理をするときに設定します。

  機器グループに関連づける料金体系を、ドロップダウンリストボックスから選択します。機器グループに所属する機器に料金体系が設定されていない場合は、ここで選択した料金体系が適用されます。

補足

［コスト管理］メニューでも、機器グループと料金体系との関連づけを設定できます。どちらで操作しても同じ設定になります。

参照

料金体系の優先順位については →『導入・運用ガイド』の「料金体系の優先順位」

［認証 / 集計設定］

- ［認証 / 集計モード］

  機器の認証方式と集計方法を次から選択します。

  それぞれの項目の詳細は、『導入・運用ガイド』の「認証 / 集計設定の種類」を参照してください。

- 本体認証 / 本体集計（本体認証）
- 本体認証 / ネット集計（ネット認証）
- 外部認証

- 認証しない
- 設定しない (機器で認証を管理)
- カスタム認証

補足

・［認証 / 集計モード］を［カスタム認証］に設定する場合は、事前に、ApeosWare Management Suite サーバーと機器との間で、TCP ポート番号 8050 での通信が許容されていることを確認してください。
・サーバーと関連機器との通信で使用されるポートについては、『セットアップガイド』の「ルーターにポートを例外登録する」を参照してください。
・弊社製または富士ゼロックス社製以外の機器は、［設定しない（機器で認証を管理)］を設定した機器グループに追加してください。
・お使いの機器が認証方式の設定で「認証しない」で運用されている場合、ApeosWare Management Suite のポータル画面からはオンデマンドプリント、およびゲストプリントを使用できません。「認証しない」機器でオンデマンドプリント、およびゲストプリントを使用したい場合には「外部アクセス機能を使用する」(P.117) の URL を参照し、機器の外部アクセス設定でオンデマンドプリント、ゲストプリントの URL を登録してください。

その他の設定

主な設定項目は次のとおりです。選択した［認証 / 集計モード］によって、設定項目が異なります。

補足

・［詳細を表示］ボタンが表示されている場合は、クリックすると、項目が表示されます。
・［認証 / 集計モード］で［設定しない（機器で認証を管理)］を選択した場合は、設定項目はありません。

○：設定します

空白：設定しません

設定項目	本体認証 / 本体集計	本体認証 / ネット集計	外部認証 (ApeosWare Authentication Agent)	外部認証 (Kerberos)	カスタム認証	認証しない	説明
認証 / 集計を行う機能	○	○				○	認証と集計を行う機能にチェックマークを付けます。複数選択できます。 ・コピー ・プリント ・スキャン ・ファクス 補足 ［外部認証］と［カスタム認証］の場合は、コピー、プリント、スキャン、ファクスすべての項目が自動で［する］に設定されます。

設定項目	本体認証 / 本体集計	本体認証 / ネット集計	外部認証（ApeosWare Authentication Agent）	外部認証（Kerberos）	カスタム認証	認証しない	説明
パスワードの使用	○	○	○	○		○	機器でユーザーを認証するときに、パスワードを使用するかどうかを指定します。パスワードを使用する場合は［する］を選択します。 補足 この設定は、機器本体に登録されているユーザーに対して有効な設定です。外部認証の機器の場合、［しない］に設定しても、一般のユーザーの認証ではパスワードの入力欄が表示されます。
ユーザー指定なし印刷を許可	○	○	○	○		○	ユーザー名とパスワードの指定がないプリント要求を、許可するかしないかを選択します。
UserID の代替表記	○	○				○	操作パネルの < 認証 > ボタンを押したときに表示される画面の［ユーザー ID］の表記を、必要に応じて変更します。
AccountID の代替表記		○				○	操作パネルの < 認証 > ボタンを押したときに表示される画面の［AccountID］の表記を、必要に応じて変更します。
認証情報の保存先		○					認証情報の保存先を［ハードディスク］、［NVM］から選択します。 NVM は、不揮発性メモリー（non volatile memory）のことです。
認証情報の照合		○					認証情報を照合するかどうかを選択します。
プリント / ダイレクトファクスの照合		○					プリントジョブ、およびダイレクトファクスジョブのときに、認証情報を照合するかどうかを選択します。
ユーザー入力項目		○					認証するために、機器の操作パネルで入力できる項目を選択します。 ・User ID と AccountID ・User ID のみ
認証システム設定			○	○			認証に使用するソフトウェアを選択します。ApeosWare Management Suite を認証サーバーとする場合は［ApeosWare Authentication Agent］を選択します。
プライマリーサーバーの IP アドレス / ホスト名			○		○		プライマリーサーバーの IP アドレスまたはホスト名を選択します。

設定項目	本体認証 / 本体集計	本体認証 / ネット集計	外部認証（ApeosWare Authentication Agent）	外部認証（Kerberos）	カスタム認証	認証しない	説明
通信プロトコル			○		○		通信プロトコルを［HTTP］、［HTTPS］から選択します。  補足 ［HTTPS］を選択し、ApeosWare Management Suite サーバーとの通信を暗号化して運用することを推奨します。
ポート番号			○		○		ポート番号が表示されます。  補足 特に必要がなければ、表示されたポート番号のままにします。
ゲストアカウント情報				○			ゲストアカウントを使用するかしないかを選択します。 ［する］を選択した場合、ゲストアカウントパスワードを設定します。
Kerberos サーバー 1 ～ 5				○			認証先名、プライマリーサーバーのホスト名とポート番号、セカンダリーサーバーのホスト名とポート番号を入力します。
リトライ回数					○		機器が ApeosWare Management Suite に接続できないときに、オフラインと判定するまでに試行する回数を設定します。
セカンダリサーバーの使用			○		○		セカンダリーサーバーを使用するかしないかを選択します。 ［する］を入力した場合、セカンダリーサーバーの IP アドレス / ホスト名、通信プロトコル、ポート番号を設定します。  補足 特に必要がなければ、表示されたポート番号のままにします。

設定項目	本体認証 / 本体集計	本体認証 / ネット集計	外部認証（ApeosWare Authentication Agent）	外部認証（Kerberos）	カスタム認証	認証しない	説明
PIN/ パスワード入力を必須にする					○		この設定は、ユーザーに関連づけられたアクセスプロファイルの［PIN/ パスワード入力を必須にする］で［機器グループの設定に従う］を選択している場合に適用されます。 認証時に、PIN またはパスワードを使用するかどうかを指定します。使用する場合はチェックマークを付けます。
ネットワーク接続できない機器へのアクセス					○		ネットワーク障害などで機器が ApeosWare Management Suite サーバーと接続できないときに、機器の使用を許可するかどうかを指定します。許可する場合はチェックマークを付けます。 ただし、オフラインの機器での認証は、カード認証だけです。また、オフラインで使用できるのは、コピーやファクスなど機器本体の単独の機能に限定されます。 オフライン時に使用できるユーザーは、アクセスプロファイルの［ネットワーク接続できない機器へのアクセス］も［許可する］に設定されている必要があります。 参照 『導入・運用ガイド』
富士フイルム BI ダイレクト連携設定	○	○	○	○	○		富士フイルム BI ダイレクトと認証連携するための情報を設定します。ユーザー情報を富士フイルム BI ダイレクトに自動的に同期できるようになります。 プライマリーサーバーの IP アドレスまたはホスト名、使用する通信プロトコル、ポート番号を選択します。 セカンダリーサーバーを使用する場合は、［する］を選択し、プライマリーサーバーと同様の情報を設定します。

（2）通信設定

ここで設定する情報は、機器グループに所属するすべての機器に適用されます。ただし、機器個別に設定をした場合は、機器での設定が優先されます。

[機器管理者情報の設定]

機械管理者 ID とパスワードを指定します。

[SNMP 設定]

機器を検索するときの SNMP プロトコル、ポート番号、通信タイムアウト時間を設定します。



補足

特に必要がなければ、表示されたポート番号のままにします。

- SNMP v1/v2

  コミュニティー名、ポート番号、通信タイムアウト時間を設定します。



補足

弊社製または富士ゼロックス社製以外の機器で、プロトコルが［SNMP v1/v2］の場合は、［コミュニティー名（取得 / 書き込み用）］を必ず入力してください。値を入力しないと、機器の状態を取得できません。

- SNMP v3

  認証用ユーザー名、認証方式とパスワード、暗号化方式とパスワード、ポート番号、通信タイムアウト時間を設定します。

[そのほかの通信設定]

SOAP ポート番号、HTTP ポート番号を入力します。

HTTP ポート番号は、Internet Service で使用します。



補足

特に必要がなければ、表示されたポート番号のままにします。

状態監視設定

- ［状態監視］

  機器の状態を監視するかどうかを指定します。

  監視する場合は、［する］を選択して、次を指定します。

  ・［状態監視間隔］
  機器を監視する間隔を入力します。［機器状態］ページや［メンテナンス］ページの内容は、ここで指定した間隔で自動的に更新して表示されます。

  ・［SNMP トラップを受け取った場合の機器状態の取得］
  機器から状態の変更通知（SNMP トラップ）を受け取ったときに、機器の状態を取得する場合は、［する］を選択します。
  定期的に機器から状態を取得する場合は［しない］を選択します。

ジョブログ収集設定

- ［ジョブログ収集］

  機器のジョブログを収集するかどうかを指定します。

  ジョブログを収集する場合は、［する］を選択して、次を指定します。

  ・［収集間隔］
  指定した間隔でジョブログを収集するときは［分単位で指定］を選択して、収集する間隔（分）を指定します。
  毎日、指定した時刻にジョブログを収集するときは［日単位で指定］を選択して、収集する時刻を指定します。



補足

・機器を追加した場合、最初のジョブログ収集は、機器と通信が確立して状態が更新されたときに実行されます。2 回目以降の収集は、ここで設定する［収集間隔］で実行されます。
・［機器・ジョブ状態］＞［機器状態］＞［ジョブログ収集状態］ページで、ジョブログの取りこぼしが発生

していなかどうかを確認できます。

参照
「ジョブログ収集状態」（P.107）

・［収集対象ジョブログ］
はじめて収集するときに［機種が特定できた時点から記録されたジョブログ］を収集するか、［機器に記録されているすべてのジョブログ］を収集するか選択します。
2 回目以降は、前回収集してから新たに追加されたジョブログだけが収集対象になります。

参照
『導入・運用ガイド』の「ジョブログ設定」

イメージログ管理設定

ApeosWare Management Suite 2 Image Log Management Option Receiving Server License が有効の場合に表示されます。

- ［イメージログ管理］
イメージログ管理をするかどうかを選択します。
イメージログ管理をする場合は、［する］を選択して、以降の項目を指定します。
- ［作成保証レベル］
ログとして管理する画像データが作成されることを保証するレベルを、［高］、［低］から選択します。
［低］を選択すると、状況によっては画像データが作成されないことがあります。
- ［解像度］
解像度を選択します。
解像度は OCR の精度にも影響します。OCR の精度を高めたいときは、解像度を高くすることをお勧めします。
- ［作成範囲］
作成範囲を選択します。
- ［イメージログ作成対象］
イメージログ管理をする場合に、イメージログ管理対象とする機能にチェックマークを付けます。
- ［イメージログ転送］
イメージログ転送をするかどうかを選択します。イメージログ管理をする場合は、［する］に設定してください。
- ［転送先］
設置済みの受信サーバーの IP アドレスのリストから、転送先を選択します。
- ［転送プロトコル］
［イメージログ転送］が［する］の場合に、転送プロトコルを選択します。［HTTPS］を選択すると、［ポート番号］は［443］に変更されます。
- ［ポート番号］
ポート番号を入力します。
- ［転送保証レベル］
作成したイメージログが、サーバーに転送されることを保証するレベルを、［高］、［低］から選択します。
何らかの問題が発生して転送できなかったイメージログは、「未送信ログ」として機器本体に保存されます。未送信ログが、機器に格納できるイメージログの最大数を超えると、次のように処理されます。
  ・［高］：機器が新規ジョブの受け付けを停止します。
  ・［低］：古いイメージログが削除されます。
- ［転送動作］
［作成保証レベル］が［高］の場合に、転送動作を選択します。［低］の場合は、［まとめて転送］が表示され、変更できません。
- ［転送タイミング］

［転送動作］が［まとめて転送］の場合に、転送タイミングを選択します。［時刻指定転送］を選択したときは、転送時刻を設定します。

プリント設定

- ［機器のジョブ状態を取得］

  ジョブを監視するかどうかを指定します。

- ［機器状態を取得］

  機器状態を監視するかどうかを指定します。

- ［通信プロトコル］

  機器にプリントジョブを送信するときの通信プロトコルを選択します。［通信プロトコル］が［IPP］または［IPPS］の場合は、IPP/IPPS ポート番号を入力します。

補足

［IPP］と［IPPS］は ApeosWare Management Suite の Entry Edition に Cost Recovery Option が追加されていない場合と、Enterprise Edition で Cost Recovery 機能をインストールしていない場合に選択できます。

(3) 機器のパネルの設定と登録データの管理

ここで設定する情報は、グループ直下にある機器にだけ適用されます（下位のサブ機器グループは含みません）。

［機器のパネルの設定］

この項目は、［認証 / 集計モード］が次のどれかの場合に設定できます。

・［本体認証 / 本体集計（本体認証）］
・［本体認証 / ネット集計（ネット認証）］
・［外部認証］（認証システムに［ApeosWare Authentication Agent］を選択時）
・［カスタム認証］

ApeosWare Management Suite の機能にアクセスするためのメニューボタンを、機器のホーム画面に追加します。

- ［機器メニュー］

  機器のホーム画面に追加する機能を、［表示する］に設定します。

- ［サーバー URL］

  各機能のアクセス先のサーバーの URL を入力します。

  初期設定では、現在アクセスしている ApeosWare Management Suite サーバーの URL が表示されます。複数のサーバー構成で運用している場合は、必要に応じて［サーバー URL］を変更します。

補足

・この機能は、カスタムサービスを利用します。カスタムサービスを利用するには、機器側での設定が必要です。詳しくは、「カスタムサービスを使用する」（P.116）を参照してください。
・機種によっては、カスタムサービスを利用できない場合もあります。その場合は、外部アクセス機能を使用して、機器から ApeosWare Management Suite にアクセスできます。「外部アクセス機能を使用する」（P.117）を参照してください。

参照

「機器のホーム画面」（P.110）

［登録データの管理］

機器の登録データを管理する場合は、［管理する登録データの種類］の該当項目にチェックマークを付けます。次の項目を管理できます。

- 宛先
- ボックス
- 受付 IPv4 アドレス制限
- 受付 IPv6 アドレス制限
- 送受信制限ドメイン（送受信を許可するドメイン / 送受信を拒否するドメイン）

補足

・［受付 IPv4 アドレス制限］または［受付 IPv6 アドレス制限］にチェックマークを付けた場合は、機器グループまたはサブ機器グループの設定ページで、必ず ApeosWare Management Suite サーバーの IP アドレスも受付 IP アドレスに追加してください。追加しないと、サーバーが機器と接続できなくなります。
・［管理する登録データの種類］の項目のチェックマークを外して機器反映をした場合、機器本体の設定が削除されます。

参照

『導入・運用ガイド』の「登録データの管理」

(4) セキュリティ監視設定

ここで設定するセキュリティ監視設定の期待値は、機器反映時に機器に設定されます。

[カテゴリ]

監視の有無や期待値を設定したいカテゴリーを選択してください。表示されるカテゴリー覧は以下になります。

- ユーザー認証と権限
- 管理機能の保護
- 不要なネットワークの停止
- 通信データの保護
- デバイス内保存文書の保護
- 設定や操作のミスを防止
- 複合機ソフトウェアの保護
- ログの管理と保護

設定項目

カテゴリを選択後に［監視する］を選択すると、カテゴリに応じた設定項目が表示されます。
各項目の設定内容は機器のマニュアルを参照してください。
また、設定項目で指定した機能がない機器に対しては、反映されません。
指定した機能の有無は、機器のマニュアルおよび機器の設定を確認してください。

(5) 機器との関連づけ

[機器との関連づけ]

［する］
機器グループに機器を追加する場合は、［する］を選択し、次の手順で使用を許可する機器を選択します。
(1) ［追加］をクリックし、［機器の追加］ダイアログボックスを表示します。
(2) 追加する機器にチェックマークを付け［保存］をクリックします。

補足

・［未所属の機器のみを表示する］のチェックマークを外すと、すべての機器が表示されます。

・ほかの機器グループに所属している機器を選択した場合、所属する機器グループが移動します。

［しない］

機器を追加しない場合に選択します。

(6) 概要

設定した内容を確認し、［保存］をクリックすると、機器グループが作成されます。

各項目の［編集］をクリックし、設定した内容を変更することもできます。

機器グループの情報を確認する

一覧で、編集する機器グループの⚙をクリックして、［プロパティ］を選択します。

機器グループに設定した内容を確認・編集できます。編集できる項目は、「機器グループを追加する」(P.76)の一部の機能です。

機器グループ内の機器の情報を、機器本体へ反映する

一覧で、反映する機器グループの⚙をクリックして、［反映］を選択します。

［機器へ反映］ダイアログボックスが表示されます。

設定した情報を機器本体へ反映します。反映の対象は、一覧で選択した機器グループ直下の機器だけです(下位のサブ機器グループの機器は対象になりません)。

反映方法

- ［変更された設定情報のみ反映する］

  前回反映したときから変更されている情報だけを反映します。

- ［すべての設定情報を上書きする］

  すべての情報を反映します。認証方式を変更したときや設定内容に不整合が発生したときに選択します。

［反映］

反映操作をするときにクリックします。機器への反映が終了すると、［機器への反映結果］ダイアログボックスが表示されます。

［機器への反映結果］ダイアログボックスの表示項目

機器名、設置場所、機種名、ネットワーク、機器グループ、反映状態、反映理由が表示されます。

反映理由は、リトライ待ち、反映済み、反映失敗の場合に表示されます。

反映状態とその説明は次のとおりです。

反映状態	説明
反映中止	次のどれかの理由によって、反映を中止しました。 ・反映操作中に、管理者が［中止］をクリックしました。 ・ApeosWare Management Suite にエラーが発生しました。 ・［失敗（サービスエラー）］が発生していました。
未反映	ApeosWare Management Suite に設定された情報に、機器に未反映のものがあります。
差分計算中	反映する前に、反映すべき情報を計算しています。
反映中	反映処理中です。

反映状態	説明
リトライ待ち	電源が入っていません。または通信できません。
	機器のポートが起動していません。
	ジョブを処理中、または機器の操作パネルを操作中など、ほかの処理が行われているため、反映できません。
	ほかのソフトウェアが反映しているので、反映できません。
	再起動に失敗しました。
	機器が対応していない項目が設定されています。
反映済み	反映処理が正常に終了しました。
	反映した情報と、反映しない情報がありました。
反映失敗	機械管理者または SNMP での認証に失敗しました。
	機器が対応していない項目が設定されています。
	機器のプラグイン / カスタムサービス設定の署名検証が、有効になっているため反映できません。 カスタム認証またはカスタムサービスを使用する場合は、署名検証を無効に設定する必要があります。
	上記以外の理由によって失敗しました。
失敗（サービスエラー）	サービスエラーが発生しました。 ApeosWare Management Suite Core Service を再起動してください。

反映状態の詳細の確認方法

機器ごとに確認できます。

一覧で、機器グループのリンクをクリックします。[機器] タブを表示し、確認したい機器の ⚙ をクリックして、[反映状態の詳細] を選択します。

[反映状態の詳細] ダイアログボックスが表示され、反映状態の詳細を確認できます。

[機器名]

選択した機器の名称が表示されます。

[IP アドレス / ホスト名]

選択した機器の IP アドレス、またはホスト名が表示されます。

[反映日時]

最後に機器反映を実施した日時が表示されます。

[反映状態]

機器への反映状態が表示されます。

参照
「[機器への反映結果] ダイアログボックスの表示項目」（P.85）

[理由]

反映状態の理由が表示されます。

理由とその説明は次のとおりです。

理由	説明
－	理由なし。
電源オフ / 通信エラー	電源が入っていません。または通信できません。

理由	説明
ポート未起動	機器のポートが起動していません。
使用中	ジョブを処理中、または機器の操作パネルを操作中など、ほかの処理が行われているため、反映できません。
受付不可	ほかのソフトウェアが反映しているので、反映できません。
再起動失敗	再起動に失敗しました。
未サポート機	機器が対応していない項目が設定されています。
正常	反映処理が正常に終了しました。
スキップ	反映した情報と、反映しない情報がありました。
認証失敗	機械管理者または SNMP での認証に失敗しました。
ユーザー同期エラー	機器のプラグイン / カスタムサービス設定の署名検証が、有効になっているため反映できません。 カスタム認証またはカスタムサービスを使用する場合は、署名検証を無効に設定する必要があります。
その他のエラー	認証失敗、未サポート機、またはユーザー同期エラー以外の理由です。

［反映状態の詳細］の表に表示される内容は次のとおりです。

［エラーレベル］

エラーのレベルが表示されます。

［カテゴリ］

エラーのカテゴリが表示されます。

［サブカテゴリ］

エラーとなったカテゴリの詳細が特定できる場合に限り、識別子が表示されます。

［メッセージ］

［エラーレベル］の詳細が表示されます。

機器グループを削除する

一覧で、削除する機器グループの ⚙ をクリックして、［削除］を選択します。

機器グループを削除しても、機器グループに所属していた機器の［認証 / 集計設定］は変わりません。

機器グループを削除すると、所属していた機器本体から次の情報も削除されます。

- 宛先
- ボックスとボックス内の文書
- 受付 IP アドレス
- 送受信制限ドメイン

機器グループ一覧（機器グループ / サブ機器グループの詳細）

表示方法

サイドメニューで、既存の機器グループまたはサブ機器グループをクリックします。または、機器グループ一覧でグループ名をクリックします。



ページの概要

選択した機器グループまたはサブ機器グループに、下位のサブ機器グループ、機器、および登録データ（宛先、ボックス、受付 IP アドレス、送受信制限ドメイン）を追加します。

登録データのタブは、選択した機器グループまたはサブ機器グループで、［管理する登録データの種類］にチェックマークが付いている項目だけ表示されます。



登録データのタブ
（所属するグループの［管理する登録データの種類］でチェックマークが付いている項目だけ表示されます）

サブ機器グループを作成する

［サブ機器グループ］タブを表示して、［サブ機器グループの作成］をクリックします。現在選択している機器グループ（またはサブ機器グループ）に下位のサブ機器グループを追加します。



(1) 基本項目

次の項目を設定し、［次へ］をクリックします。

［サブ機器グループ名］

サブ機器グループ名を入力します。

［説明］

必要に応じて、サブ機器グループの説明を入力します。

コスト管理設定

- ［料金体系］

  この項目は、コスト管理をするときに設定します。

  サブ機器グループに関連づける料金体系を、ドロップダウンリストボックスから選択します。サブ機器グループに所属する機器に料金体系が設定されていない場合は、ここで選択した料金体系が適用されます。

補足

［コスト管理］メニューでも、サブ機器グループと料金体系との関連づけを設定できます。どちらで操作しても同じ設定になります。

参照

『導入・運用ガイド』の「料金体系の優先順位」

機器グループ情報

選択した機器グループに設定されている情報が表示されます。［詳細を表示］をクリックすると、認証 / 集計を行う機能として設定された情報が表示されます。

サブ機器グループが所属する機器グループの［認証 / 集計モード］が［カスタム認証］の場合は、次の項目が設定できます。

- リトライ回数

  ApeosWare Management Suite に接続できないときに、オフラインと判定するまで試行する回数を設定します。

- ［PIN/ パスワード入力を必須にする］

  この項目は、サブ機器グループが所属する機器グループの［認証 / 集計モード］が［カスタム認証］の場合だけ、設定できます。

  認証時に PIN またはパスワードを使用するかどうかを設定します。使用する場合はチェックマークを付けます。

  設定した内容は、ユーザーに関連づけられたアクセスプロファイルの［PIN/ パスワード入力を必須にする］で［機器グループの設定に従う］を選択している場合に適用されます。

- ［ネットワーク接続できない機器へのアクセス］

  この項目は、サブ機器グループが所属する機器グループの［認証 / 集計モード］が［カスタム認証］の場合だけ、設定できます。

  ネットワーク障害などで機器が ApeosWare Management Suite サーバーと接続できないときに、機器の使用を許可するかどうかを指定します。許可する場合は、チェックマークを付けます。

  ただし、オフラインの機器での認証は、カード認証だけです。これによりオフラインの機器での認証は、カード認証とユーザー ID 入力による認証ができます。また、オフライン時に使用できるのは、コピーやファクスなど機器本体の単独の機能に限定されます。

  オフライン時に使用できるユーザーは、アクセスプロファイルの［ネットワーク接続できない機器へのアクセス］も［許可する］に設定されている必要があります。

  登録できるユーザーの上限は 10,000 人です。

参照

『導入・運用ガイド』

富士フイルム BI ダイレクト連携設定

選択した機器グループに設定されている情報が表示されます。

(2) 機器のパネルの設定と登録データの管理

ここで設定する情報は、グループ直下にある機器にだけ適用されます（下位のサブ機器グループは含みません）。

［機器のパネルの設定］

この項目は、サブ機器グループが所属する機器グループの［認証 / 集計モード］が次のどれかの場合に設定できます。

・［本体認証 / 本体集計（本体認証）］
・［本体認証 / ネット集計（ネット認証）］
・［外部認証］（認証システムに［ApeosWare Authentication Agent］を選択時）
・［カスタム認証］

ApeosWare Management Suite の機能にアクセスするためのメニューボタンを、機器のホーム画面に追加します。各項目については、「機器グループを追加する」（P.76）の「(3) 機器のパネルの設定と登録データの管理」を参照してください。

［登録データの管理］

機器で管理する項目にチェックマークを付けます。初期設定では、所属するグループの設定が表示されます。次の項目を管理できます。

- 宛先
- ボックス
- 受付 IPv4 アドレス制限
- 受付 IPv6 アドレス制限

- 送受信制限ドメイン（送受信を許可するドメイン / 送受信を拒否するドメイン）

補足

［受付 IPv4 アドレス制限］または［受付 IPv6 アドレス制限］にチェックマークを付けた場合は、機器グループまたはサブ機器グループの設定ページで、必ず ApeosWare Management Suite サーバーの IP アドレスも受付 IP アドレスに追加してください。追加しないと、サーバーが機器と接続できなくなります。

参照

『導入・運用ガイド』の「登録データの管理」

(3) 機器との関連づけ

［機器との関連づけ］

［する］

サブ機器グループに機器を追加する場合は、［する］を選択し、次の手順で関連づける機器を選択します。

(1)［追加］をクリックし、［機器］ダイアログボックスを表示します。

(2) 追加する機器にチェックマークを付け［保存］をクリックします。

補足

［未所属の機器のみを表示する］のチェックマークを外すと、すべての機器が表示されます。

［しない］

機器を追加しない場合に選択します。

(4) 概要

設定した内容を確認し、［保存］をクリックすると、サブ機器グループが作成されます。

各項目の［編集］をクリックし、設定した内容を変更することもできます。

サブ機器グループの情報を確認する

一覧で、編集するサブ機器グループの ⚙ をクリックして、［プロパティ］を選択します。

機器グループに設定した内容を確認・編集できます。編集できる項目は、「機器グループを追加する」（P.76）の一部の機能です。

サブ機器グループ内の機器の情報を、機器本体へ反映する

［サブ機器グループ］タブを表示します。一覧で、反映するサブ機器グループの ⚙ をクリックして、［反映］を選択します。

設定した情報を機器本体へ反映します。反映の対象は、一覧で選択したサブ機器グループ直下の機器だけです（下位のサブ機器グループの機器は対象になりません）。

反映方法

- ［変更された設定情報のみ反映する］

  前回反映したときから変更されている情報だけを反映します。

- ［すべての設定情報を上書きする］

  すべての情報を反映します。

［反映］

反映操作をするときにクリックします。

［機器に反映した結果］

「機器グループ内の機器の情報を、機器本体へ反映する」（P.85）を参照してください。

サブ機器グループを削除する

［サブ機器グループ］タブを表示します。一覧で、削除するサブ機器グループの⚙をクリックして、［削除］を選択します。

サブ機器グループを削除すると、所属していた機器本体から次の情報も削除されます。

- ボックスとボックス内の文書
- 受付 IP アドレス
- 送受信制限ドメイン
- 宛先

機器の情報を確認および変更する

［機器］タブを表示します。

選択した機器グループ（またはサブ機器グループ）に所属する、機器の一覧が表示されます。機器の反映状態、反映理由、セキュリティ監視結果を確認できます。

機器ごとの情報を確認、および変更する場合は、⚙をクリックして、［プロパティ］を選択します。変更できる項目は、「機器の情報を確認および変更する」（P.95）と同じです。

機器を追加する

［機器］タブを表示します。

［リストの編集］をクリックすると、グループのプロパティが表示され、機器を追加できます。

宛先を追加する

［宛先］タブを表示します。

選択した機器グループ（またはサブ機器グループ）に設定されている、宛先の一覧が表示されます。宛先を追加する場合は、［宛先の作成］をクリックします。ファクス、IP ファクス（SIP）、インターネットファクス、メール、サーバーごとに宛先情報を指定します。

補足

機種や機器に搭載されているオプションの構成によって、設定できない項目があります。

ボックスを追加する

［ボックス］タブを表示します。

選択した機器グループ（またはサブ機器グループ）に設定されている、ボックスの一覧が表示されます。ボックスを追加する場合は、［ボックスの作成］をクリックし、次の情報を指定します。

［アクセス制限］

ボックスへのアクセスを制限する方法を選択します。

［所有者の指定］

［選択］をクリックすると、［所有者の選択］ダイアログボックスが表示されます。［所有者の選択］ダイアログボックスの［アクセスプロファイル］には、機器グループ（またはサブ機器グループ）に関連づけられているアクセスプロファイルが表示されます。アクセスプロファイルを選択すると、関連づけられたユーザーが表示されるので、その中からボックスの所有者にしたいユーザーを選択します。

補足

・ボックスの所有者に指定したユーザーが削除された場合は、ボックスとボックス内の文書は削除されます。
・ボックスの所有者を変更すると、変更前の所有者の文書は削除されます。
・ボックスを削除すると、ボックス内の文書も削除されます。

[文書の取り出し後の処理]

ボックスから文書を取り出したあと、自動的にその文書を削除するかどうかを指定します。

[保持期間経過後の処理]

機器に設定された保存期間が過ぎたとき、蓄積された文書を削除するかどうかを指定します。

受付 IP アドレスを追加する

[受付 IPv4 アドレス制限] タブ、または [受付 IPv6 アドレス制限] タブを表示します。

選択した機器グループ（またはサブ機器グループ）に設定されている、受付 IP アドレスの一覧が表示されます。受付 IP アドレスを追加する場合は [受付 IP アドレス制限（IPv4/v6）の作成] をクリックして、機器との接続を許可する PC の IP アドレス情報を追加します。



補足

選択した機器グループ（またはサブ機器グループ）の [管理する登録データの種類] で [受付 IPv6/v4 アドレス制限] を管理する設定にした場合は、受付 IP アドレスに必ず ApeosWare Management Suite サーバーの IP アドレスを追加してください。追加しないと、ApeosWare Management Suite と機器の通信ができなくなります（ApeosWare Management Suite サーバーの IP アドレスは、初期設定では追加されていません）。

送受信を許可 / 拒否するドメインを追加する

[送受信制限ドメイン] タブを表示します。

選択した機器グループ（またはサブ機器グループ）に設定されている、送受信制限ドメインの一覧が表示されます。追加する場合は [送受信制限ドメインの作成] をクリックします。

選択した機器グループ（またはサブ機器グループ）の [管理する登録データの種類] で [送受信許可ドメインの指定] を設定した場合は、機器がメールの送受信を許可するドメインを追加します。[管理する登録データの種類] で [送受信拒否ドメインの指定] を設定した場合は、機器がメールの送受信を拒否するドメインを追加します。

アカウントを表示する

[アカウント] タブを表示します。

選択した機器グループ（またはサブ機器グループ）に関連づけられている、アカウントの一覧が表示されます。



補足

アカウントは、管理者画面の [サービス設定] > [コスト管理] メニューで設定します。

機器一覧

表示方法

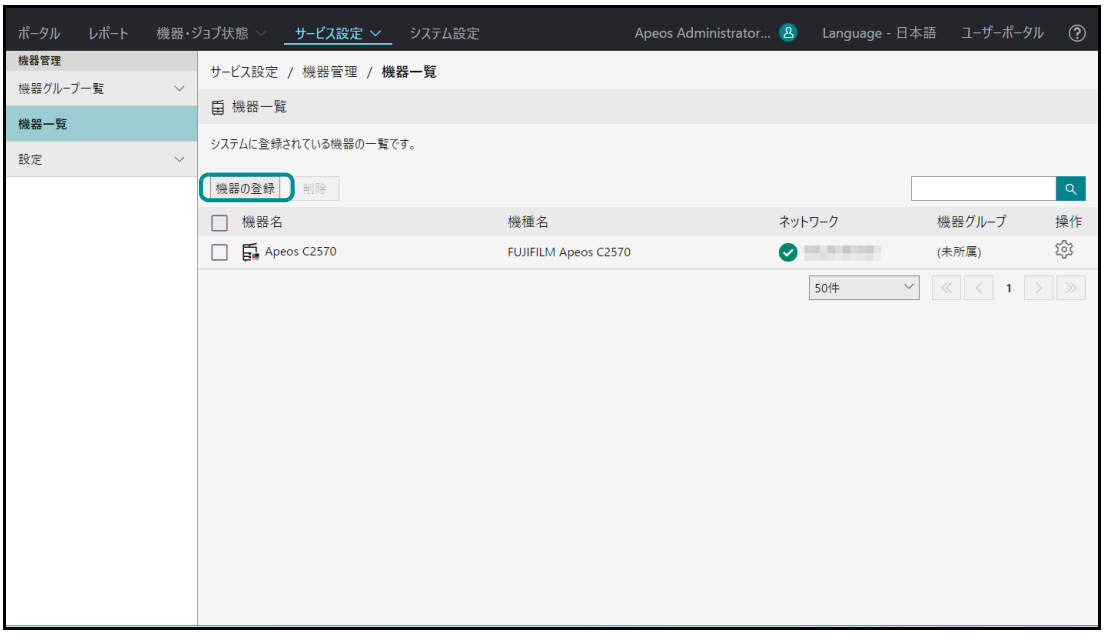
管理者画面のメニューを [サービス設定] > [機器管理] > [機器一覧] の順に選択します。

ページの概要

検索した機器を ApeosWare Management Suite に登録し、機器グループに追加します。機器の登録、プロパティの編集、および削除ができます。

機器を登録する

［機器の登録］をクリックします。主な設定項目は次のとおりです。



(1) 機器の選択

ApeosWare Management Suite に登録する機器を指定し、［次へ］をクリックします。

ネットワークを自動で検索して検出された機器から選択する方法と、登録する機器の IP アドレスを直接入力する方法があります。［機器の検索方法 / 指定方法の設定］をクリックすると、機器をネットワークから検索するか、手動で情報を入力するかを変更できます。

補足

登録する機器の IP アドレスまたはホスト名に IPv4 アドレスを入力する場合は、アドレスの数値の前に 0 を前置きしないでください。

(2) 機器グループ / コスト管理設定

［機器を関連づける機器グループの選択］

機器を所属させる機器グループ、またはサブ機器グループを選択します。

［機器グループ情報］

機器を所属させる機器グループの情報が表示されます。

［料金体系］

コスト管理をするときに、機器に関連づける料金体系を選択します。

補足

・［料金体系］は、機器のプロパティ画面では［その他］タブに表示されます。
・［コスト管理］メニューでも、機器と料金体系との関連づけを設定できます。どちらで操作しても同じ設定になります。

参照

『導入・運用ガイド』の「料金体系」

(3) 通信設定

次の項目を設定し、[次へ] をクリックします。

「(2) 機器グループ / コスト管理設定」の [機器を関連づける機器グループの選択] で機器が所属する機器グループ（またはサブ機器グループ）を指定した場合は、所属するグループの通信設定を継承するかどうかを設定します。

所属するグループの通信設定を継承する場合は [機器グループと共通の設定] を選択します。

機器個別に通信設定を指定する場合は、[個別の設定] を選択し、以降の項目を指定します。

[機器管理者情報の設定] / [SNMP 設定] / [そのほかの通信設定] / [状態監視設定] / [ジョブログ収集設定] / [イメージログ管理設定] / [プリント設定]

これらの設定については、「機器グループを追加する」（P.76）の「(2) 通信設定」を参照してください。

[プリントサーバー連携]

プリントサーバー連携をするかどうかを指定します。プリントサーバー連携をする場合は、[プリントサーバー連携] で [GP Controller] を選択し、[IP アドレス / ホスト名] および [LPR キュー名] を入力します。

プリントサーバー連携のテストプリントを行う場合は、[印刷] をクリックしてください。

(4) 概要

設定した内容を確認し、[保存] をクリックすると、機器が登録されます。

各項目の [編集] をクリックし、設定した内容を変更することもできます。

機器の情報を確認および変更する

機器一覧の  をクリックして、[プロパティ] を選択します。

機器に設定した内容を表示・編集できます。表示・編集できる項目は、「機器を登録する」（P.94）で設定した機能、セキュリティ監視結果およびその他（コスト管理設定と外部端末設定）です。



[セキュリティ監視結果]

監視対象となっているセキュリティ設定が、一覧で表示されます。

- [カテゴリ]
  [機器グループの作成] > [セキュリティ監視設定] で設定したカテゴリを表示します。

参照

・[機器グループの作成] は、「機器グループを追加する」（P.76）を参照してください。

・「[カテゴリ]」(P.84)

- [属性名]
  [カテゴリ] に所属する属性名を表示します。
- [現在値]
  機器のセキュリティ監視で機器から取得した属性値を表示します。機器のセキュリティ監視がサポートされていない、または機器のセキュリティ監視を取得できない場合は、空欄になります。
- [期待値]
  機器が所属する機器グループに設定されたセキュリティ監視設定の属性値を表示します。
- [セキュリティ監視結果]
  - [一致]
    [現在値] と [期待値] が一致している場合に表示します。
  - [不一致]
    [現在値] と [期待値] が一致していない場合に表示します。
  - [(未サポート)]
    対象属性がサポートされていない場合に表示します。

[その他]

- コスト管理設定
  登録されている料金体系を選択できます。
- 外部端末設定
  有効な外部端末の CAL ライセンスが、1 件以上存在するときに表示されます。
  外部端末を使用するときは、機器と外部端末の紐づけを行ってください。[外部端末] フィールドのドロップダウンリストから使用する外部端末を選択したあと、[IP アドレス] で機器に紐づける外部端末の IP アドレスを指定してください。
  外部端末はネットワーク接続してください。外部端末の IP アドレスは、固定 IP および IPv4 とする必要があります。

機器を削除する

機器一覧の  をクリックして、[削除] を選択します。

機器を ApeosWare Management Suite の管理の対象から外したいときや、機器を撤去したときに、この操作をします。


補足

・ApeosWare Management Suite から機器の情報を削除しても、機器への反映操作で機器本体に書きこまれた情報はそのまま変わりません。
・複数の機器に同じ外部端末を紐づけることはできません。

機器の自動登録の設定

表示方法

管理者画面のメニューを［サービス設定］＞［機器管理］＞［設定］＞［機器の自動登録の設定］の順に選択します。



ページの概要

機器の自動登録に関する設定をします。自動登録を有効にすると、指定したスケジュールに従って、ApeosWare Management Suite がネットワーク上の機器を検索し、登録されていない機器を自動で登録します（初期設定では、スケジュールは設定されていません）。

始める前に、次のことを確認してください。

- 機器の電源が入っている
- 機器で次のポートが起動している
  - ・SOAP ポート
  - ・SNMP ポート
  - ・WSD ポート（検索に使用するプロトコルで WSD を選択した場合のみ）
- 機器の受付 IP アドレス制限によって、ApeosWare Management Suite のサーバーが拒否されていない

補足

WSD は、Web Services on Devices の略称です。

機器の自動登録を設定する

［自動登録スケジュール］

毎日指定した時刻に機器を検索して自動で登録するときは、［日単位で指定］を選択して、時刻を指定します。

週に一度、機器を検索して自動で登録するときは、［週単位で指定］を選択して、曜日と時刻を指定します。

機器の自動登録をしないときは、［行わない］を選択します。

［デュアルスタックで稼動している場合、IPv6 モード情報を優先して追加する］

IPv4 と IPv6 のデュアルスタックで稼動している場合、IPv6 モード情報を優先して追加するときに、チェックマークを付けます。

[追加する機器の IP アドレスをホスト名に変換する]

追加する機器の IP アドレスをホスト名に変換するときに、チェックマークを付けます。

[自動登録のための検索設定]

検索する条件を設定する場合は［設定する］をクリックして、検索に使用するプロトコルや、検索方法、通信タイムアウトなどを指定します。

機器データの反映条件の設定

表示方法

管理者画面のメニューを［サービス設定］＞［機器管理］＞［設定］＞［機器データの反映条件の設定］の順に選択します。

ページの概要

ApeosWare Management Suite で追加、変更、削除した機器の情報を機器本体に反映するための、間隔や時刻、リトライ方法などを設定します。

機器データの反映条件を設定する

[自動反映スケジュール]

設定した情報を定期的に機器へ反映するときは［分単位で指定］を選択して、［反映間隔］を指定します。

設定した情報を毎日指定した時刻に機器へ反映するときは［日単位で指定］を選択して、機器へ反映する時刻を指定します。

定期的に機器に反映したくないときは、［行わない］を選択します。

[反映失敗時の再実行]

反映に失敗したときに、リトライするかどうかを指定します。

- 機器に同じユーザー ID や、カード ID が登録されている場合、機器への反映が失敗することがあります。また、1 回めの反映で、一部のユーザー ID やカード ID が機器に反映され、2 回め以降の反映で、その他のユーザー情報の反映が成功する場合があります。
- ［反映失敗時の再実行］が［しない］に設定されていて、設定された間隔または時刻での機器への反映でエラーが発生した場合は、エラーとなっている情報を修正したあと、手動で機器に反映してください。情報を修正するだけでは、自動で機器に反映されません。手動での反映を一度実行すれば、次からは設定に従って自動で反映されます。
- 機器に同じカード ID が登録されていてエラーとなり、機器の反映に失敗したときは、設定ファイルの値を変更することで、エラーを回避できます。

参照
「登録済みのカード ID があるため、ユーザー情報が機器に反映されないときは」（P.121）

機器状態

表示方法

管理者画面のメニューを［機器・ジョブ状態］＞［機器状態］＞［機器状態］の順に選択します。

ページの概要

登録されている機器の状態一覧を表示します。状態を選択して、表示する機器を抽出できます。

機器の状態には、次の種類があります。

状態	説明
	正常な状態です。
	エラーレベルの現象が発生しています。
	エラーレベルの現象（紙づまり）が発生しています。
	警告レベルの現象が発生しています。

特定の機器グループに登録されている機器を抽出する

［編集］をクリックして、機器が登録されている機器グループを選択します。

機器を抽出して状態を表示する

［状態］から、表示したい機器の条件を選択します。

Internet Service に対応した機器の場合は、⚙ をクリックし、［機器の状態］を選択すると、Internet Service が起動して詳細を確認できます。



［状態］

- ［すべての状態］

  すべての状態の機器を表示します。
- ［通信のエラー］

  通信に関するエラーが発生している機器を表示します。
- ［機械の警告 / エラー］

  機械に関する警告またはエラーが発生している機器を表示します。
- ［消耗品の警告 / エラー］

  トナーに関する警告またはエラーが発生している機器を表示します。
- ［用紙の警告 / エラー］

  用紙に関する警告またはエラーが発生している機器を表示します。

補足

・機種によって、理由が異なる場合があります。
・機器を管理者が機械管理者モードで操作しているか、またはカストマーエンジニアが操作している場合、［要対処］が表示される機種があります。この場合、メンテナンスは不要です。

状態の種類

（）内の数字は、1 台の機器に複数の現象が発生しているときの優先順位です。たとえば、［紙づまり］と［用紙切れ］の両方が発生しているときは、［紙づまり］が表示されます。

- 正常

  機器は正常に稼動しています。

- 未取得（1）

  ・ 機器と 1 回も通信していません。
  ・ オフラインの機器です。
  ・ 機器の［状態監視設定］が［しない］に設定されていて、手動更新もしていません。

- 応答なし（2）

  機器の情報を取得しようとしたが、通信がタイムアウトになり、機器と通信できません。

- 応答あり（SNMP エラー）（3）

  次の理由によって、機器の情報を取得できません。

  ・ SNMP 応答エラー
  ・ SNMP コミュニティー名不一致
  ・ SNMP 接続タイムアウト

- 紙づまり（4）

  紙が詰まっています。

- 用紙切れ（5）

  用紙がありません。

- トナー切れ（6）

  トナーがありません。

- カバーオープン（7）

  カバーやドアが開いています。

- 要対処（8）

  メンテナンスが必要なエラーが機器で発生しています。主な理由を次に示します。

  ・ 出力トレイがいっぱいになりました。
  ・ 用紙とトナー以外の消耗品に障害が発生しました。
  ・ 排出トレイに障害が発生しました。
  ・ 給紙トレイに障害が発生しました。
  ・ ドラムの交換時期です。または、交換時期が間近です。
  ・ ドラムの設置方法が誤っています。
  ・ トナー回収ボトルがいっぱいになりました。または、もうすぐいっぱいになります。

- 用紙補給（9）

  用紙が残り少なくなっています。

- トナー交換（10）

  トナーが残り少なくなっています。

- 要対処（11）

  メンテナンスが必要な警告が機器で発生しています。

機器の情報を更新する

［機器状態］一覧で、更新したい機器にチェックマークを付け、［更新］をクリックします。最新の機器の状態が表示されます。

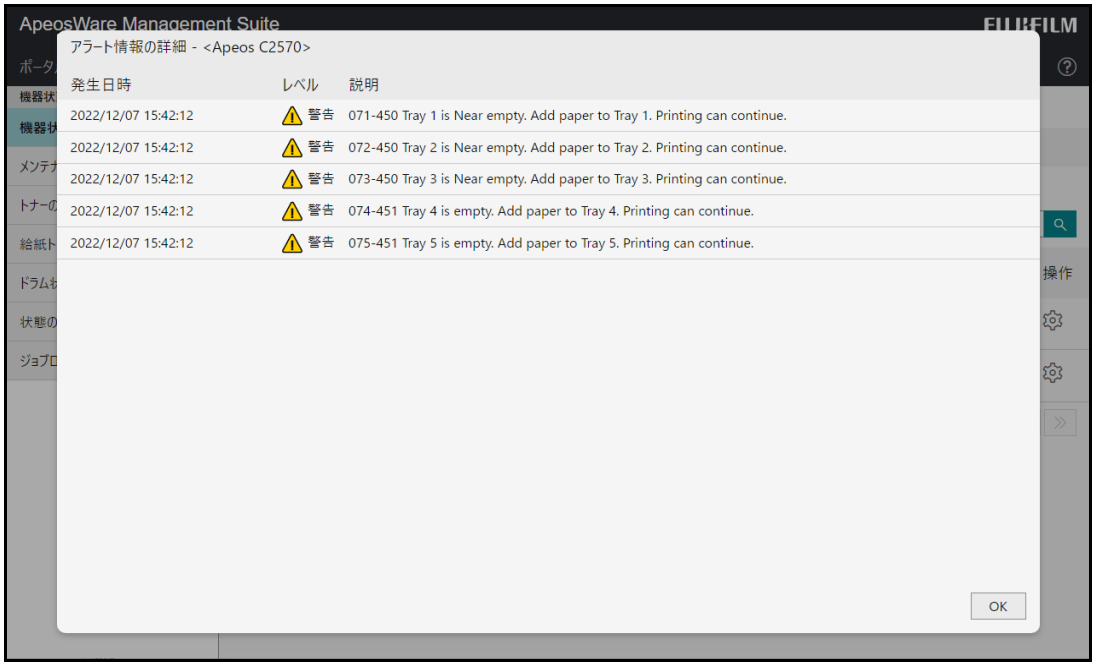


補足

機器の自動更新もできます。機器の［通信設定］の［状態監視設定］で［状態監視］を［する］に設定すると、［状態監視間隔］に設定した間隔で自動的に更新されます。

機器のアラート情報を確認する

［機器状態］一覧で、操作したい機器の ⚙ をクリックし、表示されたメニューから［アラート情報の詳細］を選択すると、機器のアラート情報が確認できます。



メンテナンス

表示方法

管理者画面のメニューを［機器・ジョブ状態］＞［機器状態］＞［メンテナンス］の順に選択します。

ページの概要

コピーやプリントの累計枚数など機器のメーター情報を表示します。機器の電源オフもできます。メーター情報は、機種や契約内容によって表示内容が異なります。

Internet Service に対応した機器の場合は、⚙ をクリックし、表示されたメニューから［機器の状態］を選択すると、Internet Service が起動して詳細を確認できます。

特定の機器グループに登録されている機器を抽出する

［編集］をクリックして、機器が登録されている機器グループを選択します。

機器のメーター情報を更新する

［機器メンテナンス］の一覧で、更新したい機器にチェックマークを付け、［更新］をクリックします。最新の機器のメーター情報が表示されます。



補足

機器の自動更新もできます。機器の［通信設定］の［状態監視設定］で［状態監視］を［する］に設定すると、［状態監視間隔］に設定した間隔で自動的に更新されます。

電源をオフにする

［機器メンテナンス］の一覧で、電源をオフにしたい機器の ⚙ をクリックし、［電源オフ］を選択します。

補足

機種によっては、ApeosWare Management Suite のメニューから電源オフを実行できない場合もあります。

トナーの残量

表示方法

管理者画面のメニューを［機器・ジョブ状態］＞［機器状態］＞［トナーの残量］の順に選択します。

ページの概要

機器のトナー残量を確認できます。

Internet Service に対応した機器の場合は、⚙ をクリックし、表示されたメニューから［機器の状態］を選択すると、Internet Service が起動して詳細を確認できます。

特定の機器のトナーの残量を確認する

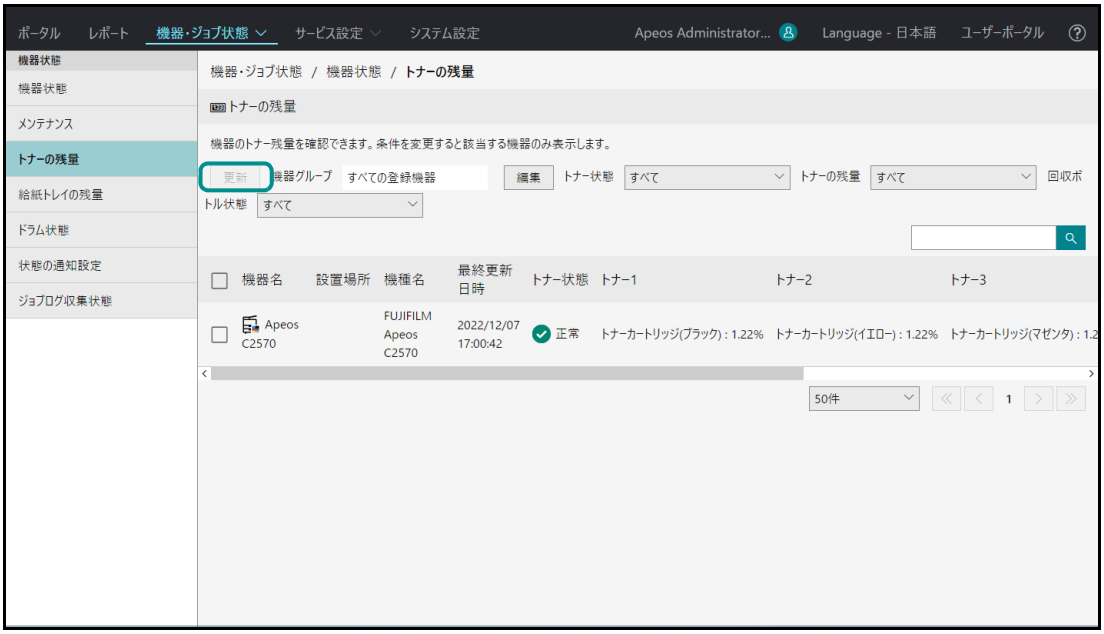
［編集］をクリックして、トナーの残量を確認したい機器を選択します。

トナー状態 / トナーの残量 / 回収ボトル状態をフィルタリングして確認する

プルダウンメニューから、確認したいトナー状態 / トナーの残量 / 回収ボトル状態を選択します。選択した状態の機器だけが表示されます。

トナーの残量情報を更新する

［トナーの残量］の一覧で、更新したい機器にチェックマークを付け、［更新］をクリックします。最新のトナーの残量が表示されます。



給紙トレイの残量

表示方法

管理者画面のメニューを［機器・ジョブ状態］＞［機器状態］＞［給紙トレイの残量］の順に選択します。
次のどちらかの方法で表示できます。

- 管理者画面のメニューを［機器・ジョブ状態］＞［機器状態］＞［給紙トレイの残量］の順に選択します。
- ポータル画面の［機器の状態］の「用紙切れの機器が xx 台数あります」をクリックします。
  「用紙切れ」状態の機器だけがフィルタリングされた状態の画面が表示されます。

ページの概要

機器の給紙トレイの残量を確認できます。

Internet Service に対応した機器の場合は、⚙ をクリックし、表示されたメニューから［機器の状態］を選択すると、Internet Service が起動して詳細を確認できます。

特定の機器の給紙トレイの残量を確認する

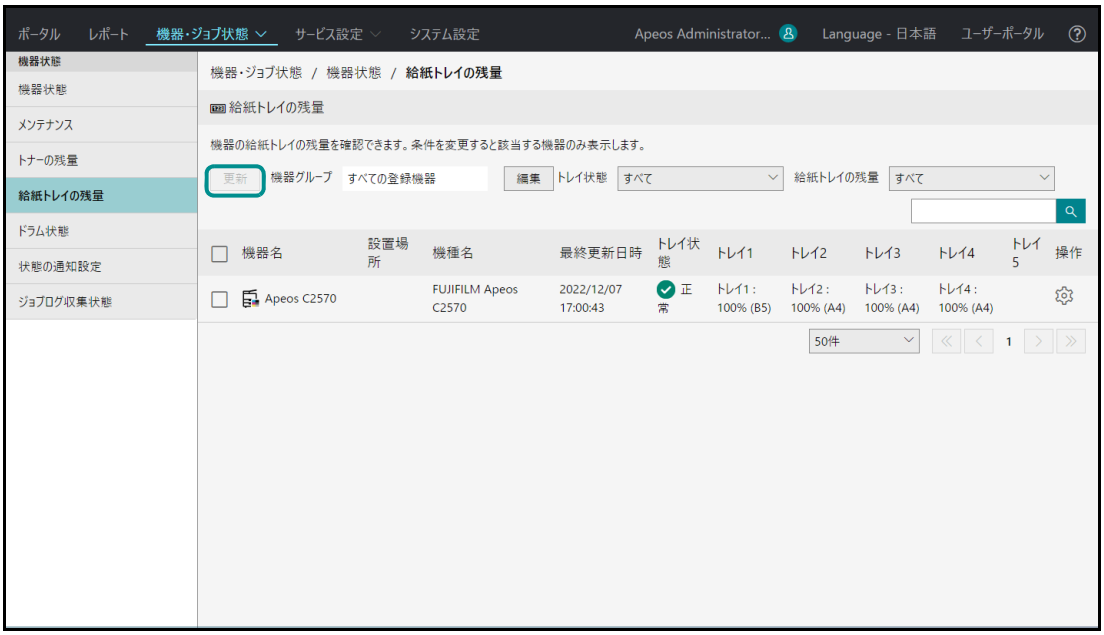
［編集］をクリックして、給紙トレイの残量を確認したい機器を選択します。

トレイ状態 / 給紙トレイの残量をフィルタリングして確認する

プルダウンメニューから、確認したいトレイ状態 / 給紙トレイの残量を選択します。選択した状態の機器だけが表示されます。

機器の給紙トレイの残量の情報を更新する

［給紙トレイの残量］の一覧で、更新したい機器にチェックマークを付け、［更新］をクリックします。最新の給紙トレイの残量が表示されます。



ドラム状態

表示方法

管理者画面のメニューを［機器・ジョブ状態］＞［機器状態］＞［ドラム状態］の順に選択します。

ページの概要

機器のドラム状態を確認できます。

Internet Service に対応した機器の場合は、⚙ をクリックし、表示されたメニューから［機器の状態］を選択すると、Internet Service が起動して詳細を確認できます。

特定の機器のドラム状態を確認する

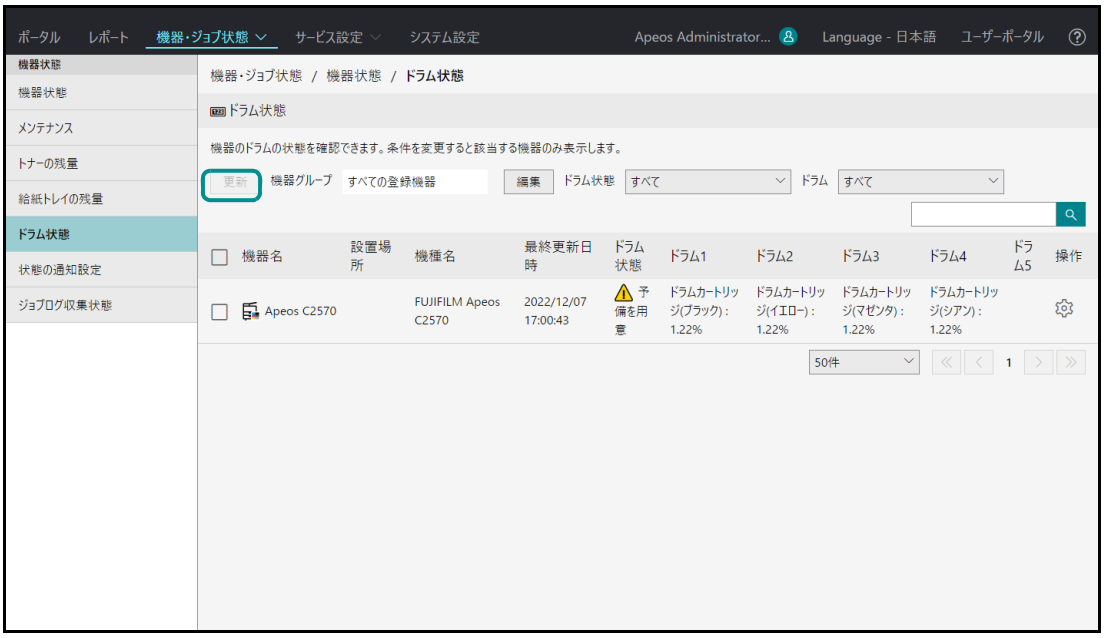
［編集］をクリックして、トナーの残量を確認したい機器を選択します。

ドラム状態をフィルタリングして確認する

プルダウンメニューから、確認したいドラム状態を選択します。選択した状態の機器だけが表示されます。

機器のドラム状態の情報を更新する

［ドラム状態］の一覧で、更新したい機器にチェックマークを付け、［更新］をクリックします。最新のドラム状態が表示されます。



状態の通知設定

表示方法

管理者画面のメニューを［機器・ジョブ状態］＞［機器状態］＞［状態の通知設定］の順に選択します。

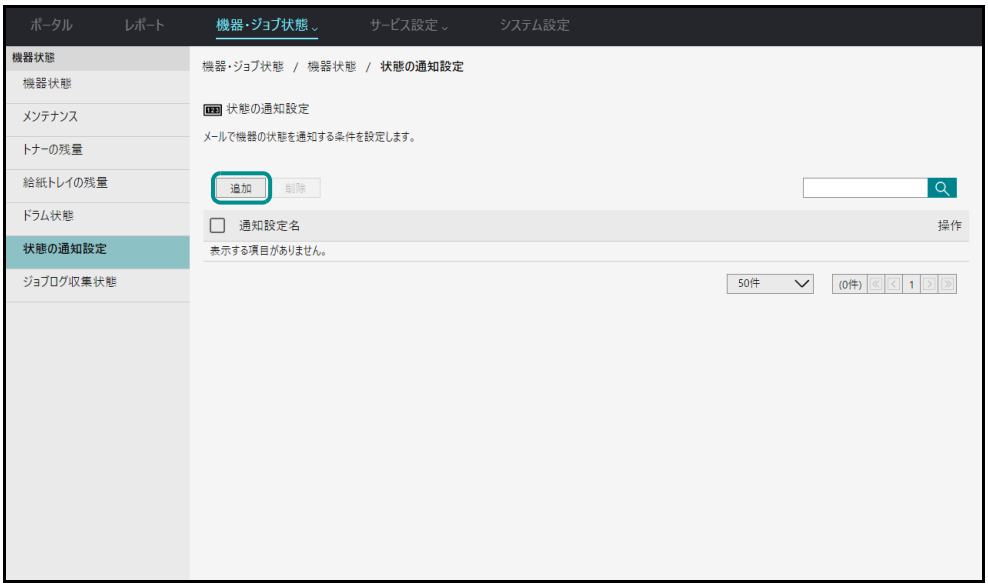
ページの概要

機器の状態をメールで通知するときの、通知条件、監視対象の機器、および通知先を設定します。

参照
メールを送信するための設定→「ネットワーク設定」(P.39)

通知条件を追加する

［追加］をクリックします。



(1) 詳細

次の項目を設定し、[次へ] をクリックします。

[警告 / エラー検出時の通知の条件設定]

機器で警告やエラーを検出したときにメールを通知する場合は、[する] を選択し、通知状態を選択します。

- [通知状態]

  通知する対象の状態を指定します。チェックマークを付けた通知状態に機器が変化したとき、メールが送信されます。複数の状態を指定できます。

通知状態	説明
トナー切れ	トナーがなくなった
トナー交換	トナーの残量が少なくなった
用紙切れ	用紙がなくなった
用紙補給	用紙の残量が少なくなった
紙づまり	紙が詰まった
カバーオープン	カバーが開いている
要対処	その他の対処を要する事態（トレイの障害、ドラムの交換など）が発生した
応答なし	機器からの応答がない
応答あり（SNMP エラー）	機器からの応答があるが、SNMP エラーが発生している
ジョブログ収集エラー	ジョブログ収集時に、取りこぼしやファイル保存エラーなどが発生した。 補足 ジョブログ収集エラーの通知は、上記の通知とは別のメールで送信されます。
セキュリティ設定の不一致	あらかじめ設定したセキュリティ設定から逸脱している

定期通知の条件設定

- [定期的に監視機器の状態を通知]

  指定した機器の状態が変化したかどうかにかかわらず、定期的にメールを送信する場合は、[する] を選択し、通知間隔を設定します。

  ・ [通知間隔]
  指定した間隔で通知するときは [間隔] を選択して、通知する間隔（分）を指定します。1 日 1 回通知するときは [毎日] を選択して、通知する時刻を指定します。週に 1 回通知するときは [毎週] を選択して、通知する曜日と時刻を指定します。月に 1 回通知するときは [毎月] を選択して、通知する日にちと時刻を指定します。

(2) 機器の監視

次の項目を設定し、[次へ] をクリックします。

[すべての機器の監視]

すべての機器を監視して通知の対象にする場合は、[する] を選択します。監視する機器を限定する場合は [しない] を選択して、以降の項目を指定します。

- [機器グループの監視]

  機器グループを監視して通知の対象にする場合は [する] を選択し、[追加] をクリックして対象の機器グループを選択します。

[機器の監視]

機器を個別に監視して通知の対象にする場合は [する] を選択し、[追加] をクリックして、対象の機器を選択します。

(3) 通知先

次の項目を設定し、[次へ] をクリックします。

[通知先ユーザー]

メールの通知先の通知先名とメールアドレスを指定します。＋ をクリックして複数指定できます。
[ユーザーのアドレスを追加] をクリックすると、メールアドレスが登録されているユーザー名の一覧から、ユーザーを選択できます。

[テストメールの送信]

[通知先ユーザー] に指定したすべてのメールアドレスに、テストメールを送信します。

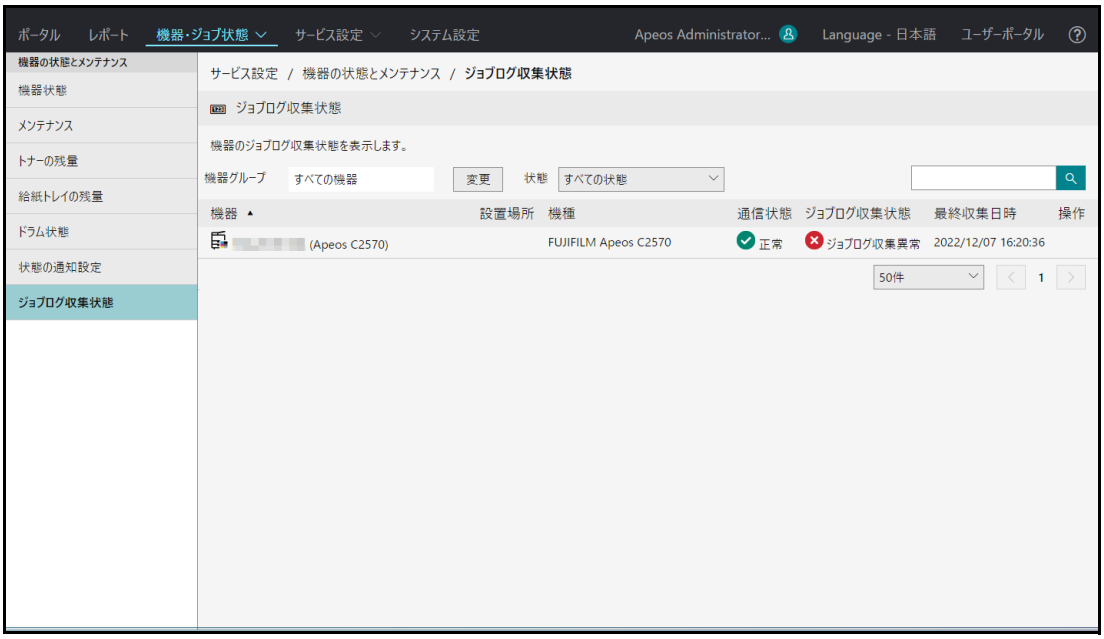
(4) 概要

設定した内容を確認し、[保存] をクリックすると、機器が登録されます。
各項目の [編集] をクリックし、設定した内容を変更することもできます。

ジョブログ収集状態

表示方法

管理者画面のメニューを [機器・ジョブ状態] > [機器状態] > [ジョブログ収集状態] の順に選択します。



ページの概要

機器のジョブログの収集状態を表示します。ジョブログの取りこぼしや機器の入れ替えが発生していないかなどを確認できます。状態を選択して、表示する機器を抽出できます。
ジョブログ収集状態には、次の種類があります。

状態	説明
	正常な状態です。
	エラーレベルの現象が発生しています。
	警告レベルの現象が発生しています。

機器を抽出して状態を表示する

［状態］から、表示したい機器の条件を選択します。

［すべての状態］

ジョブログの収集対象の機器をすべて表示します。

［不明］

状態が不明の機器を表示します。

［正常］

正常にジョブログが収集されている機器を表示します。

［無応答］

機器の情報を取得しようとしたが応答がなく、通信できなかった機器を表示します。

［取りこぼし発生］

なんらかの原因で収集できないジョブログがあった機器を表示します。取りこぼしについては、『導入・運用ガイド』の「取りこぼしについて」を参照してください。

［機器入れ替え発生］

同じ IP アドレスのまま、別の機器との入れ替わった機器を表示します。機器入れ替えについては、『導入・運用ガイド』の「機器の入れ替えについて」を参照してください。

［通信エラー］

次の理由によって、情報を取得できなかった機器を表示します。

- 機器との SNMP 通信でエラーが発生した
- 機器との Internet Service 通信でエラーが発生した
- 機器との SOAP 通信でエラーが発生した

［ジョブログ収集異常］

ジョブログの収集中にエラーが発生した機器を表示します。

- 機器から取得したジョブログ情報が不正だった
- ApeosWare Management Suite が対応しない機種だった
- 機器の入れ替えがあり、入れ替え後の機器からジョブログを収集できなかった
- 収集サービスの初期化や、収集処理の初期化に失敗した
- 上記以外のエラー

［ファイル保存エラー］

ジョブログファイルに関するエラーが発生している機器を表示します。

- ジョブログファイルの保存先が存在しない
- ジョブログファイルの保存先フォルダーやファイルに、アクセス権がない
- ジョブログファイルの保存先で、ディスク容量が不足している
- ジョブログファイルの作成中に、上記以外のエラーが発生

取りこぼし発生情報をクリアする

ジョブログの取りこぼしの状態を解消したあと、取りこぼし発生の状態表示を消すことができます。取りこぼし発生情報をクリアする場合は、［ジョブログ収集状態］ページの機器一覧で、取りこぼしが発生した機器の［取りこぼし発生をクリア］をクリックします。

機器の操作パネルからの操作

機器の操作パネルからの操作について説明します。

補足

- インストール時にコスト管理機能を有効にした場合で、［カスタム認証］の機器を使用するときは、コスト管理をする / しないに関係なく、機器を使用するユーザーにアカウントを関連づけてください。機器にログインするときや、機器から ApeosWare Management Suite にアクセスするときに、アカウントが設定されていないと、「利用可能なアカウントがありません」というエラーになります。
- 機器の操作パネルの操作中は、リモート操作パネル機能を使用できません。
- リモート操作中、機器の操作パネルにはクライアントコンピューターで操作している画面が表示されます。ログイン画面などでパスワードを入力する場合、操作パネルではパスワードが非表示になりますが、ユーザー ID などは表示されるため、第三者に読み取られる場合があります。

操作パネルの画面

機器で認証する認証 ID

機器の認証方式が［カスタム認証］の場合は、ユーザーを認証する ID に次のどれかを使用できます。

- ユーザー ID
- PAN（カード ID の手入力）
- 外部 ID

補足

［認証機能の設定］の［認証モード］で、［メールアドレスでの認証を可能にする］にチェックマークが付いている場合、ユーザー ID の入力欄にメールアドレスを入力して認証できます。

参照

「［ユーザー認証の設定］」（P.169）

運用中にどの認証 ID を使用するかは、［サービス設定］＞［ユーザー管理］＞［認証機能の設定］ページの［認証 ID の入力］で選択できます。

ユーザーは、［認証 ID の入力］で設定されている認証 ID を使って、認証操作をします。複数の認証 ID が設定されているときは、機器の操作パネルにログイン方法の選択画面が表示され、どの認証 ID を使用するかをユーザー自身が選択できます。



機器の認証方式が［本体認証］または［外部認証］の場合は、ユーザー ID を使用して認証します。

IC カードリーダーを使用した認証

［カスタム認証］の機器で IC カードリーダーを使用するときは、［認証機能の設定］ページで、［認証モード］＞［カード認証（複合機のみ）］にチェックマークを付けます。チェックマークが外れていると、カード認証ができません。

認証方式が［本体認証］と［外部認証］の機器の場合は、カードリーダーを設置して有効にすれば、自動的にカード認証が有効になります。

QR コードを使用した認証

［カスタム認証］の機器で QR コードによるログインを使用するときは、［サービス設定］＞［ユーザー管理］＞［認証機能の設定］で、使用するモバイルアプリ固有の情報が設定されている必要があります。設定されていないときは、QR コードを使用した認証機能を使用できません。

参照
「QR コードによるログインを使用する場合の事前設定」（P.69）

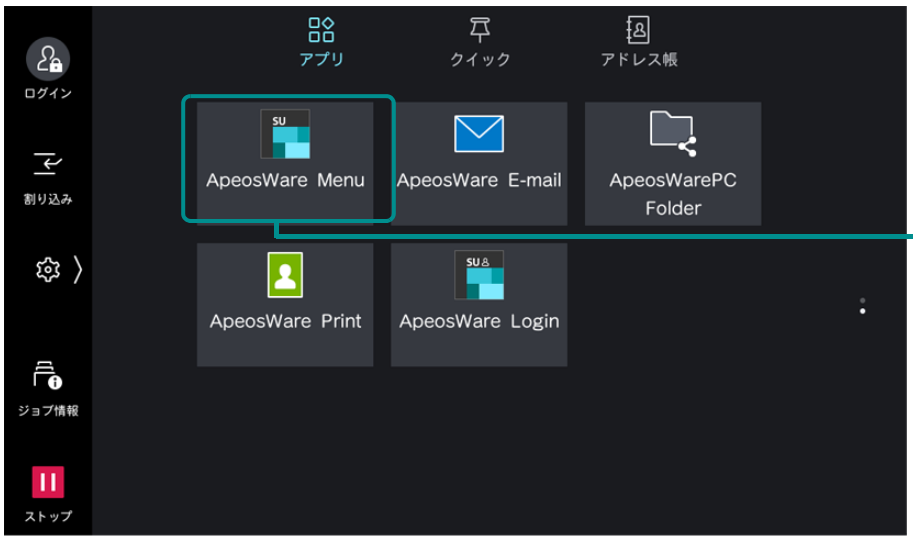
KJTech リーダーを使用した認証

［カスタム認証］の機器で KJTech リーダーを使用するときは、［認証機能の設定］ページで、［認証モード］＞［カード認証（複合機のみ）］にチェックマークを付けます。チェックマークが外れていると、KJTech 認証ができません。

認証方式が［本体認証］と［外部認証］の機器の場合は、KJTech リーダーを設置して有効にすれば、自動的に KJTech 認証が有効になります。

機器のホーム画面

機器が管理するメニュー画面です。設定によって次の内容が表示されます。



［ApeosWare Menu］ボタン

このボタンを押したときに遷移する画面は、ユーザーに関連づけられたアクセスプロファイルの［ログイン時の表示画面］の内容によって、次のどれかになります。

- オンデマンドプリント

  ApeosWare Management Suite のオンデマンドプリントの操作画面を表示します。

- 機器のホーム画面

  機器のホーム画面を表示します。

- ApeosWare Management Suite メニュー

  ApeosWare Management Suite のポータル画面を表示します。

参照

「ApeosWare Management Suite のポータル画面」（P.113）

補足

各機能のメニューボタン、または［ApeosWare Menu］ボタンを押したあと、ログイン画面が表示されることがあります。その場合は、認証後に、それぞれの画面が表示されます。

機能メニューボタン

機器グループの作成時に［機器のパネルの設定］＞［機器メニュー］で表示する設定にした機能のメニューボタンが表示されます。ボタンを押すと、ApeosWare Management Suite に接続後、それぞれの機能の操作画面が表示されます。

ApeosWare Management Suite のログイン画面

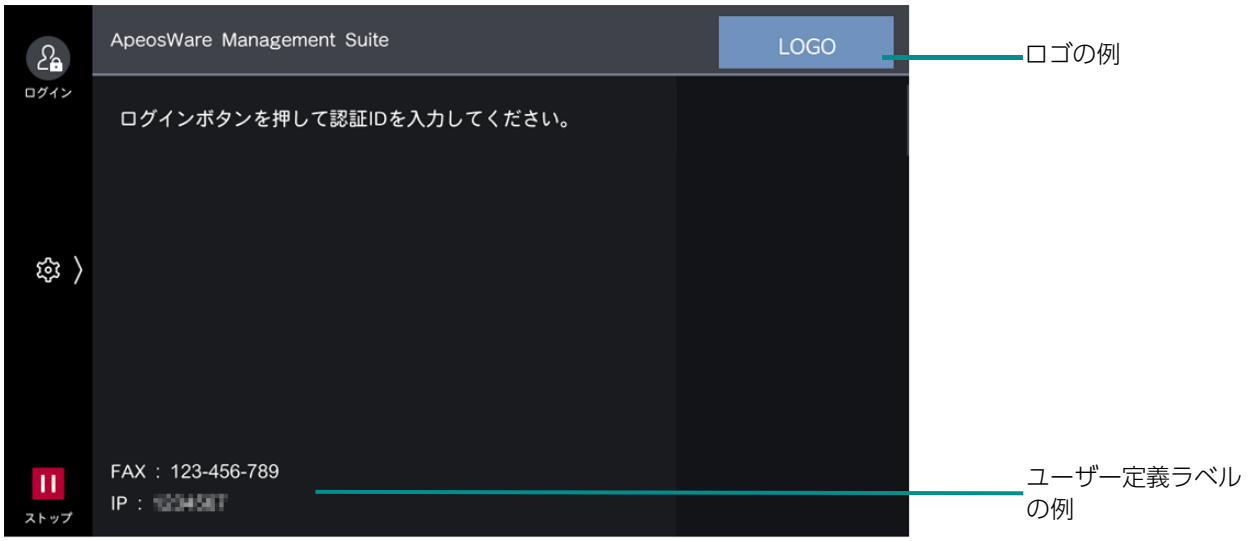
カスタム認証の場合に、認証のために表示される画面です。

［システム設定］＞［操作パネルのカスタマイズ設定］で設定した、ロゴ、接続用 QR コード、ユーザー定義ラベルを表示できます。

参照

「操作パネルのカスタマイズ設定」（P.50）

ApeosWare Management Suite のログイン画面の例を次に示します。



ApeosWare Management Suite のアカウント選択画面

ログインしたユーザーのアカウントを選択するために表示される画面です。

設定によってはアカウント選択画面が表示されずに、ApeosWare Management Suite のポータル画面が表示されます。

設定によっては ApeosWare Management Suite の画面に遷移したあとに、アカウントを変更できない場合があります。

補足

・ユーザーに関連づけられているアカウントが複数の場合に表示されます。

・ユーザーに関連づけられているアカウントが 1 アカウントでも、既定のアカウントに設定されていない場合や、［複合機でのアカウント選択の設定］の［認証後にいつも［アカウントの選択］を表示する］にチェックマークが付けられている場合は表示します。

・ユーザーに関連づけられているアカウントが未設定でも、アクセスプロファイルの［すべてのユーザーが使える共有アカウントの使用］が［許可する］にチェックマークが付けられている場合は表示します。ただし［残高下限到達時の強制停止］が未設定のユーザーに限定されます。
・［すべてのユーザーが使える共有アカウントの使用］が許可されていない場合でも、［複合機でのアカウント選択の設定］の［認証後にいつも［アカウントの選択］を表示する］にチェックマークが付けられているときは表示します。
・［残高下限到達時の強制停止］を［停止する］に設定した場合は、ApeosWare Management Suite の画面に遷移したあと、アカウントを変更できません。
・［残高下限到達時の強制停止］が未設定の場合でも、［すべてのユーザーが使える共有アカウントの使用］が許可されていないときは、ApeosWare Management Suite の画面に遷移したあと、アカウントを変更できません。

参照

・「(3) アカウントとの関連づけ」(P.126)
・「[すべてのユーザーが使える共有アカウントの使用]」(P.141)
・「[残高下限到達時の強制停止]」(P.141)
・「[複合機でのアカウント選択の設定]」(P.217)



［お気に入り］

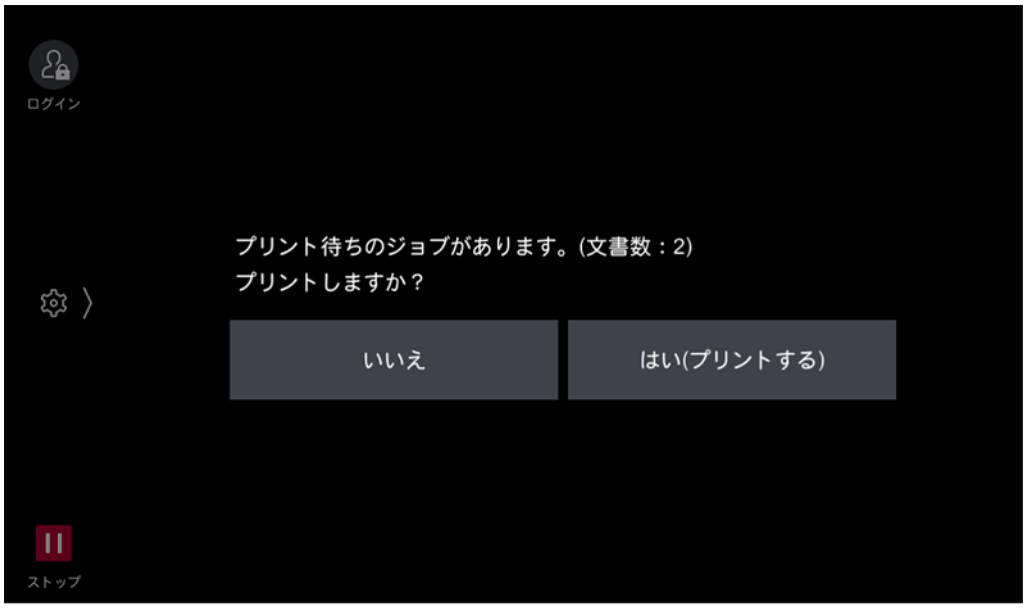
選択したアカウントを［お気に入りアカウント］の一覧に追加します。
選択したアカウントが既に一覧に追加されている場合は、一覧から削除します。

補足

［お気に入り］は［複合機でのアカウント選択の設定］の［初期設定］で設定された項目によって、表示が異なります。

［プリント確認］画面

ユーザーに関連付けられたアクセスプロファイルの［ログイン後の自動プリント］に［確認画面で選択する］が設定されている、かつ、保留中のジョブが 1 件以上ある場合に、認証後に表示される画面です。
［はい（プリントする）］を選択すると、プリントできるジョブをすべてプリントします。
［いいえ］を選択すると、［ログイン時の表示画面］で選択した画面を表示します。

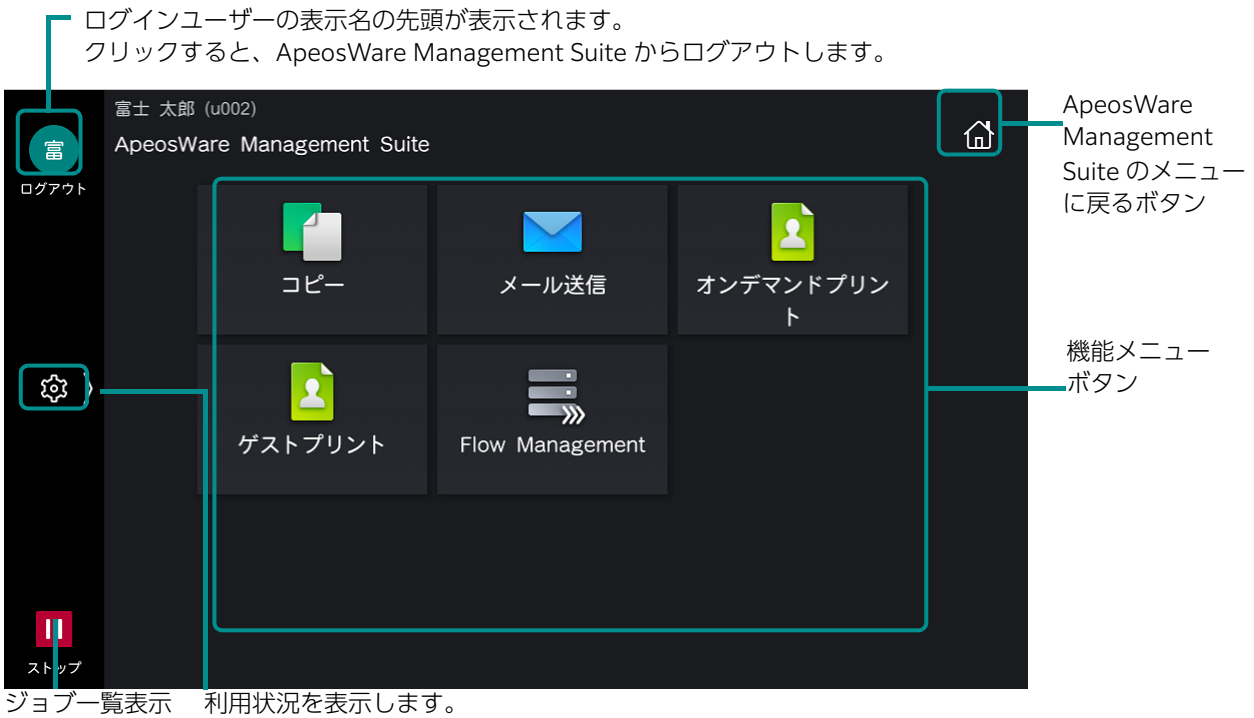


ApeosWare Management Suite のポータル画面

ApeosWare Management Suite が管理する画面です。

補足

ユーザーに関連づけられたアクセスプロファイルの設定によっては、ログインするとすぐに、利用状況の画面、オンデマンドプリントの操作画面、またはアカウントの選択画面が表示される場合もあります。



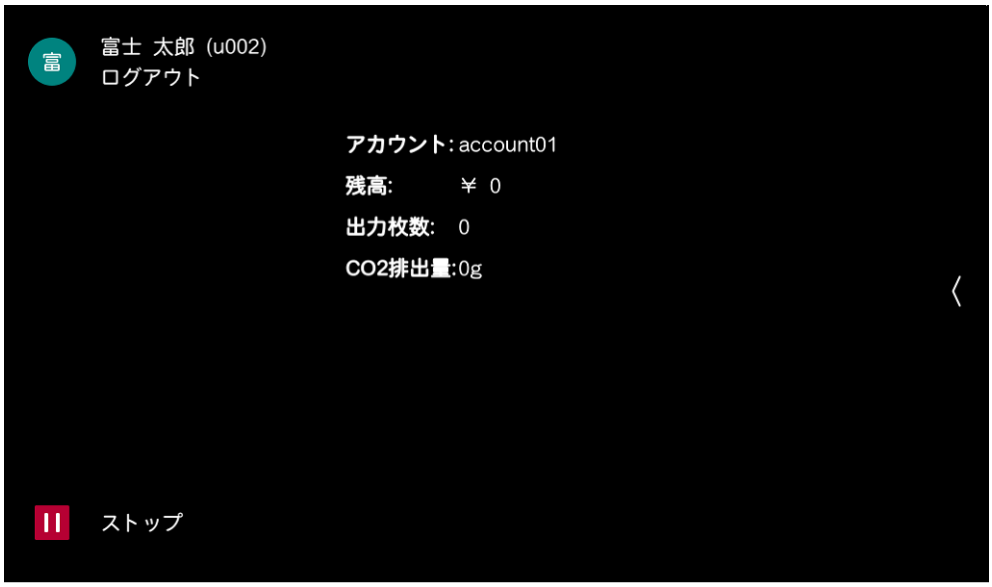
(利用状況の表示) ボタン

アクセスプロファイルの設定によって、[標準]、[詳細（コスト削減情報付き)] のどちらかが表示されます。

補足

コスト管理で使用する「アカウント」は、機器で設定する「AccountID」とは関係ありません。

- ［標準］
  ログインしているユーザーの、プリントの出力実績を表示します。

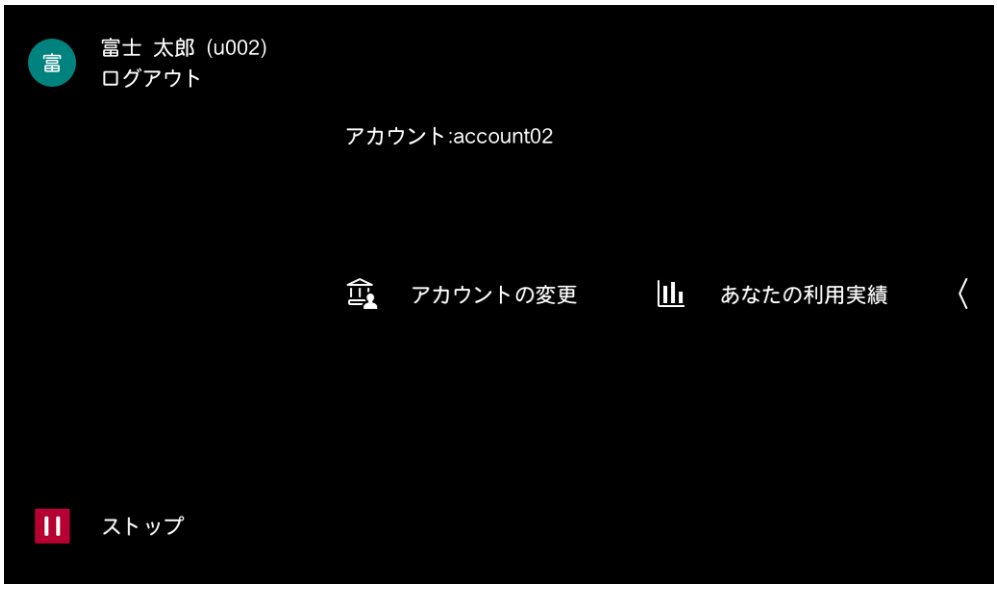


次の内容が表示されます。

項目	内容
アカウント *1	現在選択されているアカウントを表示します。
残高 *1	アカウントに割り当てられている残高を表示します。
出力枚数	当月度のプリント出力枚数を表示します。 補足 出力枚数はプリント直後には反映されず、ジョブログの集約処理のあとに反映されます。
CO2 排出量 (g)	当月度に削減した CO2 排出量を表示します。 「両面印刷」や「まとめて 1 枚印刷」を行うと、CO2 排出量を削減できます。
(アカウントの変更) ボタン	ボタンを押すと、アカウントを選択する画面が表示されます。

*1 コスト管理のアカウント設定で［複合機で残高を表示する］が有効の場合だけ、表示されます。

- ［詳細（コスト削減情報付き）］
  ログインしているユーザーの、コピーとプリントの出力実績、およびコスト削減情報を表示します。



(あなたの利用実績) ボタンを押すと、ログイン中のユーザーの当月分のジョブログを集計した結果が表示されます。ログインしているユーザーにアカウントが設定されている場合は、次の内容が表示されます。

項目	内容
集計期間	集計対象のジョブログの範囲を表示します。
ユーザー名	ログイン中のユーザー名を表示します。
出力数 *1	当月度のコピーとプリントの出力面数を表示します。
金額 *1	アカウントの設定で［複合機で残高を表示する］が無効の場合に表示されます。 料金体系に基づき、かかった金額を表示します。 料金体系に設定された割引 / 割増の設定は、金額には反映されません。
実績 *1	カラー、両面、N アップの実施率を表示します。 実施率が目標に達しないときは、注意を促す画面表示になります。
目標	アクセスプロファイルに設定されている目標値を表示します。
残高	アカウントの設定で［複合機で残高を表示する］が有効の場合に表示されます。 割り当てられている残高を表示します。
出力目安	アカウントの設定で［複合機で残高を表示する］が有効の場合に表示されます。 残高から換算して、残りの出力可能な面数を表示します。 設定で料金に違いがあるときは、最も高い設定と最も安い設定の 2 つの目安を表示します。

*1 コピーやプリント直後には反映されず、ジョブログの集約処理のあとに反映されます。

ログインしているユーザーにアカウントが設定されていない場合は、次の内容が表示されます。

項目	内容
出力数 *1	当月度のコピーとプリントの出力面数を表示します。
実績 *1	カラー、両面、N アップの実施率を表示します。 実施率が目標に達しないときは、注意を促す画面表示になります。
目標	アクセスプロファイルに設定されている目標値を表示します。

*1 コピーやプリント直後には反映されず、ジョブログの集約処理のあとに反映されます。

 （アカウントの変更）ボタンを押すと、アカウントを選択する画面が表示されます。

補足

［お気に入りアカウント］タブには、ユーザー自身が設定したお気に入りアカウントが表示されます。設定方法は、「お気に入りのアカウントを追加する」（P.232）を参照してください。
［最近使ったアカウント］タブには、最近ジョブを実行したアカウントが 10 件まで表示されます。

 （ジョブ一覧表示）ボタン

ログインしたユーザーのジョブの一覧が表示されます。

 （メニューに戻る）ボタン

ボタンを押したときに遷移する画面は、ユーザーに関連づけられたアクセスプロファイルの［[ホーム］ボタン押下時の表示画面］の内容によって、次のどちらかになります。

- 機器のホーム画面

  機器のメニュー画面を表示します。

  参照

  「機器のホーム画面」（P.110）
- ApeosWare Management Suite メニュー

  ApeosWare Management Suite のポータル画面を表示します。

機能メニューボタン

表示されるメニューは、オプションライセンスの設定状況と、ログインしているユーザーに関連づけられたアクセスプロファイルの［文書管理サービスへのアクセス］の設定内容によって異なります。ボタンを押すと、それぞれの機能の操作画面が表示されます。

操作パネルから ApeosWare Management Suite へのアクセス

機器の操作パネルから ApeosWare Management Suite の各機能にアクセスするには、次の 2 つの方法があります。

- カスタムサービスを使用する

  カスタムサービス（機器の組み込み Web ブラウザーで動作するサービス）に登録された機能のメニューボタンが、操作パネルに表示されます。このメニューボタンを押すことで、各機能にアクセスできます。
- 外部アクセス機能を使用する

  操作パネルの外部アクセスのメニューから、接続先の URL を選択してアクセスします。接続先 URL をあらかじめ設定しておきます。

補足

・カスタムサービスとしてメニューボタンが表示される機器では、外部アクセスを設定する必要はありません。
・スキャン文書のメール送信、文書管理サービスとの連携機能は、外部アクセス機能には対応していません。
・機種によっては、カスタムサービスや外部アクセスを利用できない場合もあります。

カスタムサービスを使用する

カスタムサービスを使用するには、次の設定が必要です。

補足

この機能を使用するには、カスタムサービスに対応している機種で、外部アクセスキットまたはカスタマイズ拡張キットが有効化されている必要があります。使用環境は機器によって異なります。詳しくはお使いの機器のマニュアルを参照してください。

Web ブラウザーからの設定

機器が所属する機器グループの［認証 / 集計モード］を、次のどれかに設定します。

- 本体認証 / 本体集計（本体認証）
- 本体認証 / ネット集計（ネット認証）
- 外部認証（認証システム：ApeosWare Authentication Agent）
- カスタム認証

機器のメニュー画面には、初期設定で［ApeosWare Menu］ボタンが表示されます。

個々の機能メニューを追加したい場合は、機器グループまたはサブ機器グループの設定時に、［機器のパネルの設定と登録データの管理］＞［機器のパネルの設定］で、表示するサービスの［機器メニュー］を［表示する］に変更します。

参照

・「［ApeosWare Menu］ボタン」（P.110）
・「機器グループを追加する」（P.76）

機器の設定

機器の操作パネルから［仕様設定 / 登録］画面を表示して、［Web ブラウザー設定］を次のようにします。

項目	設定内容
外部アクセスバージョンの選択	V5 または V4 補足 ［外部アクセスバージョンの選択］で［V5］が設定できる機種は、［V5］を設定することを推奨します。V6 はご利用できません。
Cookie の使用	する、または保存を確認する
JavaScript の使用	する

外部アクセス機能を使用する

外部アクセス機能を使用するには、機器の操作パネルから［仕様設定 / 登録］画面を表示して、［外部アクセス設定］、［Web ブラウザー設定］および［システム時計 / タイマー設定］を、それぞれ次のように設定します。

補足

・この機能を使用するには、外部アクセスに対応した機種で、外部アクセスキットが有効化されている必要があります。使用環境は機器によって異なります。詳しくは機器のマニュアルを参照してください。
・Flow Management Option で外部アクセス連携を設定する場合は、ここで説明する設定とは異なります。設定方法は『機能ガイド Flow Management Option 編』の「2 フローの環境設定」を参照してください。

外部アクセス設定

項目	設定内容
URL (外部アクセスバージョンが V5 の場合)	富士フイルムビジネスイノベーション社製の機器、および、富士ゼロックス社製の機器で、Controller ROM のソフトウェアバージョンが次のバージョン以降の場合 ・日本向けモデル : 1.60.0 以降または 1.100.0 以降 ・海外向けモデル : 1.60.0 以降または 1.145.0 以降 ・オンデマンドプリント http(s)-p0:// {サーバー名 /IP アドレス} /MFD/Print/FollowMePrint/Default?DisplayMode=NB ・ゲストプリント http(s)-p0:// {サーバー名 /IP アドレス} /MFD/Print/TokenPrint/Default?DisplayMode=NB ・ユーザーの自己登録 http:// {ホスト名} /UDR 富士ゼロックス社製機器で、Controller ROM のソフトウェアバージョンが上記バージョン未満の場合 ・オンデマンドプリント http(s)-p0:// {サーバー名 /IP アドレス} /MFDEX/Print/FollowMePrint/Default ・ゲストプリント http(s)-p0:// {サーバー名 /IP アドレス} /MFDEX/Print/TokenPrint/Default ・FUJI XEROX ApeosPort-VI 以前の場合のユーザーの自己登録 http-p0:// {ホスト名} /UDR ・FUJI XEROX ApeosPort-VII 以降の場合のユーザーの自己登録 http-p0:// {ホスト名} /UDR/?mode=9
URL (外部アクセスバージョンが V4 の場合)	富士フイルムビジネスイノベーション社製の機器、および、富士ゼロックス社製の機器で、Controller ROM のソフトウェアバージョンが次のバージョン以降の場合 ・日本向けモデル : 1.60.0 以降または 1.100.0 以降 ・海外向けモデル : 1.60.0 以降または 1.145.0 以降 ・オンデマンドプリント http:// {ホスト名} /MFD/Print/FollowMePrintV3/Default ・ゲストプリント http:// {ホスト名} /MFD/Print/TokenPrintV3/Default 補足 弊社製機器の場合、外部アクセスバージョンが V4 のとき、ユーザーの自己登録機能は利用できません 富士ゼロックス社製機器で、Controller ROM のソフトウェアバージョンが上記バージョン未満の場合 ・オンデマンドプリント http:// {ホスト名} /MFDEX/Print/FollowMePrintV3/Default ・ゲストプリント http:// {ホスト名} /MFDEX/Print/TokenPrintV3/Default ・ユーザーの自己登録 http:// {ホスト名} /UDR
接続用ユーザー ID の使用	使用しない
接続用ユーザー ID	なし
接続用ユーザー ID のパスワード	なし
外部サービスへの本体 / 認証情報の通知	通知する サーバーの種類を選択する項目がある場合は、「富士フイルム BI 製サーバー」を選択
ユーザー権限情報の通知	通知しない

補足

{ホスト名} には、ApeosWare Management Suite サーバーのホスト名または IP アドレスが入ります。
ApeosWare Management Suite サーバーを SSL 構成にしている場合は、「https」を指定します。ポート番号を初期設定から変更している場合は、{ホスト名} に続けてコロン（:）とポート番号を指定します。大文字と小文字は区別されます。

Web ブラウザー設定

項目	設定内容
外部アクセスバージョンの選択	V5 または V4 補足 [外部アクセスバージョンの選択] で [V5] が設定できる機種は、[V5] を設定することを推奨します。V6 はご利用できません。
終了時のキャッシュの削除	しない
JavaScript の使用	する
キャッシュの使用	する
Cookie の使用	する
リダイレクトへの警告	[異なるホストへの送信時] または [しない]

外部アクセスパラメーター設定

外部アクセス設定の URL にパラメーターを追加することで、一部の機能を変更できます。

例) http://awms.example.com/MFD/Print/FollowMePrint/Default?lang=ja

項目	パラメーター	説明
言語指定	lang=[ja/en/ko/zh-tw/zh-cn/th]	表示言語を変更できます。 ja：日本語 en：英語 ko：韓国語 zh-tw：繁体中国語 zh-cn：簡体中国語 th：タイ語
リストなし印刷	autorelease=[yes/no]	機器の操作パネルからプリントジョブの選択や詳細情報を確認するためのリスト画面を表示するかどうかを切り替えます。初期設定は「リストあり印刷」です。 yes: リストなし印刷 no: リストあり印刷

システム時計 / タイマー設定

項目	設定内容
オンデマンド印刷の有効時間	オンデマンドプリントをする場合は、プリントの有効時間を設定します。プリントを指示したあと、ここで設定した時間内にプリントジョブを受信しないと、プリント指示が無効になります。 補足 一度に大量のプリントジョブをプリント指示した場合や、処理に時間がかかる複雑なプリントジョブが含まれる場合は、受け付けが終わる前にタイムアウトすることがあります。使用状況を考慮して、適切な時間を設定してください。

IC Card Gate を使用する（オンデマンドプリントの場合のみ）

ネットワーク接続された IC Card Gate シリーズを使用してオンデマンドプリントをする場合は、IC Card Gate 側で次のように設定します。

IC Card Gate 側の設定

機能	設定
プリントサービス	PrintXchange オンデマンドプリント
接続先パス	次の URL を指定します。*1 http://｛ホスト名｝/MFD/Print/FollowMePrintV3/Default?uiless=yes
ユーザー名 / パスワード	Basic 認証を使用する場合は、ApeosWare Management Suite サーバー上の Windows とインターネットインフォメーションサービス（IIS）で登録、設定した、ユーザー ID とパスワードを指定します。 Basic 認証を使用しない場合は、必要ありません。
認証システム	ApeosWare Management Suite で認証する場合は、［ApeosWare Authentication Agent］を選択します。
インストール時に指定するエイリアス（プライマリ）	/MFD/AuthAgent/

*1 ｛ホスト名｝には、ApeosWare Management Suite サーバーのホスト名または IP アドレスが入ります。
ApeosWare Management Suite サーバーを SSL 構成にしている場合は、「https」を指定します。ポート番号を初期設定から変更している場合は、｛ホスト名｝に続けてコロン（:）とポート番号を指定します。大文字と小文字は区別されます。

こんなときは

機器管理に関連する操作について説明します。

登録済みのカード ID があるため、ユーザー情報が機器に反映されないときは

機器への反映時に、機器に登録済みのカード ID がユーザーに設定されていると、エラーとなり、機器への反映に失敗します。

一時的にユーザーにカードを貸し出したり、あるユーザーに設定されていたカード ID をほかのユーザーに設定し直したりする場合は上記の状態となり、ユーザー情報を機器に反映できません。このような運用をするときは、次の手順で設定ファイルの値を変更します。

1. ApeosWare Management Suite がインストールされた PC に、Administrators グループのユーザーでログオンします。
2. 次のファイルをテキストエディタ — で開きます。
   フォルダー：｛データ格納先フォルダー｝ ￥Data￥karaf￥etc
   ファイル名：dm-custom.properties

   ｛データ格納先フォルダー｝ は、初期設定を変更していない場合は次になります。
   C:￥FUJIFILM￥ApeosWare MS
3. 「com.fujifilm.fb.apeosware.dm.devsync.user.replaceCardID」の設定値を、「true」に変更し、上書き保存します。

   ```
   com.fujifilm.fb.apeosware.dm.devsync.user.replaceCardID=true
   ```
4. PC を再起動します。

補足

この設定をすると、ユーザー情報を機器に反映するときに、機器に登録済みのカード ID が削除されてから新しいカード ID が登録されます。このため、削除処理のあとに問題が発生してカード ID の登録に失敗すると、そのユーザーがログインできなくなるおそれがあります。
カード ID の登録に失敗した場合でも、リトライすると成功することがあるので、［機器データの反映条件の設定］で［反映失敗時の再実行］を［する］に設定して運用してください。

参照
「機器データの反映条件の設定」（P.98）

IC Card Gate をネットワークに接続するときは

IC Card Gate シリーズをネットワークに接続して使用する場合は、IC Card Gate 側のセットアップで、エイリアス設定に次を指定してください。

/MFD/AuthAgent

サーバーの HDD 空き容量が少なくなったときは

サーバーの HDD 空き容量が少なくなったときは、ログファイルの移動や削除をしてください。

また、ジョブログを保持する期間を大幅に短縮した場合、一度に大量のジョブログデータがデータベースから削除されるため、トランザクションログ（AWM2.ldf）のサイズが肥大化してしまうことがあります。その場合には、トランザクションログが肥大化したあとに、次のコマンドを実行してトランザクションログのサイズを圧縮してください。

［INSTALLDIR］¥WinSvc¥Mon¥bin¥awmsshrinkDBLog.bat

［INSTALLDIR］の初期値は、C:¥Program Files¥FUJIFILM¥ApeosWare MS です。コマンドは Administrators グループのユーザーで実行してください。

なお、このコマンドを実行するときは、システムのパフォーマンスが低下する可能性がありますので、運用時間中や ApeosWare Management Suite の日付変更時の処理時間帯（深夜 0:00 から 2:00 付近）は避けてください。

ユーザー管理を使用しないで、プリント管理の機能を使用する場合の注意

ApeosWare Management Suite のユーザー管理を使用しないでプリント管理の機能を使用する場合、ユーザー管理でのユーザー登録、およびコスト管理でのアカウント登録は必要ありません。

オンデマンドプリント機能を使用する場合は、「外部アクセス機能を使用する」（P.117）」を参照し、機器の［外部アクセス設定］でオンデマンドプリントの URL を登録してください。

ユーザー管理を使用しない場合、プリント管理機能はプリントジョブのユーザーを特定するために、プリンタードライバーのユーザー情報に基づいてプリントジョブを生成します。ユーザー管理で登録されているユーザーとは連携しません。ユーザーを登録しても、関連づいているプリント機能は使用できません。

4 ユーザーの管理

Web ブラウザーからの設定と確認

Web ブラウザーからユーザーに関する設定や確認ができます。それぞれのページでどのようなことができるかを説明します。

- ［サービス設定］＞［ユーザー管理］

ページ		説明
ユーザーグループ一覧		
	ユーザーグループ一覧	ユーザーを束ねるユーザーグループを作成、管理します。 参照 「ユーザーグループ一覧」（P.125）
	ユーザーグループの詳細	選択したユーザーグループやサブユーザーグループに、下位のグループ、ユーザーの関連づけ、およびアカウントの関連づけを追加します。 参照 「ユーザーグループ一覧（ユーザーグループの詳細）」（P.128）
ユーザーの一覧		
	すべてのユーザー	機器を使用するユーザーを登録、管理します。また、ユーザーの有効と無効の切り替えやロックの解除をします。 参照 「ユーザー一覧（すべてのユーザー）」（P.129）
	ユーザーの詳細	選択したユーザーに、アカウントの関連づけや委任ユーザーを追加します。 参照 「ユーザー一覧（ユーザーの詳細）」（P.135）
アクセスプロファイル一覧		使用できる機器や各機能へのアクセス権を設定します。 参照 「アクセスプロファイル一覧」（P.136）
ユーザーインポート一覧		
	ユーザーインポート	ユーザー情報を、外部認証サーバーやファイルからインポートして、ApeosWare Management Suite に登録します。 参照 「ユーザーインポート一覧［ユーザーインポート］タブ」（P.146）
	アカウントインポート	アカウント情報をファイルからインポートして、ApeosWare Management Suite に登録します。 参照 「ユーザーインポート一覧［アカウントインポート］タブ」（P.163）

ページ	説明
ユーザーインポート一覧（続き）	
ユーザー / アカウントの関連づけ	ユーザー ID とアカウント名などを対応づけたファイルをインポートして、ユーザーとアカウントを関連づけます。 参照 「ユーザーインポート一覧［ユーザー / アカウントの関連づけ］タブ」(P.164)
ドメイン一覧	連携する外部認証サーバーを設定します。 参照 「ドメイン一覧」(P.166)
認証機能の設定	ユーザーの認証に関する設定をします。 参照 「認証機能の設定」(P.169)
富士フイルム BI ダイレクト連携 補足 この機能は、日本国内だけで利用できます。	富士フイルム BI ダイレクトとの認証連携に関する設定をします。 参照 「富士フイルム BI ダイレクト連携」(P.181)
キーワード条件ポリシー 補足 この機能は一部の国または地域では利用できません。詳細は弊社の代理店にお問い合わせください。	キーワード条件ポリシーを設定します。 参照 「キーワード条件ポリシー」(P.173)
条件	条件を設定します。 参照 「条件」(P.174)
サポートフォント	サポートフォントを設定します。 参照 「サポートフォント」(P.175)
印刷ポリシー	印刷ポリシーを設定します。 参照 「印刷ポリシー」(P.176)
ウォーターマーク	ウォーターマークを設定します。 参照 「ウォーターマーク」(P.177)
ヘッダー / フッター	ヘッダー / フッターを設定します。 参照 「ヘッダー / フッター」(P.179)
QR コード	QR コードを設定します。 参照 「QR コード」(P.180)

ユーザーグループ一覧

表示方法

管理者画面のメニューを［サービス設定］＞［ユーザー管理］＞［ユーザーグループ一覧］の順に選択します。

ページの概要

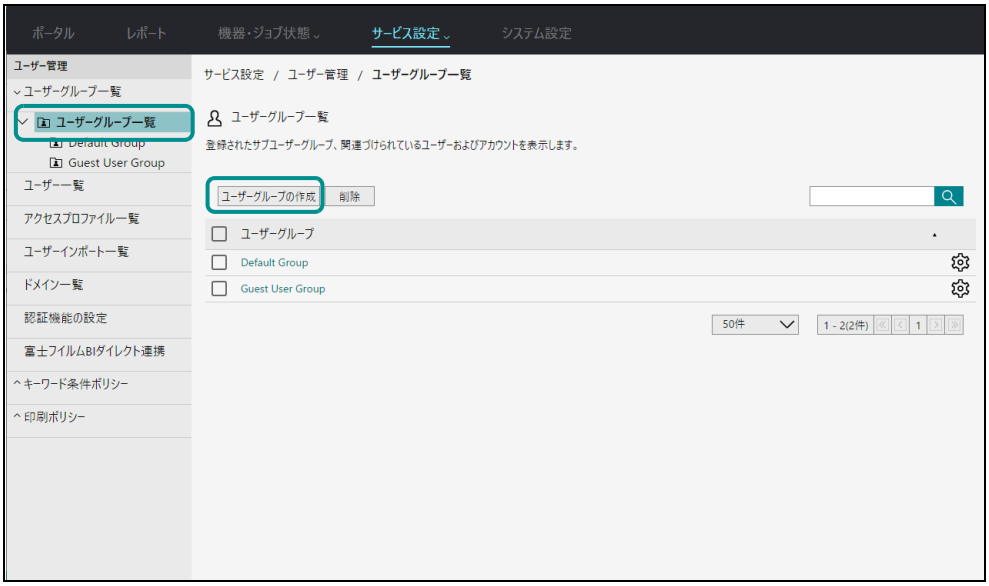
ユーザーを束ねるユーザーグループを作成、管理します。ユーザーグループの作成、プロパティの編集、コピー、および削除ができます。

参照

ユーザー、ユーザーグループについて →『導入・運用ガイド』

ユーザーグループを作成する

サイドメニューで［ユーザーグループ一覧］を選択して、［ユーザーグループの作成］をクリックします。



(1) ユーザーグループの設定

次の項目を設定し、［次へ］をクリックします。

［ユーザーグループ名］

ユーザーグループ名を入力します。

［説明］

必要に応じて、ユーザーグループの説明を入力します。

［親ユーザーグループ］

ユーザーグループが所属する親ユーザーグループを指定します。［変更］をクリックすると、作成済みのユーザーグループが表示され、ユーザーグループを選択できます。

［アクセスプロファイル］

アクセスプロファイルを選択します。このユーザーグループに所属するユーザーは、アクセスプロファイルが設定されていない場合に、ここで指定したアクセスプロファイルが適用されます。

ドロップダウンリストボックスの下の「アクセスプロファイルの作成」をクリックし、アクセスプロファイルを新規作成することもできます。

参照

「アクセスプロファイルを追加する」（P.137）

[外部 ID]

必要に応じて、外部 ID を入力します。

外部 ID は、外部のシステムとユーザーグループを対応付けるときに使用します。

[ユーザーポータルへのアクセス]

- [[アクセスプロファイル] で設定する]

  アクセスプロファイルで権限を設定します。

- [Web プリントのみ許可する]

  アクセスプロファイルの設定に関係なく、ユーザーポータル画面では Web プリントだけを許可します。

(2) ユーザーとの関連づけ

次の項目を設定し、[次へ] をクリックします。

[ユーザーの関連づけ]

[する]

ユーザーグループにユーザーを追加する場合は、[する] を選択し、次の手順でユーザーを追加します。

(1) [追加] をクリックし、[ユーザーの作成] ダイアログボックスを表示します。

(2) 追加するユーザーにチェックマークを付け [追加] をクリックします。

補足

・有効になっているユーザーだけが追加できます。

・すべてのユーザーを追加する場合は、[ユーザーの作成] ダイアログボックスの [すべて追加] をクリックします。

・[ユーザーの作成] ダイアログボックスに表示されたユーザーを絞り込む場合は、  に検索したいユーザー ID または姓名の一部を入力し、<Enter> キーを押します。

・ユーザーの関連づけを削除する場合は、[削除] または [すべて削除] をクリックします。

・ほかのグループに所属しているユーザーを選択した場合、所属するユーザーグループが移動します。

[しない]

ユーザーの関連づけをしない場合に選択します。

(3) アカウントとの関連づけ

次の項目を設定し、[次へ] をクリックします。

[アカウントの関連づけ]

コスト管理をする場合にだけ設定します。ユーザーは、自分に関連づけられたアカウントと、所属するユーザーグループに関連づけられたアカウントをすべて使用できます。

補足

[コスト管理] メニューでも、ユーザーグループとアカウントとの関連づけを設定できます。どちらで操作しても同じ設定になります。

[する]

ユーザーグループにアカウントを関連づける場合は [する] を選択し、次の手順でアカウントを関連づけます。

(1) [追加] をクリックし、[アカウントの追加] ダイアログボックスを表示します。

(2) 関連づけるアカウント名にチェックマークを付け [追加] をクリックします。

補足

・有効になっているアカウントだけが追加できます。
・すべてのアカウントを追加する場合は、［アカウントの追加］ダイアログボックスの［すべて追加］をクリックします。
・関連付けるアカウントの一覧に表示されたアカウントを絞り込む場合は、  に検索したいアカウント名の一部を入力し、<Enter> キーを押します。

参照

［アカウントを有効にする］（P.201）

(3) ユーザーグループに複数のアカウントを関連づけた場合は、［既定のアカウント］で、ユーザーグループに関連づけたユーザーが初期状態で使用するアカウントを選択します。

補足

アカウントの関連づけを削除する場合は、［削除］または［すべて削除］をクリックします。

［しない］

ユーザーグループにアカウントを関連づけない場合に選択します。

(4) 概要

設定した内容を確認し、［保存］をクリックすると、ユーザーグループが作成されます。

各項目の［編集］をクリックし、設定した内容を変更することもできます。

ユーザーグループの情報を確認する

ユーザーグループ一覧の をクリックして、［プロパティ］を選択します。

ユーザーグループに設定した内容を表示・編集できます。編集できる項目は、「ユーザーグループを作成する」（P.125）と同じです。

補足

表示される項目のうち、ユーザーグループ ID は、システムが自動的に設定した値です。変更できません。

ユーザーグループをコピーする

ユーザーグループ一覧の をクリックして、［コピー］を選択します。

ユーザーグループに設定した内容をコピーし、新しいユーザーグループを作成できます。コピーするとき、設定項目を編集できます。編集できる項目は、「ユーザーグループを作成する」（P.125）と同じです。

補足

ユーザーとの関連づけの情報はコピーされません。

ユーザーグループを削除する

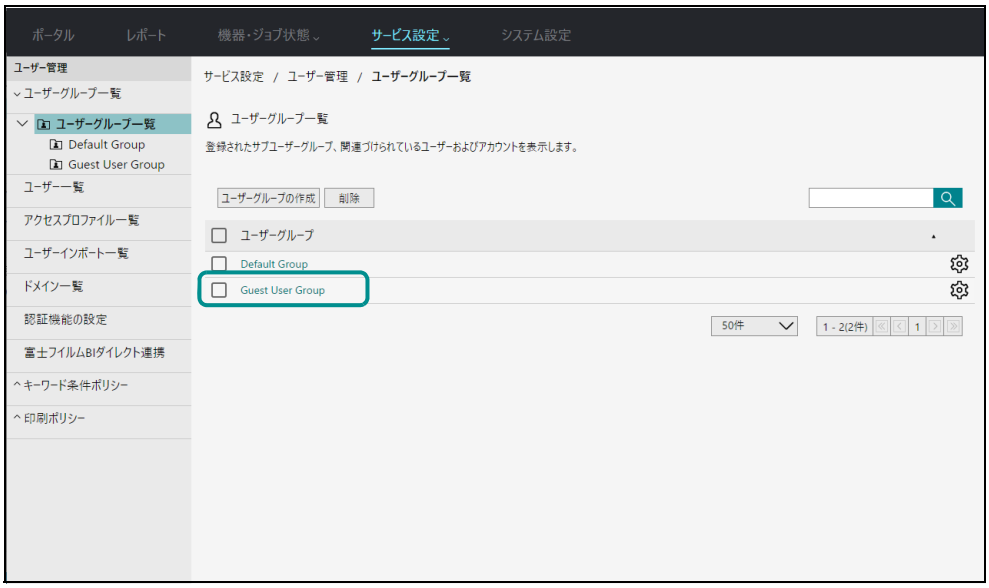
ユーザーグループ一覧の をクリックして、［削除］を選択します。

削除対象のユーザーグループにユーザーが存在したときや、下位のユーザーグループが存在したときは、グループ内のすべてのユーザーとユーザーグループが、階層構造を保ったまま既定のユーザーグループ（Default Group）に移動されます。

ユーザーグループ一覧（ユーザーグループの詳細）

表示方法

サイドメニューで、既存のユーザーグループまたはサブユーザーグループをクリックします。または、ユーザーグループ一覧でグループ名をクリックします。

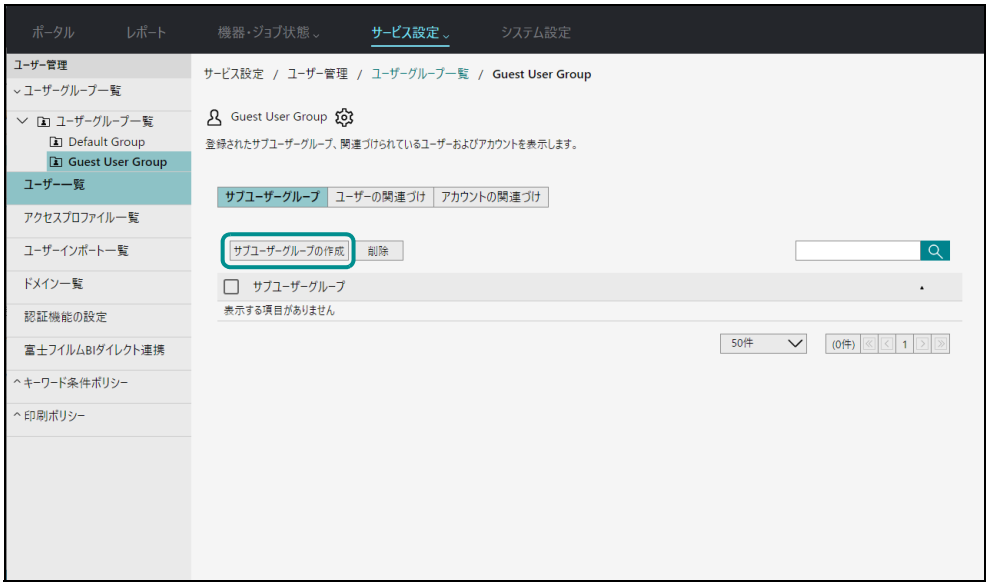


ページの概要

選択したユーザーグループまたはサブユーザーグループに、下位のサブユーザーグループ、所属するユーザー、およびアカウントの関連づけを追加します。

サブユーザーグループを作成する

［サブユーザーグループ］タブを表示して、［サブユーザーグループの作成］をクリックします。現在選択しているユーザーグループ（またはサブユーザーグループ）に、下位のサブユーザーグループを追加します。



設定する項目は、「ユーザーグループを作成する」（P.125）と同様です。

サブユーザーグループの情報を確認する

サブユーザーグループ一覧の ⚙ をクリックして、［プロパティ］を選択します。

サブユーザーグループに設定した内容を表示・編集できます。編集できる項目は、「ユーザーグループを作成する」（P.125）と同じです。

サブユーザーグループをコピーする

サブユーザーグループ一覧の をクリックして、［コピー］を選択します。

サブユーザーグループに設定した内容をコピーし、新しいサブユーザーグループを作成できます。コピーするとき、設定項目を編集できます。編集できる項目は、「ユーザーグループを作成する」（P.125）と同じです。

補足

ユーザーとの関連づけの情報はコピーされません。

サブユーザーグループを削除する

［サブユーザーグループ］タブを表示します。一覧で、削除するサブユーザーグループ一覧の をクリックして、［削除］を選択します。

動作は、「ユーザーグループを削除する」（P.127）と同様です。

ユーザーの関連づけを変更する

［ユーザーの関連づけ］タブを表示します。

選択しているユーザーグループ（またはサブユーザーグループ）に所属する、ユーザーの一覧が表示されます。［リストの編集］をクリックすると、ユーザーの関連づけページが表示され、ユーザーを追加または削除できます。

なお、「Default Group」に関連づけられているユーザーはリストから削除できません。

アカウントの関連づけを変更する

［アカウントの関連づけ］タブを表示します。

選択しているユーザーグループ（またはサブユーザーグループ）に関連づけられている、アカウントの一覧が表示されます。［リストの編集］をクリックすると、アカウントの関連づけページが表示され、アカウントを追加または削除できます。

ユーザー一覧（すべてのユーザー）

表示方法

管理者画面のメニューを［サービス設定］＞［ユーザー管理］＞［ユーザー一覧］の順に選択します。

ページの概要

機器を使用するユーザーを登録、管理します。ユーザーの追加、プロパティの編集、削除、有効と無効の切り替え、およびロックの解除ができます。

補足

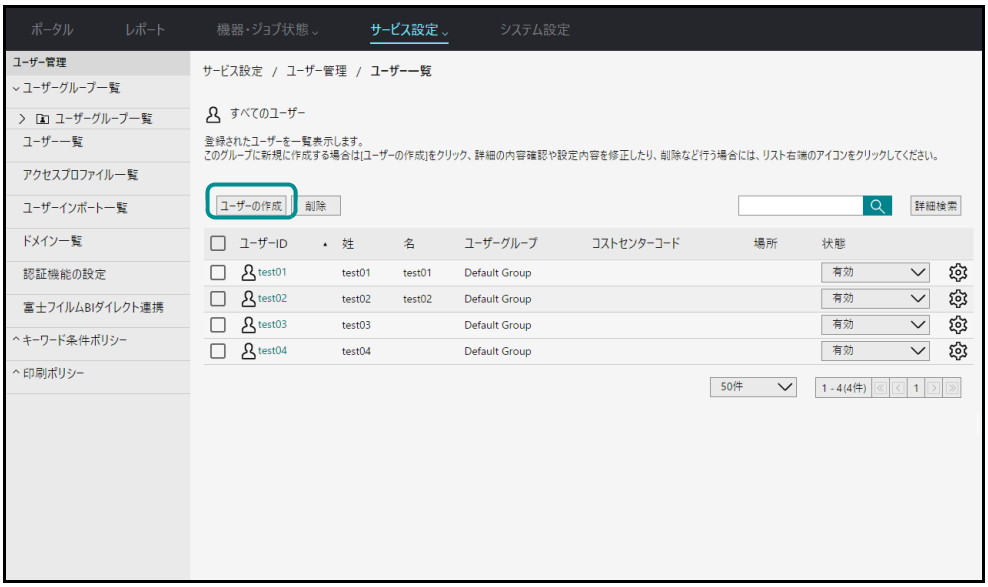
一覧に表示される［名］と［性］の表示順は、［共通設定］の［表示設定］によって異なります。

参照

「表示設定」（P.43）

ユーザーを追加する

［ユーザーの作成］をクリックします。



(1) ユーザーの設定

次の項目を設定し、［次へ］をクリックします。

［名］

ユーザーの名前を入力します。

［姓］

ユーザーの名前（姓）を入力します。

［表示名］

ユーザーの表示名を入力します。

補足

追加したユーザーを機器に反映する場合は、文字数を全角の文字で 16、半角の文字で 32 以内で設定してください。この文字数を超えたユーザーの表示名を設定すると、機器に反映できません。

［ふりがな］

ユーザーの表示名のふりがなを入力します。

［索引文字］

宛先表のインデックス検索で利用されるインデックス文字を入力します。入力できる文字は「A-Z、あーん」です。

未入力の場合は、ふりがな、表示名、ユーザー ID の順に、頭文字 1 文字が自動認識され、自動的に入力されます。

［親ユーザーグループ］

［変更］をクリックして、ユーザーを所属させるユーザーグループを選択します。初期設定では、「Default Group」が設定されます。

［メールアドレス］

ユーザーのメールアドレスを入力します。＋をクリックすると、複数設定できます。複数設定した場合は、標準にしたいメールアドレスの［標準設定にする］をクリックします。

メールアドレスの大文字と小文字は区別されません。

補足

ユーザーに複数のメールアドレスを設定した場合でも、「標準設定にする」に指定したメールアドレスだけにメールが送信されます。

[ユーザー ID]

ユーザーを特定するための ID を入力します。

ユーザー ID の大文字と小文字は区別されません。

補足

ユーザー情報を機器本体に反映する場合、ユーザー ID が機器で使用できる文字種、文字数であることを確認してください。機器の制限に合わないユーザーは、機器に反映できません。

[代替ユーザー ID]

ユーザー ID を複数設定する場合に、代替ユーザー ID を入力します。＋をクリックすると、複数設定できます。

代替ユーザー ID を設定すると、複数の異なるユーザー ID で送信したプリントジョブを、1 人のユーザーがログインして一度にプリントしたり、ジョブの一覧を表示したりできます。

補足

ApeosWare Management Suite へのログイン、および機器での認証時には、代替ユーザー ID は使用できません。

参照

『導入・運用ガイド』の「代替ユーザー ID」

[パスワード]

ユーザーのパスワードを入力します。

機器での認証時にパスワードや PIN が入力された場合は、このパスワードと照合されます。

パスワードの大文字と小文字は区別されます。

補足

パスワードの最低文字数や、必ず含む文字種を、[認証機能の設定] ページで設定できます。

参照

「認証機能を設定する」(P.169)

[代替の認証 ID]

ユーザー ID 以外で認証するときに使用する、認証 ID を指定します。＋をクリックすると、複数設定できます。

- [カード ID（PAN)]

  IC カードリーダーを使用してカード認証するときの「カード ID」です。

  認証方式が［カスタム認証］に設定されている機器では、カード ID（PAN）の手入力もできます。

- [外部 ID]

  外部のユーザー管理システムで管理される ID です。認証方式が［カスタム認証］に設定されている機器で使用できます。

補足

・純正コピーカードを認証に使用する場合は、カード ID（PAN）に 7 桁以下の数字を 1 つだけ設定してください（純正コピーカードを認証に使用するには、機器側の設定が必要です）。

・代替の認証 ID を使用する場合は、[認証機能の設定] ページで［認証 ID の入力］を設定する必要があります。

・PC から ApeosWare Management Suite にログインするときは、代替の認証 ID は使用できません。
・Active Directory から ApeosWare Management Suite にインポートしたユーザー情報を編集する場合は、［ユーザーインポート］設定の［属性の対応づけ］の［カード ID/PAN］の値を削除してください。

参照
「認証機能を設定する」（P.169）

［外部集計 ID］

外部の集計システムと連携するときに使用する ID を入力します。この ID は認証には使用できません。

［ユーザーの有効期限］

ユーザーの有効期限を、次のどちらかの方法で設定します。

- ［終了日の設定］

  ユーザーの有効期限の日付と時刻を指定します。日付だけを指定した場合はその翌日から、日付と時刻を指定した場合はその日時が過ぎると、ユーザーは無効になります。

  ［終了日の設定］を選択して、日付のテキストボックスを空欄のままにすると、無期限が設定されます。

- ［最終ログイン日からの有効期間 {n} 日］

  最後に ApeosWare Management Suite にログインしてから、設定した有効期間が過ぎると、ユーザーが無効になります。有効期間は［認証機能の設定］ページの［ユーザーの最終ログイン日からの有効期間］で設定します。

参照
「認証機能の設定」（P.169）

［状態］

ユーザーを有効にする場合に、チェックマークを付けます。ユーザーの状態は、ユーザー一覧からでも切り替えができます。

補足
ユーザーの有効期限が過ぎて無効になった場合は、［状態］を変更できません。この場合は、［ユーザーの有効期限］の［終了日の設定］を空欄にするか、未来の日付を設定してください。

［コストセンターコード］

コスト管理をする場合にだけ設定します。

コストセンターコードを入力します。この「コストセンターコード」ごとに集計して、レポートを作成できます。

［保存先］

機器の「スキャナー（マイフォルダ保存）」機能を利用するときの文書の保存先（パス名）を、UNC 形式で入力します。

例：￥￥192.0.2.1￥share￥myfolder

［場所］

必要に応じて、住所やフロアなどの情報を入力します。

［アクセスプロファイル］

ユーザーに適用するアクセスプロファイルを指定します。指定しない場合は、ユーザーが所属するユーザーグループに設定されているアクセスプロファイルが適用されます。

ドロップダウンリストボックスの下の「アクセスプロファイルの作成」をクリックし、アクセスプロファイルを作成することもできます。

参照

「アクセスプロファイルを追加する」（P.137）

[説明]

必要に応じて、アクセスプロファイルの説明を入力します。

[詳細情報]

写真へのリンク、電話番号、ファクス番号など、ユーザーの個人情報を入力します。ファクス番号は、＋をクリックすると、複数設定できます。

[富士フイルム BI ダイレクト連携]

富士フイルム BI ダイレクトと認証連携する場合に、富士フイルム BI ダイレクトに登録するユーザー ID（メールアドレス）を設定します。

補足

この項目が設定されていない場合、アクセスプロファイルとテナントが関連づけられていても、このユーザーの情報は富士フイルム BI ダイレクトに反映されません。

[承認者]

承認印刷が有効になっている場合の承認者のユーザー ID を指定します。［設定］をクリックして［承認者設定］画面を表示し、ユーザーを設定します。承認者は、＋をクリックすると、複数設定できます。

[特殊承認者]

特殊承認者に指定するユーザーのユーザー ID を指定します。

特殊承認者をインポートで設定する場合は、必ず承認者も設定されるように Active Directory/LDAP の属性値を設定してください。

承認者を設定せずにインポート（承認者と対応付けした属性が空で、特殊承認者と対応付けした属性のみ値があるユーザーをインポート）すると、そのユーザーの承認者と特殊承認者は値が空の状態でインポートされます。この場合、ユーザーで承認プリントを実施すると承認者が設定されていないため、プリントジョブはキャンセルされます。

補足

- 複数の承認者を登録した場合は、登録した順に承認操作を行います。
- プリントジョブを発行してから出力するまでの間に承認者として登録しているユーザーを削除した場合は、プリントジョブをキャンセルします。
- 設定できる承認者は 9 人までです。
- 承認者を設定しないで、特殊承認者だけを設定はできません。

(2) アカウントの関連づけ

[アカウントの関連づけ]

コスト管理をする場合にだけ設定します。次の項目を設定し、［次へ］をクリックします。

補足

［コスト管理］メニューでも、ユーザーとアカウントとの関連づけを設定できます。どちらで操作しても同じ設定になります。

［する］

ユーザーにアカウントを関連づける場合は［する］を選択し、次の手順でアカウントを関連づけます。

(1) ［追加］をクリックし、［アカウントの追加］ダイアログボックスを表示します。
(2) 関連づけるアカウント名にチェックマークを付け［追加］をクリックします。

補足

・有効になっているアカウントだけが追加できます。
・すべてのアカウントを追加する場合は［すべて追加］をクリックします。
・関連づけるアカウントの一覧に表示されたアカウントを絞り込む場合は、  に検索したいアカウント名の一部を入力し、<Enter> キーを押します。

参照

「[アカウントを有効にする]」(P.201)

(3) ユーザーに複数のアカウントを関連づけた場合は、［既定のアカウント］で、既定のアカウントを選択します。

既定のアカウントは、アカウントを選択できない環境で操作した場合に、使用されます。

補足

アカウントの関連づけを削除する場合は、［削除］または［すべて削除］をクリックします。

［しない］

ユーザーにアカウントを関連づけない場合に選択します。

補足

コスト管理機能が有効な環境で、［カスタム認証］の機器を使用するときは、コスト管理をする / しないに関係なく、機器を使用するユーザーにアカウントを関連づけてください。機器にログインするときや、機器から ApeosWare Management Suite にアクセスするときに、アカウントが設定されていないと、「利用可能なアカウントがありません」というエラーになります。

(3) 委任ユーザーの設定

次の項目を設定し、［次へ］をクリックします。

［委任ユーザーの設定］

このユーザーが、他のユーザーのプリントジョブを代行して出力するかどうかを設定します。

［する］

代行して出力する場合は、［する］を選択し、次の手順で委任ユーザーを追加します。このユーザーは、ここで追加した［委任ユーザー］のプリントジョブを、代行して出力できるようになります。

オンデマンドプリントでだけ使用できます。

(1) ［追加］をクリックし、［ユーザーの作成］ダイアログボックスを表示します。

(2) 追加するユーザーにチェックマークを付け［追加］をクリックします。

補足

・有効になっているユーザーだけが追加できます。
・すべてのユーザーを追加する場合は［すべて追加］をクリックします。
・委任ユーザーの一覧に表示されたユーザーを絞り込む場合は、  に検索したいユーザー ID の一部を入力し、<Enter> キーを押します。

［しない］

ユーザーを追加しない場合に選択します。

(4) 概要

設定した内容を確認し、［保存］をクリックすると、ユーザーが作成されます。

各項目の［編集］をクリックし、設定した内容を変更することもできます。

ユーザーを絞り込む

［ユーザー一覧］ダイアログボックスに表示されたユーザーを絞り込む場合は、  に検索したいユーザーの情報を入力し、<Enter> キーを押します。

［詳細検索］をクリックし、プルダウンメニューから条件を選択、必要に応じてテキストボックスに情報を入力して絞り込むこともできます。

ユーザーの情報を確認する

ユーザー覧の⚙をクリックして、［プロパティ］を選択します。

ユーザーを削除する

ユーザー一覧の⚙をクリックして、［削除］を選択します。

ユーザーを削除すると、次の情報も削除されます。

- 機器に設定されたユーザー情報、および、そのユーザーが所有者になっているボックス、ボックス内に蓄積された文書
- ユーザーが所有者になっている、機器に設定されたジョブフロー

ユーザーの有効と無効を切り替える

ユーザー一覧の［状態］から［有効］または［無効］を選択します。

ただし、ユーザーに設定された［ユーザーの有効期限］が切れて無効になった場合は、ユーザー一覧の［状態］を変更できません。この場合は、次の手順で有効にします。

- ［ユーザーの有効期限］に［終了日の設定］が設定されていて、その終了日が過ぎた場合

  ユーザーのプロパティ編集で、［ユーザーの有効期限］の［終了日の設定］を空欄にするか、未来の日付を設定します。

- ［ユーザーの有効期限］に［最終ログイン日からの有効期間 {n} 日］が設定されていて、その有効期間以内にログイン操作を行わなかった場合

  ユーザーのプロパティ編集で、［状態］の［有効］にチェックマークを付けます。操作した日付を起点に有効期間が延長されます。

ユーザーのロック状態を解除する

ロックアウトされているユーザーは、ユーザー一覧の［状態］の［ロックアウト］が選択されています。［有効］を選択すると、ロックアウトが解除されます。

補足

ロックアウトされたあと、［ユーザーの有効期限］が過ぎて無効になった場合は、［状態］を変更できません。この場合は、ユーザーのプロパティ編集で［ユーザーの有効期限］を未来の日付に設定してください。

ユーザー一覧（ユーザーの詳細）

表示方法

ユーザー一覧でユーザー名のリンクをクリックします。



ページの概要

選択したユーザーに、アカウントの関連づけや委任ユーザーを追加します。



ユーザーの関連づけを変更する

［ユーザーの関連づけ］タブを表示します。

選択しているユーザーの情報が表示されます。［リストの編集］をクリックすると、ユーザーの関連づけページが表示され、ユーザーを追加または削除できます。

アカウントの関連づけを変更する

［アカウントの関連づけ］タブを表示します。

選択しているユーザーに関連づけられている、アカウントの一覧が表示されます。［リストの編集］をクリックすると、アカウントの関連づけページが表示され、アカウントを追加または削除できます。

アクセスプロファイル一覧

表示方法

管理者画面のメニューを［サービス設定］＞［ユーザー管理］＞［アクセスプロファイル一覧］の順に選択します。

ページの概要

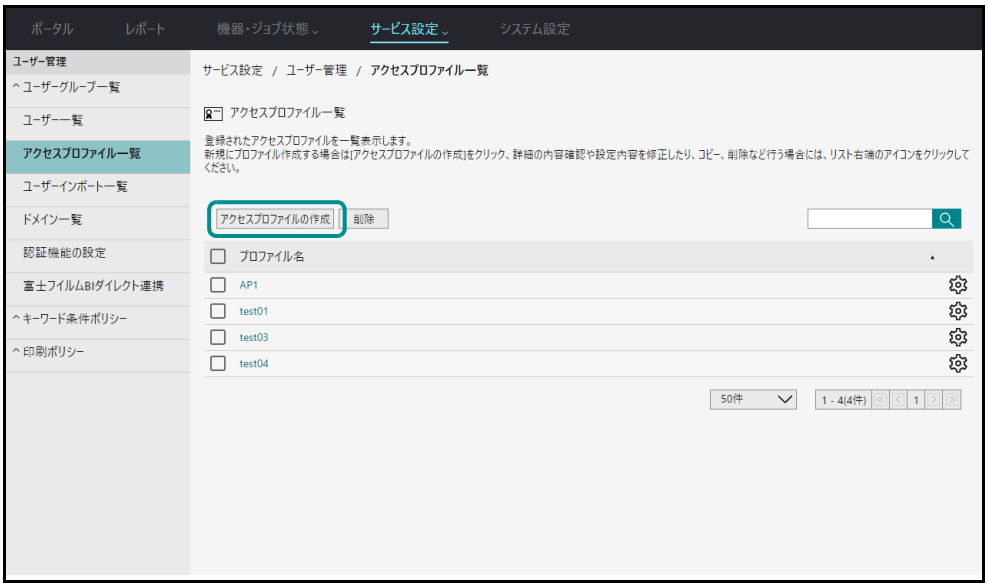
使用できる機器や各機能へのアクセス権を設定した、アクセスプロファイルを設定します。アクセスプロファイルの追加、プロパティの編集、コピー、および削除ができます。

参照

『導入・運用ガイド』の「アクセスプロファイルとは」

アクセスプロファイルを追加する

［アクセスプロファイルの作成］をクリックします。



(1) アクセスプロファイルの設定

次の項目を設定し、［次へ］をクリックします。

［アクセスプロファイル名］

アクセスプロファイル名を入力します。

［説明］

必要に応じて、アクセスプロファイルの説明を入力します。

［PIN/ パスワード入力を必須にする］

この設定は、認証方式が［カスタム認証］の機器、またはモバイル端末でだけ有効です。

ユーザーを認証するときに、PIN またはパスワードを使用するかどうかを指定します。

- ［する］

  PIN またはパスワードを使用します。
- ［する（認証 ID の入力時のみ）］

  カード認証時、パスワードは使用しません。

  認証 ID を入力するときは、パスワードを使用します。
- ［しない］

  PIN またはパスワードを使用しません。
- ［機器グループの設定に従う］

  機器で認証するときは、機器グループに設定されている［PIN/ パスワード入力を必須にする］の値に従います。

  モバイル端末で認証するときは、［認証機能の設定］ページで設定した［複合機 / モバイルで認証時の PIN/ パスワードの強制］の値に従います。

- ［認証の共通設定に従う］

  ［認証機能の設定］ページで設定した［複合機 / モバイルで認証時の PIN/ パスワードの強制］の値に従います。

［する］または［する（認証 ID の入力時のみ）］を選択した場合は、ログイン時に PIN またはパスワードが未設定だった場合の処理を［PIN/ パスワードが未設定の場合の操作］で指定します。

［PIN/ パスワードが未設定の場合の操作］には、次の 2 つの選択肢があります。

- ［中止画面を表示］

  ログイン画面を表示します。

  PIN またはパスワードが設定されていない場合は、ApeosWare Management Suite にログインできません。

- ［PIN/ パスワード設定画面を表示］

  PIN/ パスワード設定画面を表示します。

  PIN またはパスワードが設定されていない場合は、PIN/ パスワード設定画面でパスワードを設定します。パスワードが設定済みの場合は、有効期限が切れていても PIN/ パスワード設定画面が表示されません。

補足

PC から ApeosWare Management Suite にログインするときのパスワードは、この設定の対象ではありません。

参照

・「機器グループを追加する」（P.76）
・「認証機能を設定する」（P.169）

［ログイン時の表示画面］

この設定は、機器の認証方式が［カスタム認証］の場合にだけ有効です。

機器の操作パネルでの操作時に、メニュー画面で［ApeosWare Menu］ボタンを押したときや、機器にログインしたときに最初に表示する画面を、次から選択します。

- オンデマンドプリント

  ApeosWare Management Suite のオンデマンドプリントの操作画面を表示します。

- ApeosWare Management Suite メニュー

  ApeosWare Management Suite のポータル画面を表示します。ポータル画面には、各機能のメニューボタンが表示されます。オプションライセンスの設定状況と、ユーザーに関連づけられたアクセスプロファイルの［文書管理サービスへのアクセス］の設定内容によって、表示されるメニューが異なります。

- 機器の画面

  機器のホーム画面を表示します。

参照

・「ApeosWare Management Suite のポータル画面」（P.113）
・「機器のホーム画面」（P.110）

［ジョブがあればオンデマンドプリント］

［ジョブがあればオンデマンドプリント］にチェックマークを付けた場合、ログイン時に保留中のプリントジョブがあると、［ログイン時の表示画面］の設定に関係なく、オンデマンドプリントの操作画面を表示します。

保留中のプリントジョブがないときは、［ログイン時の表示画面］で選択した画面が表示されます。

[[ホーム] ボタン押下時の表示画面]

機器の操作パネルでの操作時に、ApeosWare Management Suite の操作画面の右上にあるホームボタン（  ）を押したときに表示する画面を、次から選択します。

- ApeosWare Management Suite メニュー
  ApeosWare Management Suite のポータル画面を表示します。
- 機器の画面
  機器のホーム画面を表示します。



参照

・「ApeosWare Management Suite のポータル画面」（P.113）
・「機器のホーム画面」（P.110）

[複合機の使用許可]

使用を許可する操作にチェックマークを付けます。

- プリント操作（カラー / 白黒）
- コピー操作（カラー / 白黒）
- スキャン操作
- ファクス操作

ただし、ここで設定する値よりも、「(4) 機器 / 機器グループの利用権限設定」（P.145）での設定が優先されます。



補足

ダイレクトファクスは、この設定の対象になりません。

[ネットワーク接続できない機器へのアクセス]

この設定は、機器が所属する機器グループの設定で、認証方式が［カスタム認証］、［ネットワーク接続できない機器へのアクセス］が［許可する］に設定されている場合にだけ適用されます。

ApeosWare Management Suite サーバーに接続できない機器でも、ユーザーの操作を許可するときに、チェックマークを付けます。

［許可する］にチェックマークを付けると、ネットワーク障害などで ApeosWare Management Suite サーバーと接続できなくなった場合に備えて、ユーザー情報が機器側に保持されます。このため、オフラインの機器でも認証が行われ、ユーザーが機器本体の機能を使用できるようになります。オフラインの機器での認証は、カード認証とユーザー ID 入力による認証ができます。



補足

・オフライン時の認証をするには、ユーザーのプロパティの［代替の認証 ID］で必ず［カード ID（PAN）］を設定してください。
・アクセスプロファイルの［残高下限到達時の強制停止］で［停止する］にチェックマークを付けた場合は、この項目を［許可する］に設定できません。

[利用状況の表示]

複合機の ApeosWare Management Suite のメニュー画面にある  ボタンを押したときに、表示される情報の種類を指定します。

［標準］を選択した場合は、ユーザーのプリント枚数、CO2 排出量をポップアップで表示します。

［詳細（コスト削減情報付き）］を選択した場合は、ユーザーのコピーとプリントの出力面数のほか、コスト削減の実績値が目標に達しているかどうかを、利用状況画面に表示します。

次の項目は、［詳細（コスト削減情報付き）］を選択した場合に指定します。

- ［ログイン時の自動表示］

  この設定は、機器の認証方式が［カスタム認証］のときにだけ有効です。また、［ログイン時の表示画面］

で［ApeosWare Management Suite メニュー］を選択しているときだけ設定できます。

複合機にログインしたときに、強制的に利用状況画面を表示するかどうかを指定します。表示する場合は、［いつも表示する］、［目標を下回りそうな場合に表示する］から選択します。

［目標を下回りそうな場合に表示する］を選択した場合は、［両面率］、［N アップ率］が目標値から 10% 下回ったとき、または［カラー率］が目標値から 10% 超えたときに、利用状況画面を表示します。

- ［目標］

  コスト削減の目標値を、パーセントで指定します。

参照

「ApeosWare Management Suite のポータル画面」（P.113）

［強制するプリント機能］

強制的に白黒プリント、両面プリント、または 2up プリントをするかどうかを指定します。

チェックマークを付けると、プリントルールの［強制白黒］、［強制両面］、［2up］の設定に関係なく、ユーザーのプリントジョブが強制的に白黒、両面または 2up でプリントされます。

チェックマークを外すと、プリントルールの［強制白黒］、［強制両面］、［2up］の設定がプリントジョブに適用されます。

［ログイン時の自動プリント］

オンデマンドプリントをする場合に、「リストなしプリント」を許可するかどうかを指定します

- ［する（常に）］
  保留中のプリントジョブがあれば、認証後にプリントジョブの一覧画面が表示されないで、ユーザーがサーバーに送信したプリントジョブが機器に送信され、そのままプリントされます。
  保留中のジョブがない場合は［ログイン時の表示画面］で選択した画面を表示します。
- ［する（ジョブが 1 つだけの場合）］†
  保留中のプリントジョブが 1 件であれば認証後にそのままプリントされます。2 件以上、かつ、［ジョブがあればオンデマンドプリント］が有効の場合はオンデマンドプリントの操作画面を表示します。それ以外の場合は［ログイン時の表示画面］で選択した画面を表示します。
- ［確認画面で選択する］†
  保留中のプリントジョブがあれば認証後にプリント確認画面を表示します。保留中のプリントジョブがなければ［ログイン時の表示画面］で選択した画面を表示します。
- ［しない］
  ［ジョブがあればオンデマンドプリント］が有効、かつ、保留中のプリントジョブがあればオンデマンドプリントの操作画面を表示します。それ以外の場合は［ログイン時の表示画面］で選択した画面を表示します。

† の選択肢はカスタム認証の場合にだけ有効です。カスタム認証以外の場合は［しない］の動作となります。

参照

リストありプリント / リストなしプリント → 『導入・運用ガイド』

［操作パネルでのジョブの設定変更］

複合機の操作パネルで、片面プリントを両面プリントにするなどのプリント設定の変更を許可するかどうかを指定します。

［文書管理サービスへのアクセス］

文書管理サービスと連携するときに、アクセスを許可する文書管理サービスにチェックマークを付けます。

[モバイル設定]

モバイル端末からの操作を許可する場合は［許可する］にチェックマークを付け、許可する操作にチェックマークを付けます。

[残高下限到達時の強制停止]

コスト管理をする場合にだけ設定します。

［停止する］にチェックマークを付けると、ユーザーは次のように制限されます。

- ユーザーが使用しているアカウントの残高が、設定された［最小の残高］の値を下回ったときに、サービスのジョブが強制的に停止します（強制停止の動作はサービスごとに異なります）。
- ユーザーは、認証方式が［カスタム認証］の機器および［外部認証（ApeosWare Authentication Agent）］の機器にログインできます。［本体認証］の機器にログインしようとすると、エラーになります。
- ［本体認証］の機器へのユーザー登録はされません。
- ［外部認証（ApeosWare Authentication Agent）］では既定のアカウントが設定されていないユーザーでログインしようとすると、エラーになります。
- サーバーレスオンデマンドプリントを利用する場合は、既定のアカウントを設定してください。
- ApeosWare Management Suite に登録されているユーザーが Internet Service を利用する場合は、既定のアカウントを設定してください。

補足

・アクセスプロファイルの［ネットワーク接続できない機器へのアクセス］で［許可する］にチェックマークを付けた場合は、この項目を［停止する］に設定できません。
・ファクスは、残高下限到達時の強制停止の対象になりません。
・お使いの機種によっては、［残高下限到達時の強制停止］機能に対応していない場合があります。詳しくは、『はじめにお読みください』（Readme）を参照してください。
・カスタム認証に対応していない機種では、プリント方式が「直接プリント」の場合、または、On Demand Print Terminal を使用してプリントする場合だけ、この設定が有効です。
・ジョブがキャンセルされるのは、プリントサーバーがプリントを受信したタイミングで残高が不足しているときです。

次の条件を満たしている場合、リストなしオンデマンドプリントでプリントするときに、［残高下限到達時の強制停止］を利用できます。

- IC Card Gate 2 / IC Card Gate 3 とプリンターをネットワーク接続している。
- IC Card Gate 2 / IC Card Gate 3 が Active Directory に直接認証している。

ただし、次の注意事項があります。

- 外部認証（Active Directory 直接認証）のときに利用できます（［本体認証］、［外部認証（ApeosWare Authentication Agent）］では利用できません）。
- 課金運用対象のプリンターだけ利用できます。

参照

残高について →『運用・導入ガイド』

[すべてのユーザーが使える共有アカウントの使用]

コスト管理をする場合にだけ設定します。

［許可する］にチェックマークを付けると、［すべてのユーザーが使える共有アカウントにする］が有効な共有アカウントを使用できます。

参照

『導入・運用ガイド』

[アカウント指定なしでの使用]

コスト管理をする場合にだけ設定します。

通常は、機器を使用するときにアカウントの指定が必要ですが、[許可する] にチェックマークを付けると、アカウントを指定しなくても、指示文を入力するだけで機器を使用できるようになります。

アカウントを指定しないで操作したジョブは、[アカウントに関連づけていないジョブ一覧] に記録されます。ユーザーは、操作のあとで、ジョブのコストを適切なアカウントに付け替えることができます。



参照

『導入・運用ガイド』

[プリントポップアップ設定]

プリントジョブの送信時にクライアント PC に表示される、ポップアップ通知画面に関する設定をします。表示したい画面にチェックマークを付けます。



補足

ポップアップ通知画面を表示するには、クライアント PC に Popup Messenger をインストールする必要があります。



参照

Popup Messenger のインストール → 「Popup Messenger をインストールする」 (P.262)

- [ポップアップ画面を表示する]

  プリント送信時に、クライアント PC にポップアップ通知画面を表示します。
- [画面に残高を表示する]

  ポップアップ通知画面に、コスト管理の残高を表示します。
- [ジョブ所有者の変更を許可する]

  ポップアップ通知画面に [ユーザー名] を表示します。[ユーザー名] を表示すると、プリントジョブの所有者とは別のユーザー名でプリントできるようになります。プリントの送信者と、プリントの課金対象者を別にしたいときに、チェックマークを付けます。
- [プリントルールを無視する]

  ポップアップ通知画面に [プリントルールを適用しない] を表示します。プリントルールを無視したプリントを許す場合に、チェックマークを付けます。
- [アカウントの選択]

  ポップアップ通知画面に、アカウントの選択画面を表示します。ユーザーは、使用するアカウントを変更してプリントできるようになります。

[通知設定]

[ポップアップ画面にプリントジョブの状態を表示する] にチェックマークを付けると、プリントジョブが ApeosWare Management Suite の処理によってキャンセルされたことが、ポップアップ通知画面でクライアント PC に表示されます。通知画面には、プリントジョブ名やキャンセルの理由が表示されます。



補足

ポップアップ通知画面を表示するには、クライアント PC に Popup Messenger をインストールする必要があります。



参照

・「カラー印刷警告通知」 (P.268)

・Popup Messenger のインストール → 「Popup Messenger をインストールする」 (P.262)

[ユーザーポータルへのアクセス]

ユーザー画面へのアクセスを許可するかどうかを指定します。

[許可する] にチェックマークを付けると、ApeosWare Management Suite の操作画面のヘッダーに、ユーザー画面へのリンク [ユーザーポータル] が表示されます。

[許可する] 場合は、次も指定します。

- [メールアドレスの変更]

  チェックマークを付けると、ユーザーに設定されたメールアドレスを、ユーザー自身で変更できます。

- [保存先の変更]

  チェックマークを付けると、機器の「スキャナー（マイフォルダ保存）」機能を利用するときに使用する文書の保存先を、ユーザー自身で変更できます。



補足

[ユーザーポータルへのアクセス] を許可しない設定にすると、ユーザー画面を表示できません。この場合は、ユーザー自身によるパスワードの変更もできません。

[レポートの閲覧と編集]

レポートの閲覧と編集を許可するかどうかを指定します。

- [許可しない]
  管理者画面の [レポート] ページに、レポートメニューが表示されません。
- [レポートの作成] のみ許可する
  管理者画面の [レポート] ページで、レポートの閲覧ができます。カスタマイズや条件の変更はできません。
- [許可する]
  管理者画面の [レポート] ページで、レポートの作成、表示、カスタマイズができます。

[管理者権限の設定]

ユーザーに設定する管理者権限にチェックマークを付けます。複数の管理者権限を選択できます。ここで設定した管理者権限によって、ログインしたときに最初に表示されるページや、アクセスできるページが異なります。

- システム管理
- ユーザー管理
- アカウント / 残高管理
- ゲストジョブの管理
- 機器の管理
- オンデマンドプリント端末の管理
- イメージログ管理
- イメージログの検索 / 管理
- ユーザーグループ



補足

- [システム管理] と、その他の管理者権限は連動しています。[ユーザー管理]、[アカウント / 残高管理]、[ゲストジョブの管理]、[機器の管理]、および [オンデマンドプリント端末の管理] のすべてにチェックマークを付けると、自動的に [システム管理] にチェックマークが付きます。また、これらの権限の 1 つでもチェックマークを外すと、[システム管理] のチェックマークも外れます。
- 設定された権限が [オンデマンドプリント端末の管理] だけのユーザーは、ApeosWare Management Suite の操作画面にログインできません。
- [ユーザーグループ] で、[イメージログの検索 / 監視] の対象とするグループを選択します。[すべて] または [選択] のどちらかを選択します。[選択] を選択すると、[追加ユーザーグループ選択] ダイアログボックスで、追加するユーザーグループを選択できます。

参照

「操作画面へのアクセス権限」（P.18）

［スキャナー（メール送信）送信者の変更］

メール送信をするときにメールの送信者の変更を許可するかどうかを指定します。

チェックマークを付けると、ユーザーがメール送信を実行したときに、操作画面で送信者を変更できます。

チェックマークを外すと、ユーザーがメール送信を実行したときの送信者は、［サービス設定］＞［スキャン設定］＞［メール送信設定］で設定した［送信者］のメールアドレスになります。

(2) 論理プリンターとの関連づけ

次の項目を設定し、［次へ］をクリックします。

［論理プリンターとの関連づけ］

［する］

ユーザーに論理プリンターを関連づける場合は、［する］を選択し、次の手順で論理プリンターを追加します。

［すべての機器グループを関連づける］にチェックマークを付けると、このアクセスプロファイルを使用するユーザーは、すべての論理プリンターを使用できます。

このアクセスプロファイルを使用するユーザーは、ここで追加した論理プリンターだけを使用できます。

(1) ［追加］をクリックし、［論理プリンター］ダイアログボックスを表示します。

(2) 追加する論理プリンターにチェックマークを付け［追加］をクリックします。

補足

すべての論理プリンターを追加する場合は［すべて追加］をクリックします。

(3) ［初期設定にする論理プリンター］を選択します。

補足

論理プリンターとの関連づけを削除する場合は、［削除］または［すべて削除］をクリックします。

［しない］

論理プリンターを追加しない場合に選択します。

(3) 機器 / 機器グループとの関連づけ

次の項目を設定し、［次へ］をクリックします。

［機器グループとの関連づけ］

［する］

ユーザーに機器グループを関連づける場合は、［する］を選択します。

［すべての機器グループを関連づける］にチェックマークを付けると、このアクセスプロファイルを使用するユーザーは、すべての機器グループに所属する機器を使用できます。

使用する機器グループを制限する場合は、［すべての機器グループを関連づける］のチェックマークを外し、次の手順で使用を許可する機器グループを選択します。

補足

［すべての機器グループを関連づける］にチェックマークを付けた場合は、この設定以降に登録された機器にも適用されます。

(1) ［追加］をクリックし、［機器グループ］ダイアログボックスを表示します。

(2) 追加する機器グループにチェックマークを付け［追加］をクリックします。

補足

・すべての機器グループを追加する場合は［すべて追加］をクリックします。
・機器グループとの関連づけを削除する場合は、［削除］または［すべて削除］をクリックします。

［しない］
機器グループを追加しない場合に選択します。

［機器との関連づけ］

［する］
ユーザーに機器を関連づける場合は、［する］を選択します。
［すべての機器を関連づける］にチェックマークを付けると、このアクセスプロファイルを使用するユーザーは、すべての機器を使用できます。
使用する機器を制限する場合は、［すべての機器を関連づける］のチェックマークを外し、次の手順で使用を許可する機器を選択します。

補足

［すべての機器を関連づける］にチェックマークを付けた場合は、この設定以降に登録された機器にも適用されます。

(1) ［追加］をクリックし、［機器］ダイアログボックスを表示します。
(2) 追加する機器にチェックマークを付け［追加］をクリックします。

補足

・すべての機器を追加する場合は［すべて追加］をクリックします。
・機器との関連づけを削除する場合は、［削除］または［すべて削除］をクリックします。

［しない］
機器を追加しない場合に選択します。

(4) 機器 / 機器グループの利用権限設定

次の項目を設定し、［次へ］をクリックします。
(3) で選択した機器グループと機器は、初期設定で「(1) アクセスプロファイルの設定」の［複合機の使用許可］で設定した利用権限が設定されています。この設定を個別に変更する場合だけ、次を設定します。

［機器グループに利用権限を設定］

機器グループの利用権限を個別に変更する場合は、［する］を選択して、設定を変更する機器グループと利用権限を指定します。＋をクリックすると、複数設定できます。

［機器に利用権限を設定］

機器の利用権限を個別に変更する場合は、［する］を選択して、設定を変更する機器と利用権限を指定します。＋をクリックすると、複数設定できます。
機器と機器グループの両方に利用権限を設定した場合は、機器での設定が優先されます。

(5) ポリシーの設定

「キーワード条件ポリシー」（P.173）、「印刷ポリシー」（P.176）で作成したポリシーを、アクセスプロファイルに関連付けます。
印刷ポリシーを関連づけるときは、ウォーターマークを「強制的につける」と「ユーザーが選択する」のどちらかに設定します。「ユーザーが選択する」でデフォルト値を「付ける」に設定すると、機器からの設定が適用されます。

(6) 概要

設定した内容を確認し、［保存］をクリックすると、アクセスプロファイルが作成されます。

各項目の［編集］をクリックし、設定した内容を変更することもできます。

アクセスプロファイルの情報を確認する

アクセスプロファイル一覧の⚙をクリックして、［プロパティ］を選択します。

アクセスプロファイルに設定した内容を表示・編集できます。編集できる項目は、「アクセスプロファイルを追加する」（P.137）と同じです。

アクセスプロファイルをコピーする

アクセスプロファイル一覧の⚙をクリックして、［コピー］を選択します。

アクセスプロファイルに設定した内容をコピーし、新しいアクセスプロファイルを作成できます。コピーするとき、設定項目を編集できます。編集できる項目は、「アクセスプロファイルを追加する」（P.137）と同じです。

アクセスプロファイルを削除する

アクセスプロファイル一覧の⚙をクリックして、［削除］を選択します。

論理プリンターの関連付けを変更する

一覧でプロファイル名のリンクをクリックし、表示されたページで［論理プリンターとの関連づけ］タブを表示します。

選択しているアクセスプロファイルに関連づけられた論理プリンターの一覧が表示されます。

［リストの編集］をクリックすると、論理プリンターとの関連づけページが表示され、論理プリンターの関連づけを変更できます。

機器 / 機器グループの関連づけを変更する

一覧でプロファイル名のリンクをクリックし、表示されたページで［機器 / 機器グループとの関連づけ］タブを表示します。

選択しているアクセスプロファイルに関連づけられた機器 / 機器グループの一覧が表示されます。

［リストの編集］をクリックすると、機器 / 機器グループの関連づけページが表示され、機器 / 機器グループの関連づけを変更できます。

ユーザーインポート一覧［ユーザーインポート］タブ

表示方法

管理者画面のメニューを［サービス設定］＞［ユーザー管理］＞［ユーザーインポート一覧］の順に選択し、［ユーザーインポート］タブを表示します。

ページの概要

外部認証サーバーやファイルで管理しているユーザー情報を、スケジュールを指定して自動で ApeosWare Management Suite に取り込みます。

ユーザー情報の取り込み元には、次のどれかを指定できます。

- Active Directory/LDAP/Microsoft Entra Domain Services(Microsoft Entra ID DS)

  Active Directory、LDAP サーバー、または Microsoft Entra ID サーバーからユーザー情報をインポートします。

  「インポートスケジュールを作成する（Active Directory/LDAP/Microsoft Entra Domain Services(Microsoft Entra ID DS) インポート）」（P.147）を参照してください。

- ファイルインポート

CSV ファイル、またはテキストファイルからユーザー情報をインポートします。

「インポートスケジュールを作成する（ファイルインポート）」（P.155）を参照してください。

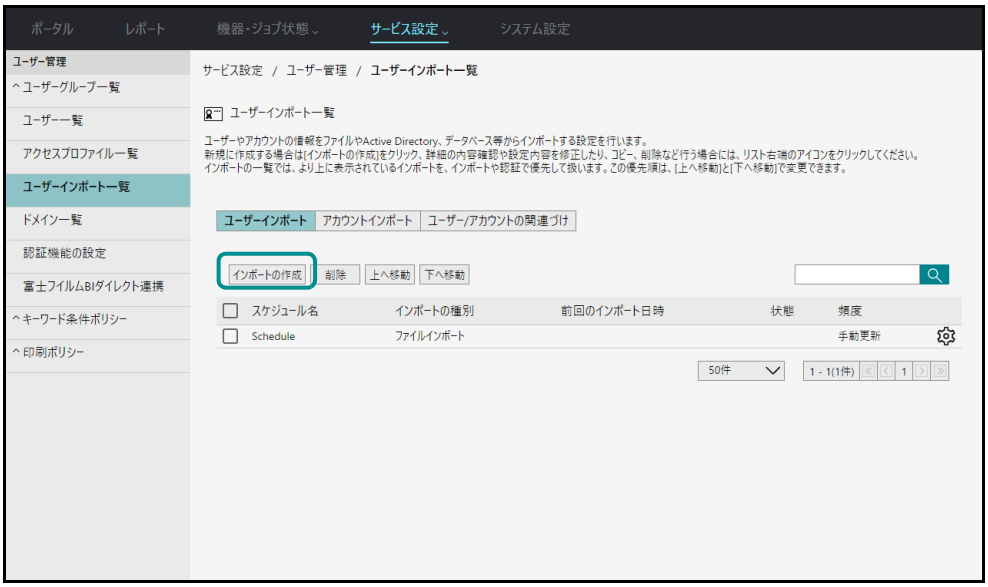
- データベース

  外部のデータベースからユーザー情報をインポートします。

  「インポートスケジュールを作成する（データベースインポート）」（P.161）を参照してください。ゆー

インポートスケジュールを作成する（Active Directory/LDAP/Microsoft Entra Domain Services(Microsoft Entra ID DS) インポート）

［インポートの作成］をクリックします。



(1) 取り込み元の選択

ユーザー情報の取り込み元を選択し、［次へ］をクリックします。

以降は、［Active Directory/LDAP/Microsoft Entra Domain Services(Microsoft Entra ID DS)］を選択した場合の項目を説明します。

補足

取り込み元に［Microsoft Entra Doamin Services (Microsoft Entra ID DS)］を選択した場合、ユーザー情報をインポートした後、次の点に注意してインポートしたユーザーの設定を確認してください。

・Microsoft Entra Doamin Services から取り込んだユーザーで認証するときは、AWMS サーバーが Microsoft Entra ID のログイン URL にアクセスできる必要があります。

・ApeosWare Management Suite サーバーが Microsoft Entra ID のログイン URL（login.microsofonline.com）に接続するとき、プロキシー接続を必要とする場合は、［プロキシーを使用して接続する］にチェックマークを付けます。

(2) 取り込み元の詳細

次の項目を設定し、［次へ］をクリックします。

［ドメイン］

［ドメイン一覧］ページで追加したドメインから、インポートの対象とするドメインを選択します。

［管理の対象範囲］

外部認証サーバー上のユーザーのうち、ApeosWare Management Suite にインポートする範囲を指定します。［選択］をクリックして、対象の組織単位（OU）を指定します。指定した組織単位（OU）以下の階層に所属するユーザーとグループが、インポートの対象になります。

補足

ユーザー個人の単位を［開始 OU］に設定することはできません。

［フィルター］

インポート対象を特定のユーザーに限定する場合に、LDAP フィルターを指定します。

［インポートの処理方法］

インポートするユーザー情報の処理方法を選択します。

- ［追加］

  ApeosWare Management Suite に存在しないインポート対象ユーザーを、新しいユーザーとして処理します。インポート対象のユーザーがすでに ApeosWare Management Suite に存在する場合は、何も処理しません。

- ［更新］

  取り込み元の外部認証サーバーの種類によって、更新の対象が異なります。

外部認証サーバー	更新の対象
Active Directory、または Microsoft Entra Domain Services の場合	インポート対象のユーザーのうち、外部認証サーバーで属性（対応付けを行っていない属性も含む）が更新されたユーザーを対象にして、それぞれの属性を更新します。
LDAP の場合	インポート対象のすべてのユーザーが、更新の対象になります。該当ユーザーのすべての属性を更新します。

  インポート対象のユーザーが ApeosWare Management Suite に存在しない場合は、何も処理しません。

- ［追加 / 更新］

  インポート対象のすべてのユーザーを、追加または更新対象として処理します。インポート対象のユーザーが ApeosWare Management Suite に存在する場合は更新します。存在しない場合は追加します。

- ［削除］

  インポート対象に存在しないユーザーを、ApeosWare Management Suite から削除します。

- ［すべて］

  インポート対象のすべてのユーザーを、追加、更新、または削除対象として処理します。

  インポート対象のユーザーが ApeosWare Management Suite に存在する場合は更新します。存在しない場合は追加します。また、インポート対象に存在しないユーザーを、ApeosWare Management Suite から削除します。

補足

［更新］、［追加 / 更新］、または［すべて］の場合、属性を対応付けているすべての属性値が更新されます。

(3) 属性の対応づけ

次の項目を設定し、［次へ］をクリックします。

［ユーザーの設定］

ApeosWare Management Suite のユーザー属性をそれぞれ設定します。

ドロップダウンリストボックスから、ユーザー属性に対応付ける、外部認証サーバー上の属性を選択します。または、任意の文字列を直接入力します。＋をクリックして複数指定した場合は、それらを連結した値が設定されます。

補足

直接入力した場合、{} でくくると、外部認証サーバーの属性として認識されます。
例：{description}

属性を対応付けるときは、次のことに注意してください。

- 取り込み元のサーバーに Active Directory、または Microsoft Entra Domain Services を選択した場合は、［ユーザー ID］に次の属性を対応付けます。

  SAM 形式の場合：{sAMAccountName}

  UPN 形式の場合：{userPrincipalName}
- 外部認証サーバーで使用しているユーザー ID と表示名が、機器で使用できる文字種、文字数であることを確認してください。機器の制限に合わないユーザーは、機器に反映できません。
- カード ID（PAN）、外部 ID、およびメールアドレスに使用する外部認証サーバーの属性には、インデックスを付与してください。インデックスが付与されていないと、認証時に十分な性能が得られず、認証に時間がかかるおそれがあります。
- 複数値属性を対応付けることで、複数のメールアドレスを指定できます。更新時に標準のメールアドレスが設定されていない場合は、システムがランダムに標準のメールアドレスを決定します。すでに標準のメールアドレスが設定されている場合は、その設定が保持されます。

［ユーザーのユーザーグループへの関連づけ］

インポートするユーザーを所属させるユーザーグループを指定する場合は、チェックマークを付けて、以降の項目を指定します。

チェックマークを外した場合は、インポートしたユーザーは既定のユーザーグループ（Default Group）の所属になります。

［関連づけるユーザーグループ］

ユーザーが所属するユーザーグループを新しく作成する場合は、［新規作成］を選択して、［新規作成方法］を選択します。

ユーザーを既存のユーザーグループに所属させる場合は、［既存］を選択して、［親ユーザーグループ］を指定します。

［新規作成方法］

この項目は、［関連づけるユーザーグループ］で［新規作成］を選択した場合に指定します。

ユーザーグループの作成方法を、次のどちらかから選択します。

- ［属性 / グループ名を指定］

  インポート後のユーザーを、外部認証サーバー上のユーザー属性によってグループ分けします。または、任意のユーザーグループ名を指定し、インポート後のユーザーをすべてそのユーザーグループに所属させます。

  詳細は［属性 / グループ名］を参照してください。
- ［OU を指定］

  外部認証サーバーでユーザーが所属する組織単位（OU）を、インポート後のユーザーグループの単位にします。どの階層の OU をユーザーグループにするかを、［グループを作成する OU］で指定します。

  詳細は［グループを作成する OU］を参照してください。

［属性 / グループ名］

この項目は、［新規作成方法］で［属性 / グループ名を指定］を選択した場合に指定します。次の 2 つの指定方法があります。

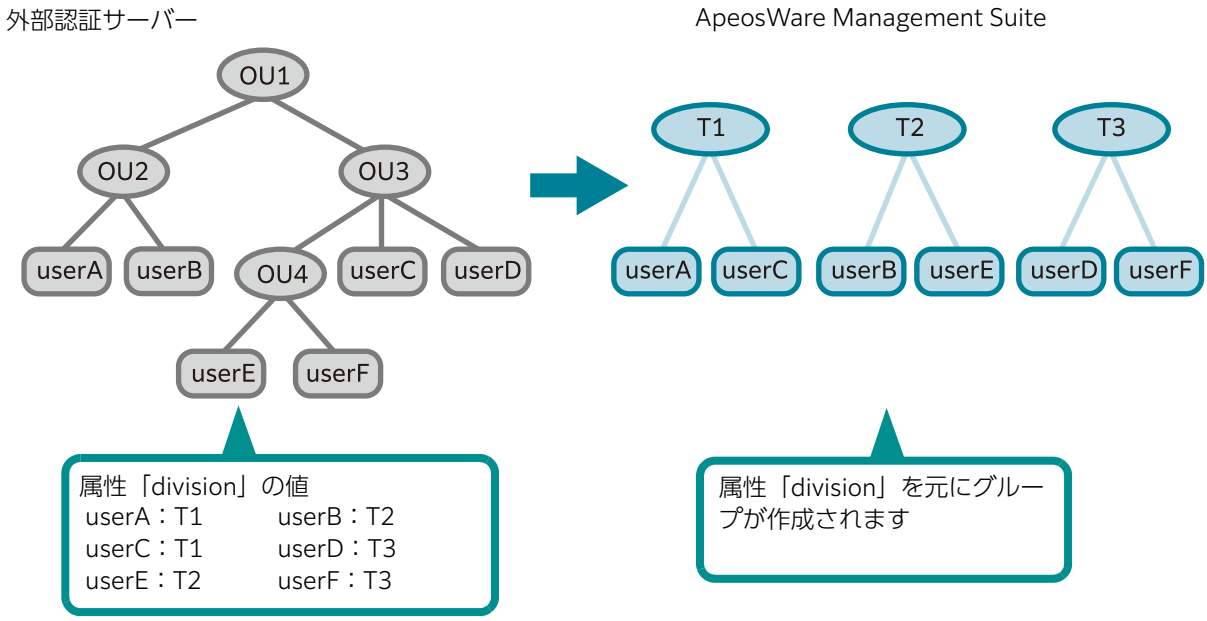
- ユーザー属性によってグループ分けする場合

  グループ分けに使用する、外部認証サーバー上の属性を指定します。ドロップダウンリストボックスから選択できます。

  属性名を直接入力する場合は { } でくくります。たとえば、外部認証サーバーのユーザーが givenName という属性を持つ場合は、「{givenName}」と指定します。

  指定した属性の値が同じであるユーザー同士が、同じグループになります。ユーザーグループの名前には、属性の名前が付けられます。指定した属性に値が設定されていないユーザーは、［親ユーザーグループ］で指定したユーザーグループ直下の所属になります。

  例：［属性 / グループ名］で「{division}」を指定した場合



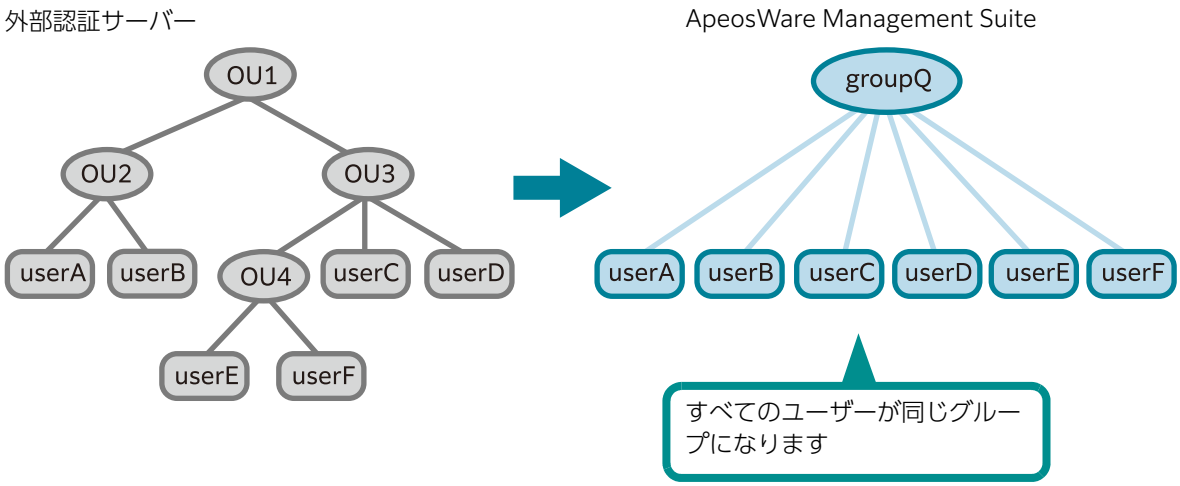
- 任意のユーザーグループを作成する場合

  ［属性 / グループ名］に、直接、任意の文字列を入力します。入力した名前のユーザーグループが 1 つだけ作成されます。インポートしたユーザーは、すべてのこのユーザーグループに所属します。

  補足

  任意のユーザーグループを作成する場合は、ユーザーグループ名に「{}」を使用しないでください。「{}」を使用すると、外部認証サーバー上の属性名と認識されます。

  例：［属性 / グループ名］で「groupQ」を指定した場合



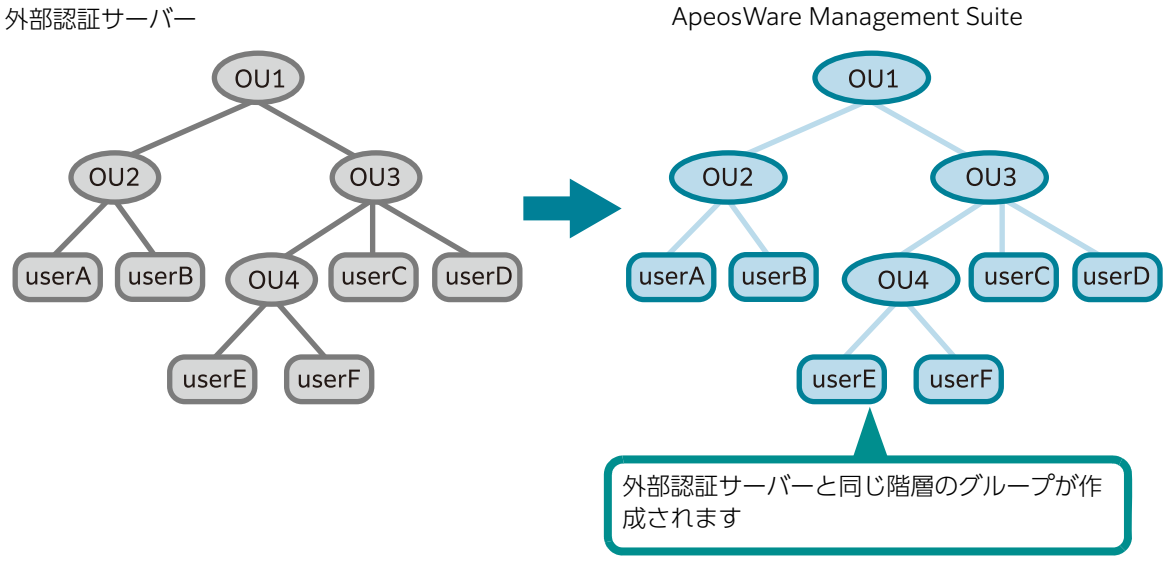
[グループを作成する OU]

この項目は、[新規作成方法] で [OU を指定] を選択した場合に指定します。どの階層の OU をユーザーグループにするかを次から選択します。

- すべての OU

  外部認証サーバーでの OU が、階層構造を維持したままインポート後のユーザーグループになります。外部認証サーバーでの OU 名が、ユーザーグループ名になります。

  例：



- OU 階層を指定

  インポートするユーザーからの相対的な階層を [OU 階層数] で指定します。

  指定した階層の OU が、インポート後のユーザーが所属するユーザーグループになります。外部認証サーバーでの OU 名が、ユーザーグループ名になります。

[OU 階層数]

インポート後のユーザーグループにする階層を、ユーザーからの相対位置で指定します。「0」以上の整数値で指定します。

0：ユーザーが所属する OU

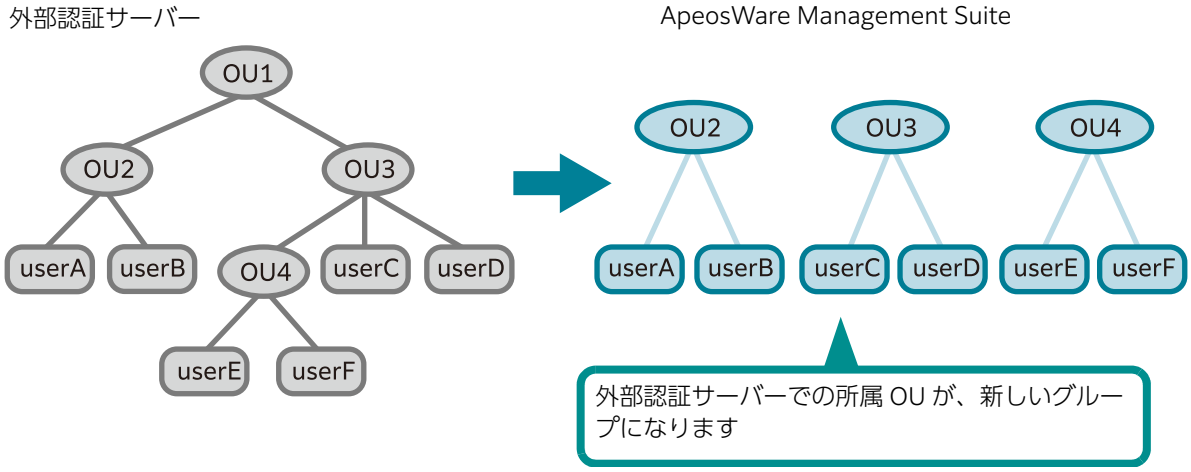
1：ユーザーが所属する OU の 1 つ上の階層

2：ユーザーが所属する OU の 2 つ上の階層

例：

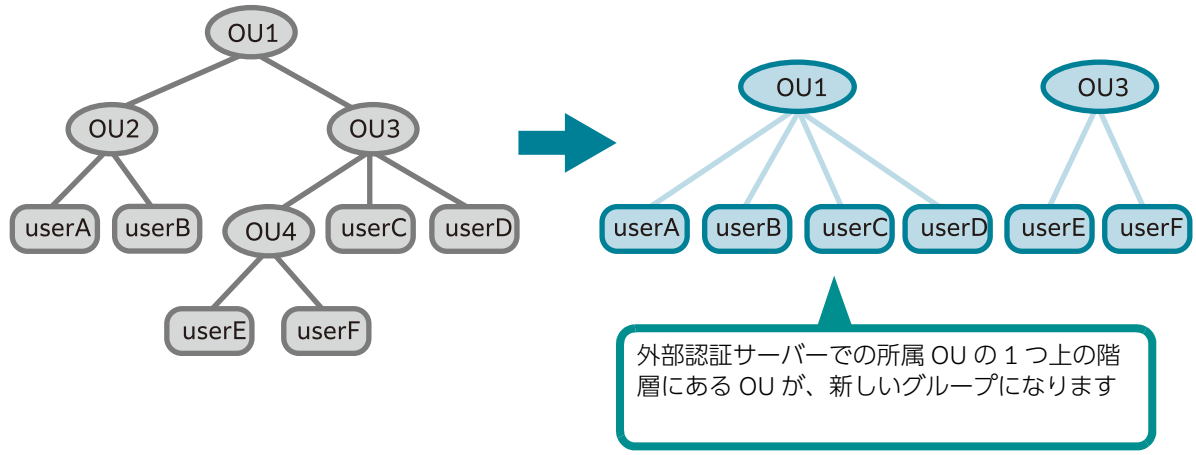
［OU 階層数］に「0」を指定した場合

外部認証サーバーでユーザーが所属している OU が、インポート後の所属ユーザーグループになります。



［OU 階層数］に「1」を指定した場合

外部認証サーバーでユーザーが所属している OU の、1 つ上の階層にある OU が、インポート後の所属ユーザーグループになります。



［親ユーザーグループ］

［変更］をクリックして、ユーザーグループを指定します。

ここで指定したユーザーグループは、［関連づけるユーザーグループ］で［既存］を選択した場合は、インポートするユーザーが所属するユーザーグループになります。［関連づけるユーザーグループ］で［新規作成］を選択した場合は、新規に作成したユーザーグループの親ユーザーグループになります。

［ユーザーグループの更新］

この項目は、［関連づけるユーザーグループ］で［既存］を選択した場合で、インポート種別が「Active Directory/LDAP/Microsoft Entra Domain Services(Microsoft Entra ID DS)」のときに設定します。

［再インポート時に更新しない］のチェックマークを外した場合は、ユーザー更新時に親ユーザーグループをインポートスケジュールが指定している親ユーザーグループに更新します。

［再インポート時に更新しない］のチェックマークを付けた場合は、ユーザー更新時に親ユーザーグループを更新しません。

補足

Active Directory/Microsoft Entra Domain Services の場合、ユーザーの更新は外部認証サーバーで属性が更新さ

れた場合だけです。このため、ユーザーグループも、外部認証サーバーで属性が更新された場合だけ更新されます。

[アクセスプロファイル]

この項目は、[関連づけるユーザーグループ] で [新規作成] を選択した場合に設定します。

ドロップダウンリストボックスから、アクセスプロファイルを選択します。選択したアクセスプロファイルが、新規に作成するユーザーグループに関連付けられます。

[グループを作成する OU] で [すべての OU] を指定した場合は、階層の一番上のユーザーグループに、アクセスプロファイルが関連づけられます。

(4) 対応づけの確認

[Active Directory/LDAP] を選択した場合は、対応づけの内容は表示されません。

(5) アカウントの作成

コスト管理をする場合に設定します。

次の項目を設定し、[次へ] をクリックします。



補足

アカウントの [割り当て残高]、[上乗せ残高]、および [最小の残高] は、インポートしたときに 1 回だけ設定されます。これらの値がすでに設定されている場合は、[インポートの処理方法] で [更新]、[追加 / 更新]、または [すべて] を選択しても、値は更新されません。

[個人アカウントの作成 / 関連づけ]

インポートするユーザーに個人アカウントを関連づける場合はチェックマークを付け、個人アカウントの各項目を設定します。

個人アカウントの各項目

ドロップダウンリストボックスから、個人アカウントの項目に対応付ける、外部認証サーバー上の属性を選択します。または、任意の文字列を直接入力します。[+] をクリックして複数指定した場合は、それらを連結した値が設定されます。



補足

直接入力した場合、{ } でくくると、外部認証サーバーの属性として認識されます。
例：{description}



参照

個人アカウントの各項目 → 「アカウントを作成する」(P.200)

[すべて解除]

[インポートの処理方法] が [更新] の場合に表示されます。チェックマークを付けると、現在設定されている共有アカウントの関連づけをすべて解除します。すべて解除した状態で [共有アカウントの作成 / 関連づけ] の [新規作成] で共有アカウントを作成すると、作成された共有アカウントだけが関連づけられます。

[共有アカウントの作成 / 関連づけ]

インポートするユーザーに共有アカウントを関連づける場合は、チェックマークを付けます。

[共有アカウント]

共有アカウントを新しく作成する場合は、[新規作成] にチェックマークを付け、[アカウント作成時の基準] を選択します。すでに作成済みの共有アカウントを関連づける場合は、[新規作成] のチェックマークを外します。

[アカウント作成時の基準]

この項目は、[共有アカウント] で [新規作成] にチェックマークを付けた場合に指定します。共有アカウントのアカウント名を指定する方法を、次のどちらかから選択します。

- [属性 / アカウント名を指定]

  共有アカウント名に、外部認証サーバー上の属性を対応づけます。または、共有アカウント名を任意の文字列で指定します。

- [OU を指定]

  共有アカウント名を、外部認証サーバー上の OU 名から付けます。対象とする OU を、ユーザーからの相対的な階層数で指定します。

[アカウント名]

この項目は、[アカウント作成時の基準] で [属性 / アカウント名を指定] を選択した場合に指定します。

ドロップダウンリストボックスから、共有アカウント名に対応づける、外部認証サーバー上の属性を選択します。または、任意の文字列を直接入力します。＋ をクリックして複数指定した場合は、それらを連結した値が設定されます。



補足

直接入力した場合、{} でくくると、外部認証サーバーの属性として認識されます。

例：{description}

[OU 階層数]

この項目は、[アカウント作成時の基準] で [OU を指定] を選択した場合に指定します。

共有アカウント名に使用する OU を、ユーザーからの相対位置で指定します。「0」以上の整数値で指定します。

0：ユーザーが所属する OU

1：ユーザーが所属する OU の 1 つ上の階層

2：ユーザーが所属する OU の 2 つ上の階層

・

・

・

例：

- [OU 階層数] に「0」を指定した場合

  外部認証サーバーでユーザーが所属している OU の名前が、インポート後のユーザーに関連づける共有アカウントのアカウント名になります。

- [OU 階層数] に「1」を指定した場合

  外部認証サーバーでユーザーが所属している OU の、1 つ上の階層にある OU の名前が、インポート後のユーザーに関連づける共有アカウントのアカウント名になります。

共有アカウントの各項目

ドロップダウンリストボックスから、共有アカウントの項目に対応付ける、外部認証サーバー上の属性を選択します。または、任意の文字列を直接入力します。＋ をクリックして複数指定した場合は、それらを連結した値が設定されます。



補足

直接入力した場合、{} でくくると、外部認証サーバーの属性として認識されます。
例：{description}

参照

共有アカウントの各項目 →「アカウントを作成する」(P.200)

[アカウントの選択]

すでに作成済みの共有アカウントを追加する場合は、[追加] をクリックして、アカウントを選択します。

(6) スケジュールの設定

次の項目を設定し、[保存] をクリックします。

補足

ユーザー ID はシステム内で重複できないため、ユーザーのドメインや OU を変更した場合、削除のスケジュールが先に実行されるようにするなど、インポートスケジュールの実行順を調整してインポート時にユーザー ID が重複しないようにしてください。

[スケジュール名]

スケジュール名を入力します。

[説明]

必要に応じて、スケジュールの説明を入力します。

[スケジュール設定]

インポートのスケジュールを、次から選択します。

- [日ごと]

  毎日、指定した [時間] にインポートを実行します。
- [週ごと]

  毎週、指定した [日時] (曜日と時間) にインポートを実行します。
- [月ごと]

  毎月、指定した [日付と時刻] にインポートを実行します。月末にインポートを実行する場合は [最終日] にチェックマークを付けます。
- [分ごと]

  指定した [分] 間隔でインポートを実行します。
- [指定した日付と時刻]

  指定した [日付] と [時刻] に 1 回だけインポートを実行します。
- [手動更新]

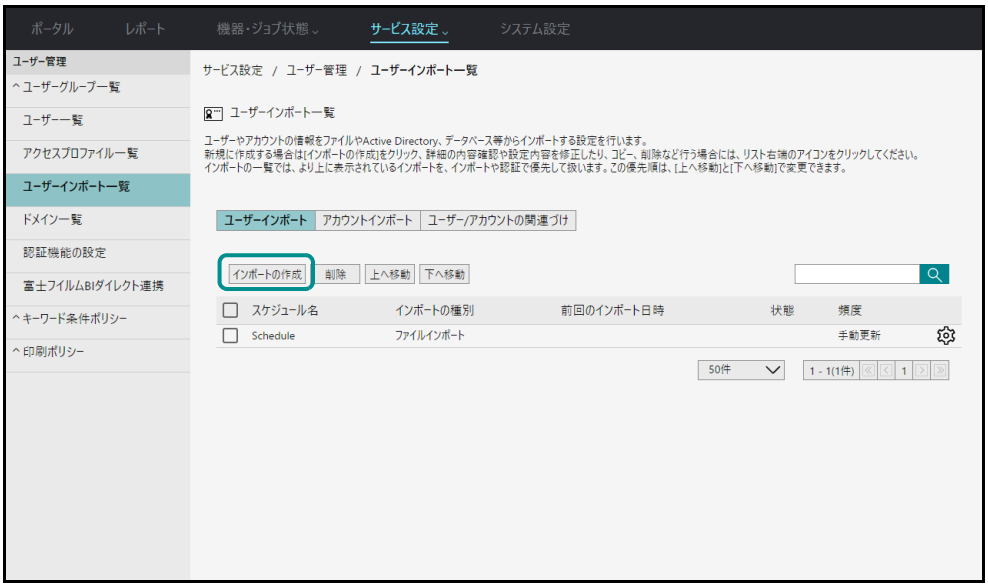
  ユーザーインポート一覧で [インポートの実行] をクリックしたときに、インポートが開始されます。

[実行結果の通知]

インポートの実行結果をメールで通知する場合は、[メールで通知] にチェックマークを付け、通知先名と送信先メールアドレスを指定します。

インポートスケジュールを作成する (ファイルインポート)

[インポートの作成] をクリックします。



(1) 取り込み元の選択

ユーザー情報の取り込み元を選択し、［次へ］をクリックします。

以降は［ファイルインポート］を選択した場合の項目を説明します。

(2) 取り込み元の詳細

次の項目を設定し、［次へ］をクリックします。

［ファイルの種別］

［テキストファイル］か［CSV ファイル］かを選択します。

［ファイル］

［参照］をクリックして、読み込み対象のファイルを選択します。

［ファイルの 1 行目を見出しとして使用する］

ファイルの 1 行目に見出し行がある場合は、チェックマークを付けます。

チェックマークを付けると、ファイルの 1 行目は読み飛ばして処理されます。「(3) 属性の対応づけ」でフィールドを選択するときに、見出しも参照できます。

ファイルの 1 行目からデータ行が記述されている場合は、チェックマークを外します。

［インポート後にファイル名を変更する］

インポートの処理が終了したあと、ファイルの名前を変更するかどうかを指定します。

チェックマークを付けると、処理が終了したファイルは、ファイル名の末尾に次の形式の日時が追加されます。

「YYYYMMDDhhmmss」（西暦年月日時分秒）

たとえば、ファイル名が「userfile.csv」の場合、処理後は「userfile20151031121546.csv」になります。

［インポートの処理方法］

次のどちらかを選択します。

- ［ファイル全体の処理種別に従って処理する］

  ファイル全体を、次のように処理します。

項目	説明
追加	ファイル内のすべての行を、新しい行として処理します。ファイル内のユーザーがすでに ApeosWare Management Suite に存在する場合は、何も処理しません。 カード ID/PAN など重複した値を指定できない属性は、既存のユーザーの属性を無効にして登録するかを選択できます。
更新	ファイル内のすべての行を、更新対象として処理します。該当行のすべての値を更新します。ファイル内のユーザーが ApeosWare Management Suite に存在しない場合は、何も処理しません。 メールアドレスなど複数の値を指定できる属性は、属性を追加するか上書きするか選択できます。 カード ID/PAN など重複した値を指定できない属性は、既存のユーザーの属性を無効にして登録するかを選択できます。
追加 / 更新	ファイル内のすべての行を、追加または更新対象として処理します。ファイル内のユーザーが ApeosWare Management Suite に存在する場合は更新します。存在しない場合は追加します。 [更新時にファイルに存在しないユーザーを削除する] にチェックマークを付けると、インポート対象に存在しないユーザーを、ApeosWare Management Suite から削除します。 メールアドレスなど複数の値を指定できる属性は、属性を追加するか上書きするか選択できます。 カード ID/PAN など重複した値を指定できない属性は、既存のユーザーの属性を無効にして登録するかを選択できます。
削除	ファイル内のすべての行のユーザーを、ApeosWare Management Suite から削除します。

補足

・[更新] または [追加 / 更新] の場合、属性を対応づけているすべての属性値が更新されます。
・アカウントインポートの場合、[削除] の機能はありません。

- [各行の処理種別に従って処理する]

  ファイル内に指定された「処理種別」に従って、対象の行を次のように処理します。「処理種別」が指定されていない行は、処理をスキップし、ログファイルに警告として記録します。

項目	説明
追加 *1	ユーザーが ApeosWare Management Suite に存在しない場合は、作成します。すでにユーザーが存在する場合は、何も処理しません。
更新 *1	ユーザーが ApeosWare Management Suite に存在しない場合は、何も処理しません。ユーザーが存在した場合は、該当行の各項目に設定されている情報で更新します。
削除 *1	ユーザーが ApeosWare Management Suite に存在しない場合は、何も処理しません。ユーザーが存在した場合は、そのユーザーを削除します。

*1 ファイル内では次を指定します（大文字と小文字は区別されません）。
追加の場合：「a」
更新の場合：「m」
削除の場合：「d」

補足

・[更新] の場合、属性を対応づけているすべての属性値が更新されます。
・アカウントインポートの場合、[削除] の機能はありません。

参照

処理種別 →「ユーザーインポート」(P.185)

[区切り文字]

テキストファイルの場合は、行内の各項目値を区切る文字を指定します。

[エンコーディング]

ファイルのエンコーディングを選択します。

(3) 属性の対応づけ

次の項目を設定し、[次へ] をクリックします。

[処理種別]

この項目は、「(2) 取り込み元の詳細」で [各行の処理種別に従って処理する] を指定した場合に設定します。[処理種別] が記載されている取り込み元のフィールドを選択します。



参照

処理種別 → 「ユーザーインポート」(P.185)

[更新するユーザーを特定するための識別子]

この項目は、「(2) 取り込み元の詳細」で [ファイル全体の処理種別に従って処理する] の [更新] または [削除] を選択した場合に設定します。

更新するユーザーを特定するための識別子として、次のどれかを選択します。

- ユーザー ID
- カード ID/PAN
- 外部 ID
- メールアドレス

[ユーザーの設定]

ApeosWare Management Suite のユーザー属性をそれぞれ設定します。

ドロップダウンリストボックスから、ユーザー属性に対応付ける、取り込み元のフィールドを選択します。または、任意の文字列を直接入力します。[+] をクリックして複数指定した場合は、それらを連結した値が設定されます。

- [上書き]

  「(2) 取り込み元の詳細」で [ファイル全体の処理種別に従って処理する] の [更新] または [追加 / 更新] を指定した場合、および [各行の処理種別に従って処理する] の [更新] を指定した場合は、メールアドレスなど複数の値を指定できる属性の横に [上書き] が表示されます。チェックマークを付けると、ユーザー属性がファイルの値で置き換えられます。チェックマークを外すと、既存のユーザー属性にファイルの値が追加されます。



補足

・ファイル内で複数の値を指定する場合は、セミコロン (;) で区切って指定します。
・メールアドレスを複数指定した場合は、先頭のメールアドレスが標準のメールアドレスになります。
・「(2) 取り込み元の詳細」で [ファイルの 1 行目を見出しとして使用する] にチェックマークを付けた場合は、見出しを参照しながらフィールドを選択できます。



参照

・ユーザーの項目の詳細 → 「ユーザーを追加する」(P.130)
・ファイル内の項目のフォーマット → 「インポート時の属性の対応づけ」(P.184)

- [後入力を優先]

  「(2) 取り込み元の詳細」で [ファイル全体の処理種別に従って処理する] の [追加]、[更新] または [追加 / 更新] を指定した場合、または [各行の処理種別に従って処理する] にチェックマークを付けた場合は、カード ID/PAN などの重複した値を指定できない属性の横に [後入力を優先] が表示されます。チェックマークを付けると、既存ユーザーで既に使われている属性がある場合、重複する既存ユーザーの属性を削除し、取り込んだユーザーの属性にファイル値を適用します。チェックマークを外すと、エラーとなりユーザーを取り込むことができません。

[ユーザーのユーザーグループへの関連づけ]

インポートするユーザーを所属させるユーザーグループを指定する場合はチェックマークを付けて、以降の項目を指定します。

チェックマークを外した場合は、インポートしたユーザーは既定のユーザーグループ（Default Group）の所属になります。

- ［関連づけるユーザーグループ］
  ユーザーが所属するユーザーグループを新しく作成する場合は、［新規作成］を選択して、［属性 / グループ名］を指定します。
  ユーザーを既存のユーザーグループに所属させる場合は、［既存］を選択して、［親ユーザーグループ］を指定します。
- ［属性 / グループ名］
  この項目は、［関連づけるユーザーグループ］で［新規作成］を選択した場合に指定します。
  新しく作成するユーザーグループの名前を指定します。ここで指定したユーザーグループ名に対応したグループが作成され、その下にインポートしたユーザーが取り込まれます。
  ドロップダウンリストボックスから、ユーザーグループ名に対応づける、取り込み元のフィールドを選択します。または、任意の文字列を直接入力します。＋をクリックして複数指定した場合は、それらを連結した値が設定されます。
- ［親ユーザーグループ］
  ［変更］をクリックして、ユーザーグループを指定します。
  ここで指定したユーザーグループは、［関連づけるユーザーグループ］で［既存］を選択した場合は、インポートするユーザーが所属するユーザーグループになります。［関連づけるユーザーグループ］で［新規作成］を選択した場合は、新規に作成したユーザーグループの親ユーザーグループになります。
- ［アクセスプロファイル］
  この項目は、［関連づけるユーザーグループ］で［新規作成］を選択した場合に指定します。
  ドロップダウンリストボックスから、アクセスプロファイルを選択します。選択したアクセスプロファイルが、新規に作成するユーザーグループに関連付けられます。

(4) 対応づけの確認

「(3) 属性の対応づけ」で設定した内容が表示されます。正しく対応づけられているかどうかを確認し、［次へ］をクリックします。

(5) アカウントの作成

コスト管理をする場合に設定します。

次の項目を設定し、［次へ］をクリックします。

補足

アカウントの［割り当て残高］、［上乗せ残高］、および［最小の残高］は、インポートしたときに 1 回だけ設定されます。これらの値がすでに設定されている場合は、［インポートの処理方法］で［更新］または［追加 / 更新］を選択しても、値は更新されません。

［個人アカウントの作成 / 関連づけ］

インポートするユーザーに個人アカウントを関連づける場合はチェックマークを付け、個人アカウントの各項目を設定します。

個人アカウントの各項目

ドロップダウンリストボックスから、個人アカウントの項目に対応付ける、取り込み元のフィールドを選択します。または、任意の文字列を直接入力します。＋をクリックして複数指定した場合は、それらを連結した値が設定されます。

参照

・アカウントの項目の詳細 →「アカウントを作成する」（P.200）
・ファイル内の項目のフォーマット →「インポート時の属性の対応づけ」（P.184）

[すべて解除]

[インポートの処理方法] が [更新] の場合に表示されます。チェックマークを付けると、現在設定されている共有アカウントの関連づけをすべて解除します。すべて解除した状態で [共有アカウントの作成 / 関連づけ] の [新規作成] で共有アカウントを作成すると、作成された共有アカウントだけが関連づけられます。

[共有アカウントの作成 / 関連づけ]

インポートするユーザーに共有アカウントを関連づける場合は、チェックマークを付けます。

[共有アカウント]

共有アカウントを新しく作成する場合は、[新規作成] にチェックマークを付け、共有アカウントの各項目を設定します。すでに作成済みの共有アカウントを関連づける場合は、[新規作成] のチェックマークを外します。

共有アカウントの各項目

ドロップダウンリストボックスから、共有アカウントの項目に対応付ける、取り込み元のフィールドを選択します。または、任意の文字列を直接入力します。[＋] をクリックして複数指定した場合は、それらを連結した値が設定されます。

参照
・アカウントの項目の詳細 → 「アカウントを作成する」(P.200)
・ファイル内の項目のフォーマット → 「インポート時の属性の対応づけ」(P.184)

[アカウントの選択]

すでに作成済みの共有アカウントを追加する場合は、[追加] をクリックして、アカウントを選択します。

(6) スケジュールの設定

次の項目を設定し、[次へ] をクリックします。

[スケジュール名]

スケジュール名を入力します。

[説明]

必要に応じて、スケジュールの説明を入力します。

[スケジュール設定]

インポートのスケジュールを、次から選択します。

- [日ごと]

  毎日、指定した [時間] にインポートを実行します。
- [週ごと]

  毎週、指定した [日時] (曜日と時間) にインポートを実行します。
- [月ごと]

  毎月、指定した [日付と時刻] にインポートを実行します。月末にインポートを実行する場合は [最終日] にチェックマークを付けます。
- [分ごと]

  指定した [分] 間隔でインポートを実行します。
- [指定した日付と時刻]

  指定した [日付] と [時刻] に 1 回だけインポートを実行します。
- [ファイル更新時]

ファイルを常に監視して、ファイルが更新されたときにインポートを実行します。

- ［手動更新］
  ユーザーインポート一覧で［インポートの実行］をクリックしたときに、インポートが開始されます。

［実行結果の通知］

インポートの実行結果をメールで通知する場合は、［メールで通知］にチェックマークを付け、通知先名と送信先メールアドレスを指定します。

インポートスケジュールを作成する（データベースインポート）

［インポートの作成］をクリックします。



(1) 取り込み元の選択

ユーザー情報の取り込み元を選択します。

以降は、［データベースインポート］を選択した場合の項目を説明します。

参照
インポート可能なユーザープロパティとフォーマット → 「ユーザーインポート」（P.185）

(2) 取り込み元の詳細

取り込み元のデータベースの情報を指定します。

インポートの処理方法は［追加 / 更新］または［更新］を指定します。

クエリには、インポート元のデータベースからユーザー情報を取得するためのクエリ文を入力します。

(3) 属性の対応付け

ApeosWare Management Suite のユーザー属性と、データベースの結果セットの列名を対応付けます。メールアドレスなど複数の値を指定できる属性の下に［上書き］が表示されます。チェックマークを付けると、ユーザー属性がデータベースの値で置き換えられます。チェックマークを外すと、既存のユーザー属性にデータベースの値が追加されます。

また、カード ID/PAN などの重複した値を指定できない属性の横に［後入力を優先］が表示されます。チェックマークを付けると、既存ユーザーで既に使われている属性がある場合、重複する既存ユーザーの属性を削除し、取り込んだユーザーの属性にデータベースの値を適用します。チェックマークを外すと、エラーとなりユーザーを取り込むことができません。

以下を除いて、詳しくは「インポートスケジュールを作成する（ファイルインポート）」（P.155）の「(3) 属性の対応づけ」を参照してください。

- ［ユーザーのユーザーグループへの関連づけ］において［新規作成］を選択しているとき、最大 10 階層のユーザーインポートができます。
- ［属性 / グループ名］において、各層でデータベースの結果セットの列名を指定できます。
- ［インポート完了後にユーザーが存在しないユーザーグループを削除する］
  ［関連づけるユーザーグループ］で［新規作成］を選択した場合に指定します。
  チェックマークを付けると、インポート完了後に親ユーザーグループ以下のユーザーを含まないユーザーグループをすべて削除します。ただし、1 件でもインポートに失敗した場合は、削除処理はスキップされます。

(4) 対応づけの確認

「(3) 属性の対応付け」で設定した内容が表示されます。正しく対応づけられているかどうかを確認します。

(5) アカウントの作成

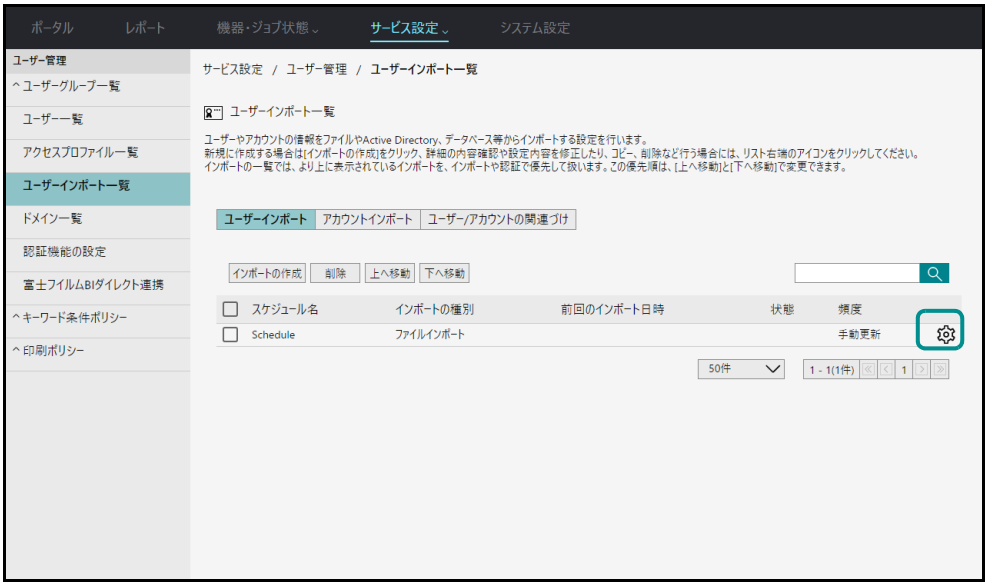
「インポートスケジュールを作成する（ファイルインポート）」（P.155）の「(5) アカウントの作成」を参照してください。

(6) スケジュールの設定

「インポートスケジュールを作成する（ファイルインポート）」（P.155）の「(6) スケジュールの設定」を参照してください。

インポートスケジュールを手動で実行する

今すぐにスケジュールを実行したいときは、ユーザーインポート一覧の ⚙ をクリックして、［インポートの実行］を選択します。インポートスケジュールが実行されます。



インポートスケジュールの情報を確認する

ユーザーインポート一覧の ⚙ をクリックして、［プロパティ］を選択します。

インポートスケジュールを複製する

ユーザーインポート一覧の ⚙ をクリックして、［コピー］を選択します。

インポートスケジュールを削除する

ユーザーインポート一覧の ⚙ をクリックして、［削除］を選択します。

認証時の外部認証サーバーへの接続順位を入れ替える

ApeosWare Management Suite は、ユーザーを認証するときに、取り込み元が［Active Directory/LDAP］に設定されたインポート情報に従って外部認証サーバーに接続し、ユーザーを特定します。このとき、ユーザーインポート一覧のインポートスケジュールが上位のものから先に接続します。

優先順位は［上へ移動］、［下へ移動］をクリックして、順番を入れ替えることができます。

ユーザーインポート一覧［アカウントインポート］タブ

表示方法

管理者画面のメニューを［サービス設定］＞［ユーザー管理］＞［ユーザーインポート一覧］の順に選択し、［アカウントインポート］タブを表示します。

ページの概要

ファイルで管理しているアカウント情報を、スケジュールを指定して自動で ApeosWare Management Suite に取り込みます。

インポートスケジュールを作成する（ファイルインポート）

［インポートの作成］をクリックします。



(1) 取り込み元の選択

次の項目を設定し、［次へ］をクリックします。

アカウント情報の取り込み元を選択します。

以降は［ファイルインポート］を選択した場合の項目を説明します。

(2) 取り込み元の詳細

「インポートスケジュールを作成する（ファイルインポート）」（P.155）の「(2) 取り込み元の詳細」を参照してください。

(3) 属性の対応づけ

次の項目を設定し、［次へ］をクリックします。

［アカウントの詳細］

ドロップダウンリストボックスから、アカウントの項目に対応付ける、取り込み元のフィールドを選択します。または、任意の文字列を直接入力します。＋をクリックして複数指定した場合は、それらを連結した値が設定されます。

補足

「(2) 取り込み元の詳細」で［ファイルの 1 行目を見出しとして使用する］にチェックマークを付けた場合は、見出しを参照しながらフィールドを選択できます。

参照

・アカウントの項目の詳細 →「アカウントを作成する」(P.200)
・ファイル内の項目のフォーマット →「インポート時の属性の対応づけ」(P.184)

［残高の設定］

インポートするアカウントに残高を設定する場合はチェックマークを付け、残高の各項目を設定します。

残高の各項目

ドロップダウンリストボックスから、残高の項目に対応づける、取り込み元のフィールドを選択します。または、数値を直接入力します。

補足

アカウントの［割り当て残高］および［上乗せ残高］は、［インポートの処理方法］によって次のようになります。
・［更新］または［追加 / 更新］を選択した場合は、すでに設定された値に指定した値が加算、または減算されます。
・［追加］を選択した場合は、指定した値が設定されます。

参照

残高の項目の詳細 →「アカウントを作成する」(P.200)

(4) アカウントの詳細を確認

「(3) 属性の対応づけ」で設定した内容が表示されます。正しく対応づけられているかどうかを確認します。

(5) スケジュールの設定

「インポートスケジュールを作成する（ファイルインポート）」(P.155) の「(6) スケジュールの設定」を参照してください。

ユーザーインポート一覧［ユーザー / アカウントの関連づけ］タブ

表示方法

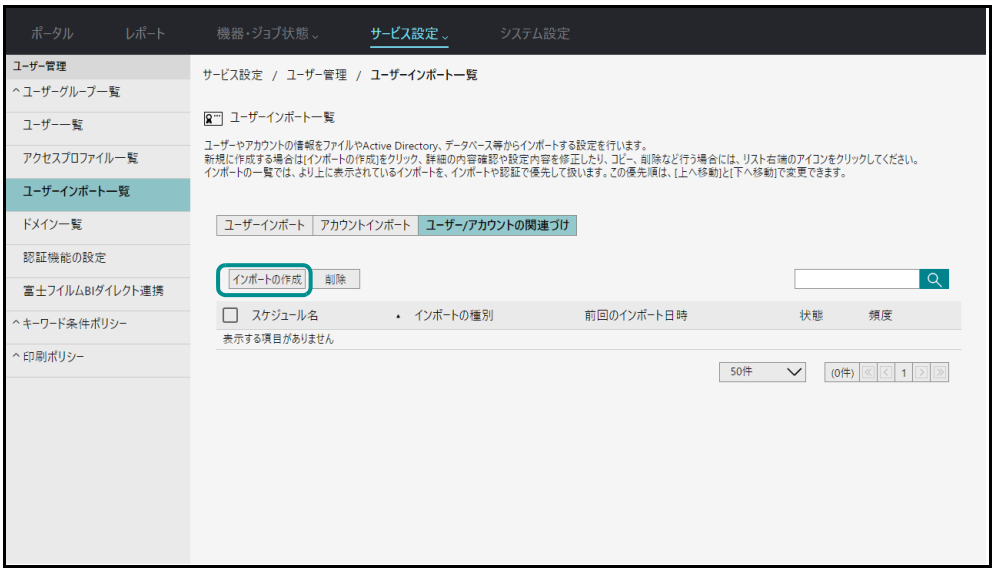
管理者画面のメニューを［サービス設定］＞［ユーザー管理］＞［ユーザーインポート一覧］の順に選択し、［ユーザー / アカウントの関連づけ］タブを選択します。

ページの概要

ユーザー ID とアカウントを対応づけたファイルをインポートします。スケジュールを設定して、自動でインポートできます。

インポートを作成する（ファイルインポート）

［インポートの作成］をクリックします。



(1) 取り込み元の選択

関連づけ情報の取り込み元を選択し、［次へ］をクリックします。

以降は［ファイルインポート］を選択した場合の項目を説明します。

(2) 取り込み元の詳細

「インポートスケジュールを作成する（ファイルインポート）」（P.155）の「(2) 取り込み元の詳細」を参照してください。

(3) 属性の対応づけ

アカウントを関連づける対象を［ユーザー］、［ユーザーグループ］から選択し、［次へ］をクリックします。

ドロップダウンリストボックスから、各項目に対応付ける、取り込み元のフィールドを選択します。または、任意の文字列を直接入力します。＋をクリックして複数指定した場合は、それらを連結した値が設定されます。

補足

「(2) 取り込み元の詳細」で［ファイルの 1 行目を見出しとして使用する］にチェックマークを付けた場合は、見出しを参照しながらフィールドを選択できます。

参照

・アカウントの項目の詳細 →「アカウントを作成する」（P.200）
・ファイル内の項目のフォーマット →「インポート時の属性の対応づけ」（P.184）

(4) 関連づけの詳細を確認

「(3) 属性の対応づけ」で設定した内容が表示されます。正しく対応づけられているかどうかを確認します。

(5) スケジュールの設定

「インポートスケジュールを作成する（ファイルインポート）」（P.155）の「(6) スケジュールの設定」を参照してください。

ドメイン一覧

表示方法

管理者画面のメニューを［サービス設定］＞［ユーザー管理］＞［ドメイン一覧］の順に選択します。

ページの概要

ApeosWare Management Suite と連携する外部認証サーバーのドメイン情報を設定します。ドメインの追加、プロパティの編集、および削除ができます。

ユーザーの認証時にドメインを検索する順序は、ドメインの一覧のリスト順になります。

ドメインを追加する

［ドメインの作成］をクリックし、次の項目を設定して［保存］をクリックします。



[取り込み元の選択]

外部認証サーバーのタイプを、[Active Directory]、[LDAP]、または［Microsoft Entra Domain Services (Microsoft Entra ID DS)］から選択します。

補足

・取り込み元に［Microsoft Entra Domain Services（Microsoft Entra ID DS)］を選択した場合、設定が完了した後に［接続確認］をクリックし、入力した情報が正しいかを確認してください。うまく接続できない場合は、次の項目を確認してください。
  ・ネットワークが Microsoft Entra Domain Services にアクセスできるかどうかを確認します。
  ・LDAPS プロトコルが Microsoft Entra ID DS ドメインサービスで有効になっているかどうか、およびポート 636 が解放されているかどうかを確認します。
  ・「Secure LDAP 用の証明書をインストールする」（P.67）でエクスポートした証明書が ApeosWare Management Suite サーバーにインポートされているかどうか、およびサーバーが再起動されているかどうかを確認します。
  ・作成するドメインのユーザーがエンタープライズアプリケーションに関連付けられているかどうかを確認します。
  ・詳しくは、「エンタープライズ アプリケーションを設定する」（P.64）および「Microsoft Entra Domain Services を作成する」（P.66）を参照してください。
・Microsoft Entra Domain Services を使用する場合、次の注意制限事項があります。
  ・管理者画面およびユーザー画面にログインする場合、［認証機能の設定］の［認証モード］で、［メールアドレスでの認証を可能にする］にチェックマークが付いていても、ApeosWare Management Suite のユーザーに設定されているメールアドレスでの認証はできません。
  ・管理者画面およびユーザー画面以外の画面にログインする場合、Microsoft Entra ID で多要素認証が有効になっていると、パスワード付きのログインでは認証に失敗します。
  ・Microsoft Entra ID の外部ユーザーはサポート対象外です。

[ドメイン]

Active Directory、または LDAP サーバーの場合に設定します。

Active Directory のドメイン名、または LDAP サーバーの認証先（レルム名）を入力します。

[Microsoft Entra Domain Services のドメイン]

Microsoft Entra Domain Services の場合にだけ設定します。

「Microsoft Entra Domain Services を作成する」（P.66）で作成した DNS ドメイン名を入力します。

[ユーザー名] / [パスワード]

接続するためのユーザー名とパスワードを入力します。

- Active Directory の場合

  ユーザー名を入力します。SAM 形式、UPN 形式どちらでも入力できます。ドメインを省略してもかまいません。

- LDAP サーバーの場合

  ユーザー名を DN（識別名）形式で指定します。RDN（相対識別名）の属性名と属性値は、イコール（=）でつなぎます。各 RDN はカンマ（,）で区切ります。

  例：cn=root, ou=ou1, dc=example, dc=local

- Microsoft Entra Domain Services の場合

  「エンタープライズ アプリケーションを設定する」（P.64）で作成したアプリケーションに関連付けられているユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。

  補足

  Microsoft Entra Domain Services と連携する前に Microsoft Entra ID に存在していたユーザーの場合、パスワードは同期されません。ここで使用するユーザーのパスワードは、Microsoft Entra Domain Services と連携した後に必ず変更してください。

  Microsoft Entra ID でパスワードを変更したあと、Microsoft Entra Domain Services に同期されるまで 10 分ほど時間がかかる場合があるため、少し待ってからドメインを追加するようにしてください。

[ユーザー ID の形式]

Active Directory、または Microsoft Entra Domain Services の場合に設定します。

- Active Directory の場合

  ユーザー ID の表示形式を、[SAM 形式]、[UPN 形式] から選択します。

  [SAM 形式] の場合は、ユーザー名を「{NetBIOS ドメイン名} ￥ {ユーザー名}」の形式で表します。
  [UPN 形式] の場合は、ユーザー名を「{ユーザー名} @ {FQDN ドメイン名}」の形式で表します。

  補足

  [ユーザー ID の形式] には、必ず、外部認証サーバーで認証に使用している形式を指定してください。形式が合っていないと、ユーザーが正しく認証されません。

- Microsoft Entra Domain Services の場合

  [SAM 形式] を選択します。

[Active Directory サーバーと LDAPS 通信する]

Active Directory、または Microsoft Entra Domain Services の場合に設定します。

- Active Directory の場合

  Active Directory サーバーと LDAPS 通信をする場合に、チェックマークを付けます。LDAPS 通信をするには、サーバー証明書をインストールして、通信を暗号化するように設定する必要があります。

- Microsoft Entra Domain Services の場合

  チェックマークを付けます。

[ドメインコントローラー]

Active Directory/ Microsoft Entra Domain Services の場合にだけ設定します。

ドメイン内に複数のドメインコントローラーが存在するときは、認証するドメインコントローラーの優先順位を設定します。

ApeosWare Management Suite は、設定された優先順位に従ってドメインコントローラーとの接続を確認し、最初に通信できたドメインコントローラーからユーザー情報を取り込みます。

補足

ドメインコントローラーの優先順位を設定しないと、サービスごとに異なるドメインコントローラーが使用されることがあります。各サービスで同じドメインコントローラーを使用するには、優先順位を設定することを推奨します。

[サーバー]

LDAP サーバーの場合にだけ設定します。

LDAP サーバーの URL を、「ldap://」または「ldaps://」形式で入力します。

「ldaps://」形式の URL を指定する場合は、サーバー証明書をインストールして、通信を暗号化するように設定する必要があります。

例：ldap://192.0.2.1

[LDAP ユーザーオブジェクトクラス]

LDAP サーバーの場合にだけ設定します。

ユーザーオブジェクトクラスに使用するオブジェクトクラス名を入力します。

[LDAP グループオブジェクトクラス]

LDAP サーバーの場合にだけ設定します。

グループオブジェクトクラスに使用するオブジェクトクラス名を入力します。

[ログイン URL]

Microsoft Entra Domain Services の場合にだけ設定します。

「エンタープライズ アプリケーションを設定する」（P.64）の手順 15. の補足でメモした {ログイン URL} を入力します。

[識別子（エンティティ ID）]

Microsoft Entra Domain Services の場合にだけ設定します。

「エンタープライズ アプリケーションを設定する」（P.64）の手順 15. で設定した識別（エンティティ ID）を入力します。

[アプリケーション ID]

Microsoft Entra Domain Services の場合にだけ設定します。

「エンタープライズ アプリケーションを設定する」（P.64）の手順 8. で作成したアプリケーションの ID を入力します。

ドメインの情報を確認する

ドメイン一覧の をクリックして、[プロパティ] を選択します。

ドメインの設定内容を表示・編集できます。編集できる項目は、「ドメインを追加する」（P.166）と同じです。ただし、外部認証サーバーのタイプは変更できません。

ドメインを削除する

ドメイン一覧の をクリックして、[削除] を選択します。

インポートスケジュールの取り込み元に設定されているドメインを削除する場合は、いったんインポートスケジュールを削除してから、ドメインを削除する必要があります。

ドメインを削除すると、ドメイン内のユーザーがすべて ApeosWare Management Suite から削除されます。ただし、ユーザーグループは残ります。

ユーザーが削除されると、次の情報も削除されます。

- 機器に設定されたユーザー情報、および、そのユーザーが所有者になっているボックス、ボックス内に蓄積された文書
- ユーザーが所有者になっている、機器に設定されたジョブフロー

ドメインの検索順位を変更する

ユーザーの認証時にドメインを検索する順序は、ドメインの一覧のリスト順になります。[上へ移動] または [下へ移動] をクリックして、ドメインの検索順序を入れ替えます。

認証機能の設定

表示方法

管理者画面のメニューを [サービス設定] > [ユーザー管理] > [認証機能の設定] の順に選択します。

ページの概要

ユーザーの認証に関する設定をします。



認証機能を設定する

[ユーザー認証の設定]

- [ユーザー自己登録を許可する]

  ユーザー自身にユーザー情報の登録を許可するかどうかを指定します。

  チェックマークを付けると、機器や PC に接続された IC カードリーダーにカードを読み込ませることで、ユーザー自身がカード ID（PAN）を登録できるようになります。また、ログイン用 QR コードをモバイルアプリで読み込むことで、ユーザー自身が外部 ID を登録できるようになります。

参照
「ユーザー自身によるユーザー情報の登録」（P.191）

- [ログイン失敗時のロックアウト]

  不正なパスワードを入力してログインに失敗したときに、ロックアウトするかどうかを指定します。

チェックマークを付けた場合は、次の項目を指定します。

・［ログインの再試行を許容する回数］
ロックアウトするまでの、ログインの失敗の許容回数を入力します。［ログイン失敗回数をリセットするまでの時間］以内に、ここで設定した回数を超えてログインに失敗すると、ユーザーはロックアウトされます。たとえば［5］回を入力した場合、指定時間以内に 6 回ログインに失敗すると、ロックアウトされます。

・［ログイン失敗回数をリセットするまでの時間］
ログインに失敗してから、ログインの失敗回数を無効にするまでの時間を入力します。ここで設定した時間以内に［ログインの再試行を許容する回数］を超えてログインに失敗したユーザーはロックアウトされます。
ロックアウトされたユーザーは、［サービス設定］＞［ユーザー管理］＞［ユーザー一覧］ページで管理者がロックアウトを解除できます。



補足

［ログイン失敗回数をリセットするまでの時間］以内は、ログインに成功しても、ログインの失敗回数はリセットされません。
たとえば、［ログインの再試行を許容する回数］を 3 回、［ログイン失敗回数をリセットするまでの時間］を 1 日とすると、2 回続けてログインに失敗したあとログインに成功し、数時間後に再び 2 回続けて失敗すると、ユーザーはロックアウトされます。

- ［ユーザーの最終ログイン日からの有効期間］

  この項目は、［ユーザーの有効期限］が［最終ログイン日からの有効期間 {n} 日］に設定されているユーザーに適用されます。
  ユーザーの有効期間の日数を入力します。最後にログインしてからこの有効期間が経過すると、ユーザーは無効になります。
  次のどれかの操作をすると、その操作した日から、ここで設定した有効期間の日数だけ、有効な状態が延長されます。

  ・ モバイル端末、PC、機器から ApeosWare Management Suite にアクセスする
  ・ ApeosWare Management Suite が管理している機器にログインする
  ・ ユーザーが所有者になっているジョブが、ApeosWare Management Suite のプリントサービスで処理される

- ［外部認証タイムアウト］

  ApeosWare Management Suite サーバーと外部認証サーバーが通信するときのタイムアウト時間を指定します。

  認証の問い合わせ時に、設定したタイムアウトを超えた場合は、認証不可になります。ただし、ドメインに複数のドメインコントローラーを設定している場合は、タイムアウトしてもすぐ認証不可にならず、次のサーバーへの問い合わせに移ります。

  ［自動］（初期値）を設定すると、ApeosWare Management Suite サーバーの OS で定められたタイムアウト時間が設定されます。

- ［外部の認証情報参照時にローカルユーザーデータを更新］

  ユーザー情報を外部認証サーバーに問い合わせたときに、ApeosWare Management Suite 側のユーザー情報を更新するかどうかを指定します。

  ユーザー情報の更新はインポートスケジュールに従って行われますが、スケジュールで設定したタイミングに加えて、認証時にもユーザー情報を更新する場合は、チェックマークを付けます。

- ［カード認証時にローカルを優先する］

  ユーザー情報を検索する場合、ApeosWare Management Suite サーバーを先に検索するときに、チェックマークを付けます。

- ［カード認証時に Active Directory/LDAP へのユーザーの有効性を確認する］

  ［カード認証時にローカルを優先する］にチェックマークを付けた場合に、外部ユーザーを ApeosWare Management Suite サーバーで見つけたとき、そのユーザーが Active Directory/LDAP でも有効になって

いるかを確認するときにチェックマークを付けます。

- [複合機 / モバイルで認証時の PIN/ パスワードの強制]

  この設定は、認証方式が［カスタム認証］の機器、またはモバイル端末で認証するときに有効です。それぞれ、次の場合に適用されます。

  ・ 認証方式が［カスタム認証］の機器
  ユーザーに関連づけられたアクセスプロファイルの［PIN/ パスワード入力を必須にする］で［認証の共通設定に従う］を選択している場合
  ・ モバイル端末
  ユーザーに関連づけられたアクセスプロファイルの［PIN/ パスワード入力を必須にする］で［機器グループの設定に従う］または［認証の共通設定に従う］を選択している場合

  ユーザーの認証時に PIN またはパスワードを使用するかどうかを指定します。使用する場合は、チェックマークを付けます。

補足

PC から ApeosWare Management Suite にログインするときのパスワードは、この設定の対象ではありません。

- ［認証モード］ > ［カード認証（複合機のみ）］

  この設定は、機器の認証方式が［カスタム認証］の場合にだけ適用されます。機器で IC カードリーダーを使って認証するときにチェックマークを付けます。

補足

・［カスタム認証］の機器で IC カードリーダーを使用するときは、必ずこの項目にチェックマークを付けてください。チェックマークが外れていると、カード認証ができません。
・認証方式が［本体認証］と［外部認証］の機器の場合は、カードリーダーを設置して有効にすれば、自動的にカード認証が有効になります。

- ［認証モード］ > ［認証 ID の入力］

  この設定は、機器の認証方式が［カスタム認証］の場合にだけ適用されます。

  機器で認証するときに使用する認証 ID の種類にチェックマークを付けます。次の認証 ID を複数選択できます。

  ・ ユーザー ID
    - メールアドレスでの認証を許可する
      ユーザー ID ではなく、機器にメールアドレスでログインする場合は、［メールアドレスでの認証を許可する］にチェックマークを付けます。
  ・ カード ID（PAN）（カード ID の手入力）
  ・ 外部 ID

補足

・認証方式が［本体認証］または［外部認証］の場合は、カード ID（PAN）や外部 ID、メールアドレスでの認証はできません。
・使用できるメールアドレスは、ほかのユーザーと共用していないものに限ります。共用している場合はエラーとなります。

［ユーザーインポートの設定］

- ［ActiveDirectory/LDAP でカード ID が重複した場合カード ID を上書きする］

  カード ID が重複した場合にカード ID を上書きするときは、チェックマークを付けます。

［QR コードによるログインの設定］

- ［QR コードのタイムアウト時間（1-60 秒）］

  この設定は、［ログイン用 QR コードの表示］を［する］に設定したときに適用されます。表示する QR コードの有効時間を設定します。

- ［モバイルアプリ設定］

  この設定は、［ApeosWare MS Mobile 2］、［AliPay］、［WeChat］のログイン用 QR コードを使用するための、アプリの固有情報を設定します。

参照
「QR コードによるログインを使用する場合の事前設定」（P.69）

［PIN/ パスワードの基本設定］

- ［最低文字数］

  ログインするときの、パスワードの最小文字数を入力します。

  パスワードを設定しない場合は「0」を指定します。「0」を指定すると、ユーザーはパスワードを入力しないで、ログインできます。

- ［使用を必須にする文字種］

  パスワードで必ず含める文字種にチェックマークを付けます。複数選択できます。

［PIN/ パスワードの詳細設定］

- ［パスワードの再利用の制限］

  現在設定されているパスワードの再利用を禁止するかどうかを指定します。チェックマークを付けた場合は、次の項目を入力します。

- ［再利用を制限する過去のパスワード数］

  一度使用したパスワードは、ここで設定した回数、パスワードが変更されるまで、再利用が禁止されます。

  たとえば、［5］回を設定した場合、過去 5 回以内に使用したパスワードは、パスワード変更時に使用できません。それより前に使用したパスワードは使用できます。

- ［パスワードの有効期限］

  パスワードの有効期限を設定するかどうかを指定します。チェックマークを付けた場合は、次の項目を指定します。

- ［パスワードの有効期間］

  ユーザーのパスワードの有効期間を指定します。

  最後にパスワードを変更してから、ここで設定した日数が経過すると、パスワードが無効になります。ただし、［パスワード変更を猶予するログイン回数］で設定した回数は、前のパスワードでもログインできます。

  - ［パスワード変更を猶予するログイン回数］
    パスワードの有効期間経過後の、猶予ログインの回数を入力します。
    有効期間が過ぎたあと、ここで設定した回数を超えてログインしたユーザーは、パスワードが無効になり、ロックアウトされます。たとえば、［5］回を設定した場合は、有効期間が経過しても 5 回まではログインできます。6 回めにログインしようとすると、ロックアウトされます。

［機器の認証情報の保存設定］

- ［ネットワークに接続できないときに使用する認証情報の保存方法］

  カスタム認証のオフラインモードを利用するユーザーの保存方法を指定します。

  - ［許可されたユーザーを機器への設定反映時に保存］
    機器反映のタイミングでオフライン利用できるすべてのユーザーを機器に保存します。
    オフライン利用できるユーザーとは、次の設定が有効なユーザーのことです。
    - アクセスプロファイルで［ネットワーク接続できない機器へのアクセス］：許可する
  - ［機器にアクセスした許可されたユーザーを認証時に都度保存］
    オンライン時にユーザーが機器にログインしたタイミングで、当該機器にユーザー情報をキャッシュ

として機器に保存します。

機器に登録したユーザー情報は、次のどれかを実施した場合に削除します。

- 管理者ポータル＞機器グループプロパティの［ネットワーク接続できない機器へのアクセス］にチェックマークを外した状態で機器反映した場合
  機器に保存したユーザー情報をすべて削除します。
- 保存可能なユーザー数の上限（10,000 人）を超えた場合
  ログイン履歴の最も古いユーザー情報から順に削除します。

キーワード条件ポリシー

補足

この機能は一部の国または地域では利用できません。
詳細は弊社の代理店にお問い合わせください。

表示方法

管理者画面のメニューを［サービス設定］＞［ユーザー管理］＞［キーワード条件ポリシー］の順に選択します。

ページの概要

キーワード条件ポリシーを表示します。



キーワード条件ポリシーを設定する

キーワード条件ポリシー一覧の［新規作成］をクリックします。

キーワード条件ポリシーの作成ダイアログボックスが表示されます。

［名前］

作成するポリシー名を入力します。

［検出範囲］

検出範囲を指定します。

［マスキングする］

特定のキーワードを検出した際に検出したキーワードを「*」でマスキングするかどうかを指定します。マスキングする文字列を全体、最初の文字、奇数番目、偶数番目、範囲指定から選択することができます。

[承認プリントする]

承認プリントするかどうかを設定します。

[検出数] で設定した値以上にセキュリティ情報を検索した場合に、特殊承認をするときは、[特殊承認を必要とする] にチェックマークを付け、検出数を設定します。

- [特殊承認を必要とする]
  特殊承認をする場合にチェックマークを付け、特殊承認用のセキュリティ情報検出数を設定します。
- [自動却下する]
  自動却下をする場合にチェックマークを付け、プリントジョブの自動却下をするセキュリティ情報検出数を設定します。
- [転送を許可する]
  転送を許可する場合にチェックマークを付けます。転送先に承認依頼者を選択できるようにするときは、さらに [転送先として承認依頼者を選択可能にする] にチェックマークを付けます。

[未サポートのフォントを含むジョブをキャンセルする]

未サポートのフォントを含むジョブに対してキーワード検出を実施した場合に、ジョブをキャンセルするかどうかを指定します。

[条件]

検出条件を選択します。

[追加] をクリックすると、[条件の追加] ダイアログボックスで、条件を追加できます。

キーワード条件ポリシーを削除する

削除するキーワード条件ポリシーにチェックマークを付け、[削除] をクリックします。

条件

表示方法

管理者画面のメニューを [サービス設定] > [ユーザー管理] > [キーワード条件ポリシー] > [条件] の順に選択します。

ページの概要

登録されている条件の一覧を表示します。



条件を追加する

［新規作成］をクリックし、次の項目を設定して［保存］をクリックします。条件は、100 件まで追加できます。

［名前］

条件名を入力します。

条件

［正規表現］または［キーワード］のどちらかを選択します。

［正規表現］の場合は正規表現、［キーワード］の場合は任意の文字列を表示します。

条件を削除する

削除する条件にチェックマークを付け、［削除］をクリックします。

サポートフォント

表示方法

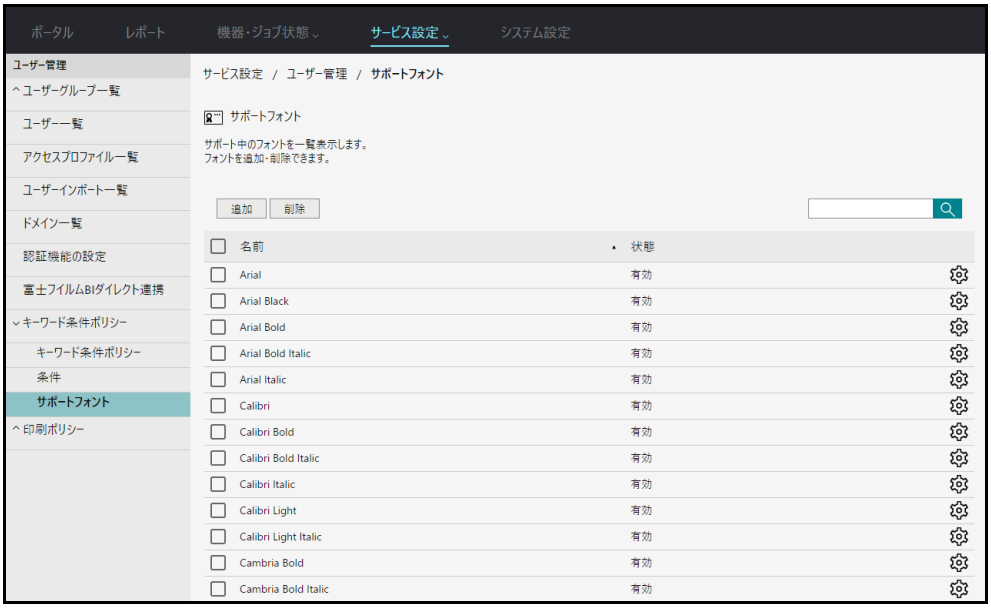
管理者画面のメニューを［サービス設定］＞［ユーザー管理］＞［キーワード条件ポリシー］＞［サポートフォント］の順に選択します。

ページの概要

サポートするフォントの一覧を表示します。

サポートフォントを追加する

サーバーにインストールされているフォントの一覧から、追加するフォントを選択して、［追加］をクリックします。



サポートフォントを削除する

削除するサポートフォントにチェックマークを付け、［削除］をクリックします。

印刷ポリシー

表示方法

管理者画面のメニューを［サービス設定］＞［ユーザー管理］＞［印刷ポリシー］の順に選択します。

ページの概要

印刷ポリシーを表示します。



印刷ポリシーを設定する

印刷ポリシー一覧の［新規作成］をクリックします。

印刷ポリシーの作成ダイアログボックスが表示されます。

［名前］

作成するポリシー名を、1 ～ 128 文字の範囲で入力します。

［ウォーターマーク］

ウォーターマークを設定します。

［編集］をクリックすると、［Watermark の追加］ダイアログボックスで、ウォーターマークを選択できます。

［ヘッダー / フッター 1］

ヘッダーまたはフッターを設定します。

［編集］をクリックすると、［ヘッダー / フッターの追加］ダイアログボックスで、ヘッダーまたはフッターを選択できます。

［ヘッダー / フッター 2］

ヘッダーまたはフッターを設定します。

［編集］をクリックすると、［ヘッダー / フッターの追加］ダイアログボックスで、ヘッダーまたはフッターを選択できます。

［QR コード］

QR コードを設定します。

［編集］をクリックすると、［QR コードの追加］ダイアログボックスで、QR コードを選択できます。

印刷ポリシーを削除する

削除する印刷ポリシーにチェックマークを付け、［削除］をクリックします。

ウォーターマーク

表示方法

管理者画面のメニューを［サービス設定］＞［ユーザー管理］＞［ウォーターマーク］の順に選択します。

ページの概要

登録されているウォーターマークの一覧を表示します。



ウォーターマークを追加する

［新規作成］をクリックし、次の項目を設定して［保存］をクリックします。

［名前］

ウォーターマークの名称を、1 ～ 128 文字の範囲で入力します。

［種別］

［画像］または［テキスト］のどちらかを選択します。
どちらを選択したかによって、設定する項目が異なります。

［種別］に［画像］を選択したとき

［イメージファイル］

［参照］をクリックすると、ダイアログボックスでウォーターマークを選択できます。

［拡大・縮小（%）］

ウォーターマークの拡大率を、30 ～ 400%の範囲の 10%単位で指定します。

［イメージ繰り返し］

ウォーターマークを繰り返しプリントするかどうかを、［あり］と［なし］から選択します。

［位置］

ウォーターマークの表示位置を、「左上」、「上中央」、「右上」、「左中央」、「中央」、「右中央」、「左下」、「下中央」、「右下」から選択します。

[上下の微調整（mm）]

ウォーターマークの表示位置を、上下方向に微調整するときに、-100 ～ 100 mm の範囲の 10 mm 単位で指定します。

[左右の微調整（mm）]

ウォーターマークの表示位置を、左右方向に微調整するときに、-100 ～ 100 mm の範囲の 10 mm 単位で指定します。

[回転（deg）]

ウォーターマークの表示を回転するときに、-90 ～ 90° の範囲の 45° 単位で指定します。

[透明度（%）]

ウォーターマークの透明度を、0 ～ 100 の範囲の 10 単位で指定します。

透明度は 0 が最も透明な状態です。

[適用範囲]

ウォーターマークを表示するページを、「最初のページ」、「最初と最後のページ」、「すべてのページ」から選択します。

[種別] に [テキスト] を選択したとき

[表示テキスト]

ウォーターマークにするテキストを、「時間」、「印刷文書名」、「ユーザー ID」、「IP アドレス」、「テキスト指定」から選択します。

[テキスト指定]

[表示テキスト] に「テキスト指定」を指定したときに、任意の文字列を 1 ～ 128 文字の範囲で入力します。

[フォント名]

ウォーターマークにするテキストのフォントを指定します。サーバーにインストールされているフォントから選択します。

[フォントサイズ（pt）]

ウォーターマークにするテキストのフォントサイズを、「50」、「60」、「70」、「80」、「90」、「100」から指定します。

[文字の色]

[編集] をクリックすると、ダイアログボックスでウォーターマークにするテキストの色を選択できます。

[太字]

ウォーターマークにするテキストを太字にするときに、チェックマークを付けます。

[斜体]

ウォーターマークにするテキストを斜体にするときに、チェックマークを付けます。

[マスキング]

[表示テキスト] に「IP アドレス」を指定したときに、マスキングする範囲を指定します。

項目	説明
しない	マスキングしません
192.168.1.XXX	IP アドレスの第 4 オクテットをマスキングします

項目	説明
192.168.XXX.XXX	IP アドレスの第 3、第 4 オクテットをマスキングします
192.XXX.XXX.XXX	IP アドレスの第 2 ～第 4 オクテットをマスキングします

その他

[上下の微調整（mm)]、[左右の微調整（mm)]、[回転（deg)]、[透明度（%)]、および［適用範囲］は、［種別］に［画像］を選択したときと同じです。

ウォーターマークを削除する

削除するウォーターマークにチェックマークを付け、［削除］をクリックします。

ヘッダー / フッター

表示方法

管理者画面のメニューを［サービス設定］＞［ユーザー管理］＞［ヘッダー / フッター］の順に選択します。

ページの概要

登録されているヘッダー / フッターの一覧を表示します。



ヘッダー / フッターを追加する

［新規作成］をクリックし、次の項目を設定して［保存］をクリックします。

［名前］

ヘッダーまたはフッターの名称を、1 ～ 128 文字の範囲で入力します。

［位置］

ヘッダーまたはフッターの表示位置を、［左上］、［上中央］、［右上］、［左下］、［下中央］、［右下］から選択します。

［フォント名］

ヘッダーまたはフッターのテキストのフォントを指定します。サーバーにインストールされているフォントから選択します。

[フォントサイズ（pt）]

ヘッダーまたはフッターのテキストのフォントサイズを、8 ～ 48pt の範囲の 1pt 単位で指定します。

[文字の色]

[編集] をクリックすると、ダイアログボックスでヘッダーまたはフッターのテキストの色を選択できます。

[表示項目]

ヘッダーまたはフッターに表示する文字列の項目と、文字列内での表示順位を設定します。

文字列に表示する項目にチェックマークを付け、それぞれの [表示順] で順位を指定します。

[ユーザー IP アドレス] にチェックマークを付けたときは、[マスキング] で IP アドレスのマスキング範囲を指定してください。

[指定文字列] にチェックマークを付けたときは、[指定文字列] に任意の文字列を 1 ～ 128 文字の範囲で入力します。

参照
「[マスキング]」(P.178)

[表示区切り]

各表示項目を改行で区切るか、1 文字の区切り文字で区切って 1 行で印刷するかを設定します。

改行で区切る場合は、[改行する] にチェックマークを付けます。

区切り文字で区切る場合は、[区切り文字] に区切り文字を入力します。

ヘッダー / フッターを削除する

削除するヘッダー / フッターにチェックマークを付け、[削除] をクリックします。

QR コード

本 QR コードで埋め込まれた情報は、一般的な QR コードリーダーで読み取りできます。個人情報を QR コードに埋め込む場合には、個人情報も読み取りできます。利用するときは、本機能に対するユーザーから同意を得るなどの、配慮をしてください。

表示方法

管理者画面のメニューを［サービス設定］＞［ユーザー管理］＞［QR コード］の順に選択します。

ページの概要

登録されている QR コードの一覧を表示します。



QR コードを追加する

［新規作成］をクリックし、次の項目を設定して［保存］をクリックします。

［名前］

QR コードの名称を、1 ～ 128 文字の範囲で入力します。

［位置］

QR コードの表示位置を、［左上］、［上中央］、［右上］、［左中央］、［中央］、［右中央］、［左下］、［下中央］、［右下］から選択します。

［上下の微調整（mm）］

QR コードの表示位置を、上下方向に微調整するときに、-100 ～ 100 mm の範囲の 10 mm 単位で指定します。

［左右の微調整（mm）］

QR コードの表示位置を、左右方向に微調整するときに、-100 ～ 100 mm の範囲の 10 mm 単位で指定します。

［適用範囲］

QR コードを表示するページを、［最初のページ］、［最初と最後のページ］、［すべてのページ］から選択します。

［QR コードの埋め込み文字列種類］

QR コードに埋め込む文字列の項目にチェックボックスを付けます。

［テキスト指定］にチェックマークを付けたときは、任意の文字列を 1 ～ 128 文字の範囲で入力します。

QR コードを削除する

削除する QR コードにチェックマークを付け、［削除］をクリックします。

富士フイルム BI ダイレクト連携

補足

この機能は、日本国内だけで利用できます。

表示方法

管理者画面のメニューを［サービス設定］＞［ユーザー管理］＞［富士フイルム BI ダイレクト連携］の順に選択します。

ページの概要

富士フイルム BI ダイレクトとの認証連携の設定をします。テナントの追加、削除、テナント情報の確認、ユーザー情報の反映、自動反映のスケジュールの設定ができます。

認証連携を利用するまでの流れ

認証連携を設定するには、事前に富士フイルム BI ダイレクトのサービス利用の申し込みが必要です。利用の申し込みから、認証が連携されるまでの流れは次のとおりです。

(1) ApeosWare Management Suite と連携するサービスを契約します。



補足

サービス利用の申し込みについては、弊社担当者にお問い合わせください。

(2) 申し込み時に登録したメール宛に、ご利用開始メールが送付されます。必要に応じて初期パスワードを設定してください。



補足

申し込み時に登録したユーザーが、ApeosWare Management Suite から富士フイルム BI ダイレクトへのアクセスユーザーとなります。

(3) ApeosWare Management Suite で［富士フイルム BI ダイレクト連携］画面を表示して、連携するテナントを追加し、必要な設定をします。



参照

「認証連携するテナントを追加する」(P.182)

(4) ユーザー情報の送信、または設定したスケジュールに従って、ユーザー情報が富士フイルム BI ダイレクトに反映されます。

(5) 富士フイルム BI ダイレクトにユーザー情報が反映されると、登録されたユーザーに富士フイルム BI ダイレクトのサービスに関する案内のメールが送付されます。

以降は、ユーザーの操作です。

(6) ユーザーは、メールに記載された URL に有効期限内にアクセスし、管理者から通知された「認証コード」を入力します。



補足

・有効期限内にアクセスできなかった場合は、URL が無効になります。この場合は、再度招待処理を実行してください。

・「認証コード」は、テナントを追加するときに表示される「テナント ID」です。

(7) ユーザーが富士フイルム BI ダイレクトに登録されていない場合は、ユーザー登録画面が表示されます。画面の指示に従って、ユーザー情報を登録してください。すでに登録されている場合はログイン画面が表示されるので、ユーザー情報を入力してログインします。

認証連携するテナントを追加する

［富士フイルム BI ダイレクト連携］画面で、［追加］をクリックします。

(1) アクセスユーザーの設定

ApeosWare Management Suite から富士フイルム BI ダイレクトにアクセスするためのユーザーを認証します。

［富士フイルム BI ダイレクトにログイン］をクリックすると、富士フイルム BI ダイレクトのログイン画面が表示されます。テナント管理者権限があるユーザーでログインします。

補足

富士フイルム BI ダイレクトの利用申し込み時に登録したユーザーに、テナント管理者権限があります。

(2) テナントの選択

ログインしたユーザーが管理しているテナントの一覧が表示されます。追加するテナントを選択し、「テナント ID」をメモして［次へ］をクリックします。

「テナント ID」は、ユーザーがテナントへの参加を承諾するための「認証コード」です。

テナントに関連づけるユーザーに、通知してください。

補足

すでに連携しているテナントは表示されません。

(3) テナントポリシーの設定

必要に応じて、テナントポリシーを設定して［次へ］をクリックします。

［ポリシー設定］の［新しいウィンドウ / タブで開く］をクリックすると、富士フイルム BI ダイレクトのテナントのポリシー設定画面が表示されます。

補足

テナントポリシーの設定が終了したら、富士フイルム BI ダイレクトの画面を閉じて、［富士フイルム BI ダイレクト連携］の設定操作に戻ってください。

参照

テナントポリシーについては、富士フイルム BI ダイレクトの情報を参照してください。

(4) アクセスプロファイルの選択

テナントに設定するアクセスプロファイルを選択して［次へ］をクリックします。

選択したアクセスプロファイルに関連づけられたユーザーが、テナントに登録されるようになります。

補足

・アクセスプロファイルに関連づけられていても、［富士フイルム BI ダイレクト連携］が設定されていないユーザーは登録されません。
・アクセスプロファイルにユーザーグループが関連づけられている場合は、そのグループに所属するユーザーが対象になります。
・ユーザーとユーザーグループに異なるアクセスプロファイルが関連づけられている場合は、ユーザーのアクセスプロファイルが優先されます。

(5) スケジュールの設定

ApeosWare Management Suite のユーザー情報を、富士フイルム BI ダイレクトに自動で反映するためのスケジュールを設定して［次へ］をクリックします。

［スケジュール設定］

ドロップダウンリストボックスからスケジュールを選択し、必要な情報を設定します。

次から選択できます。

- ［日ごと］
  毎日、指定した［時間］に反映処理を実行します。
- ［週ごと］
  毎週、指定した［日時］（曜日と時間）に反映処理を実行します。
- ［週ごと］
  毎月、指定した［日付と時刻］に反映処理を実行します。
- ［指定した日付と時刻］
  指定した［日付］と［時刻］に 1 回だけ反映処理を実行します。

- ［しない］
  反映処理が自動で実行されません。手動で反映する必要があります。

［実行結果の通知］

実行結果を通知するかどうかを選択します。

通知する場合は、［メールで通知］にチェックマークを付けます。

ユーザー情報の送信の結果が、テナントに設定された通知先のメールアドレスに通知されます。

(6) 概要

設定した内容を確認し、［保存］をクリックすると、テナントが追加されます。

各項目の［編集］をクリックし、設定した内容を変更することもできます。

ユーザー情報を反映する

ユーザー情報を手動で反映したい場合に実行します。

テナントの一覧の ⚙ をクリックして、［ユーザー情報の送信を開始］を選択します。

ApeosWare Management Suite のユーザー情報が、富士フイルム BI ダイレクトに反映されます。

反映状態は、テナントの一覧で確認できます。詳細な情報を確認したい場合は、⚙ をクリックして［ユーザー情報の処理状態を確認］を選択します。

中止したい場合は、［状態］が「実行中」までの間に［ユーザー情報の送信を停止］を選択します。

補足

- ユーザーが所属するグループやアクセスプロファイルを変更して、連携するテナントが変わる場合は、変更前のテナントで反映を実行したあとに、新しいテナントで反映を実行してください。
- 認証連携によって登録されたユーザーを富士フイルム BI ダイレクトから削除、または、テナントから解除したい場合は、ApeosWare Management Suite 上のユーザー情報を削除、またはアクセスプロファイルとの関連づけを解除してから、反映を実行してください。

テナントの情報を確認する

テナント名のリンクをクリックするか、テナントの一覧の ⚙ をクリックして、［プロパティ］を選択します。アクセスユーザーやアクセスプロファイルなど、テナントを追加するときに設定した情報を確認できます。

テナントを削除する

テナントの一覧の ⚙ をクリックして、［削除］を選択します。

テナントとの連携が解除されます。

補足

- 認証連携によって富士フイルム BI ダイレクトに登録されたユーザー情報は削除されません。ApeosWare Management Suite との連携が解除されると、富士フイルム BI ダイレクトのユーザーアカウントとして、プロパティを編集できるようになります。
- テナントを削除すると、機器に反映された認証連携設定も削除されます。

インポート時の属性の対応づけ

ユーザーやアカウント情報をファイルや外部認証サーバーからインポートするときに、インポートした情報と対応づけが可能な属性を説明します。

ユーザーインポート

ユーザーインポートでは、次の属性を設定できます。表で「取り込み元インポート」に「○」が付いている項目は、取り込み元から情報をインポートできます。

ユーザーの設定

項目	内容	取り込み元インポート
処理種別	次の文字列（大文字と小文字は区別されません） ・追加の場合：「a」 ・更新の場合：「m」 ・削除の場合：「d」	○
名	任意文字列	○
姓	任意文字列	○
表示名	任意文字列	○
ふりがな	任意文字列	○
索引文字	宛先表のインデックス検索で利用されるインデックス文字。入力可能な文字は「A-Z、あーん」です。	○
メールアドレス	メールアドレス形式の文字列 複数指定する場合は、次のようにします。 ・外部認証サーバーからインポートする場合 複数値属性を対応付けることで、複数のメールアドレスを指定できます。更新時に標準のメールアドレスが設定されていない場合は、システムがランダムに標準のメールアドレスを決定します。すでに標準のメールアドレスが設定されている場合は、その設定が保持されます。 ・ファイル / データベースからインポートする場合 複数の場合は、セミコロン (;) で区切って指定します。先頭のメールアドレスが標準のメールアドレスになります。	○
ユーザー ID	任意文字列（半角英数のみ） 補足 ユーザー情報を機器本体に反映する場合、ユーザー ID が機器で使用できる文字種、文字数であることを確認してください。機器の制限に合わないユーザーは、機器に反映できません。	○
代替ユーザー ID	任意文字列（半角英数のみ） 複数指定する場合は、次のようにします。 ・外部認証サーバーからインポートする場合 複数値属性を対応付けることで、複数の代替ユーザー ID を指定できます。 ・ファイル / データベースからインポートする場合 セミコロン (;) で区切って指定します。	○
パスワード	任意文字列 最低文字数と、必ず含める文字種は、［認証機能の設定］ページで設定した値に従います。 大文字と小文字は区別されます。	○

項目	内容	取り込み元インポート
カード ID/PAN	任意文字列（半角英数のみ） 複数指定する場合は、次のようにします。 ・外部認証サーバーからインポートする場合 複数値属性を対応付けることで、複数のカード ID（PAN）を指定できます。 ・ファイル / データベースからインポートする場合 セミコロン (;) で区切って指定します。	○
外部 ID	任意文字列（半角英数のみ） 複数設定する場合は、次のようにします。 ・外部認証サーバーからインポートする場合 複数値属性を対応付けることで、複数の外部 ID を指定できます。 ・ファイル / データベースからインポートする場合 セミコロン (;) で区切って指定します。	○
外部集計 ID	任意文字列（半角英数のみ）	○
終了日時	yyyy/mm/dd hh:mm 形式の日時文字列 「2015/1/1 1:1」または「2015/01/0　01:01」のどちらでも指定できます。	○
状態	この項目は、ファイル、またはデータベースからインポートする場合だけ指定します。 インポート設定時に［有効］/［無効］のどちらかを選択、または ファイル / データベースから次の文字列を指定（大文字と小文字は区別されません） ・有効の場合「active」 ・無効の場合「inactive」	○ （ファイル / データベースのみ）
コストセンターコード	任意文字列	○
保存先	任意文字列	○
場所	任意文字列	○
アクセスプロファイル	任意文字列 既存のアクセスプロファイルの名前と合致する文字列であること。	○
説明	任意文字列	○
写真へのリンク / パス	任意文字列	○
電話番号	任意文字列	○
携帯番号	任意文字列	○
ファクス番号	任意文字列 複数指定する場合は、次のようにします。 ・外部認証サーバーからインポートする場合 複数値属性を対応付けることで、複数のファクス番号を指定できます。 ・ファイル / データベースからインポートする場合 セミコロン (;) で区切って指定します。	○
富士フイルム BI ダイレクト連携	富士フイルム BI ダイレクトと認証連携する場合に、富士フイルム BI ダイレクトに登録するユーザー ID（メールアドレス）を設定します。	○

ユーザーのユーザーグループへの関連づけ

項目	内容	取り込み元インポート
グループ名	任意文字列	○

項目	内容	取り込み元インポート
説明	任意文字列	○
親ユーザーグループ	インポートの作成時に、既存のユーザーグループから選択します。	
アクセスプロファイル	インポートの作成時に、既存のアクセスプロファイルから選択します。	

個人アカウントの作成 / 関連づけ

項目	内容	取り込み元インポート
アカウント	任意文字列	○
アカウントの説明	任意文字列	○
名	インポートの作成時に、既存のアカウントグループから選択します。	
開始日	yyyy/mm/dd hh:mm 形式の日時文字列	○
終了日	yyyy/mm/dd hh:mm 形式の日時文字列	○
アカウント状態	インポートの作成時に、[有効] / [無効]、または取り込み元のフィールドを選択します。 取り込み元のフィールドを選択した場合、値が Active/Enabled/True/1/Activated/Yes の場合は有効に、Inactive/Disabled/False/0/Deactivated/No の場合は無効として取り込まれます。 上記値以外の場合は、インポート方法によって以下になります。 [ファイルインポート] 空文字、半角スペース、全角スペースは、アカウント状態が有効としてインポートされます。 [データベース] NULL、空文字は、アカウント状態が有効としてインポートされます。 半角スペース、全角スペースはインポート失敗となります。	○
料金体系	インポートの作成時に、既存の料金体系から選択します。	
コストセンターコード	任意文字列	○
外部 ID1	任意文字列	○
外部 ID2	任意文字列	○
クライアントへの請求	インポートの作成時に、オン / オフを指定します。	
割り当て残高	数値 *1	○
上乗せ残高	数値 *1	○
複合機の残高表示	インポートの作成時に、オン / オフを指定します。	
最小の残高	数値 *1	○
補充スケジュール	インポートの作成時に、既存の補充スケジュールから選択します。	

*1 小数点以下の桁数が、[システム設定] > [通貨設定] メニューで設定した [通貨小数点桁数] を超えた場合は、切り捨てられます。

共有アカウントの作成 / 関連づけ

項目	内容	取り込み元インポート
アカウント	任意文字列	○
アカウントの説明	任意文字列	○

項目	内容	取り込み元インポート
すべてのユーザーが使える共有アカウント	インポートの作成時に、オン / オフを指定します。	
親アカウント	インポートの作成時に、既存のアカウントから選択します。	
アカウントグループ名	インポートの作成時に、既存のアカウントグループから選択します。	
開始日	yyyy/mm/dd hh:mm 形式の日時文字列	○
終了日	yyyy/mm/dd hh:mm 形式の日時文字列	○
アカウント状態	インポートの作成時に、［有効］/［無効］を選択します。	
料金体系	インポートの作成時に、既存の料金体系から選択します。	
コストセンターコード	任意文字列	○
外部 ID1	任意文字列	○
外部 ID2	任意文字列	○
クライアントへの請求	インポートの作成時に、オン / オフを指定します。	
割り当て残高	数値 *1	○
上乗せ残高	数値 *1	○
複合機の残高表示	インポートの作成時に、オン / オフを指定します。	
最小の残高	数値 *1	○
補充スケジュール	インポートの作成時に、既存の補充スケジュールから選択します。	

*1 小数点以下の桁数が、［システム設定］＞［通貨設定］メニューで設定した［通貨小数点桁数］を超えた場合は、切り捨てられます。

アカウントインポート

アカウントインポートでは、次の属性を設定できます。表で「取り込み元インポート」に「○」が付いている項目は、取り込み元から情報をインポートできます。

アカウントの詳細

項目	内容	取り込み元インポート
処理種別	次の文字列（大文字と小文字は区別されません） ・追加の場合：「a」 ・更新の場合：「m」	○
アカウントタイプ	次の文字列（大文字と小文字は区別されません） ・個人アカウントの場合：「personal」 ・共通アカウントの場合：「shared」	○
アカウント	任意文字列	○
アカウントの説明	任意文字列	○
すべてのユーザーが使える共有アカウント	インポートの作成時に、オン / オフを指定します。	
親アカウント	インポートの作成時に、既存のアカウントから選択します。	
アカウントグループ名	インポートの作成時に、既存のアカウントグループから選択します。	
開始日	yyyy/mm/dd hh:mm 形式の日時文字列	○
終了日	yyyy/mm/dd hh:mm 形式の日時文字列	○
コストセンターコード	任意文字列	○

項目	内容	取り込み元インポート
外部 ID1	任意文字列	○
外部 ID2	任意文字列	○
アカウント状態	インポートの作成時に、［有効］/［無効］を選択します。	
クライアントへの請求	インポートの作成時に、オン / オフを指定します。	
料金体系	インポートの作成時に、既存の料金体系から選択します。	

残高の設定

項目	内容	取り込み元インポート
割り当て残高	数値 *1	○
上乗せ残高	数値 *1	○
補充スケジュール	インポートの作成時に、既存の補充スケジュールから選択します。	
複合機の残高表示	インポートの作成時に、オン / オフを指定します。	
最小の残高	数値 *1	○

*1 小数点以下の桁数が、［システム設定］＞［通貨設定］メニューで設定した［通貨小数点桁数］を超えた場合は、切り捨てられます。

ユーザー / アカウントの関連づけのインポート

ユーザーとアカウントの関連づけのインポートでは、次の属性を設定できます。各表で「取り込み元インポート」に「○」が付いている項目は、取り込み元から情報をインポートできます。

ユーザー

項目	内容	取り込み元インポート
処理種別	次の文字列（大文字と小文字は区別されません） ・追加の場合：「a」 ・削除の場合：「d」	○
ユーザーの識別子	インポートの作成時に、ユーザーを識別する ID の種類を次から選択します。 ・ユーザー ID ・カード ID（PAN） ・外部 ID	
ユーザー ID/ カード ID（PAN)/ 外部 ID	［ユーザーの識別子］で選択した種類に合わせて、既存のユーザー ID、カード ID（PAN）、または外部 ID のどれか	○
アカウント名	既存のアカウント名	○
親アカウント名	既存のアカウント名	○
アカウントの外部 ID	既存のカウントの外部 ID	○
親アカウントの外部 ID	既存のアカウントの外部 ID	○

ユーザーグループ

項目	内容	取り込み元インポート
処理種別	次の文字列（大文字と小文字は区別されません） ・追加の場合：「a」 ・削除の場合：「d」	○
ユーザーグループ名	既存のユーザーグループ名	○
ユーザーグループの外部 ID	既存のユーザーグループの外部 ID	○
親ユーザーグループ名	既存のユーザーグループ名	○
親ユーザーグループの外部 ID	既存のユーザーグループの外部 ID	○
アカウント名	既存のアカウント名	○
アカウントの外部 ID	既存のアカウントの外部 ID	○
親アカウント名	既存のアカウント名	○
親アカウントの外部 ID	既存のアカウントの外部 ID	○

ユーザー自身によるユーザー情報の登録

次のいずれかの方法で、ユーザー自身がカード ID（PAN）を登録できます。

- PC に接続したカードリーダーを使用して、カード ID を登録する
- 機器に接続したカードリーダーを使用して、カード ID を登録する
- 機器に表示されるログイン用 QR コードを読み取り、外部 ID を登録する

PC に接続したカードリーダーを使用して、カード ID を登録する

PC に接続した IC カードリーダーでカード ID を読み取り、Web ブラウザーを使って登録の操作をします。

動作確認

次の動作環境を確認します。

項目	説明
対象 OS/ ネットワーク	ApeosWare Management Suite の Web クライアントと同じ環境
対象 Web ブラウザー	Microsoft Edge（IE モードをご利用ください） Internet Explorer® 11（OS がサポートする Web ブラウザーをご利用ください）
対象カードリーダー	・PaSoRi RC-S320 ・PaSoRi RC-S330 ・PaSoRi RC-S340 ・PaSoRi RC-S360 ・PaSoRi RC-S370 ・PaSoRi RC-S380 上記の IC カードリーダーに対応した NFC ポートソフトウェアがインストールされている必要があります。

補足

・PaSoRi は、ソニー社製の IC カードリーダーです。設置方法や操作方法については、PaSoRi に付属のマニュアルを参照してください。

・弊社製または富士ゼロックス社製 IC カード以外のカードを使用する場合は、設定作業が必要になります。弊社担当者までお問い合わせください。

参照

ApeosWare Management Suite の動作環境 →『セットアップガイド』

ユーザーの自己登録を許可する

ユーザー自身がカード ID（PAN）を登録できるように、次を設定します。

管理者画面の［サービス設定］＞［ユーザー管理］＞［認証機能の設定］で、［ユーザー自己登録を許可する］の［許可する］にチェックマークを付けます。

カード ID を登録する

操作の前に、PC の Web ブラウザーを、次のように設定します。

- JavaScript を有効にする
- 署名済み ActiveX コントロールのダウンロードを有効にする

1. IC カードリーダーが接続された PC にログインし、Web ブラウザーを起動します。
2. Web ブラウザーのアドレスバーに、次の URL を入力します。

http:// {ホスト名または IP アドレス} /UDR/

{ホスト名または IP アドレス} には、ApeosWare Management Suite サーバーのホスト名または IP アドレスを指定します。

補足

SSL で暗号化して通信する場合は、「https://」を入力します。通信用のポート番号を、初期設定（HTTP 通信「80」、HTTPS 通信「443」）から変更している場合は、{ホスト名または IP アドレス} に続けてコロン（:）とポート番号を入力します。

3. 画面に表示されたメッセージに従って、IC カードリーダーにカードをかざします。

4. ログイン画面が表示されるので、ユーザー情報を入力してログインします。
カードリーダーで読み取ったカード ID が、ログインしたユーザーのプロパティとして登録されます。

機器に接続したカードリーダーを使用して、カード ID を登録する

機器に接続した IC カードリーダーでカード ID を読み取り、読み取ったカード情報を ApeosWare Management Suite に登録します。

動作環境

次の動作環境を確認します。

項目	説明
対象機器	ApeosWare Management Suite の対象機器で、次のどちらかの条件を満たしていること ・機器の認証方式が［カスタム認証］で、カスタムサービスを利用できる機種 ・機器の認証方式が［外部認証］（認証システム：ApeosWare Authentication Agent）で、外部アクセス機能を利用できる機種
対象カードリーダー	上記の機器がサポートするカードリーダー

補足

認証方式が［本体認証］の機器では、この機能を使用できません。

ユーザーの自己登録を許可する

ユーザー自身がカード ID（PAN）を登録できるように、次を設定します。

管理者画面の［サービス設定］＞［ユーザー管理］＞［認証機能の設定］で、［ユーザー自己登録を許可する］の［許可する］にチェックマークを付けます。

カード認証を設定する

機器の認証方式が［カスタム認証］の場合は、カード認証をするために、次を設定します。

管理者画面の［サービス設定］＞［ユーザー管理］＞［認証機能の設定］ページで、［カード認証（複合機のみ）］にチェックマークを付けます。

補足

機器の認証方式が［外部認証］の場合は、上記を設定する必要はありません。カードリーダーを設置して有効にすれば、自動的にカード認証が有効になります。

機器の外部アクセスの接続先を設定する

機器の認証方式が［外部認証］の場合は、外部アクセス機能を使用して、ユーザーの自己登録機能にアクセスします。そのため、接続先 URL など、外部アクセスを使用するための設定をしておきます。

補足

機器の認証方式が［カスタム認証］の場合は、設定する必要はありません。

参照

外部アクセスの設定 → 「外部アクセス機能を使用する」（P.117）

カード ID を登録する

操作パネルのメニューは、機器によって異なります。ここでは、代表的な例を説明します。

1. 機器に接続されている IC カードリーダーに IC カードをかざして、機器にログインします。
2. 機器の認証方式が［外部認証］の場合は、次の操作をします。
   (1) 機器の操作パネルで、外部アクセスの接続先一覧画面を表示します。
   (2) あらかじめ登録してある、ユーザーの自己登録機能への接続先 URL を選択して、［開く］を選択します。

補足

機器の認証方式が［カスタム認証］の場合は、未登録の IC カードをかざすと、自動的にユーザーの自己登録機能に接続されます。

3. ログイン画面が表示されるので、ユーザー情報を入力してログインします。
   カードリーダーで読み取ったカード ID が、ログインしたユーザーのプロパティとして登録されます。

機器に表示されるログイン用 QR コードを読み取り、外部 ID を登録する

機器に表示されたログイン用 QR コードをモバイルアプリで読み込み、モバイルアプリの外部 ID を、ApeosWare Management Suite に登録します。

参照

「QR コードによるログインを使用する場合の事前設定」（P.69）

動作環境

次の動作環境を確認します。

項目	説明
対象機器	ApeosWare Management Suite の対象機器で、次の条件を満たしていること ・機器の認証方式が［カスタム認証］でカスタムサービスを利用できる機種
対象モバイルアプリ	・ApeosWare MS Mobile 2 ・AliPay ・WeChat

補足

認証方式が［本体認証］、［外部認証］の機器では、この機能を使用できません。

ユーザーの自己登録を許可する

ユーザー自身がアプリケーション ID を登録できるように、次を設定します。

管理者画面の［サービス設定］＞［ユーザー管理］＞［認証機能の設定］で、［ユーザー自己登録を許可する］の［許可する］にチェックマークを付けます。

ログイン用 QR コードを有効にする

機器の認証方式が［カスタム認証］のときは、QR コードによるログインをするために、次を設定します。

管理者画面の［サービス設定］＞［ユーザー管理］＞［認証機能の設定］＞［QR コードによるログインの設定］＞［モバイルアプリ設定］で、使用するモバイルアプリを選択して、モバイルアプリ固有の設定をします。


補足

AliPay と WeChat は、それぞれの公式サイトで公式アカウントの登録と事前設定が必要です。

外部 ID を登録する

操作パネルのメニューは、機器によって異なります。ここでは、代表的な例を説明します。

1. 機器に表示されているログイン用 QR コードを、対象のモバイルアプリで読み込みます。
2. モバイルアプリの認証が成功して、機器に［ユーザー情報の登録］が表示されたら、外部 ID に関連づけたいユーザーのユーザー ID とパスワードを入力します。

こんなときは

ユーザー管理に関連する操作について説明します。

ネットワークがつながらない、またはネットワークが不安定なときの対処方法

Microsoft Entra Domain Services からインポートしたユーザーで認証する場合は、Microsoft Entra ID や Microsoft Entra Domain Servcies との通信が必要になるため、ネットワークが不安定になると認証が遅くなる可能性があります。

ネットワークへの影響を軽減したい場合は、次の設定をしてください。

- ［外部の認証情報参照時にローカルユーザーデータを更新］を無効にする
- ［カード認証時にローカルを優先する］を有効にする
- ［カード認証時に Active Directory/LDAP へのユーザーの有効性を確認する］を無効にする

お使いの環境で認証設定に問題がないことを確認したうえで、それでも問題が発生する場合は、［外部認証タイムアウト］の設定値を徐々に大きな値（最大で 10 秒）に設定してください。

ユーザー情報の機器への反映時の注意事項

ユーザー ID、表示名、およびパスワードは、ApeosWare Management Suite と機器で、入力できる文字数や文字種が異なります。

外部認証サーバーで登録したユーザーや、ApeosWare Management Suite で追加したユーザーを、本体認証用のユーザーとして機器に登録する場合は、機器側の文字制限にも注意する必要があります。機器の制限を無視してユーザー ID や表示名を設定すると、機器に反映できません。

次の表に、入力できる文字種と文字数を示します。

対象	入力できる文字種と文字数		
	ユーザー ID	表示名	パスワード
ApeosWare Management Suite	ASCII コードの文字で、64 文字以内	全角または半角の文字で、128 文字以内	ASCII コードの文字で、50 文字以内
機器	機器に依存	全角の文字で 16、半角の文字で 32 文字以内	ASCII コードの文字で、4 ～ 12 文字

参照
『導入・運用ガイド』の「機器への反映」

Apeos_Admin ユーザーのパスワードをコマンドから変更する

通常、Apeos_Admin ユーザーのパスワードは、管理者画面の［システム設定］＞［管理者パスワードの変更］メニューで変更できます。パスワードがわからなくなり、操作画面にアクセスできなくなったときは、コマンドを使用してパスワードを変更することもできます。

1. ApeosWare Management Suite がインストールされた PC に、Administrators グループのユーザーでログオンします。
2. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cd {インストール先フォルダー}￥Utils￥ResetPassword
```

{インストール先フォルダー} は、初期設定を変更していない場合は次になります。

「C:￥Program Files￥FUJIFILM￥ApeosWare MS」

3. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
AwmsResetPassword -u Apeos_Admin ［-p ｛新しいパスワード｝］
```

パスワードは、大文字と小文字が区別されます。

-p ｛新しいパスワード｝ を省略すると、インストール時の既定値 (FujiFilm_11111) になります。

ユーザー自身のパスワードやプロパティを変更する

ログインしているユーザーが、自分自身が ApeosWare Management Suite にログインするためのパスワードや、プロパティを変更します。

1. ユーザー画面を表示します。

管理者画面を表示している場合は、ヘッダーメニューで［ユーザーポータル］をクリックすると、ユーザー画面が表示されます。

補足

ユーザーに関連づけられているアクセスプロファイルの内容によっては、ユーザー画面を表示できないことがあります。この場合は、ユーザー自身がパスワードやプロパティを変更することはできません。

2. ユーザー画面のメニューを［ユーザー / サービス設定］＞［ユーザー管理］＞［ユーザープロパティ］の順に選択します。

3. パスワードやその他の情報を変更して［適用］をクリックします。

メールアドレス、および保存先は、ユーザーに関連づけられているアクセスプロファイルによっては、変更できないこともあります。



5 コスト管理

Web ブラウザーからの設定と確認

Web ブラウザーからコスト管理に関する設定や確認ができます。それぞれのページでどのようなことができるかを説明します。

- ［サービス設定］＞［コスト管理］

ページ	説明
アカウントグループ一覧	アカウントを束ねるアカウントグループを作成、管理します。 参照 「アカウントグループ一覧」（P.197）
アカウント一覧	残高を管理するアカウントを作成、管理します。 参照 「アカウント一覧」（P.200）
料金体系一覧	機器の料金表や、期間割引き / 割増しのルールを設定します。 参照 「料金体系一覧」（P.207）
補充スケジュール一覧	アカウントの残高を補充するスケジュールを設定します。 参照 「補充スケジュール一覧」（P.211）
設定	料金の計算方式や通知設定など、コスト管理全般を設定します。 参照 「設定」（P.214）

アカウントグループ一覧

表示方法

管理者画面のメニューを［サービス設定］＞［コスト管理］＞［アカウントグループ一覧］の順に選択します。

ページの概要

アカウントを束ねるアカウントグループを作成、管理します。アカウントグループの追加、プロパティの編集、コピー、および削除ができます。

アカウントグループを作成する

［アカウントグループの作成］をクリックします。



(1) アカウントグループの設定

次の項目を設定し、［次へ］をクリックします。

［アカウントグループ名］

アカウントグループ名を入力します。

［説明］

必要に応じて、アカウントグループの説明を入力します。

［アカウントグループを有効にする］

アカウントグループの有効と無効を切り替えます。アカウントグループを有効（または無効）にすると、グループに所属するアカウントがすべて有効（または無効）になります。

補足

アカウントグループが有効な場合でも、［使用開始日］と［使用終了日］の範囲外のアカウントは、無効になります。

［補充スケジュール］

アカウントグループで使用する補充スケジュールを、ドロップダウンリストボックスから選択します。アカウントグループに所属するアカウントに補充スケジュールが設定されていない場合は、ここで選択した補充スケジュールが適用されます。

ドロップダウンリストボックスの下の「補充スケジュールの作成」をクリックし、補充スケジュールを作成することもできます。

参照

「補充スケジュール一覧」（P.211）

［料金体系一覧］

アカウントグループで使用する料金体系を、ドロップダウンリストボックスから選択します。機器、機器グループ、およびアカウントに料金体系が設定されていない場合は、ここで選択した料金体系が、アカウントグループに所属するアカウントに適用されます。

ドロップダウンリストボックスの下の「料金体系の作成」をクリックし、料金体系を作成することもできます。

参照

「料金体系一覧」（P.207）

［機器 / 機器グループよりもこのアカウントの料金体系を優先する］

通常は機器または機器グループに設定されている料金体系がアカウントグループよりも優先されますが、この項目にチェックマークを付けると、アカウントグループに設定した料金体系が、機器や機器グループに設定された料金体系よりも優先して適用されます。

補足

アカウントに料金体系が設定されている場合は、アカウントグループよりもアカウントの料金体系が適用されます。

参照

『導入・運用ガイド』の「料金体系の優先順位」

(2) アカウントの関連づけ

次の項目を設定し、［次へ］をクリックします。

［アカウントの関連づけ］

［する］

アカウントグループにアカウントを追加する場合は［する］を選択し、次の手順でアカウントを関連づけます。

(1) ［追加］をクリックし、［アカウントの追加］ダイアログボックスを表示します。

(2) 関連づけるアカウント名にチェックマークを付け［追加］をクリックします。

補足

・有効になっているアカウントだけが追加できます。
・すべてのアカウントを追加する場合は［すべて追加］をクリックします。
・アカウントの関連づけに表示されたアカウントを絞り込む場合は、  に検索したいアカウント名の一部を入力し、＜ Enter ＞を押します。
・アカウントの関連づけを削除する場合は、［削除］または［すべて削除］をクリックします。

［しない］

アカウントを関連づけない場合に選択します。

(3) 概要

設定した内容を確認し、［保存］をクリックすると、アカウントグループが作成されます。

各項目の［編集］をクリックし、設定した内容を変更することもできます。

アカウントグループの情報を確認する

アカウントグループ一覧の⚙をクリックして、［プロパティ］を選択します。

アカウントに設定した内容を表示・編集できます。編集できる項目は、「アカウントグループを作成する」（P.198）で設定した機能と同じです。

アカウントグループをコピーする

アカウントグループ一覧の⚙をクリックして、［コピー］を選択します。

アカウントグループに設定した内容をコピーし、新しいアカウントグループを作成できます。コピーするとき、設定項目を編集できます。編集できる項目は、「アカウントグループを作成する」（P.198）で設定した機能と同じです。

アカウントグループを削除する

アカウントグループ一覧の⚙をクリックして、［削除］を選択します。

アカウントグループを削除すると、グループに所属しているアカウントの関連づけ情報が削除されます。アカウント自身は削除されません。

アカウント一覧

表示方法

管理者画面のメニューを［サービス設定］＞［コスト管理］＞［アカウント一覧］の順に選択します。

ページの概要

残高を管理するアカウントを作成、管理します。アカウントの追加、プロパティの編集、コピー、および削除ができます。

アカウントを作成する

［アカウントの作成］をクリックします。



(1) アカウントの設定

次の項目を設定し、［次へ］をクリックします。

［アカウントの種類］

作成するアカウントの種類を、次から選択します。

- ［個人アカウント］

  1 人のユーザーの専用アカウントです。1 人のユーザーに、1 つまたは複数の個人アカウントに関連づけることができます。

- ［共有アカウント］

  複数のユーザーで共有して使用するアカウントです。1 つの共有アカウントに、複数のユーザーを関連づけることができます。

補足

一度設定したアカウントの種類は、変更できません。

［アカウント名］

アカウント名を入力します。

[説明]

必要に応じて、アカウントの説明を入力します。

[すべてのユーザーが使える共有アカウントにする]

この項目は、[アカウントの種類] で [共有アカウント] を選択した場合に設定できます。

チェックマークを付けると、アクセスプロファイルで [すべてのユーザーが使える共有アカウントの使用] が [許可する] に設定されているユーザーが、このアカウントを使用できるようになります。

[親アカウント]

この項目は、[アカウントの種類] に [共有アカウント] を選択した場合で、[アカウントグループ] を設定していないときに設定できます。

アカウントに親子関係を設定する場合に、[親アカウントの関連づけ] をクリックして、アカウント一覧から親となるアカウントを選択します。親アカウントを設定したアカウントは、「サブアカウント」となります。

親アカウントとサブアカウントの関係、および制限は、次のとおりです。

- 親アカウントに関連づけられたユーザーは、サブアカウントも使用できます。
- サブアカウントに関連づけられたユーザーは、親アカウントを使用できません。
- 親アカウントに [すべてのユーザーが使える共有アカウントにする] が設定されている場合は、サブアカウントにも引き継がれます。
- サブアカウントは、アカウントグループに所属できません。
- 1 つのアカウントに設定できるサブアカウントは、1 階層までです。
- 残高が設定されたアカウントを、サブアカウントには設定できません。残高を設定できるのは、親アカウント、サブアカウントのどちらか一方だけです。

[アカウントグループ]

この項目は、[親アカウント] を指定していない場合に設定できます。

アカウントを所属させるアカウントグループを、ドロップダウンリストボックスから選択します。

補足

アカウントグループ内で残高の共有はできません。

[使用開始日] / [使用終了日]

アカウントの使用開始日と終了日を指定します。使用開始日から使用終了日の範囲でだけ、アカウントを使用できます。

[アカウントを有効にする]

アカウントの有効と無効を切り替えます。

補足

・アカウントをアカウントグループに所属させると、アカウントの有効 / 無効の設定は、アカウントグループの有効 / 無効の設定に上書きされます。
・この設定で有効となっている場合でも、アカウントの [使用開始日] と [使用終了日] の範囲外の場合は無効になります。

[料金体系一覧]

アカウントで使用する料金体系を、ドロップダウンリストボックスから選択します。

ドロップダウンリストボックスの下の「料金体系の作成」をクリックし、料金体系を作成することもできます。

[機器 / 機器グループよりもこのアカウントの料金体系を優先する]

通常は機器または機器グループに設定されている料金体系がアカウントよりも優先されますが、この項目にチェックマークを付けると、アカウントに設定した料金体系が、機器や機器グループに設定された料金体系よりも優先して適用されます。



参照

『導入・運用ガイド』の「料金体系の優先順位」

[コストセンターコード]

コストセンターコードを入力します。この「コストセンターコード」ごとに集計して、レポートを作成できます。

[外部 ID1] / [外部 ID2]

外部のシステムで管理される ID です。外部のシステムと連携する場合に指定します。

[クライアントへの請求を可能にする]

この項目は、[すべてのユーザーが使える共有アカウントにする] にチェックマークを付けた場合に設定できます。

クライアント（顧客）に請求するための請求書を作成するときの設定です。この項目にチェックマークを付けると、機器の操作パネルや Popup Messenger のアカウントの選択画面に [クライアントへの請求可能] チェックボックスが表示されます。

レポート機能では、この [クライアントへの請求可能] にチェックマークを付けて実行したジョブだけの使用量レポートを作成できます。

サブアカウントではこの項目を設定できません。親アカウントの [クライアントへの請求を可能にする] の設定は、サブアカウントに引き継がれます。

(2) 残高の設定

次の項目を設定し、[次へ] をクリックします。

[アカウントの残高を設定]

残高を設定する場合は [する] をクリックして、以降の項目を指定します。

[残高の設定]

- [割り当て残高]

  最初に割り当てる残高を入力します。機器を使用すると、この残高から優先して機器の使用料金が引かれます。

  アカウントに親子関係が設定されている場合は、親アカウントかサブアカウントのどちらか一方にだけ [割り当て残高] を設定できます。

  参照

  割り当て残高 →『導入・運用ガイド』の「残高の種類」

- [上乗せ残高]

  追加でアカウントに割り当てる残高を入力します。機器の使用が増え、[割り当て残高] が 0（ゼロ）になると、この [上乗せ残高] から機器の使用料金が引かれます。

  アカウントに親子関係が設定されている場合は、親アカウントかサブアカウントのどちらか一方にだけ [上乗せ残高] を設定できます。

  参照

  上乗せ残高 →『導入・運用ガイド』の「残高の種類」

- ［一般ユーザーによる上乗せ残高のチャージを禁止する］

  ユーザーによる［上乗せ残高］への追加チャージを許可するかどうかを指定します。チェックマークを外すと、ユーザーが外部のアカウント管理システムを使って上乗せ分の残高をチャージできるようになります。

- ［複合機で残高を表示する］

  機器の操作パネルでユーザーの利用状況を表示したときに、アカウントの残高も表示するかどうかを指定します。



参照

「（利用状況の表示）ボタン」（P.113）

［残高の最小値の設定］

- ［最小の残高］

  機器の使用を強制的に停止するとき、基準となる残高の下限値を指定します。正、負、0（ゼロ）の値を指定できます。

  アクセスプロファイルで［残高下限到達時の強制停止］が［停止する］に設定されているユーザーは、アカウントの残高がこの値を下回ると、機器の使用が禁止されます。



補足

・［残高下限到達時の強制停止］機能は、機器の認証方式が［カスタム認証］および［外部認証（ApeosWare Authentication Agent）］の場合に対応しています。
・ファクスは、［残高下限到達時の強制停止］に対応していません。
・［外部認証（ApeosWare Authentication Agent）］の場合は、ログイン時にアカウントの残高が［最小の残高］を下回っているとき、機器でコピー操作を実行することができません。



参照

残高の詳細 →『導入・運用ガイド』

- ［限度額の設定］

  この項目は、親子関係が設定されているサブアカウントで、親アカウントに残高が設定されている場合だけ設定できます。

  ユーザーが使用できる限度額を指定します。アクセスプロファイルで［残高下限到達時の強制停止］が［停止する］に設定されているユーザーは、次のどちらか低い値まで機器を使用できます。

  ・［限度額］と利用実績の差分
  ・親アカウントの現在の残高



補足

アクセスプロファイルで［残高下限到達時の強制停止］をしない設定の場合は、［限度額］の設定は無視されます。



参照

限度額の詳細 →『導入・運用ガイド』

- ［現在の使用量のリセット］

  この項目は、親子関係が設定されているサブアカウントで、親アカウントに残高が設定されている場合だけ設定できます。

  このアカウントの現在の利用実績を、手動で0（ゼロ）にします。リセットするときは、コメントの入力が必要です。

［補充スケジュールの設定］

アカウントの残高を補充するスケジュールを設定する場合は［する］をクリックします。

［しない］を選択した場合は、このアカウントが所属するアカウントグループの補充スケジュールが適用されます。アカウントグループにも補充スケジュールが設定されていない、またはアカウントグループに所属していない場合は、残高の更新処理は行われません。

参照

補充スケジュールの優先順位 → 『導入・運用ガイド』

- ［スケジュールを設定する］

  ［補充スケジュールの設定］で［する］を選択した場合に、補充スケジュールをドロップダウンリストボックスから選択します。

  ドロップダウンリストボックスの横の「補充スケジュールの作成」をクリックし、スケジュールを作成することもできます。

（3）ユーザー / ユーザーグループの関連づけ

次の項目を設定し、［次へ］をクリックします。

［ユーザーグループの関連づけ］

この項目は、［アカウントの種類］に［共有アカウント］を選択した場合だけ設定できます。

補足

［ユーザー管理］メニューでも、アカウントとユーザーグループとの関連づけを設定できます。どちらで操作しても同じ設定になります。

［する］

アカウントを使用できるユーザーグループを追加する場合は、［する］を選択し、次の手順でユーザーグループを追加します。

［すべてのユーザーグループと関連づける］にチェックマークを付けると、すべてのユーザーグループがアカウントを使用できます。

(1) ［追加］をクリックし、［ユーザーグループ作成］ダイアログボックスを表示します。

(2) 追加するユーザーグループにチェックマークを付け［追加］をクリックします。

補足

・すべてのユーザーグループを追加する場合は、［ユーザーグループ作成］ダイアログボックスの［すべて追加］をクリックします。

・関連付けられたユーザーグループの一覧に表示されたユーザーグループを絞り込む場合は、  に検索したいユーザーグループ名の一部を入力し、＜ Enter ＞を押します。

・ユーザーグループの関連づけを削除する場合は、関連づけられたユーザーグループの［削除］または［すべて削除］をクリックします。

［しない］

ユーザーを追加しない場合に選択します。

［ユーザーの関連づけ］

補足

［ユーザー管理］メニューでも、アカウントとユーザーとの関連づけを設定できます。どちらで操作しても同じ設定になります。

［する］

アカウントにユーザーを追加する場合は、［する］を選択し、次の手順でユーザーを追加します。

［すべてのユーザーと関連づける］にチェックマークを付けると、すべてのユーザーグループがアカウントを使用できます。

(1) ［追加］をクリックし、［ユーザー作成］ダイアログボックスを表示します。

(2) 追加するユーザーにチェックマークを付け［追加］をクリックします。

補足

・有効になっているユーザーだけが追加できます。
・すべてのユーザーを追加する場合は［すべて追加］をクリックします。
・関連付けられたユーザーの一覧に表示されたユーザーを絞り込む場合は、  に検索したいユーザー ID または姓、名の一部を入力し、＜ Enter ＞を押します。
・ユーザーの関連づけを削除する場合は、関連付けられたユーザーの［削除］または［すべて削除］をクリックします。

［しない］

ユーザーを追加しない場合に選択します。

(4) 機器 / 機器グループの関連づけ

次の項目を設定し、［次へ］をクリックします。

［機器グループの関連づけ］

初期設定では、すべての機器グループと関連づけられています。アカウントを使用する機器を制限したいときに、［すべての機器グループと関連づける］のチェックマークを外し、アカウントの使用を許可する機器グループだけを選択します。

［する］

アカウントを使用する機器を制限する場合は、次の手順で機器を選択します。

補足

［すべての機器グループを関連づける］にチェックマークを付けた場合は、この設定以降に登録された機器にも適用されます。

(1) ［追加］をクリックし、［機器グループ］ダイアログボックスを表示します。

(2) 追加する機器グループにチェックマークを付け［追加］をクリックします。

補足

・すべての機器グループを追加する場合は［すべて追加］をクリックします。
・機器グループとの関連づけを削除する場合は、［削除］または［すべて削除］をクリックします。

［しない］

機器グループの関連づけをしない場合に選択します。

［機器の関連づけ］

初期設定では、すべての機器と関連づけられています。アカウントを使用する機器を制限したいときに、［すべての機器と関連づける］のチェックマークを外し、アカウントの使用を許可する機器だけを選択します。

［する］

アカウントを使用する機器を制限する場合は、次の手順で機器を選択します。

補足

［すべての機器を関連づける］にチェックマークを付けた場合は、この設定以降に登録された機器にも適用されます。

(1) ［追加］をクリックし、［機器の追加］ダイアログボックスを表示します。

(2) 追加する機器にチェックマークを付け［追加］をクリックします。

補足

・すべての機器を追加する場合は、［機器の追加］ダイアログボックスの［すべて追加］をクリックします。
・機器との関連づけを削除する場合は、［削除］または［すべて削除］をクリックします。

［しない］

機器 / 機器グループの関連づけをしない場合に選択します。

(5) 概要

設定した内容を確認し、［保存］をクリックすると、アカウントが作成されます。

各項目の［編集］をクリックし、設定した内容を変更することもできます。

アカウントの情報を確認する

アカウント一覧の⚙をクリックして、［プロパティ］を選択します。

アカウントに設定した内容を表示・編集できます。編集できる項目は、「アカウントを作成する」（P.200）で設定した機能と同じです。

アカウントをコピーする

アカウント一覧の⚙をクリックして、［コピー］を選択します。

アカウントに設定した内容をコピーし、新しいアカウントを作成できます。コピーするとき、設定項目を編集できます。編集できる項目は、「アカウントを作成する」（P.200）で設定した機能と同じです。

アカウントを削除する

アカウント一覧の⚙をクリックして、［削除］を選択します。

補足

アカウントを使用した履歴が残っている場合、アカウントは削除できません。履歴が残っているかどうかは次の手順にしたがって確認してください。

(1) ［アカウントの使用と補充の履歴（コスト管理レポート）］で、次のように設定して、レポートを作成してください。内容が表示されれば対象アカウントに履歴が残っています。
- ［期間］で［任意指定］を選択し、ジョブログ保持期間を含む期間を指定します。
- ［機器のサービス種別］をすべて ON にします。
- ［履歴種別］の［サービスの使用］、［キャンセルを含める］、［残高の補充］をすべて ON にします。
- ［アカウント］で調べるアカウントを指定します。

(2) 履歴の保持期間は［ジョブログ保持期間］で設定します。詳しくは「［ジョブログ保持期間］タブ」（P.45）を参照してください。

(3) アカウントが削除できない場合、使用する必要がないアカウントは無効にしてください。削除選択時のダイアログからアカウントを無効にできます。または、「［アカウントを有効にする］」（P.201）を参照してください。

サブアカウントを作成する

アカウントのリンクをクリックし、［サブアカウントの作成］タブで［サブアカウントの作成］をクリックします。

動作は、「アカウントを作成する」（P.200）と同様です。

補足

アカウント名のリンクをクリックして表示される画面からサブアカウントを設定すると、親アカウントはクリックしたアカウントになります。クリックしたアカウントと同じアカウントの種類のアカウントから、関連づけを変更する親アカウントを選択することもできます。アカウントの種類を変更することはできません

関連づけられたユーザー / グループを表示する

アカウントのリンクをクリックし、［機器 / グループの関連づけ］タブを表示します。

アカウント一覧に関連づけた機器、アカウントグループが表示されます。

［編集］を選択すると、機器 / グループの関連付けを変更できます。

動作は、「（3）ユーザー / ユーザーグループの関連づけ」（P.204）と同様です。

機器 / グループの関連づけを表示する

アカウントのリンクをクリックし、［機器 / グループの関連づけ］タブを表示します。

アカウント一覧に関連づけた機器、アカウントグループが表示されます。
［編集］を選択すると、機器 / グループの関連付けを変更できます。
動作は、「(4) 機器 / 機器グループの関連づけ」（P.205）と同様です。

サブアカウントの情報を確認する

サブアカウント一覧の⚙をクリックして、［プロパティ］を選択します。
サブアカウントに設定した内容を表示・編集できます。編集できる項目は、「アカウントを作成する」（P.200）で設定した機能と同じです。
サブアカウント名のリンクをクリックし、［編集］を選択して、サブアカウントに設定した内容を表示・編集することもできます。

料金体系一覧

表示方法

管理者画面のメニューを［サービス設定］＞［コスト管理］＞［料金体系一覧］の順に選択します。

ページの概要

プリント、コピー、スキャン、ファクスのサービス単位の料金表や期間割引などのルールをまとめた、料金体系を設定します。料金体系の追加、プロパティの編集、コピー、削除ができます。

料金体系を作成する

［料金体系の作成］をクリックします。



(1) 料金体系の設定

次の項目を設定し、［次へ］をクリックします。

［料金体系名］

料金体系名を入力します。

［説明］

必要に応じて、料金体系の説明を入力します。

［プリント］/［コピー］

- ［すべて］

プリント料金、コピー料金を一律に設定する場合に選択します。1 面あたりの料金を入力します。

- ［用紙サイズ］

  個別の料金を設定する場合に選択します。

  ［用紙サイズを指定］ドロップダウンリストボックスから用紙サイズを選択して、片面 / 両面、カラーモード別の料金を入力します。設定したどの用紙にも当てはまらない場合の料金を、［既定］に入力します。

補足

カラーと白黒が混在した奇数ページのジョブを両面で出力した場合、最後のページも両面の料金で計算されます。

［料金を設定］

- ［スキャン］

  1 面あたりのスキャン料金を入力します。

- ［ファクス］

  ・［すべて］
  ファクス料金を一律に設定する場合に選択します。1 面あたりの料金を入力します。
  ・［詳細設定］
  ファクス番号別の料金を設定する場合に選択します。
  ［パターン追加］をクリックして、比較するファクス番号と料金を入力します。入力した番号は、ファクス番号の先頭の数字と比較されます。たとえば、「02」を指定した場合、「0234567」は該当しますが、「0123456」は該当しません。
  設定したどのパターンにも当てはまらない場合の料金を、［既定］に入力します。

(2) 割引 / 割増の設定

次の項目を設定し、［次へ］をクリックします。

［割引 / 割増の設定］

「(1) 料金体系の設定」で設定した料金から割引き、または割増しする場合は［する］を選択して、以降の項目を指定します。

［スケジュール設定］

- ［期間と時間帯］

  割引き、または割増しする期間、時間帯、曜日を指定します。

  指定した［使用開始日］から［使用終了日］、指定した［曜日］に、［開始時刻］から［終了時刻］までの間、料金は［割引 / 割増比率］で設定した値になります。

- ［時間帯］

  割引き、または割増しする時間帯と曜日を指定します。

  毎週、指定した［曜日］に、［開始時刻］から［終了時刻］までの間、料金は［割引 / 割増比率］で設定した値になります。

他のスケジュールパターンを設定する場合は、［割引 / 割増の追加］をクリックします。

［割引 / 割増比率］

「(1) 料金体系の設定」で設定した料金から変更する比率を、パーセント（%）で入力します。割引きする場合は負の値、割増しする場合は、正の値を入力します。

たとえば、プリント料金を「80 円」、コピー料金を「100 円」と設定した場合、［割引 / 割増比率］と期間中の料金は、次のようになります。

項目	[割引 / 割増比率]	期間中の料金	
		プリント「80 円」	コピー「100 円」
5% 割引きする	− 5	76 円	95 円
90% 割引きする	− 90	8 円	10 円
5% 割増しする	5	84 円	105 円
2 倍にする	100	160 円	200 円
無料にする	− 100	0 円	0 円

(3) アカウント / グループの関連づけ

次の項目を設定し、[次へ] をクリックします。

[アカウントグループとの関連づけ]

[する]

この料金体系をアカウントグループと関連づける場合は [する] を選択し、次の手順でアカウントグループを関連づけます。

補足

アカウントグループと機器と両方に料金体系を関連づけた場合、機器の料金体系が優先されます。詳しくは、『導入・運用ガイド』の「料金体系の優先順位」を参照してください。

(1) [追加] をクリックし、[アカウントグループの追加] ダイアログボックスを表示します。

(2) 関連づけるアカウントグループ名にチェックマークを付け [追加] をクリックします。

補足

・有効になっているアカウントグループだけが追加できます。
・すべてのアカウントグループを追加する場合は [すべて追加] をクリックします。
・関連付けられたアカウントの一覧に表示されたアカウントグループを絞り込む場合は、  に検索したいアカウントグループ名の一部を入力し、< Enter >を押します。
・アカウントグループの関連づけを削除する場合は、[削除] または [すべて削除] をクリックします。

[しない]

料金体系にアカウントグループを関連づけない場合に選択します。

[アカウントの関連づけ]

補足

アカウントと機器と両方に料金体系を関連づけた場合、機器の料金体系が優先されます。詳しくは、『導入・運用ガイド』の「料金体系の優先順位」を参照してください。

[する]

この料金体系をアカウントと関連づける場合は [する] を選択し、次の手順でアカウントを関連づけます。

補足

アカウントと機器と両方に料金体系を関連づけた場合、機器の料金体系が優先されます。詳しくは、『導入・運用ガイド』の「料金体系の優先順位」を参照してください。

(1) [追加] をクリックし、[アカウントの追加] ダイアログボックスを表示します。

(2) 関連づけるアカウント名にチェックマークを付け [追加] をクリックします。

補足

・有効になっているアカウントだけが追加できます。
・すべてのアカウントを追加する場合は [すべて追加] をクリックします。

・関連付けられたアカウントの一覧に表示されたアカウントを絞り込む場合は、 に検索したいアカウント名の一部を入力し、＜ Enter ＞を押します。
・アカウントの関連づけを削除する場合は、［削除］または［すべて削除］をクリックします。

［しない］

料金体系にアカウントを関連づけない場合に選択します。

(4) 機器 / 機器グループの関連づけ

［料金体系を機器グループに関連づけますか？］

補足

［機器管理］メニューでも、料金体系と機器グループとの関連づけを設定できます。どちらで操作しても同じ設定になります。

［する］

料金体系を機器グループと関連づける場合は、［する］を選択し、次の手順で機器グループを追加します。

［すべての機器グループを関連づける］にチェックマークを付けると、すべての機器グループに料金体系が関連づけられます。

補足

［すべての機器グループを関連づける］にチェックマークを付けた場合は、この設定以降に登録された機器にも適用されます。

(1) ［追加］をクリックし、［機器グループ］ダイアログボックスを表示します。

(2) 追加する機器グループにチェックマークを付け［追加］をクリックします。

補足

・すべての機器グループを追加する場合は［すべて追加］をクリックします。
・機器グループとの関連づけを削除する場合は、［削除］または［すべて削除］をクリックします。

［しない］

料金体系を機器グループに関連づけない場合に選択します。

［この料金体系を機器に関連づけますか］

補足

［機器管理］メニューでも、料金体系と機器との関連づけを設定できます。どちらで操作しても同じ設定になります。

［する］

この料金体系を機器と関連づける場合は、［する］を選択し、次の手順で機器を追加します。

［すべての機器を関連づける］にチェックマークを付けると、すべての機器グループに料金体系が関連づけられます。

補足

［すべての機器を関連づける］にチェックマークを付けた場合は、この設定以降に登録された機器にも適用されます。

(1) ［追加］をクリックし、［機器］ダイアログボックスを表示します。

(2) 追加する機器にチェックマークを付け［追加］をクリックします。

補足

・すべての機器を追加する場合は［すべて追加］をクリックします。
・機器との関連づけを削除する場合は、［削除］または［すべて削除］をクリックします。

［しない］
料金体系を機器に関連付けない場合に選択します。

(5) 概要
設定した内容を確認し、［適用］をクリックすると、料金体系が設定されます。
各項目の［編集］をクリックし、設定した内容を変更することもできます。

料金体系の情報を確認する
料金体系名のリンクをクリックするか、料金体系一覧の⚙をクリックして、［プロパティ］を選択します。
料金体系に設定した内容を表示・編集できます。編集できる項目は、「料金体系を作成する」（P.207）で設定した機能と同じです。

補足
料金体系名のリンクをクリックして料金体系の情報を表示した場合、設定した内容を編集するときは［編集］をクリックします。

料金体系をコピーする
料金体系一覧の⚙をクリックして、［コピー］を選択します。
料金体系に設定した内容をコピーし、新しい料金体系を作成できます。コピーするとき、設定項目を編集できます。編集できる項目は、「料金体系を作成する」（P.207）で設定した機能と同じです。

料金体系を削除する
料金体系一覧の⚙をクリックして、［削除］を選択します。

料金体系一覧（料金体系の詳細）

表示方法
料金体系一覧で料金体系名をクリックします。

ページの概要
選択した料金体系に、アカウント / グループの関連づけおよび機器 / グループの関連づけを追加

アカウント / グループの関連づけを表示する
［アカウント / グループの関連づけ］タブを表示します。
料金体系に関連づけたアカウント、アカウントグループが表示されます。
［編集］を選択すると、アカウント / グループの関連付けを変更できます。
動作は、「(3) アカウント / グループの関連づけ」（P.209）と同様です。

機器 / グループの関連づけを表示する
［機器 / グループの関連づけ］タブを表示します。
料金体系に関連づけた機器、アカウントグループが表示されます。
［編集］を選択すると、機器 / グループの関連付けを変更できます。
動作は、「(4) 機器 / 機器グループの関連づけ」（P.210）と同様です。

補充スケジュール一覧

補充スケジュールを設定して実行する場合は、機器のジョブログ収集が実行されたあとにアカウントの残高が補充されるように、次の点に注意してください。

- 機器の利用が少ない時間帯に、補充が実行されるようスケジュールを設定してください。
- 補充が実行される前に、すべての機器の電源をオンにしておいてください。

補充スケジュールを実行する前のジョブであっても、補充スケジュール実行後に機器からジョブログが収集された場合は、補充されたあとのアカウント残高から減算されます。

表示方法

管理者画面のメニューを［サービス設定］＞［コスト管理］＞［補充スケジュール一覧］の順に選択します。

ページの概要

アカウントの残高を補充するスケジュールを設定します。補充スケジュールの追加、プロパティの編集、コピー、および削除ができます。

補充スケジュールを作成する

［補充スケジュールの作成］をクリックし、各項目を設定して［適用］をクリックすると、補充スケジュールが作成されます。



［補充スケジュール名］

補充スケジュール名を入力します。

［説明］

必要に応じて、補充スケジュールの説明を入力します。

［頻度］

残高を補充する頻度を次から選択します。

- 日ごと
- 週ごと
- 2 週ごと
- 月ごと
- 四半期ごと
- 半年ごと
- 年ごと

[使用開始日] / [使用終了日補充スケジュールの使用開始日を設定します。

残高の更新日と更新時刻は、[頻度]、[使用開始日]、および [使用終了日] の設定に従います。

たとえば、使用開始日を「2021/7/1 AM10:00」、使用終了日を「2021/12/31 PM10:00」に設定した場合、残高の更新日時は次のようになります。

頻度	更新日	更新時刻
週ごと	2021 年 7 月 1 日～ 12 月 31 日の毎週水曜日	AM10:00
月ごと	2021 年 7 月 1 日、8 月 1 日、9 月 1 日、10 月 1 日、11 月 1 日、12 月 1 日	AM10:00
四半期ごと	2021 年 7 月 1 日、10 月 1 日	AM10:00
半年ごと	2021 年 7 月 1 日	AM10:00

[使用終了日]

補充スケジュールの使用終了日を設定します。[使用終了日] を過ぎたら、アカウントの残高の補充は行いません。[使用終了日] は必要に応じて設定します。

[補充金額]

補充日に、割り当て残高に補充する金額を入力します。

[残高の更新方法]

[蓄積する] を選択すると、[補充金額] に入力した金額が、現在の残高に加算されます。

[リセットする] を選択すると、現在の残高がクリアされ、[補充金額] に入力した金額になります。

たとえば、現在の残高が 1,000 円、補充金額が 5,000 円とすると、蓄積する場合とリセットする場合とで、更新後の残高は次のようになります。

残高の更新方法	更新後の割り当て残高
蓄積する	6,000 円 *1
リセットする	5,000 円

*1 [残高の最大値]、[割り当て残高に補充する] / [残高の合計に補充する] の設定によっては、繰り越す残高が変わります。

- [残高の最大値]

  残高の更新方法に [蓄積する] を選択した場合に、残高に蓄積される金額を制限するために、残高の最大値を指定します。残高に補充金額を追加した結果が、ここで設定した [残高の最大値] を超えた場合は、最大値を超えないように割り当て残高が調整されます。

  - 割り当て残高に補充する
    アカウントに設定した割り当て残高が残高の最大値を超えないように、割り当て残高を制限します。
  - 残高の合計に補充する
    アカウントに設定した残高の合計（割り当て残高＋上乗せ残高）が残高の最大値を超えないように、残高の合計を制限します。
    たとえば、現在の割り当て残高が 200 円、現在の上乗せ残高が 500 円、補充金額が 5,000 円、残高の最大値が 5,500 円の場合、更新後の残高は次のようになります。

	更新後の合計残高	更新後の割り当て残高	更新後の上乗せ残高
割り当て残高に補充する	割り当て残高 200 円 + 上乗せ残高 500 円 + 補充金額 5,000 円 =5,700 円	5,700 円	500 円

	更新後の合計残高	更新後の割り当て残高	更新後の上乗せ残高
残高の合計に補充する	残高の合計 700 円 + 補充金額 5,000 円 =5,700 円	5,500 円 補充された結果が 5,700 円となり、最大値 5,500 円を超えるので、割り当て残高は最大値の 5,500 円となります。	500 円

現在の割り当て残高が 200 円、現在の上乗せ残高が 500 円、補充金額が 5,000 円、残高の最大値を設定しない場合は、「割り当て残高に補充する」および「残高の合計に補充する」の更新後の残高は同じで、次のようになります。

	更新後の合計残高	更新後の割り当て残高	更新後の上乗せ残高
割り当て残高に補充する 残高の合計に補充する	割り当て残高 200 円 + 上乗せ残高 500 円 + 補充金額 5,000 円 =5,700 円	割り当て残高 200 円 + 補充金額 5,000 円 =5,200 円	500 円

補充スケジュール一覧の情報を確認する

補充スケジュール一覧名のリンクをクリックするか、補充スケジュール一覧の ⚙ をクリックして、［プロパティ］を選択します。

補充スケジュール一覧に設定した内容を表示・編集できます。編集できる項目は、「補充スケジュールを作成する」（P.212）で設定した機能と同じです。また、補充スケジュールの、アカウントまたはアカウントグループへの関連づけを削除できます。

補充スケジュール一覧をコピーする

補充スケジュール一覧の ⚙ をクリックして、［コピー］を選択します。

補充スケジュール一覧に設定した内容をコピーし、新しい補充スケジュール一覧を作成できます。コピーするとき、設定項目を編集できます。編集できる項目は、「補充スケジュールを作成する」（P.212）で設定した機能と同じです。

補充スケジュールを削除する

補充スケジュール一覧の ⚙ をクリックして、［削除］を選択します。

設定

表示方法

管理者画面のメニューを［サービス設定］＞［コスト管理］＞［設定］の順に選択します。

ページの概要

コスト管理全般の設定をします。各項目を設定し、［適用］をクリックします。



［料金計算設定］

プリントする場合、プリントジョブから取得した出力予測値をもとに料金が計算され残高から引かれますが、この出力予測値は、実際にプリントした実績値と異なることがあります。この差分を調整するために、料金計算の方法を次から選択できます。

- ［実績値］

  実際にプリントした実績値をもとに、料金を計算します。

  実績値が出力予測値を超えた場合は、ジョブログ収集後にアカウントの残高から差額が引かれます。実績値が出力予測値を下回った場合は、アカウントの残高に差額が戻されます。

- ［予測値と実績値の小さい方の値］

  実績値と出力予測値を比べて、小さい方の値をもとに料金を計算します。

  実績値が出力予測値を下回った場合は、ジョブログ収集後にアカウントの残高に差額が戻されます。

補足

・プリント管理を経て印刷する場合、［残高下限到達時の強制停止］で停止しない設定のユーザーは、［実績値］で計算されます。
・［料金計算設定］は、設定以降にだけ影響します。過去の操作記録には影響しません。

［通知設定］

- メール通知

  ［通知する］

  ［次の値を下回ったときに通知する］で指定した下限値を残高が下回ったときに、アカウントに関連付けられたユーザーおよび［次のメールアドレスを通知先に追加する］で指定したユーザーに、メールで通知します。

  通知するユーザーは、＋をクリックして複数指定できます。

  ［アカウントの最小の残高に達したときに通知する］にチェックマークを付けると、最少の残高を下回ったときに、再度メール通知します。

  ［しない］

  残高が少なくなったときにメール通知をしません。

メールの初期設定のフォーマットは次のとおりです。

項目	説明
件名	<ApeosWare Management Suite> 残高が少なくなっています
送信者	［システム設定］＞［ネットワーク設定］＞［SMTP/POP3］で設定した、送信元のメールアドレス
宛先	ユーザーの標準メールアドレス
本文	アカウント名、ユーザー名、ユーザー ID、および残高

テンプレートファイルを直接編集することで、通知メールのフォーマットを変更できます。

変更したフォーマットは、次回の通知メールから反映されます。

ファイルの保存場所：

- {データ格納先フォルダー}¥Data¥Conf¥CR¥Mail
  {データ格納先フォルダー} は、初期設定では「C:¥FUJIFILM¥ApeosWare MS」になります。

ファイル名：
タイトル用ファイルと本文用ファイル、それぞれ別に編集します。ApeosWare Management Suite のインストール時に設定した言語によって、次のファイルを編集してください。テキストの文字コードは UTF-8 です。
タイトル用ファイル
MailSender_BalanceThreshold_Subject_ja.txt（日本語）

MailSender_BalanceThreshold_Subject_en.txt（日本語以外の言語）

MailSender_BalanceThreshold_Subject2_ja.txt（日本語）

MailSender_BalanceThreshold_Subject2_en.txt（日本語以外の言語）
本文用ファイル
MailSender_BalanceThreshold_Body_ja.txt（日本語）

MailSender_BalanceThreshold_Body_en.txt（日本語以外の言語）

MailSender_BalanceThreshold_Body2_ja.txt（日本語）

MailSender_BalanceThreshold_Body2_en.txt（日本語以外の言語）

- 変数
  次の変数を使用できます。

変数	内容
%ACCOUNTNAME%	下限値（閾値）を下回ったアカウント名
%DISPLAYNAME%	通知対象のユーザーの表示名
%USERID%	通知対象のユーザーのユーザー ID
%CURRENTBALANCE%	現在のアカウント残高（残高の合計を表示）
%THRESHOLD%	下限値（閾値）

本文の設定例：

```
%ACCOUNTNAME% の残高が、閾値の %THRESHOLD% を下回りました。

ユーザー名 : %DISPLAYNAME%
ユーザー ID: %USERID%

現在の残高 : %CURRENTBALANCE%
```

- 異常検知メールの通知

清算済みのジョブ、キャンセルしたジョブなど、想定していないデータを受け付けた場合、管理者にメール通知をするかどうかを指定します。

［する］

異常を検知したときに、指定したユーザーにメールで通知します。

通知するユーザーは、＋をクリックして複数指定できます。

［詳細設定］をクリックすると、検知する異常の詳細を選択できます。

［しない］

異常検知メールを通知しません。

補足

［詳細設定］の［出力予測値と出力実績値の差額が閾値以上のジョブの発生］は、次の計算式で得られた値をパーセント（%）で指定し、プラスマイナスの差額が指定値を超えた場合に異常と判断します。

指定値＝出力予測 ÷ 出力実績 ×100

［アカウントラベル設定］

ユーザー画面や機器の操作パネルに表示されるアカウントのラベルを、ユーザーに認識しやすい名前などに変更できます。設定は全言語共通です。

［アカウント一覧の表示設定］

アカウント操作画面に表示されるアカウント一覧の表示順序を設定します。［アカウント名の昇順］にチェックマークを付けると、アカウント名の昇順で並び替えた状態で表示します。

［複合機でのアカウント選択の設定］

［初期設定］で、機器の操作パネルで認証した後に表示される［アカウントの選択］をカスタマイズします。

この設定は、［認証 / 集計モード］が［カスタム認証］の機器グループに所属する機器でだけ有効です。

［アカウントの選択］は［認証後にいつも［アカウントの選択］を表示する］にチェックマークを付けると、特定の条件下で表示されます。

参照

「ApeosWare Management Suite のアカウント選択画面」（P.111）

［プリントサーバー連携設定］

［料金体系］で、作成済みの料金体系を選択します。

［未プリント時の払い戻し］で、GX Printer Server からプリントした場合、プリントされなかったときに払戻すまでの時間を設定します。

コマンドラインツールからの設定と確認

コマンドラインツールからアカウント残高の更新と確認ができます。コマンドラインツールの概要と操作方法を説明します。

コマンドラインツールの概要

コスト管理のコマンドラインツールとして、次の 3 ツールがあります。

- アカウント残高更新ツール（AWMSUpdateBalance）

  アカウント残高更新用ファイルを利用して、アカウントごとの割り当て残高または上乗せ残高を更新します。更新後、エラー状況を把握するためのリカバリーファイルを自動で作成します。

- アカウント残高取得ツール（AWMSGetBalance）

  割り当て残高または上乗せ残高を確認します。

- リカバリーファイル修復ツール（AWMSRepairRecoveryFile）

  エラー状況が記載されたリカバリーファイルを、アカウント残高更新ツールで利用できるように修復します。

アカウント残高の更新

コマンドラインツールによるアカウントの割り当て残高または上乗せ残高の更新方法は、次のとおりです。アカウント残高の更新後は、更新結果が Exit コードで示されます。アカウント残高の更新は、残高が設定されているアカウントだけが更新可能となります。

1. **アカウント残高更新用ファイルを作成します。**



参照

「アカウント残高更新用ファイルの作成」（P.218）

2. **手順 1 で作成したファイルを指定して、アカウント残高更新ツールを実行します。**



参照

「アカウントごとの割り当て残高または上乗せ残高の更新」（P.220）

3. **アカウント残高更新ツールの Exit コードを確認し、Exit コードごとの操作を行います。**



参照

「Exit コードの確認と対処」（P.222）

アカウント残高更新用ファイルの作成

アカウント残高更新ツールで利用するための、アカウント名と割り当て残高または上乗せ残高を記載したファイルを作成します。ファイルに指定するオプション（→ P.220）によっては、任意の CSV ファイルを使用できます。

アカウント残高更新用ファイルの文字コード

アカウント残高更新用ファイルを保存する際の文字コードは、アカウント残高更新ツールで指定するオプションによって異なります。

- -sh オプションを指定しない場合

  UTF-8（BOM なし）

- –sh オプションを指定する場合

  Shift-JIS



補足

任意のフォーマットを指定する場合は、「アカウント残高更新ツールの -ls オプション」（P.222）を参照してください。

アカウント残高更新用ファイルのフォーマット

アカウント残高更新用ファイルは、カンマ区切りの CSV 形式のテキストファイルで作成します。入力項目は、アカウント残高更新ツールで指定するオプションによって異なります。

- –s オプションを指定しない場合

{アカウント名} , {加算または減算する金額}
{アカウント名} , {加算または減算する金額}
・
・
・

入力内容	内容
アカウント名	割り当て残高または上乗せ残高を更新するアカウント名です。全角または半角で指定します。文字数は 250 文字以内です。  補足 アカウント名にカンマが含まれている場合は、全体をダブルクォート (") で囲みます。
加算または減算する金額	現在のアカウント残高に加算する場合は、加算金額を正の整数で指定します。現在のアカウント残高から減算する場合は、減算金額を負の整数で指定します。 金額は半角の数字で指定します。指定可能な金額は次の範囲です。 -99999999999999 ～ 99999999999999（14 桁）  補足 割り当て残高と上乗せ残高の識別は、アカウント残高取得ツールのオプションで指定します。

- -s オプションを指定する場合

{アカウント名} , {親アカウント名} , {加算または減算する金額}
{アカウント名} , {親アカウント名} , {加算または減算する金額}
・
・
・

入力内容	内容
アカウント名	割り当て残高または上乗せ残高を更新するアカウント名です。全角または半角で指定します。文字数は 250 文字以内です。  補足 アカウント名にカンマが含まれている場合は、全体をダブルクォート (") で囲みます。
親アカウント名	残高を更新するアカウントがサブアカウントの場合に、親アカウント名を指定します。本項目を指定しない場合は、非サブアカウント（1 階層目のアカウント）が更新対象となります。 全角または半角で指定します。文字数は 250 文字以内です。  補足 アカウント名にカンマが含まれている場合は、全体をダブルクォート (") で囲みます。

入力内容	内容
加算または減算する金額	現在のアカウント残高に加算する場合は、加算金額を正の整数で指定します。 現在のアカウント残高から減算する場合は、減算金額を負の整数で指定します。 金額は半角の数字で指定します。指定可能な金額は次の範囲です。 -99999999999999 ～ 99999999999999（14 桁）  補足 割り当て残高と上乗せ残高の識別は、アカウント残高取得ツールのオプションで指定します。

アカウントごとの割り当て残高または上乗せ残高の更新

アカウント残高の更新方法は、次のとおりです。

1. ApeosWare Management Suite がインストールされた PC に、Administrators グループのユーザーでログオンします。
2. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
AWMSUpdateBalance -f {残高更新用入力ファイルパス} -o {出力先ルートフォルダーパス} (-a|-t) [-s|-ls|-sh] [-Xn]
```

(-a|-t) には「-a」と「-t」のどちらかを指定します。

[-s|-ls|-sh] には「-s」、「-ls」および「-sh」を指定します。

「-a」と「-s」を指定した場合は、次のように記載します。

```
AWMSUpdateBalance -f {残高更新用入力ファイルパス} -o {出力先ルートフォルダーパス} -a -s [-Xn]
```

「-b」オプションは、「-f」オプションに指定する残高更新用入力ファイルがリカバリーファイルの場合に指定します。

- 入力ファイルがリカバリーファイルでない場合

```
AWMSUpdateBalance -f {残高更新用入力ファイルパス} -o {出力先ルートフォルダーパス} (-a|-t) [-s] [-ls spec] [-sh] [-Xn]
```

- 入力ファイルがリカバリーファイルの場合

```
AWMSUpdateBalance -f {リカバリーファイルパス} -b {エラー発生時のバックアップファイルパス} -o {出力先ルートフォルダーパス} (-a|-t) [-s] [-ls spec] [-sh] [-Xn]
```

リカバリーファイルを指定して操作を行う場合には、「-b」以外のオプションは最初のコマンドと同じオプションを指定してください。

 補足

・アカウント残高の更新は、アカウント残高更新用ファイルまたはリカバリーファイル内のアカウントを指定して実行します。
・アカウントごとの割り当て残高や上乗せ残高などの項目は、アカウント残高更新ツールのオプションによって指定します。

アカウント残高更新ツールのオプション

アカウント残高更新ツールのオプションは、次のとおりです。

○：必須
- ：省略可

オプション	必須	オプション名	説明
-f	○	残高更新用入力ファイルパス	作成したアカウント残高更新用ファイル、自動作成または修復されたリカバリーファイルを指定します。 リカバリーファイルが指定されている場合は、処理済みのアカウントをスキップします。処理済みかどうかの判断は、残高更新完了フラグに「1」が出力されているかどうかで判断します。
-b	-	エラー発生時のバックアップファイルパス	-f にリカバリーファイルを指定する場合、本オプションの指定は必須です。 -f にリカバリーファイルを指定しない場合、本オプションの指定は不要です。 エラー発生時のバックアップファイルパスを指定します。
-o	○	出力先ルートフォルダーパス	残高更新用入力ファイルとリカバリーファイルの出力先となる、ルートフォルダーのパスを指定します。それぞれのファイルの出力先は次のとおりです。 ・残高更新用入力ファイルの出力先 ｛出力先フォルダーパス｝¥backup ・リカバリーファイルの出力先 ｛出力先フォルダーパス｝¥recovery アカウント残高更新処理の実行前に入力ファイルをリネームし、残高更新用入力ファイル出力先パスに移動します。 アカウント残高更新処理開始時、リカバリーファイルの出力先にリカバリーファイルを作成します。
-a	○	割り当て残高の更新	アカウントの割り当て残高を更新する場合に指定します。 補足 -t と同時に指定することはできません。
-t		上乗せ残高の更新	アカウントの上乗せ残高を更新する場合に指定します。 補足 -a と同時に指定することはできません。
-s	-	共有アカウント、グローバルアカウントの残高更新	共有アカウントまたはグローバルアカウントの残高を更新する場合に指定します。 補足 ・共有アカウントまたはグローバルアカウントに残高を指定している場合は、サブアカウントの残高更新はできません。 ・共有アカウントまたはグローバルアカウントの、上乗せ残高を更新することはできません。 ・本オプションを指定する場合は、アカウント残高更新用ファイルを専用のフォーマットで作成してください。 ・本オプションを指定する場合は、個人アカウントの残高更新はできません。

オプション	必須	オプション名	説明
-ls {列指定子}	-	入力ファイルの列指定	任意のフォーマットの CSV ファイルを、アカウント残高更新用ファイルとして利用する場合に指定します。 参照 「アカウント残高更新ツールの -ls オプション」(P.222)
-sh	-	入力ファイルを Shift-JIS で読み込む	作成したアカウント残高更新用ファイル、自動作成または修復されたリカバリーファイルを、Shift-JIS 形式で読み込む場合に指定します。 本オプションを指定すると、自動で作成されるリカバリーファイルも Shift-JIS 形式になります。
-Xn	-	残高更新を行わない (シミュレーション機能)	他に指定されているオプションで、残高更新ツールが実行できるかを確認します。本オプションを指定すると、更新前の残高の取得、残高の更新、更新後の残高の取得は実行されません。
-h	-	ヘルプを表示する	ヘルプを表示します。

アカウント残高更新ツールの -ls オプション

アカウント残高更新ツールに -ls オプションを指定すると、任意のフォーマットの CSV ファイルを、アカウント残高更新用ファイルとして利用することができます。-ls オプションは、任意の CSV ファイルの列を指定することで、アカウント名、親アカウント名、加算または減算する金額を設定します。各項目は列指定子をカンマ区切りで並べて指定します。指定する列に間隔がある場合は、整数でスキップする列数を指定します。列指定子は大文字で指定します。

列指定子	必須の有無	列指定子名	説明
AN	○	アカウント名	アカウント名が記載されている列を指定します。
PAN	○	親アカウント名	-s オプションを指定した場合に限り、親アカウント名が記載されている列を指定します。
B	○	加算または減算する金額	加算または減算する金額が記載差されている列を指定します。
{正数}	-	-	列指定子に指定した列同士の間隔列数を 1 ～ 256 の整数で指定します。

- 1 列目にアカウント名、4 列目に加減算する金額を記述する場合の例
  -ls AN,2,B
- 1 列目に親アカウント名、2 列目にアカウント名、6 列目に加減算する金額を記述する場合の例
  -ls PAN,AN,3,B

Exit コードの確認と対処

Exit コードの詳細は次のとおりです。

Exit コード	内容	詳細
0	正常終了	―
1	リトライにより復旧の可能性があるエラー	・残高を更新する前の通信エラーです。

Exit コード	内容	詳細
2	リトライでも復旧ができないエラー	・「アカウント残高更新用入力ファイルの出力先」または「リカバリーファイルの出力先」フォルダーを作成できませんでした。 ・アカウント残高更新用入力ファイルの出力先に、同名のファイルがあります。または指定されている出力先のアクセス権がありません。 ・指定されたアカウントがありません。 ・指定されたアカウントに残高が設定されていません。 ・指定されたアカウントの上乗せ残高の更新が禁止されています。 ・親アカウントに残高が設定されているため、指定されたアカウントの残高更新はできません。 ・アカウント残高更新用ファイルまたはリカバリーファイルのフォーマットが不正です。 ・入力されたリカバリーファイルのヘッダーとフッターを除く要素数と、エラー発生時のバックアップファイルの要素数が一致しません。(-f にリカバリーファイルが指定されていて、-b にエラー発生時のバックアップファイルが指定されている場合のみ) ・入力されたリカバリーファイルに紐づかないエラー発生時のバックアップファイルが指定されています。(-f にリカバリーファイルが指定されていて、-b にエラー発生時のバックアップファイルが指定されている場合のみ) ・Cost Recovery Option のライセンスがありません。 ・データーベースエラーです。
3	通信エラーまたはリカバリーファイルの書き込みができない	・リカバリーファイルの作成に失敗しました。 ・通信エラーです。 ・アカウント残高更新用ファイルまたはリカバリーファイルの読み込みに失敗しました。
4	引数誤り	・アカウント残高更新ツールの必須オプションが設定されていません。 ・アカウント残高更新ツールの -a と -t オプションが同時に指定されています。 ・アカウント残高更新ツールの -b オプションが指定されていません。 ・アカウント残高更新ツールの -f、-b または -o オプションで指定されたパスが存在しません。 補足 -b オプションに関する症状は、-f オプションでリカバリーファイルが指定されている場合のみ発生します。
5	管理者権限がない	・アカウント残高更新ツールを実行したユーザーに管理者権限がありません。
6	多重起動	・すでにアカウント残高更新ツールが実行中です。
7	警告ありの正常終了	・アカウント残高の更新処理は成功しましたが、ログ出力のための残高取得でエラーが発生しました。

リカバリーファイルについて

エラー終了した場合は、リカバリーファイルの出力先にファイルが作成されているかを確認します。作成されている場合は、そのファイルがリカバリーファイルとなります。Exit コードごとの対処は、リカバリーファイルの有無と、ファイル内部の記載内容によって異なります。



補足

操作対象として指定されたアカウントが存在しない場合は、その時点までの処理を実行し、存在しないアカウント以降の処理は行いません。
更新する値が 0 の場合は、そのアカウントの処理は行わず、次のアカウントの処理を継続します。



参照

リカバリーファイルの出力先とファイル内部の記載内容については、「リカバリーファイル」（P.225）を参照してください。

Exit コードが 0 または 7 の場合の対処

アカウント残高の更新に成功したので、追加作業はありません。

Exit コードが 1 の場合の対処

リカバリーファイルの状態によって、操作が異なります。

- リカバリーファイルが作成されない場合

  「アカウント残高の更新」（P.218）の手順 2 を再度実行します。

- リカバリーファイルが作成された場合

  自動で作成されたリカバリーファイルを指定して、「アカウント残高の更新」（P.218）の手順 2 を実行します。

Exit コードが 2 の場合の対処

標準出力またはログによって次のどの症状かを確認し、それぞれの症状に対応する処理を行います。

- アカウント残高更新ツールの -o オプションで指定したアカウント残高更新用ファイルの出力先に、同名のファイルがあります。または指定されている出力先のアクセス権がありません。
- 指定されたアカウントがありません。
- 指定されたアカウントに残高が設定されていません。
- 指定されたアカウントの上乗せ残高の更新が禁止されています。
- 親アカウントに残高が設定されているため、指定されたアカウントの残高更新はできません。
- アカウント残高更新用ファイルまたはリカバリーファイルのフォーマットが不正です。
- Cost Recovery Option のライセンスがありません。
- データーベースエラーです。

Exit コードが 3 の場合の対処

リカバリーファイルの状態によって、操作が異なります。

- リカバリーファイルが作成されない場合

  「アカウント残高の更新」（P.218）の手順 2 を再度実行します。

- リカバリーファイルの中身が空、またはヘッダー行だけの場合

1 リカバリーファイル修復ツールで、リカバリーファイルを修復します。



参照

「リカバリーファイルの修復」（P.228）

2 修復したリカバリーファイルを指定して、「アカウント残高の更新」（P.218）の手順 2 を実行します。

- リカバリーファイルに中身が記載されている場合

1 リカバリーファイルで、「残高更新開始フラグ」が「1」で「残高更新完了フラグ」が記載されていないアカウントを特定します。



参照

「リカバリーファイル」（P.225）

2 アカウント残高取得ツールまたは WebUI で、上記で特定したアカウントの残高が、正しく更新されているかを確認します。



参照

・「アカウント残高の確認」（P.225）
・「アカウント一覧」（P.200）

3 残高が正しく更新されていないアカウントに対して、リカバリーファイル修復ツールで、リカバリーファイルを修復します。



参照

「リカバリーファイルの修復」（P.228）

4 修復したリカバリーファイルを指定して、「アカウント残高の更新」（P.218）の手順 2 を実行します。

Exit コードが 0、1、2、3、7 以外の場合の対処

「アカウント残高の更新」（P.218）の手順 2 を再度実行します。

リカバリーファイル

アカウント残高更新ツールを実行すると、CSV 形式のリカバリーファイルが自動で作成されます。リカバリーファイルに、アカウント残高の更新結果が出力されます。またエラーが発生した場合にアカウント残高更新ツールを再実行するときの、入力ファイルとして利用します。

リカバリーファイルの出力先とファイル名

作成されたリカバリーファイルは、アカウント残高の更新が正常に終了した場合とエラーが発生した場合とで出力ファイル名が異なります。

- 正常終了した場合

  {入力ファイル名}_r_yyyyMMddHHmmssSSS.csv

- エラー終了した場合の出力先

  E_{入力ファイル名}_r_yyyyMMddHHmmssSSS.csv

  リカバリーファイルの出力先は、-o オプションで指定したフォルダー下になります。

  {出力先フォルダーパス}￥recovery

アカウント残高の確認

コマンドラインツールによるアカウント残高の確認方法は、次のとおりです。アカウント残高の確認操作後は、操作結果が Exit コードで示されます。また、確認結果はログファイルで出力されます。

1. ApeosWare Management Suite がインストールされた PC に、Administrators グループのユーザーでログオンします。

2. 次のどれかのコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

- 特定のアカウントを取得する場合

```
AWMSGetBalance -n {アカウント名} (-a|-s) [-p {親アカウント名}] [-Of { 出力ファイル名 }] [-Ow] [-Ts]
```

- 特定のグループ配下の、すべてのアカウントを取得する場合

```
AWMSGetBalance -n { アカウントグループ名 } -Ag [-Of { 出力ファイル名 }] [-Ow] [-Ts]
```

- すべてのアカウントを取得する場合

```
AWMSGetBalance -Aa [-Of { 出力ファイル名 }] [-Ow] [-Ts]
```

補足

・アカウント残高は、割り当て残高と上乗せ残高の合計残高が標準出力に表示されます。
・表示対象のアカウントがサブアカウントの場合は、親アカウントを指定します。
・親アカウントの指定がない場合は、指定されたアカウント名と一致する共有アカウントの残高を表示します。
・指定したアカウントが存在しない場合は、エラーを表示します。

アカウント残高取得ツールのオプション

アカウント残高取得ツールのオプションは、次のとおりです。

○：必須
- ：省略可

オプション	必須	オプション名	説明
-n	○	アカウント名	アカウント残高を確認するアカウント名を指定します。
-a	○	個人アカウント	確認対象を個人アカウントとする場合に指定します。 補足 -s と同時に指定することはできません。
-s		共有アカウント	確認対象を共有アカウントとする場合に指定します。 補足 -a と同時に指定することはできません。
-p	-	親アカウント名	サブアカウントの残高を表示する場合に指定します。親アカウント名を指定すると、-n オプションで指定したアカウント名に該当するサブアカウントの残高を表示します。 補足 -p オプションは、-s オプションが指定された場合に指定します。
-Ag	-	取得対象をアカウントグループ配下のすべてのアカウントとする	取得対象をアカウントグループ配下のすべてのアカウント（個人 / 共有含む）とするオプションです。 -n オプションでアカウントグループ名を指定します。
-Aa	-	取得対象をすべてのアカウントとする	取得対象をすべてのアカウント（個人 / 共有含む）とするオプションです。

オプション	必須	オプション名	説明
-Of [filename]	○ *1	取得結果出力ファイル名	出力するファイル名を、「"（ダブルクォート）」で囲んで指定します（フルパスでの指定も可能）。 ファイル名だけを指定した場合、カレントディレクトリーにファイルを作成します。 ファイル名には、次の拡張子を含める必要があります。 ・-Ts オプションを指定しない場合は、".csv" を含める ・-Ts オプションを指定する場合は、".tsv" を含める 補足 拡張子がない、または上記以外の拡張子が含まれる場合はエラーになります。
-Ow	-	ファイル出力時に上書き保存する	ファイル出力で指定されているファイル名が、すでに存在するファイルの場合、出力結果を既存のファイルに上書きするときに指定します。 指定されていない場合は、上書き保存しません。 補足 既存のファイルが存在する場合はエラーになります。
-Ts	-	取得結果出力フォーマット	TSV 形式で出力する場合に指定します。 指定されていない場合は、CSV 形式で出力します。 本オプションの設定は、標準出力、ファイル出力のどちらに対しても有効です。
-h	-	ヘルプを表示する	ヘルプを表示します。

*1 -Ow オプション指定時は必須です。

Exit コードの詳細

Exit コードの詳細は次のとおりです。

Exit コード	内容	詳細
0	正常終了	―
1	処理エラー	・通信エラーです。 ・指定されたアカウントがありません。 ・指定されたアカウントに残高が設定されていません。 ・Cost Recovery Option のライセンスがありません。 ・データーベースエラーです。
2	ユーザー操作エラー	・アカウント残高取得ツールの必須オプションが設定されていません。 ・-p オプションが指定されていますが、親アカウント名が指定されていません。 ・アカウント残高取得ツールの -a と -s オプションが同時に指定されています。 ・アカウント残高取得ツールを実行したユーザーに管理者権限がありません。

リカバリーファイルの修復

アカウント残高更新ツールを実行した結果が Exit コード 3 の場合に、出力されたリカバリーファイルを修復して利用します。

1. ApeosWare Management Suite がインストールされた PC に、Administrators グループのユーザーでログオンします。
2. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
AWMSRepairRecoveryFile -i {エラー発生時のバックアップファイルパス} -r {修復対象のリカバリーファイルのパス} -o {修復後のリカバリーファイルの出力先} (-n|-d) [-s|-ls|-sh]
```

(-n|-d) には「-n」と「-d」のどちらかを指定します。

[-s|-ls|-sh] には「-s」、「-ls」および「-sh」を指定します。

「-n」と「-s」を指定した場合は、次のように記載します。

```
AWMSRepairRecoveryFile -i {エラー発生時のバックアップファイルパス} -r {修復対象のリカバリーファイルのパス} -o {修復後のリカバリーファイルの出力先} -n -s
```



補足

修復後のリカバリーファイルは、-o オプションで指定したパスに出力されます。

リカバリーファイル修復ツールのオプション

リカバリーファイル修復ツールのオプションは、次のとおりです。

○：必須
-：省略可

オプション	必須	オプション名	説明
-i	○	エラー発生時のバックアップファイルパス	エラーが発生したときの、残高更新用入力ファイルのパスを指定します。  参照 「リカバリーファイルの出力先とファイル名」(P.225)
-r	○	修復対象のリカバリーファイルのパス	修復対象のリカバリーファイルのパスを指定します。  参照 「リカバリーファイルの出力先とファイル名」(P.225)
-o	○	修復後のリカバリーファイルの出力先	修復後のリカバリーファイルの出力先を指定します。

オプション	必須	オプション名	説明
-n	○	エラー発生アカウントを残高更新対象に含める	修復対象リカバリーファイルに対して、エラー発生アカウント行の［残高更新完了フラグ］を「0」にします。 補足 -d と同時に指定することはできません。
-d		エラー発生アカウントを残高更新対象に含めない	修復対象リカバリーファイルに対して、エラー発生アカウント行の［残高更新完了フラグ］を「1」にします。 補足 -n と同時に指定することはできません。
-s	-	共有アカウント、グローバルアカウントの残高更新用の入力ファイルかどうか	本オプションを指定することで、リカバリーファイルを共有アカウントまたはグローバルアカウント用のアカウント残高更新用入力ファイルとみなします。 補足 本オプションを指定しない場合は、修復後のリカバリーファイル内に、親アカウント名のカラムが出力されません。
-ls ［spec］	-	残高更新用入力ファイルの列指定	任意のフォーマットの CSV ファイルを、アカウント残高更新用ファイルとして利用する場合に指定します。 参照 「アカウント残高更新ツールの -ls オプション」(P.222)
-sh	-	入力ファイルを Shift-JIS で読み込む	作成したアカウント残高更新用ファイル、自動作成または修復されたリカバリーファイルを、Shift-JIS 形式で読み込む場合に指定します。 本オプションを指定すると、修復したリカバリーファイルも Shift-JIS 形式で出力されます。 補足 本オプションを指定しない場合、修復されたリカバリーファイルは、UTF-8（BOM なし）で出力されます。
-h	-	ヘルプを表示する	ヘルプを表示します。

コスト管理の運用

コスト管理を開始するには

コスト管理をするには、次の設定が必要です。

- ユーザーの作成
- アカウントの作成
- ユーザーとアカウントの関連づけ
- 料金体系の作成
- 補充スケジュールの作成

これらを設定したうえで、ユーザーがアカウントを選択して機器のサービスを使用すると、コスト管理が開始されます。

コスト管理ができる機器

コスト管理をするには、機器が所属する機器グループの［認証 / 集計モード］を次のどれかに設定します。

- 本体認証 / 本体集計（本体認証）
- 本体認証 / ネット集計（ネット認証）
- 外部認証（認証システムに ApeosWare Authentication Agent を選択）
- カスタム認証

それぞれのモードの詳細については『導入・運用ガイド』の「認証 / 集計設定の種類」を参照してください。

アカウントを選択する場合

機器の操作パネルで操作する場合

機器の認証方式によって、動作が異なります。

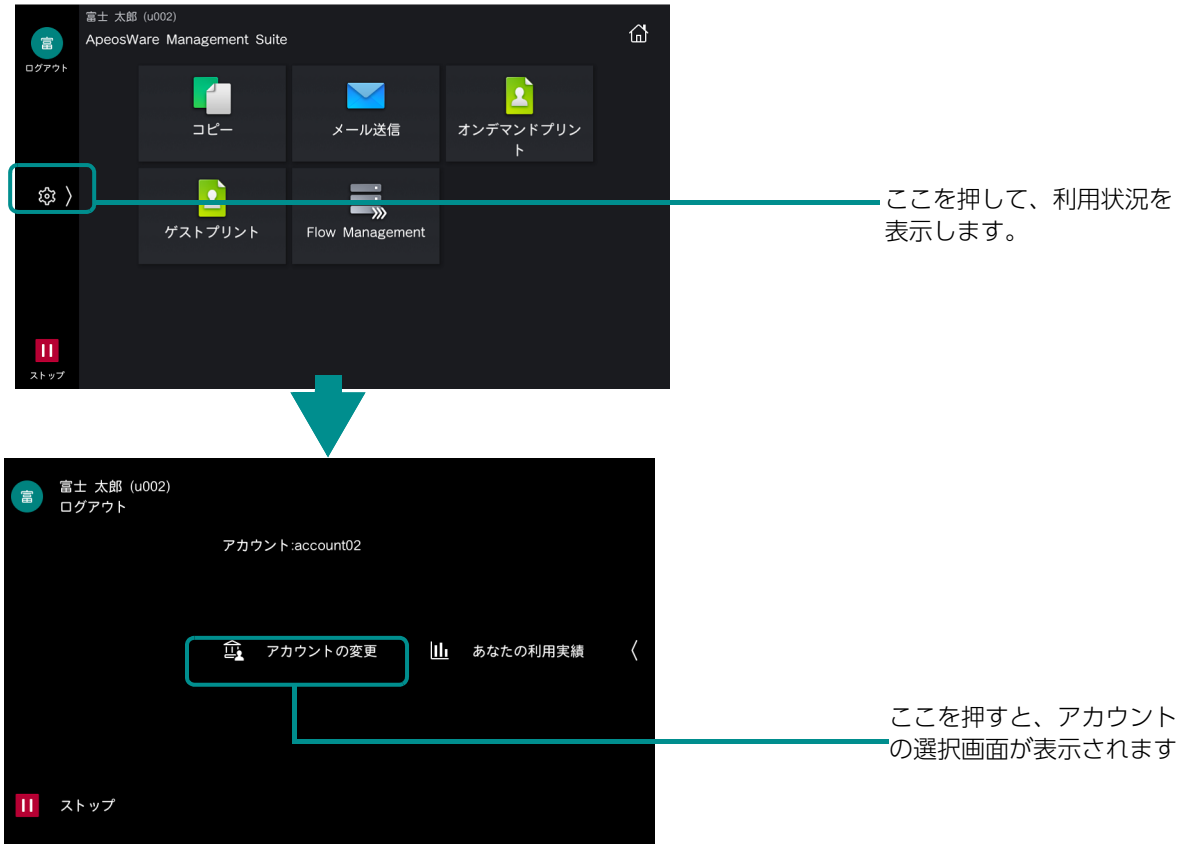
機器の認証方式が［カスタム認証］

ユーザーに関連づけられたアカウントが複数あるときは、機器での認証が成功すると、操作パネルにアカウントの選択画面が表示されます。使用するアカウントを 1 つ選択します。

［お気に入りアカウント］タブには、ユーザー自身が設定したお気に入りアカウントが表示されます。設定方法は「お気に入りのアカウントを追加する」（P.232）を参照してください。

［最近使ったアカウント］タブには、最近ジョブを実行したアカウントが 10 件まで表示されます。

アクセスプロファイルの［残高下限到達時の強制停止］を停止しない設定の場合は、ApeosWare Management Suite の画面に遷移したあとでも、アカウントを変更できます。



補足

アクセスプロファイルの［残高下限到達時の強制停止］を［停止する］に設定した場合は、ApeosWare Management Suite の画面に遷移したあと、アカウントを選択できません。

ユーザーに関連づけられているアカウントが 1 つだけのときは、アカウントの選択画面は表示されません。関連づけられたアカウントが使用されます。

機器の認証方式が［本体認証］または［外部認証］

機器の操作時には、アカウントを選択できません。ユーザーに設定された既定のアカウントが自動的に選択されます。

プリントする場合

クライアント PC にポップアップ通知画面を表示するように設定している場合は、プリントジョブの送信後に、表示されたポップアップ画面でアカウントを変更してプリントできます。

ポップアップ通知画面を表示させるには、次の設定をします。

- クライアント PC に Popup Messenger をインストールする
- アクセスプロファイルの［プリントポップアップ設定］で、［ポップアップ画面を表示する］と［アカウントの選択］にチェックマークを付ける

参照

「Popup Messenger をインストールする」（P.262）

アカウント指定なしのジョブにアカウントを関連づける

アクセスプロファイルで［アカウント指定なしでの使用］が［許可する］に設定されているユーザーは、アカウントを指定しなくても機器を使用できます。

アカウントを指定しないで操作した場合、ユーザーは、操作後にジョブのコストを適切なアカウントに付け替えることができます。

1. ユーザー画面のメニューを［プリント / ジョブ］＞［コスト管理］＞［アカウントに関連づけていないジョブ一覧］の順に選択します。
2. ジョブを選択して［関連づけ］をクリックします。

お気に入りのアカウントを追加する

ユーザーが利用できるアカウントの中から、よく使うアカウントを設定できます。

この設定をすると、ユーザーがアカウントを選択する画面でお気に入りアカウントだけが表示されるようになり、多数のアカウントから検索したり選択したりする手間を省略できます。

最大 10 個のお気に入りアカウントを登録できます。



補足

機器のアカウント選択画面からも、お気に入りアカウントを追加できます。

1. ユーザー画面のメニューを［ユーザー / サービス設定］＞［コスト管理］＞［お気に入りアカウント］の順に選択します。
2. ［追加］をクリックします。
3. お気に入りに設定したいアカウントを選択し、［適用］をクリックします。

コスト管理運用時の注意事項

ApeosWare Management Suite によってコスト管理する場合は、次の事項に注意してください。

- ApeosWare Management Suite のコスト管理機能はジョブログを元にした課金システムです。ジョブログは複合機のビリングメーターと異なります。したがってビリングメーターで請求された金額と、ジョブログを元に ApeosWare Management Suite で課金処理された金額が一致しない場合があります。
- ApeosWare Management Suite が、機器から適切にジョブログを収集できる設定を実施してください。
- ジョブログ収集処理およびジョブログによる課金処理が停止している場合、メールの通知を設定することを推奨します。次の手順に従って設定してください。

  (1)管理画面に管理者でログインします。

  (2)管理者画面のメニューを［サービス設定］＞［サーバー監視の設定］＞［監視設定］＞［サービス設定］の順に選択します。
  次のサービスの監視にチェックがされていることを確認してください。
  - ApeosWare Management Suite Core Service
  - ApeosWare Management Suite Multi Task Service

  (3)管理者画面のメニューを［サービス設定］＞［サーバー監視の設定］＞［通知設定］の順に選択します。

  (4)［メール通知］を［する］に設定します。

  (5)［次のメールアドレスを通知先に追加する］に通知先メールアドレスを設定します。
- 機器からジョブログを収集するときは、収集対象として「機器に記録されているすべてのジョブログ」を設定しないでください。機器のジョブログが二重に収集され、二重に課金処理を行う可能性があります。
- サポート対象外の機器、およびハードディスク（SSD を含む）を搭載していない機器は、ApeosWare Management Suite のコスト管理を利用できません。

コスト管理機能の対象機種については、弊社の公式サイトを参照してください（URL は巻頭参照）。

- 機器の状態によって、ジョブログの「取りこぼし」が発生しないよう運用をしてください。

  参照

  取りこぼしについて →『運用・導入ガイド』）

- ApeosWare Management Suite サーバーやオンデマンド端末のハードディスク（SSD を含む）の冗長化と、定期的なバックアップを実施してください。ジョブログ情報に障害が発生した場合に、バックアップから復旧させることができます。
- 機器のハードディスク（SSD を含む）が故障した場合は、ApeosWare Management Suite が機器のジョブログを取得できないため、課金対象になりません。
- 機器のボードやハードディスク（SSD を含む）を交換した場合は、ApeosWare Management Suite が機器のジョブログを取得できないため、課金対象になりません。
- ジョブの実行中に機器の電源を切った場合は、ApeosWare Management Suite が機器のジョブログを取得できないため、課金対象になりません。
- ジョブの中に用紙サイズやカラーと白黒が混在している場合は、ジョブ実行前に表示されるジョブコストの予測値と実績値が異なることがあります。
- ［残高下限到達時の強制停止］機能を利用している場合、ジョブ実行前に表示されるジョブコストの予測値が、設定した［最小の残高］の値を下回ることがあります。
- ［残高下限到達時の強制停止］機能を利用している場合、実行するジョブに対して十分な残高があるにもかかわらず、プリントを実行できないことがあります。

  補足

  コスト管理の［料金計算設定］で［予測値と実績値の小さい方の値］を設定した場合は、残高が残っている限りプリントを実行します。
- ジョブ実行後に機器と ApeosWare Management Suite サーバーが正常に通信できなかった場合は、残高の確定処理に遅れが出ることがあります。

  補足

  残高の最終的な確定処理は、ジョブログ収集設定の［収集間隔］（機器グループ設定内の項目）で設定した間隔で実施します。
- ［残高下限到達時の強制停止］機能を利用している場合、ジョブ実行後に機器と ApeosWare Management Suite サーバーが正常に通信できないと、設定した［最小の残高］の値を下回ることがあります。

  補足

  オンデマンドプリントでプリントを中止したあと、ご利用中のアカウントに中止した分の料金が戻されるまでには時間がかかります。
  このため、［残高下限到達時の強制停止］機能を使用している場合に続けてプリントしようとすると、残高不足でプリントできないことがあります。
  続けてプリントしたい場合は、お使いの機器にログインし直してから実行してください。
  ログインし直すことで、プリントジョブを中止する前の残高に更新されます。
- 「オンデマンドプリント端末＋課金装置」では、課金装置から予測値でジョブコストを引き落とす場合があります。予測値と実績値に差額があった場合は、現金での返金処理はできません。
- ジョブをキャンセルするなどして料金の払い戻しが発生したときには、［割り当て残高］と［上乗せ残高］の使用した方の残高に払い戻します。
  払い戻し処理は機器で処理が完了した時に発生する処理です。例えば、複数のプリントジョブを一度にプリントするときに、［割り当て残高］が 0（ゼロ）になった場合は、［上乗せ残高］から機器の使用料金が引かれます。一部のジョブをキャンセルした場合、キャンセルしたジョブによっては［割り当て残高］に払い戻されるため、［割り当て残高］が 0（ゼロ）ではなくても、［上乗せ残高］から料金が引かれた状態になります。

- 一部の国または地域に限定して提供している外部認証時のカードIDカスタマイズ機能を利用している場合は、ApeosWare Management Suite のコスト管理は利用できません。

課金処理の結果を確認する

残高の補充、予測で課金し実績で補正などの課金処理を設定し、実行した結果を、レポート機能で表示し、課金のずれが発生しているかどうか、差額はいくらなのかなどを確認できます。

コスト管理レポートを表示する

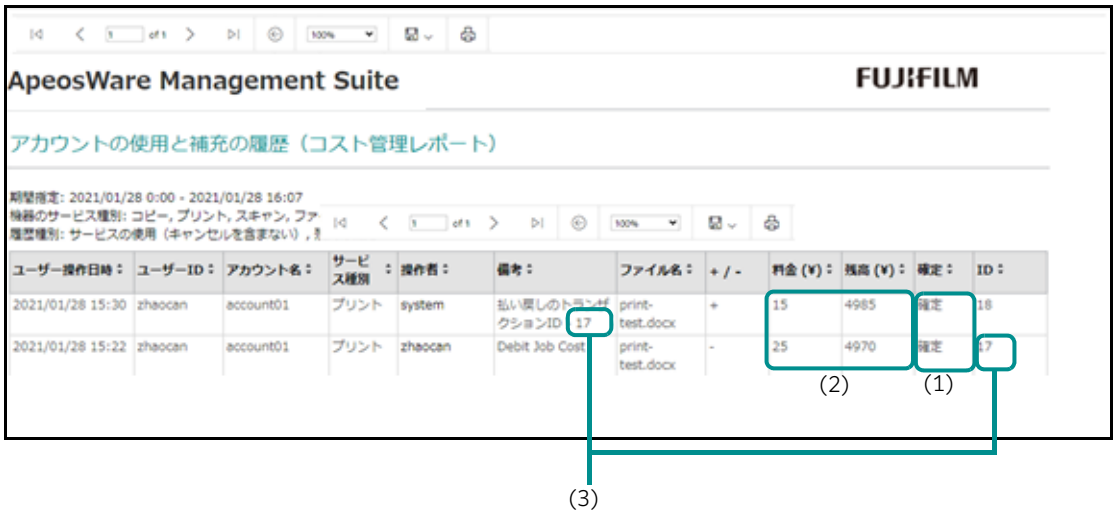
次のレポートで、課金処理の結果を確認できます。

- 管理者画面の［レポート］＞［ユーザー / ユーザーグループ］＞［アカウントの使用と補充の履歴（コスト管理レポート）］
- ユーザー画面の［レポート］＞［アカウントの使用と補充の履歴］

参照
「11 ジョブログの集計 / レポート」

コスト管理レポートを確認する

コスト管理レポートの例を示します。次のレポートは、機器へ印刷データを送信したあと、機器でキャンセルした場合の例です。



次の内容を確認してください。

(1)「確定」列が「確定」になっていることを確認します。
機器で印刷処理が終わっている（出力が完了している）が、「確定」にならない場合には、ApeosWare Management Suite サーバーや機器で問題が発生している可能性があります。

(2) 払い戻しや追加徴収などのため、二行で一つの処理を表す場合があります。備考列の ID 番号と ID 列の番号によって、関連付けを確認します。

(3) 処理の料金がアカウント残高に対して正しく加減算されているか確認します。

(4) 機器から出力した結果の用紙サイズ、カラー印刷か白黒印刷か、片面印刷か両面印刷かを確認し、それをもとに管理者に単価を確認し、正しい料金で計算されているか確認する。なお、単価はレポートで確認することはできません。

確認した結果、問題がある場合は、管理者に問い合わせてください。

6 ダウンロード管理

Web ブラウザーからの設定

Web ブラウザーからユーザーに関する設定や確認ができます。それぞれのページでどのようなことができるかを説明します。

補足

・ダウンロード管理の対象は、日本国内の機器だけです。
・ダウンロードしたプリンタードライバーは、日本語の OS だけに対応しています。
・Job Owner Setup は、x86 版 /x64 版の日本語 OS だけに対応しています。

ページ	説明
ファイル一覧	ユーザーに配布するファイルやフォルダーを管理します。 参照 「ファイル一覧」（P.235）
プリンター一覧	ユーザーに配布するプリンターの印刷設定（カラーモードや両面など）を管理します。 参照 「プリンター一覧」（P.237）
設定	
管理者情報	管理者権限を持たないユーザーがプリンタードライバーやソフトウェアをインストールするときに、ユーザーに代わってインストールする管理者の情報を設定します。 参照 「管理者情報」（P.239）
印刷設定の既定値	プリンターを追加するときの印刷設定（カラーモードや両面など）の既定値を設定します。 参照 「印刷設定の既定値」（P.240）
ヘッダー / フッターの既定値	プリンターを追加するときのヘッダー、およびフッターの既定値を設定します。 参照 「ヘッダー / フッターの既定値」（P.241）

ファイル一覧

表示方法

管理者画面のメニューを［サービス設定］＞［ダウンロード管理］＞［ファイル一覧］の順に選択します。

ページの概要

ユーザーに配布する、ソフトウェアなどのファイルを管理します。ファイルのほかにフォルダーも追加できます。

追加できるファイルまたはフォルダーの容量の上限は、4 GB です。

追加するファイルまたはフォルダーは、次のフォルダーの直下に格納しておく必要があります。

{データ格納先フォルダー}¥Data¥karaf¥etc¥Download¥DLFiles

補足

{データ格納先フォルダー} は、初期設定では「C:¥FUJIFILM¥ApeosWare MS」になります。

初期設定で、次のツールが登録されています。

- Job Owner Setup

  プリントするときに、ジョブオーナー名を入力できるようにします。

ファイルを追加する

[追加] をクリックします。



[表示名]

ファイルの名前を入力します。入力した内容は、[ファイルダウンロード] ページに表示されます。

[ファイル名]

「DLFiles」フォルダー直下に格納したファイル、またはフォルダーの名前を入力します。

補足

追加するファイルまたはフォルダーは、次のフォルダーの直下に格納しておきます。
{データ格納先フォルダー}¥Data¥karaf¥etc¥Download¥DLFiles
{データ格納先フォルダー} は、初期設定では「C:¥FUJIFILM¥ApeosWare MS」になります。

[備考]

必要に応じて、備考を入力します。

[実行ファイル]

ダウンロードしたファイルを自動で実行する場合に、実行するファイルのパス、およびコマンドラインの引数を指定します。

実行ファイルのパスは、格納場所 (DLFiles フォルダー) を基点にした相対パスで入力します。
例 1:「DLFiles」フォルダー直下にある「SoftA.exe」を実行する場合は、次のように指定します。

ファイル名	SoftA.exe
実行ファイル名	SoftA.exe

例 2:「DLFiles」フォルダーの下階層の「SubFolder」フォルダーにある「SoftB.exe」を実行する場合は、次のように指定します。

ファイル名	SubFolder
実行ファイル名	SubFolder¥SoftB.exe

例 3:「DLFiles」フォルダー直下にある「SoftA.exe」を、引数「-a」を指定して実行する場合は、次のように指定します。

ファイル名	SoftA.exe
実行ファイル名	SoftA.exe -a

この項目は、[コンピューターの管理者権限で実行する] にチェックマークを付けたときは、必ず入力します。

[実行時の設定]

ダウンロードしたファイルを自動で実行する場合に、どのユーザーの権限で実行するかを指定します。
[コンピューターの管理者権限で実行する] にチェックマークを付けると、[設定] > [管理者情報] ページのユーザーの権限でファイルを実行します。
チェックマークを外すと、ファイルをダウンロードしたユーザーの権限で、ファイルを実行します。

ファイルの情報を確認する

ファイル一覧の をクリックして、[プロパティ] を選択します。
ファイルに設定した内容を表示・編集できます。編集できる項目は、「ファイルを追加する」(P.236) で設定した機能と同じです。

ファイルを削除する

ファイル一覧の をクリックして、[削除] を選択します。
この操作をすると、ファイル一覧からファイルが削除されますが、格納した場所からは削除されません。必要に応じて、「DLFiles」フォルダーにあるファイルも削除してください。

プリンター一覧

表示方法

管理者画面のメニューを [サービス設定] > [ダウンロード管理] > [プリンター一覧] の順に選択します。

ページの概要

ユーザーに配布するプリンターの印刷設定を管理します。
ApeosWare Management Suite に登録されている機器の情報を使用するので、あらかじめ [サービス設定] > [機器管理] > [機器一覧] で、機器を追加しておきます。

また、プリンタードライバーの設定と更新は、Update Service で行います。あらかじめ Update Service で、プリンターに対応するプリンタードライバーを登録しておきます。

補足

プリンターを追加しただけでは、プリンタードライバーを配布できません。必ず Update Service で、対応するドライバーを登録してください。

プリンターを追加する

［追加］をクリックします。



(1) 機器の選択

追加するプリンターを 1 つ選択して、［次へ］をクリックします。

(2) 基本設定

プリンター名やドライバー種別など、プリンターの基本設定をして、［次へ］をクリックします。

(3) 印刷設定

［まとめて 1 枚］、［両面］、［カラーモード］、［用紙トレイ］をそれぞれ設定し、［次へ］をクリックします。［既定値］を選択すると、［印刷設定の既定値］ページで設定した値がプリンターに設定されます。

(4) ヘッダー / フッター設定

ヘッダーおよびフッターに印刷する内容を設定し、［次へ］をクリックします。［既定値］を選択すると、［ヘッダー / フッターの既定値］ページで設定した値がプリンターに設定されます。

(5) 概要

設定した内容を確認し、［保存］をクリックすると、プリンターが追加されます。

各項目の［編集］をクリックし、設定した内容を変更することもできます。

用紙節約プリンターを追加する

［用紙節約プリンターの追加］をクリックします。用紙の節約が設定された、次の 3 種類のプリンターが自動で追加されます。

［プリンター名］	［まとめて 1 枚］の設定値	［両面］の設定値
2up ～ {IP アドレス / ホスト名}	2 アップ（順方向）	既定値
両面～ {IP アドレス / ホスト名}	既定値	長辺とじ
2up 両面～ {IP アドレス / ホスト名}	2 アップ（順方向）	長辺とじ

プリンターの情報を確認する

プリンター名のリンクをクリックするか、プリンター一覧の⚙をクリックして、［プロパティ］を選択します。

プリンターに設定した内容を表示・編集できます。編集できる項目は、「プリンターを追加する」（P.238）で設定した機能と同じです。

プリンターを削除する

プリンター一覧の⚙をクリックして、［削除］を選択します。

管理者情報

表示方法

管理者画面のメニューを［サービス設定］＞［ダウンロード管理］＞［設定］＞［管理者情報］の順に選択します。

ページの概要

インストールを代理で行う管理者の情報を設定します。管理者の権限を持たないユーザーがソフトウェアやプリンタードライバーをインストールするときに、この管理者情報を使用します。

実行ファイルを含むファイルをダウンロードする場合は、［コンピューターの管理者権限で実行する］設定が有効なときに、ここで設定した管理者の権限でインストールされます。

プリンタードライバーをダウンロードする場合は、操作するユーザーが管理者権限を持たないときに、ここで設定した管理者の権限でドライバーがインストールされます。

複数の管理者情報を登録することができます。

管理者情報が複数登録されている場合、登録されている中の配布対象のクライアント PC に対して管理者権限を持つ管理者情報で、ソフトウェアやプリンタードライバーをインストールします。

管理者を追加する

［追加］をクリックし、次の項目を設定して、［OK］をクリックします。



［ユーザー名］

- 配布対象のクライアント PC がドメインに登録されている場合は、同じドメインに登録されている、管理者権限を持つユーザーを指定します。
- 配布対象のクライアント PC がドメインに登録されていない場合は、クライアント PC に登録されている、管理者権限を持つユーザーを指定します。

[ドメイン名またはコンピューター名]

- 配布対象のクライアント PC がドメインに登録されている場合は、そのドメイン名を指定します。
- 配布対象のクライアント PC がドメインに登録されていない場合は、クライアント PC のコンピューター名を指定します。

[パスワード]

[ユーザー名] で指定したユーザーのパスワードを指定します。

[備考]

必要に応じて備考を入力します。

管理者の情報を確認する

管理者一覧の をクリックして、[プロパティ] を選択します。

管理者に設定した内容を表示・編集できます。編集できる項目は、「管理者を追加する」(P.239) で設定した機能と同じです。

管理者を削除する

管理者一覧の をクリックして、[削除] を選択します。

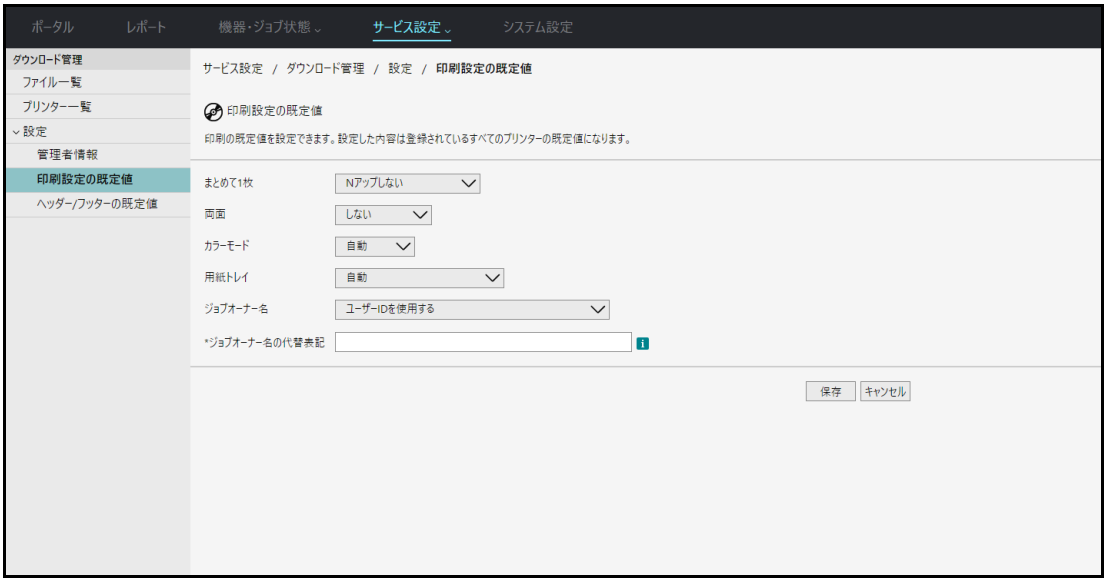
印刷設定の既定値

表示方法

管理者画面のメニューを [サービス設定] > [ダウンロード管理] > [設定] > [印刷設定の既定値] の順に選択します。

ページの概要

印刷設定の既定値を設定し、[保存] をクリックします。[プリンターの追加] 画面の [基本設定] で [既定値] を選択すると、ここで設定した値が採用されます。



ただし、次の項目はプリンターの追加時は設定できません。ここで設定した値が、すべてのプリンターに適用されます。

[ジョブオーナー名]

ジョブオーナー名の指定方法を選択します。

[ジョブオーナー名の代替表記]

プリンターのダウンロード中にジョブオーナー名を入力する必要がある場合、画面に表示するメッセージを設定します。

例

[ジョブオーナー名の代替表記] を「プロジェクトコード」と設定した場合、ジョブオーナー名の入力画面には次のメッセージが表示されます。

> ジョブオーナー名には<プロジェクトコード>として使用する値を表示してください。

補足

プリンターのダウンロード操作では、次の場合にジョブオーナー名を入力します。

- [ジョブオーナー名] で [ユーザーがジョブオーナー名を入力する] を指定した
- [ジョブオーナー名] で [ユーザーの所属を使用する] を指定したが、ユーザーに所属情報が設定されていなかった。または、所属情報がジョブオーナー名の入力規則の文字数を超えた
- [ジョブオーナー名] で [ユーザー ID を使用する] を指定したが、ユーザー ID の値がジョブオーナー名の入力規則の文字数を超えた

ヘッダー / フッターの既定値

表示方法

管理者画面のメニューを [サービス設定] > [ダウンロード管理] > [設定] > [ヘッダー / フッターの既定値] の順に選択します。

ページの概要

ヘッダーおよびフッターの既定値を設定し、[保存] をクリックします。[プリンターの追加] 画面の [ヘッダー / フッターの設定] で [既定値] を選択すると、ここで設定した値が採用されます。



ファイル / プリンターのダウンロード

配布用のソフトウェアやプリンタードライバーを、サーバーからダウンロードする手順を説明します。

補足

- ダウンロード管理の対象は、日本国内の機器だけです。
- ダウンロードしたプリンタードライバーは、日本語の OS だけに対応しています。
- Job Owner Setup は、x86 版 /x64 版の日本語 OS だけに対応しています。

ファイルをダウンロードする

配布用のファイルをクライアント PC にダウンロードします。

補足

Internet Explorer 以外の Web ブラウザーを使用している場合、セミコロン（;）または全角文字が含まれるファイル名は、［ファイルダウンロード］画面で「DVPUSerDownloadFile」と表示されます。また、拡張子にセミコロン（;）または全角文字が含まれるときは、拡張子なしで表示されます。

1. Web ブラウザーで ApeosWare Management Suite にアクセスして、ログインします。
ユーザーに管理者権限が設定されている場合は、ログインすると管理者画面が表示されます。ヘッダーで［ユーザーポータル］を選択して、ユーザー画面を表示してください。
2. ユーザー画面で［ユーザー / サービス設定］>［ダウンロード管理］>［ファイルダウンロード］の順に選択します。
3. ダウンロードするファイルの をクリックして、［ダウンロード］を選択します。
ファイルのダウンロードが開始されます。
4. ダウンロードしたファイルに［実行ファイル］が設定されている場合は、実行を確認するメッセージが表示されます。必要に応じて、メッセージに従って実行します。

プリンタードライバーをインストールする

配布用のプリンタードライバーをクライアント PC にインストールします。

1. Web ブラウザーで ApeosWare Management Suite にアクセスして、ログインします。
2. ユーザーに管理者権限が設定されている場合は、ログインすると管理者画面が表示されます。ヘッダーで［ユーザーポータル］を選択して、ユーザー画面を表示してください。
3. ユーザー画面で［ユーザー / サービス設定］>［ダウンロード管理］>［プリンターダウンロード］の順に選択します。
4. インストールしたいプリンタードライバーにチェックマークを付け、［ダウンロード］をクリックします。
［セットアップファイルのダウンロード］ページが表示されます。
5. 次を設定します。
   - ［クライアント OS］

     ダウンロードする OS を選択します。
   - ［ジョブオーナー名］

     設定によって表示される場合と、表示されない場合があります。表示された場合は、ジョブオーナー名を入力します。

     参照
     「印刷設定の既定値」（P.240）
6. ［ダウンロード］をクリックします。
セットアップファイルのダウンロードが開始されます。
7. ダウンロードしたセットアップファイルを実行します。実行を確認するメッセージが表示された場合は、メッセージに従って実行します。

7 プリントの管理と操作

Web ブラウザーからの設定と操作

Web ブラウザーでプリントに関する設定、およびプリントジョブの確認や操作ができます。
それぞれのページでどのようなことができるかを説明します。

ページの種類	説明
論理プリンター一覧	プリントサーバーに登録されている論理プリンターの一覧が表示されます。論理プリンターを登録、設定します。  参照 「論理プリンター一覧」(P.246)
プリントジョブ一覧	プリントジョブの一覧が表示されます。プリントジョブのプロパティの確認、保留解除、キャンセルなどができます。  参照 「プリントジョブ一覧」(P.253)
プリントルール一覧	作成済みのプリントルールの一覧が表示されます。プリントルールを作成、変更できます。  参照 「プリントルール一覧」(P.251)
プリント設定	プリントに関する設定をします。  参照 「プリント設定」(P.254)
プリントサーバー一覧	作成済みのプリントサーバーの一覧が表示されます。プリントサーバーの新規作成、編集、削除ができます。  参照 「プリントサーバー一覧」(P.245)
モードスケジュール一覧	プリントモードスケジュールの一覧が表示されます。プリントモードスケジュールの新規作成、編集、削除ができます。  参照 「モードスケジュール一覧」(P.259)

サイドメニューの構成

プリントサーバーの構成によって、サイドメニューの構成が異なります。

- オールインワン構成

  プリントサーバーは 1 つだけなので、上記の表と同じ構成になります。

- プリントアプリケーションサーバーを分離する分散構成

  プリントサーバーごとに、論理プリンター一覧、プリントジョブ一覧、プリントルール一覧、プリント設定が表示されます。

- プリント入出力サーバーを分離する分散構成

  プリントサーバーごとに論理プリンターの一覧が表示されます。プリントジョブ一覧、プリントルール一覧、プリント設定は、すべてのサーバーで共通です。

事前準備

機器の設定と登録

論理プリンターに関連づける機器で、LPD ポートが起動していることを確認します。

論理プリンターを、ApeosWare Management Suite に登録済みの機器に関連づけて作成する場合は、あらかじめ機器の情報を登録します。


参照

「3 機器管理」(P.74)

ユーザーの登録

プリント機能を利用するユーザーを ApeosWare Management Suite に登録し、アクセスプロファイルを設定します。

ゲストプリントを利用する場合は、ゲストプリント用のユーザーグループにユーザーを所属させて、ゲストプリント用のユーザーを作成します。

ゲストプリント用のユーザーのうち、Web プリントの使用だけを許可するユーザーを設定することができます。

コスト管理をする場合は、アカウントを作成して、ユーザーまたはユーザーグループに関連づけます。また、料金体系を作成して、機器やアカウントに関連づけます。


補足

ApeosWare Management Suite をインストールしたときに、ゲストプリント用のユーザーグループとして「Guest User Group」が自動で作成されます。グループ名は変更されている場合があります。


参照

・「4 ユーザーの管理」(P.123)
・「ユーザー画面」(P.32)
・「5 コスト管理」(P.197)

ユーザーアカウント制御の無効化

プリント入出力サーバーを設置している場合、後述の「プリントサーバーを作成する」(P.245) で指定する［ユーザー名］と［パスワード］に、ビルトインアカウント (Administrator) 以外のローカルユーザーを指定するときは、ユーザーアカウント制御を無効にする必要があります。

ユーザーアカウント制御を無効するには、プリント入出力サーバーの PC で次の操作をしてください。


補足

次の操作は Windows の操作です。詳しくは、Windows のマニュアルやヘルプを参照してください。

(1) サーバーマネージャーから［ローカルセキュリティポリシー］画面を表示します。
(2) ［セキュリティの設定］＞［ローカルポリシー］＞［セキュリティ オプション］を選択します。
(3) ［セキュリティ オプション］画面の右側のリスト内に表示される［ユーザーアカウント制御 : 管理者承認モードですべての管理者を実行する］をダブルクリックします。
(4) ［ローカル セキュリティの設定］タブ内に表示されている［無効］を選択して、［OK］をクリックします。
(5) PC を再起動します。

プリントサーバー一覧

表示方法

管理者画面の［サービス設定］＞［プリント管理］＞［プリントサーバー一覧］を選択します。

ページの概要

作成済みのプリントサーバーの一覧が表示されます。プリントサーバーの新規作成、プロパティ編集、削除ができます。

補足

・オールインワン構成、およびプリント入出力サーバーを分離する分散構成の場合、最初にメインサーバーを追加します。なお、追加したメインサーバーは削除できません。プリント入出力サーバーを分離する分散構成の場合、メインサーバーをプリント入出力サーバーとして使用していなくても、プリントサーバー一覧にプリントサーバーを登録してください。
・論理プリンターは、プリントサーバーに対して作成します。

プリントサーバーを作成する

［プリントサーバーの追加］をクリックします。



[表示名]

プリントサーバーの表示名を設定します。

[IP アドレス / ホスト名]

プリントサーバーの IP アドレス、または FQDN 形式のホスト名を選択します。

[ユーザー名]、[パスワード]

プリントサーバーにアクセスできる認証情報を入力します。

補足

・プリントサーバーの Administrators グループに所属するユーザーの情報を入力してください。
・プリント入出力サーバーを設置している場合、サーバーにアクセスするユーザーに、ビルトインアカウント (Administrator) 以外のローカルユーザーを指定するときは、ユーザーアカウント制御を無効にする必要があります。詳しくは、「ユーザーアカウント制御の無効化」（P.244）を参照してください。

[ドメイン]

［ユーザー名］で入力したユーザーが所属するドメイン名を入力します。

[バックアップサーバー]

バックアップサーバーの IP アドレスを設定します。

補足

・バックアップサーバーを設定できるのは、プリント入出力構成のみです。
・2 台のサーバー間で、お互いのサーバーをバックアップサーバーに指定することはできません。
・次の場合は、バックアップサーバーにジョブがコピーされません。
・バックアップ処理の実行中にサーバーがダウンした場合
・バックアップサーバーと通信できない場合
・バックアップサーバーに設定したプリントサーバーには、[IP アドレス / ホスト名] で設定したプリントサーバーに要求したジョブがコピーされます。コピー元のプリントサーバーがダウンした場合でも、バックアップサーバーにジョブが残っているため、プリント処理が行われます。

プリントサーバーの情報を確認する

プリントサーバー名のリンクをクリックするか、プリントサーバー一覧の⚙をクリックして、[プロパティ] を選択します。

プリントサーバーに設定した内容を表示・編集できます。編集できる項目は、「プリントサーバーを作成する」（P.245）で設定した内容と同じです。

プリントサーバーを削除する

削除するプリントサーバーにチェックマークを付け、[削除] をクリックします。

補足

オールインワン構成の場合は、プリントサーバーは削除できません。

論理プリンター一覧

表示方法

管理者画面の［サービス設定］＞［プリント管理］＞［プリントサーバー一覧］を選択し、サイドメニューで［論理プリンター一覧］を選択します。

ページの概要

プリントサーバーに作成済みの論理プリンターの一覧が表示されます。論理プリンターのプリントモードやプリントタイプを確認できます。

論理プリンターを新規作成したり、作成済みの論理プリンターの設定を変更したりできます。

論理プリンターを作成する

［論理プリンターの作成］をクリックします。



(1) 論理プリンターの詳細

次の項目を設定し、［次へ］をクリックします。

［論理プリンター］

ドロップダウンリストボックスで、プリントサーバーに設定されている Windows 共有プリンターから選択するか、［論理プリンターの新規作成］を選択します。

［論理プリンターの新規作成］を選択した場合は、新しい論理プリンターの名前を入力します。

補足

すでにほかの論理プリンターに使用されている Windows 共有プリンターは、リストに表示されません。

［既定のプリントモード］

論理プリンターに設定するプリントモードを選択します。

プリントモードスケジュールを設定する場合、スケジュールに定義されていない時間帯は、ここで選択したプリントモードに設定されます。

参照

プリントモードについて →『導入・運用ガイド』

［スケジュール］

ドロップダウンリストボックスで、論理プリンターに設定するプリントモードスケジュールを選択します。プリントモードスケジュールを設定しない場合は、［常に既定のプリントモード］を選択します。

［プリントタイプ］

プリントタイプを選択します。プリントタイプは複数選択できます。

- ［メールプリント］

  ［メールプリント］は 1 つの論理プリンターにだけ設定できます。すでにほかの論理プリンターに［メールプリント］を設定している場合は、選択できません。

  選択した場合は、受信したメールをプリントするメールアドレス、POP3 サーバーにアクセスするためのユーザー ID とパスワードを設定します。

  メールプリントを利用する場合、［システム設定］＞［共通設定］＞［ネットワーク設定］で［先進認証］

を［使用する］に設定したときは、メールアドレス、ユーザー名に加えて、［先進認証］が表示されます。

この場合、メールアドレス、ユーザー名には「ネットワーク設定」で選択した「Exchange Online」または「Gmail」の設定に合わせたユーザーを入力して［先進認証］をクリックしてください。

認証処理が実施済であれば、［未実施］から［認証済み］に変わります。

なお、受信メールアドレス、ユーザー名を変更した場合は、再度、認証を行う必要があります。

認証済みになっていない場合、論理プリンターの作成は失敗します。

参照
「［先進認証］」（P.40）

- ［Web プリント］
- ［モバイル / 文書管理サービスプリント］

選択した場合は、［IP アドレス / ホスト名指定で直接プリントする］を設定できます。この設定は、次の条件をどちらも満たした場合だけ有効になります。

- プリントモードが「直接」

- ほかの論理プリンターでこの機能が有効にされていない

［IP アドレス / ホスト名指定で直接プリントする］にチェックマークを付けた論理プリンターは、すべての機器と関連づけられます。

補足

プリントモードが「直接」で複数の機器と関連付けた論理プリンターに印刷指示をする場合、印刷される機器を指定することができません。機器を特定して印刷する場合には、次の方法で印刷を行ってください。

・あらかじめプリントモードがオンデマンドで印刷する機器と関連付けた論理プリンターを用意し、印刷時にこの論理プリンターに対して印刷指示を行い、機器の画面でジョブを選択して出力する。

・ApeosWare MS Mobile 2 を利用する場合は、印刷時に機器の QR コードを読み込む、または機器グループ、機器を指定して出力する

［IP アドレスに限定］

ポップアップで通知する先を、プリントジョブを発行した IP アドレスだけに限定する場合にチェックマークを付けます。

［Windows ポート名］

Windows ポート名を指定する場合は、［指定する］にチェックマークを付け、ポート名を入力します。

［受信 LPR キュー名］

論理プリンターを LPR キューとして使用する場合は、［有効］にチェックマークを付けて、キューの名前と使用する文字セットを設定します。複数設定する場合は、＋アイコンをクリックして LPR キューを追加します。

補足

1 つの論理プリンターに異なる文字セットの LPR キューを複数作成すると、さまざまな言語環境のクライアントから送信されたプリントジョブを、同じ論理プリンターで受け付けることができます。
クライアントの OS ごとの標準的な設定値は次のとおりです。

・日本語版の Windows の場合：日本語（シフト JIS/CP932）
・簡体字中国語版の Windows の場合：簡体字中国語（GB18030）
・繁体字中国語版の Windows の場合：繁体字中国語（CP950）
・韓国語版の Windows の場合：韓国語（CP949）
・英語版の Windows の場合：英語（ISO8859-1/CP1252）
・Mac OS、Fedora、Vine Linux、および Red Hat Enterprise Linux の場合：Unicode（UTF-8）

[送信 LPR キュー名]

プリントジョブを送信する機器側の LPR キュー名を指定したい場合は、[有効] にチェックマークを付けてキューの名前を入力します。

有効にしない場合は、「AUTO」という名前のキューに送信されます。

[IPP ポート]

論理プリンターが、プリントジョブを IPP/IPPS プロトコルで受信する場合に、チェックマークを付けます。

IPPS を使用する場合は、[IPP 通信の暗号化] の [有効] にチェックマークを付けます。

- [BASIC 認証]
  [IPP ポート] の [有効] および [IPP 通信の暗号化] の [有効] にチェックマークがついている場合だけ表示されます。
  IPPS プロトコル使用時に、ユーザー認証を行うようになります。
- [iOS 端末からプリント]
  [IPP ポート] の [有効]、[IPP 通信の暗号化] の [有効] および [BASIC 認証] にチェックマークが付いている場合だけ表示されます。
  iOS 端末からプリントする場合に選択します。

補足

- IPP プリンターは、iOS からのプリントを実行したときに、選択可能なプリンターとして公開されます。このとき、お客様のネットワークインフラが mDNS に対応している必要があります。
- IPP プリンターは、iOS からのプリントを実行したときにユーザー認証を行い、認証した ApeosWare Management Suite のユーザーで、プリントジョブが発行されます。プリントジョブが発行されたあとの動作は、ほかのプリントジョブと同じです。
- プリントモードで直接プリントが指定されているとき、IPP プリンターは直接プリントします。
- プリントモードでオンデマンドプリントが指定されているとき、IPP プリンターはジョブが保留され、解除するとプリントします。
- [iOS 端末からプリント] にチェックマークを付けると、[ページ記述言語の初期値] は [検出しない] が設定され、変更できません。いくつかの機能が使用できませんのでご注意ください。

[ページ記述言語の初期値]

論理プリンターで受け付けるジョブのページ記述言語を判別するかどうかを、次から選択します。

- 自動判別する

  プリントジョブに記載された情報を解析して、ページ記述言語を自動で判別します。

  ApeosWare Management Suite で扱えるページ記述言語と判別されれば、プリントされます。

- 検出しない

  ページ記述言語を判別しません。ApeosWare Management Suite では扱えないページ記述言語のプリントジョブもプリントできます。

  ただし、[検出しない] を選択した場合、プリントジョブから情報を取得できないため、[ジョブ情報の補完パラメータ] の設定値に従った料金が表示されます。また、オンデマンドプリントで複合機のパネルにジョブを表示した場合に警告マークが表示されます。さらに、いくつかの機能を使用できません。使用できない機能については、「ページ記述言語の自動判断」(P.274) を参照してください。

[ジョブの解析方法]

「Additional OS Parser Option」のライセンスが有効な場合、プリントジョブの解析方法を選択できます。

Additional OS Parser Option を使用すると、OS が Linux または Mac OS のクライアントから送信された PostScript のプリントジョブで、カラーモード、片面 / 両面、および用紙サイズを変更できるようになります。

プリントジョブの解析にオプションを使用しない場合は、[標準機能] を選択します。

補足

Additional OS Parser Option は、日本国内だけで利用できます。

[プリントーサーバー連携]

GX Print Server と連携する場合は、[有効] にチェックマークを付けます。

プリントサーバー連携を有効にすると、[ページ記述言語の初期値] は [検出しない] が設定され、変更できなくなります。また、送信 LPR キュー名が設定できなくなり、機器で設定した送信 LPR キュー名が使用されます。

(2) 機器 / 機器グループとの関連づけ

作成する論理プリンターと、機器、または機器グループとの関連づけを設定して、[次へ] をクリックします。機器 / 機器グループのどちらかと関連づけることが必要です。

[機器グループとの関連づけ]

[する]

論理プリンターに機器グループを関連づける場合は、[する] を選択します。

[すべての機器グループの関連づけ] にチェックマークを付けると、論理プリンターは、すべての機器グループに所属する機器を使用できます。

論理プリンターを特定の機器グループに関連づける場合は、[すべての機器グループの関連づけ] のチェックマークを外し、次の手順で機器グループを選択します。

補足

[すべての機器グループの関連づけ] にチェックマークを付けた場合は、この設定以降に登録された機器にも適用されます。

(1) [追加] をクリックし、[機器グループ] ダイアログボックスを表示します。

(2) 追加する機器グループにチェックマークを付け [追加] をクリックします。

補足

- すべての機器グループを追加する場合は [すべて追加] をクリックします。
- [機器グループの関連づけ] に表示された機器グループを絞り込む場合は、  に検索したいグループ名の一部を入力し、< Enter >を押します。
- 特定の機器グループとの関連づけを削除する場合は、[機器の関連づけ] で [削除] または [すべて削除] をクリックします。

[しない]

機器グループとの関連づけをしない場合に選択します。

[機器との関連づけ]

[する]

論理プリンターに機器を関連づける場合は、[する] を選択します。

[すべての機器の関連づけ] にチェックマークを付けると、論理プリンターは、すべての機器を使用できます。

論理プリンターを特定の機器に関連づける場合は、[すべての機器の関連づけ] のチェックマークを外し、次の手順で機器を選択します。

補足

[すべての機器グループの関連づけ] にチェックマークを付けた場合は、この設定以降に登録された機器にも適用されます。

(1) [追加] をクリックし、[機器] ダイアログボックスを表示します。

補足

［追加］をクリックすると、ApeosWare Management Suite に登録されている機器の一覧が表示されます。

(2) 追加する機器にチェックマークを付け［追加］をクリックします。

補足

・すべての機器を追加する場合は［すべて追加］をクリックします。
・特定の機器との関連づけを削除する場合は、［機器の関連づけ］で［削除］または［すべて削除］をクリックします。

［しない］

機器との関連づけをしない場合に選択します。

(3) 設定確認

設定した内容を確認し、［保存］をクリックすると、論理プリンターが作成されます。

各項目の［編集］をクリックし、設定した内容を変更することもできます。

関連づけられている機器 / 機器グループを確認する

論理プリンター名のリンクをクリックすると、関連づけられている機器 / 機器グループの一覧が表示されます。

［編集］をクリックすると、論理プリンターに設定した内容を表示・編集できます。編集できる項目は、論理プリンター名を除き、「論理プリンターを作成する」（P.247）で設定した機能と同じです。

論理プリンターの情報を確認する

論理プリンター一覧の⚙をクリックして、［プロパティ］を選択します。

論理プリンターに設定した内容を表示・編集できます。編集できる項目は、「論理プリンターを作成する」（P.247）で設定した機能と同じです。

論理プリンターのジョブを確認する

論理プリンター一覧の⚙をクリックして、［ジョブの表示］を選択します。

論理プリンターのプリントジョブの一覧を表示できます。表示される内容は、「プリントジョブ一覧」（P.253）と同じです。

論理プリンターを削除する

論理プリンター一覧の⚙をクリックして、［削除］を選択します。

プリントルール一覧

表示方法

管理者画面の［サービス設定］＞［プリント管理］＞［プリントルール一覧］を選択します。

ページの概要

プリントルールの一覧が表示されます。

論理プリンターを新規作成したり、作成済みの論理プリンターの設定を変更したりできます。

プリントルールを作成する

［プリントルールの作成］をクリックします。主な設定項目は次のとおりです。



[ルール名]、[プリントルールの説明]

ルールの名前と、説明を設定します。

[論理プリンター]

ルールを関連づける論理プリンターを選択します。1 つのルールに、複数の論理プリンターを関連づけることができます。

[編集] をクリックすると [論理プリンターとの関連づけ] が表示されます。

[すべての論理プリンターと関連づける] にチェックマークを付けるか、[追加] をクリックして、表示される論理プリンターから選択します

[重複ジョブの削除]

受け付けた重複ジョブをキャンセルする場合に選択します。

[処理の条件を指定する]

条件と処理を指定する場合に選択します。選択した場合、[ルール条件の設定] で、条件と適用する処理を設定します。

[ルール条件の設定]

[プロパティ]、[条件]、[設定内容] をそれぞれ選択します。条件を追加する場合は、＋をクリックし、[演算子] で [And]、[Or] または [And Not] を選択します。

[ルール動作の設定]

条件を満たしたプリントジョブを、どのように処理するかを選択します。

[プリント時に指定する設定] を選択した場合は、適用する処理を [強制白黒]、[強制両面]、[ヘッダー / フッターを印刷] から選択します。

[ジョブを他の論理プリンターへ移動] を選択した場合は、[編集] をクリックしてプリントジョブを転送する論理プリンターを選択します。

プリントルールの情報を確認する

プリントルール名のリンクをクリックするか、プリントルール一覧の⚙をクリックして、[プロパティ] を選択します。

プリントルールに設定した内容を表示・編集できます。編集できる項目は、「プリントルールを作成する」(P.251) で設定した機能と同じです。

プリントルールをコピーする

プリントルール一覧の をクリックして、［コピー］を選択します。

プリントルールに設定した内容をコピーし、新しいプリントルールを作成できます。コピーするとき、設定項目を編集できます。編集できる項目は、「プリントルールを作成する」（P.251）で設定した機能と同じです。

プリントルールを削除する

プリントルール一覧の をクリックして、［削除］を選択します。

プリントジョブ一覧

表示方法

管理者画面の［機器・ジョブ状態］＞［プリントジョブ状態］＞［プリントジョブ状態］を選択します。

補足

次の方法でも表示できます。
・管理者画面で、［サービス設定］＞［プリント管理］に表示されるメニューを選択して、サイドメニューで［プリントジョブ一覧］を選択します。
・ユーザー画面で、［プリント / ジョブ］＞［マイジョブ］＞［プリントジョブ一覧］を選択します。

ページの概要

プリントジョブの一覧が表示されます。

管理者画面の場合は、すべてのユーザーが実行したプリントジョブが表示されます。

ユーザー画面の場合は、次のプリントジョブが表示されます。

- ログインユーザーが実行したプリントジョブ
- ログインユーザーの代替ユーザー ID で実行したプリントジョブ
- ログインユーザーに設定されている［委任ユーザー］が実行したプリントジョブ

プリントジョブ一覧では、プリントジョブに対して、次の操作ができます。

- ［保留解除］

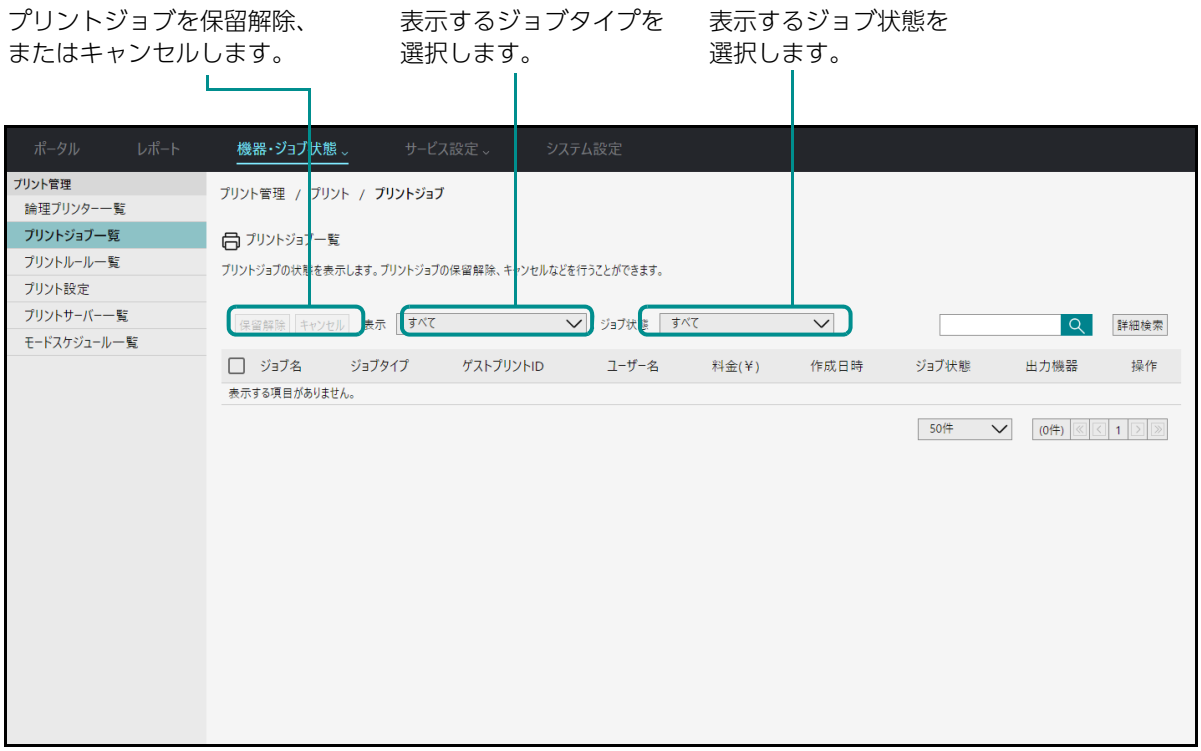
  ゲストプリントで保留中のプリントジョブ、または、ポップアップ通知で処理待ち中のプリントジョブの保留を解除します。

- ［キャンセル］

  プリントジョブをキャンセルします。

  補足

  オンデマンドプリントでは、ユーザーがプリントをキャンセルすると、プリントジョブは保留状態に戻ります。保留を解除すると、再度プリントできます。



[ゲストプリント ID]

ユーザーがゲストプリントを実行した場合に発行される ID が表示されます。

補足

ゲストプリントで管理者の承認が必要な場合は、管理者がジョブ一覧で保留を解除すると、ユーザーがプリントできるようになります。解除する対象のプリントジョブを、ゲストプリント ID で検索します。

プリントジョブのプロパティを確認する

をクリックして［プロパティ］を選択するか、ジョブ名のリンクをクリックします。

プリントジョブを検索する

検索ボックスに文字列を入力して、をクリックします。入力した文字列とジョブ名が部分一致したプリントジョブが検索されます。

詳細な条件を設定して検索したい場合は、［詳細検索］をクリックします。

ユーザー名やジョブタイプなどを条件にして、プリントジョブを検索できます。複数の条件を設定する場合は、［演算子］で［And］、［Or］、または［And Not］のどれかを選択します。

プリント設定

表示方法

管理者画面の［サービス設定］＞［プリント管理］＞［プリント設定］を選択します。

ページの概要

プリントに関する設定をします。



[ゲストプリント] タブ

[Web プリント]

Web ブラウザーを使用したゲストプリント機能を利用する場合は、チェックマークを付けます。

- パスワード入力画面を表示する

  プリントするユーザーにパスワードを入力させる場合は、チェックマークを付けます。

- プリントするために管理者承認を必要とする

  プリントする前に管理者の承認を必要とする場合は、チェックマークを付けます。

  設定した場合、ユーザーがプリントジョブの保留を解除する前に、管理者の承認が必要になります。

補足

・ゲストプリントのコストを管理したい場合は、管理者承認が必要です。
・ゲストプリント用のユーザーのうち、Web プリントの使用だけを許可するユーザーを設定することができます。

[メールプリント]

送信したメールをゲストプリントでプリントする場合は、チェックマークを付けます。

Web プリント同様に、管理者の承認が必要かどうかを設定します。

[メールプリント] タブ

参照

メールを送信するための設定→「ネットワーク設定」(P.39)

[添付ファイルのみプリント]

メールの本文はプリントしないで、添付ファイルだけをプリントする場合は、[有効] にチェックマークを付けます。

[差出人のアドレス]

結果メールの差出人メールアドレスを設定します。

[ポーリング間隔]

POP3 サーバーからメールを受信する間隔を、分単位で設定します。

[メッセージの言語]

結果メールの件名や本文の言語を選択します。

補足

初期設定は、ApeosWare Management Suite で選択されている言語です。結果メールの言語だけをほかの言語に変更できます。

[スパムメールのアドレス]

スパムメールと判断するメールアドレスを入力します。複数のメールアドレスを指定したい場合は、＋をクリックして追加します。

プリントするメールの差出人のアドレスの一部が、ここで設定した文字列と一致した場合、スパムメールと判断されます。大文字と小文字は区別されません。

たとえば、[スパムメールのアドレス] に「sample.com」を設定すると、「sample.com」を含むメールアドレスは、すべてスパムメールと判断されます。

[ゲストプリントユーザー]

メールプリントを利用してゲストプリントする場合に、プリントジョブの所有者となるユーザー ID を設定します。設定できるユーザー ID は 1 つだけです。

[ゲストプリント] タブで [メールプリント] にチェックマークを付けた場合だけ設定できます。

[プリントジョブ] タブ

[ジョブの有効期間]

プリントジョブの有効期間を設定します。

補足

プリントジョブの有効期間とは、ジョブの状態が「保留中」と「待機中」の状態を継続する最大期間です。「保留中」と「待機中」の期間が有効期間より長くなると、プリントジョブはキャンセルされます。

[ジョブ履歴の保存期間]

プリントが完了、またはキャンセルされたあと、プリントジョブの履歴が自動的に削除されるまでの期間を設定します。

[プリントジョブのタイムアウト時間]

プリントジョブを機器に送信して応答がないときに、自動的にキャンセルされるまでの時間を設定します。

[どのユーザーのプリントジョブかを決定する情報]

論理プリンターで受け付けたプリントジョブが、どのユーザーのプリントジョブかを判断する情報を選択します。

オンデマンドプリントでは、ユーザーが送信したプリントジョブが検索されて、一覧に表示されます。

情報	説明
ユーザー名	プリントを実行したユーザーが、クライアント PC にログオンするときのユーザー名です。Windows の共有プリンターを使用してプリントする場合は、そのプリンターにアクセスしたユーザー名です。
ジョブオーナー名	プリントを実行するときに、プリンタードライバーなどで設定します。

[ジョブオーナー名、またはユーザー名（ジョブオーナー名優先）] を選択した場合、ジョブオーナー名で検索し、ジョブオーナー名が設定されていなければユーザー名で検索します。

ユーザー名で検索する場合、ApeosWare Management Suite のユーザー ID と、プリントを実行する PC のログオン名が一致している必要があります。

論理プリンターで［BASIC 認証］を選択している場合で、ユーザー名もジョブオーナー名も指定されないプリントジョブは、BASIC 認証のユーザー ID を使用します。



補足

iOS 端末から印刷する場合は、BASIC 認証でユーザー ID を指定する必要があります。



参照

「論理プリンターを作成する」の［IPP ポート］＞［BASIC 認証］(P.249)

［プリントデータのファイル出力］

ApeosWare Management Suite を使用してプリントするときに発生した問題を解決する場合など、必要に応じて、プリントデータをファイルに出力できます。

［許可する］に設定すると、プリントサーバー上にある次のフォルダーにプリントデータが出力されます。

{データ格納先フォルダー}￥Data￥Temp￥Spool￥OutputPDLFile

{データ保格納先フォルダー}は、インストール時に指定します。初期設定を変更していない場合は、「C:￥FUJIFILM￥ApeosWare MS」です。



補足

［許可する］に設定したまま使用を続けると、プリントデータがファイルに出力され続けます。必要なプリントデータを取得したら、ファイル出力を［許可しない］に設定し直すことを推奨します。

［給紙されていないときの動作］

機器の給紙トレイに用紙がなくても、プリント指示を継続させるかどうかを設定します。

［詳細を表示 / 詳細を隠す］

［詳細を表示］をクリックすると、［未登録ユーザーの ID プリント］、［プリントアプリケーションサーバー分散構成時のジョブの扱い］および［ジョブ情報の補完パラメータ］が表示されます。

［未登録ユーザーの ID プリント］

未登録のユーザーによるプリントを、許可するかしないかを選択します。許可した場合、ユーザーを登録しないでオンデマンドプリントを利用できます。

［する］を選択した場合、あらかじめ決められている条件でプリントを許可します。

［しない］を選択した場合、エラーメッセージを表示して、プリントを許可しません。



補足

［する］を選択した場合、分散構成でメインサーバーがダウンしたときに、分散サーバーからジョブを出力できます。

［プリントアプリケーションサーバー分散構成時のジョブの扱い］

プリントアプリケーションサーバー分散構成の場合、メインサーバーが停止しているときに、ジョブをすべて印刷するか、一時停止するかどうかを選択します。



補足

一時停止にしていない場合、分散構成でメインサーバーがダウンしたときに、承認やマスキングなしで印刷されてしまうことがあります。

［ジョブ情報の補完パラメータ］

用紙サイズや 1 部あたりのページ情報が検知できなかった場合に、プリントジョブに適用するパラメータを設定します。

- ［用紙サイズ］

用紙サイズを選択します。

- ［1 部あたりのカラー枚数］

  1 部あたりのカラー枚数を設定します。

- ［1 部あたりのカラー面数］

  1 部あたりのカラー領域の総面数を設定します。

- ［1 部あたりのモノクロ枚数］

  1 部あたりのモノクロ枚数を設定します。

- ［1 部あたりのモノクロ面数］

  1 部あたりのモノクロ領域の総面数を設定します。

- ［部数］

  プリント部数を設定します。

［オンデマンドプリント］タブ

オンデマンドプリントの設定をします。

［プリント開始ジョブの保留時間］

プリントジョブの保留を解除してもプリントされない場合に、自動的にキャンセルするまでの時間を設定します。

［ジョブ受付時の残高の確認］

オンデマンドプリントのポップアップ画面で［プリント］をクリックしたときに、残高を確認するかどうかを選択します。

- ［しない］

  アクセスプロファイルで［ポップアップ画面を表示する］にチェックマークが付いている場合、［プリント詳細］が表示され、［プリント］を押すと保留されます。

- ［する］

  アクセスプロファイルで［ポップアップ画面を表示する］にチェックマークが付いている場合、［プリント詳細］が表示され、警告メッセージが表示されてプリントできません。残高が足りるアカウントに変更し、［プリント］を押せば保留されます。

補足

・ポップアップ通知画面を表示するには、クライアント PC に Popup Messenger をインストールする必要があります。
・アクセスプロファイルの設定で、［ポップアップ画面を表示する］にチェックマークが付いていない場合、［ジョブ受付時の残高の確認］の設定とは無関係に保留されます。

参照

・Popup Messenger のインストール→「Popup Messenger をインストールする」（P.262）
・アクセスプロファイルの設定→「［プリントポップアップ設定］」（P.142）

［リストありプリントの設定］

- ［ジョブ表示名に使う情報］

  オンデマンドプリント用の表示名を生成するときに、どの情報を使用するかを選択します。

- ［削除する先頭部分の文字列］

  オンデマンドプリント用の表示名を生成するときに、削除する文字列を設定します。ここで設定した文字列がプリントジョブの先頭に含まれている場合に、削除して表示名を生成します。

補足

たとえば、プリントを実行したアプリケーションの名前がプリントジョブ名の先頭に付けられるような場合に、そのアプリケーションを指定します。アプリケーション名が削除されることで、操作パネル内で識別しやすい表示名が生成されます。

- [ジョブの表示順序 (受付日時)]

  プリントジョブの一覧に表示される順序を選択します。

- [最大表示ジョブ数]

  プリントジョブの一覧に表示されるジョブ数の最大値を設定します。

[リストなしプリントの設定]

- [プリント中止ジョブを削除する]

  プリントが中止された場合に、先頭のジョブ（プリント中のジョブ）を削除するかどうかを選択します。削除しない場合は、再プリントできる状態で保留されます。

- [制限付きジョブをプリントする]

  「制限付きジョブ」とは、指定された機能をサポートしていない機器に送信されたプリントジョブです(たとえば、フィニッシャーが接続されていない機器に、紙折りやパンチを設定したプリントジョブを送信した場合など)。

  プリントする場合は、サポートしていない機能は無視されます。

- [1 回あたりの最大プリント数]

  1 回の操作でプリントするジョブ数の最大値を設定します。

[プリント設定の推奨値]

次のプリントの設定を、初期値、または推奨値として設定できます。

- [まとめて 1 枚（N アップ)]

  推奨値だけ設定できます。

- [両面プリント]
- [白黒プリント]

[ジョブ表示対象サーバー]

ジョブを表示する対象のサーバーを設定します。オンデマンドプリントのジョブ表示だけ有効です。

補足

プリントアプリケーションサーバー構成でのみ設定できます。

[通信設定] タブ

IPP/IPPS の通信設定をします。

[IPP ポート番号 /IPPS ポート番号]

IPP 受信で使用するポート番号、または IPPS 受信で使用するポート番号を設定します。

モードスケジュール一覧

表示方法

管理者画面の［サービス設定］＞［プリント管理］＞［モードスケジュール一覧］を選択します。

ページの概要

プリントモードスケジュールの一覧が表示されます。

プリントモードスケジュールを新規作成したり、作成済みのプリントモードスケジュールを変更したりできます。

スケジュールを追加する

［スケジュールの追加］をクリックします。300 個まで作成できます。



(1) スケジュールの基本情報

次の項目を設定し、［次へ］をクリックします。

［スケジュール名］

プリントルールスケジュールの名前を入力します。

［説明］

プリントルールスケジュールの説明を入力します。

(2) スケジュールの設定

次の項目を設定し、［次へ］をクリックします。

［適用期間］

ドロップダウンリストボックスで、スケジュールを適用する期間を選択します。

- ［期間と時間帯］

  特定の期間と、その期間の曜日ごとの時間帯を設定します。

- ［時間帯］

  曜日ごとの時間帯を設定します。

［使用開始日］、［使用終了日］

［適用期間］が［期間と時間帯］の場合に設定します。スケジュールを適用する期間の開始日と終了日を入力するか、カレンダーを使って選択します。

［開始時刻］、［終了時刻］

スケジュールを適用する時刻（時、分、午前 / 午後）を設定します。

［曜日］

スケジュールを適用する曜日を選択します。

[プリントモード]

ドロップダウンリストボックスで、適用するプリントモードを選択します。

[スケジュールの追加]

ほかの期間、時間帯を指定したスケジュールを追加できます。1 つのスケジュールに 100 個まで追加できます。

(3) 論理プリンターとの関連づけ

次の項目を設定し、[次へ] をクリックします。

[論理プリンターとの関連づけ]

作成したスケジュールを論理プリンターと関連づけるかどうかを選択します。

[論理プリンターを関連づける]

作成したスケジュールに関連づける論理プリンターを選択します。[追加] をクリックすると、論理プリンターの一覧が表示されます。

(4) 概要

設定した内容を確認し、[保存] をクリックすると、プリントモードスケジュールが作成されます。

各項目の [編集] をクリックし、設定した内容を変更することもできます。

モードスケジュールの情報を確認する

モードスケジュール一覧の ⚙ をクリックして、[プロパティ] を選択します。

モードスケジュールに設定した内容を表示・編集できます。編集できる項目は、「スケジュールを追加する」(P.260) で設定した機能と同じです。

モードスケジュールを削除する

モードスケジュール一覧の ⚙ をクリックして、[削除] を選択します。

プリントの操作

ApeosWare Management Suite では、管理者がプリントの環境を設定します。

プリントを実行するユーザーは、管理者の指示に従って、ApeosWare Management Suite 上の論理プリンターを選択してプリントします。

プリントの操作の概要

使用する論理プリンターによって、「オンデマンドプリント」、「直接プリント」のどちらかでプリントされます。

直接プリントの場合は、そのままプリントされます。

オンデマンドプリントの場合は、ユーザーが機器で認証するとプリントされます。リストなしプリントでは、送信したプリントジョブがすべてプリントされます。リストありプリントでは、プリントジョブの一覧が表示されるので、選択してプリントできます。プリントジョブの設定を変更したり、キャンセルしたりすることもできます。

プリントを実行したユーザーのアクセスプロファイルで、ポップアップ通知画面を表示するように設定されている場合、プリントを実行した PC にポップアップ画面でプリントジョブの情報が通知されます。ユーザーは通知を受け取ってから機器で認証して、プリントジョブを操作できます。

補足

ポップアップ通知を受信するには、Popup Messenger が必要です。

プリント操作の準備

プリンターを追加する

アプリケーションからプリントを実行する場合は、ApeosWare Management Suite 上の論理プリンターを、プリンターとして追加する必要があります。次の情報を管理者に確認して、プリンターを追加します。

論理プリンターのタイプ	必要な情報
Windows 共有プリンター	共有プリンター名
LPR キュー	・プリントサーバーのホスト名、または IP アドレス ・LPR キューの名前

また、必要に応じて、使用するプリンタードライバーをインストールし、プロパティダイアログボックスを開いて次のように設定します。

(1) [詳細設定] タブをクリックします。
(2) [印刷ドキュメントをスプールし、プログラムの印刷処理を高速に行う] を選択します。
(3) [全ページ分のデータをスプールしてから、印刷データをプリンターに送る] を選択します。
(4) [スプールされたドキュメントを最初に印刷する] にチェックマークを付けます。
(5) [印刷後ドキュメントを残す] のチェックマークを外します。

補足

送信されたプリントジョブのサイズが大きく、後続のプリントジョブの処理が待たされて時間がかかる場合には、[スプールされたドキュメントを最初に印刷する] のチェックマークを外します。ただし、この場合、プリントの順序が入れ替わることがあります。

出力先の機器を確認する

使用する論理プリンターのプリントモード、関連づけられている機器、機器の認証方法を確認します。

機器の外部アクセス機能を利用する場合は、機器から ApeosWare Management Suite にアクセスするための URL も確認します。

Popup Messenger をインストールする

Popup Messenger で通知を受け取る場合は、プリントを実行するクライアント PC に Popup Messenger をインストールします。

インストール環境の OS に応じた方法でインストーラーを起動し、表示されるメッセージに従ってインストールしてください。

Windows 環境の場合

補足

ファイアウォールが有効になっている Windows の PC に Popup Messenger をインストールする場合は、インストールする前に、例外設定で次のポートを追加してください。
・外向きの通信：80/TCP、443/TCP、8181/TCP、8183/TCP
・内向きの通信：8088/TCP

(1) インストールする PC に Administrators グループのユーザーでログオンします。
(2) ApeosWare Management Suite のインストール画面で、ツールの一覧を表示します。

参照

インストール画面の起動 → 『セットアップガイド』

(3) Popup Messenger を選択してインストールを実行します。

MacOS 環境の場合

(1) ApeosWare Management Suite の製品パッケージに付属した DVD-ROM、またはダウンロードしたファイルに含まれる「Popup Messenger.pkg」を、デスクトップにコピーします。
(2) コピーしたファイルをダブルクリックします。

補足

認証情報の入力を求められた場合は、インストールする環境の管理者権限を持つユーザーの情報を入力します。

Linux 環境の場合

(1) インストールする PC に、root でログインします。
(2) ターミナルを起動します。
(3) ApeosWare Management Suite の製品パッケージに付属した DVD-ROM、またはダウンロードしたファイルに含まれる「Popup_Messenger.bin」を実行します。

補足

入力値の大文字、小文字は区別されません。

初期設定

インストール後、Popup Messenger を起動して初期設定をします。
必要な設定については、『Popup Messenger ヘルプ』の「初期設定の流れ」を参照してください。

プリントを実行する

プリントの操作を説明します。

直接プリントをする

プリントモードが［直接］、または［直接 - 非課金］のプリンターを選択して、プリントを実行します。
次の方法でプリントできます。

- アプリケーションからプリントを指示する
- Web プリントをする
- メールプリントをする
- モバイル端末からプリントを指示する

参照

・「Web プリントする」(P.265)
・「メールプリントする」(P.266)
・「9 モバイル端末の設定と操作」(P.300)

ポップアップ通知を受け取れる場合は、プリントジョブの状態と出力先の機器が通知されます。
出力先の機器で、印刷物を回収します。

参照

「Popup Messenger で通知を受け取る」(P.266)

オンデマンドプリントをする

オンデマンドプリントの操作方法は、次のとおりです。

1. プリントモードが［オンデマンド］、または［オンデマンド - 非課金］のプリンターを選択して、プリントを実行します。

プリント方法は、直接プリントの場合と同様です。

ポップアップ通知を受け取れる場合、プリントサーバーにジョブが蓄積されたことが通知されます。

ポップアップ通知画面で、プリントジョブの属性や使用するアカウントを変更できます。詳細は「Popup Messenger で通知を受け取る」（P.266）を参照してください。

2. 出力する機器で、設定に従って認証操作をします。

3. 次の操作をします。

■ カスタムサービスを利用する場合

(1) 操作パネルに表示される ApeosWare Management Suite のメニューボタンを押します。

(2) ［オンデマンドプリント］を選択します。

■ 機器の外部アクセス機能を利用する場合

機器の外部アクセスのバージョンによって、表示される画面や利用できる機能が異なります。

(1) 操作パネルで、＜メニュー＞ボタンを押します。

(2) ［外部アクセス］を押します。

(3) 接続先の一覧から、プリントサーバーの URL を選択します。

(4) ポップアップメニューの［開く］を選択します。

(5) ［複合機の設定］画面が表示された場合は、［続ける］を押します。

4. 次の操作をします。

■ リストなしプリントの場合

ユーザーが実行したプリントジョブの保留が解除されて、プリントが開始されます。

■ リストありプリントの場合

プリントジョブの一覧で、対象のジョブを選択してプリントします。

リストありプリントでできること

プリントジョブの一覧では、プリントの実行以外にも、次の操作ができます。

- プリントジョブのキャンセル

  プリントジョブを選択して、［削除］を押します。

- 概算料金の確認

  コスト管理をしている場合は、プリント処理にかかる料金を確認できます。

他社機オンデマンドプリントするとき

- 機器一覧プロパティの［その他］より、使用する外部端末を紐づけてください。
- 機器一覧プロパティの［通信設定］より、プリント設定の「機器状態を取得」と「機器のジョブ状態を取得」を［しない］に設定してください。
- ［システム設定］＞［外部端末設定］で指定したポートを、あらかじめ開いておく必要があります。
- コスト管理機能は利用できません。
- 事前に外部端末のネットワーク設定が必要です。

補足

本設定の利用にはオプションライセンスが必要です。

参照

・「機器の情報を確認および変更する」（P.95）

・「外部端末設定」（P.52）

プリントジョブの属性値の確認と変更

プリントジョブの一覧で、プリントジョブ名、受付日時、プリントの属性を確認できます。

詳細情報を確認したい場合は、プリントジョブの一覧でジョブ名、またはプロパティボタンを押すと、プリントジョブのプロパティ画面が表示されます。プロパティ画面で、設定を変更してプリントできます。

補足

・機器の外部アクセス機能を利用している場合、外部アクセスのバージョンによって、変更できるプリントの設定が異なります。

・ページ記述言語によっては、推奨値に適合していない属性値が赤色の文字で表示されます。

- 一覧に表示するプリントジョブを変更する

  プリントジョブ一覧にプリントできるジョブ、またはプリントできないジョブだけを表示するように変更できます。

  [プリント設定] 画面の [表示するジョブ] で、表示したいジョブを選択します。

Web プリントする

Web ブラウザーで ApeosWare Management Suite にアクセスして、ファイルをアップロードしてプリントします。

Web プリントでは、ゲストプリントを利用できます。

通常の Web プリントの場合

1. **Web ブラウザーで ApeosWare Management Suite にアクセスして、ログインします。**
2. **ユーザー画面で、[プリント / ジョブ] > [Web プリント] > [Web プリント（アップロードプリント)] の順に選択します。**
   ユーザーに管理者権限が設定されている場合は、ログインすると管理者画面が表示されます。ヘッダーで [ユーザーポータル] を選択して、ユーザー画面を表示してください。
3. **[Web プリント] 画面で、プリントするファイルと論理プリンターを選択し、プリントの設定をします。**
   ログインユーザーのアクセスプロファイルによって、利用できる論理プリンターや機能は制限されます。
4. **[プリント] をクリックします。**

■ プリントモードが [直接] の場合

論理プリンターと関連づけられた機器に、プリントジョブが送信されます。

■ プリントモードが [オンデマンド] で、ゲストプリントではない場合

プリントジョブはサーバーに蓄積されます。

通常のオンデマンドプリントと同様に、機器で認証してプリントします。

参照
「オンデマンドプリントをする」(P.263)

ゲストプリントの場合

ゲストプリントを実行する場合は、次の情報を管理者に確認してください。

- ゲストプリント用のユーザー ID とパスワード
- 管理者の承認が必要かどうか
- 使用する論理プリンター

1. **Web ブラウザーで ApeosWare Management Suite にアクセスして、ログインします。**
   ログインには、ゲストプリント用のユーザー ID を使用します。

2. ユーザー画面で、[プリント / ジョブ] > [Web プリント] > [Web プリント（アップロードプリント)] の順に選択します。

3. [Web プリント] 画面で、プリントするファイルと論理プリンターを選択し、プリントの設定をします。
設定されているアクセスプロファイルによって、利用できる論理プリンターや機能は制限されます。

4. [プリント] をクリックします。
パスワードの入力域が表示された場合は、プリント時に入力するパスワードを設定します。
プリントジョブが送信され、Web ブラウザーにゲストプリント ID が表示されます。

5. 管理者承認が必要な場合は、ゲストプリント ID を管理者に通知します。
管理者は、プリントジョブの一覧で、ゲストプリント ID に該当するジョブを検索します。
プリントを許可する場合は、プリントジョブの保留を解除します。
コスト管理をしている場合、プリントジョブ一覧に処理の料金が表示されます。ゲストプリントの料金をどのように徴収するかは、運用方法で決めておきます。

6. 論理プリンターに関連づけられている機器で、ゲストプリントのメニューを選択します。

7. ゲストプリント ID を入力して、プリントを実行します
パスワードの入力が必要な場合は、手順 4 で設定したパスワードを入力します。
プリントを実行する方法は、通常のオンデマンドプリントと同様です。

メールプリントする

メールプリントでは、特定のメールアドレスに送信したメールの本文と添付ファイル、または添付ファイルだけがプリントされます。メールプリント用のメールアドレスは、管理者が設定します。
メールプリントでは、送信元、および CC に設定されたメールアドレスのユーザーに対して、プリントジョブが生成されます。
プリントサーバーがメールを受信してプリントジョブを受け付けると、それぞれのメールアドレスに結果メールが送信されます。
結果メールには、プリントジョブを送信した論理プリンター名が記載されます。
プリントジョブの一覧でジョブの状態を確認し、Web プリントと同様に、機器でプリントします。

ゲストプリントの場合

メールの送信元、または CC のメールアドレスが、ApeosWare Management Suite のユーザー管理に登録されていない場合、ゲストプリントとして処理されます。
この場合、結果メールにゲストプリント ID が記載されます。
管理者の承認が必要な場合は、ゲストプリント ID を管理者に通知して、プリントジョブの保留の解除を依頼します。
その後、論理プリンターに関連づけられた機器で、ゲストプリント ID を使用してプリントします。

Popup Messenger で通知を受け取る

プリントを実行するクライアント PC に Popup Messenger をインストールすると、ApeosWare Management Suite からプリントの詳細やプリントジョブのキャンセルの通知を受信できます。

補足

- 利用できる機能は、ユーザーのアクセスプロファイルや、プリントルールの設定によって異なります。
- ポップアップ通知画面は、Web プリント、メールプリント、文書管理サービスプリント、モバイルプリントの場合は表示されません。

参照

機能と操作の詳細 → 『付属ツールのヘルプ』

プリントの詳細通知

プリントを実行したユーザーのアクセスプロファイルで、ポップアップ画面を表示するよう設定されている場合、ApeosWare Management Suite を使用してプリントすると、［プリント詳細］画面がポップアップで表示されます。

［プリント詳細］画面では、処理の料金を確認したり、プリントジョブの設定を変更したりできます。

［プリント］をクリックするまでは、プリントジョブは保留中の状態になります。

［プリント詳細］画面の表示項目は、次のとおりです。

項目	説明
ジョブ名	プリントジョブ名が表示されます。 右側のアイコンをクリックすると、プリントジョブ名を変更できます。
ユーザー	プリントジョブのジョブオーナー名に対応したユーザー名が表示されます。 代替ユーザー ID が設定されている場合は、ドロップダウンリストボックスで選択できます。 右側のアイコンをクリックすると、一時的なユーザー ID を指定できます。 補足 プリント時のジョブオーナー名がここで指定したユーザー ID に変更されます。このため、ジョブログには、ここで指定したユーザー ID が記録されます。
アカウント	アカウントを選択します。 補足 ・各アカウントは、アクセスプロファイルの［アカウントの選択］にチェックマークが付けられている場合に選択できます。 ・管理者画面の［サービス設定］＞［コスト管理］＞［設定］の［アカウント一覧の表示設定］で、［アカウント名の昇順］にチェックマークを付けた場合、アカウントは昇順にソートされて表示されます。
個人 / 共有アカウント	ユーザーに関連づけられているアカウントと残高または限度額が表示されます。 ユーザーに複数のアカウントが関連づけられている場合は、ドロップダウンリストボックスで選択できます。 補足 ・親アカウントが関連づけられている場合は、サブアカウントが表示されます。親アカウントは表示されません。 ・アクセスプロファイルの［プリントポップアップ設定］で、［画面に残高を表示する］のチェックマークを外した場合、残高または限度額は表示されません。
すべてのユーザーのアカウント	［すべてのユーザーが使える共有アカウント］を使いたい場合は、ここからアカウントを選択します。
クライアントへの請求可能	［すべてのユーザーのアカウント］で選択したアカウントに課金する場合は、チェックマークを付けます。 補足 ・［クライアントへの請求可能］は、［すべてのユーザーのアカウント］で［しない］以外を選択した場合に表示されます。 ・［クライアントへの請求可能］は、管理者画面の［サービス設定］＞［コスト管理］＞［アカウント一覧］＞［アカウントの作成］で［クライアントへの請求を可能にする］にチェックマークを付けると、有効にできます。

項目		説明
アカウント（続き）		
	最近使ったアカウント	使用するアカウントを最近使ったアカウントから選択したい場合は、ここからアカウントを選択します。 補足 ［最近使ったアカウント］は、最近使ったアカウントが 1 件以上ある場合に表示されます。
	お気に入りアカウント	使用するアカウントをお気に入りのアカウントから選択したい場合は、ここからアカウントを選択します。 補足 ・［お気に入りアカウント］は、お気に入りアカウントが 1 件以上ある場合に表示されます。 ・お気に入りアカウントはWebブラウザーまたは機器の操作パネルで設定します。Popup Messenger のポップアップ画面では設定できません。
	アカウント指定なしでの使用	適切なアカウントがない場合や、残高が不足している場合は、アカウントを指定しないでプリントすることもできます。このような場合に選択します。 補足 ［アカウント指定なしでの使用］は、ユーザーのアクセスプロファイルで［すべてのユーザーが使える共有アカウントの使用］にチェックマークが付けられおり、［アカウント指定なしでの使用］にもチェックマークが付けられている場合に選択できます。
	理由を入力	アカウントを指定しないで使用する理由を入力します。 ［アカウント指定なしでの使用］を選択した場合は、入力は必須です。
ジョブ料金		プリントの料金の予測値が表示されます。 ポップアップ通知画面でプリントの設定を変更すると、料金も変更されます。 補足 ApeosWare Management Suite がプリントジョブの解析に失敗した場合は、「不明」と表示されることがあります。
用紙サイズ		プリントの設定を変更できます。
カラーモード		
両面		
部数		

カラー印刷警告通知

カラーモードがカラーの場合に［プリント］をクリックしたとき、「カラーでプリントするように設定されています。プリントしてよろしいですか？」という確認メッセージを表示できます。

次の手順で、警告を表示する設定にします。

1. プリントサーバーの PC に、Administrator 権限でログオンします。
2. 管理者権限でコマンドプロンプトウィンドウを表示します。
3. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cd /d c:￥ {ApeosWare Management Suite のインストール先} ￥Utils￥Print pumConfCustomize popupColorUsedWarning true
```

補足

警告表示設定をオフにする場合は、手順 3 で次のコマンドを入力します。
cd /d c:￥ {ApeosWare Management Suite のインストール先} ￥Utils￥Print pumConfCustomize popupColorUsedWarning false

プリントジョブのキャンセル通知

プリントを実行したユーザーのアクセスプロファイルで、ポップアップ画面にプリントジョブの状態を表示するよう設定されている場合、ApeosWare Management Suite の処理によってプリントジョブがキャンセルされたときに、通知を受信できます。

キャンセル通知には、プリントジョブ名やキャンセルの理由が通知されます。

次の理由でプリントジョブがキャンセルされたときに通知されます。

- プリントを実行したユーザーと論理プリンターが関連づけられていない
- プリントを実行したユーザーに、プリントを実行する機器の利用権限がない

補足

直接プリントの場合だけ通知されます。

- プリントを実行したユーザーが使用できるアカウントがない
- プリントにかかる料金に対して、アカウントの残高が不足している
- プリントルールの設定で「キャンセル」が適用された

補足

アクセスプロファイルの［ポップアップ画面を表示する］が有効な場合は、プリントの詳細が通知されるときに、プリントジョブのキャンセルも通知されます。

- プリントモードが［使用禁止］の論理プリンターを指定してプリントを実行した

ユーザー自身が Web ブラウザーでプリントジョブをキャンセルした場合や、プリントジョブの有効期限が過ぎてキャンセルされた場合は、通知されません。

承認プリントを実施する

補足

・この機能は一部の国または地域では利用できません。
詳細は弊社の代理店にお問い合わせください。

・ApeosWare Management Suite 2 の承認印刷／アラートで使用される特定情報の検出は、100% の精度を保証するものではありません。

承認プリントでは、印刷ユーザー（以降、「承認依頼者」と呼びます）が印刷しようとする文書（以降、「承認依頼文書」と呼びます）を、承認ユーザー（以降、「承認者」と呼びます）が閲覧および承認を行った上で出力できます。

承認プリントの準備

1. ［サービス設定］＞［ユーザー管理］＞［キーワード条件ポリシー］で、承認プリントを［する］設定にします。

参照

「キーワード条件ポリシー」（P.173）

2. [ユーザーの追加] で、ユーザーごとに承認者を設定します。

参照
「ユーザーを追加する」(P.130)

承認依頼者の操作

1. Web ブラウザーで ApeosWare Management Suite にアクセスして、ログインします。
2. ユーザー画面で、[プリント / ジョブ] > [要承認文書] > [承認依頼文書一覧] の順に選択します。
ユーザーが承認者に設定されており、かつ、承認待ちのジョブが一覧で表示されます。

■ 承認依頼文書の依頼を停止する場合

依頼を停止したい文書にチェックマークを付け、[依頼停止] をクリックするか、操作欄の をクリックして、表示されたメニューから [依頼停止] を選択します。

依頼停止を確認するダイアログボックスが表示されるので、必要に応じてコメントを入力し、[OK] をクリックします。

■ 承認依頼文書を再度依頼する場合

再度依頼したい文書にチェックマークを付け、[再依頼] をクリックするか、操作欄の をクリックして、表示されたメニューから [再依頼] を選択します。

再依頼を確認するダイアログボックスが表示されるので、必要に応じてコメントを入力し、[OK] をクリックします。

■ 承認依頼文書をキャンセルする場合

キャンセルしたい文書にチェックマークを付け、[キャンセル] をクリックするか、操作欄の をクリックして、表示されたメニューから [キャンセル] を選択します。

キャンセルを確認するダイアログボックスが表示されるので、必要に応じてコメントを入力し、[OK] をクリックします。

■ 承認依頼文書の内容を確認する場合

確認したい文書にチェックマークを付け、[閲覧] をクリックするか、操作欄の をクリックして、表示されたメニューから [閲覧] を選択します。

■ ジョブを検索する場合

[詳細検索] を選択すると、[詳細検索] ダイアログボックスが表示されます。

演算子、検索対象、条件、設定内容を入力して [検索] をクリックすると、指定した条件でジョブが絞り込めます。

承認者の操作

承認依頼された文書を承認、閲覧、却下する

1. Web ブラウザーで ApeosWare Management Suite にアクセスして、ログインします。
2. ユーザー画面で、[プリント / ジョブ] > [要承認文書] > [要承認文書一覧] の順に選択します。
現在ユーザーの承認が必要なジョブが一覧で表示されます。

システム管理者でログインしたときは、承認が必要なすべてのジョブが一覧で表示されます。

■ 要承認依頼文書を承認する場合

確認したい文書にチェックマークを付け、[承認] をクリックするか、操作欄の をクリックして、表示されたメニューから [承認] を選択します。

承認を確認するダイアログボックスが表示されるので、必要に応じてコメントを入力し、[OK] をクリックします。

■ 要承認依頼文書の内容を確認する場合

確認したい文書にチェックマークを付け、［閲覧］をクリックするか、操作欄の⚙をクリックして、表示されたメニューから［閲覧］を選択します。

■ 要承認依頼文書の内容を却下する場合

確認したい文書にチェックマークを付け、［却下］をクリックするか、操作欄の⚙をクリックして、表示されたメニューから［却下］を選択します。

却下を確認するダイアログボックスが表示されるので、必要に応じてコメントを入力し、［OK］をクリックします。

承認依頼文書の履歴を確認する

1. Web ブラウザーで ApeosWare Management Suite にアクセスして、ログインします。
2. **ユーザー画面で、［プリント / ジョブ］＞［要承認文書］＞［承認依頼文書履歴］の順に選択します。**
   ユーザーが承認依頼者に設定されており、かつ、承認待ちのジョブが一覧で表示されます。

ジョブを絞り込む

要承認文書一覧および承認依頼文書履歴一覧で、［詳細検索］を選択すると、［詳細検索］ダイアログボックスが表示されます。

演算子、検索対象、条件、設定内容を入力して［検索］をクリックすると、指定した条件でジョブが絞り込めます。

承認プリントと自動マスキング機能の注意事項

- 承認プリントと自動マスキング機能は、共通ドライバー（Multi-model Print Driver 2）からの印刷を実施した場合にのみ使用できます。
- 承認プリントと自動マスキング機能は、Flow Management Option からのプリントは対象としていません。Flow Management Option からのプリントでは、キーワードの検出は実施されず、そのまま印刷されます。
- 承認プリントと自動マスキング機能は、USB からのプリントは対象としていません。USB からのプリントでは、キーワードの検出は実施されず、そのまま印刷されます。
- 承認プリントと自動マスキング機能は、オンデマンド端末の USB プリントは対象としていません。オンデマンド端末の USB プリントでは、キーワードの検出は実施されず、そのまま印刷されます。
- 承認プリントと自動マスキング機能は、モバイルからの印刷をサポートしていません。承認プリントまたは自動マスキング機能が有効なユーザーがモバイルから印刷する場合は、キーワードの有無に関係なく、ジョブがキャンセルされます。
- 承認プリントと自動マスキング機能で実施するキーワード検出では、フォント情報を含む文字しか検出できません。文字が画像や描画命令で表現されている場合や印刷の過程で PDF などのアプリケーションやプリンタドライバーが文字から画像に変換した場合、検出では無視されます。
- 承認プリントと自動マスキング機能で実施するキーワード検出では、文字列の検出は行単位で行われます。文字列がページをまたがっている場合や行をまたがっている場合、検出では無視されます。
- 承認プリントと自動マスキング機能で実施するキーワード検出では、複数の条件 (キーワード / 正規表現) 間で検出箇所が重複する場合、後に定義された条件は検出されず無視されます。
- 承認プリントは、直接印刷をサポートしていません、直接印刷で承認が必要と判断された場合はキャンセルされます。
- 承認プリントおよび自動マスキングを有効にする「ApeosWare Management Suite 2 Feature Extension Option (b)」ライセンスを有効化・無効化した場合は、必ず、分離サーバーを含めたすべてのサーバーを再起動してください。
  再起動しないと、対象としているフォントを検出できず、承認プリントおよび自動マスキングの機能を正しく利用できないことがあります。

プリントの注意制限事項

GX Server の制限

項目	内容
課金運用は未サポート	ジョブの料金は常に実績値から計算されます。印刷指示時はジョブ情報の補完パラメーターによる見積もられますが、印刷後調整されます。ApeosWare Management Suite からプリントサーバーへ送信後、一定期間内にジョブログが収集されない場合は見積もりを払い戻します。
利用可能な機能	論理プリンターで［プリントサーバー連携］にチェックマークが付いている場合、［ページ記述言語の初期値］は［検出しない］に設定されます。GX Server への印刷は機器固有 (Bypass) として処理されるため、利用可能な機能に制限があります。
プリンタードライバー	プリントサーバーに送信するためには、PPSP 対応の PS プリンタードライバー経由でプリントする必要があります。
機器上のジョブ	GX Server のジョブ状態は監視しません。ジョブをプリントサーバーに送信した後、ApeosWare Management Suite ではジョブは完了となります。また、ApeosWare Management Suite からは中止できません。
印刷順序の保証	プリントサーバー経由でプリントしたジョブの印刷順序はプリントサーバーでの処理順序に依存するため、ApeosWare Management Suite では保証しません。また、プリントサーバー経由のジョブとオンデマンドプリントのジョブを一度にリリースした場合、印刷順序は保証しません。
機器登録	プリントサーバー、機器どちらも固定 IP アドレス (DHCP 不可) で登録する必要があります。運用前に機器登録画面でテストプリントを行い、意図した機器から出力されることを確認します。テストプリントは課金対象外で、プリントのユーザー ID は「Apeos_Admin」となります。プリントサーバー連携時、送信プロトコルは LPR だけ指定できます。
LPR キュー名	プリントサーバー連携が有効な場合は、論理プリンターで送信 LPR キュー名が指定できず、機器で指定した送信 LPR キュー名が使用されます。
状態監視	プリントサーバーの状態監視は行いません。機器の電源が ON、プリントサーバーの電源が OFF の場合、機器の状態は「正常」と表示されますが、ジョブを送信するとリトライ後にキャンセルされます。
別ユーザーによる GX Print Server 上のジョブ操作	GX Print Server 連携で、GX Print Server 上で保留中のジョブを別のユーザーが操作しても、ジョブを送信したユーザーの操作として記録されます。

iOS 端末からプリントの制限

項目	内容
利用可能な機能	論理プリンターで［iOS 端末からプリント］にチェックマークが付いている場合、［ページ記述言語の初期値］は［検出しない］に設定されます。機器への印刷は機器固有 (Bypass) として処理されるため、利用できる機能に制限があります。
印刷属性指定	iOS 端末で指定した、部数、両面の印刷設定は印刷属性に反映されません。また、ApeosWare Management Suite で表示される印刷属性はジョブ情報の補完パラメーターで設定された値となり変更することができません。
対象の機器	iOS 端末からプリントで使用できる機器は、ApeosWare Management Suite を使用しないで iOS 端末からプリント可能な機器だけです。
課金運用は未サポート	印刷指示時の見積もりは、ジョブ情報の補完パラメータから実施されますが、印刷完了後、ApeosWare Management Suite の設定に従って調整されます。

プリントアプリケーションサーバー構成の制限

プリントアプリケーションサーバー構成でメインサーバーに接続できない、またはメインサーバーが停止した場合、次の一部の機能を利用できません。

- プリントジョブの受付
  プリンタードライバーからの印刷、メールプリント以外のプリントジョブを受け付けられません。また、メールプリントの場合、プリントジョブを受け付けたときに通知メールが送信されません。
- プリントルール
  - ユーザー名によるプリントルールを設定している場合、プリントルールが無視されます。
  - ユーザーグループ名によるプリントルールを設定している場合、プリントジョブはキャンセルされます。
- アクセスプロファイル
  アクセスプロファイルの設定は、デフォルト設定が適用されます。

こんなときは

よくある質問と回答

プリントについて、よくある質問と回答を記載します。

サーバーにたまったプリントジョブを、自動的に削除したい

「待機中」と「保留中」のプリントジョブは、［ジョブの有効期間］で設定した時間が経過すると、自動的に削除されます。

運用に合わせて有効期間を設定してください。

プリントジョブの有効期間は、設定を変更する前に受け付けられているプリントジョブにも適用されます。

問題のあるプリントデータの解析を依頼したい

プリント時に問題が発生し解決が難しい場合は、弊社の営業担当にお問い合わせください。そのときに、担当者がプリントデータの提供を依頼する場合があります。プリントデータの提供を依頼された場合は、［プリント設定］の［プリントジョブ］タブで、［プリントデータのファイル出力］を［許可する］に設定します。



補足

プリントデータを取得する前に、提供しても問題がないプリントデータであることを確認してください。必要なプリントデータを取得したら、出力しないように設定し直してください。

プリントの料金が正しく計算されない

プリントの料金は、プリントジョブをプレスキャンして取得した情報（枚数、面数、カラーモードなど）を使用して、処理にかかる料金を判断しています。このため、プリントジョブのページ記述言語や、プリントのタイミングなどによって、表示される料金と実際のプリント結果が異なる場合があります。

ページ記述言語について

ページ記述言語と使用できる機能について説明します。

ページ記述言語の自動判断

論理プリンターの［ページ記述言語の初期値］を［自動判別する］に設定している場合

論理プリンターの［ページ記述言語の初期値］を［自動判別する］に設定している場合、送信されたプリントジョブを自動で解析して、ページ記述言語を判別できます。

［ページ記述言語の初期値］を［検出しない］に設定している場合

［ページ記述言語の初期値］を［検出しない］に設定している場合は、ページ記述言語を判別しません。このため、ApeosWare Management Suite で扱えないページ記述言語のプリントジョブも、キャンセルされないでプリントできます。ただし、次の機能を使用できません。

- プレスキャン
- プリントルールの適用
- ジョブクライアント ID、ジョブアクセスチケットの付与
- カラーモードの変更、両面 / 片面変更、強制白黒プリント、強制両面プリント、部数の変更、用紙サイズの変更

また、オンデマンド印刷で複合機のパネルにプリントジョブの一覧やジョブ詳細を表示したとき、警告マークが表示されます。

さらに、表示される料金が、実際の料金と異なる場合があります。

使用できる機能とページ記述言語

ApeosWare Management Suite の機能とページ記述言語の関係を次に示します。

○：使用できます

-：使用できません

機能	ページ記述言語						
	ART-EX/PLW	PostScript	XPS*1	PCL	PDF	XDW	その他
ページ記述言語の自動判断	○	○	○	○	○	○	-
プレスキャン *2	○	○	○	○	○	○	○
カラーモードの変更 両面 / 片面変更 強制白黒プリント 強制両面プリント	○	○	○	○ *4	○	○	-
強制 2up プリント ウォーターマークの付与 ヘッダー／フッターの付与 QR コードの付与	-	-	-	○	-	-	-
用紙サイズ変更 *3	○	○	○	○ *4	○	○	-
処理料金の計算	○	○	○	○	○	-	-

*1 XPS とは、「XML Paper Specification」の略です。

*2 ページ記述言語によって、プレスキャンできる内容が異なります。詳しくは「プレスキャンで取得できる情報」（P.276）を参照してください。

*3 ContentsBridge Utility から送信されたプリントジョブの場合は、変更できないことがあります。

*4 弊社製または富士ゼロックス製のプリンタードライバーを使用した場合だけ判断します。

オンデマンドプリントの機能とページ記述言語

オンデマンドプリントの機能とページ記述言語の関係を次に示します。

○：使用できます

-：使用できません

機能	ページ記述言語						
	ART EX	PostScript	XPS*1	PCL	PDF	XDW	その他
制限付きプリントジョブの判断 *2	○	○ *3	-	○	○	-	-
プリント部数の変更 *4	○	○	○	○	○	○	-
カラーモード変更と両面／片面変更	○	○	○	○	○	○	-
料金の概算	○	○ *3	○ *5	○	○	○	-
オンデマンドプリントの表示名作成	○	○ *6	○ *6	○ *6	○ *6	○ *6	○ *7

*1 XPS とは、「XML Paper Specification」の略です。

*2 ［プリント設定］＞［オンデマンドプリント］タブの、［リストなしプリントの設定］＞［制限付きジョブをプリントする］の適用対象かどうかを判断します。「-」のページ記述言語では、受け付けたプリントジョブをすべて、制限な

しでプリントできるプリントジョブとして処理します。
*3 プリンタードライバーによっては、判断が不正確になることがあります。
*4 機器にハードディスク（SSD を含む）が搭載されている場合だけ使用できます。
*5 ContentsBridge Utility から送信されたプリントジョブの場合だけ判断します。
*6 XPJL で課金認証蓄積用文書名（ACNA）が設定されている場合だけ作成します。
*7 課金認証蓄積用文書名（ACNA）から取得したプリントジョブ名は使用できません。

プレスキャンで取得できる情報

ページ記述言語ごとに、プレスキャンで取得できる情報は、次のとおりです。


補足

・用紙サイズが指定されていない場合、ページ記述言語が XPS、PDF、および XDW のデータは、プリントジョブのすべてのページに対してプレスキャンを実施します。
・用紙サイズが指定されていない場合、フルページスキャンの対象外となるページ記述言語のデータは、プリントジョブの 1 ページ目のみのプレスキャンを実施し、サイズ情報のみを取得します。
・プレスキャンで取得された「1 部ごとのカラー面数」、「1 部ごとの白黒総面数」、「1 部ごとのカラー枚数」、および「1 部ごとの白黒枚数」の値は、予測値であるため実際のプリント結果と異なることがあります。

○：取得できます
-：取得できません

取得できる情報	ページ記述言語						
	ART EX	PostScript*1	XPS*2	PCL	PDF	XDW	その他
ジョブオーナー名	○	○	○ *6	○	○	○	○ *9
用紙サイズ	○	○	○ *7	○	○	○	-
1 部ごとのカラー面数	○	○	○ *8	○	○	○	-
1 部ごとの白黒総面数	○	○	○ *8	○	○	○	-
1 部ごとのカラー枚数 *3	○	○	○ *8	○	○	○	-
1 部ごとの白黒枚数	○	○	○ *8	○	○	○	-
両面指定	○	○	○ *7	○	○	○	-
フィニッシャーの指定 *4	○ *9	○ *9	○ *9	○ *9	○ *9	○ *9	-
部数 *5	○	○	○ *6	○	○	○	-
代替ジョブ名	○	-	-	○	○ *9	○	○ *9
N アップ	○	○	○ *7	○	○	-	-

*1 弊社製または富士ゼロックス製の PostScript プリンタードライバーで送信されたプリントジョブの場合は、属性値を正しく取得できます。
OS が Linux または Mac OS のクライアントから送信されたプリントジョブは、Additional OS Parser Option を使用すると、カラーモード、面数 / 枚数、部数、および用紙サイズを取得できます。
*2 XPS とは、「XML Paper Specification」の略です。
*3 両面のどちらかの面にカラーが使用されていれば、カラーと判断します。
*4 ホチキス、パンチ、紙折りなどの設定を取得します。
*5 機器にハードディスク（SSD を含む）が搭載されている場合に正確な部数を取得できます。
*6 ContentsBridge Utility から送信されたプリントジョブの場合だけ取得します。
*7 ContentsBridge Utility のプリント設定で［ジョブ制御言語を使用する］に設定された場合は、XPJL で指定された用紙サイズ、両面 / 片面、部数、および N アップが優先されます。
*8 XPJL で指定された両面 / 片面および N アップの設定と、XPS（XML Paper Specification）が持つデータの値が異な

る場合は、プレスキャンで取得する値と実際の出力結果が異なることがあります。
*9 プリント時に指定された場合だけ取得します。

プリントジョブの状態

プリントジョブの状態は、次のとおりです。

ジョブ状態	意味
受付処理中	受け付けたプリントジョブを解析し、属性を変換しています。
管理者の承認待ち	ゲストプリントのジョブが、管理者の承認を待っている状態です。管理者が保留を解除すると、プリントできるようになります。
保留中	オンデマンドプリントで保留されている状態です。
保留中 (PC の操作中)	次のどちらかの状態です。 ・「保留中」のプリントジョブの属性を変更操作中 ・ポップアップ通知画面が表示されている状態
プリント処理中	プリントジョブを機器に送信するための前処理をしている状態です。
待機中	プリントジョブの処理が終了し、機器への送信を待っている状態です。
転送中	プリントジョブが機器に転送されている状態です。
プリント中	機器でプリント中の状態です。
プリント完了	プリントが完了しました。
キャンセル	プリントがキャンセルされました。

- 機器によっては、プリントジョブの転送が終了した時点で「プリント完了」の状態になります。
- プリント中、または転送中にエラーが発生した場合は、「待機中」になります。状況によって自動的に元の状態に戻りますが、再度処理できない状態が続いた場合は、キャンセルされます。
- オンデマンドプリント、およびポップアップ通知画面を表示するプリントでは、「受付処理中」のあと「保留中」になります。ユーザーが保留を解除すると、「待機中」になります。

Popup Messenger のアンインストール

Popup Messenger が不要になった場合は、次の手順でアンインストールしてください。

補足

インストールと同様に、管理者権限のユーザーで実行する必要があります。

Windows 環境の場合

Windows のプログラムと機能の画面を表示し、Popup Messenger を選択してアンインストールを実行します。

MacOS 環境の場合

ターミナルを起動してアンインストール用のシェルスクリプトを実行します。

実行先：/usr/local/FUJIFILM/ApeosWare Management Suite/Popup Messenger

シェルスクリプト：uninst_Popup_Messenger.sh

Linux 環境の場合

Popup Messenger のインストールディレクトリーの「UNINSTALL」を実行します。

Chromebook からの印刷

Chromebook から印刷するには、Google Workspace 環境を使用する必要があります。次の設定をしてください。

ポリシーの設定

Chromebook から IPP を利用して ApeosWare Management Suite 2 へ印刷する場合、IPP でログインしているユーザーの名前を ApeosWare Management Suite 2 へ通知するために Google Workspace 環境を使用する必要があります。

1. 管理コンソールのホームページで、［デバイス］ > ［Chrome］ > ［設定］ > ［ユーザーとブラウザ］を選択します。
2. ユーザーを作成した組織部門を選択します。
3. ［印刷］ > ［CUPS 印刷ジョブの情報］で［ユーザー アカウントとファイル名を印刷ジョブに送信する］を選択します。

プリンターの追加

次の手順で、Google Workspace でプリンターを追加します。

1. 管理コンソールのホームページで、［デバイス］ > ［Chrome］ > ［設定］ > ［プリンタ］ > ［プリンタ］を選択します。
2. ユーザーを作成した組織部門を選択します。
3. 黄色の［+］アイコンを選択> ［プリンタを追加］アイコンを押します。
4. プリンタの追加画面でプリンタの詳細を入力し、［プリンタを追加］を押します。
   プリンタ名：任意の名称
   ドライバ不要の設定を使用する：チェックしない
   メーカーを選択：実際に印刷する機器のメーカーを選択
   モデルを選択する：実際に印刷する機器の機種を選択
   プロトコル：https か ipps を選択 *1
   ホスト：ApeosWare Management Suite の IP、ホスト名 *1
   ポート：ApeosWare Management Suite で設定した、IPPS のポート番号 *1
   パス：ApeosWare Management Suite で設定した IPP プリンタ名 *1
   *1 Chromebook でログインしたユーザー名で印刷するためには、ApeosWare Management Suite 2 で IPPS の論理プリンタを作成しておく必要があります。
   プロトコル、ホスト、ポート、パスは、ApeosWare Management Suite 2 の IPP 設定に合わせてください。
5. 追加したプリンタを選択し、［この組織内のユーザーに許可する］を有効にして［保存］を押します。

8 スキャンの設定と文書管理サービス

Web ブラウザーからの設定

［システム管理］権限を持つユーザーは、Web ブラウザーからスキャンの設定や文書管理サービスと連携するための設定ができます。また、ユーザーが機器で実行したスキャンジョブを参照できます。
文書管理サービスを利用するユーザーは、文書管理サービスの認証情報を設定できます。
それぞれのページでどのような設定や管理ができるかを説明します。

補足

［システム管理］権限を持つユーザーには、Apeos_Admin ユーザーも含まれます。

- ［システム管理］権限を持つユーザー

ページ	説明
スキャン設定	簡易的なフロー機能を使用するための、スキャンの設定をします。
メール送信設定	スキャン文書を送信するメールの件名や本文の初期値を設定します。 参照 「メール送信設定」（P.281）
共通設定	スキャンの読み取り設定値や、スキャン文書の加工方法を設定します。 この設定は、［メール送信］、および［Scan to {文書管理サービス}］で実行するスキャンで、共通の設定です。 参照 「共通設定」（P.281）
文書管理サービス設定	文書管理サービスに連携するための設定をします。 補足 事前に、文書管理サービスを利用するための契約や必要なアカウントの取得が済んでいる必要があります。必要な設定や、各文書管理サービスの操作方法については、それぞれが提供する説明書などを参照してください。
共有フォルダー設定	共有フォルダーと連携するための設定をします。 参照 「共有フォルダー設定」（P.283）
Google ドライブ設定	Google ドライブと連携するための設定をします。 参照 「Google ドライブ設定」（P.286）

ページ	説明
文書管理サービス設定（続き）	
SharePoint 設定 *1	SharePoint と連携するための設定をします。 参照 「SharePoint 設定」（P.284）
DocuShare 設定 *1	DocuShare と連携するための設定をします。 参照 「DocuShare 設定」（P.284）
Salesforce 設定 *1	Salesforce と連携するための設定をします。 参照 「Salesforce 設定」（P.285）
OneDrive 設定 *1	OneDrive と連携するための設定をします。 参照 「OneDrive 設定」（P.287）
SharePoint Online 設定 *1	SharePoint Online と連携するための設定をします。 参照 「SharePoint Online 設定」（P.288）
ABBYY FlexiCapture 設定 *1 補足 この機能は一部の国または地域では利用できません。 詳細は弊社の代理店にお問い合わせください。	ABBYY FlexiCapture と連携するための設定をします。 参照 「ABBYY FlexiCapture 設定」（P.286）
スキャンジョブ状態	
スキャンジョブ状態	すべてのユーザーが実行したスキャンジョブの一覧が表示されます。 参照 「スキャンジョブ状態」（P.290）

*1 オプションライセンスが有効な場合だけ表示されます。

- 文書管理サービスを利用するユーザー

ページ	説明
{文書管理サービス} 設定	各文書管理サービスの認証情報を設定します。 アクセスを許可されている文書管理サービスが表示されます。 参照 「文書管理サービスの認証情報設定」（P.290）
スキャンジョブ一覧	自分自身が実行したスキャンジョブの一覧が表示されます。 ジョブを中止したり、再開したりできます。 参照 「スキャンジョブの状態を確認」（P.292）

[システム管理] 権限を持つユーザーが設定すること

メール送信設定

表示方法

管理者画面の［サービス設定］＞［スキャン設定］＞［メール送信設定］を選択します。

ページの概要

［メール送信］で送信されるメールの送信者となるメールアドレス、件名、および本文を設定できます。設定した内容は［メール送信］の実行時に初期値として表示され、必要に応じて変更できます。



チェックマークを付けると、スキャンを実行するユーザーのメールアドレスが送信先に追加されます。

送信者のメールアドレス、および件名には、次の変数を入力できます。大文字、小文字は区別されません。変数は、メール送信時に取得した情報で置き換えられます。

項目名	変数	対応する情報	情報の取得元
送信者	{LoggedinUser}	スキャンを実行するユーザーの標準のメールアドレス	ApeosWare Management Suite
件名	{Location}	設置場所	機器
	{Name}	名前	
	{IPAddress}	IP アドレス	

補足

ApeosWare Management Suite からメールを送信するには、管理者画面の［システム設定］＞［ネットワーク設定］で、SMTP サーバーや POP3 サーバーの情報が設定されている必要があります。

参照

メールを送信するための設定 →「ネットワーク設定」(P.39)

共通設定

表示方法

管理者画面の［サービス設定］＞［スキャン設定］＞［共通設定］を選択します。

ページの概要

スキャンの設定、およびスキャン文書の加工方法を設定します。この設定は、次の機能で共通です。

- スキャン文書をメールに添付して送信
- スキャン文書を文書管理サービスに配信

補足

この設定は、モバイル端末でスキャンを指示するときにも有効です。

設定画面を切り替えます。



[画像加工設定] タブ

スキャンしたイメージの加工方法を設定します。次の設定ができます。

- 空白ページの削除
- 傾き補正
- ノイズ除去
- OCR 言語

  OCR 処理する言語を選択します。
- 回転

  [自動正立] を選択すると、OCR 処理の結果を利用して自動正立されます。
- 文書の分割設定

  ページ数で分割、ファイルサイズで分割、バーコードのあるページで分割から選択します。複数の方法を選択できます。

補足

・ページ数で分割する場合、およびバーコードのあるページで分割する場合は、次のフォーマットを使用してください。
PDF、PDF（OCR 変換）、PDF/A、Word、Excel、PowerPoint、XML Paper Specification（XPS）
・ファイルサイズで分割する場合、次のフォーマットを使用してください。
PDF（OCR 変換）、PDF/A、Word、Excel、PowerPoint
・バーコードのあるページで分割する場合は、OmniPage Barcode Reader Option が必要です。
・文書を分割した場合、元のファイル名に日付時刻（YYYYMMddhhmmssssss）が付いたファイル名になります。
・DocuWorks 文書の画像加工は行えません。設定している場合はスキップされます。
・OCR 言語にタイ語を選択している場合には、MS-Office（Word）、MS-Office（Excel）、MS-Office（PowerPoint）への変換は行えません。
・一部の読み取り解像度、読み取り倍率、カラーモード、出力ファイル形式では、高圧縮の変換は行えません。

［スキャン設定］タブ

スキャン実行画面に表示される初期値を設定します。各設定項目の右側に表示される［変更を禁止する］チェックボックスにチェックマークを付けると設定が固定され、機器でスキャンを実行するときに変更できなくなります。ただし、固定した値がサポートされていない機種の場合は、使用できる値から選択してスキャンを実行します。

たとえば、原稿送りを両面で固定した場合、両面スキャンができない機種では、読み取り設定画面で［片面］を選択してスキャンを実行します。

文書名に利用できる予約文字列は次のとおりです。それぞれスキャンを実行した年月日時分秒に置換します。

［$YYYY］：4 桁の年に置換します。

［$MM］：2 桁の月に置換します。

［$DD］：2 桁の日付に置換します。

［$H］：24 時間表記の時間に置換します。

［$mm］：2 桁の分に置換します。

［$ss］：2 桁の秒に置換します。



補足

一部の機器では、XML Paper Specification（XPS）への変換は行えません。

［その他の設定］タブ

機器で操作したあとに、操作パネルに次の画面を表示するかどうかを設定します。

このタブは、Cost Recovery Option のライセンスが有効な場合だけ表示されます。

- 料金の確認画面の表示

  処理にかかった料金の確認画面を表示する場合は、チェックマークを付けます。



補足

アクセスプロファイルで、［残高下限到達時の強制停止］が［停止する］に設定されているユーザーの場合は、この設定にかかわらず料金の確認画面が必ず表示されます。

共有フォルダー設定

事前準備

共有フォルダーを作成して、必要なユーザーのアクセス権を設定します。



補足

必要なユーザーとは、スキャン文書を共有フォルダーに保存する機能を利用するユーザーです。

表示方法

管理者画面の［サービス設定］＞［文書管理サービス設定］＞［共有フォルダー設定］を選択します。

ページの概要

スキャン文書の保存先の一覧が表示されます。

保存先を追加する場合は、［追加］をクリックして、共有フォルダーのパスと共有フォルダー名を設定します。

次のどちらかの形式で指定します。

パスの指定方法	連携先
「￥￥」で始まる場合	Windows の共有フォルダー
「ftp://」で始まる場合	FTP サーバー上のフォルダー



SharePoint 設定

事前準備

SharePoint サーバーの URL、および個人用サイトのパスを確認します。

表示方法

管理者画面の［サービス設定］＞［文書管理サービス設定］＞［SharePoint 設定］を選択します。

ページの説明

設定済みの SharePoint サーバーの一覧が表示されます。

サーバーを追加する場合は、［追加］をクリックして、SharePoint サーバーの URL、表示名、個人用サイトのパスを設定します。

補足

個人用サイトは、SharePoint にアクセスしたときに、個人用タブに表示されます。

DocuShare 設定

事前準備

DocuShare サーバーに、DocuShare 連携オプション サーバー共通ソフトウェアがインストールされている必要があります。

表示方法

管理者画面の［サービス設定］＞［文書管理サービス設定］＞［DocuShare 設定］を選択します。

ページの説明

設定済みの DocuShare サーバーの一覧が表示されます。

サーバーを追加する場合は、［追加］をクリックして、DocuShare サーバーの URL、DocuShare サーバー名（表示名）を設定します。また、ApeosWare Management Suite サーバーが DocuShare への接続にプロキシー接続を必要とする場合は、［プロキシーを使用して接続する］にチェックマークを付けます。

補足

・DocuShare サーバーの URL は、「dsweb」の前までを入力します。
例：URL が「http://serverA/docushare/dsweb」の場合は、「http://serverA/docushare/」

・プロキシーサーバーを利用する場合は、管理者画面の［システム設定］＞［ネットワーク設定］で、HTTP プロキシーサーバーの情報を設定する必要があります。この設定は、ApeosWare Management Suite のシステム全体で共通です。設定を変更する場合は、ほかの機能に影響がないことを確認してください。

Salesforce 設定

事前準備

Salesforce に管理者権限でアクセスして、接続アプリケーションとして ApeosWare Management Suite を登録します。操作手順は、次のとおりです。

(1) 接続アプリケーションの［新規］をクリックします。

(2) 基本情報を設定します。ApeosWare Management Suite と接続する場合の推奨値を、次に示します。

(3) 設定した値は、ApeosWare Management Suite から Salesforce にアクセスするときの認証画面に表示されます。

項目名	説明	推奨値
接続アプリケーション名	アプリケーションの表示名	FUJIFILM ApeosWare Management Suite
API 参照名	接続アプリケーションを特定するための ID 情報	awms
取引先責任者 メール	一般ユーザーからの問い合わせ先担当者のメールアドレス	Salesforce の管理者のメールアドレス
取引先責任者 電話	一般ユーザーからの問い合わせ先担当者の電話番号	なし 必要に応じて任意の値を設定してください。
ロゴ画像 URL	認証画面に表示されるロゴ画像の URL	
アイコン URL	認証画面に表示されるアイコンの URL	
情報 URL	認証画面に表示される URL	
説明	認証画面に表示される説明文	

(4) ［OAuth 設定の有効化］にチェックマークを付けて、［コールバック URL］と、［選択した OAuth 範囲］を設定します。

項目	設定値
コールバック URL	次の URL を入力します。 https:// ｛ホスト名または IP アドレス｝/user/connector/generic/redirectoauth ｛ホスト名または IP アドレス｝には、ApeosWare Management Suite をインストールしたときに設定したホスト名、または IP アドレスを入力します。
選択した OAuth 範囲	［利用可能な OAuth 範囲］から、次を選択して追加します。 ・Connect REST API リソースにアクセス (chatter_api) ・いつでも要求を実行 (refresh_token, offline_access) ・一意のユーザ識別子にアクセス (openid) ・カスタム権限にアクセス (custom_permissions) ・API を使用してユーザデータを管理 (api)

(5) 接続アプリケーションの登録ができたら、［コンシューマ鍵］と、［コンシューマの秘密］を確認します。

表示方法

管理者画面の［サービス設定］＞［文書管理サービス設定］＞［Salesforce 設定］を選択します。

ページの説明

事前準備で取得したコンシューマの鍵とコンシューマの秘密、およびサーバー名を設定します。また、ApeosWare Management Suite サーバーが Salesforce への接続にプロキシー接続を必要とする場合は、［プロキシーを使用して接続する］にチェックマークを付けます。



補足

プロキシーサーバーを利用する場合は、管理者画面の［システム設定］＞［ネットワーク設定］で、HTTP プロキシーサーバーの情報が設定されている必要があります。この設定は、ApeosWare Management Suite のシステム全体で共通です。設定を変更する場合は、ほかの機能に影響がないことを確認してください。

ABBYY FlexiCapture 設定

事前準備

ABBYY FlexiCapture のサーバーのパスを確認します。

表示方法

管理者画面の［サービス設定］＞［文書管理サービス設定］＞［ABBYY FlexiCapture 設定］を選択します。

ページの説明

設定済みの ABBYY FlexiCapture のサーバーの一覧が表示されます。

サーバーを追加する場合は、［追加］をクリックして、ABBYY FlexiCapture サーバーの URL、ABBYY FlexiCapture サーバー名（表示名）を設定します。

Google ドライブ設定

事前準備

ApeosWare Management Suite サーバーから、インターネット上の Google ドライブに接続できることを確認します。

また、Google Workspace のユーザーが、Google Cloud Platform (https://console.cloud.google.com/) でアプリケーションを登録し、アプリケーション ID とクライアントシークレットを取得する必要があります。なお、Web ブラウザーを使用して、ApeosWare Management Suite 2 の管理者画面に、FQDN 形式で HTTPS 接続できる必要があります。

1. Google Cloud Platform (https://console.cloud.google.com/) へアクセスします。
2. プロジェクトを選択するか、新しいプロジェクトを作成します。
3. [API とサービス］の［ライブラリ］をクリックし、[Google Drive API］を有効にします。
4. [API とサービス］の［OAuth 同意画面］をクリックします。
5. [User Type］は［内部］を選択し、［作成］をクリックします。
6. [アプリ名]、[ユーザーサポートメール]、[デベロッパーの連絡先情報］を設定します。
   ［アプリ名］は「FUJIFILM ApeosWare Management Suite」を推奨します。
7. [保存して次へ］をクリックします。
8. [スコープを追加または削除］をクリックし、
   API：Google Drive API
   範囲：.../auth/drive
   を選択して［更新］をクリックします。
9. [保存して次へ］をクリックし、内容を確認します。

10. [API とサービス] の [認証情報] をクリックします。
11. [認証情報の作成] をクリックし、[OAuth クライアント ID] を選択します。
12. [アプリケーションの種類] は [ウェブアプリケーション] を選択します。
13. [名前]、[承認済みのリダイレクト URI] を設定し、[作成] をクリックします。
[承認済みのリダイレクト URI] は「https://{ サーバー名 }/user/connector/generic/redirectoauth」を設定してください。
「{ サーバー名 }」には、ApeosWare Management Suite 2 のメインサーバーのホスト名を設定してください。IP アドレスは設定できません。設定するホスト名は、クライアント PC および複合機からアクセスできる形式にする必要があります。
14. クライアント ID とクライアントシークレットを記録します。
15. ApeosWare Management Suite 2 の管理者画面の [サービス設定] > [文書管理サービス設定] > [Google ドライブ設定] にアクセスします。
16. [アプリケーション ID] と [アプリケーションシークレット] には、Google Cloud Platform にアプリケーションを登録したときに取得したアプリケーション ID とクライアントシークレットを入力します。必要に応じて [プロキシーを使用して接続する] のチェックボックスにチェックマークを付けます。
[アプリケーション ID] と [アプリケーションシークレット] を設定すると、すべてのユーザーが ApeosWare Management Suite 2 のユーザー画面で認証情報を再設する必要があります。

表示方法

管理者画面の [サービス設定] > [文書管理サービス設定] > [Google ドライブ設定] を選択します。

ページの説明

ApeosWare Management Suite サーバーが Google ドライブへの接続にプロキシー接続を必要とする場合は、[プロキシーを使用して接続する] にチェックマークを付けます。

補足

プロキシーサーバーを利用する場合は、管理者画面の [システム設定] > [ネットワーク設定] で、HTTP プロキシーサーバーの情報を設定する必要があります。この設定は、ApeosWare Management Suite のシステム全体で共通です。設定を変更する場合は、ほかの機能に影響がないことを確認してください。

OneDrive 設定

事前準備

Microsoft Azure Portal でアプリケーションを登録し、アプリケーション ID とクライアントシークレットを取得する必要があります。

1. Microsoft Azure portal（https://portal.azure.com/）から [Microsoft Entra ID] の [アプリの登録] にアクセスし、[新規登録] をクリックします。
2. 名前、サポートされているアカウントの種類、リダイレクト URI を設定し、[登録] をクリックします。
名前は「FUJIFILM ApeosWare Management Suite」を推奨します。
サポートされているアカウントの種類は [任意の組織のディレクトリ (任意の Microsoft Entra ディレクトリ - マルチテナント)] を選択します。

補足

リダイレクト URI は [Web] を選択し、「https:// {サーバー名} /user/connector/generic/redirectoauth」を入力してください。「{サーバー名}」には、ApeosWare Management Suite のホスト名または IP アドレスを設定してください。設定するホスト名および IP アドレスは、クライアント PC および複合機からアクセスできる形式にする必要があります。

3. [概要] をクリックします。

4. アプリケーション ID を記録します。

補足

アプリケーション ID は自動で生成されます。

5. [証明書とシークレット] をクリックします。

6. [新しいクライアントシークレット] をクリックし、クライアントシークレットの値を記録します。

7. [API のアクセス許可] をクリックします。

8. [アクセス許可の追加] をクリックし、Microsoft Graph の Sites.ReadWrite.All 権限を [委任されたアクセス許可] で追加します

表示方法

管理者画面の［サービス設定］＞［文書管理サービス設定］＞［OneDrive 設定］を選択します。

ページの説明

Microsoft OneDrive for Business への接続設定画面が表示されます。

［アプリケーション ID］と［アプリケーションシークレット］には、Microsoft アプリケーション登録ポータルにアプリケーションを登録したときに取得したアプリケーション ID とクライアントシークレットを入力します。［プロキシーを使用して接続する］のチェックボックスにチェックマークを付けます。

SharePoint Online 設定

事前準備

SharePoint アプリケーション登録ポータル（SharePoint Application Registration Portal）で、接続アプリケーションとして ApeosWare Management Suite を登録し、クライアント ID とクライアントシークレットを取得する必要があります。

登録するサイトごとに、設定する必要があります。サブサイトの URL を指定することもできますが、上位のサイトおよびサブサイトにアクセスすることはできません。操作手順は、次のとおりです。

1. SharePoint アプリケーション登録ポータル（https:// {登録するサイトの URL} /_layouts/15/AppRegNew.aspx）へアクセスします。
例えば、https://test.sharepoint.com/sites/TestSite を利用する場合は、https://test.sharepoint.com/sites/TestSite/_layouts/15/AppRegNew.aspx にアクセスします。
アプリケーション登録画面が表示されます。

2. [クライアント ID] の［生成］をクリックします。
［クライアント ID］が自動で生成されます。

3. 生成された［クライアント ID］をメモなどに控えます。
［クライアント ID］は、後続の作業で使用します。

4. [クライアントシークレット] の［生成］をクリックします。
［クライアントシークレット］が自動で生成されます。

5. 生成された［クライアントシークレット］をメモなどに控えます。
［クライアントシークレット］は、後続の作業で使用します。

6. [タイトル] にアプリケーション名を入力します。
アプリケーション名は「FUJIFILM ApeosWare Management Suite」を推奨します。

7. [アプリケーションドメイン] に ApeosWare Management Suite サーバーのドメイン名を入力します。

補足

「WORKGROUP」と入力することもできます。

8. [リダイレクト先の URL] に次のように入力します。
https:// {ApeosWare Management Suite ホスト名} /user/connector/generic/redirectoauth

9. [作成] をクリックします。
ApeosWare Management Suite が接続アプリケーションとして登録されました。

アプリケーション登録が終了したら、SharePoint Online のデータの共有登録をします。

登録するサイトごとに、設定する必要があります。サブサイトの URL を指定することもできますが、上位のサイトおよびサブサイトにアクセスすることはできません。操作手順は、次のとおりです。

10. https:// {登録するサイトの URL} /_layouts/15/appinv.aspx へアクセスします。
例えば、https://test.sharepoint.com/sites/TestSite を利用する場合は、https://test.sharepoint.com/sites/TestSite/_layouts/15/appinv.aspx にアクセスします。
SharePoint Online のデータの共有登録画面が表示されます。

11. [アプリ ID] に SharePoint アプリケーション登録ポータルで生成したクライアント ID を入力し、[参照] をクリックします。
[タイトル]、[アプリケーションドメイン]、および [リダイレクト先の URL] に、SharePoint アプリケーション登録ポータルで入力したアプリケーション名、ドメイン名、および URL が表示されます。

12. [権限の要求 (XML)] に、登録するサイトへのアクセス権限の設定を XML 型式で、次のように入力します。

```
<AppPermissionRequests AllowAppOnlyPolicy="true">
<AppPermissionRequest Scope="http://sharepoint/content/sitecollection" Right="Write" />
</AppPermissionRequests>
```

13. [作成] をクリックします。
「FUJIFILM ApeosWare Management Suite を信頼しますか？」というメッセージが表示されます。

14. [信頼する] をクリックします。
SharePoint Online のデータの共有登録が完了しました。

表示方法

管理者画面の [サービス設定] > [文書管理サービス設定] > [SharePoint Online 設定] を選択します。

ページの説明

登録済みの SharePoint Online サイトの一覧が表示されます。

事前準備で、アプリケーション登録とデータの共有登録を完了したサイトを追加登録する場合は、[追加] をクリックして、サイトの URL、サイト名、アプリケーション登録時に取得したクライアント ID およびクライアントシークレットを設定します。また、ApeosWare Management Suite サーバーが SharePoint Online サイトへの接続にプロキシー接続を必要とする場合は、[プロキシーを使用して接続する] にチェックマークを付けます。

補足

- プロキシーサーバーを利用する場合は、管理者画面の [システム設定] > [ネットワーク設定] で、HTTP プロキシーサーバーの情報が設定されている必要があります。この設定は、ApeosWare Management Suite のシステム全体で共通です。設定を変更する場合は、ほかの機能に影響がないことを確認してください。
- 追加できる SharePoint Online のサイトまたはサブサイトの数は 300 までです。

スキャンジョブ状態

表示方法

管理者画面の［機器・ジョブ状態］＞［スキャンジョブ状態］＞［スキャンジョブ状態］を選択します。

ページの説明

ユーザーが次の機能を利用したときに生成されるジョブを確認できます。

- スキャン文書をメールに添付して送信
- スキャン文書を文書管理サービスに配信



完了したジョブの履歴は、管理者が設定した保存期間を経過すると、自動的に削除されます。

補足

・モバイル端末で指示したスキャンのジョブも表示されます。
・ジョブがエラー終了した場合、スキャン文書を取り出すことはできません。ジョブを再開してもエラーが解決しない場合は、スキャンを実行し直してください。
・文書管理サービスに保存されている文書をプリントしたときのジョブは、［サービス設定］＞［プリント管理］の［プリントジョブ一覧］に表示されます。

文書管理サービスを利用するユーザーができること

文書管理サービスを利用するユーザーは、事前に認証情報を設定できます。あらかじめ設定しておくことで、機器から文書管理サービスにアクセスするときに、認証情報の入力を省略できます。

また、自分自身が実行したスキャンジョブの状態を確認したり、ジョブを中止したりできます。

補足

・文書管理サービスの認証情報を設定するには、アクセスプロファイルでユーザーポータルへのアクセスが許可されている必要があります。
・Google ドライブ、Salesforce、OneDrive または SharePoint Online と連携する場合は、認証情報の事前設定が必須です。機器から操作するときには、認証情報を入力できません。

文書管理サービスの認証情報設定

事前準備

連携する各文書管理サービスにアクセスするための情報を取得します。

Google ドライブ、Salesforce、OneDrive または SharePoint Online の認証情報を設定する場合は、HTTPS 接続できることを確認します。

表示方法

ユーザー画面で［ユーザー / サービス設定］の［文書管理サービス設定］配下のメニューを選択します。

ページの説明

ここでは、［共有フォルダー設定］を例に説明します。Google ドライブ、OneDrive、Salesforce、SharePoint Online または ABBYY FlexiCapture 以外のほかの文書管理サービスの設定方法も、基本的には同様です。

［設定］または［編集］をクリックして、認証情報を設定します。



認証情報を新規に設定する場合は［設定］、すでに設定されている場合は［編集］が表示されま

管理者が登録した接続先の一覧が表示されます。

ApeosWare Management Suite で認証情報を設定すると、文書管理サービスにアクセスできるかどうかが確認されます。

Google ドライブ、Salesforce または SharePoint Online の場合は、次の操作をします。

Google ドライブの場合

ApeosWare Management Suite の［ユーザー / サービス設定］メニューに HTTPS 接続でアクセスします。

Google ドライブの設定画面に表示される［認証］をクリックすると、Google ドライブの認証画面が表示されます。

Google ドライブの認証情報を入力して、ApeosWare Management Suite からの操作を承認します。

OneDrive の場合

ApeosWare Management Suite の［ユーザー / サービス設定］メニューに HTTPS 接続でアクセスします。

OneDrive の設定画面に表示される［認証］をクリックすると、OneDrive の認証画面が表示されます。

OneDrive アカウントの認証情報を入力して、ApeosWare Management Suite からの操作を承認します。

Salesforce の場合

ApeosWare Management Suite の［ユーザー / サービス設定］メニューに HTTPS 接続でアクセスします。

Salesforce の設定画面に表示される［認証］をクリックすると、Salesforce の認証画面が表示されます。

Salesforce アカウントの認証情報を入力して、ApeosWare Management Suite からの操作を承認します。

補足

Salesforce の認証情報を設定する場合、ApeosWare Management Suite の［ユーザー / サービス設定］メニューに HTTPS でアクセスしてください。HTTP でアクセスすると、認証情報を設定できません。

SharePoint Online の場合

ApeosWare Management Suite の［ユーザー / サービス設定］メニューに HTTPS 接続でアクセスします。

SharePoint Online の設定画面に表示される［認証］または［編集］をクリックすると、SharePoint Online のトークン取得を求める［認証情報の設定］が表示されます。

［取得］をクリックすると、SharePoint Online の「ApeosWare Management Suite を信頼しますか？」というメッセージが表示されます。

［信頼する］をクリックして、トークンを取得します。

ApeosWare Management Suite の［認証情報の設定］の［保存］をクリックします。

補足

- SharePoint Online の認証情報を設定する場合、ApeosWare Management Suite のユーザー画面に HTTPS でアクセスしてください。HTTP でアクセスすると、認証情報を設定できません。
- 登録するするサイトごとに、認証情報を設定する必要があります。

スキャンジョブの状態を確認

表示方法

ユーザー画面で［プリント / ジョブ］＞［マイスキャンジョブ］＞［スキャンジョブ一覧］を選択します。

ページの説明

管理者画面の［スキャンジョブ状態］と同じです。

「スキャンジョブ状態」（P.290）を参照してください。

その他の設定

簡易的なフロー機能を使用するための、その他の設定について説明します。

機器と機器グループの設定

使用する機器は、ApeosWare Management Suite に登録されている必要があります。登録した機器を所属させる機器グループは、［認証 / 集計モード］を次のどれかに設定します。

- 本体認証 / 本体集計（本体認証）
- 本体認証 / ネット集計（ネット認証）
- 外部認証

  認証システムに、［ApeosWare Authentication Agent］を選択します。
- カスタム認証

また、機器グループのプロパティで、機器の操作パネルに ApeosWare Management Suite のメニューを表示するように設定します。



参照

機器の設定の詳細 → 「機器グループ一覧（機器グループ / サブ機器グループの詳細）」（P.88）

機器本体の設定

「カスタムサービスを使用する」（P.116）を参照して、機器で必要な設定をします。

一時保存フォルダーの設定

ApeosWare Management Suite の［システム設定］＞［一時保存フォルダー設定］で、一時保存フォルダーを設定します。このフォルダーは、機器とのデータの受け渡しに使用します。



補足

ApeosWare Management Suite サーバーを WORKGROUP 環境で運用している場合、一時保存フォルダーは ApeosWare Management Suite サーバー上に作成し、Network Service にアクセス権を設定する必要があります。



参照

「一時保存フォルダー設定」（P.46）

文書管理サービスの設定

ApeosWare Management Suite の運用環境から、文書管理サービスに接続できるように設定します。連携する文書管理サービスによって、ファイアウォールの設定や、プロキシーサーバーの設定が必要です。

また、簡易的なフロー機能を利用するユーザーを連携先の文書管理サービスに登録して、認証情報を取得します。



補足

クラウドサービスとして提供されている文書管理サービスに、HTTP プロキシーを使用してアクセスする場合は、Web ブラウザーの設定、および ApeosWare Management Suite の設定の両方でプロキシーサーバーのサーバー名とポート番号を設定してください。

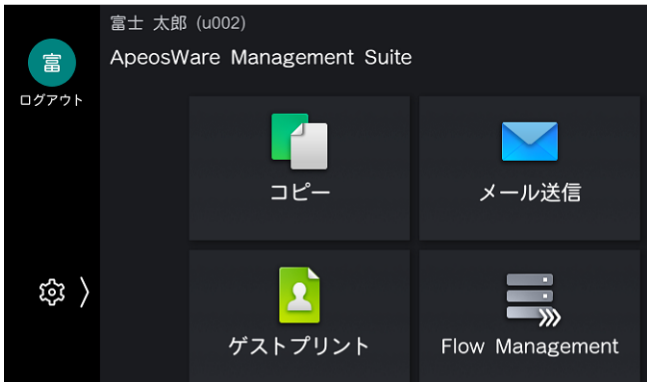
機器の操作

簡易的なフロー機能を利用する操作について説明します。

メニュー画面

機器で必要な設定をすると、機器の操作パネルに ApeosWare Management Suite のメニューが表示されます。

ApeosWare Management Suite のメニューを選択すると、機器で認証したユーザーが利用できる機能が表示されます。



ここでは、次のメニューについて説明します。

- ［メール送信］

  スキャン文書をメールに添付して送信するためのメニューです。

- 文書管理サービス名のアイコン

  文書管理サービスと接続するためのメニューです。設定済みの文書管理サービスごとに、メニューが表示されます。

ユーザーが、Web ブラウザーで事前に認証情報を設定していれば、機器の操作パネルで認証情報を入力する必要はありません。ただし、認証情報の期限が切れていたり変更されていたりする場合は、入力を求められることがあります。その場合は、認証情報を入力します。

連携先が Salesforce、または Google ドライブの場合は、ApeosWare Management Suite のユーザー画面からそれぞれの設定画面にアクセスして、認証情報を設定し直す必要があります。

参照
「文書管理サービスの認証情報設定」（P.290）

スキャン実行時の制限事項

機種によっては、スキャン実行時に［次の原稿あり］を使用しても、スキャンが開始されません。この場合は、メニュー画面に戻ってスキャンを実行してください。

スキャン文書をメールで送信する

1. 機器の設定に従って認証操作をします。
2. メニュー画面で、[メール送信] を押します。
   [メール送信] 画面が表示されます。



- 宛先指定

  最初に追加したユーザーは To に追加されます。その後、宛先を変更したい場合は、宛先を選択することで Cc または Bcc に切り替えられます。次の 3 つの方法で宛先を追加できます。

  ・ アドレス帳ボタンを押して、ApeosWare Management Suite に登録されているユーザーの一覧から宛先を追加します。
  ・ 送信履歴から宛先を選択します。
  ・ キーボードを押してキーボードを表示し、テキストボックスにメールアドレスを入力します。

  「自分を追加」をクリックすると、ログインしているユーザーの標準メールアドレスが送信先に追加されます。

- 宛先の設定

  送信するメールの宛先を編集できます。送信者のメールアドレスは、アクセスプロファイルで許可されている場合だけ変更できます。

- メールやスキャンの設定

  送信するメールの内容やスキャンの読み込み設定を変更できます。

3. 機器に原稿をセットして、[スタート] を押します。

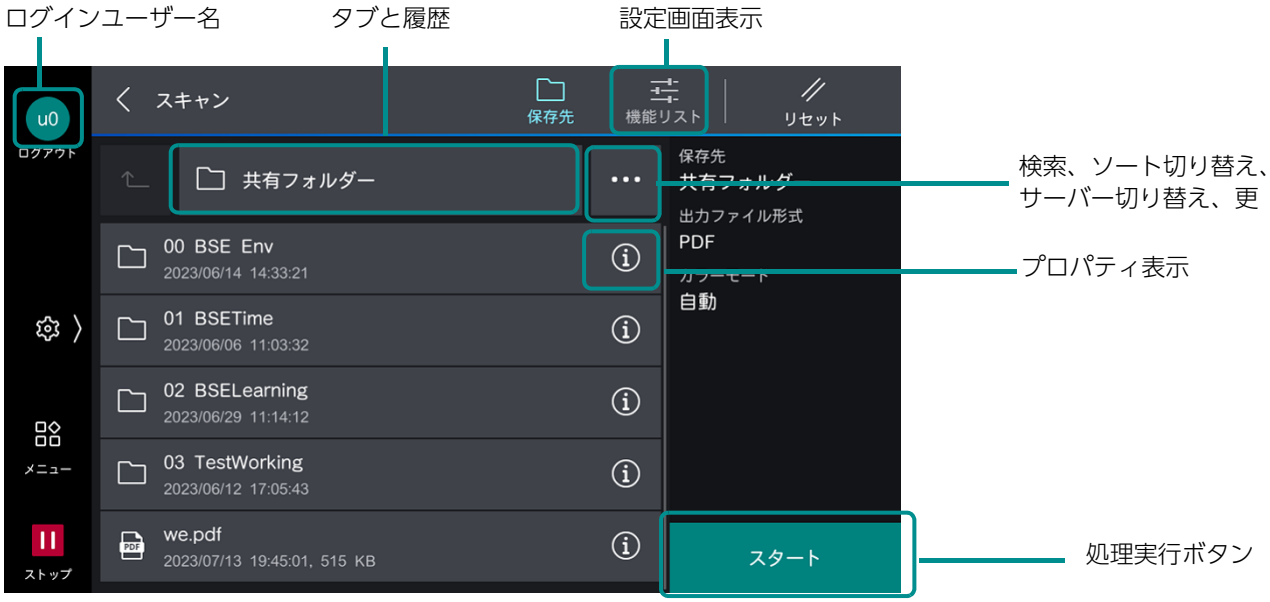
補足

プレビュー設定を有効にした場合、[送信] から [プレビュー] にラベル名が変更されます。

文書管理サービスとの連携

文書管理サービスにアクセスする

1. 機器の設定に従って認証操作をします。
2. 以下の操作をします。
   ［プリント］または［スキャン］を選択します。
   機器の操作パネルに、文書管理サービスのフォルダーとファイルの一覧が表示されます。



- タブ

  共有用タブと個人用タブが表示されます。タブ名は、文書管理サービス側の仕様に従います。

  各タブには、ログインユーザーがアクセス権を持つフォルダーとファイルの一覧が表示されます。FUJI XEROX ApeosPort-VII 以降の場合は、操作の履歴も表示されます。

  補足

  ・個人用タブは、設定によっては表示されないことがあります。
  ・接続先が共有フォルダーの場合は、ログインユーザーの［ユーザープロパティ］の［保存先］に設定されているフォルダーが、［マイフォルダー］タブに表示されます。［保存先］には、UNC 形式のフォルダーパスだけを設定できます。
  ・接続先が DocuShare の場合は、ApeosWare Management Suite の表示言語がタイ語に設定されていても英語で表示されます。
  ・初期状態は、［共有用タブ］が初めに表示されます。
  設定ファイルを書き換えることで、文書管理サービスごとに、初めに表示されるタブを入れ替えることができます。
  設定ファイルの格納場所：{InstallFolder}\WebApp\MFD\ScanAndConnector.config
  設定方法：<add key="ChangeRootLocationTab" value="{文書管理サービスの ID}" />
  文書管理サービスの ID は次のとおりです。

共有フォルダー	1011
SharePoint	1012
DocuShare	1013
Salesforce	1014
Google ドライブ	1016
OneDrive	1020
SharePoint Online	1021

ABBYY FlexiCapture	1022

例：共有フォルダーと OneDrive の共有用タブと個人用タブの表示順を入れ替える場合
<add key="ChangeRootLocationTab" value="1011,1020" />

・設定ファイルを書き換えることで、文書管理サービスごとに、［プリント］もしくは［スキャン］の選択を飛ばすことができます。
設定ファイルの格納場所：｛InstallFolder｝\WebApp\MFD\ScanAndConnector.config
設定方法：
1. スキャンのみを利用する場合：<add key="ScanOnly" value="｛文書管理サービスの ID｝" />
2. プリントのみを利用する場合：<add key="PrintOnly" value="｛文書管理サービスの ID｝" />
文書管理サービスの ID は上記表と同じです。
例：共有フォルダーと OneDrive はスキャンのみを利用する場合
<add key="ScanOnly" value="1011,1020" />

- サーバー切り替え

  複数のサーバーが登録されている場合に、アクセスするサーバーを切り替えます。…アイコンをクリックして表示されるメニューから「サーバー切り替え」を選択すると、ログインしたユーザーがアクセスできるサーバーの一覧が表示されます。

- ソート切り替え

  …アイコンアイコンをクリックして表示されるメニューから「ソート切り替え」を選択し、表示されたボタンを選択して、名前、更新日時、またはサイズでリストの並び替えができます。

- 検索

  …アイコンをクリックして表示されるメニューから「検索」を選択すると、検索画面が表示されます。

  ファイル名、またはフォルダー名に含まれる文字列を入力して検索できます。［詳細検索］を押すと、ファイルのタイトルや所有者など、複数の条件を指定して検索できます。詳細検索では、表示されているフォルダー、およびサブフォルダーが検索の対象になります。指定できる検索条件は、文書管理サービスごとに異なります。

- プロパティボタン

  ファイルのプロパティ画面が表示されます。

  参照
  「ファイルのプロパティを確認する」（P.298）

- 処理実行ボタン

  処理を実行します。

  参照
  ・［新規スキャン］、［更新スキャン］ →「スキャン文書を文書管理サービスに保存する」（P.297）
  ・［プリント］ →「文書管理サービス内のファイルをプリントする」（P.298）
  ・［OK］ →「文書管理サービスにアクセスする」（P.296）の手順 2 で［スキャン］を選択した場合は「スキャン文書を文書管理サービスに保存する」（P.297）、［プリント］を選択した場合は「文書管理サービス内のファイルをプリントする」（P.298）

スキャン文書を文書管理サービスに保存する

1. 「文書管理サービスにアクセスする」（P.296）の手順 2 で［スキャン］を選択し、ファイル一覧画面で［OK］を押します。

補足

・［更新スキャン］は、一覧でファイルを選択すると実行できます。選択しているファイルが、スキャン文書で上書きされます。上書きする前にファイルの内容を確認したい場合は、プロパティ画面で確認します。
［新規スキャン］の場合は、表示中のフォルダーにスキャン文書が保存されます。
元のファイルの扱いは、削除する、ゴミ箱に保存する、古いバージョンのファイルとするなど、連携している文書管理サービスによって異なります。
・［新規スキャン］の［文書名］には、以下の予約文字列が使用できます。
　・［$YYYY］（文書管理サービスへのアップロードを開始する時刻の年データ（4 桁））
　・［$MM］（文書管理サービスへのアップロードを開始する時刻の月データ（2 桁））
　・［$DD］（文書管理サービスへのアップロードを開始する時刻の日データ（2 桁））
・FUJI XEROX ApeosPort-VII 以降で、フォルダーを選択して［OK］を押した場合は新規スキャン、ファイルを選択して［OK］を押した場合は更新スキャンになります。

参照
「ファイルのプロパティを確認する」（P.298）

2. 必要に応じて、設定値を変更します。
設定によっては、値を変更できない場合があります。

3. 機器に原稿をセットして、［スキャン］を押します。
設定によっては、処理終了後に料金確認画面が表示されます。

補足

・保存先にスキャン文書と同じ名前の文書がある場合の保存方法は、文書管理サービスによって異なります。
・連携先が DocuShare の場合は、ロックされているファイルを選択すると、更新スキャンを実行できません。

文書管理サービス内のファイルをプリントする

1. 「文書管理サービスにアクセスする」（P.296）の手順 2 で［プリント］を選択し、ファイル一覧画面でファイルを選択して［OK］を押します。
複数のファイルを選択できます。
プリントする前にファイルの内容を確認したい場合は、プロパティ画面で確認できます。

参照
「ファイルのプロパティを確認する」（P.298）

2. 必要に応じてプリントの設定値を変更し、［プリント］を押します。
設定によっては、処理終了後に料金確認画面が表示されます。

補足

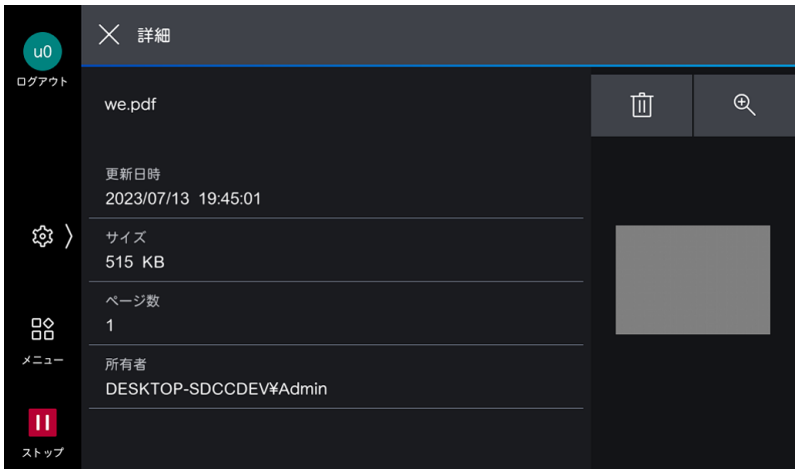
DocuWorks 文書をプリントする場合、用紙トレイは［自動］固定で変更できません。

ファイルのプロパティを確認する

更新スキャンやプリントの前に、ファイルのプロパティを確認できます。

1. 文書管理サービスのファイル一覧画面で、確認したいファイルのプロパティボタンを押します。
2. ファイルの更新日や、ファイルサイズなどのプロパティが表示されます。

ファイルのフォーマットによってはプレビュー画面が表示され、内容を確認できます。



3. **必要に応じて、処理を実行します。**

［削除］または［プリント］を実行できます。

補足

［削除］を実行すると、文書管理サービスに保存されているファイルが削除されます。文書管理サービスによっては削除されたファイルがごみ箱に移動されますが、ApeosWare Management Suite からはごみ箱にアクセスできません。ごみ箱に移動されたファイルを元に戻したい場合は、各文書管理サービスに直接アクセスして操作してください。

9 モバイル端末の設定と操作

事前準備

ApeosWare Management Suite の設定

管理者権限で ApeosWare Management Suite にアクセスして、利用する機器、およびユーザーの情報を登録します。また、必要に応じて、論理プリンターを作成します。

モバイル端末用アプリケーションのインストール

使用しているモバイル端末に対応するアプリケーションをダウンロードして、インストールします。

アプリケーション名：ApeosWare MS Mobile 2

NFC タグを利用するための準備

機器とモバイル端末の関連づけに NFC タグを利用する場合は、次の設定をします。

モバイル端末の設定

使用するモバイル端末の無線とネットワークの設定で、NFC 機能を有効にします。

NFC タグの設定

機器の識別情報を NFC タグに書き込みます。

事前に、利用する機器に NFC タグシール（別売り）を貼りつけておきます。

補足

1 度 NFC タグに情報を書き込むと、変更はできません。

1. ApeosWare MS Mobile 2 を起動して、ApeosWare Management Suite のシステム管理権限、または機器の管理権限を持つユーザーでログインします。

参照
「ログインする」（P.301）

2. モバイル端末を、対象の機器の NFC タグシールにかざします。
ログインユーザーに関連づけられた機器の一覧が、ApeosWare MS Mobile 2 の画面に表示されます。
3. ドロップダウンリストボックスで、対象の機器を選択します。
4. 機器の情報を書き込みます。

QR コードの準備

次の場合は、機器の操作パネルに QR コードを表示できません。

- ［認証 / 集計モード］が［カスタム認証］以外の機器
- 操作パネルが搭載されていない機器

このような機器の場合は、あらかじめ QR コードをプリントしておきます。QR コードは、次の手順で作成できます。

1. ApeosWare Management Suite の管理者画面で、［サービス設定］＞［機器管理］＞［機器一覧］の順に選択します。
2. 対象の機器のプロパティを表示して、［機種コード］と［シリアル番号］を確認します。
3. 任意の QR コード作成ツールを使用して、「{機種コード} _ {シリアル番号}」の QR コードを作成します。
   たとえば、機種コードが「AB123456」、シリアル番号が「111111」の場合、「AB123456_111111」の QR コードを作成します。
4. 作成した QR コードをプリントします。

補足

プリントした Q R コードを、モバイル端末で読み込めるように機器に貼り付けておくと便利です。

参照

・機器の登録と設定 →「3 機器管理」(P.74)
・論理プリンターの作成 →「7 プリントの管理と操作」(P.243)

ファイル表示用のアプリケーションのインストール

OS が Android のモバイル端末で、ファイルの内容を表示したい場合は、ファイルフォーマットに応じたプレビュー用のアプリケーションをインストールします。

モバイル端末の操作

モバイル端末から ApeosWare Management Suite の機能を利用する操作の概要を説明します。

ログインする

ApeosWare MS Mobile 2 のアイコンをタップすると、ApeosWare Management Suite へのログイン画面が表示されます。

補足

・ApeosWare MS Mobile 2 を起動するときに、ApeosWare Management Suite サーバーからの通知許可を要求する画面が表示された場合は、許可してください。
・ApeosWare MS Mobile 2 でログインしたときに、「通信が保護されていません。接続しますか？」の警告メッセージが表示された場合は、モバイル端末での証明書のインストールなどの対処が必要です。サポートページを参照して対処してください。

［ユーザー名］

ApeosWare Management Suite に登録されているユーザー ID を入力します。

サーバーの選択

ネットワーク上で検索された ApeosWare Management Suite サーバーの情報が表示されます。複数のサーバーが表示された場合は、ログインするサーバーを選択します。サーバーを 1 つも検索できなかった場合は、ApeosWare Management Suite サーバーの IP アドレスを手動で入力します。

補足

ApeosWare Management Suite に同時にログインできるユーザーの数は、Mobile User License で制御されています。

メニュー画面

ログインすると、メニュー画面が表示されます。

メニュー名	説明
一般機能	モバイル端末内のファイルやカメラ機能を操作するためのメニューが表示されます。次のメニューが表示されます。 ・アルバム ・マイドキュメント ・カメラ
サービス機能	ApeosWare Management Suite の機能にアクセスするメニューが表示されます。
文書管理サービス	文書管理サービスにアクセスするためのメニューが表示されます。

補足

アクセスプロファイルで許可されている機能や文書管理サービスだけが表示されます。

プロパティ画面

メニュー画面で☰をタップすると、プロパティ画面が表示されます。
プロパティ画面に表示される項目について説明します。

項目	説明
ユーザー	ログインユーザーのユーザー名とメールアドレスが表示されます。
アカウント	コスト管理をしている場合に表示されます。ユーザーが利用できるアカウントが表示されます。
モバイルデータ通信の使用	プリントジョブの送信、文書管理サービスへのアップロードまたはダウンロードを制限するかどうかを設定します。初期状態では制限するように設定されています。 補足 データの転送を制限するように設定されていても、モバイル端末が Wi-Fi でネットワークに接続している場合は適用されません。
通信時の SSL の検証	設定した状態の場合、通信時に証明書の検証をします。 補足 設定されていない状態の場合、検証をする設定に変更できます。
OSSLicense	OSSLicense を表示します。
ログアウト	ApeosWare Management Suite からログアウトします。

[一般機能]

モバイル端末内のファイルや写真、および OS のカメラ機能で撮影した写真を操作できます。
使用できる操作は次のとおりです。

- プリント
- アップロード

  文書管理サービスと連携している場合に利用できます。
- 削除

操作できるファイルや、利用できる機能は、モバイル端末の OS によって異なります。

[アルバム]

モバイル端末のアルバム機能に保存されている写真を操作できます。

補足

ApeosWare MS Mobile 2 からアルバム機能へのアクセス許可を要求する画面が表示された場合は、アクセスを許可してください。

[マイドキュメント]

次のファイルを操作できます。

OS	操作できるファイル
Android	モバイル端末に保存されているすべてのファイル
iOS	文書管理サービスからダウンロードしたすべてのファイル

[アプリのストレージ]

次のファイルを操作できます。

OS	操作できるファイル
Android	・文書管理サービスからダウンロードしたすべてのファイル ・アプリ内のカメラで撮影したファイル

[カメラ]

モバイル端末のカメラ機能が起動されます。撮影した写真を、プリントしたりアップロードしたりできます。

補足

ApeosWare MS Mobile 2 からカメラ機能へのアクセス許可を要求する画面が表示された場合は、アクセスを許可してください。

[サービス機能]

ApeosWare Management Suite の機能を操作できます。

[QR コードによるログイン]

ログイン用 QR コードの読み取り画面が表示されます。ログイン用 QR コードを読み取ると、機器にログインできます。

ログイン用 QR コードは、[サービス設定] > [ユーザー管理] > [認証機能設定] で、モバイルアプリの設定が必要です。

参照

「機器に表示されるログイン用 QR コードを読み取り、外部 ID を登録する」(P.193)

[オンデマンドプリント]

ログインユーザーが、オンデマンドプリントで送信したプリントジョブの一覧が表示されます。1 つまたは複数のジョブを選択して、オンデマンドプリントを実行できます。

オンデマンドプリントの詳細については、『導入・運用ガイド』の「オンデマンドプリントの詳細」を参照してください。

[メール送信]

スキャン文書をメールで送信します。



参照

メールの設定以外の項目については、「[スキャン設定] タブ」(P.283) を参照してください。

[メール設定]

スキャン文書を送信するメールの宛先、タイトル、本文を設定します。

- 宛先

  ApeosWare Management Suite の［メール送信設定］の、［送信先にユーザーのアドレスを追加］が有効な場合は、ログインユーザーのユーザー情報に設定されているメールアドレスが表示されます。

  送信先を指定する場合は、メールアドレスを直接入力します。セミコロン（;）で区切って、複数のメールアドレスを入力できます。

- タイトルと本文

  管理者が ApeosWare Management Suite の［メール送信設定］で設定した［メール件名］、［メール本文］が表示されます。

  必要に応じて、任意の文字列に変更できます。

[文書管理サービス]

文書管理サービスにアクセスするためのメニューが表示されます。

アクセスプロファイルで許可されている文書管理サービスのメニューだけが表示されます。

ApeosWare Management Suite のユーザー画面の［文書管理サービス設定］で、あらかじめ認証情報を設定している場合は、メニューを選択すると文書管理サービスにログインできます。設定していない場合は、ログイン画面が表示されるので、文書管理サービスの認証情報を入力してログインします。

入力した認証情報は保存されるので、次回以降は入力を省略できます。



補足

Google ドライブ、Salesforce、OneDrive、または SharePoint Online と連携する場合は、認証情報の事前設定が必須です。メニューを選択したときにエラーメッセージが表示された場合は、Web ブラウザーで ApeosWare Management Suite にアクセスして、ログイン情報を設定してください。

使用できる操作は、次のとおりです。

- プリント

  選択しているファイルをプリントできます。

- アップロード、またはバージョンを追加

  ファイルを選択していない場合は［アップロード］、選択している場合は［バージョンを追加］が表示されます。

  ［バージョンを追加］を実行すると、選択しているファイルがアップロードするファイルで上書きされます。

  モバイル端末内のファイルだけではなく、カメラ機能で撮影した写真や、スキャン文書をアップロードできます。

アップロード先に、アップロードするファイルと同じ名前のファイルが存在する場合の動作は、接続している文書管理サービスの仕様に従います。

- ダウンロード

  ダウンロード先に、ダウンロードするファイルと同じ名前のファイルが存在する場合は、ファイル名の末尾に「- {YYYYMMDD} _ {HHMMSS}」が追加され、別のファイルとして保存されます。


参照

『導入・運用ガイド』の「文書管理サービスの認証情報設定」

機器を選択する

各機能からプリント、またはスキャンを実行するときに、設定画面が表示されます。

設定画面で、使用する機器を選択します。次のどれかの方法で選択できます。

- QR コードを利用する

  [Scan QR] をタップすると、QR コード読み取り画面が表示されます。機器の操作パネルに表示される QR コードを読み取ることで、機器を選択できます。

  
  補足

  機器に操作パネルが搭載されていない場合は、QR コードを作成してプリントしてください。

  
  参照

  「事前準備」(P.300)

- NFC タグを利用する

  モバイル端末の OS が Android の場合は、この方法で機器を選択できます。

  NFC 機能を利用できるモバイル端末の場合、設定画面に NFC タグの読み取り機能を示すアイコンが表示されます。アイコンを表示したまま、機器に貼りつけられた NFC タグシールに、モバイル端末をかざします。

  
  補足

  事前に、識別情報を書き込んだ NFC タグシールが、機器に貼りつけられている必要があります。

  
  参照

  「事前準備」(P.300)

- ApeosWare Management Suite に登録されている機器から選択する

  プリントの場合は、この方法で機器を選択できます。

  プリントの設定画面で [プリント] をタップすると、[プリンター / 機器の選択] 画面が表示されます。論理プリンターを選択するか、機器グループを指定して所属する機器から選択します。

  
  補足

  機器グループに所属していない機器を選択する場合は、機器グループで「Unaffiliated」を選択します。

モバイルアプリから ApeosWare MS Mobile 2 を利用する

次のモバイルアプリから ApeosWare MS Mobile 2 を起動し、プリント / アップロードできます。

iOS の場合

- メールに添付されたファイルを長押しして、ApeosWare MS Mobile 2 を選択します。

- Safari で表示している Web ページの共有ボタンを押し、ApeosWare MS Mobile 2 を選択します。

Android の場合

- フォトアプリでファイル（拡張子：png、jpeg、jpg、bmp、gif）を選択し、『ファイルを送信』を押して、ApeosWare MS Mobile 2 を選択します。
- Chrome で表示している Web ページの共有メニューから、ApeosWare MS Mobile 2 を選択します。

文書名に「¥ / : * ? " < > | ' &」を含んだ文書はプリントできません。
また、上記以外のモバイルアプリからのプリント / アップロード操作については動作を保証していません。

10 イメージログ管理

Web ブラウザーからの設定と確認

Web ブラウザーからイメージログに関する設定や確認ができます。それぞれのページでどのようなことができるかを説明します。

- ［サービス設定］＞［イメージログ管理］

ページの種類	説明
抽出・保存設定	抽出処理、および保存に関する設定項目を表示します。 参照 「抽出・保存設定」（P.308）
アーカイブ / 削除設定	アーカイブ / 削除設定に関する設定項目を表示します。 参照 「アーカイブ / 削除設定」（P.311）
アーカイブの復元	アーカイブの復元に関する項目を表示します。 参照 「アーカイブ / 削除設定」（P.311）
イメージログ監視設定	
監視開始時刻	イメージログの監視を開始する時刻を設定します。 参照 「監視開始時刻」（P.314）
監視パターン	イメージログの監視に使用するフィルターパターンを設定します。 参照 「監視パターン」（P.315）
監視設定	監視設定を作成・管理します。 参照 「監視設定」（P.315）
共通設定	イメージログ・ストレージへのアクセスユーザーのパスワードを設定します。 参照 「共通設定」（P.320）

- ［機器・ジョブ状態］＞［イメージログ状態］

ページの種類	説明
イメージログ受信状況	イメージログの受信状況を表示します。 参照 「イメージログ受信状況」（P.321）

抽出・保存設定

表示方法

管理者画面のメニューを［サービス設定］＞［イメージログ管理］＞［抽出・保存設定］の順に選択します。

ページの概要

抽出処理、および保存に関する設定をします。



［抽出対象ページの指定］

抽出を行うページを［全ページ］または［指定したページ］から選択します。

［指定したページ］を選択した場合は、以下の項目のどれかを選択して、抽出処理するページを指定します。

- ［先頭から］
  ［先頭から］を選択した場合は、抽出処理するページを先頭からのページ数で指定します。
- ［最後から］
  ［最後から］を選択した場合は、抽出処理するページを最後からのページ数で指定します。
- ［範囲を指定］
  ［範囲を指定］を選択した場合は、抽出処理する範囲をページ番号で指定します。

補足

・以降の設定は、本項目で指定した抽出対象ページのみ有効となります。
・ページの指定方法に関係なく、入力できるページ数の値は 1 ～ 1000 の整数となります。

［OCR によるテキスト情報の抽出］

OCR によってテキスト情報の抽出をするかどうかを、［する］または［しない］から選択します。［する］を選択した場合は、［言語］、［サーチャブル PDF の生成］、［タイムアウト時間］を設定できます。

初期設定では、［しない］が選択されています。
この設定は、変更後に最初に実行されたジョブから有効になります。

［言語］

OCR 処理で使用する言語を、次から選択します。複数選択できます。

- 日本語
- 簡体字中国語
- 韓国語
- 英語
- 繁体字中国語
- タイ語

初期設定では日本語にチェックマークが付いています。
この設定は、変更後に最初に実行されたジョブから有効になります。



補足

・選択した言語が多いと、処理の精度が低下する場合や、処理に時間がかかる場合があります。
・OmniPage の OCR Option を使用する場合、選択できる言語は 1 言語のみとなります。
・分散構成のイメージログ受信サーバーで OCR 機能を使用するときに、ABBYY OCR ライセンスまたは Scan OCR Option ライセンスが必要です。
・オールインワン構成で ABBYY OCR を使用するときに、ABBYY OCR ライセンスが必要です。
・オールインワン構成で OmniPage OCR を使用するときは Scan OCR Option ライセンスは不要です。
・ABBYY OCR ライセンス、Scan OCR Option ライセンスの登録先については、『セットアップガイド』を参照ください。

［サーチャブル PDF の生成］

イメージログの画像の内容を PDF として保存するときに、文字列を検索できるようにするかどうかを、［する］または［しない］から選択します。
初期設定では、［する］が選択されています。
この設定は、変更後に最初に実行されたジョブから有効になります。



補足

［する］を選択した場合、処理に時間がかかる場合があります。

［タイムアウト時間］

OCR 処理をタイムアウトするかどうかを、［設定しない］または［設定する］から選択します。［設定する］を選択した場合は、タイムアウト時間を秒単位で入力します。指定できる範囲は、1 ～ 43200 秒（12 時間）です。この時間を過ぎると、OCR 処理は中止されます。初期値は［10800 秒］秒（3 時間）です。
この設定は、変更後に最初に実行されたジョブから有効になります。

［キーワードによるフィルタリング］

OCR 処理したイメージログ画像に対してキーワードによるフィルター処理を行うかどうかを［しない］または［する］から選択します。［する］を選択した場合は、［キーワードの設定］で指定されたいずれかのキーワードを含むイメージログのみを保存します。OCR 結果の文字列に対してキーワードを含むかどうかの判定を行います。キーワードを含まないイメージログは一時保存対象となり、［削除対象データの一時保存］で設定された期間経過後に削除されます。
［フィルターキーワード一覧］画面で［キーワードの追加］をクリックして、キーワードを入力します。キーワードの入力が完了したら［OK］をクリックします。
キーワードの追加が完了したら［閉じる］をクリックして、［抽出・保存設定］画面に戻ります。

補足

・登録できるキーワードは 100 件までです。
・1 つのキーワードは最大で全角または半角の文字で 256 文字以内で入力できます。
・ を使用して、キーワード、および更新日時で登録済みのキーワードを検索できます。
・キーワードを編集する場合は、 をクリックして［編集］を選択します。
・リストからキーワードを削除する場合は、リストの先頭にチェックマークを付けて［削除］をクリックします。または、 をクリックして［削除］を選択します。
・［キーワードによるフィルタリング］と［パターンによるフィルタリング］を併用する場合、それぞれの設定で保存対象となったイメージログのみを保存します。いずれかの設定で保存対象とはならなかったイメージログ、および両方の設定で保存対象とはならなかったイメージログは一時保存対象となります。
・キーワードによるフィルタリングは、100% の精度を保証するものではありません。

［パターンによるフィルタリング］

OCR 処理したイメージログ画像に対してパターン（正規表現）によるフィルター処理を行うかどうかを［しない］または［する］から選択します。［する］を選択した場合は、［パターンの設定］で指定されたいずれかのパターンを含むイメージログのみを保存します。OCR 結果の文字列に対してパターンを含むかどうかの判定を行います。パターンを含まないイメージログは一時保存対象となり、［削除対象データの一時保存］で設定された期間経過後に削除されます。

［フィルターパターン一覧］画面で［パターンの追加］をクリックして、［パターン名］と［フィルターパターン］を入力します。入力が完了したら［OK］をクリックします。

パターンの追加が完了したら［閉じる］をクリックして、［抽出・保存設定］画面に戻ります。

補足

・登録できるパターンは 100 件までです。
・1 つのパターン名は最大で全角または半角の文字で 40 文字以内で入力できます。
・1 つのフィルターパターンは全角または半角の文字で 256 文字以内で入力できます。
・ を使用して、パターン名、フィルターパターン、および更新日時で登録済みのパターンを検索できます。
・パターンを編集する場合は、 をクリックして［編集］を選択します。
・リストからパターンを削除する場合は、リストの先頭にチェックマークを付けて［削除］をクリックします。または、 をクリックして［削除］を選択します。
・［キーワードによるフィルタリング］と［パターンによるフィルタリング］を併用する場合、それぞれの設定で保存対象となったイメージログのみを保存します。いずれかの設定で保存対象とはならなかったイメージログ、および両方の設定で保存対象とはならなかったイメージログは一時保存対象となります。
・パターンによるフィルタリングは、100% の精度を保証するものではありません。

［イメージログの暗号化］

イメージログを暗号化して保存する場合は［する］を選択します。

［する］を選択した場合は、暗号化方式を選択し、［暗号化 / 復号キー］にキーを入力してください。

再入力の項目にも同じキーを入力してください。

［しない］を選択した場合は、必要に応じて［キーの設定］をクリックして、［復号キー］を入力してください。（すでに暗号化されたデータが保存されているなど）

補足

・キーは半角英数の文字で 8 ～ 63 文字で入力できます。
・［しない］を選択した、または［暗号化 / 復号キー］を一度でも設定した場合は、キーの設定、変更ダイアログボックスからキーを入力します。
・復号キーを変更すると、変更前の設定で暗号化されたイメージログが復号できなくなってしまいます。問題がない場合のみ、復号キーを変更してください。
・［しない］を選択した場合でも、必要に応じて暗号化方式を選択してください。

［イメージログの圧縮］

イメージログを圧縮して保存する場合は、［する］を選択します。

イメージログの圧縮機能が有効なとき、圧縮前と比較して一部画質の劣化や色味が変化することがあるため、画質および色味の再現性を重視するときは、イメージログの圧縮機能を無効にしてください。

[削除対象データの一時保存]

キーワード、およびパターンによるフィルター機能で削除対象になったデータを一時的に保存します。

一時保存されたデータは、イメージログ検索で確認、通常保存に変更ができます。

保存期間、削除時刻を設定できます。保存期間で指定できる範囲は、1 ～ 6 カ月です。

データ削除時刻に指定できる時刻は、AM または PM の 1 時 00 分～ 12 時 59 分の間です。初期値は［02］時［00］分、［AM］です。

削除タイミングは以下になります。

- 削除時刻の設定を変更後、最初に設定時刻をむかえる日
- Log Management Core Service を起動したあと、最初に設定時刻をむかえる日

補足

分散構成のときは、イメージログコアサーバーにある該当サービスを起動したあと、最初に設定時刻をむかえる日

- 毎月 2 日

補足

処理の実行日において、「最初に設定時刻をむかえる日」とは、設定した時刻が設定変更を行った時刻より遅い時刻の場合は当日、早い時刻の場合は翌日となります。

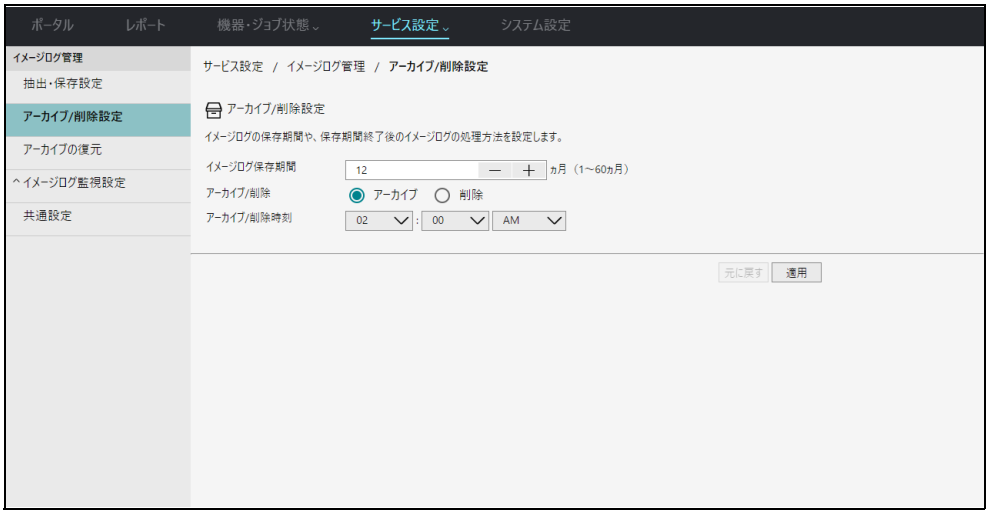
アーカイブ / 削除設定

表示方法

管理者画面のメニューを［サービス設定］＞［イメージログ管理］＞［アーカイブ / 削除設定］の順に選択します。

ページの概要

イメージログの保存期間や、保存期間終了後のイメージログの処理方法を設定します。



[イメージログ保存期間]

イメージログの保存期間を、月単位で指定します。指定できる範囲は、1 ～ 60 カ月です。初期値は［12］カ月です。

ここで設定した値は、設定後の最初のアーカイブまたは削除のタイミングで有効になります。

[アーカイブ / 削除]

[イメージログ保存期間] を過ぎたイメージログに対する処理を、次から選択します。

- アーカイブ
  データベースから所定のフォルダーに移動します。
- 削除
  データベースから削除します。

初期設定では、[アーカイブ] が選択されています。

[アーカイブ / 削除時刻]

[イメージログ保存期間] を過ぎたイメージログのアーカイブ、または削除を開始する時刻を、AM または PM の 1 時 00 分～ 12 時 59 分の間で設定します。初期値は [02] 時 [00] 分、[AM] です。

処理の実行日は、次のとおりです。

- [アーカイブ / 削除時刻] の設定を変更後、最初に設定時刻をむかえる日
- ApeosWare Management Suite Image Log Management Core Service を起動した後、最初に設定時刻をむかえる日
- 毎月 1 日

アーカイブデータの移動先のフォルダーのパスは、次のとおりです。

{イメージログ保存先フォルダー} ￥exported

{イメージログ保存先フォルダー} は、セットアップ時に指定します。詳細は『セットアップガイド』を参照してください。

補足

・アーカイブデータの移動先には、日付ごとにフォルダーが作成され、アーカイブデータが格納されます。この日付フォルダーは、任意のストレージに移動できます。
ただし、アーカイブデータを復元するときには、元のフォルダーにデータを戻す必要があります。

・処理の実行日において、「最初に設定時刻をむかえる日」とは、設定した時刻が設定変更を行った時刻より遅い時刻の場合は当日、早い時刻の場合は翌日となります。

アーカイブの復元

表示方法

管理者画面のメニューを [サービス設定] > [イメージログ管理] > [アーカイブの復元] の順に選択します。

ページの概要

イメージログ保存期間を過ぎてアーカイブされたデータを検索対象として復元します。



アーカイブを復元する

1. 復元するアーカイブデータにチェックマークをつけて、［復元開始］をクリックします。

補足

- ほかのユーザーが復元処理中の場合、アーカイブデータを復元できません。
- 復元処理には、時間がかかることがあります。復元処理の途中で ApeosWare Management Suite からログアウトしても、再度ログインしたときに復元処理の最新の情報を確認できます。
- 一度に 12 ファイルまで選択できます。
- を使用して、アーカイブ名、および対象期間でアーカイブデータを検索できます。



データの復元が開始されます。

2. ［最新の情報に更新］をクリックして、復元処理の状況を確認します。



処理が終了していない場合は、時間をおいてから再度［最新の情報に更新］をクリックします。アーカイブデータがすべて復元されたことを確認してください。

復元したデータが不要になった場合は、［復元データの全削除］をクリックします。

補足

・復元したデータは［復元データの全削除］を実行しないと削除されません。また、復元したデータが残っている状態では、ほかのアーカイブデータを復元できません。復元したデータが残ったままにならないように、定期的に削除してください。
・復元したイメージログを削除しても復元前のアーカイブデータは削除されないため、再度、復元することができます。
・下部にある［検索］を使用して、アーカイブ名、および状態で復元データを検索できます。

監視開始時刻

表示方法

管理者画面のメニューを［サービス設定］＞［イメージログ管理］＞［イメージログ監視設定］＞［監視開始時刻］の順に選択します。

ページの概要

重要度 B または重要度 C に設定されている場合に、イメージログの監視を開始する時刻を設定します。



［イメージログ監視時刻］

監視を開始する時刻を AM または PM の 1 時 00 分～ 12 時 59 分の間で設定します。初期値は［12］時［00］分、［AM］です。

監視パターン

表示方法

管理者画面のメニューを［サービス設定］＞［イメージログ管理］＞［イメージログ監視設定］＞［監視パターン］の順に選択します。

ページの概要

作成した監視パターンを一覧で表示します。監視パターンの追加、編集、削除ができます。



監視パターンを追加する

1. ［パターンの追加］をクリックします。
2. ［パターン名］とイメージログの監視で使用する監視パターン（正規表現）を入力し、［OK］をクリックします。

補足

- 登録できる監視パターンは 100 件までです。
- 1 つのパターン名は最大で全角または半角の文字で 40 文字以内で入力できます。
- 1 つの監視パターンは全角または半角の文字で 256 文字以内で入力できます。
- を使用して、パターン名、監視パターン、および更新日時で登録済みの監視パターンを検索できます。
- リストから監視パターンを削除する場合は、リストの先頭にチェックマークを付けて［削除］をクリックします。または、をクリックして［削除］を選択します。

監視設定

表示方法

管理者画面のメニューを［サービス設定］＞［イメージログ管理］＞［イメージログ監視設定］＞［監視設定］の順に選択します。

ページの概要

作成した監視設定を一覧で表示します。監視設定の追加、編集、削除ができます。



補足

監視設定は最大 500 件まで設定できます。

監視設定を追加する

［監視設定の追加］をクリックします。



(1) 監視対象グループの選択

監視対象グループを選択し、［次へ］をクリックします。ユーザーをグループで管理していない場合は、［すべてのグループ］を選択してください。



(2) 監視設定名、監視方法の設定

次の項目を設定し、[次へ] をクリックします。



[監視設定名]

監視設定名を入力します。

[監視方法]

キーワード、パターン、属性条件のどれかまたはすべてを選択します。

- キーワード
  キーワードを使用する場合は、[キーワード] にチェックマークを付けます。
  イメージログに含まれるキーワードを入力します。
  複数のキーワードを指定する場合は、全角または半角の空白文字で区切ります。[OCR に使用する言語] に設定されている言語を混在させて入力できます。
  入力できる文字数は、全角または半角の文字で 256 文字以内です。
- に次のすべての語句を含む／に次のいずれかの語句を含む
  複数のキーワードを指定した場合は、キーワード間の結合条件を、[に次のすべての語句を含む] (AND 条件)、[に次のいずれかの語句を含む] (OR 条件) から選択します。初期設定では、[に次のすべての語句を含む] が選択されています。
- パターン
  パターンを使用する場合は、[パターン] にチェックマークを付けます。使用するパターン名にチェックマークを付けます。パターンはあらかじめ登録しておく必要があります。
- 属性条件
  検索条件の属性と値を設定します。＋ × で検索対象属性の追加または削除ができます。

参照
「監視パターンを追加する」(P.315)
「属性条件」(P.336)

(3) 通知先の指定

次の項目を設定し、[次へ] をクリックします。



[重要度]

監視設定の重要度を、次から選択します。

- A（5 分ごとに監視して通知）
  5 分間隔で監視します。条件に該当するイメージログを検出した場合は、すぐにメールで通知します。
- B（1 日 1 回監視して通知）
  1 日 1 回、設定された時間に監視します。条件に該当するイメージログを検出した場合は、すぐにメールで通知します。
- C（1 日 1 回監視、通知しない）
  1 日 1 回、設定された時間に監視します。メールでは通知しません。

初期設定では、[B（1 日 1 回監視して通知）] が選択されています。

1 日 1 回監視する場合の実行時間は、「監視開始時刻」（P.314）で設定します。

[通知先メールアドレス]

- 次のメールアドレスを通知先に追加する
  イメージログにキーワードが含まれていたときに通知するメールアドレスを入力します。入力できる文字数は、半角の英数字で 256 文字以内です。重要度 C の場合は、入力できません。
- 追加
  入力したメールアドレスを［通知先メールアドレス］に追加します。メールアドレスは、1 件ずつ追加します。
- 通知先メールアドレス
  イメージログにキーワードが含まれていたときに通知するメールアドレスです。最大 10 件のメールアドレスを追加できます。入力できる文字数は、半角の英数字で 256 文字以内です。

補足

通知先にはイメージログ管理責任者、またはイメージロググループ管理者の権限を持つユーザーのメールアドレスを設定してください。

- 削除
  ［通知先メールアドレス］で選択されたメールアドレスを、通知先から削除します。複数のメールアドレスを選択できます。

(4) 概要

設定した内容を確認し、[保存] をクリックすると、監視設定が作成されます。
各項目の [編集] をクリックし、設定した内容を変更することもできます。



監視設定を検索する

 を使用して、入力した文字列で監視設定を検索できます。

監視設定の内容を確認する

一覧で、確認する監視設定の ⚙ をクリックして、[詳細] を選択します。
監視設定の内容を確認できます。

監視設定の内容を変更する

一覧で、編集する監視設定の ⚙ をクリックして、[変更] を選択します。
監視設定の内容を編集できます。

監視設定を削除する

一覧から監視設定を削除する場合は、一覧の先頭にチェックマークを付けて [削除] をクリックします。または、削除する監視設定の ⚙ をクリックして、[削除] を選択します。
監視設定を削除できます。

監視結果を確認する

通知メールまたは監視履歴で、監視結果を確認できます。

参照
「監視履歴の検索」(P.340)

通知メールで確認する

重要度 A または重要度 B の監視条件に該当したイメージログが登録されると、設定したメールアドレスに通
知メールが届きます。
通知メールは、監視条件単位で送信されます。また、監視条件に該当する UUID が 100 件を超える場合

は、100 件単位で複数のメールが送信されます。
通知されるメールの例を以下に示します。
テンプレートファイルを編集することで、メールの件名や本文が変更できます。

補足

通知メールの言語は、OS の言語に準拠します。

件名：

```
<Image Log Management> 監視対象のイメージログが登録されました
```

本文：

```
**********************************************************************
本メールは ApeosWare Management Suite により自動送信されています。
本メールには返信できません。
**********************************************************************

次の監視設定に該当するイメージログが登録されました。
{監視設定名}

監視履歴画面の URL:
{監視履歴画面へのリンク}

登録されたイメージログの UUID は、次の通りです。
{監視条件に該当したジョブの UUID 一覧}
```

監視結果は、次のどちらかの方法で確認できます。

- メールに記載されている監視履歴画面の URL にアクセスして、［監視履歴］ページで確認します。

  補足

  監視履歴に表示される内容は、イメージログの検索結果と同様です。

  参照

  「監視履歴の検索」（P.340）

- ［イメージログの検索］ページを表示し、メールに記載されている UUID を検索キーにして該当のイメージログを検索します。

  参照

  「イメージログを検索する」（P.335）

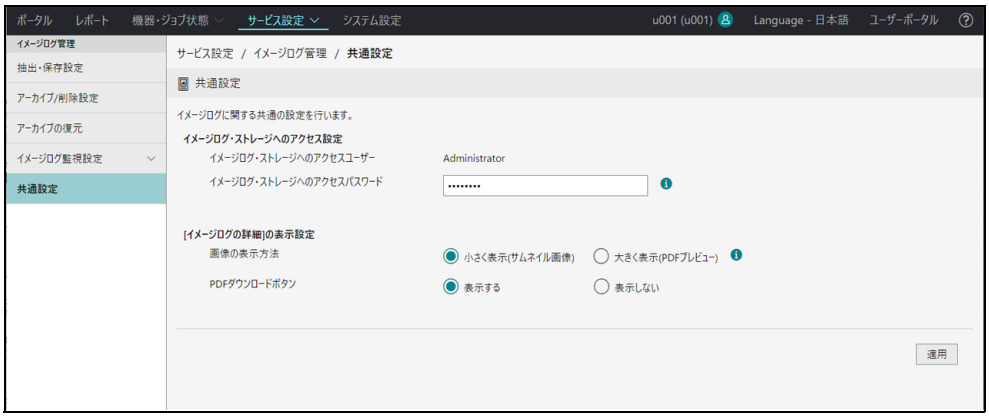
共通設定

表示方法

管理者画面のメニューを［サービス設定］＞［イメージログ管理］＞［共通設定］の順に選択します。

ページの概要

イメージログ・ストレージへのアクセスユーザーのパスワードを設定します。



イメージログ・ストレージへのアクセス設定

[イメージログ・ストレージへのアクセスユーザー]

イメージログ・ストレージのアクセスユーザーのユーザー名がログイン先に合わせて表示されます。
ドメインの場合「domain¥user」と表示されます。この項目は変更できません。

[イメージログ・ストレージへのアクセスパスワード]

イメージログ・ストレージのアクセスユーザーのパスワードを設定します。
入力できる文字列は、ASCII コードの文字で、1 ～ 128 文字です。

[イメージログの詳細] の表示設定

[画像の表示方法]

イメージログの詳細を表示するとき、表示されるイメージログの表示方法を設定します。

[PDF ダウンロードボタン]

イメージログの PDF をダウンロードするためのボタンを表示するかどうかを設定します。

イメージログ受信状況

表示方法

管理者画面のメニューを［機器・ジョブ状態］＞［イメージログ状態］＞［イメージログ受信状況］の順に選択します。

ページの概要

イメージログの受信状況を機器ごとに表示します。

［編集］をクリックして、表示対象の機器グループを変更できます。



補足

を使用して、機器名、設置場所、機種名、ネットワーク、受信サーバー、およびイメージログの最終受信日時で機器グループを検索できます。

11 ジョブログの集計 / レポート

Web ブラウザーからの設定と確認

Web ブラウザーから集計に関する設定と確認ができます。

補足

Cost Recovery Option が利用されている場合、ユーザーポータル画面で、次のレポートの種類が利用できます。
・アカウントの使用と補充の履歴
・アカウント使用量
・ジョブログの検索

それぞれのページでどのようなことができるかを説明します。

ページ	説明
レポート名の一覧	機器から収集したジョブログをさまざまな角度から集計して、各種レポートを作成します。消耗品の状況も表示できます。
集計 / 分析レポート	集計一覧レポート、集計グラフレポート、分析一覧レポートの集計条件および表示項目を設定して、レポートを作成します。
カスタムレポートの一覧	作成したカスタム設定の一覧を表示します。また、カスタム設定の内容を編集したり、削除したりします。
ジョブログの検索	機器、ユーザー、日時などの条件を指定して、ジョブログを検索します。
イメージログの検索	機器、ユーザー、日時などの条件を指定して、イメージログを検索します。
監視履歴	監視設定に一致したイメージログを検索します。

レポート名の一覧

表示方法

管理者画面のメニューで［レポート］を選択します。サイドメニューから、作成したいレポートの種類を選択します。

ページの概要

機器から収集したジョブログや、イメージログの監視結果をさまざまな角度から集計して、定型レポートやカスタムレポートを作成します。消耗品の状況も表示できます。作成したレポートは、形式を指定してファイルに保存できます。

補足

イメージログの監視をレポートするには、コアサーバー用のライセンスと OCR ライセンスが有効である必要があります。

定型レポートを作成する

条件を設定して、作成したいレポートの［レポートの作成］をクリックします。



［機器のサービス種別］

集計の対象とするサービスにチェックマークを付けます。

［期間］

集計の対象とする期間を選択します。

［レポート形式］

レポート結果の出力形式を選択します。

［画面表示］を選択すると、レポート結果がレポート結果ウィンドウに表示されます。［PDF］、［Word］、または［Excel］を選択すると、レポート結果がそれぞれの形式のファイルに保存されます。

補足

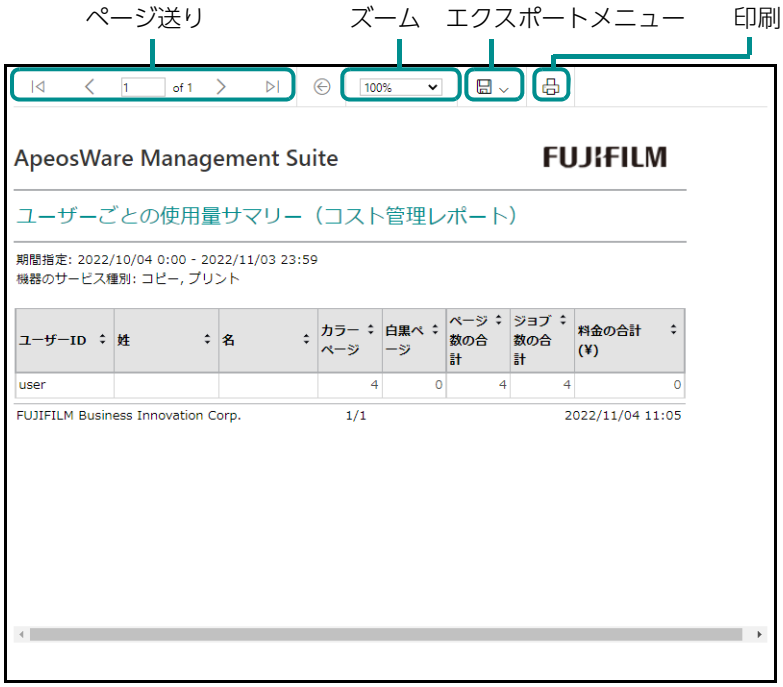
レポートの種類によっては、［CSV］も選択できます。

参照

「レポート結果ウィンドウ」（P.324）

レポート結果ウィンドウ

［レポート形式］で［画面表示］を選択してレポートを作成すると、レポート結果ウィンドウが表示されます。



ページ送り

レポート結果が複数のページにまたがるときに、表示するページを変更します。

[ズーム]

レポートを拡大 / 縮小して表示できます。

[印刷]

レポートを印刷できます。

エクスポートメニュー

レポート結果をファイルに保存します。をクリックして表示されるメニューから、保存する形式を選択します。PDF、Microsoft Word、または Microsoft Excel のどれかを選択できます。

並び替え

表のデータを並べ替えます。項目タイトルの右横の をクリックすると、その項目の値で、昇順または降順にソートされます。アイコンの形状が または になっている列が、現在の並び順の基準になっています。

カスタム設定をする

作成したいレポートの［カスタム設定］をクリックし、表示されるダイアログボックスで各項目を設定します。設定できる項目は、選択しているレポートの種類によって異なります。

補足

- ［カスタム設定］は、［ユーザー管理］の［アクセスプロファイルの設定］で、［レポートの閲覧と編集］に［許可する］が設定されている場合に表示されます。
  ［環境関連レポート］の［使用量の概要レポート］は、カスタム設定できません。
- カスタム設定で次の項目を指定する場合、指定できる最大数は次の個数です。
  - 機器グループ：100 以下
  - 機器：100 以下
  - アカウント：100 以下
  - ユーザーグループ：50 以下
  - ユーザー：50 以下
  - コストセンターコード：1500byte 以下
    例えば、コストセンターコードを10文字で入力する場合、最大で30個選択できます。(1文字が4byteの場合)

・モデル名：50 以下
・シリアル No：50 以下



参照

「アクセスプロファイル一覧」（P.136）

[機器のサービス種別]

集計の対象とするサービスにチェックマークを付けます。

[期間]

集計の対象とする期間を選択します。実行日を起点に、指定した期間のレポートが作成されます。[任意指定] を選択すると、集計の対象とする開始日、終了日を任意の日時で指定できます。

[レポート形式]

レポート結果の出力形式を選択します。

[画面表示] を選択すると、レポート結果がレポート結果ウィンドウに表示されます。[PDF]、[Word]、または [Excel] を選択すると、レポート結果がそれぞれの形式のファイルに保存されます。



参照

「レポート結果ウィンドウ」（P.324）

[レポートグラフ形式]

グラフレポートを作成するときに設定します。

[折れ線グラフ] か、[棒グラフ] かどちらかを選択します。

[出力形式]

[サービス料金による使用量のグラフ表示] のレポートを作成するときに設定します。

集計する項目を [料金]、[ページ数] から選択します。

[グループごと]

ユーザーグループを集計の対象にするか、機器を集計の対象にするかを選択します。

[機器グループ]

すべての機器グループを集計の対象にするか、集計対象の機器グループを指定するかを選択します。[選択] を選択した場合は、対象の機器グループを選択します。

レポートの種類によっては、次の項目も指定します。

- [サブ機器グループ内の機器を含む]

  チェックマークを付けると、指定した機器グループの下位のグループも含む、すべての機器が、集計の対象になります。チェックマークを外すと、指定した機器グループ直下の機器だけが、集計の対象になります。

- [機器グループごとに表示する]

  チェックマークを付けると、集計した結果が機器グループごとに表示されます。



補足

[サブ機器グループ内の機器を含む] の項目を選択できないときは、指定した機器グループ直下の機器だけが、集計の対象になります。

[機器]

すべての機器を集計の対象にするか、集計対象の機器を指定するかを選択します。[選択] を選択した場合は、対象の機器を選択します。

[アカウントの種類]

集計対象にするアカウントの種類を選択します。

- すべて
- 個人アカウント
- 共有アカウント
- すべてのユーザーのアカウント
  アカウントの設定で［すべてのユーザーが使える共有アカウント］が設定されたアカウントです。

[コストセンターコード]

すべてのコストセンターコードを集計の対象にするか、集計対象のコストセンターコードを指定するかを選択します。［選択］を選択した場合は、対象のコストセンターコードを選択します。

[クライアントへの請求可能]

チェックマークを付けると、［クライアントへの請求可能］にチェックマークを付けて実行したジョブだけの、使用量レポートを作成します。



補足

［クライアントへの請求可能］は、［すべてのユーザーが使える共有アカウントにする］と［クライアントへの請求を可能にする］が有効なアカウントを選択した場合だけ有効な機能です。アカウントの作成方法については、「アカウントを作成する」（P.200）を参照してください。

[アカウントでのフィルタ]

アカウント単位のレポートを作成する場合は、［アカウントごとに表示する］にチェックマークを付けます。サブアカウント単位のレポートを作成する場合は、［サブアカウントごとに表示する］にチェックマークを付けます。

[アカウント]

すべてのアカウントを集計の対象にするか、集計対象のアカウントを指定するかを選択します。［選択］を選択した場合は、対象のアカウントを選択します。

サブアカウント単位のレポートを作成する場合は、［サブアカウントごとに表示する］にチェックマークを付けます。

[サブアカウントの表示条件]

サブアカウントの表示条件を設定します。この設定は、アカウントに親子関係を設定している場合に有効です。

- ［サブアカウントを含む］
  チェックマークを付けると、集計の対象にサブアカウントが含まれます。
- ［サブアカウントごとに表示する］
  チェックマークを付けると、集計した結果がサブアカウントごとに表示されます。

[アカウント / ユーザーグループの関連を含む]

アカウントと関連するユーザーグループの情報を含んだレポートを作成する場合に、チェックマークを付けます。

[残高の表示]

残高をレポートの対象にする場合にチェックマークを付けます。残高の種別単位のレポートを作成するときは、［残高の種別ごとに表示する］にチェックマークを付けます。

[ユーザーのクレジット操作記録を含む]

作成するレポートにユーザーのクレジットの操作履歴を記録する場合に、チェックマークを付けます。

[ユーザーグループ]

すべてのユーザーグループを集計の対象にするか、集計対象のユーザーグループを指定するかを選択します。[選択] を選択した場合は、対象のユーザーグループを選択します。

レポートの種類によっては、次の項目も指定します。

- [サブユーザーグループ内のユーザーを含む]

  チェックマークを付けると、指定したユーザーグループの下位のグループも含む、すべてのユーザーが、集計の対象になります。チェックマークを外すと、指定したユーザーグループ直下のユーザーだけが、集計の対象になります。

- [サブのユーザーグループごとに表示する]

  チェックマークを付けると、集計した結果がサブユーザーグループごとに表示されます。



補足

[サブユーザーグループ内のユーザーを含む] の項目を選択できないときは、指定したユーザーグループ直下のユーザーだけが、集計の対象になります。

[ユーザー]

すべてのユーザーを集計の対象にするか、集計対象のユーザーを指定するかを選択します。[選択] を選択した場合は、対象のユーザーを選択します。

未登録のユーザーによる操作のみを集計する場合は、[未登録ユーザーのみ] にチェックマークを付けます。

[無効なユーザーを含む]

無効なユーザーもレポートの対象にする場合は、チェックマークを付けます。

[カラーモードごとに表示]

グラフレポートを作成するときに設定します。

カラーページと白黒ページを色分けする場合はチェックマークを付けます。

[用紙削減の算出方法]

[使用量の分析レポート] を作成するときに設定します。

用紙の削減枚数を計算するためのパラメーターを指定します。

- N アップ

  1 アップでプリントしたジョブを、もし 2 アップでプリントしていたとしたら削減できていた枚数を計算します。

- 両面

  片面でプリントしたジョブを、もし両面でプリントしていたとしたら削減できていた枚数を計算します。

- N アップ（両面）

  1 アップ片面、1 アップ両面、および 2 アップ片面でプリントしたジョブを、もし 2 アップ両面でプリントしていたとしたら削減できていた枚数を計算します。



参照

「用紙の削減枚数の計算」（P.347）

[モデル名]

機器のモデル名でレポート対象を指定できます。

[シリアル No]

機器のモデル名とシリアル番号でレポート対象を指定できます。

[レポート出力結果に表示条件を含める]

集計対象の期間やサービス種別など、レポート作成の条件をレポート結果に表示する場合は、チェックマークを付けます。

[UPN を表示する]

UPN（User Principal Name）が設定されていて、ユーザー ID とその値を表示するときに、チェックマークを付けます。

カスタムレポート保存 / 自動レポート設定

[カスタム設定] ダイアログボックスで [カスタムレポート保存 / 自動レポート設定] をクリックし、表示されるダイアログボックスで各項目を設定します。レポート名を設定して、カスタム設定をカスタムレポートとして登録したり、定期的にレポートを作成する自動レポート設定をしたりできます。

補足

・保存したカスタム設定は、カスタムレポート一覧で確認、編集ができます。
・自動レポート機能でレポートを作成する場合、ApeosWare Management Suite をインストールした OS の言語でレポートを作成します。
・自動レポートで指定した期日に機器のジョブログ収集が未実施の場合は、正しく情報が集計されません。機器のジョブログ収集が完了してから集計できるように、締め日から十分な時間を空けてから集計してください。
なお、ジョブログ収集は、初期設定では 1 日 1 回 0:00 に実施されます。
例えば、月末に自動レポートで集計する場合、ジョブログの収集の余裕を持たせるために、[月ごと] で月の 2 日と設定し、翌月の 2 日に前月分のレポートを作成します。

参照

・『導入・運用ガイド』の「認証 / 集計設定について」
・「カスタムレポートの一覧」（P.332）

[レポート名]

保存するカスタム設定の名前を入力します。

[説明]

必要に応じて、カスタム設定の説明を入力します。

[自動レポート設定]

自動でレポート設定を実行するスケジュールを指定します。

- しない

  自動レポート設定を実行しません。

- 一回のみ

  自動レポート設定を、指定した日時に 1 回だけ実行します。

- 時間ごと

  自動レポート設定を、指定した時間単位の間隔で実行します。

- 日ごと

  自動レポート設定を、指定した日単位の間隔で実行します。

- 週ごと

  自動レポート設定を、指定した週単位の間隔で実行します。

- 月ごと

  自動レポート設定を、指定した月単位の間隔で実行します。

補足

登録した自動レポート設定が最初に実行される日は、翌日以降のスケジュールに該当する日です。

[間隔]

自動レポート設定の実行を開始する間隔を指定します。週ごとの場合は実行する曜日、月ごとの場合は実行する日にちも指定します。

[開始日]

自動レポート設定の実行を開始する日を指定します。

[時刻]

自動レポート設定を実行する時刻を指定します。

[レポートのメール送信]

自動レポート設定が処理された結果をメールで通知するための、通知先アドレス、件名、およびメッセージを入力します。＋をクリックすると、メールアドレスを複数設定できます。

[フォルダーにレポートを保存]

自動レポート設定で作成したレポートを保存するフォルダーを指定します。

- [ネットワークパス]

  レポートの保存先のパスを、UNC 形式で指定します。

  例：
  ￥￥192.0.2.1￥share￥myfolder
  ￥￥servername￥share￥myfolder

- [ユーザー ID] / [パスワード]

  保存先のパスにアクセスするための、ユーザー ID とパスワードを入力します。

補足

保存フォルダーに指定したドライブに、十分な空き容量があることを確認してください。

集計 / 分析レポート

表示方法

管理者画面のメニューを［レポート］＞［集計 / 分析レポート］の順に選択します。

ページの概要

次のレポートを作成します。

- 集計一覧レポート
  所属、ユーザー、機器などで面数、枚数、ジョブ数などを集計し、一覧表を作成します。
- 集計グラフレポート
  所属、ユーザー、機器などで面数または枚数を集計したグラフを作成します。
- 分析一覧レポート
  両面印刷や N アップによって削減できる用紙枚数や、両面印刷や N アップによって削減が実施されている用紙枚数などの一覧表を作成します。



[カスタム設定]

集計一覧レポート、集計グラフレポート、分析一覧レポートの集計条件および表示項目を設定して、レポートを作成します。

カスタム設定画面の設定項目

[機器のサービス種別]

集計の対象とするサービスにチェックマークを付けます。

[期間]

集計の対象とする期間を選択します。

[レポート形式]

レポート結果の出力形式を選択します。

[画面表示] をクリックすると、レポート結果がレポート結果ウィンドウに表示されます。[PDF]、[Word]、[Excel] または [CSV] を選択すると、レポート結果がそれぞれの形式のファイルに保存されます。

[ユーザーグループ]

すべてのユーザーグループを対象にするか、ユーザーグループを選択します。

[機器]

すべての機器を対象にするか、機器を選択します。

補足

カスタム設定で機器を選択する場合、指定できる最大数は 100 です。

[文書種別]

分類一覧レポートで設定できます。文書種別を選択します。

[集計キー]

集計一覧レポートおよび分類一覧レポートで設定できます。キーの優先順位を設定します。

[表示項目]

集計一覧レポートおよび分類一覧レポートで設定できます。表示項目にチェックマークを付けます。

[表の形式]

[表示] をクリックすると、サンプルを表示します。集計一覧レポートおよび分類一覧レポートで表示されます。

[対象]

集計グラフレポートで設定できます。「ユーザーごと」、「所属ごと」、「機器ごと」、「機種ごと」、「アカウントごと」のどれかを選択します。

[分類]

集計グラフレポートで設定できます。「区別しない」、「カラーモードごと」、「サービスごと」のどれかを選択します。

[カウント単位]

集計グラフレポートで設定できます。[面数] または [枚数] のどちらかを選択します。

[グラフの形式]

[表示] をクリックすると、サンプルを表示します。集計グラフレポートで表示できます。

[レポート出力結果に表示条件を含める]

集計対象の期間やサービス種別など、レポート作成の条件をレポート結果に表示する場合は、チェックマークを付けます。

[カスタムレポート保存 / 自動レポート設定]

[カスタム設定] ダイアログボックスを表示します。レポート名を設定して、カスタム設定をカスタムレポートとして登録したり、定期的にレポートを作成する自動レポート設定をしたりできます。

参照
「カスタムレポート保存 / 自動レポート設定」(P.329)

[レポートの作成]

[レポート形式] で指定した形式で、レポートを作成します。

カスタムレポートの一覧

表示方法

管理者画面のメニューを [レポート] > [カスタムレポートの一覧] の順に選択します。

ページの概要

レポート名の一覧ページで作成したカスタム設定の一覧を表示します。カスタム設定の内容を編集したり、削除したりできます。



カスタムレポートを作成する

作成するレポートの［レポートの作成］をクリックします。

設定されている内容でレポートが作成されます。

参照

「レポート結果ウィンドウ」(P.324)

カスタム設定を削除する

カスタムレポート一覧で削除するカスタム設定の⚙をクリックして、［削除］を選択します。

カスタム設定を変更する

カスタムレポート一覧で変更するカスタム設定の⚙をクリックして、［プロパティ］を選択します。

参照

「カスタム設定をする」(P.325)

ジョブログの検索

表示方法

管理者画面のメニューで［レポート］を選択します。サイドメニューから、［ジョブログの検索］を選択します。

ページの概要

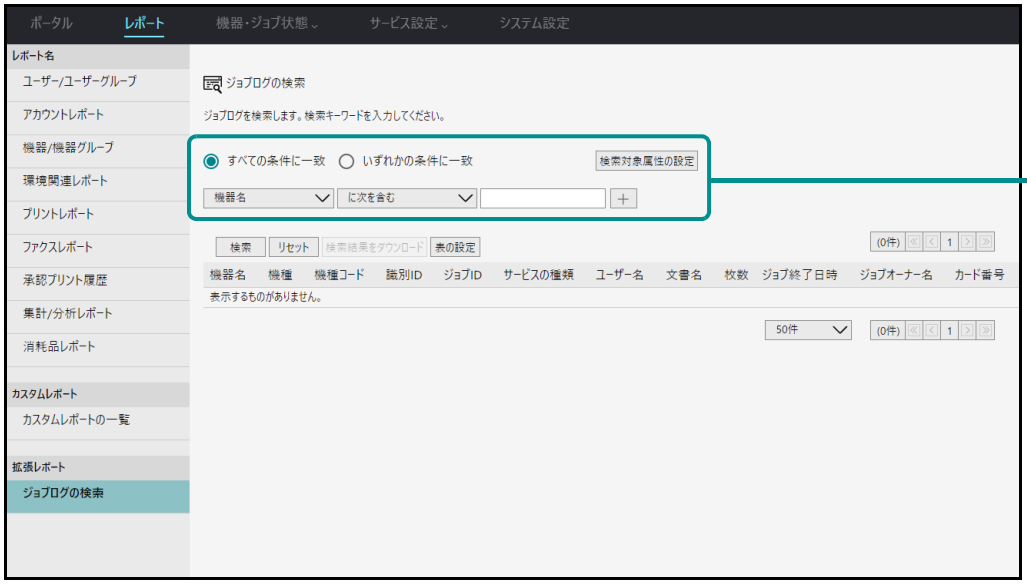
機器、ユーザー、日時などの条件を指定して、ジョブログを検索できます。

補足

ユーザーポータルでもジョブログの検索ができますが、ログインユーザーのジョブだけが検索対象です。

ジョブログを検索する

検索条件を設定して、［検索］をクリックします。



左端のメニューから、検索の対象にする属性を選択します。

左から 2 番目のメニューから、検索の演算方法を選択します。

メニューに表示される演算方法は、検索項目の種類に応じて変わります。

検索条件を追加する場合は、［+］をクリックします。検索条件は 5 つまで追加できます。

複数の検索条件を設定したときは、［すべての条件に一致］または［いずれかの条件に一致］を選択します。

検索結果を表示する

［検索］をクリックすると、ジョブログの検索結果が表示されます。

補足

・検索結果が 1000 件を超える場合は、最初の 1000 件が表示されます。
・検索結果の一覧に表示される項目は、［表の設定］をクリックして変更できます。

ページ送り

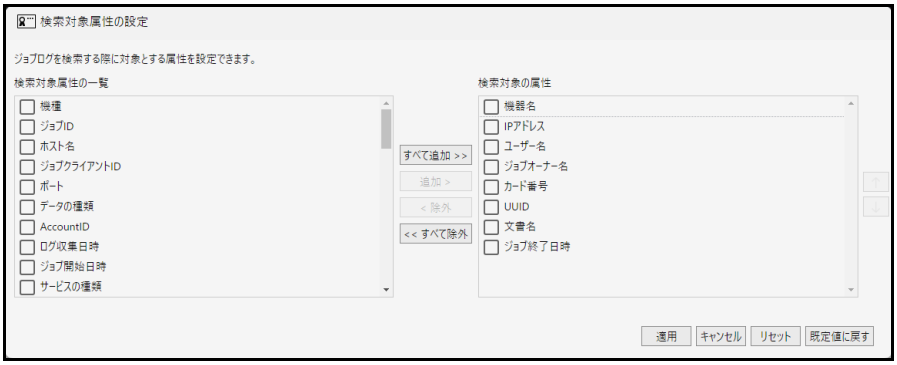
レポート結果が複数のページにまたがるときに、表示するページを変更します。

検索結果をダウンロード

検索結果の一覧表を、CSV 形式のテキストファイルとして保存します。

検索対象の属性を追加・削除する

［ジョブログの検索］ページで、［検索対象属性の設定］をクリックすると、［検索対象属性の設定］ページが表示されます。



左側の［検索対象属性の一覧］で追加したい属性にチェックマークを付け、［追加］をクリックします。

削除する場合は、右側の［検索対象の属性］で削除したい属性にチェックマークを付け、［除外］をクリックします。

イメージログの検索

表示方法

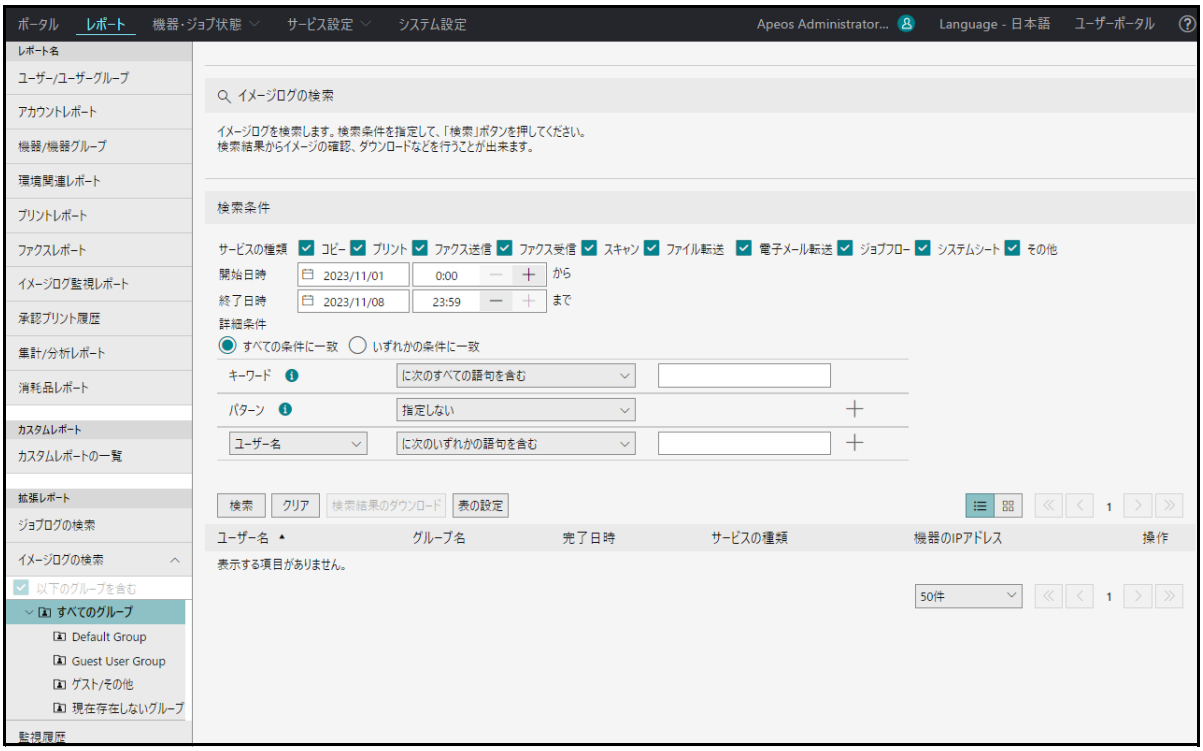
管理者画面のメニューで［レポート］を選択します。サイドメニューから、［イメージログの検索］を選択します。

ページの概要

機器、ユーザー、日時などの条件を指定して、イメージログを検索できます。

イメージログを検索する

検索条件を設定して、［検索］をクリックします。



[サービスの種類]

検索対象とするサービスの種類にチェックマークを付けます。

[開始日時 / 終了日時]

ジョブが完了した時刻の範囲を、範囲の開始日時～範囲の終了日時で指定します。

をクリックするとカレンダーが表示され、開始日、および終了日を選択できます。

開始日時の初期値は、[イメージログの検索] ページを表示した日の 7 日前の [0:00] です。

終了日時の初期値は、[イメージログの検索] ページを表示した日の [23:59] です。

[すべての条件に一致] / [いずれかの条件に一致]

サービスの種類、日付、およびグループ ID 以外の検索条件を、AND 検索（[すべての条件に一致]）するか、OR 検索（[いずれかの条件に一致]）するかを選択します。

[キーワード]

イメージログに含まれるキーワードを入力します。複数のキーワードを入力する場合は、全角または半角の空白文字で区切ります。複数のキーワードを指定した場合は、キーワード間の結合条件を、[に次のすべての語句を含む]（AND 条件）、[に次のいずれかの語句を含む]（OR 条件）から選択します。初期設定では、[に次のすべての語句を含む] が選択されています。

[OCR に使用する言語] に設定されている言語を、混在させて入力できます。入力できる文字数は、全角または半角の文字で 256 文字以内です。

補足

キーワードを検索条件にするには、OCR ライセンスが有効である必要があります。

[パターン]

OCR 処理に使用する言語の設定に登録したフィルターパターンを検索に利用できます。

[+] [-] で検索に使用するフィルターパターンを増減できます。

補足

パターンを検索条件にするには、OCR ライセンスが有効である必要があります。

属性条件

検索条件の属性と値を設定します。＋ × で検索対象属性の追加または削除ができます。

文字列を入力する場合、入力した文字列と一致、または部分一致する属性値を持つジョブが、検索結果として出力されます。部分一致で検索する場合、大文字と小文字は区別されません。複数入力したときは、入力した文字列のどれかに一致、または部分一致する属性値を持つジョブが、検索結果として出力されます（OR 条件）。[に次の文字列全体（含スペース）を含む]、または [が次の文字列全体（含スペース）と一致する] を選択した場合は、スペースを含む全文で検索した結果が出力されます。

指定できる属性と値は、次のとおりです。

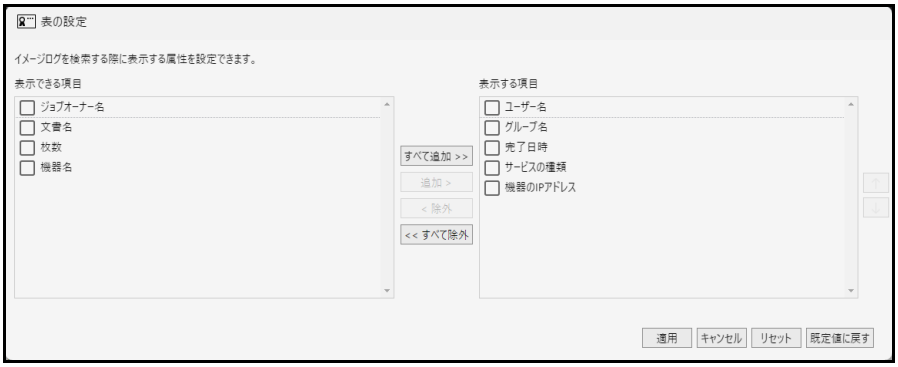
属性	設定する内容	指定方法 / 検索方法
ジョブ ID	機器がジョブごとに割り振った ID を入力します。 入力できる文字数は、全角または半角の文字で 256 文字以内です。	文字列入力 / 完全一致
UUID	機器がジョブごとに割り振った UUID を入力します。 入力できる文字数は、全角または半角の文字で 256 文字以内です。	
ジョブ終了状態	ジョブの状態を、次から選択します。 ・すべて ・正常終了のみ ・正常終了以外 [正常終了] とは、ジョブの状態が「completed」であるジョブをいいます。	項目選択

属性	設定する内容	指定方法 / 検索方法
ジョブ名	ジョブの名前を入力します。 入力できる文字数は、全角または半角の文字で 256 文字以内です。	文字列入力 / 部分一致
機器のホスト名	ジョブを実行した機器のインターネットホスト名を入力します。 入力できる文字数は、半角の英数字とハイフン（-）で、256 文字以内です。	文字列入力 / 部分一致
機器の IP アドレス	ジョブを実行した機器の IP アドレス（IPv4）を入力します。 入力できる文字数は、半角数字とピリオド（.）で、256 文字以内です。	文字列入力 / 完全一致
機器名	ジョブを実行した機器の機器名を入力します。 入力できる文字数は、全角または半角の文字で 256 文字以内です。	文字列入力 / 部分一致
ジョブオーナー名	ジョブを実行したユーザーのユーザー ID を入力します。 入力できる文字数は、全角または半角の文字で 256 文字以内です。	文字列入力 / 部分一致
ユーザー名	ジョブを実行したユーザーのユーザー名を入力します。 入力できる文字数は、全角または半角の文字で 256 文字以内です。	文字列入力 / 部分一致
面数	比較条件を次から選択します。 ・次の数未満 ・次の数以上 処理面数を、1 ～ 999 の整数で入力します。 ここで指定する「面数」とは、それぞれ次の値を表します。 ・コピー、プリント：印刷した面数 ・ファクス送信：送信したページ数 ・ファクス受信：受信したページ数 ・スキャン：入力枚数	比較条件と整数入力
部数	比較条件を次から選択します。 ・次の数未満 ・次の数以上 部数を、1 ～ 999 の整数で入力します。	比較条件と整数入力
プリント面のカラーモード	プリント時のカラ ― モードを、次から選択します。 ・フルカラー ・2 色カラー ・単色カラー ・少数色カラー ・安価なカラーモード ・その他	項目選択
まとめて一枚	プリント時の割り付け方法を、次から選択します。 ・1 アップ ・2 アップ ・4 アップ ・8 アップ ・16 アップ ・32 アップ ・自動 ・その他	項目選択
クライアントのホスト名	プリント処理を指示したクライアントのインターネットホスト名を入力します。 入力できる文字数は、半角の英数字とハイフン（-）で、256 文字以内です。	文字列入力 / 部分一致
クライアントの IP アドレス	プリント処理を指示したクライアントの IP アドレス（IPv4）を入力します。	文字列入力 / 完全一致

属性	設定する内容	指定方法 / 検索方法
ポート	次から選択します。 ・パラレル ・シリアル ・Ethertalk ・lpd ・NetWare:PServer ・NetWare:RPrinter ・Salutation ・IPP ・SMB ・SMTP ・POP3 ・Port9100 ・USB ・HTTP ・BMLinkS ・WSD Print ・ThinPrint ・FTP ・Report/List ・PS Initalize ・HDD ・G3 ・G4 ・Netware ・OEMHTTP ・Media ・WebDAV ・Report/List ・PS Initalize ・HDD ・G3 ・G4 ・Netware ・OEMHTTP ・Media ・WebDAV ・その他	項目選択
文書名	ジョブに付けられているファイル名を入力します。 入力できる文字数は、全角または半角の文字で 256 文字以内です。	文字列入力 / 部分一致
ファクス相手先電話番号	ファクスの通信相手（送信先 / 発信元）の電話番号を入力します。 入力できる文字数は、半角数字で 256 文字以内です。	文字列入力 / 部分一致
F コード	ファクスの送信先 / 発信元の F コードを入力します。 入力できる文字数は、ASCII コードの文字で 256 文字以内です。	文字列入力 / 部分一致
データ種別	検索対象のデータを、次から選択します。 ・通常データ 通常のイメージログを検索します。 ・アーカイブデータ 保管期限を過ぎたイメージログ（アーカイブデータ）を検索します。 ・削除対象データ (一時保存) キーワード、およびパターンによるフィルター機能で削除対象となり、一時的に保存されているファイルを検索します。	項目選択

[表の設定]

表示形式がリスト表示の場合に、検索結果の一覧に表示する項目を変更します。

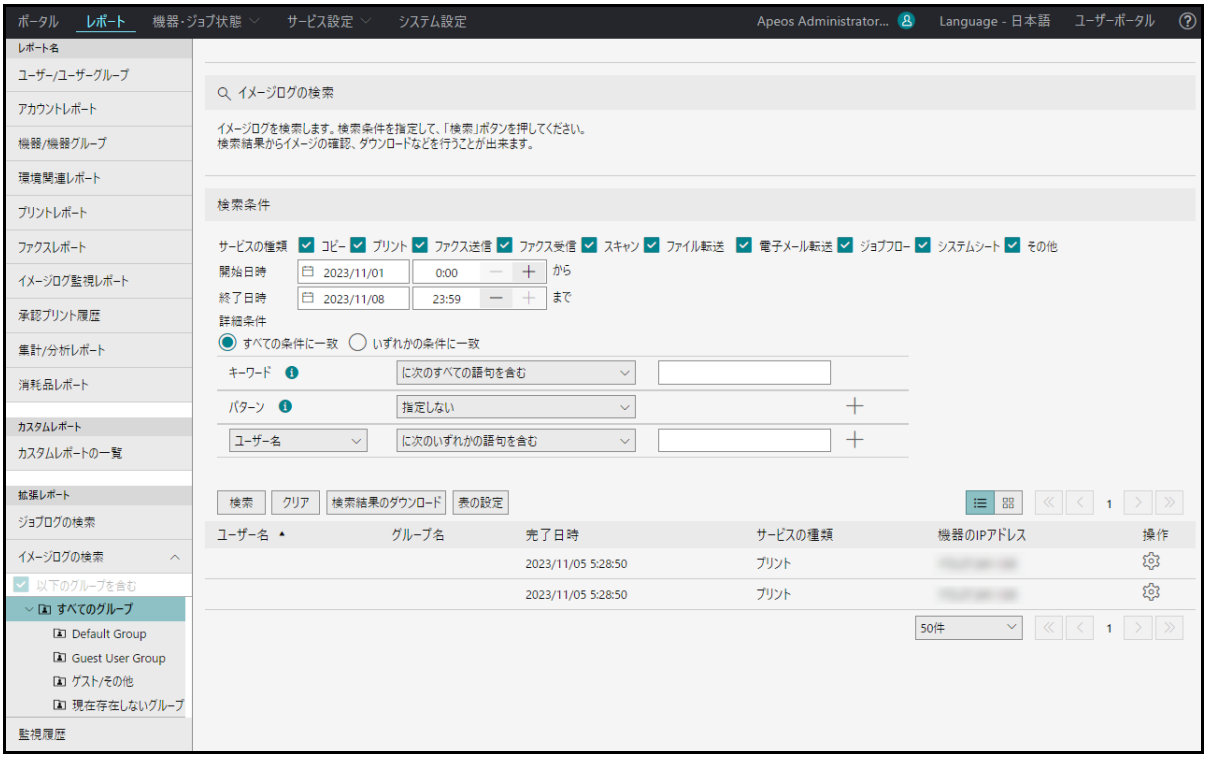


左側の［表示できる項目］で追加したい属性にチェックマークを付け、［追加］をクリックします。

削除する場合は、右側の［表示する項目］で削除したい属性にチェックマークを付け、［除外］をクリックします。

検索結果を表示する

［検索］をクリックすると、すべての検索条件を満たすイメージログの検索結果が下部に表示されます。



検索条件の非表示

をクリックすると、検索条件を折りたためます。をクリックすると、折りたたんだ検索条件を展開できます。

(リスト表示アイコン / サムネイル表示アイコン)

検索結果の表示を、リスト表示またはサムネイル表示に切り替えます。

ページ送り

検索結果が複数のページにまたがるときに、表示するページを変更します。

[検索結果をダウンロード]

検索結果の一覧表を、CSV 形式のテキストファイルとして保存します。

イメージログの詳細を表示する

イメージログ検索結果一覧で⚙をクリックして、[詳細] をクリックするか、[詳細情報] をクリックすると、イメージログの詳細が表示されます。表示されるイメージログの詳細画像は「[イメージログの詳細] の表示設定」(P.321) の [画像の表示方法] で設定した表示方法で表示されます。

[ダウンロード]

イメージログの画像の内容を、PDF ファイルとして保存します。

「[イメージログの詳細] の表示設定」(P.321) の [PDF ダウンロードボタン] で [表示しない] に設定している場合、この項目は表示されません。

[通常データへの変更]

データ種別が「削除対象データ（一時保存)」の場合に、通常データに変換します。

PDF プレビュー

PDF ファイルの内容をプレビュー表示します。プレビュー画面の使い方は次のとおりです。

- : PDF の各ページのサムネイルを表示します。サムネイルをクリックすると該当のページが表示されます。
- : 指定したキーワードで PDF 内を検索します。
- 1 /5 : ページ番号を指定して、該当のページを表示します。
- − + : PDF を拡大または縮小して表示します。
- : その他の機能を使用できます。(ページ表示の回転、ページのスクロール方法の切り替え)

監視履歴の検索

表示方法

管理者画面のメニューで [レポート] を選択します。サイドメニューから、[監視履歴] を選択します。

補足

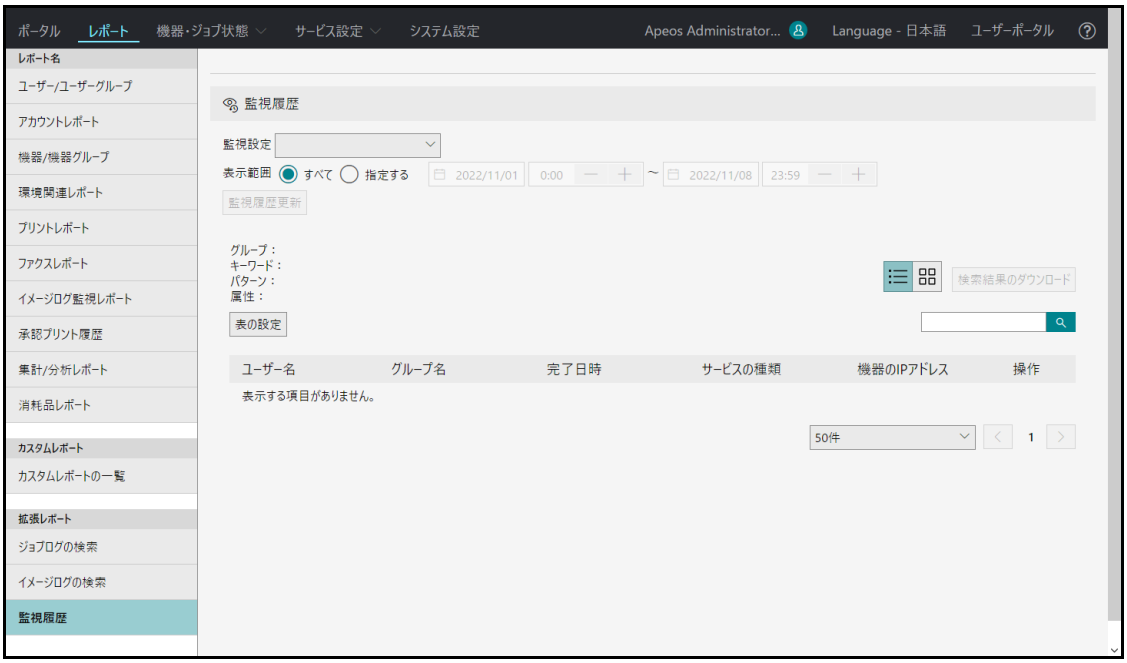
この機能は、コアサーバー用のライセンスと OCR ライセンスが有効な場合のみ表示されます。

ページの概要

監視設定に一致したイメージログを検索できます。

監視履歴を検索する

検索条件を設定して、［監視履歴更新］をクリックします。



［監視設定］

監視設定を選択します。

［表示範囲］

監視履歴結果に表示するイメージログの日時の範囲を指定します。

すべての範囲を表示する場合は［すべて］を選択します。日時を指定する場合は［指定する］を選択します。をクリックするとカレンダーが表示され、開始日、および終了日を選択できます。

［監視履歴更新］

監視設定、監視範囲を条件として監視結果一覧を更新します。

［詳細］

監視設定のパターンが 3 個以上ある場合に表示されます。クリックすると［監視履歴パターン詳細］ページが表示されます。

［表の設定］

表示形式がリスト表示の場合に、検索結果の一覧に表示する項目を変更します。



左側の［表示できる項目］で追加したい属性にチェックマークを付け、［追加］をクリックします。
削除する場合は、右側の［表示する項目］で削除したい属性にチェックマークを付け、［除外］をクリックします。

検索結果を表示する

［監視履歴更新］をクリックすると、監視設定に基づくイメージログの検索結果が下部に表示されます。



(リスト表示アイコン / サムネイル表示アイコン)

検索結果の表示を、リスト表示またはサムネイル表示に切り替えます。

ページ送り

検索結果が複数のページにまたがるときに、表示するページを変更します。

検索結果のダウンロード

検索結果の一覧表を、CSV 形式のテキストファイルとして保存します。

検索結果の出力項目

検索結果のダウンロードファイルには、ジョブの属性名と属性値が出力されます。イメージログの検索結果一覧や［イメージログの詳細］ダイアログボックスには、属性名と属性値に対応した項目名が出力されます。次の表に、検索結果のダウンロードファイルに出力される内容と、［イメージログの詳細］ダイアログボックスに出力される内容を、それぞれ対応して示します。

サービスの種類に依らず、属性値を持つ属性はすべて出力されます。

- 共通属性

ダウンロードファイル		イメージログの詳細	
属性名	属性値	項目名 *1	項目値
UUID		UUID	
Job ID		ジョブ ID	

ダウンロードファイル		イメージログの詳細	
属性名	属性値	項目名 *1	項目値
Service Type	Copy	サービスの種類	コピー
	Print		プリント
	FAX_Send		ファクス送信
	FAX_Receive		ファクス受信
	Scan		スキャン
	System Sheet		システムシート
	File Transfer		ファイル転送
	Email Transfer		電子メール転送
	Job Flow		ジョブフロー
Job Name		ジョブ名	
Start Time		ジョブ開始日時	
Complete Time		ジョブ完了日時	
Receive Time		ジョブ受信日時	
Device Host Name		機器のホスト名	
Device IP Address		機器の IP アドレス	
Printer Name		機器名	
Job Owner Name		ジョブオーナー名	
User Name		ユーザー名	
Group ID		グループ ID	
Group Name		グループ名	
Job Status	other	ジョブ終了状態	その他
	unknown		不明
	created		未終了
	pending		
	processing		
	interrupted		
	retained		
	held		
	paused		
	terminating		
	completed		正常終了
	completedWithError		警告終了
	completedWithWarning		
	canceledByUser		強制終了
	canceledBySystem		異常終了
Document Name		文書名	
Impressions		面数	
Copies		部数	

ダウンロードファイル		イメージログの詳細	
属性名	属性値	項目名 *1	項目値
Print Color Mode	4 colors	プリント面のカラーモード	フルカラー
	3 colors		
	2 colors		2 色カラー
	1 color		単色カラー
	monocrome		白黒
	unspecified		その他
	auto		その他
	few colors		少数色カラー
	for low price mode		安価なカラーモード
	mixed		その他

ダウンロードファイル		イメージログの詳細	
属性名	属性値	項目名 *1	項目値
N Up	off	まとめて一枚	1 アップ
	1-up		
	2-up		2 アップ
	3-up		4 アップ
	4-up		
	5-up		8 アップ
	6-up		
	7-up		
	8-up		
	16-up		16 アップ
	32-up		32 アップ
	auto		自動
	unspecified		その他
	9-up		
Host Name		クライアントのホスト名	
IP Address		クライアントの IP アドレス	

ダウンロードファイル		イメージログの詳細	
属性名	属性値	項目名 *1	項目値
Port	IEEE1284	ポート	パラレル
	extended IEEE 1284		
	Serial		シリアル
	Netware Pserver		Netware Pserver
	Netware Rprinter		Netware Rprinter
	USB		USB
	USB2		
	Ethertalk		Ethertalk
	lpd		lpd
	Salutation		Salutation
	IPP		IPP
	SMB		SMB
	SMTP		SMTP
	POP		POP
	Port9100		Port9100
	HTTP		HTTP
	BMLinks		BMLinks
	WSD Print		WSD Print
	ThinPrint		ThinPrint
	FTP		FTP
	Report/List		Report/List
	PS Initalize		PS Initalize
	WebDAV		WebDAV
	HDD		HDD
	NetWare		NetWare
	OEMHTTP		OEMHTTP
	Media		Media
	G3		G3
	super_G3		
	G3 without ECM		
	G4		G4
	forced_4800		その他
	forced 4800 without ECM		
	none		
	unspecified		
Destination		送信先の情報	
Phone Number		ファクス相手先電話番号	
F Code		F コード	
Remote ID		リモート ID	

ダウンロードファイル		イメージログの詳細	
属性名	属性値	項目名 *1	項目値
Fax Communication Result	GOOD	ファクス通信結果	良好
	BUSY		話中
	BUSYWITHRETRY		話中 (自動再送)
	FAILUREWITHRETRY		自動再送
	TERMINATED		中断
	COMMFAILURE		要再送信
	FAILURE		エラー
	{上記以外}		その他
Security	ForcedWMCancel	セキュリティー	強制印字の一時解除
	AnalogWaterMark		複製管理
	TrustMarking		複製管理
	HybridWaterMark		ペーパーセキュリティー
	UUID		UUID 印字
	LoginID		ID 印字

*1 サービスの種類に依らず、属性値がある属性についてすべて表示する。

用紙の削減枚数の計算

用紙削減枚数の計算方法について説明します。

補足

ここで説明する計算方法は、管理者画面の［レポート］での集計と、Job Log Analyzer の両方で使用されます。

用紙の「削減実施枚数」「削減可能枚数」とは

「削減実施枚数」とは、両面印刷や N アップを実際に利用することで、用紙の片面に 1 アップでプリントした場合と比較すると、何枚の用紙を削減できているかという値です。

「削減可能枚数」とは、実際のプリント枚数を基準にして、もし両面 /N アップ、N アップ、または両面でプリントしていたら、何枚の用紙が削減できたかという値です。

用紙削減の算出方法

削減できる用紙の枚数を計算するためのパラメーターを、［両面 /N アップ］、［N アップ］、または［両面］から選択できます。これらは、次のメニューで設定できます。

- 管理者画面の［レポート］の場合：
  カスタム設定の［用紙削減の算出方法］

  参照

  「カスタム設定をする」(P.325)
- Job Log Analyzer の場合：
  ［設定］シートの［削減数算出パラメーター］

  参照

  『Job Log Analyzer のヘルプ』

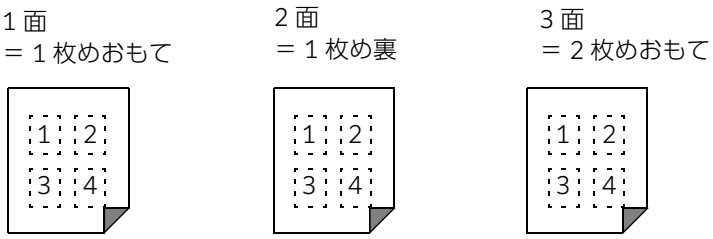
用紙の削減実施枚数 / 削減可能枚数の計算方法

削減実施枚数と削減可能枚数を計算する基本的な考え方について、2 つの例で説明します。

補足

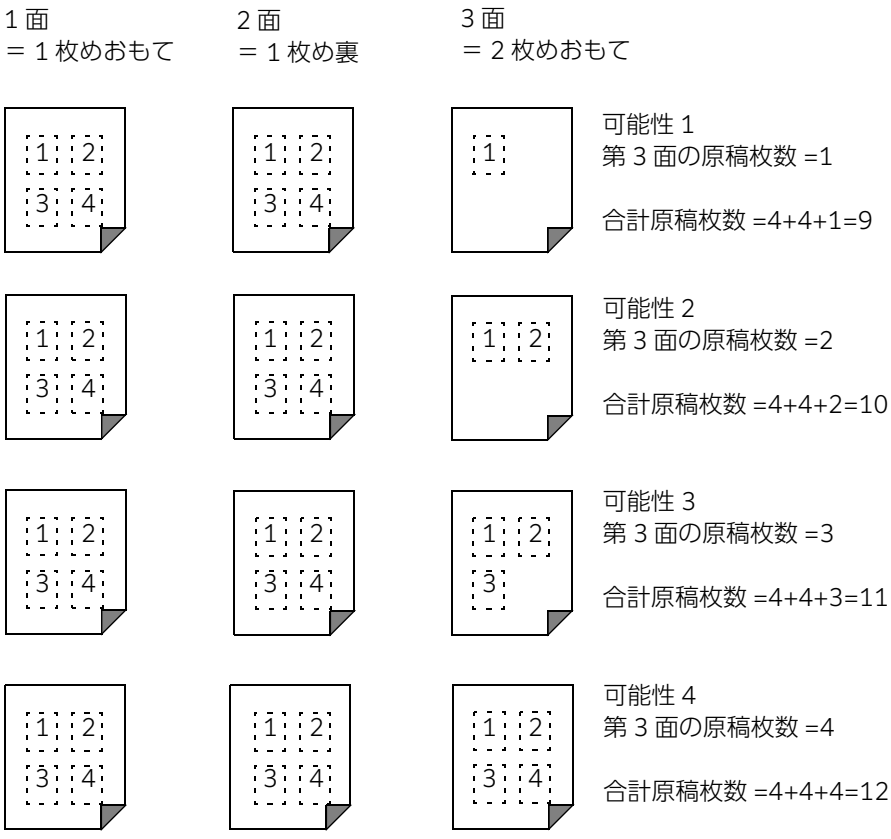
より詳しい計算式 → 「削減実施枚数の詳しい計算方法」(P.350)、「削減可能枚数の詳しい計算方法」(P.352)

例 1 ：2 枚の用紙の 3 つの面に 4 アップで印刷されている原稿を、1 部印刷した場合



削減実施枚数と削減可能枚数の算出のためには、ジョブの原稿枚数の情報が必要ですが、ジョブログには原稿枚数の情報がありません。そのため、面数と N アップ数から仮の原稿枚数を計算します。

この例の場合、4 アップで 3 つの面にプリントされているので、原稿枚数は 9、10、11、または 12 枚のどれかになります。



仮の原稿枚数は、可能性のある最小枚数と最大枚数の平均で求めます。

仮の原稿枚数 = （最小枚数＋最大枚数）÷2

= （9 ＋ 12）÷2

= 10.5

仮の原稿枚数を「1 アップで片面印刷した場合に必要な枚数」として、削減実施枚数を計算します。

削減実施枚数

次は［用紙削減の算出方法］で［N アップ / 両面］を選択した場合の例です。削減実施枚数は、次の式で計算します。

削減実施枚数 = 1 アップで片面印刷した場合に必要な枚数 −プリントした用紙の枚数

= 10.5 − 2
= 8.5

したがって、削減実施枚数は 8.5 枚

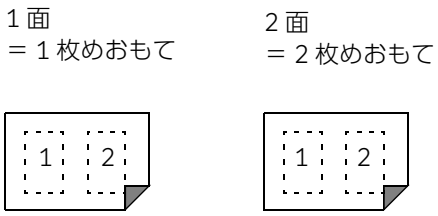
削減可能枚数

削減可能枚数は、次のどれかの式で計算します。どの式で計算するかは、［用紙削減の算出方法］で決まります。

- プリントした用紙の枚数− 2 アップで両面印刷した場合に必要な枚数
- プリントした用紙の枚数− 2 アップで片面印刷した場合に必要な枚数
- プリントした用紙の枚数−両面印刷した場合に必要な枚数

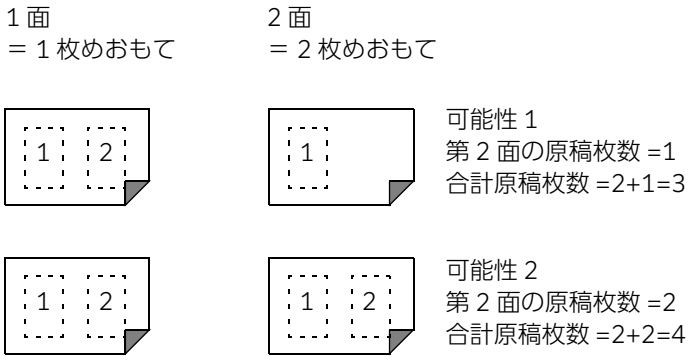
例 1 では 4 アップで両面印刷をしており、上記のどの場合でも削減できる枚数はなく、削減可能枚数は 0 枚です。

例 2 ：2 枚の用紙の片面に 2 アップで印刷されている原稿を、1 部印刷した場合



例 1 と同様にして、仮の原稿枚数を計算します。

2 アップで 2 つの面にプリントされているので、原稿枚数は 3 または 4 のどちらかになります。



仮の原稿枚数は、可能性のある最小枚数と最大枚数の平均で求めます。

仮の原稿枚数 =（最小枚数＋最大枚数）÷2

=（3 ＋ 4）÷2

= 3.5

削減実施枚数

仮の原稿枚数を「1 アップで片面印刷した場合に必要な枚数」として、次の計算式で削減実施枚数を計算します。

削減実施枚数 = 1 アップで片面印刷した場合に必要な枚数 −プリントした用紙の枚数

= 3.5 − 2
= 1.5

したがって、削減実施枚数は 1.5 枚

削減可能枚数

削減可能枚数は、次のどれかの式で計算します。

- プリントした用紙の枚数− 2 アップで両面印刷した場合に必要な枚数
- プリントした用紙の枚数− 2 アップで片面印刷した場合に必要な枚数
- プリントした用紙の枚数−両面印刷した場合に必要な枚数
  ここでは 2 アップで両面印刷した場合の削減可能枚数を例にします。

実際にプリントした用紙は 2 枚です。もとのジョブでは 2 アップで片面にプリントしているので、2 アップで両面にプリントしていれば、使用した用紙は 1 枚だったはずです。

削減可能枚数 = プリントした用紙の枚数 -2 アップで両面印刷した場合に必要な枚数

= 2 − 1
= 1

したがって、削減可能枚数は 1 枚



補足

計算式で算出される値は実数です。ただし、Job Log Analyzer の集計レポートは Excel のセル書式のデフォルトを使用しているため、レポート上には小数点以下を四捨五入した整数の値が表示されます。算出した値を実数で確認する場合は、Excel のセル書式を、小数点以下の桁数を表示する設定に変更してください。

削減実施枚数の詳しい計算方法

削減実施枚数の計算方法を、より詳しく説明します。

計算式で使用される値は次のとおりです。

値	説明
N アップ数	「まとめて一枚」に設定された、N アップの N 値
使用枚数	プリントされた用紙の枚数
枚数	集計レポートでは使用枚数と同じ値。分析レポートでは A4 の用紙サイズで換算した枚数
使用面数	プリントされた面数
面数	集計レポートでは使用面数と同じ値。分析レポートでは A4 の面サイズで換算した面数
部数	プリントした部数

両面 /N アップ、N アップ、または両面のどれを使ったときの削減枚数を計算するかは、[用紙削減の算出方法] で選択します。



参照

「用紙削減の算出方法」(P.347)

用紙削減の算出方法が［両面 /N アップ］のときの計算式

両面印刷によって削減された枚数と、N アップによって削減された枚数を、削減実施枚数にします。



補足

表の番号は、プログラムが実行する計算手順を示します。ユーザーの操作を示すものではありません。

1.	ジョブログの面数には複数部の合計値が記録されているので、「1 部単位の面数」を計算します。 1 部単位の面数 = 面数 ÷ 部数
2.	1 部単位の面数と N アップ数から、1 アップ片面で印刷した場合に必要な枚数を計算します。 1 アップ片面で印刷した場合に必要な枚数を計算するには、ジョブの原稿枚数の情報が必要ですが、ジョブログには原稿枚数の情報がありません。 そのため、面数と N アップ数から仮の原稿枚数を計算します。 仮の原稿枚数は、可能性のある最小枚数と最大枚数の平均値です。 例：面数が 3、N アップ数が 4 のとき、第 1 面と第 2 面にプリントされるページ数は、4×2=8 です。第 3 面にプリントされるページ数は 1、2、3、または 4 の可能性があるので、最小枚数は 9、最大枚数は 12 です。 仮の原稿枚数 =（最小枚数 ＋ 最大枚数）÷2 仮の原稿枚数を、1 アップ片面で印刷した場合に必要な枚数とします。
3.	1 アップ片面で印刷した場合に必要な枚数に部数をかけて、「1 アップ片面で印刷した場合に必要な総枚数」を計算します。 1 アップ片面で印刷した場合に必要な総枚数 =1 アップ片面で印刷した場合に必要な枚数 × 部数
4.	「1 アップ片面で印刷した場合に必要な総枚数」から、使用枚数（実際にプリントした用紙の枚数）を引いた値を「削減実施枚数」にします。 削減実施枚数 =1 アップ片面で印刷した場合に必要な総枚数 - 使用枚数

用紙削減の算出方法が［N アップ］のときの計算式

N アップによって削減された枚数だけを、削減実施枚数にします。両面印刷で削減した枚数は考慮しません。



補足

・表の番号は、プログラムが実行する計算手順を示します。ユーザーの操作を示すものではありません。
・計算手順 1 ～ 3 は、用紙削減の算出方法が［両面 /N アップ］のときの計算式と同じです。

1.	ジョブログの面数には複数部の合計値が記録されているので、「1 部単位の面数」を計算します。 1 部単位の面数 = 面数 ÷ 部数
2.	1 部単位の面数と N アップ数から、1 アップ片面で印刷した場合に必要な枚数を計算します。 1 アップ片面で印刷した場合に必要な枚数を計算するには、ジョブの原稿枚数の情報が必要ですが、ジョブログには原稿枚数の情報がありません。 そのため、面数と N アップ数から仮の原稿枚数を計算します。 仮の原稿枚数は、可能性のある最小枚数と最大枚数の平均値です。 例：面数が 3、N アップ数が 4 のとき、第 1 面と第 2 面にプリントされるページ数は、4×2=8 です。第 3 面にプリントされるページ数は 1、2、3、または 4 の可能性があるので、最小枚数は 9、最大枚数は 12 です。 仮の原稿枚数 =（最大枚数 ＋ 最小枚数）÷ 2 仮の原稿枚数を、1 アップ片面で印刷した場合に必要な枚数とします。

3.	1 アップ片面で印刷した場合に必要な枚数に部数をかけて、「1 アップ片面で印刷した場合に必要な総枚数」を計算します。 1 アップ片面で印刷した場合に必要な総枚数 =1 アップ片面で印刷した場合に必要な枚数 × 部数
4.	「1 アップ片面で印刷した場合に必要な総枚数」から「使用面数」を引いた値を、「削減実施枚数」にします。 削減実施枚数 =1 アップ片面で印刷した場合に必要な総枚数 - 使用面数 「使用面数」を引く理由は、両面印刷で削減した枚数を考慮しないためです。両面印刷を考慮すると、2 面を 1 枚の用紙にプリントできるので「使用枚数」を引きますが、両面印刷を無視する場合は面数だけを考慮するので「使用面数」を引きます。

用紙削減の算出方法が［両面］のときの計算式

両面印刷によって削減された枚数だけを「削減実施枚数」にします。N アップで削減した枚数は考慮しません。

「使用面数」から「使用枚数」を引いた値を、削減実施枚数にします。

削減実施枚数 = 使用面数 - 使用枚数

例：2 面を両面印刷によって 1 枚の用紙にプリントすると、削減実施枚数 =2-1=1 です。

削減可能枚数の詳しい計算方法

削減可能枚数の計算方法を、より詳しく説明します。

補足

使用された用紙が「裏紙」または「OHP」のときは、両面印刷ができないため削減は不可能と判断して「削減可能枚数」は 0 になります。

計算式で使用される値について、次に説明します。

値	説明
N アップ数	「まとめて一枚」に設定された、N アップの N 値
使用枚数	プリントされた用紙の枚数
枚数	集計レポートでは使用枚数と同じ値。分析レポートでは A4 の用紙サイズで換算した枚数
使用面数	プリントされた面数
面数	集計レポートでは使用面数と同じ値。分析レポートでは A4 の面サイズで換算した面数
部数	プリントした部数

両面 /N アップ、N アップ、または両面のどれを使ったときの削減枚数を計算するかは、［用紙削減の算出方法］で設定します。

参照

「用紙削減の算出方法」（P.347）

用紙削減の算出方法が［両面 /N アップ］のときの計算式

削減可能枚数は、1 アップ片面印刷、1 アップ両面印刷、2 アップ片面印刷のデータについてだけ計算されます。計算方法は次のとおりです。

補足

表の番号は、プログラムが実行する計算手順を示します。ユーザーの操作を示すものではありません。

1.	ジョブログの面数には複数部の合計値が記録されているため、「1 部単位の面数」を計算します。 1 部単位の面数 = 面数 ÷ 部数
2.	ジョブログには原稿面数の情報がないため、「1 部単位の面数」に N アップ数をかけて「仮の原稿面数」を計算します。 仮の原稿面数 =1 部単位の面数 × N アップ数
3.	「仮の原稿面数」を「両面 2 アップ時の原稿面数」=4 で割り、「1 部を 2 アップ両面印刷した場合に必要な枚数」を計算します。 1 部 2 アップ両面印刷に必要な枚数 = 仮の原稿面数 ÷ 4 (小数点以下切り上げ)
4.	「1 部 2 アップ両面印刷に必要な枚数」に部数をかけて、「2 アップ両面印刷した場合に必要な総枚数」を計算します。 2 アップ両面印刷した場合に必要な総枚数 = 1 部 2 アップ両面印刷に必要な枚数 × 部数
5.	「使用枚数」から「2 アップ両面印刷した場合に必要な総枚数」を引いた値が 1 以上のときは、削減が可能とみなして「削減可能枚数」にします。 削減可能枚数 = 実際の出力枚数 - 2 アップ両面印刷した場合に必要な総枚数

用紙削減の算出方法が［N アップ］のときの計算式

削減可能枚数は、1 アップ印刷のデータについてだけ計算されます。計算方法は次のとおりです。

補足

表の番号は、プログラムが実行する計算手順を示します。ユーザーの操作を示すものではありません。

1.	ジョブログの面数には複数部の合計値が記録されているため、「1 部単位の面数」を計算します。 1 部単位の面数 = 面数 ÷ 部数
2.	「1 部単位の面数」を「片面 2 アップ時の原稿面数」=2 で割り、「1 部を 2 アップ片面印刷した場合に必要な枚数」を計算します。 1 部を 2 アップ片面印刷した場合に必要な枚数 =1 部単位の面数 ÷ 2 (小数点以下切り上げ)
3.	「1 部を 2 アップ片面印刷した場合に必要な枚数」に部数をかけて、「2 アップ片面印刷したときに必要な総枚数」を計算します。 「2 アップ片面印刷した場合に必要な総枚数」=1 部 2 アップ片面印刷に必要な枚数 × 部数
4.	用紙削減の算出方法が［N アップ］のときは、「使用面数」を出力枚数と考えます。「使用面数」から「2 アップ片面印刷した場合に必要な総枚数」を引いた値が 1 以上のときは、削減が可能とみなして「削減可能枚数」にします。 削減可能枚数 = 使用面数 - 2 アップ片面印刷した場合に必要な総枚数

用紙削減の算出方法が［両面］のときの計算式

削減可能枚数は、片面印刷のデータについてだけ計算されます。計算方法は次のとおりです。

補足

表の番号は、プログラムが実行する計算手順を示します。ユーザーの操作を示すものではありません。

1.	ジョブログの面数には複数部の合計値が記録されているため、「1 部単位の面数」を計算します。 1 部単位の面数 = 面数 ÷ 部数
2.	「1 部単位の面数」を「両面 1 アップ時の原稿面数」=2 で割り、「1 部を両面 1 アップ印刷した場合に必要な枚数」を計算します。 1 部を両面 1 アップ印刷した場合に必要な枚数 = 1 部単位の面数 ÷ 2 (小数点以下切り上げ)
3.	「1 部を両面 1 アップ印刷した場合に必要な枚数」に部数をかけて、「両面 1 アップ印刷した場合に必要な総枚数」を計算します。 両面 1 アップ印刷した場合に必要な総枚数 = 1 部を両面 1 アップ印刷した場合に必要な枚数 × 部数
4.	「使用枚数」から「両面 1 アップ印刷した場合に必要な総枚数」を引いた値が 1 以上のときは、削減が可能とみなして「削減可能枚数」にします。 削減可能枚数 = 使用枚数 - 両面 1 アップ印刷した場合に必要な総枚数

アカウント ID の値の変換

ジョブログファイル出力時に、［アカウント ID］の値を ApeosWare Management Suite が管理するアカウントに変換できます。

1. ApeosWare Management Suite がインストールされた PC に、Administrators グループのユーザーでログオンします。
2. 次のファイルをテキストエディタ — で開きます。
   フォルダー : { データ格納先フォルダー }￥Data￥karaf￥etc
   ファイル名 : joblogexport.properties
   {データ格納先フォルダー} は、初期設定を変更していない場合は次になります。
   C:￥FUJIFILM￥ApeosWare MS
3. 下記のプロパティの設定値を変更し、上書き保存します。

プロパティ	説明
com.fujifilm.fb.apeosware.joblog.export.accountmapping	ジョブログファイル項目「アカウント ID」の値を、ApeosWare Management Suite が管理するアカウント名に変換するかどうかを設定します。 true：ジョブログに記録された数値を対応するアカウント名に変換します。 false またはプロパティなし：変換を行わず、機器から収集した値のままとします。 出力済みのジョブログファイルには、本プロパティの変更は影響を与えません。また、本プロパティが true の場合でアカウント名が変更されても、出力済みのジョブログファイルのアカウント名の変更は行いません。

補足

プロパティ「com.fujifilm.fb.apeosware.joblog.export.accountmapping」が存在しない場合には、
com.fujifilm.fb.apeosware.joblog.export.accountmapping=true
の行を追加してください。

4. PC を再起動します。

12 メンテナンス

バックアップとリストア

ApeosWare Management Suite のバックアップとリストアについて説明します。
大切な情報が失われるリスクを軽減するため、バックアップは定期的に実施してください。

概要

バックアップとリストアは、次の目的で実施します。

- ApeosWare Management Suite サーバーに障害が発生した場合に備えてバックアップします。障害が発生した場合はリストアして、バックアップしたときの状態に戻します。
- ApeosWare Management Suite サーバーを多重化構成や分散構成で運用する場合に、複製元からバックアップした情報を複製先にリストアして、サーバーを複製します。



補足

Flow Management Option がインストールされている場合は、Windows で設定する前に Flow Management Option のサービスを停止する必要があります。
手順については、『機能ガイド Flow Management Option 編』の「Flow Management のサービスを開始または停止する」を参照してください。

コマンド

バックアップするときはコマンド「backup.exe」を使用します。

リストアするときはコマンド「restore.exe」を使用します。

「backup.exe」と「restore.exe」は、ApeosWare Management Suite をインストールすると、下記にコピーされます。
{ApeosWare Management Suite のインストール先フォルダー} ￥Utils￥BackupTool

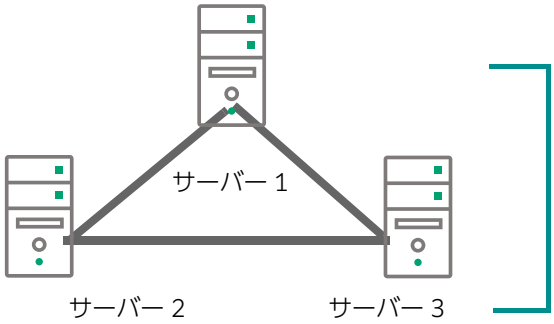


補足

・フローサーバーの場合は、次のフォルダーにコピーされます。
{ApeosWare Management Suite のインストール先フォルダー} ¥FM¥tools¥BackupTool
・ApeosWare Management Suite のインストール先フォルダーは、初期値から変更していない場合は「C:￥Program Files￥FUJIFILM￥ApeosWare MS」です。

バックアップとリストアの対象

バックアップとリストアの対象は、「backup.exe」と「restore.exe」がある PC です。したがって、サーバーを多重化構成や分散構成で運用している場合は、サーバーごとにバックアップとリストアをする必要があります。



サーバー 1 ～サーバー 3 のそれぞれで
バックアップとリストアをすべての
サーバーで実施する必要があります。
また、すべてのサイトでバックアップとリストアを実施する必要があります。

バックアップ対象指定のオプション	ApeosWare Management Suite 本体、Flow Management Option など		Image Log Management Option					その他
	設定	ログ	設定	ログ	イメージログデータ			DB
					受信スプール	ストレージ	アーカイブ	
(デフォルト)	○	○	○	○	×	×	×	○
ログフォルダ ― 除外 (-sl)	○	×	○	×	×	×	×	○
受信スプール追加 (-y_ilmRspool)	○	○	○	○	○	×	×	○
組み合わせ (-sl -y_ilmRspool)	○	×	○	×	○	×	×	○
ストレージのバックアップ (-only_ilmStorage) ※ 他のオプションとの組み合わせはできません	×	×	×	×	×	○	×	×

バックアップすると、次のすべての設定データがバックアップされます。

個別のバックアップはできません。また、バックアップするときにライセンスは確認しません。

- 機器管理
- ユーザー管理
- プリント管理

補足

プリントジョブや一時保存フォルダー内の文書は初期化（削除）されます。

- コスト管理
- ダウンロード管理（日本国内の機器だけに対応）
- モバイル設定
- スキャン設定

補足

スキャンジョブや一時保存フォルダー内の文書は初期化（削除）されます。

- 文書管理サービス設定
- サーバー監視の設定
- Flow Management Option の設定

補足

リストアでは、フローと設定情報のみリストアされ、「ジョブ」「文書」はすべて初期化（削除）されます。

- Paper Form Management の設定

  個別のリストアはできません。また、リストアするときにライセンスは確認しません。

  なお、Flow Management Option の機能を追加インストールしたあとにバックアップしたデータをリストアする場合は、追加した機能がすべて存在する Flow Management Option に対してリストアを実施してください。

  追加した機能が存在しない Flow Management Option に対してデータをリストアしたあとで、この機能をインストールしようとすると、インストールに失敗します。

  この場合、Flow Management Option を再インストールし、バックアップした環境と同じ機能をすべてインストールしてから、リストアを実行してください。

- Image Log Management の設定
- イメージログデータ

補足

・イメージログデータは（後述のバックアップのコマンドオプションで -only_ilmStorage を指定した場合）、Image Log Management のストレージのみバックアップします。オプションを指定しなければバックアップされません。
・バックアップとリストアできるイメージログデータの数の上限は 60 万ジョブです。
・Image Log Management のアーカイブデータはバックアップおよびリストアできるイメージログデータの対象外です。アーカイブデータが必要な場合は次のフォルダーを任意のストレージに移動してください。
{イメージログ保存先フォルダー}¥exported

バックアップとリストアの条件

バックアップとリストアは、次の状態で実行する必要があります。

- 「backup.exe」と「restore.exe」を実行中でない。
- バックアップ中にバックアップ対象のデータを変更しない。
- Administrators グループのユーザーで実行する。
- ユーザーは Windows 統合認証によって SQL Server にログインが可能であり、SQL Server のバックアップとリストアの権限が与えられている。
- ユーザーには、バックアップファイルを出力するフォルダーの書き込み権限と、バックアップファイルを格納しているフォルダーの読み込み権限が与えらている。または、バックアップファイルを出力するフォルダーの書き込み権限と、バックアップファイルを格納しているフォルダーの読み込み権限が与えられた別のアカウントを指定できる。
- バックアップしたデータとリストアするデータのソフトウェアバージョンが一致する。
- リストア先の SQL Server のバージョンは、バックアップ元の SQL Server のバージョンと同一か、または上位。
- リストア先の SQL Server の Edition は、バックアップ元の SQL Server の Edition と同一か、または上位。

補足

・Image Log Management のコアサーバーでバックアップ、リストアを実行するときは、Image Log Management のコアサーバーでバックアップ、リストアを実施したあとに、受信サーバーのバックアップ、リストアを実施してください。
・Image Log Management のコアサーバーでバックアップを実行するときは、受信サーバーで ApeosWare Management Suite Image Log Management Core Service を停止させる必要があります。バックアップの完了後は、停止したサービスを起動してください。

オプション

コマンド「backup.exe」と「restore.exe」のオプションを説明します。

オプション	説明
-e	Windows 認証統合を使用して SQL Server に接続します。このオプションも -u も使用しない場合は、このオプションを使用したとみなされます。 -u および -p と併せて使用することはできません。 同時に使用された場合はエラーとなります。
-u {SQL Server に接続するアカウントのユーザー名}	SQL Server に、Windows にログオンしたユーザーとは別のアカウントのユーザー名で接続してバックアップまたはリストアする場合に使用します。 このオプションは、-p と併せて使用します。
-p {SQL Server に接続するアカウントのパスワード}	SQL Server に、Windows にログオンしたユーザーとは別のアカウントのパスワードで接続してバックアップまたはリストアする場合に使用します。このオプションは、-u と併せて使用します。
-o {バックアップファイルを出力または格納しているフォルダーのパス}	バックアップファイルを出力するフォルダーまたはバックアップファイルを格納しているフォルダーのパスを指定して、バックアップまたはリストアをします。 このオプションが指定されない場合はエラーになります。
バックアップの場合 -rdb {バックアップファイルを出力するフォルダーのパス} リストアの場合 -rdb {バックアップファイルを格納しているフォルダーのパス} / {バックアップした年月日}	データベースサーバーを分離する構成の場合に、データベースのバックアップ先またはリストア元を指定します。 ・バックアップする場合 バックアップファイルを出力するフォルダーのパスを指定します。SQL Server のノード上の、指定したフォルダーにバックアップされます。 ・リストアする場合 バックアップファイルを格納しているフォルダーのパスと、バックアップした年月日を、スラッシュ (/) で連結して指定します。年月日は「yyyyMMdd-HHmmss」の形式で指定します。 例：-rdb backfolder/20200514-103005 SQL Server のノード上の、指定したフォルダーから、指定した日時によってバックアップファイルを検索し、リストアします。 補足 ・フォルダーには、SQL Server サービスから読み出し / 書き込み可能なフォルダーを指定してください。また、SQL Server のノード上のローカルフォルダーを指定してください。 ・データベースサーバーを分離する構成の場合は、-o オプションと -rdb オプションの両方を指定する必要があります。 -rdb オプションではデータベース、-o オプションではデータベース以外のバックアップ先またはリストア元を指定します。

オプション	説明
-ou {バックアップファイルを出力または格納しているフォルダーにアクセスするアカウントのユーザー名}	バックアップの場合：Windows にログオンしたユーザーとは別の、バックアップファイルを出力するフォルダーの書き込み権限があるアカウントのユーザーで接続してバックアップする場合に使用します。このオプションは、-op と併せて使用します。
	リストアの場合：Windows にログオンしたユーザーとは別の、バックアップファイルを格納しているフォルダーの読み込み権限があるアカウントのユーザーで接続してリストアする場合に使用します。このオプションは、-op と併せて使用します。
-op {バックアップファイルを出力または格納しているフォルダーにアクセスするアカウントのパスワード}	バックアップの場合：Windows にログオンしたユーザーとは別の、バックアップファイルを出力するフォルダーの書き込み権限があるアカウントのパスワードで接続してバックアップする場合に使用します。このオプションは、-ou と併せて使用します。
	リストアの場合：Windows にログオンしたユーザーとは別の、バックアップファイルを格納しているフォルダーの読み込み権限があるアカウントのパスワードで接続してリストアする場合に使用します。このオプションは、-ou と併せて使用します。
-nr	コマンド「restore.exe」が対象です。コマンド「restore.exe」はリストアする前にサービスを停止して、リストアしたあとにサービスを開始します。リストアしたあとにサービスを開始しない場合にこのオプションを使用します。
-sl	バックアップの場合：種別がログフォルダーのバックアップ対象を、バックアップしない場合にこのオプションを使用します。
-y_ilmRspool	コマンド「backup.exe」が対象です。イメージログの受信スプールデータをバックアップします。  補足 ・バックアップ時に ApeosWare Image Log Management Receive Service を停止し、イメージログの受信スプールデータをバックアップします。バックアップ終了後に、ApeosWare Image Log Management Receive Service を起動します。 ・このオプションでは ApeosWare Management Suite 2 Image Log Management バックアップツールは使用しません。
-only_ilmStorage	コマンド「backup.exe」が対象です。ApeosWare Management Suite 2 Image Log Management のバックアップツールを利用して、イメージログのストレージデータだけをバックアップします。 ApeosWare Management Suite 2 本体や ApeosWare Management Suite 2 Image Log Management の設定・受信スプールデータなど、他のデータは同時にバックアップしません。 なお、-only_ilmStorage は、他のオプション (-sl など) と一緒に使用することはできません。  補足 ・本オプションは、イメージログコアサーバーを設置しているノードでのみ指定できます。 ・バックアップ時に ApeosWare Management Suite Image Log Management Core Service を停止し、ApeosWare Management Suite 2 Image Log Management のバックアップツールの通知を受け取った後に起動します。 ・このオプションで使用する ApeosWare Management Suite 2 Image Log Management バックアップツールでは、OS に付属している Windows Server バックアップが必要です。 ・バックアップの保存先ドライブには、インストールフォルダーやイメージログデータフォルダーと同じドライブは指定できません。

イメージログストレージデータのバックアップファイルの格納先

イメージログストレージデータのバックアップファイルは、ツールに指定されたバックアップ先のルートフォルダーが存在するドライブの直下に、WindowsImageBackup を作成して格納されます。

バックアップファイルの格納先とリストア時に指定するパス

backup コマンドを実行したときのバックアップファイルの格納先と、restore コマンドで指定するバックアップファイルを格納しているフォルダーのパスは、次のようになります。

データベースを分離しない構成の場合

- バックアップファイルの格納先

  次の場所にバックアップされます。

  {-o オプションで指定したフォルダーのパス}￥{サーバーのコンピュータ名}￥{バックアップした年月日} - {バックアップした時分秒}

  例：
  -o オプションで「C: ¥backfolder」と指定し、コンピューター名が「hostname」、2020 年 5 月 14 日 10 時 30 分 5 秒にバックアップを実行した場合は、次のフォルダーにバックアップされます。

  C:backfolder¥hostname¥20200514-103005

- リストア時に指定するパス

  上記の例の場合、リストアコマンドでは次のように指定します。

```
restore -o C:¥backfolder¥hostname¥20200514-103005
```

データベースを分離する構成の場合

データベースを分離する構成の場合は、-o オプションと -rdb オプションの両方を指定します。-o オプションではデータベース以外、-rdb オプションではデータベースのバックアップ先またはリストア元を指定します。

- データベース以外のバックアップファイルの格納先

  「データベースを分離しない構成の場合」と同じです。

- データベースのバックアップファイルの格納先とファイル名

  次の場所と名前で、バックアップされます。

  {-rdb オプションで指定したフォルダーのパス}￥{データベース名}_{バックアップした年月日} - {バックアップした時分秒} .bak

  例：
  -rdb オプションで「C:¥db_backfolder」と指定し、データベース名が「db_name」、2020 年 5 月 14 日 10 時 30 分 5 秒にバックアップを実行した場合は、次のファイルがバックアップされます。
  SQL Server のノード上の C:¥db_backfolder¥db_name_20200514-103005.bak

- リストア時に指定するパス

  -rdb オプションでは、バックアップ時に -rdb オプションで指定したパスと、バックアップした年月日を、スラッシュ（/）で連結して指定します。上記の例の場合、リストアコマンドでは、次のように指定します。

```
awms2restore -o C:¥backfolder¥hostname¥20200514-103005 -rdb C:¥db_backfolder/20160514-103005
```

バックアップする

1. ApeosWare Management Suite がインストールされた PC に、Administrators グループのユーザーでログオンします。
2. 「バックアップとリストアの条件」（P.358）に示す条件を満たしていない場合は対応します。
3. 管理者権限でコマンドプロンプトウィンドウを表示します。
4. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cd {インストール先フォルダー}＼Utils＼BackupTool
```

5. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

■ ログオンしたユーザーにデータベースをバックアップする権限とバックアップファイルを出力するフォルダーに書き込む権限を与えられている場合

ログオンしたサーバーにインストールされた ApeosWare Management Suite の各機能、Flow Management Option 設定、Image Log Management Option 設定をバックアップします。イメージログのストレージは対象外のため、別途ストレージのみバックアップするオプションで実行してください。

```
backup -e -o {バックアップファイルを出力するフォルダーのパス}
```

イメージログの受信スプールを含める場合は以下のオプションを追加してバックアップします。

```
backup -e -o {バックアップファイルを出力するフォルダーのパス} -y_ilmRspool
```

以降のユーザーごとのケースでも同様の使い方です。

■ ログオンしたユーザーにデータベースをバックアップする権限を与えられていない場合

ログオンしたユーザーとは別の、バックアップする権限があるユーザーのアカウントで SQL Server に接続してバックアップします。

```
backup -u {SQL Server に接続するアカウントのユーザー名} -p {SQL Server に接続するアカウントのパスワード} -o {バックアップファイルを出力するフォルダーのパス}
```

■ ログオンしたユーザーにバックアップファイルを出力するフォルダーに書き込む権限を与えられていない場合

ログオンしたユーザーとは別の、バックアップファイルを出力するフォルダーの書き込み権限があるユーザーのアカウントでバックアップします。

```
backup -e -o {バックアップファイルを出力するフォルダーのパス} -ou {バックアップファイルを出力するフォルダーにアクセスするアカウントのユーザー名} -op {バックアップファイルを出力するフォルダーにアクセスするアカウントのパスワード}
```

■ ログオンしたユーザーにデータベースをバックアップする権限とバックアップファイルを出力するフォルダーに書き込む権限を与えられていない場合

ログオンしたユーザーとは別の、バックアップする権限とバックアップファイルを出力するフォルダーの書き込み権限があるユーザーのアカウントでバックアップします。

```
backup -u {SQL Server に接続するアカウントのユーザー名} -p {SQL Server に接続するアカウントのパスワード} -o {バックアップファイルを出力するフォルダーのパス} -ou {バックアップファイルを出力するフォルダーにアクセスするアカウントのユーザー名} -op {バックアップファイルを出力するフォルダーにアクセスするアカウントのパスワード}
```

設定した情報が、指定したフォルダーにバックアップされます。バックアップしたデータは、「{バックアップした年月日} - {バックアップした時分秒}」というフォルダーに格納されます。バックアップに失敗した場合は、「リストアする」（P.363）を参照して、対処してください。

■ Image Log Management のストレージデータのバックアップをする場合

```
backup -e -o {バックアップファイルを出力するフォルダーのパス} -only_ilmStorage
```

「-only_ilmStorage」の指定時はイメージログのストレージ以外はバックアップされません。別途、「-only_ilmStorage」無しで実行してください。



補足

・サイズが大きいことが多く、時間がかかることが予想されます。
・「-only_ilmStorage」有りのとき、イメージログのストレージとバックアップファイルを出力するフォルダーのドライブは別にしてください。
・「-only_ilmStorage」有りと「-only_ilmStorage」無しで指定するバックアップファイルを出力するフォルダーの格納パスは同じドライブを指定してください。

リストアする

分散構成で、メインサーバーと分離サーバーでそれぞれリストアを実行する場合は、メインサーバーのリストアが完了したあとに、分離サーバーに設定されたメインサーバーの情報を変更する必要があります。この手順を実行しないと、メインサーバーと分離サーバー間の通信が失敗してしまいます。各分離サーバー上で、「-NM」オプションを指定して、コマンド「HostnameSetup.exe」を実行してください。

コマンドの詳細については、「サーバーの情報の変更」（P.366）を参照してください。

1. ApeosWare Management Suite がインストールされた PC に、Administrators グループのユーザーでログオンします。
2. 「バックアップとリストアの条件」（P.358）に示す条件を満たしていない場合は対応します。
3. 管理者権限でコマンドプロンプトウィンドウを表示します。
4. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cd {インストール先フォルダー}＼Utils＼BackupTool
```

5. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。



補足

{バックアップファイルを格納しているフォルダーのパス} には、バックアップファイルの格納先を指定します。「バックアップファイルの格納先とリストア時に指定するパス」（P.361）を参照してください。

■ ログオンしたユーザーにデータベースをリストアする権限とバックアップファイルを格納しているフォルダーを読み込む権限を与えられている場合

バックアップファイルを格納しているフォルダーに含まれる ApeosWare Management Suite の各機能、Flow Management Option 設定、Image Log Management Option 設定がリストアされます。

指定先にイメージログのストレージ（WindowsImageBackup フォルダー）が含まれる場合もリストア対象に含まれます。

```
restore -e -o {バックアップファイルを格納しているフォルダーのパス}
```

■ ログオンしたユーザーにデータベースをリストアする権限を与えられていない場合

ログオンしたユーザーとは別の、リストアする権限があるユーザーのアカウントで SQL Server に接続してリストアします。

```
restore -u {SQL Server に接続するアカウントのユーザー名} -p {SQL Server に接続するアカウントのパスワード}
-o {バックアップファイルを格納しているフォルダーのパス}
```

■ ログオンしたユーザーにバックアップファイルを格納しているフォルダーを読み込む権限を与えられていない場合

ログオンしたユーザーとは別の、バックアップファイルを格納しているフォルダーの読み込み権限があるユーザーのアカウントでリストアします。

```
restore -e -o {バックアップファイルを格納しているフォルダーのパス} -ou {バックアップファイルを格納しているフォルダーにアクセスするアカウントのユーザー名} -op {バックアップファイルを格納しているフォルダーにア
```

■ ログオンしたユーザーにデータベースをリストアする権限とバックアップファイルを格納しているフォルダーを読み込む権限を与えられていない場合

ログオンしたユーザーとは別の、リストアする権限とバックアップファイルを格納しているフォルダーの読み込み権限があるユーザーのアカウントでリストアします。

```
restore -u {SQL Server に接続するアカウントのユーザー名} -p {SQL Server に接続するアカウントのパスワード}
-o {バックアップファイルを格納しているフォルダーのパス} -ou {バックアップファイルを格納しているフォルダーにアクセスするアカウントのユーザー名} -op {バックアップファイルを格納しているフォルダーにアクセスするアカウントのパスワード}
```

■ リストアしたあとにサービスを開始しない場合

```
restore -nr
```

バックアップした情報がリストアされます。リストアに失敗した場合は、「リストアする」（P.363）を参照して、対処してください。

6. 手順 5 で -nr オプションを使用した場合は、サービスを開始します。

終了コードの説明と対処

メッセージに対処が表示される場合は、その対処に従ってください。

終了コード	説明と対処
0	バックアップまたはリストアが正常に終了しました。
2	バックアップが終了しましたが、データベースまたは一部のファイルのバックアップは行われませんでした。
4	バックアップまたはリストアを実行中です。終了してから実行してください。
6	バックアップまたはリストアする対象のデータが存在しません。
8	オプションが不正です。
10	レジストリを参照する権限がありません。Administrators グループのユーザーで実行してください。
12	ウイルス対策ソフトウェアなどのほかのプロセスがバックアップする対象のデータにアクセスしていたり、アクセス権がなかったりなどの理由によって、バックアップする対象のデータを参照できません。
14	指定したバックアップファイルを出力するフォルダー、またはバックアップファイルを格納しているフォルダーがある PC にログオンできませんでした。正しいユーザー名とパスワードを入力してください。

終了コード	説明と対処
16	バックアップの場合：指定したバックアップファイルを出力するフォルダーへの［書き込み］権限がありません。権限があるアカウントで実行してください。
	リストアの場合：指定したバックアップファイルを格納しているフォルダーへの［読み取りと実行］権限がありません。正しいフォルダーを指定してください。権限があるアカウントで実行してください。
18	指定したバックアップファイルを出力するフォルダーの空き容量が不足しています。別のフォルダーを指定してください。
20	バックアップの場合：バックアップファイルを出力するフォルダーに、すでにバックアップしたデータが存在します。残す必要がある場合は、別のフォルダーへ移動してください。
	リストアの場合：バックアップファイルを格納しているフォルダーがありません。正しいフォルダーを指定してください。
22	SQL Server がインストールされていません。
24	指定したアカウントで SQL Server にログインできませんでした。正しいユーザー名とパスワードを入力してください。
26	データベースのバックアップまたはリストアに失敗しました。
28	バックアップの場合：指定したバックアップファイルを出力するフォルダーへの書き込みに失敗しました。権限がない場合は、権限があるユーザーで実行してください。ほかのアプリケーションがバックアップファイルを出力するフォルダーを使用している場合は、終了してください。ネットワークに障害がある場合は、障害を解消してください。
28	リストアの場合：バックアップファイルを格納しているフォルダーへの書き込みに失敗しました。権限がない場合は、権限があるユーザーで実行してください。ほかのアプリケーションがバックアップファイルを格納しているフォルダーを使用している場合は、終了してください。ネットワークに障害がある場合は、障害を解消してください。
30	バックアップ対象リストファイルの参照に失敗しました。
40	データベースインスタンスにリストア元のデータベースがありません。
42	バックアップファイルを格納しているフォルダーにデータベースがバックアップされていません。指定したフォルダーが正しいかを確認してください。
44	バックアップファイルを格納しているフォルダーにデータがバックアップされていません。指定したフォルダーが正しいかを確認してください。
50	サービスの停止に失敗しました。
52	サービスの開始に失敗しました。
54	リストアの後処理に失敗しました。
56	
58	

サーバーの情報の変更

概要

ここでは、サーバーの次の情報を変更する方法について説明します。

- ホスト名または IP アドレス
- SSL の有効、無効
- ポート番号

補足

・ホスト名、IP アドレス、SSL の設定、およびポート番号は、ApeosWare Management Suite などをインストールしたときに選択した IIS の Web サイトに設定されたものが対象です。
・この節では、Windows でホスト名、IP アドレス、SSL の設定、およびポート番号を設定したあとの手順を説明しています。Windows で設定してから、この節の手順を実施してください。
なお、Flow Management Option がインストールされている場合は、Windows で設定する前に Flow Management Option のサービスを停止する必要があります。
手順については、『機能ガイド Flow Management Option 編』の「Flow Management のサービスを開始または停止する」を参照してください。

コマンド「HostnameSetup.exe」を使用してホスト名などを変更します。変更後に、サーバーを再起動する必要があります。

そのあと、ApeosWare Management Suite の設定の変更が必要な場合があります。

コマンドがある場所

「HostnameSetup.exe」は、ApeosWare Management Suite をインストールすると、次の場所にコピーされます。

- メインサーバー、Image Log サーバー、および分散構成時の OCR サーバー、プリントサーバー、モバイルサーバーの場合は、次の場所にコピーされます。

  {ApeosWare Management Suite のインストール先 *1} ¥Utils¥Hostname Setting

- フローサーバーの場合は、次の場所にコピーされます。

  {ApeosWare Management Suite のインストール先 *1} ¥FM¥tools¥Hostname Setting

*1 初期値から変更していない場合は「C:¥Program Files¥FUJIFILM¥ApeosWare MS」です。

補足

レポートサーバーでは HostnameSetup.exe を使用できません。レポートサーバーの情報を変更する場合は「レポートサーバーの情報を変更する場合」（P.378）を参照してください。

オプション

実行するサーバー自身の設定を変更するオプション

オプション	説明
-N {ホスト名または IP アドレス}	サーバーのホスト名または IP アドレスを、{ホスト名または IP アドレス} に入力した内容に変更します。外部から通信できる次のどれかの形式で入力します。 ・IPv4 形式の IP アドレス ・IPv6 形式の IP アドレス ・FQDN
-S {http または https}	サーバーが提供する Web サービスの SSL の設定を変更します。 「http」を入力すると、SSL の設定を解除します。 「https」を入力すると、SSL を設定します。

オプション	説明
-P {ポート番号}	Web サービスを提供するポート番号を変更します。入力できるポート番号は、0 ～ 65535 です。
-PSSL {ポート番号}	SSL 用のポート番号を変更します。入力できるポート番号は、0 ～ 65535 です。 補足 -S https が指定された場合は次の値が適用されます。 ・-S http が指定され、-P が指定されていない場合、レジストリ (Port) の値が適用されます。 ・-S https と -P XXX が指定された場合、-P の値 (XXX) を -PSSL に適用します。 ・-S https -P XXX -PSSL YYY を指定した場合、XXX と YYY の値が同一でない場合はエラーになります。

参照
実行例 →「オールインワン構成でサーバーのホスト名または IP アドレスを変更する場合」(P.370)

多重化構成でサーバーに設定された別のサーバーの情報を変更するオプション

多重化構成でサーバーに設定された別のサーバーの情報を変更する場合は、ホスト名または IP アドレスを変更します。

参照
実行例 →「多重化構成のサーバーでホスト名または IP アドレスを変更する場合」(P.377)

データベースサーバーの接続先を変更するオプション

オプションの一覧

オプション	説明
-D {データベースのホスト名または IP アドレス}	データベースサーバーを、指定した接続先に変更します。 -D を指定したときは、-DE か、-DU/-DP の組み合わせのどちらかを指定する必要があります。 補足 コマンドを実行するサーバーにデータベースが存在する場合は、-D オプションを指定する必要はありません。
-DE	データベースサーバーへの接続方法に Windows 認証を利用します。
-DU {ユーザー名}	データベースサーバーへの接続方法に SQL Server 認証を利用します。接続するユーザー名を指定します。
-DP {パスワード}	データベースサーバーへの接続方法に SQL Server 認証を利用します。接続するユーザー名のパスワードを指定します。
-DN {ポート番号}	データベースのポート番号を変更します。メインサーバーおよびフローサーバーでだけ実行できます。 ポート番号の例：「1433」

プリントサーバーに設定されたメインサーバーの情報を変更するオプション

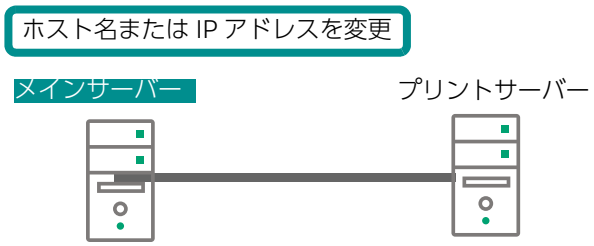
プリントサーバーで実行できます。

オプションの一覧

オプション	説明
-NM　{ホスト名または IP アドレス}	プリントサーバーに設定された、メインサーバーのホスト名または IP アドレスを、{ホスト名または IP アドレス} に入力した内容に変更します。外部から通信できる次のどれかの形式で入力します。 ・IPv4 形式の IP アドレス ・IPv6 形式の IP アドレス ・FQDN
-SM　{http または https}	プリントサーバーに設定された、メインサーバーの SSL の設定を変更します。 「http」を入力すると、SSL の設定を解除します。 「https」を入力すると、SSL を設定します。
-PM　{ポート番号}	プリントサーバーに設定されたメインサーバーのポート番号を変更します。入力できるポート番号は、0 ～ 65535 です。

参照
実行例 →「分散構成のメインサーバーとプリントサーバーでホスト名または IP アドレスを変更する場合」(P.374)

-NM オプションの使い方



次のように、-NM オプションにメインサーバーを指定してコマンドを実行します。

```
HostnameSetup.exe -NM　{変更後のメインサーバーのホスト名または IP アドレス}
```

メインサーバーに設定されたレポートサーバーの情報を変更するオプション

分離レポートサーバーを設置している場合に、メインサーバーで実行できます。

オプションの一覧

オプション	説明
-NR {ホスト名または IP アドレス}	メインサーバーに設定された、レポートサーバーのホスト名または IP アドレスを、{ホスト名または IP アドレス} に入力した内容に変更します。外部から通信できる次のどれかの形式で入力します。 ・IPv4 形式の IP アドレス ・IPv6 形式の IP アドレス ・FQDN

OCR サーバーに設定されたメインサーバーの情報を変更するオプション

OCR サーバーで実行できます。

オプションの一覧

オプション	説明
-NM {ホスト名または IP アドレス}	OCR サーバーに設定された、メインサーバーのホスト名または IP アドレスを、{ホスト名または IP アドレス} に入力した内容に変更します。外部から通信できる次のどれかの形式で入力します。 ・IPv4 形式の IP アドレス ・IPv6 形式の IP アドレス ・FQDN

モバイルサーバーに設定されたメインサーバーの情報を変更するオプション

モバイルサーバーで実行できます。

オプションの一覧

オプション	説明
-NM {ホスト名または IP アドレス}	モバイルサーバーに設定された、メインサーバーのホスト名または IP アドレスを、{ホスト名または IP アドレス} に入力した内容に変更します。外部から通信できる次のどれかの形式で入力します。 ・IPv4 形式の IP アドレス ・IPv6 形式の IP アドレス ・FQDN

フローサーバーに設定されたメインサーバーの情報を変更するオプション

フローサーバーで実行できます。

オプションの一覧

オプション	説明
-NM {ホスト名または IP アドレス}	フローサーバーに設定された、メインサーバーのホスト名または IP アドレスを、{ホスト名または IP アドレス} に入力した内容に変更します。外部から通信できる次のどれかの形式で入力します。 ・IPv4 形式の IP アドレス ・IPv6 形式の IP アドレス ・FQDN
-SM {http または https}	フローサーバーに設定された、メインサーバーの SSL の設定を変更します。 「http」を入力すると、SSL の設定を解除します。 「https」を入力すると、SSL を設定します。
-PM {ポート番号}	フローサーバーに設定されたメインサーバーのポート番号を変更します。入力できるポート番号は、0 ～ 65535 です。

参照
実行例 →「分散構成のメインサーバーとプリントサーバーでホスト名または IP アドレスを変更する場合」(P.374)

Image Log サーバーに設定されたメインサーバーの情報を変更するオプション

Image Log サーバーで実行できます。

オプションの一覧

オプション	説明
-NM {ホスト名または IP アドレス}	Image Log サーバーに設定された、メインサーバーのホスト名または IP アドレスを { ホスト名または IP アドレス } に入力した内容に変更します。 外部から通信できる次のどれかの形式で入力します。 ・IPv4 形式の IP アドレス ・IPv6 形式の IP アドレス ・FQDN

現在設定されている内容を表示するオプションとヘルプのオプション

オプション	説明
-G	現在設定されているホスト名または IP アドレス、ポート番号、および SSL の設定を表示します。実行するサーバーによって、設定が表示されるサーバーが次のように異なります。 ・オールインワン構成のサーバーと多重化したサーバー 実行するサーバー自身の設定が表示されます。 ・メインサーバー 実行するサーバー自身の設定が表示されます。多重化したサーバーがある場合は、それらの設定も表示されます。 ・プリントサーバー 実行するサーバー自身と、メインサーバーの設定が表示されます。 ・フローサーバー 実行するサーバー自身と、メインサーバーの設定が表示されます。
-H または --HELP	ヘルプが表示されます。

参照
実行例 → 「変更前の設定を保存する」 (P.370)

実行例

オールインワン構成でサーバーのホスト名または IP アドレスを変更する場合

変更前の設定を保存する

障害の発生に備えて、変更前の設定をテキストファイルに保存します。

1. 管理者権限でコマンドプロンプトウィンドウを表示します。
2. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cd /d c:￥ {ApeosWare Management Suite のインストール先} ￥Utils￥Hostname Setting
```

3. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
HostnameSetup.exe -G > {任意のファイル名} .txt
```

設定の内容が、テキストファイルに保存されます。

コマンドで変更する

1. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
HostnameSetup.exe -N　{変更後のホスト名または IP アドレス}
```

設定が変更されます。終了まで時間がかかることがあります。

2. サーバーを再起動します。
3. 必要に応じて、機器とクライアントを設定します。

オールインワン構成でサーバーのポート番号を変更する場合

コマンドで変更する

1. 次の操作をします。

■ Web サービスを提供するポート番号を変更する場合

次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
HostnameSetup.exe -P　{変更後のポート番号}
```

設定が変更されます。終了まで時間がかかることがあります。

■ SSL 用のポート番号を変更する場合

次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
HostnameSetup.exe -PSSL　{変更後のポート番号}
```

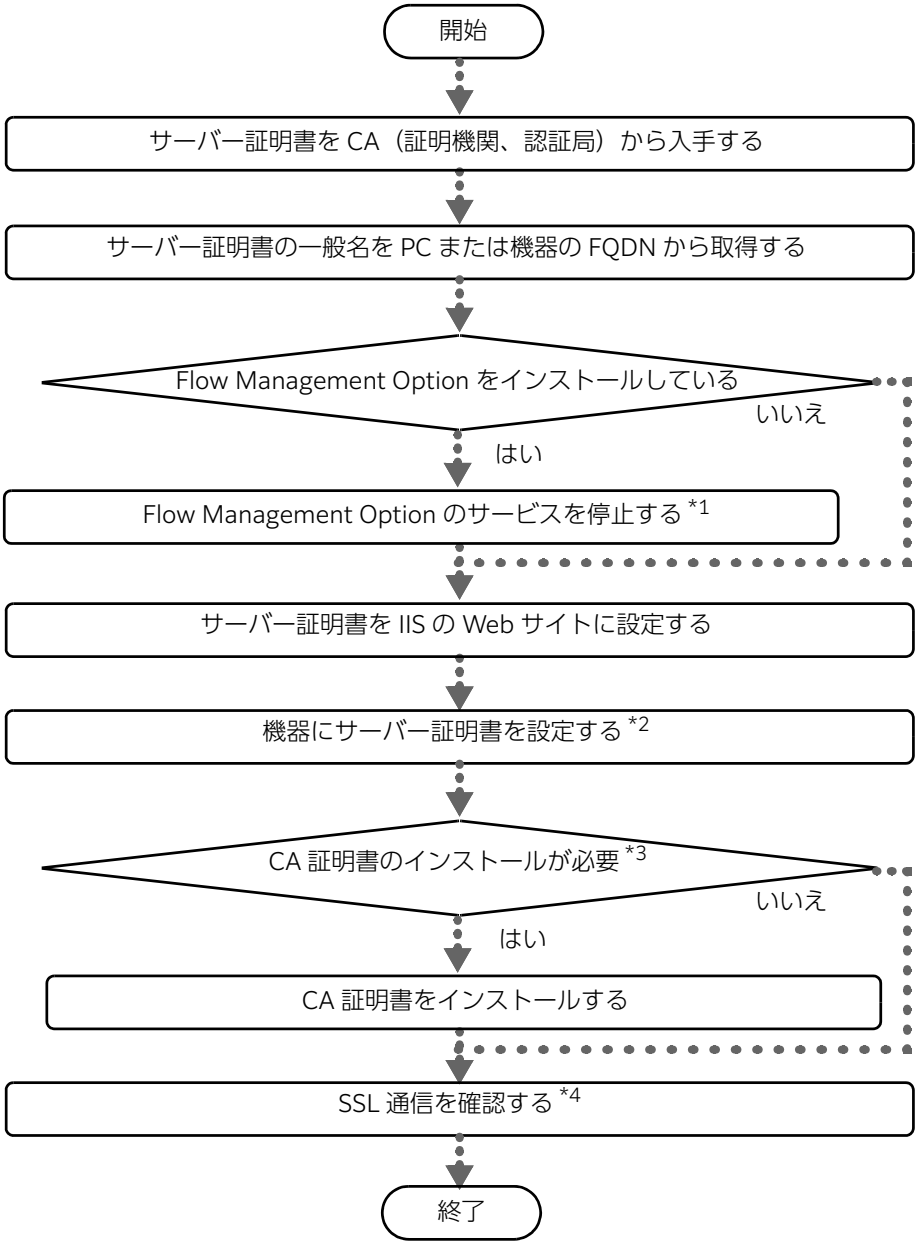
設定が変更されます。終了まで時間がかかることがあります。

2. サーバーを再起動します。
3. 必要に応じて、機器とクライアントを設定します。

オールインワン構成でサーバーの通信を暗号化（SSL）する場合

サーバーの通信を暗号化する

通信を暗号化する場合は、次の手順を実行してください。



*1 手順については、『機能ガイド Flow Management Option 編』の「Flow Management Option のサービスを開始または停止する」を参照してください。

*2 お使いの機器のマニュアルを参照してください。

*3 次のどれかに該当する場合です。

- 設定したサーバー証明書が、Web クライアントのルート証明書で安全が確認できず、Web ブラウザーにセキュリティーの警告が表示される場合
  セキュリティーの警告が表示されないようにするには、証明書を受け入れるか、またはサーバー証明書に対応するルート CA 証明書を Web クライアントにインストールします。
- サーバー証明書がルート証明書からの認証に中間証明書が必要な場合
  設定した PC に中間証明機関の CA 証明書をストアします。
- サーバー証明書がルート証明書から認証されないタイプの場合
  Web クライアントにルート証明機関の CA 証明書をストアします。

*4 サーバー証明書を設定した ApeosWare Management Suite のサーバーソフトウェアで使用する Web サイトに、次の URL で Web クライアントからアクセスします。ホスト名には、サーバー証明書の一般名と同じ FQDN または IP アドレスを入力します。IIS のデフォルトページが表示され、Web ブラウザーの右下に鍵のマークが表示されたことを確認します。

```
https://｛ホスト名｝/
```

補足

・ApeosWare Management Suite をインストールした PC に、機器との SSL 通信用のサーバー証明書をインストールしたときは、PC を再起動してください。
・ApeosWare Management Suite をインストールした PC に、Active Directory との SSL 通信用の証明書をインストールしたときは、ApeosWare Management Suite Core Service サービスを再起動してください。

ApeosWare Management Suite サーバーと LDAP サーバーで LDAPS 通信をする場合

Windows の証明書ストアに、ルート CA 証明書と中間証明機関の証明書をインストールします。

変更前の設定を保存する

1. 「変更前の設定を保存する」（P.370）の手順を実行します。

コマンドで SSL 設定を変更する

1. 管理者権限でコマンドプロンプトウィンドウを表示します。
2. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cd /d c:￥ ｛ApeosWare Management Suite のインストール先｝ ￥Utils￥Hostname Setting
```

3. ログオンしたサーバーの SSL 設定を変更します。
次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
HostnameSetup.exe -S https -P ｛SSL 通信するポート番号｝
```

設定が変更されます。終了まで時間がかかることがあります。

4. サーバーを再起動します。
5. 必要に応じて、機器とクライアントを設定します。

データベースを分離している構成でデータベースサーバーのホスト名またはIPアドレスを変更する場合

変更前の設定を保存する

障害の発生に備えて、変更前の設定をテキストファイルに保存します。
本操作はメインサーバーで実行してください。

1. 管理者権限でコマンドプロンプトウィンドウを表示します。
2. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cd /d c:￥ ｛ApeosWare Management Suite のインストール先｝ ￥Utils￥Hostname Setting
```

3. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
HostnameSetup.exe -G >  {任意のファイル名}  .txt
```

設定の内容が、テキストファイルに保存されます。

コマンドで変更する

1. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
HostnameSetup.exe -D  {変更後の IP アドレス}  [-DE または -DU  {ユーザー名} -DP  {パスワード}]
```

設定が変更されます。終了まで時間がかかることがあります。

2. サーバーを再起動します。

3. 必要に応じて、機器とクライアントを設定します。

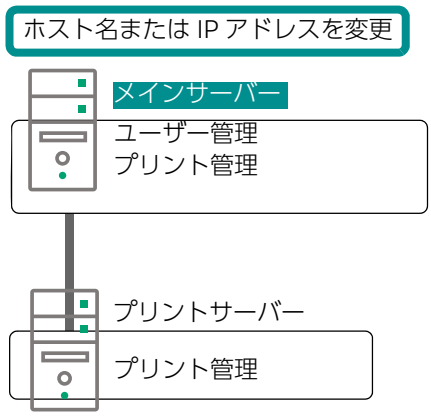
分散構成のメインサーバーとプリントサーバーでホスト名またはIPアドレスを変更する場合

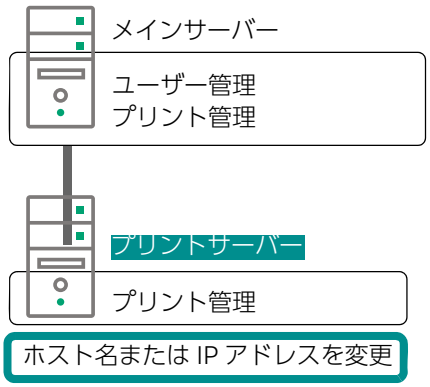
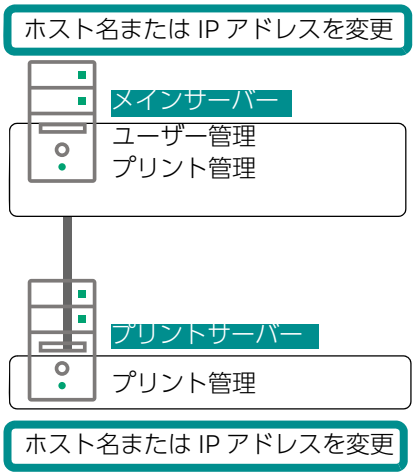
分散構成で、メインサーバーとプリントサーバーのどちらか、または両方のホスト名または IP アドレスを変更した場合の手順を説明します。

補足

プリントサーバーを分離する分散構成は、Enterprise Edition でだけ利用できます。

変更の流れ

条件 *1	実施内容と順番
	(1)「プリントサーバーで変更前の設定を保存する」(P.375) の内容を実施する *2 (2) メインサーバーで「コマンドで変更する」(P.371) の内容を実施する (3) プリントサーバーで「プリントサーバーに設定されたメインサーバーのホスト名または IP アドレスを変更する」(P.375) の内容を実施する *2

条件 *1	実施内容と順番
	(1)「プリントサーバーで変更前の設定を保存する」(P.375) の内容を実施する *2 (2) プリントサーバーで「コマンドで変更する」(P.371) の内容を実施する *2
	(1)「プリントサーバーで変更前の設定を保存する」(P.375) の内容を実施する *2 (2) メインサーバーで「コマンドで変更する」(P.374) の内容を実施する (3) プリントサーバーで「プリントサーバーに設定されたメインサーバーのホスト名または IP アドレスを変更する」(P.375) の内容を実施する *2 (4) プリントサーバーで「コマンドで変更する」(P.374) の内容を実施する *2

*1 メインサーバーとプリントサーバーが連携している前提です。
*2 複数のプリントサーバーがある場合は、それぞれのプリントサーバーで同じ手順を実施してください。

プリントサーバーで変更前の設定を保存する

障害の発生に備えて、変更前の設定をテキストファイルに保存します。

1. プリントサーバーの PC に、Administrator 権限でログオンします。
すでにログオンしていて ApeosWare Management Suite にログインしている場合は、ログアウトします。
2. 管理者権限でコマンドプロンプトウィンドウを表示します。
3. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cd /d c:￥ {ApeosWare Management Suite のインストール先} ￥Utils￥Hostname Setting
```

4. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
HostnameSetup.exe -G > {任意のファイル名} .txt
```

メインサーバーとプリントサーバーの設定の内容が、テキストファイルに保存されます。

プリントサーバーに設定されたメインサーバーのホスト名または IP アドレスを変更する

1. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
HostnameSetup.exe -NM　{変更後のメインサーバーのホスト名または IP アドレス}
```

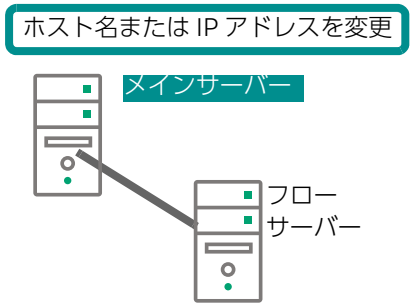
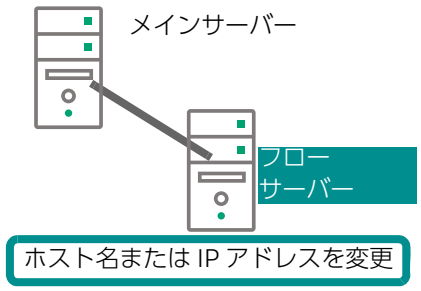
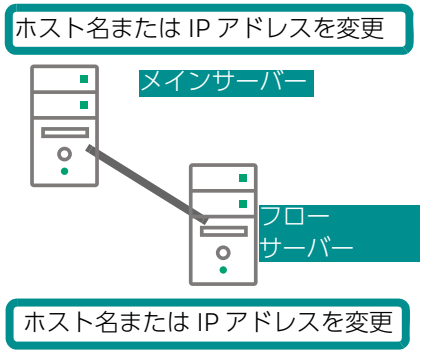
設定が変更されます。終了まで時間がかかることがあります。

2. サーバーを再起動します。

分散構成のメインサーバーとフローサーバーでホスト名またはIPアドレスを変更する場合

Enterprise Edition の分散構成で、メインサーバーとフローサーバーのどちらか、または両方のホスト名または IP アドレスを変更した場合の手順を説明します。

変更の流れ

条件	実施内容と順番
	(1)「フローサーバーで変更前の設定を保存する」(P.376) の内容を実施する (2) メインサーバーで「コマンドで変更する」(P.374) の内容を実施する (3) フローサーバーで「フローサーバーに設定されたメインサーバーのホスト名または IP アドレスを変更する」(P.377) の内容を実施する
	(1)「フローサーバーで変更前の設定を保存する」(P.376) の内容を実施する (2) フローサーバーで「コマンドで変更する」(P.374) の内容を実施する (3) メインサーバーを再起動する
	(1)「フローサーバーで変更前の設定を保存する」(P.376) の内容を実施する (2) メインサーバーで「コマンドで変更する」(P.374) の内容を実施する (3) フローサーバーで「コマンドで変更する」(P.374) の内容を実施する (4) メインサーバーを再起動する

フローサーバーで変更前の設定を保存する

障害の発生に備えて、変更前の設定をテキストファイルに保存します。

1. フローサーバーの PC に、Administrator 権限でログオンします。
すでにログオンしていて ApeosWare Management Suite にログインしている場合は、ログアウトします。

2. 管理者権限でコマンドプロンプトウィンドウを表示します。

3. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
cd /d c:¥ {ApeosWare Management Suite のインストール先} ¥FM¥tools¥Hostname Setting
```

4. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
HostnameSetup.exe -G > {任意のファイル名} .txt
```

メインサーバーとフローサーバーの設定の内容が、テキストファイルに保存されます。

フローサーバーに設定されたメインサーバーのホスト名または IP アドレスを変更する

1. 次のコマンドを入力して、<Enter> キーを押します。

```
HostnameSetup.exe -NM {変更後のメインサーバーのホスト名または IP アドレス}
```

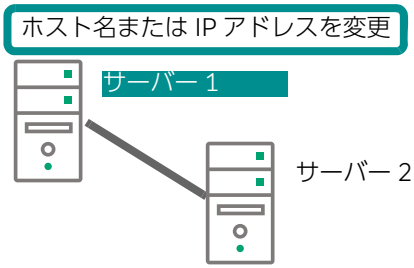
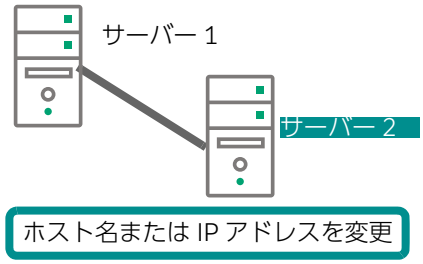
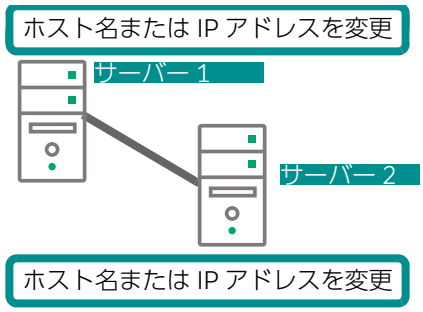
設定が変更されます。終了まで時間がかかることがあります。

2. サーバーを再起動します。

多重化構成のサーバーでホスト名または IP アドレスを変更する場合

Enterprise Edition の多重化構成で、サーバーのホスト名または IP アドレスを変更した場合の手順を説明します。

変更の流れ

条件	実施手順と順番
	(1) サーバー 1 で「オールインワン構成でサーバーのホスト名または IP アドレスを変更する場合」(P.370) の内容を実施する (2) サーバー 2 で「機器グループに設定したサーバーのホスト名または IP アドレスを変更する」(P.378) の内容を実施する *1
	(1) サーバー 2 で「オールインワン構成でサーバーのホスト名または IP アドレスを変更する場合」(P.370) の内容を実施する (2) サーバー 1 で「機器グループに設定したサーバーのホスト名または IP アドレスを変更する」(P.378) の内容を実施する *1
	(1) サーバー 1 で「オールインワン構成でサーバーのホスト名または IP アドレスを変更する場合」(P.370) の内容を実施する (2) サーバー 2 で「機器グループに設定したサーバーのホスト名または IP アドレスを変更する」(P.378) の内容を実施する *1 (3) サーバー 2 で「オールインワン構成でサーバーのホスト名または IP アドレスを変更する場合」(P.370) の内容を実施する (4) サーバー 1 で「機器グループに設定したサーバーのホスト名または IP アドレスを変更する」(P.378) の内容を実施する *1

*1 このあと、必要に応じて機器とクライアントを設定してください。

機器グループに設定したサーバーのホスト名または IP アドレスを変更する

1. ApeosWare Management Suite にログインします。
2. メニューを、［サービス設定］ > ［機器管理］ > ［機器グループ一覧］の順に選択します。
3. ［すべての機器グループ］ページで、次の操作をします。
   (1) 対象の機器グループの［操作］列にある をクリックします。
   (2) ［プロパティ］をクリックします。
4. ［機器グループプロパティ］ページで、次の操作をします。
   (1) ［基本設定］をクリックします。
   (2) ［プライマリーサーバーの IP アドレス / ホスト名］で、変更後のホスト名または IP アドレスを選択します。
   (3) ［セカンダリーサーバーの IP アドレス / ホスト名］で、変更後のホスト名または IP アドレスを選択します。
   (4) ［保存して閉じる］をクリックします。
   ［機器データの反映条件の設定］ページに設定された時間が到来、または間隔が経過すると、変更した情報が機器に反映されます。

レポートサーバーの情報を変更する場合

レポートサーバーでは、「HostnameSetup.exe」コマンドを使用できません。

レポートサーバーが使用するデータベースのインスタンス名が変更された場合は、レポートサーバーを一度アンインストールし、更新後のインスタンス名で再度インストールしてください。

動作ログ

コマンド「HostnameSetup.exe」の動作ログの格納場所とファイル名は次のとおりです。

格納場所	ファイル名
{データ格納先フォルダー} *1 ￥Data￥Common Utility￥Hostname Setting￥logs	AWHST-hst-system-｛ファイルが作成された年月日｝.log

*1 初期設定から変更していない場合は、「C:￥FUJIFILM￥ApeosWare MS」です。

注意事項

- 登録されている機器グループの［認証 / 集計モード］が、［認証しない］以外に設定されている場合、ApeosWare Management Suite サーバーのホスト名、SSL の設定、およびポート番号を変更するときは、コマンド「HostnameSetup.exe」を実行したあと、次の手順を実行してください。

(1) 管理者画面のメニューを［サービス設定］ > ［機器管理］ > ［機器グループ一覧］の順に選択します。
(2) 設定を変更する機器グループを選択して、プロパティを表示します。
(3) ［機器のパネルの設定と登録データの管理］画面の［サーバー URL］のホスト名、SSL の設定、およびポート番号を、変更後のホスト名、SSL の設定、およびポート番号に変更します。
(4) ［認証 / 集計モード］が［外部認証］または［カスタム認証］の場合は、［基本設定］画面の［プライマリーサーバーの IP アドレス / ホスト名］も、変更後のホスト名、SSL の設定、およびポート番号に変更します。
(5) 変更した機器グループで、機器への反映を実行します。

- Image Log Management 機能を利用していて、受信サーバーのホスト名を変更した場合に、受信サーバーを含むノード（オールインワン構成のメインサーバー、イメージログ受信分離構成、イメージログコ

ア受信分離構成の受信サーバー）のホスト名を変更したときは、次の手順を実行してください。

(1) 管理者画面のメニューを［サービス設定］＞［機器管理］＞［機器グループ一覧］の順に選択します。
(2) 設定を変更する機器グループを選択して、プロパティを表示します。
(3)［通信設定］画面の［イメージログ転送先］のホスト名を、変更後のホスト名に変更します。
(4) 変更した機器グループで、機器への反映を実行します。

- イメージログコアサーバーの情報を変更したときは、次の手順を実行してください。

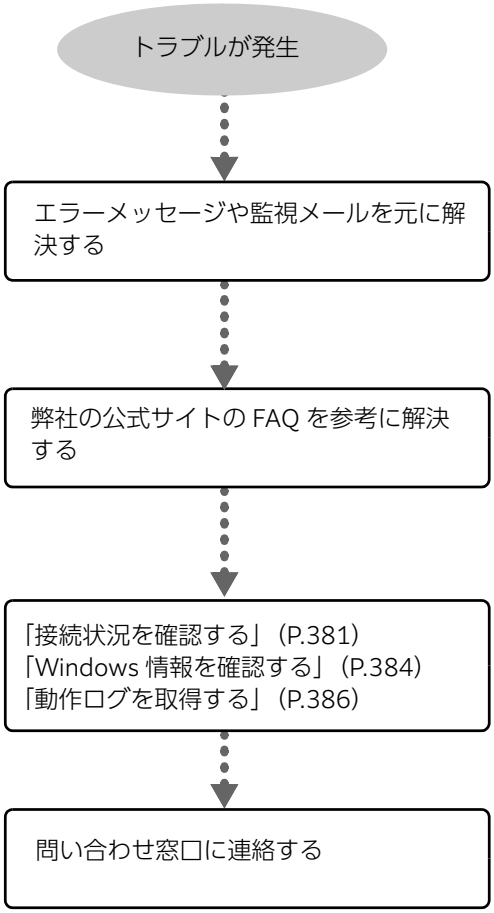
(1) メインサーバーで IIS（Internet Information Services）を開き、ApeosWare Management Suite のサイトを再起動します。
(2) イメージログ受信サーバーがあれば、イメージログ受信サーバーのコアサービスを再起動します。

- Google ドライブ連携機能やメールの先進認証を使用していて、メインサーバーのホスト名を変更した場合は、OAuth プロバイダーに事前に設定していたリダイレクト URI を、変更後のホスト名に変更してください。
  具体的なリダイレクト URI の設定手順は、次を参照してください。
  - GoogleDrive 連携：[Google ドライブ設定]
  - メールの先進認証：[ネットワーク設定]

トラブルに対処する

ApeosWare Management Suite の操作中や運用中にトラブルが発生したときは、以下のフローに従って対処してください。

トラブル対処の流れ



表示されたエラーメッセージや、ApeosWare Management Suite から送信されたエラー通知メールに従って、トラブルを解決します。

弊社の公式サイトの FAQ に記載された、主なトラブルとその対処方法を参考に、トラブルを解決します。
FAQ の URL（日本語のみ）：
https://www.fujifilm.com/fb/support/software/aw_manage_suite

Diagnostics Utility（診断ツール）を使用してシステムを診断したり、動作ログを取得したりして、トラブルを解決します。

上記の対応をしてもトラブルが解決しない場合は、問い合わせ窓口に連絡してください。
問い合わせ窓口では、Diagnostics Utility で取得した情報が必要になる場合があるので、準備してください。

補足

動作ログとは、ApeosWare Management Suite のソフトウェアに発生したイベントを記録するファイルのことで、システムログとも呼びます。動作ログにはソフトウェアに発生したエラーが記録されます。そのため、動作ログの内容は、トラブル対処に役立つことがあります。

Diagnostics Utility を使用する

Diagnostics Utility では、次のことができます。

- サーバーや機器との接続状況を確認
- 動作ログ、Windows の情報、および ApeosWare Management Suite の設定情報を収集
- 証明書情報の取得

Diagnostics Utility を使用してシステムを診断し、トラブルの解決に役立てることができます。
また、トラブルが発生して問い合わせ窓口に連絡するときは、Diagnostics Utility で取得した情報が必要になる場合があります。

Diagnostics Utility を起動する

Diagnostics Utility は、サーバーとクライアントで動作します。
次の手順で Diagnostics Utility を起動します。

DVD-ROM から起動する場合

1. DVD-ROM を DVD ドライブに挿入します。
2. 言語を選択するウィンドウが表示された場合は選択して、［OK］をクリックします。
3. 次の操作をします。
   (1) ［ツール一覧］タブをクリックします。
   (2) ［Diagnostics Utility］をダブルクリックします。

DVD-ROM からコピーして起動する場合

1. DVD-ROM を DVD ドライブに挿入します。
2. エクスプローラーで DVD-ROM の「cm￥tools」フォルダーを開いて、「dgt」フォルダーを任意の場所にコピーします。コピーした「dgt」フォルダーを開いて、「ADTUI.exe」ファイルをダブルクリックします。

インストールしてから起動する場合


補足

レポートサーバーには、Diagnostics Utility はインストールされません。レポートサーバーで Diagnostics Utility を実行する場合は、DVD-ROM から起動するか、DVD-ROM からコピーして起動してください。


参照

『セットアップガイド』

1. Windows のプログラムを起動するメニューから［FUJIFILM ApeosWare Management Suite］＞［診断ツール］の順に選択します。

接続状況を確認する

Diagnostics Utility を使用して、サーバーや機器との接続状況を確認します。

1. Diagnostics Utility を起動します。


参照

「Diagnostics Utility を使用する」（P.380）

2. 次の操作をします。
   (1) ［機器］を選択します。
   (2) 接続状況を確認する機器の IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または FQDN を［IP アドレスまたはホスト名］に入力します。
   (3) ［追加］をクリックします。
   ［接続状況確認］タブの［確認する機器 / サーバー一覧 :］に追加されます。追加したい機器がある場合は、(2) と (3) を繰り返します。機器とサーバーを合わせて 10 個まで追加できます。
3. 次の操作をします。
   (1) ［サーバー］を選択します。

(2) 接続状況を確認するサーバーの IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、または FQDN を［IP アドレスまたはホスト名］に入力します。

(3) ［追加］をクリックします。

［接続状況確認］タブの［確認する機器 / サーバー一覧 :］に追加されます。追加したいサーバーがある場合は、(2) と (3) を繰り返します。機器とサーバーを合わせて 10 個まで追加できます。

4. 機器の SNMP のコミュニティー名やユーザー名などに、工場出荷時と異なる値を設定している場合は、［確認する機器 / サーバー一覧］で機器を選択し、［通信設定］をクリックしてから次の操作をします。

■ 通信状況を確認する機器が、SNMP v1/v2 を使用する場合

(1) ［SNMP v1/v2］を選択します。

(2) 既定値と異なるコミュニティー名を機器に設定している場合は、そのコミュニティー名を［コミュニティー名］に入力します。

(3) ［OK］をクリックします。

■ 通信状況を確認する機器が、SNMP v3 を使用する場合

(1) ［SNMP v3］を選択します。

(2) 既定値と異なるユーザー名を機器に設定している場合は、そのユーザー名を［ユーザー名］に入力します。

(3) 既定値と異なる認証用パスワードを機器に設定している場合は、その認証用パスワードを［認証用パスワード (空欄の場合、既定値が使用されます)］に入力します。

(4) 既定値と異なる暗号化用パスワードを機器に設定している場合は、その暗号化用パスワードを［暗号化用パスワード (空欄の場合、既定値が使用されます)］に入力します。

(5) ［OK］をクリックします。

5. ［接続状況確認］タブの［開始］をクリックします。

通信状況の確認が開始されます。通信状況の確認が終了すると、［接続状況の詳細情報 :］に、結果が表示されます。

［接続状況の詳細情報 :］に表示される内容は、次のとおりです。

項目	属性値	説明
ローカル		
OS 情報		
OS 情報取得	OS 情報を取得できなかったときだけ、「OS 情報を取得できませんでした。」と表示されます。	OS 情報を取得できなかったときは、この項目だけ表示され、［OS 情報］のほかの項目は表示されません。
OS 名	Diagnostics Utility を実行した OS が表示されます。	−
OS バージョン& SP バージョン	Diagnostics Utility を実行した OS のバージョンと、サービスパックが表示されます。	−
ユーザー名	Diagnostics Utility を実行したユーザー名が表示されます。	−
ユーザー権限	Diagnostics Utility を実行したユーザーの権限が表示されます。	−
リソース		ハードディスク、メモリーが複数ある場合は、すべて表示されます。
各ドライブの残 HD 容量	Diagnostics Utility を実行した PC の、ハードディスクの空き容量が表示されます。	−
メモリ	Diagnostics Utility を実行した PC の、メモリー容量が表示されます。	−

項目	属性値	説明
ローカル（続き）		
ネットワーク情報		
ネットワーク情報取得	情報を取得できなかったときだけ、「ネットワーク情報を取得できませんでした。」と表示されます。	ネットワーク情報を取得できなかったときは、この項目だけ表示され、［ネットワーク情報］のほかの項目は表示されません。
コンピュータ名	Diagnostics Utility を実行した PC の、コンピューター名が表示されます。	－
ドメイン名	Diagnostics Utility を実行した PC の、ドメイン名が表示されます。	ドメイン名とワークグループ名は、どちらか一方だけ表示されます。
ワークグループ名	Diagnostics Utility を実行した PC の、ワークグループ名が表示されます。	
ネットワークアダプターカードの名前		［デフォルトゲートウェイ］までのまとまりは、ネットワークアダプターカードの数だけ、繰り返して表示されます。
IP アドレス取得方法	次のどちらかが表示されます。 DHCP/ 手動で設定	－
IP アドレス	次のどちらかが表示されます。 Diagnostics Utility を実行した PC の IP アドレス /DHCP アドレスの取得失敗	「DHCP アドレスの取得失敗」のときは、［説明］列に「IP アドレスとデフォルトゲートウェイの設定が間違っている可能性があります。」と表示されます。
サブネットマスク	Diagnostics Utility を実行した PC の、サブネットマスクが表示されます。	－
デフォルトゲートウェイ	Diagnostics Utility を実行した PC の、デフォルトゲートウェイが表示されます。	IP アドレスとデフォルトゲートウェイのネットワークアドレスが一致しないときは、［説明］列に「IP アドレスとデフォルトゲートウェイの設定が間違っている可能性があります。」と表示されます。 デフォルトゲートウェイが設定されていないときは、［説明］列に「デフォルトゲートウェイが設定されていません。」と表示されます。
FireWall		
Windows ファイアウォール	次のどれかが表示されます。 起動 / 停止 / 起動中 / 停止中 / 一時停止 / 一時停止中 / 処理中 / 存在しない / 権限なし	Windows FireWall サービスが起動しているかどうかが表示されます。
McAfeeVirusScan	次のどれかが表示されます。 起動 / 停止 / 起動中 / 停止中 / 一時停止 / 一時停止中 / 処理中 / 存在しない / 権限なし	McAfee® VirusScan が起動しているかどうかが表示されます。

項目	属性値	説明
リモート		
機器情報		
接続状況を確認する機器の、IP アドレスまたはホスト名		［設置場所］までのまとまりは、接続状況を確認する機器の数だけ、繰り返して表示されます。
接続	次のどれかが表示されます。 有効 / 無効 / システムエラーが発生しました。	機器に対して ping を使った接続テストをし、その結果が表示されます。
機器情報取得	機器と SNMP 通信して情報を取得できなかったときだけ、次のどれかが表示されます。 機器と通信できませんでした。/ 機器と SNMP 通信できませんでした。/ システムエラーが発生しました。	機器から情報を取得できたときは、［機器情報取得］だけが表示されます。
システム設定		
機械情報		［プリンタ名］、［機種名］、［設置場所］のどれも取得できないときは、「- 属性が存在しません。-」と表示されます。
プリンタ名	機器の MIB から取得した「sysName」情報が表示されます。	−
機種名	機器の MIB から取得した「sysProductName」情報が表示されます。	弊社製または富士ゼロックス社製の機器では、製品名と ROM バージョンが表示されます。
設置場所	機器の MIB から取得した「sysLocation」情報が表示されます。	−
サーバー情報		
接続状況を確認するサーバーの、IP アドレスまたはホスト		［接続］までのまとまりは、接続状況を確認するサーバーの数だけ、繰り返して表示されます。
接続	次のどれかが表示されます。 有効 / 無効 / システムエラーが発生しました。	サーバーに対して ping を使った接続テストをし、その結果が表示されます。

6. **［接続状況の詳細情報 :］に表示された結果は、CSV 形式のテキストファイルとして保存できます。保存する場合は、［保存 ...］をクリックし、［ファイル保存］ダイアログボックスで保存先とファイル名を指定します。**

［接続状況の詳細情報 :］を保存した CSV ファイルのフォーマットは、次のとおりです。

列番号	項目	説明
1	チェック項目名	「OS 情報」や「ネットワーク情報」などのチェック項目名です。
2	チェック項目の値	接続の有効 / 無効などの値です。
3	説明	チェック結果の説明です。設定が間違っている可能性があるときは、行の末尾に次のマークが付けられます。 ×：設定が間違っている可能性が高い △：設定が間違っている可能性がある

Windows 情報を確認する

Diagnostics Utility を使用して、Windows についての次の情報をまとめて取得できます。取得した情報は、ZIP 形式のファイルで保存されます。

- OS の名前、バージョン、リソースなどの OS 情報
- コンピューター名、TCP/IP の設定などのネットワーク情報
- イベントログ
- Internet Information Services のログおよび設定情報
- 実行中のプロセス一覧
- インストールされているアプリケーションの一覧
- 証明書情報

1. Diagnostics Utility を起動します。



参照

「Diagnostics Utility を起動する」（P.381）

2. [情報取得] タブを選択します。

3. 次の操作をします。

(1) ログを取得する期間を指定する場合は、[ログを取得する期間を指定する] にチェックマークを付け、[開始日 :] と [終了日 :] を選択します。

(2) [設定 ...] をクリックします。

4. 次の操作をします。

(1) [ログ設定] ダイアログボックスの各項目を、必要に応じて変更します。

特に、ZIP ファイルに保存されるログの機密情報を保護する場合は、[パスワードを設定する] にチェックマークを付けると、[パスワード :] に入力した文字列で、ZIP ファイルを暗号化できます。



補足

[ログのプライベート情報をマスクする] は、Windows 情報には使用されません。

(2) 設定を変更した場合は [OK] をクリックします。設定を変更しない場合は [キャンセル] をクリックします。

5. [Windows 情報] にチェックマークが付いていることを確認して、[取得開始] をクリックします。



補足

ApeosWare Management Suite のサーバーソフトウェアおよびツールが PC にインストールされているときは、ソフトウェア名が [取得対象情報の一覧] に表示されます。ソフトウェア名にチェックマークを付けると、そのソフトウェアの動作ログが取得されます。

6. [ファイル保存] ダイアログボックスで、Windows 情報をまとめた ZIP 形式のファイルを保存する先を指定します。

7. [保存 ...] をクリックします。

Windows 情報の取得が開始されます。

Windows 情報の取得が終了すると、[取得結果] に結果が表示されます。

8. [取得結果] に表示された結果は、CSV 形式のテキストファイルとして保存できます。保存する場合は、[保存 ...] をクリックし、[ファイル保存] ダイアログボックスで保存先とファイル名を指定します。

[取得結果] を保存した CSV ファイルのフォーマットは、次のとおりです。

列番号	項目	説明
1	取得項目名	「Windows 情報」や「イベントログ」などの、取得情報名です。
2	取得結果	情報を取得できなかったときは、「×」が表示されます。取得できたときは、何も表示されません。

列番号	項目	説明
3	説明	情報を取得できなかったとき、理由を表示します。

動作ログを取得する

Diagnostics Utility を使用して、ApeosWare Management Suite の動作ログをまとめて取得します。取得した動作ログは、ZIP 形式のファイルで保存されます。

補足

Diagnostics Utility が取得するログには、監査ログとデバッグログも含まれます。
監査ログは、業務監査に関係するイベントのログです。デバッグログは、弊社がソフトウェアのデバッグに使用するログです。デバッグログを取得するかどうかは、Diagnostics Utility の［ログ設定］タブで設定できます。

1. Diagnostics Utility を起動します。

参照
「Diagnostics Utility を起動する」（P.381）

2. ［情報取得］タブを選択します。
3. 次の操作をします。
   (1) ログを取得する期間を指定する場合は、［ログを取得する期間を指定する］にチェックマークを付け、［開始日 :］と［終了日 :］を選択します。
   (2) ［設定 ...］をクリックします。
4. 次の操作をします。
   (1) ［ログ設定］ダイアログボックスの各項目を、必要に応じて変更します。特に、ZIP ファイルに保存されるログの機密情報を保護する場合は、次の項目を使用できます。
   - ［パスワードを設定する］にチェックマークを付けると、［パスワード :］に入力した文字列で、ZIP ファイルを暗号化できます。
   - ［ログのプライベート情報をマスクする］にチェックマークを付けると、ユーザー名やパスワードなど、取り扱いに注意が必要な情報を「<<< ハッシュ値 >>>」に置き換えて出力できます。

   (2) 設定を変更した場合は［OK］をクリックします。設定を変更しない場合は［キャンセル］をクリックします。
5. ［取得対象情報の一覧 :］で、動作ログを取得するソフトウェアにチェックマークを付けます。
   インストールされている ApeosWare Management Suite のソフトウェア名が、［取得対象情報の一覧 :］に表示されます。
6. ［取得開始］をクリックします。
7. ［ファイル保存］ダイアログボックスで、動作ログをまとめた ZIP 形式のファイルを保存する先を指定します。
8. ［保存 ...］をクリックします。
   動作ログの取得が開始されます。
   動作ログの取得が終了すると、［取得結果］に結果が表示されます。
9. ［取得結果］に表示された結果は、CSV 形式のテキストファイルとして保存できます。保存する場合は、［保存 ...］をクリックし、［ファイル保存］ダイアログボックスで保存先とファイル名を指定します。

詳細ログを出力、ログサイズの上限を変更する

Diagnostics Utility を使用して、詳細ログを出力できるように変更します。また、取得するログのサイズの上限値を変更します。詳細ログを出力する設定は、弊社担当者の指示があったときだけ実行します。

補足

「詳細ログ」は、「デバックログ」とも呼ばれます。

1. Diagnostics Utility を起動します。

参照

「Diagnostics Utility を起動する」（P.381）

2. [ログ設定] タブを選択します。

3. 次の操作をします。

(1) [ログ情報一覧 :] から、詳細ログを記録するログ情報にチェックマークを付けます。

(2) 必要に応じて、[ログサイズの上限を設定する] にチェックマークを付け、最大ログサイズを指定します。
最大ログサイズの値は、40 GB 以上を推奨します。

(3) [適用] をクリックします。

ログを表示する

ログ一括表示ツールを利用して、ログの内容を一覧表示できます。

1. DVD-ROM を DVD ドライブに挿入します。

2. エクスプローラーで DVD-ROM の「cm￥tools￥dgt」フォルダーを開きます。

3. 「ADTLogViewer」をダブルクリックします。
ログ一括表示画面が表示されます。
ログ一覧は、ログの表示内容を、[すべて]、[Image Log Management] または [メーター] に絞り込んで表示できます。

ApeosWare Management Suite のサービスを開始または停止する

ApeosWare Management Suite のサービスを手動で開始または停止する方法について説明します。

ApeosWare Management Suite のサービスを開始する

ApeosWare Management Suite のサービスは、ApeosWare Management Suite サーバーを立ち上げると自動的に開始します。

なんらかの理由で ApeosWare Management Suite のサービスが停止した場合に手動で開始させたいときは、Windows の管理ツールからサービスを開始できます。

次の順でサービスを開始してください。

SQL Server (FXAW)

ApeosWare Management Suite Proxy Service

ApeosWare Management Suite Core Service

ApeosWare Management Suite Multi Task Service

ApeosWare Management Suite mDNS Service

ApeosWare Management Suite Printer Port Service

ApeosWare Management Suite Email Print Service

ApeosWare Management Suite Image Log Management Core Service

World Wide Web 発行サービス
ApeosWare Management Suite Update Service
ApeosWare Management Suite Flow Management Service
ApeosWare Management Suite Monitoring Service

ApeosWare Management Suite のサービスを停止する

ApeosWare Management Suite のサービスは、ApeosWare Management Suite サーバーをシャットダウンすると自動的に停止します。

インストールやリストアをするときなどに、手動で ApeosWare Management Suite のサービスを停止させたいときは、次の順序でサービスを停止してください。

ApeosWare Management Suite Monitoring Service
ApeosWare Management Suite Flow Management Service
ApeosWare Management Suite Update Service
World Wide Web 発行サービス
ApeosWare Management Suite Image Log Management Core Service
ApeosWare Management Suite Email Print Service
ApeosWare Management Suite Printer Port Service
ApeosWare Management Suite mDNS Service
ApeosWare Management Suite Multi Task Service
ApeosWare Management Suite Core Service
ApeosWare Management Suite Proxy Service
Print Spooler
SQL Server (FXAW)



補足

- ApeosWare Management Suite Monitoring Service は、必ず Update Service より先にサービスを停止してください。
- ApeosWare Management Suite Flow Management Service は、Windows の監視ツールからサービスを停止できません。停止する場合は、バッチコマンドを実行してください。バッチコマンドについて、詳しくは『機能ガイド Flow Management Option 編』を参照してください。

付録

ジョブログファイルのフォーマット（SOAP 収集）

SOAP（Simple Object Access Protocol）を使用して収集された、ジョブログファイルのフォーマットを説明します。

ジョブログファイルの基本構成

ジョブログファイルを構成する行と、ジョブログファイルのファイル形式について説明します。

ジョブログファイルを構成する行

ジョブログファイルは、次の行で構成されます。

- 見出し行

  「プリンタ名」、「枝番」、「MIB タイプ」など、ジョブログの項目名が記録されます。

- 原稿データ行

  原稿面のカラーモード、原稿面数、原稿の種類、および原稿サイズなどが記録される行です。プリントジョブのように原稿枚数が 0 のジョブでは、原稿データ行は記録されません。

- 面データ行

  プリントする面のサイズ、カラーモード、および面数などが記録される行です。原稿をスキャンしてファイル転送するジョブのように、プリント枚数が 0 のジョブでは、面データ行は記録されません。

- 用紙データ行

  プリントする用紙の種類、サイズ、および枚数などが記録される行です。原稿をスキャンしてファイル転送するジョブのように、プリント枚数が 0 のジョブでは、用紙データ行は記録されません。

- ファクス処理データ行

  ファクス処理面数、ファクス処理面のサイズ、および相手の電話番号などが記録される行です。ファクスのジョブでだけ記録されます。

- 基本データ行

  プリンター名やサービスの種類など、ジョブの基本情報だけが記録される行です。プリントデータを機器に蓄積するジョブや、プリントジョブを中止したときのように、原稿データ行、面データ行、用紙データ行、およびファクス処理データ行がどれも存在しないときに記録されます。

コピージョブの例

コピーを実行したときのジョブログファイルを説明します。

プリンタ名	枝番	…	ジョブ ID	…	印刷面のサイズ	…	用紙サイズ	…	原稿サイズ	…
Apeos1	1 of 3	中略	123	中略		中略		中略	A4	後略
Apeos1	2 of 3		123		A4					
Apeos1	3 of 3		123				A4			

この例は、A4 サイズの原稿を A4 サイズの用紙にコピーするジョブです。このジョブは原稿データ行、面データ行、および用紙データ行から成ります。

- 「プリンタ名」にはジョブを実行した機器の名前が記録されます。
- ジョブが 3 行から成るので、各行の「枝番」には、「1 of 3」（3 行のうち 1 行目）、「2 of 3」（3 行のうち 2 行目）、および「3 of 3」（3 行のうち 3 行目）という値が記録されます。

補足

コピージョブは常に 3 行とは限りません。用紙のサイズやカラーモードの選択によっては、4 行以上になります。

- 1 つのコピージョブを構成する 3 つの行なので、「ジョブ ID」には同じ値が記録されます。
- 原稿データ行は原稿についての情報を記録する行なので、「原稿サイズ」に値が記録され、印刷面や用紙の項目には値が記録されていません。
- 面データ行はプリントする面についての情報を記録する行なので、「印刷面のサイズ」に値が記録され、原稿や用紙の項目には値が記録されていません。
- 用紙データ行はプリントする用紙についての情報を記録する行なので、「用紙サイズ」に値が記録され、原稿や印刷面の項目には値が記録されていません。

プリントジョブの例

PC からプリントを実行したときのジョブログファイルを説明します。

プリンタ名	枝番	…	ジョブ ID	…	印刷面のサイズ	…	用紙サイズ	…	原稿サイズ	…
Apeos1	1 of 2	中略	234	中略	A4	中略		中略		後略
Apeos1	2 of 2		234				A4			

この例は、PC から A4 サイズの用紙にプリントするジョブです。このジョブは面データ行、および用紙データ行から成ります。原稿を読み取らないので、原稿データ行はありません。

- 「プリンタ名」にはジョブを実行した機器の名前が記録されます。
- ジョブが 2 行から成るので、各行の「枝番」には、「1 of 2」（2 行のうち 1 行目）および「2 of 2」（2 行のうち 2 行目）という値が記録されます。
- 1 つのプリントジョブを構成する 2 つの行なので、「ジョブ ID」には同じ値が記録されます。面データ行はプリントする面についての情報を記録する行なので、「印刷面のサイズ」に値が記録され、用紙の項目には値が記録されていません。
- 用紙データ行はプリントする用紙についての情報を記録する行なので、「用紙面のサイズ」に値が記録され、印刷面の項目には値が記録されていません。

ファクスジョブの例

原稿を読み取り、ファクスで送信したときのジョブログファイルを説明します。

プリンタ名	枝番	…	ジョブ ID	…	原稿サイズ	…	ファクス相手先電話番号	…	ファクス処理面のサイズ	…
Apeos1	1 of 2	中略	345	中略	A4	中略		中略		後略
Apeos1	2 of 2		345				XXXXXXXX		A4	

この例は、A4 の原稿をファクスで送信するジョブです。このジョブは原稿データ行およびファクス処理データ行から成ります。プリントをしないので、面データ行と用紙データ行はありません。

- 「プリンタ名」にはジョブを実行した機器の名前が記録されます。
- ジョブが 2 行から成るので、各行の「枝番」には、「1 of 2」（2 行のうち 1 行目）および「2 of 2」（2 行のうち 2 行目）という値が記録されます。
- 1 つのファクスジョブを構成する 2 つの行なので、「ジョブ ID」には同じ値が記録されます。
- 原稿データ行は原稿についての情報を記録する行なので、「原稿サイズ」に値が記録され、ファクス処理の項目には値が記録されていません。

- ファクス処理データ行はファクス処理についての情報を記録する行なので、「ファクス相手先電話番号」と「ファクス処理面のサイズ」に値が記録され、原稿の項目には値が記録されていません。

補足

1 行から構成され、枝番が「1of1」になるファクスジョブもあります。

ジョブログファイルの形式

ジョブログファイルは、CSV 形式のテキストファイルです。

ジョブログファイルに記録される項目（サービスの種類別）

次の表は、ジョブログファイルに記録される項目を、サービスの種類で分類したものです。

○ ：記録される

× ：記録されない

△ ：機種、サービスの詳細に依存する

項目名	サービスの種類						
	プリント	コピー	スキャン	ファクス	システムシート	ファイル転送	電子メール転送
プリンタ名	○	○	○	○	○	○	○
枝番	○	○	○	○	○	○	○
MIB タイプ	○	○	○	○	○	○	○
機種	○	○	○	○	○	○	○
ジョブ ID	○	○	○	○	○	○	○
サービスの種類 *8	○	○	○	○	○	○	○
ホスト名	△	×	×	△	×	△	×
ユーザー名	△*6	△	△	△	○	△	△
ドキュメント名 *9	△*7	×	×	△	×	△	×
ジョブオーナー名	△	△	△	△	×	△	×
ジョブクライアント ID	△	×	×	△	×	△	×
印刷状態	○	○	○	○	○	○	○
ポート	△	×	△	△	×	△	×
データの種類	△	×	△	△	×	△	×
IP アドレス *5	△	×	×	△	×	△	×
排出先	△	○	×	×	○	×	×
まとめて一枚	○	○	○	○	○	○	○
用紙トレイ選択	△	○	×	×	○	×	×
ログ収集日 *10	○	○	○	○	○	○	○
ログ収集時刻 *10	○	○	○	○	○	○	○
プリンタ内部時計の日付 *11	○	○	○	○	○	○	○
プリンタ内部時計の時刻 *11	○	○	○	○	○	○	○
印刷開始日	○	○	○	○	○	○	○
印刷開始時刻	○	○	○	○	○	○	○
印刷終了日	○	○	○	○	○	○	○

項目名	サービスの種類						
	プリント	コピー	スキャン	ファクス	システムシート	ファイル転送	電子メール転送
印刷終了時刻	○	○	○	○	○	○	○
今までの印刷総ページ数 *12	○	○	○	○	○	○	○
通電後の印刷総ページ数 *12	○	○	○	○	○	○	○
エラー	○	○	○	○	○	○	○
印刷面のカラーモード	△	○	×	×	○	×	×
印刷面のサイズ	△	○	×	×	○	×	×
面数	△	○	×	×	○	×	×
用紙種類	△	○	×	×	○	×	×
用紙サイズ	△	○	×	×	○	×	×
枚数	△	○	×	×	○	×	×
ジョブテンプレート名	×	×	△	×	×	△	△
部数 *1	○	○	×	×	○	×	×
ステープルの個数 *1	○	○	×	×	○	×	×
原稿面のカラーモード	×	○	○	△	×	△	○
原稿面数 *1	×	○	○	△	×	△	○
原稿の種類	×	○	△	△	×	×	△
原稿サイズ	×	○	△	△	×	×	△
送信先 IP アドレス	×	×	△	×	×	△	○
親展ボックス番号	△	×	△	△	△	△	△
ファクス相手先電話番号	△	×	×	△	×	△	×
ファクス相手局名	△	×	×	△	×	△	×
F コード	△	×	×	△	×	△	×
ファクス使用回線 *1	△	×	×	△	×	△	×
ファクス通信処理開始日 *2	△	×	×	△	×	△	×
ファクス通信処理開始時刻 *3	△	×	×	△	×	△	×
ファクス通信処理終了日 *2	△	×	×	△	×	△	×
ファクス通信処理終了時刻 *3	△	×	×	△	×	△	×
ファクス通信処理所要時間 *1	△	×	×	△	×	△	×
リモート ID	△	×	×	△	×	△	×
ファクス処理面数 *1	×	×	×	△	×	×	×
ファクス処理面のサイズ	△	×	×	△	×	△	×
ファクス短縮ダイヤル番号	×	×	×	△	×	×	×
サービスの詳細	○	○	○	○	○	○	○
関連ジョブ ID *4	△	×	×	△	△	△	×
アカウント ID *14	△	△	△	△	△	△	△

項目名	サービスの種類						
	プリント	コピー	スキャン	ファクス	システムシート	ファイル転送	電子メール転送
カード番号	△	△	△	△	△	△	△
メーター 1*12	○	○	○	○	○	○	○
メーター 2*12	○	○	○	○	○	○	○
メーター 3*12	○	○	○	○	○	○	○
課金対象メーター番号 *1	○	○	×	×	○	×	×
送信先情報	×	×	×	×	×	○	○
ステープルの種類	○	○	×	×	○	×	×
折りの種類	○	○	×	×	○	×	×
折りの回数 *1	○	○	×	×	○	×	×
パンチの種類	○	○	×	×	○	×	×
パンチの回数 *1	○	○	×	×	○	×	×
製本処理回数 *1	○	○	×	×	○	×	×
UUID	○	○	○	○	○	○	○
文書番号	△	×	△	△	△	△	△
ジョブエラー終了の理由	○	○	○	○	○	○	○
ジョブエラー状態コード	○	○	○	○	○	○	○
ファクス発信者番号	△	×	×	△	×	△	×
ファクスダイヤルイン番号	△	×	×	△	×	△	×
ファクス相手先情報	△	×	×	△	×	△	×
ファクス発呼着呼種別	△	×	×	△	×	△	×
ファクス伝送速度	△	×	×	△	△	△	×
ファクス再接続フラグ	△	×	×	△	×	△	×
アドレス帳宛先名	×	×	×	△	×	×	×
ファクス送信状態	×	×	×	△	×	×	×
ファクス通信結果	×	×	×	△	×	×	×
ファクス蓄積ページ数 *1	△	×	×	△	△	△	×
スタンプの種類 *13	△	△	×	×	△	×	×
使用ロールサイズ *13	△	△	×	×	△	×	×
使用ロール長 *13	△	△	×	×	△	×	×

*1 情報が取得できないジョブの場合は、常に「0」が表示されます。

*2 情報が取得できないジョブの場合は、常に「0000/00/00」が表示されます。

*3 情報が取得できないジョブの場合は、常に「00:00:00」が表示されます。

*4 ファクス送信やファクス受信などの操作を行った場合、対応するジョブログが複数になる場合があります。その場合は、メインのジョブ ID が、サブのジョブログに関連ジョブ ID として表示されます。

*5 クライアントコンピューターの IP アドレスが取得できるかどうかを示しています。機器の IP アドレスは常に取得できます。

*6 Port9100 経由の場合は、機器側のジョブログにユーザー名が保存されないため、取得できません。

*7 Port9100 経由の場合は、機器側のジョブログにドキュメント名が保存されないため、取得できません。

*8 蓄積プリントで、プリントジョブを機器に蓄積するときに、サービスの種類に「ファイル転送」が記録されます。そのとき、サービスの詳細には「セキュリティ受信」、「プルーフ受信 1 部印刷」、「ディレイ受信」、または「プライベート受信」が記録されます。蓄積プリントで、機器に蓄積したプリントジョブを操作パネルからプリントするときは、サービスの種類に「プリント」が記録されます。そのとき、サービスの詳細には「セキュリティプリント」、「プルーフプリント」、「ディレイプリント」、または「プライベートプリント」が記録されます。

*9 セキュリティープリント、時刻指定プリント、およびプライベートプリントでは、プリンタードライバーの［蓄積する文書名］で指定した文書名が記録されます。

*10ログの収集日時は、ApeosWare Management Suite サーバーの時計が示す日時です。

*11プリンター内部時計の日時は、ログを収集したときの機器の時計が示す日時です。

*12印刷総ページ数、メーター値は、ログを収集したときの値です。

*13この項目は、ジョブログの MIB タイプが「FX MIB（SOAP-WF）」の機器だけ取得できます。

*14joblogexport.properties で、com.fujifilm.fb.apeosware.joblog.export.accountmapping=true が指定された場合は、アカウント名に変換します。

SOAP 収集対応機器のジョブログの詳細

認証 / 集計管理機能を使用している場合は、機器側の認証 / 集計管理機能の設定状態、機器が受信したジョブの認証状態によっては、UserID やユーザー名などのログの情報が、意図した結果と異なる場合があります。

以下にその例を示します。

例 1：
ユーザー名に、機器に登録された UserID に対応したユーザー名ではなく、クライアント PC のログインユーザー名が記録される

例 2：
ジョブオーナー名に、プリンタードライバーで設定した UserID ではなく、「 UnknownUser 」が記録される

例 3：
文書名に、蓄積する文書名が記録される

ログの情報は、機器側の認証 / 集計管理機能の設定で、「プリントの集計 / 管理」を「しない」に設定している場合と「する」に設定している場合で異なります。

それぞれの場合について説明します。

「プリントの集計 / 管理」を「しない」に設定している場合

認証 / 集計管理機能の設定で、「プリントの集計 / 管理」を「しない」に設定している場合について説明します。

認証 / 集計管理機能を使用している、使用していないのどちらでも、「プリントの集計 / 管理」を「しない」に設定している場合は、プリントジョブの種類に関わらず、ジョブログの情報は、以下のようになります。

ジョブログの項目名	ジョブログに記録される値	
サービスの種類	プリント	
サービスの詳細	プリント	
印刷状態	完了	
ジョブオーナー名	プリンタードライバーの［初期設定］タブで［常に同じ認証情報を使用する］に設定している場合 プリンタードライバーで設定した UserID	プリンタードライバーの［初期設定］タブで［ジョブごとに認証の入力画面を表示する］に設定し、蓄積 ID だけを指定した場合 UnknownUser
ユーザー名	クライアント PC のログオンユーザー名	
AccountID	プリンタードライバーで設定した AccountID	
カード番号	空白	

「プリントの集計 / 管理」を「する」に設定している場合

認証 / 集計管理機能の設定で、「プリントの集計 / 管理」を「する」に設定している場合について説明します。

「する」に設定している場合、プリントジョブの種類によって、ジョブログの情報が異なります。ジョブの種類は、大きく次の 3 つに分けられます。

通常プリント

プリンタードライバーからの通常のプリントジョブです。また、機器の「認証プリント」の設定では、「受信制御」に「プリンターの制御に従う」を設定している場合です。

蓄積プリント

機器にいったんプリントジョブを蓄積するプリントジョブです。対象になるプリントジョブは以下の 4 種類です。

- セキュリティープリント
- サンプルプリント
- 時刻指定プリント
- プライベートプリント

認証プリント

すべてのプリントジョブを、機器にいったん保存するジョブです。

機器の「認証プリント」の設定は、次の 2 種類があります。

- 「受信制御」に「プリンターの制御に従う」を設定し、「認証が不正のジョブ」に「すべて保存」を設定した場合

  この設定では、認証に失敗した蓄積プリントのジョブも含まれます。
- 「受信制御」に「すべて保存」を設定した場合

  この設定では、すべてのプリントジョブが対象になります。

それぞれのジョブの種類に分けて説明します。

通常プリント

通常のプリントでは、次の要因によって、ジョブログに記録される値が異なります。

- プリンタードライバーで設定した UserID の、機器での認証状態
- プリンタードライバーに認証情報を設定する手段

それぞれの場合について説明します。

UserID が機器に登録されていない場合

ジョブログの項目名	ジョブログに記録される値
サービスの種類	プリント
サービスの詳細	プリント
印刷状態	中止
ジョブオーナー名	プリンタードライバーで設定した UserID
ユーザー名	クライアント PC のログオンユーザー名
AccountID	プリンタードライバーで設定した AccountID
カード番号	空白

UserID が機器に登録されている場合

ジョブログの項目名	ジョブログに記録される値			
	パスワードが間違っている場合	パスワードが正しい場合		
		本体認証の場合	ネット認証で、AccountID が正しい場合	ネット認証で、AccountID が間違っている場合
サービスの種類	プリント			
サービスの詳細	プリント			
印刷状態	中止	完了		中止
ジョブオーナー名	プリンタードライバーで設定した UserID			
ユーザー名	クライアント PC のログオンユーザー名	機器に登録されている UserID に対応したユーザー名		クライアント PC のログオンユーザー名
AccountID	プリンタードライバーで設定した AccountID		機器に登録されている UserID に対応した AccountID	プリンタードライバーで設定した AccountID
カード番号	空白	機器に登録されている UserID に対応したカード番号 (カード認証も使用している場合のみ)		空白

プリンタードライバーの初期設定タブで「ジョブごとに認証の入力画面を表示する」を設定し、蓄積 ID だけを指定した場合

ジョブログの項目名	ジョブログに記録される値
サービスの種類	プリント
サービスの詳細	プリント
印刷状態	中止
ジョブオーナー名	UnknownUser
ユーザー名	クライアント PC のログオンユーザー名
AccountID	プリンタードライバーで設定した AccountID
カード番号	空白

蓄積プリント

蓄積プリントの場合、プリントジョブを機器に蓄積した時点と、蓄積したプリントジョブを機器の操作パネルからプリントした時点で、ジョブログに記録される値が異なります。

また、セキュリティープリント、時刻指定プリント、およびプライベートプリントでは、ジョブログの文書名には、プリンタードライバーの「蓄積する文書名」で指定した文書名が記録されます。

それぞれの場合について説明します。

プリントジョブを機器に蓄積した時点

ジョブログの項目名	ジョブログに記録される値	
	認証情報が正しい場合	認証情報が間違っている場合
サービスの種類	ファイル転送	
サービスの詳細	セキュリティ受信、プルーフ受信 1 部印刷、ディレイ受信、プライベート受信	

ジョブログの項目名	ジョブログに記録される値	
	認証情報が正しい場合	認証情報が間違っている場合
印刷状態	完了	中止
ジョブオーナー名	プリンタードライバーで設定した UserID プリンタードライバーの設定で、蓄積 ID だけを指定した場合は、「UnknownUser」	
ユーザー名	機器に登録されている UserID に対応したユーザー名	クライアント PC のログオンユーザー名
AccountID	機器に登録されている UserID に対応した AccountID	プリンタードライバーで設定した AccountID
カード番号	機器に登録されている UserID に対応したカード番号 (カード認証も使用している場合のみ)	空白

蓄積したプリントジョブを操作パネルからプリントした時点

ジョブログの項目名	ジョブログに記録される値
サービスの種類	プリント
サービスの詳細	セキュリティプリント、プルーフプリント、ディレイプリント、プライベートプリント
印刷状態	完了 プリントジョブ蓄積時の UserID が、機器で削除されていた場合は、「中止」
ジョブオーナー名	プリンタードライバーで設定した UserID
ユーザー名	機器に登録されている UserID に対応したユーザー名
AccountID	機器に登録されている UserID に対応した AccountID
カード番号	機器に登録されている UserID に対応したカード番号 (カード認証も使用している場合のみ)

認証プリント

認証プリントの場合、プリントジョブを機器に蓄積した時点と、蓄積したプリントジョブを機器の操作パネルからプリントした時点で、ジョブログに記録される値が異なります。

プリントジョブを機器に蓄積した時点

ジョブログの項目名	ジョブログに記録される値
サービスの種類	ファイル転送
サービスの詳細	課金プリント受信
印刷状態	完了
ジョブオーナー名	プリンタードライバーで設定した UserID プリンタードライバーの設定で、蓄積 ID だけを指定した場合は、「UnknownUser」
ユーザー名	クライアント PC のログオンユーザー名
AccountID	プリンタードライバーで設定した AccountID

ジョブログの項目名	ジョブログに記録される値
カード番号	空欄

蓄積したプリントジョブを操作パネルからプリントした時点

ジョブログの項目名	ジョブログに記録される値
サービスの種類	プリント
サービスの詳細	課金プリント
印刷状態	完了 機器で設定されている「カラーモード」の設定によって、プリントできない場合は「中止」
ジョブオーナー名	プリンタードライバーで設定した UserID プリンタードライバーの設定で、蓄積 ID だけを指定した場合は、「UnknownUser」
ユーザー名	クライアント PC のログオンユーザー名
AccountID	プリンタードライバーで設定した AccountID
カード番号	空欄

各項目のフォーマット

ジョブログの各項目に、どのような形式のデータが記録されるかを示します。

ジョブログの項目	説明	フォーマット
プリンタ名	ApeosWare Management Suite のデータベースに登録された機器名	文字列
枝番	1 つのジョブログの中で、何番目の行かを示す番号 例： 1 行だけのジョブログのときは「1of1」、2 行から成るジョブログのときは「1of2」と「2of2」 参照 「ジョブログファイルの基本構成」(P.389)	枝番数（整数）of 総枝番数（整数）
MIB タイプ	Management Information Base の種類	・収集タイプが［SOAP HDD 有り］または［SOAP HDD 無し］の場合 FX MIB（SOAP） ・収集タイプが［SOAP HDD 有り（WF）］の場合 FX MIB（SOAP-WF）
機種	機器の機種名	文字列
ジョブ ID	ジョブに付けられる ID	整数

ジョブログの項目	説明	フォーマット
サービスの種類	ジョブを実行したサービスの種類	次のどれか ・コピー ・スキャン ・ファクス ・プリント ・システムシート ・ファイル転送 ・電子メール転送 ・ジョブフロー
ホスト名	プリントやダイレクトファクスなどを指示した、PC のホスト名	文字列
ユーザー名	UserID に対応するユーザー名	文字列
ドキュメント名	プリントやダイレクトファクスでの文書名	文字列
ジョブオーナー名	認証された UserID、またはプリンタードライバーやファクスドライバーに設定されたジョブオーナー名	文字列
ジョブクライアント ID	プリンタードライバーやファクスドライバーから送信される ID	文字列
印刷状態	プリントの状態	次のどれか ・完了 ・完了（警告あり） ・中止 ・中止（システム） ・不明
ポート *1	プリントやダイレクトファクスなどで、PC からの送信に使用されたプロトコル	文字列
データの種類 *1	送信または受信したデータの種類	文字列
IP アドレス	機器の IP アドレスと、クライアント PC の IP アドレス	機器の IP アドレス￥クライアント PC の IP アドレス。 クライアント PC の IP アドレスがない場合は機器の IP アドレスだけで、区切り記号（￥）はない
排出先 *1	用紙の排出先	文字列
まとめて一枚 *1	まとめて一枚の設定	文字列
用紙トレイ選択 *1	用紙トレイ名	文字列
ログ収集日	ジョブログを取得した日付 ApeosWare Management Suite サーバーの時計の日付	yyyy/mm/dd
ログ収集時刻	ジョブログを取得した時刻 ApeosWare Management Suite サーバーの時計の時刻	hh:mm:ss
プリンター内部時計の日付	ジョブログが記録された日付 プリンターの時計の日付	yyyy/mm/dd
プリンター内部時計の時刻	ジョブログが記録された時刻 プリンターの時計の時刻	hh:mm:ss
印刷開始日	プリントを開始した日付	yyyy/mm/dd
印刷開始時刻	プリントを開始した時刻	hh:mm:ss
印刷終了日	プリントを終了した日付	yyyy/mm/dd

ジョブログの項目	説明	フォーマット
印刷終了時刻	プリントを終了した時刻	hh:mm:ss
今までの印刷総ページ数	機器の設置から今までにプリントした総ページ数	整数
通電後の印刷総ページ数	機器の電源を入れてから今までにプリントした総ページ数	整数
エラー	エラーについての情報は、この項目に記録されない	0
印刷面のカラーモード *1	プリントした面のカラーモード	文字列
印刷面のサイズ *1	プリントした面のサイズ	文字列
面数	処理した面の数	整数
用紙種類 *1	用紙の種類	文字列
用紙サイズ *1	用紙のサイズ	文字列
枚数	用紙の枚数	整数
ジョブテンプレート名	使用したジョブテンプレートの名前	文字列
部数	プリントの部数	整数 補足 MIB タイプが「FX MIB（SOAP-WF)」の機器に、1 部ごとのソートを指示してプリントした場合は、「1」が記録されます。
ステープルの個数	ホチキスとじの個数	整数
原稿面のカラーモード *1	原稿のカラーモード	文字列
原稿面数	原稿の面数	整数
原稿の種類 *1	原稿の種類	文字列
原稿サイズ *1	原稿のサイズ	文字列
送信先 IP アドレス	ファイル転送やメール送信での送信先 IP アドレス	送信先の IP アドレス
親展ボックス番号	自局または相手局の、ボックス（親展ボックス）番号	整数
ファクス相手先電話番号	相手局の電話番号	文字列
ファクス相手局名	相手局に登録されている名称	文字列
F コード	通信に使用した F コード	文字列
ファクス使用回線	内線、外線、または IP ファクス（SIP）の区別 IP ファクス（SIP）機能の有無は機種によって異なる	次のどれか ・数値（内線） ・数値（外線） ・数値（IP ファクス（SIP)） ・数値 ・不明
ファクス通信処理開始日	通信処理が開始された日付	yyyy/mm/dd
ファクス通信処理開始時刻	通信処理が開始された時刻	hh:mm:ss
ファクス通信処理終了日	通信処理が終了した日付	yyyy/mm/dd
ファクス通信処理終了時刻	通信処理が終了した時刻	hh:mm:ss

ジョブログの項目	説明	フォーマット
ファクス通信処理所要時間	通信が開始されてから終了するまでの時間	整数
リモート ID	自局を識別するための ID	文字列
ファクス処理面数	送信・受信した面数	整数
ファクス処理面のサイズ *1	送信・受信した面のサイズ	文字列
ファクス短縮ダイヤル番号	相手局の短縮番号	整数
サービスの詳細 *1	ジョブを実行したサービスの詳細な種類	文字列
関連ジョブ ID	親ジョブと子ジョブが生成されたときに、子ジョブに記録される親ジョブの ID	整数
アカウント ID	操作パネル、プリンタードライバー、またはファクスドライバーで入力した AccountID	文字列
カード番号	日本で販売されている機器の場合、次のどちらか 純正コピーカードのカード番号 IC Card Gate 1.0 で読み取った IC カードのカード ID。ただしカード ID が最大 7 桁の数字（0 ～ 9999999）のとき それ以外の機器の場合、値は記録されない	値が記録される場合は整数 それ以外の場合は（空白）
メーター 1	機器の「メーター 1」に記録された値	整数
メーター 2	機器の「メーター 2」に記録された値	整数
メーター 3	機器の「メーター 3」に記録された値	整数
課金対象メーター番号	課金の対象にするメーターの番号	次のどれか ・0 ・1 ・2 ・3 ・101 ・102 ・103 ・104
送信先情報	ファイル転送やメール送信での送信先アドレス	文字列
ステープルの種類 *1	ホチキスとじの種類	文字列
折りの種類 *1	用紙を折る処理の種類	文字列
折りの回数	ジョブで実行した折り処理の回数	整数
パンチの種類 *1	用紙に穴を開ける処理の種類	文字列
パンチの回数	ジョブで実行した穴開け処理の回数	整数
製本処理回数	ジョブで実行した製本処理の回数	整数
UUID	用紙に印字して、ジョブログを特定するための ID	文字列
文書番号	ボックス（親展ボックス）内で、自動的に付けられる文書の番号	文字列
ジョブエラー終了の理由	ジョブが異常終了した理由	文字列
ジョブエラー状態コード	ジョブの実行中に発生したエラーの内容を表すコード	文字列

ジョブログの項目	説明	フォーマット
ファクス発信者番号	自局の発信者番号	文字列
ファクスダイヤルイン番号	相手局のダイヤルイン番号	文字列
ファクス相手先情報	相手局の情報	次のどれか ・不明 ・アドレス帳宛先名 ・ファクス相手局名 ・リモート ID ・ポート ・ファクス相手先電話番号 ・その他 ・(空白)
ファクス発呼着呼種別	発信、着信の区別	次のどれか ・発呼 (発信) ・着呼 (着信) ・不明 ・その他 ・(空白)
ファクス伝送速度	ファクス通信の伝送速度	文字列
ファクス再接続フラグ	再接続の処理かどうかの区別	再接続のときは TRUE 再接続でなければ FALSE、または（空白)
アドレス帳宛先名	アドレス帳に登録されている宛先名	文字列
ファクス送信状態	送信の状態	次のどれか ・送信待ち ・送信中 ・再送中 ・送信完了 ・その他 ・(空白)
ファクス通信結果	通信の結果	次のどれか ・良好 ・話中 ・話中 (自動再送) ・自動再送 ・中断 ・要再送信 ・エラー ・その他 ・(空白)
ファクス蓄積ページ数	送信時に蓄積したページ数	整数
スタンプの種類	スタンプの種類	(空白)
使用ロールサイズ *1	使用したロール紙の幅のサイズ	文字列
使用ロール長	使用したロール紙の長さ	整数

*1 記録される文字列の詳細については、「項目の詳細」（P.403）を参照してください。

項目の詳細

ジョブログに文字列の形式で記録される項目で、多くの値をとるものについて詳細を示します。

補足

（空白）は、その項目に何も記録されないことを示します。

ポート

文字列		
パラレル	シリアル	EtherTalk
lpd	NetWare:PServer	NetWare:RPrinter
Netware	IPP	SMB
Port9100	USB	HTTP
Report/List	PS Initialize	Salutation
SMTP	POP3	BMLinkS
FTP	HDD	G3
G4	WebDAV	OEMHTTP
ThinPrint	Media	その他

データの種類

文字列		
自動	HP-PCL	HP-GL
HP-PJL	PostScript	PDF
ESC/P	PR201H	TIFF
DIAGNOSTIC	ART	PLW
KS	KSSM	XJCL
JFIF	Bitmap	RAW
BILEVEL	DocuWorks	HP-PCLXL
XPJL	KS5895	EXIF
HCOMP	XPS	PDFA
CALS	CGM	GRF
GCGL	FXMMR	ZJS
不明	（空白）	

補足

XPS とは、「XML Paper Specification」の略です。

排出先

文字列		
自動	排出トレイ	サイドトレイ

文字列		
ソーター	ビン X X はビンの番号	スタッカービン X X はビンの番号
フィニッシャー	(空白)	

まとめて一枚

文字列		
自動	1 アップ	2 アップ
4 アップ	8 アップ	9 アップ
16 アップ	32 アップ	その他
(空白)		

補足

ジョブログの MIB タイプが「FX MIB（SOAP-WF)」の場合は、常に「1 アップ」が記録されます。

用紙トレイ選択

文字列		
自動	トレイ X X はトレイの番号	トレイ 2-X トレイ 2 はマルチトレイ X はトレイの番号
トレイ（手差し）	合紙トレイ	ロール X X はロールの番号
その他	(空白)	

原稿の種類

文字列		
写真文字混在	写真	文字
地図	グラフィック	蛍光ペン
インクジェット	印刷写真	青焼き
透過	濃淡むら原稿	不明
(空白)		

カラーモード

文字列		
フルカラー	2 色カラー	単色カラー
白黒	その他	(空白)

サイズ

文字列		
フルカラー	2 色カラー	単色カラー
白黒	その他	(空白)
A0	A1	A2
A3	A4	A5
A6	A7	A8
A9	A10	ISO B0
ISO B1	ISO B2	ISO B3
ISO B4	ISO B5	ISO B6
ISO B7	ISO B8	ISO B9
ISO B10	ISO C3	ISO C4
ISO C5	ISO C6	封筒 ISO 指定長
B0	B1	B2
B3	B4	B5
B6	B7	B8
B9	B10	11x17"（レジャー）
c（17x22"）	d（22x34"）	e（34x44"）
はがき	8.5x11"（レター）	8.5x14"（リーガル）
台湾十六開	台湾八開	5.5x8.5"（ステートメント）
8.5x13"（フォリオ）	7.25x10"（エグゼクティブ）	8.5x10.83"（クォート）
長形 3 号	長形 4 号	SRA3
封筒モナーク	中国大陸十六開	中国大陸八開
A4 カバー	レターカバー	特 A4
特 A3	往復はがき	13x18"
13x19"	Spanish	DT 特 A3
8.5x13.4"	封筒角形 2 号（240x332 mm）	封筒長形 3 号（120x235 mm）
封筒 C5（162x229 mm）	封筒 C4（229x324 mm）	その他（特 A0）
その他（特 A1）	その他（特 A2）	その他（A）
その他（B）	その他（C）	その他（D）
その他（E）	その他（B_10.5）	その他（C_15）
その他（D_21）	その他（E_30）	その他（OTHER）
その他	不明	(空白)

用紙種類

文字列		
普通紙	OHP フィルム	封筒
ラベル紙	フォーム	コート紙
トレース紙	再生紙	ロール紙
タブ紙	不透明フィルム	タックフィルム

文字列		
薄紙	上質紙	ユーザー定義用紙 1
ユーザー定義用紙 2	ユーザー定義用紙 3	ユーザー定義用紙 4
ユーザー定義用紙 5	のし紙	専用光沢紙
厚紙	はがき	特殊紙
裏紙	穴あき紙	インデックス紙
その他	不明	(空白)

サービスの詳細

サービスの種類	文字列
コピー	コピー
	コピーサーバーコピー
スキャン	SCAN
	Xdom スキャン
	Xdom コピー
	ファクスポーリング予約
	ファクス親展ポーリング予約
	スキャン文書蓄積
	コピーサーバースキャン
	Web スキャン
	スキャン BMLinkS
	自動階調補正
ファクス	FAX
	ダイレクトファクス送信
	蓄積文書ファクス送信
	電子メール受信文書ファクス送信
	ファクス同報送信
	ファクス自動送信
	ファクス手動送信
	ファクスイミディエト自動送信
	ファクス自動親展送信
	ファクスポーリング送信
	ファクス親展ポーリング送信
	ファクスレポート送信
	ファクス中継同報指示
	ファクス中継同報送信
	ファクスリモートメンテナンス
	インターネットファクス受信文書ファクス（自動）送信
	ファクス / インターネットファクス同報送信
	サーバーファクス送信

サービスの種類	文字列
プリント	プリント
	セキュリティプリント
	プルーフプリント
	プルーフ受信 1 部印刷
	電子メール受信プリント
	ディレイプリント
	メディアプリント
	メディアインデックスプリント
	課金認証プリント
	デジカメプリント
	デジカメインデックスプリント
	文書プリント
	文書インデックスプリント
	OEMDOD プリント
	FRE プリント
	Web プリント
	プライベートプリント転送
	ファクス自動受信プリント
	ファクス手動受信プリント
	ファクスイミディエト受信プリント
	ファクスポーリング予約文書確認プリント
	ファクス親展ポーリング予約文書確認プリント
	ファクスポーリング受信プリント
	ファクスイミディエトポーリング受信プリント
	ファクス集信プリント
	ファクスイミディエト集信プリント
	ファクス中継同報受信プリント
	インターネットファクス受信プリント
	蓄積文書プリント
	スキャン蓄積文書プリント
	プリントデータ蓄積文書プリント
	ファクス蓄積文書プリント
	インターネットファクス蓄積文書プリント
	電子メール蓄積文書プリント
	蓄積文書プリント
	コピーサーバープリント
	BMLinkS プレプリント

サービスの種類	文字列
システムシート	PostScript 初期化プリント
	レポートプリント
	機能設定リスト
	ジョブ履歴レポート
	エラー履歴レポート
	スタートアップレポート
	フォントリスト
	蓄積文書リスト
	DV 管理レポート
	保守管理レポート
	ファクス通信管理レポート
	ファクス同報送信レポート
	ファクス中継同報レポート
	ファクス集信レポート
	ファクスモニターレポート
	ファクスプロトコルモニターレポート
	ファクス未送信レポート
	インターネットファクスモニターレポート
	インターネットファクス未送信レポート
	階調補正チャート
	テスト印刷
	スタンプ一覧リスト

サービスの種類	文字列
ファイル転送	MAILBOX
	セキュリティ受信
	ディレイ受信
	課金認証受信
	スキャン文書 CenterTool 転送
	スキャン文書ファイル転送
	ファクス自動受信
	ファクス手動受信
	ファクス親展受信
	ファクスポーリング受信
	ファクス親展ポーリング受信
	ファクス中継同報受信
	インターネットファクス親展受信
	蓄積文書ファイル転送
	蓄積文書ファイル送信
	電子メール親展受信
	プリント文書親展受信
	蓄積文書 SMB フォルダ蓄積
	ファクスプロトコールモニターレポート蓄積
	コピーサーバー編集
	プライベート受信
	プライベートプリント転送
	USB メモリー保存
	プリント指示
電子メール転送	スキャン文書電子メール送信
	ファクス受信文書電子メール送信
	インターネットファクス送信
	ファクス（自動）受信文書インターネットファクス送信
	蓄積文書電子メール送信
	蓄積文書インターネットファクス送信
	蓄積文書（URL 送信）
	スキャナー（URL 送信）
ジョブフロー	ジョブフローサービス
	外部サービス呼出
	ジョブフローサービスログ転送

補足

上記に該当しないサービスは、「サービスの種類」および「サービスの詳細」に「不明」と記録されます。

ステープルの種類

文字列		
しない	左上シングル	左下シングル
右上シングル	右下シングル	上辺デュアル
下辺デュアル	左デュアル	右デュアル
左後端シングル	右後端シングル	中央後端デュアル
左中央シングル	右中央シングル	上中央シングル
中央後端シングル	中綴じステープル	その他
(空白)		

折りの種類

文字列		
しない	2 つ折り	Z 折り
レター C 折り	レター Z 折り	その他
(空白)		

パンチの種類

文字列		
しない	上 - *	左 - *
右 - *	下 - *	する - *
その他	(空白)	

使用ロールサイズ

文字列		
A0	A1	A2
A3	A4	ISO B0
ISO B1	ISO B2	ISO B3
ISO B4	B0	B1
B2	B3	B4
その他（特 A0）	その他（特 A1）	その他（特 A2）
特 A3	特 A4	その他（A）
その他（B）	その他（C）	その他（D）
その他（E）	その他（C_15）	その他（E_30）
a（8.5x11"）	b（11x17"）	c（17x22"）
d（22x34"）	e（34x44"）	その他（OTHER）
その他	不明	(空白)

ジョブログファイルのフォーマット（Printer MIB 収集）

RFC1759 に準拠する Printer MIB（Management Information Base）を使用して収集された、ジョブログファイルのフォーマットを説明します。

補足

SOAP、または MIB を使用してジョブログを収集する機器を、Printer MIB を使用する機器として登録し、ジョブログを収集することはできません。また、ジョブログ収集対象ではない弊社製または富士ゼロックス製の機器を、Printer MIB を使用する機器として登録し、ジョブログを収集することはできません。

ジョブログファイルの基本構成

ジョブログファイルを構成する行と、ジョブログファイルのファイル形式について説明します。

ジョブログファイルを構成する行

ジョブログファイルは、次の行で構成されます。

- 見出し行

  「プリンタ名」、「枝番」、「MIB タイプ」など、ジョブログの項目名が入力されます。

- データ行

  見出し行の各項目に対応するデータが記録されます。記録されるデータについては、「各項目のフォーマット」（P.398）で説明しています。

  補足

  ・最初のデータ行には、前回の「今までの印刷総ページ数」が記録されます。
  ・ログを収集して「今までの印刷総ページ数」に更新がない日には、ジョブログファイルが作成されません。

ジョブログファイルの形式

ジョブログファイルは、CSV 形式のテキストファイルです。

各項目のフォーマット

ジョブログの各項目に、どのような形式のデータが記録されるかを示します。

ジョブログの項目	説明	フォーマット
プリンタ名	ApeosWare Management Suite のデータベースに登録された機器名	文字列
枝番	1 つのジョブログの中で、何番目の行かを示す番号 常に「1of1」が記録される	枝番数（整数）of 総枝番数（整数）
MIB タイプ	Management Information Base の種類	Printer MIB
機種	機器の機種名。機種によっては取得されない	文字列 取得できない場合は空白
ジョブ ID	記録されない	(空白)
サービスの種類	記録されない	(空白)
ホスト名	記録されない	(空白)
ユーザー名	記録されない	(空白)
ドキュメント名	記録されない	(空白)
ジョブオーナー名	記録されない	(空白)
ジョブクライアント ID	記録されない	(空白)

ジョブログの項目	説明	フォーマット
印刷状態	記録されない	(空白)
ポート	記録されない	(空白)
データの種類	記録されない	(空白)
IP アドレス	機器の IP アドレス	機器の IP アドレス
排出先	記録されない	(空白)
まとめて一枚	記録されない	(空白)
用紙トレイ選択	記録されない	(空白)
ログ収集日	ジョブログを取得した日付 ApeosWare Management Suite サーバーの時計の日付	yyyy/mm/dd
ログ収集時刻	ジョブログを取得した時刻 ApeosWare Management Suite サーバーの時計の時刻	hh:mm:ss
プリンタ内部時計の日付	記録されない	(空白)
プリンタ内部時計の時刻	記録されない	(空白)
印刷開始日	記録されない	(空白)
印刷開始時刻	記録されない	(空白)
印刷終了日	記録されない	(空白)
印刷終了時刻	記録されない	(空白)
今までの印刷総ページ数	機器の設置からジョブログの収集時までにプリントした、総ページ数	整数
通電後の印刷総ページ数	機器の電源を入れてからジョブログの収集時までにプリントした、総ページ数	整数
エラー	エラーについての情報は、この項に記録されない。常に 0 が記録される	0
印刷面のカラーモード	記録されない	(空白)
印刷面のサイズ	記録されない	(空白)
面数	取得されない。常に 0 が記録される	0
用紙種類	記録されない	(空白)
用紙サイズ	記録されない	(空白)
枚数	取得されない。常に 0 が記録される	0
ジョブテンプレート名	記録されない	(空白)
部数	取得されない。常に 0 が記録される	0
ステープルの個数	取得されない。常に 0 が記録される	0
原稿面のカラーモード	記録されない	(空白)
原稿面数	取得されない。常に 0 が記録される	0
原稿の種類	記録されない	(空白)
原稿サイズ	記録されない	(空白)
送信先 IP アドレス	記録されない	(空白)
親展ボックス番号	記録されない	(空白)
ファクス相手先電話番号	記録されない	(空白)
ファクス相手局名	記録されない	(空白)
F コード	記録されない	(空白)
ファクス使用回線	取得されない。常に 0 が記録される	0

ジョブログの項目	説明	フォーマット
ファクス通信処理開始日	取得されない。常に「0000/00/00」が記録される	0000/00/00
ファクス通信処理開始時刻	取得されない。常に「00:00:00」が記録される	00:00:00
ファクス通信処理終了日	取得されない。常に「0000/00/00」が記録される	0000/00/00
ファクス通信処理終了時刻	取得されない。常に「00:00:00」が記録される	00:00:00
ファクス通信処理所要時間	取得されない。常に 0 が記録される	0
リモート ID	記録されない	(空白)
ファクス処理面数	取得されない。常に 0 が記録される	0
ファクス処理面のサイズ	記録されない	(空白)
ファクス短縮ダイヤル番号	記録されない	(空白)
サービスの詳細	記録されない	(空白)
関連ジョブ ID	記録されない	(空白)
AccountID	記録されない	(空白)
カード番号	記録されない	(空白)
メーター 1	取得されない。常に 0 が記録される	0
メーター 2	取得されない。常に 0 が記録される	0
メーター 3	取得されない。常に 0 が記録される	0
課金対象メーター番号	取得されない。常に 0 が記録される	0
送信先情報	記録されない	(空白)
ステープルの種類	記録されない	(空白)
折りの種類	記録されない	(空白)
折りの回数	取得されない。常に 0 が記録される	0
パンチの種類	記録されない	(空白)
パンチの回数	取得されない。常に 0 が記録される	0
製本処理回数	取得されない。常に 0 が記録される	0
UUID	記録されない	(空白)
文書番号	記録されない	(空白)
ジョブエラー終了の理由	記録されない	(空白)
ジョブエラー状態コード	記録されない	(空白)
ファクス発信者番号	記録されない	(空白)
ファクスダイヤルイン番号	記録されない	(空白)
ファクス相手先情報	記録されない	(空白)
ファクス発呼着呼種別	記録されない	(空白)
ファクス伝送速度	記録されない	(空白)
ファクス再接続フラグ	記録されない	(空白)
アドレス帳宛先名	記録されない	(空白)
ファクス送信状態	記録されない	(空白)
ファクス通信結果	記録されない	(空白)
ファクス蓄積ページ数	取得されない。常に 0 が記録される	0

イメージログのトラブルシューティング

対処方法を実施しても解決しない場合は、診断ツールで動作ログを取得して、弊社担当者に送付してください。

参照
「動作ログを取得する」（P.386）

エラーメッセージ

受信サービスのエラー

ログコード	メッセージ	原因	対処
0070-020004-AWILM	受信サービスの初期化に失敗しました。	モジュールを初期化できませんでした。	Image Log Management Receive Service を再起動してください。
0070-020008-AWILM	HTTP リクエスト内容が不正です。	想定外の HTTP リクエストを受信しました。	イメージログを送信した機器で、ジョブがエラー終了していないか確認してください。 エラー終了している場合は、エラーコードを確認してください。
0070-020023-AWILM	コンテンツ情報： {データ種別} を保存できませんでした。	データを保存できませんでした。	ハードディスクの空き容量、および、ほかのデータを保存できるかどうかを確認してください。
0070-020024-AWILM	コンテンツ情報： {データ種別} を受信スプールに移動できませんでした。		
0070-020025-AWILM	受信スプールからのロールバック処理ができませんでした。		

抽出サービスのエラー

ログコード	メッセージ	原因	対処
0070-030018-AWILM	受信スプールからフォルダー： <<< {フォルダー名} >>> を取得できませんでした。	受信スプールのフォルダーを取得する処理に失敗しました。	受信スプールにアクセスできるかどうか、確認してください。
0070-030019-AWILM	抽出スプールにフォルダー： <<< {フォルダー名} >>> を作成できませんでした。	抽出スプールにフォルダーを作成する処理に失敗しました。	ハードディスクの空き容量、および、ほかのデータを保存できるかどうかを確認してください。 抽出スプールが、フォルダーを作成できる状態かどうか、確認してください。
0070-030020-AWILM	抽出スプールにファイル：<<< {ファイル名} >>> をコピーできませんでした。	抽出スプールにファイルをコピーする処理に失敗しました。	ハードディスクの空き容量、および、ほかのデータを保存できるかどうかを確認してください。 抽出スプールが、ファイルをコピーできる状態かどうか、確認してください。

ログコード	メッセージ	原因	対処
0070-030030-AWILM	属性ファイル : <<< {ファイル名} >>> を保存できませんでした。	属性ファイルを保存する処理に失敗しました。	イメージログ・ストレージが、ファイルを保存できる状態であることを確認してください。 ハードディスクの空き容量を確認してください。
0070-030031-AWILM	属性ファイルをイメージログ・ストレージに保存できませんでした。(ジョブ ID: <<< {UUID} >>>、受信 ID: <<< {受信 ID} >>>)	属性ファイルを、イメージログ・ストレージに保存する処理に失敗しました。	イメージログ・ストレージが、ファイルを保存できる状態であることを確認してください。ハードディスクの空き容量を確認してください。
0070-030032-AWILM	属性ファイル : <<< {ファイル名} >>> を保存できませんでした。	属性ファイルを保存する処理に失敗しました。	イメージログ・ストレージが、ファイルを保存できる状態であることを確認してください。 ハードディスクの空き容量を確認してください。
0070-030046-AWILM	コンテンツ情報をイメージログ・ストレージに保存できませんでした。(ジョブ ID: <<< {UUID} >>>、受信 ID: <<< {受信 ID} >>>)	コンテンツ情報を、イメージログ・ストレージに保存する処理に失敗しました。	イメージログ・ストレージが、ファイルを保存できる状態であることを確認してください。
0070-030047-AWILM	コンテンツ・ファイル : <<< {ファイル名} >>> をイメージログ・ストレージに保存できませんでした。	コンテンツファイルを、イメージログ・ストレージに保存する処理に失敗しました。	イメージログ・ストレージが、ファイルを保存できる状態であることを確認してください。
0070-030048-AWILM	サムネイル画像ファイル : <<< {ファイル名} >>> をイメージログ・ストレージに保存できませんでした。	サムネイル画像ファイルを、イメージログ・ストレージに保存する処理に失敗しました。	イメージログ・ストレージが、ファイルを保存できる状態であることを確認してください。
0070-030049-AWILM	抽出テキストファイル : <<< {ファイル名} >>> をイメージログ・ストレージに保存できませんでした。	抽出テキストファイルを、イメージログ・ストレージに保存する処理に失敗しました。	イメージログ・ストレージが、ファイルを保存できる状態であることを確認してください。
0070-030050-AWILM	コンテンツ・ファイル : <<< {ファイル名} >>> を削除できませんでした。	コンテンツファイルを削除する処理に失敗しました。	抽出スプールが、ファイルを削除できる状態であることを確認してください。
0070-030051-AWILM	サムネイル画像ファイル : <<< {ファイル名} >>> を削除できませんでした。	サムネイル画像ファイルを削除する処理に失敗しました。	抽出スプールが、ファイルを削除できる状態であることを確認してください。
0070-030052-AWILM	抽出テキストファイル : <<< {ファイル名} >>> を削除できませんでした。	抽出テキストファイルを削除する処理に失敗しました。	抽出スプールが、ファイルを削除できる状態であることを確認してください。
0070-030053-AWILM	受信データのアーカイブ・ファイルをイメージログ・ストレージに保存できませんでした。(ジョブ ID: <<< {UUID} >>>、受信 ID: <<< {受信 ID} >>>)	受信データのアーカイブファイルを、イメージログ・ストレージに保存する処理に失敗しました。	イメージログ・ストレージが、ファイルを保存できる状態であることを確認してください。
0070-030054-AWILM	抽出スプールからフォルダー : <<< {フォルダー名} >>> を削除できませんでした。	抽出スプールのフォルダーを削除する処理に失敗しました。	抽出スプールが、フォルダーを削除できる状態であることを確認してください。

ログコード	メッセージ	原因	対処
0070-030056-AWILM	エラーが発生したデータ（ジョブ ID: <<< {UUID} >>>、受信 ID: <<< {受信 ID} >>>）をフォルダー : <<< {フォルダー名} >>> へ移動できませんでした。	抽出処理中にエラーが発生したジョブの受信データを、エラーフォルダーへ移動する処理に失敗しました。	抽出スプールのファイルに、アクセスできる状態であることを確認してください。
0070-030069-AWILM	Image Log Management のサーバーライセンスが無効かまたは登録されていません。	ライセンスの検証に失敗しました。	License Activator で、ライセンスの状態を確認してください。
0070-030100-AWILM	メインノードのデータベースと設定ファイルの同期に失敗しました。	メインノードのデータベースと設定ファイルの同期処理に失敗しました。	メインノードの ApeosWare Management Suite が正常に動作していることを確認してください。
0070-030106-AWILM	イメージログデータの暗号化でタイムアウトが発生しました。	イメージログストレージに格納するイメージログデータの暗号化でタイムアウトが発生しました。	サーバーの負荷が高い時間をさけて、再度抽出処理を実行してください。

登録サービスのエラー

ログコード	メッセージ	原因	対処
0070-090008-AWILM	予期せぬエラーで登録処理に失敗しました。	イメージログ情報に不備があるか、SQL Server が動作していません。	システム管理画面の［サービス状態］で、［SQL Server（FXAW)］の起動状態を確認してください。
0070-090012-AWILM	イメージログデータの復号に失敗しました。	イメージログデータをイメージログストレージより取得する際に、復号に失敗しました。	正しい復号キーが設定されていることを確認してください。
0070-090014-AWILM	属性ファイルの更新に失敗しました。	イメージログストレージのイメージログデータの更新に失敗しました。	ハードディスクの空き容量、および、他のデータを保存できるか確認してください。
0070-090021-AWILM	メインノードのデータベースと設定ファイルの同期に失敗しました。	メインノードのデータベースと設定ファイルの同期処理に失敗しました。	メインノードの ApeosWare Management Suite が正常に動作していることを確認してください。
0070-090024-AWILM	イメージログデータの暗号化でタイムアウトが発生しました。	イメージログストレージのイメージログデータを更新する際に、暗号化でタイムアウトが発生しました。	サーバーの負荷が高い時間をさけて暗号化できるか確認してください。
0070-090025-AWILM	イメージログデータの復号でタイムアウトが発生しました。	イメージログデータをイメージログストレージより取得する際に、復号でタイムアウトが発生しました。	サーバーの負荷が高い時間をさけて復号できるか確認してください。

Image Log の設定画面のエラー

ログコード	メッセージ	原因	対処
0070-060006-AWILM	設定ファイルを読み込めませんでした。[<<< {ファイル名} >>>]	ウイルス対策ソフトによって、設定ファイルの読み込みがブロックされている可能性があります。 または、設定ファイルが壊れたか、内容に不備がある可能性があります。	ウイルス対策ソフトの設定を確認してください。

ログコード	メッセージ	原因	対処
0070-060008-AWILM	ライセンスが無効です。	ライセンスの有効期限が切れている可能性があります。	License Activator を起動して、[ライセンス状態] を確認してください。
0070-601083-AWILM	検索結果をダウンロードできませんでした。	検索結果ファイルをダウンロードする処理に失敗しました。	ダウンロードを再度実行してください。 システム管理画面の［サービス状態］で、各サービスの起動状態を確認してください。
0070-601010-AWILM	監視設定を取得できませんでした。	SQL Server との通信に失敗しました。 または、SQL Server で異常が発生しました。	システム管理画面の［サービス状態］で、[SQL Server(FXAW)] の起動状態を確認してください。
0070-601089-AWILM	グループ ID が見つかりません。	監視レポートの作成時に、監視対象のグループ ID が存在しませんでした。	監視設定で、監視対象のグループを変更するか、該当の監視対象を削除してください。
0070-066911-AWILM	イメージログの監視処理中にエラーが発生しました。	イメージログの監視機能で、次のどれかの問題が発生しました。 ・メールサーバーが停止している。 ・メールサーバーの設定に誤りがある。 ・データベースにアクセスできない。 ・メール通知に必要な情報を取得できない。	・メールサーバーの設定を確認してください。 ・ウイルス対策ソフトの設定を確認してください。 ・システム管理画面の［サービス状態］で、[SQL Server(FXAW)]、および、[ApeosWare Image Log Management Core Service] の起動状態を確認してください。
0070-066912-AWILM	イメージログの監視処理中にエラーが発生しました。(理由 : {理由})	監視設定に、無効なグループが設定されています。	監視設定で、監視対象のグループを変更するか、該当の監視対象を削除してください。
0070-012002-AWILM	メール送信設定の初期化に失敗しました。	メール送信設定の初期化に失敗しました。	システム管理画面の［環境設定］ページで、設定が正しいかどうかを確認してください。
0070-601085-AWILM	監視履歴を閲覧する権限がありません。	監視履歴画面を閲覧する権限がありません。	イメージログ管理責任者でログインしてください。
0070-601086-AWILM	このグループの監視履歴を閲覧する権限がありません。	選択したグループの監視履歴画面を閲覧する権限がありません。	イメージログ管理責任者、または該当のグループのイメージロググループ管理者でログインしてください。
0070-060087-AWILM	イメージログデータの復号に失敗しました。	イメージログデータをイメージログストレージより取得する際に、復号に失敗しました。	正しい復号キーが設定されていることを確認してください。
0070-601082-AWILM	コンテンツファイルをダウンロードできませんでした。	ファイルをダウンロードする処理に失敗しました。	ダウンロード再度実行してください。 システム管理画面の［サービス状態］で、各サービスの起動状態を確認してください
0070-060137-AWILM	イメージログデータの復号でタイムアウトが発生しました。	イメージログデータをイメージログストレージより取得する際に、復号でタイムアウトが発生しました。	サーバーの負荷が高い時間をさけて復号できるか確認してください。

ログコード	メッセージ	原因	対処
0070-601024-AWILM	イメージログデータの復号に失敗しました。	イメージログデータをイメージログストレージより取得する際に、復号に失敗しました。	正しい復号キーが設定されていることを確認してください。
0070-601093-AWILM	イメージログデータの復号でタイムアウトが発生しました。	イメージログデータをイメージログストレージより取得する際に、復号でタイムアウトが発生しました。	サーバーの負荷が高い時間をさけて復号できるか確認してください。
0070-601095-AWILM	イメージログデータの暗号化でタイムアウトが発生しました。	イメージログストレージのイメージログデータを更新する際に、暗号化でタイムアウトが発生しました。	サーバーの負荷が高い時間をさけて復号できるか確認してください。

イメージログのトラブルに対処する

イメージログの検索メニューが表示されない

イメージログの検索／監視権限があるユーザーでログインしていますか？

イメージログを検索するには、ログインしているユーザーにイメージログの検索／監視権限が必要です。

操作権限をもったユーザーでログインし直すか、ユーザー管理権限を持つユーザーに権限を追加してもらってください。



参照

「操作画面へのアクセス権限」（P.18）

機器で処理した文書がイメージログの検索結果に反映されない

機器は正常に稼働していますか？

機器の電源が入っているか確認してください。また、機器でハードディスクが故障するなどのエラーが発生していないかを確認してください。

機器の仕様設定で、イメージログ管理機能が有効になっていますか？

イメージログを検索するには、機器本体の［仕様設定］＞［共通設定］で、イメージログ管理機能とイメージログ転送機能が有効または［使用する］設定になっている必要があります。

操作パネルから機器の設定を確認してください。



補足

機器のイメージログ管理機能やイメージログ転送機能は、機器反映で設定できます。



参照

・「イメージログ管理設定」（P.82）
・「機器グループ内の機器の情報を、機器本体へ反映する」（P.85）

イメージログの保存期間が過ぎていませんか？

イメージログの保存期間が過ぎると、イメージログはアーカイブされ、検索対象ではなくなります。

管理者画面のメニューの［サービス設定］＞［イメージログ管理］＞［アーカイブの復元］の順に選択します。表示されたページでアーカイブデータを復元し、検索の対象データを［アーカイブデータ］に設定して、再度検索してください。



参照

「アーカイブの復元」（P.312）

監視結果のメールが届かない

送信メールサーバーは正しく設定されていますか？

システム設定画面の［ネットワーク設定］ページで、SMTP サーバーや SMTP 認証などが正しく設定されているか確認してください。



参照

「ネットワーク設定」（P.39）

メールアドレスは正しく設定されていますか？

管理者画面のメニューの［サービス設定］＞［イメージログ管理］＞［イメージログ監視設定］＞［監視パターン］の順に選択し、表示されたページで監視条件とメールアドレスを設定します。

メールアドレスが正しく設定されているかを確認してください。

参照

「監視パターン」（P.315）

ウイルス対策ソフトで、メールの送信をブロックする設定になっていませんか？

ウイルス対策ソフトで、メールの送信をブロックするように設定されている場合は、監視結果のメールが届きません。

この場合は、ウイルス対策ソフト側で、メールの送信をブロックする設定から次のファイルが除外されるように設定してください。

- オールインワン構成の場合

除外するファイル
{インストール先フォルダー}￥Image Log Management￥awilm-services￥awilm-core￥bin￥AWILCoreService.exe
{インストール先フォルダー}￥WinSvc￥Mon￥bin￥MonSvc.exe

- 分離構成の場合

除外するファイル
{コアサーバーのインストール先フォルダー}￥Image Log Management￥awilm-services￥awilm-core￥bin￥AWILCoreService.exe
{コアサーバーのインストール先フォルダー}￥WinSvc￥Mon￥bin￥MonSvc.exe
{受信サーバーのインストール先フォルダー}￥WinSvc￥Mon￥bin￥MonSvc.exe

補足

{インストール先フォルダー}は、初期設定を変更していない場合は、「c:￥Program Files￥FUJIFILM￥ApeosWare MS」です。

ハードウェアの要因でエラーになったデータを復旧する

イメージログの抽出中に、何らかの理由（たとえば、ストレージのハードウェアの停止など）でイメージログストレージにアクセスできなかった場合は、エラーとなり、処理中のデータが特定のエラーフォルダーに移動されます。

この場合、原因を取り除いたあと、次の操作をすることで、エラーフォルダーに入ったデータを再度、抽出処理の対象とすることができます。

この操作は、エクスプローラーまたはコマンドラインから実行します。

(1) 次のフォルダーに移動します

{インストール先フォルダー}￥Image Log Management￥Utils￥extractor-error-restore

(2) 次のバッチファイルを起動します。

awilm-extractor-error-restore.bat

補足

{インストール先フォルダー}は、初期設定を変更していない場合は、「c:￥Program Files￥FUJIFILM￥ApeosWare MS」です。